

平成 1 8 年度

シラバス（授業計画）

昼間コース用

小樽商科大学

2006/2007 CALENDAR 平成18年度

| 4月 | | | | | | | 10月 | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | | | | 1 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 29 | 30 | 31 | | | | |
| 30 | | | | | | | | | | | | | |

| 5月 | | | | | | | 11月 | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 28 | 29 | 30 | 31 | | | | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | |

| 6月 | | | | | | | 12月 | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | | 1 | 2 | 3 | | | | | | 1 | 2 |
| 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| | | | | | | | 31 | | | | | | |

| 7月 | | | | | | | 1月 | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | | | | 1 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 28 | 29 | 30 | 31 | | | |
| 30 | 31 | | | | | | | | | | | | |

| 8月 | | | | | | | 2月 | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | | | | | 1 | 2 | 3 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | | | 25 | 26 | 27 | 28 | | | |

| 9月 | | | | | | | 3月 | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | | | 1 | 2 | | | | | 1 | 2 | 3 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |

平成18年度 行事予定

前期

| | | |
|-----------|----------|-------------------------|
| 4月5日(水) | | 2～4年次生授業開始 |
| 4月5日(水)～ | 4月7日(金) | (1年次配当の科目は授業を行いません。) |
| 4月6日(木) | | 入学式に伴う休業日 |
| 4月6日(木) | | 入学式 |
| 4月6日(木)～ | 4月7日(金) | 新入生オリエンテーション |
| 4月10日(月) | | 新入生授業開始 |
| 4月10日(月)～ | 4月12日(水) | 定期健康診断(血压測定・尿検査) |
| 4月18日(火) | | 定期健康診断(身体測定・内科・レントゲン撮影) |
| 4月17日(月)～ | 4月26日(水) | 履修登録期間(但し土・日は除く) |
| 6月5日(月)～ | 6月9日(金) | 半期制科目中間試験 |
| 6月下旬～ | 7月上旬 | 緑丘祭・緑宵祭 |
| 7月7日(金) | | 創立記念日(休業日) |
| 7月24日(月) | | 前期授業終了 |
| 7月25日(火) | | 臨時休業(木曜日分の補講日) |
| 7月26日(水) | | 臨時休業(金曜日分の補講日) |
| 7月27日(木)～ | 8月3日(木) | 前期定期試験 |
| 7月31日(月) | | 卒業論文締切(9月卒業予定者) |
| 8月4日(金)～ | 9月30日(土) | 夏季休業 |
| 8月4日(金)～ | 8月10日(木) | 夏季集中講義(前期科目) |
| 8月14日(月)～ | 9月30日(土) | 夜間主コース夏学期 |
| 9月15日(金) | | 卒業判定会議(9月卒業) |
| 9月22日(金)～ | 9月30日(土) | 夏季集中講義(後期科目) |
| 9月29日(金) | | 学位記授与式(9月卒業) |

後期

| | | |
|------------|-----------|-------------------------|
| 10月2日(月) | | 後期授業開始 |
| 10月4日(水) | | 少人数制学科オリエンテーション(1年次生対象) |
| 10月10日(火)～ | 10月13日(金) | 後期科目履修登録変更期間(全学年) |
| 10月26日(木) | | 研究指導オリエンテーション |
| 10月27日(金)～ | 12月19日(火) | 研究指導募集選考期間 |
| 11月13日(月)～ | 11月17日(金) | 半期制科目中間試験 |
| 12月19日(火) | | 研究指導内定者発表 |
| 12月25日(月)～ | 1月10日(水) | 冬季休業 |
| 1月15日(月) | | 学科所属オリエンテーション |
| 1月16日(火)～ | 1月18日(木) | 学科所属指導期間 |
| 1月19日(金) | | 臨時休業 |
| 1月22日(月)～ | 1月24日(水) | 学科所属申込期間 |
| 1月31日(水) | | 卒業論文締切 |
| 2月5日(月) | | 後期授業終了 |
| 2月6日(火) | | 臨時休業(金曜日分の補講日) |
| 2月7日(水)～ | 2月19日(月) | 後期定期試験 |
| 3月12日(月) | | 卒業判定会議 |
| 3月19日(月) | | 学位記授与式 |

行事予定に変更があった場合は、掲示でお知らせしますので、掲示には十分注意してください。

目 次

| | |
|---------------------------------------|-------|
| 1 . 小樽商科大学の教育目的 | |
| 2 . 小樽商科大学の教育の特徴 | |
| 3 . 小樽商科大学の教育課程 | |
| 4 . 平成18年度開講科目 | |
| 5 . 卒業に必要な単位数 | |
| (1) 平成16年度以降入学者 | |
| (2) 平成13年度～平成15年度入学者 | |
| (3) 平成12年度入学者 | |
| (4) 平成9年度～平成11年度入学者 | |
| 6 . 履修指導教員制度について | |
| 7 . 各授業科目のオリエンテーション実施について | |
| 8 . 入学後一定時期を経てからの少人数制のオリエンテーション実施について | |
| 9 . 学科所属について(平成17年度以降入学者) | |
| 10 . GPA制度について(平成18年度以降入学者) | |
| 11 . 科目履修方法について | |
| (1) 平成13年度以降入学者 | |
| [1] 共通科目の履修方法 | |
| [2] 学科科目の履修方法 | |
| (2) 平成12年度以前入学者 | |
| [1] 共通科目の履修方法 | |
| [2] 外国語科目等の履修方法 | |
| [3] 専門科目・専門共通科目の履修方法 | |
| (3) 商業教員養成課程所属者(平成15年度以前入学者)の注意事項 | |
| 12 . 履修モデル | |
| 13 . 平成12年度以前入学者の経過措置 | |
| 平成9年度～平成12年度入学者 | |
| 14 . 科目対応表 | |
| 15 . シラバス(授業計画) | |
| (1) 基礎科目 | |
| (2) 外国語科目(英語) | |
| (3) 外国語科目(英語以外) | |
| (4) 学科科目(経済学科) | |
| (5) 学科科目(商学科) | |
| (6) 学科科目(企業法学科) | |
| (7) 学科科目(社会情報学科) | |
| (8) 専門共通科目 | |
| (9) 教職共通科目 | |

- (1 0) 国際交流科目
- (1 1) 研究指導

全学年共通

- 1 . 科目試験の受験に際しての注意事項
- 2 . 卒業論文執筆要領
- 3 . 北海道大学及び北海道教育大学との単位互換制度
- 4 . 大学以外の教育施設等における学修の単位認定
- 5 . 留学による単位互換の取り扱い方法
- 6 . 入学前の既修得単位の認定制度
- 7 . 9月卒業について
- 8 . 早期卒業について
- 9 . 学部・大学院（修士課程及び専門職学位課程）5年一貫教育プログラムについて
- 1 0 . 学部学生による大学院科目履修制度について
- 1 1 . 教育職員免許状の取得について
- 平成 1 8 年度講義室・ゼミ室配置図
- 1 ・ 4 号館配置図
- 2 号館配置図

1 . 小樽商科大学の教育目的

本学の教育理念（目的）は、深い専門知識を身につけ、広い視野を持ち、己の歴史観を養い、豊かな教養と倫理観に基づく識見と行動力を培い、現代社会の複合的、国際的な問題の解決に貢献し、社会の各分野において指導的役割を果たすことのできる品格ある人材の育成をはかることにあります。

そのために、本学は、受け入れる学生像を次のように定めています（アドミッションポリシー（学生受入方針））。

異なる文化・考え方を理解しようと努め、自己の能力を高める意欲を持ち、社会科学や人文科学等を学ぶために必要な基本的知識を身につけている人。

生涯を通じて学ぶことに意義を認め、新たな知識や世界に触れることに喜びを見いだすことのできる人。

2 . 小樽商科大学の教育の特徴

本学の教育の特徴は以下の二つにまとめることができます。

第一の特徴は、学生にとって選択できる学問分野の幅が広いということです。他大学の場合、経済学部なら経済学、法学部なら法律学に関する講義が中心になりますが、本学では、商学部のなかに、経済学、商学、法律学、社会情報学という専門4学科に関わる学問分野の科目が置かれ、学生は学科の枠を超えて学習することができます。さらにそれだけでなく、外国語、人文科学、自然科学に関する科目についても、教養としてだけでなく、専門科目として学ぶことができるようになっています。

第二の特徴は、時代に対応する実践的能力を身につけることができるということです。本学には実践を取り入れた科目、社会との連携を重視する科目、少人数で運営するゼミナール、語学教育、留学制度等が充実しており、学生は、議論する力、発表する力、外国語を運用する力など、それぞれの学問分野の知識を組み合わせ活用する能力を習得することができます。

本学では、以上の二つの特徴をもった教育を「実学」と呼んでいます。

3 . 小樽商科大学の教育課程（カリキュラム）

（1）単位制

本学の授業科目は、必ず、単位数（4単位、2単位、1単位）と配当年次（受講できる学年を示したもの）が決められています。学生は、そのなかから、各自の学習計画に基づいて履修する科目を決めなければなりません。

卒業するためには合計124単位が必要です。ただし、履修は全く自由に決められるわけではありません。本学の定める履修規則に従って単位を修得しなければなりません。124単位揃っていても、履修規則に従っていないと卒業できません。履修規則については「5 卒業に必要な単位」を、履修の方法については「10 科目履修方法について」をご覧ください。以下では、履修規則に従って修得した124単位を、「卒業所要単位」と

呼ぶことにします。卒業所要単位は、卒業に必要な最低の単位数ですから、これを超えて単位を修得することは自由です。

(2) 科目の構成

本学の授業科目は、大きく、共通科目、学科科目、国際交流科目、日本語科目という科目群に区分されます。各科目群に属する具体的な授業科目については、「4 平成17年度開講科目」をご覧ください。以下では、上記の4区分について説明します。

[1] 共通科目

共通科目はさらに、基礎科目と外国語科目という科目群に分かれます。共通科目は、主として、1、2年次に学習するためのものです。人文科学、自然科学、外国語等の学問分野に関わる科目群によって構成され、社会で生きるために必要な幅広い教養的知識を身につけることを狙いとしています。卒業するためには、共通科目を52単位修得しなければなりません。

基礎科目

基礎科目の科目群は、「人間と文化」、「社会と人間」、「自然と環境」、「知の基礎」、「健康科学」の5つの系のどれかに属しています。これらは、社会、人間、歴史、環境に対する深い理解と健康に関する正しい知識を得ることを目的とした科目群です。学生は、5つの系から万遍なく履修することが求められます(「10 科目履修方法について」参照)。

5系のなかの知の基礎系には、高校卒業後、本学で学習することに慣れ、学問への導入や、基本的な知識、大学で学ぶための技法などを修得するための科目が置かれています。そのために、他の系よりも卒業所要単位数が多くなっています。必ず、1年次に履修するようにしてください。

特に、知の基礎系科目の1つである基礎ゼミナールは、特定のテーマのもとに少人数(15名程度)による教育が行われます。基礎ゼミナールでは、学生に以下のような能力を習得させることを共通の目標にしています。

- ・図書館での各種文献や資料の検索と利用の仕方。
- ・情報処理センターの利用とパソコンやインターネットの活用法
- ・文献を読み、また人の話を聞いて、その内容を理解すること。
- ・論理的にものを考え、人前で明瞭に意見を述べること。
- ・教員が指定した書式に従って、正確で分かりやすくレポートやレジュメを作成すること。

基礎ゼミナールでは、また、教員と学生の密接な交流を通じて、大学生活になじみ、学問に対する意欲、自主性・積極性を養うことも目的としており、多くの学生が履修することを期待しています。

外国語科目

国際化の時代、外国語を学ぶことは大変重要なことです。本学は、「北の外国語学校」として全国的に知られたほどの語学教育に関する伝統があり、現在は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、朝鮮語の7言語の授業科目を提供しています。

[2] 学科科目

学科科目は、さらに以下の3つの科目群によって構成されています。

専門4学科の学問分野にかかわる科目

専門共通科目

教職共通科目

学科科目は、1年次から受講が始まりますが、本格的な学習に入るのは3年次からです。卒業するためには、学科科目を72単位修得しなければなりません。

専門4学科の学科科目

これは、さらに基幹科目、発展科目、研究指導に分かれます。基幹科目は、主として各分野の基礎的な知識・理論を学ぶための科目群、発展科目は、その応用的・発展的内容の科目群です。研究指導は、いわゆるゼミナールと呼ばれるもので、少人数で2年間（3年次、4年次）特定のテーマのもとで研究し、その成果を卒業論文としてまとめるものです。本学では、学生が関心に応じて幅広い知識を得られるように、他学科の学科科目の履修を認め、一部は卒業所要単位に加えることができるようになっています。

平成17年度以降の入学生は、学科未定のまま1年次を過ごすこととなります。その点を考慮して、1年次には、

学科の導入的・情報提供的な科目（配当年次 の科目：具体的には、「経済学と現代」「簿記原理」「法学」「社会情報入門」の4科目）

各学科の最も基礎的な科目（配当年次 ・ の科目）

を配置しています。 の科目は、できるだけすべて受講して、希望する学科を決める際の参考にしてください。

専門共通科目

共通科目（基礎科目・外国語科目）で教養として学んだ分野を、さらに専門的に学習するための科目群です。幅広い知識の獲得や高度で実践的な外国語学習を可能とします。また、専門共通科目についても研究指導が開講されており、学生は、所属学科に拘わらず、自由に履修することができます。

専門共通科目は、次の教職共通科目と合わせて、20単位まで、学科科目の卒業所要単位に含めることができます。

教職共通科目

教員の免許を得るために修得しなければならない科目群です。教職共通科目は、専門共通科目と合わせて、20単位まで、学科科目の卒業所要単位に含めることができます。

なお、教職共通科目のうち、卒業所要単位に含めることのできる科目については、「5卒業に必要な単位」の備考欄を見てください。

[3] 国際交流科目

国際交流科目とは、以下の科目をいいます。

本学の交換留学制度等を利用して外国の大学で修得した科目

本学の短期留学プログラム（交換留学制度により受け入れた外国人留学生のために英語で行われるプログラム）で修得した科目

は、その内容が、共通科目・学科科目・専門共通科目の授業科目のどれかに該当する

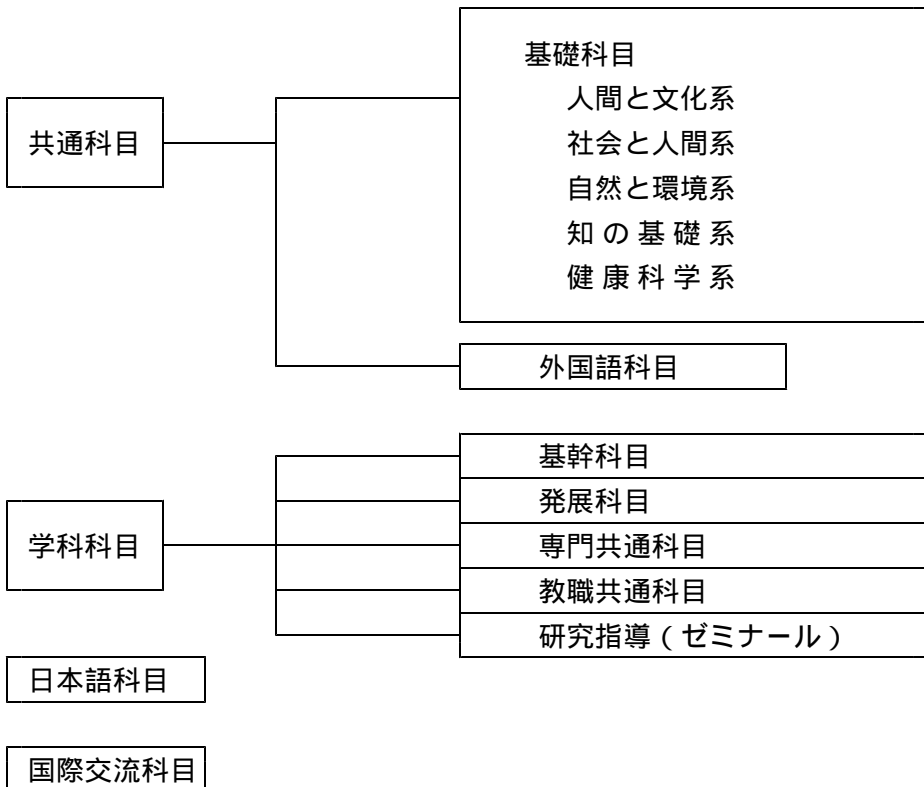
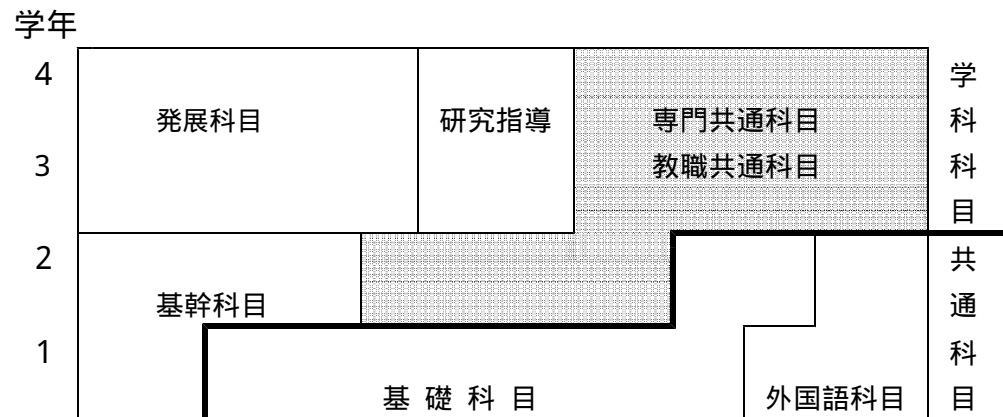
場合には、卒業所要単位に含めることが可能です。 は、ほとんどの科目が、自動的に経済学科又は商学科の科目として取り扱われますので、卒業所要単位に含めることができます。

[4] 日本語科目

外国人留学生のための科目です。

[5] くさび型カリキュラム

以上、述べたことを図に示すと以下ようになります。共通科目は、主として1、2年次で学習し、3、4年次に専門共通科目として、専門的な学習に移ります。学科科目は、1、2年次から基礎的な学習が始まり、3、4年次により専門的に学ぶようになります。これをくさび型カリキュラムと呼びます。



日本語科目

国際交流科目

[6] 履修モデル

シラバスでは、皆さんが効果的かつ計画的な学習をすることに役立つため、履修モデルを示しています。(「11 履修モデル」参照)。履修規則や履修モデルに従いながら、幅広い学習をしてください。

履修のことや単位のこと不明な点があったら必ず学務課の窓口で確認してください

4 . 平成18年度 開 講 科 目

A 共通科目

基礎科目 印は平成17年度以降新設授業科目

平成16年度以前入学生は、P**~P** の科目対応表に注意すること

| 系 | 授 業 科 目 | 単位数 | 配当年次 | 実施期間 | 時間割 | 担当教員 | ページ | 備 考 |
|-------|------------------|-------|------|----------|----------|------------------|-----|---------------------|
| 人間文化 | 哲学 | 2 | | 後期 | 木3・金4 | 久保田 顕二 | | A・Bクラス |
| | 論理学 | 2 | | 前期 | 金4 | 斉藤 健 | | |
| | 倫理学 | 2 | | 前期 | 金4 | 久保田 顕二 | | |
| | 宗教学 | | | | | | | 非開講 |
| | 心理学 | 2 | | 前期 | 火2 | 杉山 成 | | |
| | 心理学 | 2 | | 後期 | 火2・木2 | 杉山 成 | | A・Bクラス |
| | 教育学 | 2 | | 後期 | 水3 | 上野耕三郎 岡部 善平 | | |
| | 日本文学 | 2 | | 前期 | 木2 | 中村 史 | | |
| | 日本文学 | 2 | | 後期 | 木2・木3 | 中村 史 | | A・Bクラス |
| | 外国文学 | | | | | | | 非開講 |
| | 外国文学 | 2 | | 前期 | 金4 | 萩原 正樹 | | |
| | 文化論 | | | | | | | 非開講 |
| | 言語学 | 2 | | 前期 | 木3 | 山田 久就 | | |
| | 日本語学 | 2 | | 前期 | 月4 | 高野 寿子 | | |
| | 比較日本文化論 | 2 | | 前期 | 金3 | マーク・ジボー | | |
| | 言語コミュニケーション論 | | | | | | | 非開講 |
| | 外国語コミュニケーション | 2 | | 前期 | 火5 | 萩原 達夫 | | |
| | 外国語コミュニケーション | 2 | | 後期 後期 | 火3 木3 | 鈴木 将史 江口 修 | | aクラス bクラス (注) |
| | 外国事情 | 2 | | | | | | |
| | 社会人間 | 科学方法論 | | | | | | |
| 社会科学 | | 2 | | 前期 | 木2 | 佐々木 邦子 | | |
| 歴史学 | | 2 | | 前期 | 水2 | 荻野 富士夫 | | |
| 歴史学 | | 2 | | 後期 | 水2 | 荻野 富士夫 | | |
| 社会思想史 | | 2 | | 後期 | 水3 | 倉田 稔 | | |
| 社会思想史 | | 2 | | 前期 | 水3 | 倉田 稔 | | |
| 政治学 | | 2 | | 前期 | 火2 | 相内 俊一 | | |
| 政治学 | | 2 | | 後期 | 火2 | 相内 俊一 | | |
| 社会学 | | 2 | | 前・後期 | 木2・金4 | 宝福 則子 | | A・Bクラス |
| 社会学 | | 2 | | 前期 | 木3 | 宝福 則子 | | |
| 文化人類学 | | | | | | | 非開講 | |
| 自然環境 | 数学 | 2 | | 前・後期 | 水3 | 米田 力生 | | A・Bクラス |
| | 数学 | 2 | | 前期 | 火2 | 米田 力生 | | |
| | 物理学 | 2 | | 前期 | 月5・火3 | 杉之原 立史 | | A・Bクラス |
| | 物理学 | 2 | | 後期 | 月4 | 杉之原 立史 | | |
| | 化学 | 2 | | 前期 | 水2・木3 | 片岡 正光 | | A・Bクラス |
| | 化学 | 2 | | 後期 | 水2 | 片岡 正光 | | |
| | 生物学 | 2 | | 前期 | 月5 | 河野 時廣 | | |
| | 生物学 | | | | | | | 非開講 |
| 環境科学 | 2 | | 前期 | 水1 | 小林 三樹 | | | |
| 知の基礎 | 総合科目 | 2 | | 前期 | 水1 金4 | 荻野富士夫外 倉田 稔 外 | | aクラス bクラス |
| | 総合科目 | 2 | | 前期 | 水1 | 江頭 進 外 | | |
| | 総合科目 (エバーグリーン講座) | 2 | | 後期 | 火3 | 未定 | | |
| | 情報処理入門 | 2 | | 夏季集中 | 別途通知 | 奥田和重 | | |
| | 基礎数学 | 2 | | 前・後期 | 火3 | 兼岩 龍二 | | A・Bクラス |
| | 基礎ゼミナール | 2 | | 前・後期 | | 遠藤 薫 外 | | |

(注意) A・B(a・b)2つにクラスが分かれている場合は、どちらか一方のクラスしか履修できません。

「情報処理入門」は平成18年度以降入学生は履修できません。

| 系 | 授業科目 | 単位数 | 配当年次 | 実施期間 | 時間割 | 担当教員 | ページ | 備考 |
|------|---------------|-----|------|------|-------|-------|-----|--------|
| 健康科学 | 生活と健康 | 2 | | 後期 | 木2・木3 | 石崎 香理 | | A・Bクラス |
| | 予防の医学 | | | | | | | |
| | 健康スポーツ a | 1 | | | | 田野 有一 | | |
| | 健康スポーツ b | 1 | | | | 花輪 啓一 | | |
| | 健康スポーツ c | 1 | | | | 中川 喜直 | | |
| | 健康スポーツ d | 1 | | | | 石崎 香理 | | |
| | 健康スポーツ e(水泳) | 1 | | 夏季集中 | | 細川 賢一 | | |
| | 健康スポーツ f(スキー) | 1 | | 冬季集中 | | 山本 哲二 | | |
| | 健康スポーツ g(スキー) | 1 | | 冬季集中 | | 山田 亮 | | |
| | | | | | 堤 毅 | | | |
| | | | | | 森田 憲輝 | | | |

(注)外国事情の単位については、学則第38条の規定に基づく学生の留学における単位互換認定に充てる。

B 外国語科目等

外国語科目

| 授業科目 | 単位数 | 配当年次 | 実施期間 | 時間割 | 担当教員 | ページ | 備考 |
|-----------|-----|------|------|-------|------|-----|-------|
| 英語 A | 2 | | 通年 | | | | |
| 英語 B | 2 | | 通年 | | | | |
| 英語 A1 | 2 | | 通年 | | | | |
| 英語 A2 | 2 | | 通年 | | | | |
| 英語 B | 2 | | 通年 | | | | |
| ドイツ語 | 4 | | 通年 | 火1・木1 | | | |
| ドイツ語 (旧) | 2 | | 通年 | 水3 | | | 9年度カリ |
| ドイツ語 A | 4 | | 通年 | 火2・木2 | | | |
| ドイツ語 B | 2 | | 通年 | 火2・木2 | | | |
| フランス語 | 4 | | 通年 | 火1・木1 | | | |
| フランス語 (旧) | 2 | | 通年 | 水3 | | | 9年度カリ |
| フランス語 A | 4 | | 通年 | 火2・木2 | | | |
| フランス語 B | 2 | | 通年 | 火2・木2 | | | |
| 中国語 | 4 | | 通年 | 火1・木1 | | | |
| 中国語 (旧) | 2 | | 通年 | 水3 | | | 9年度カリ |
| 中国語 A | 4 | | 通年 | 火2・木2 | | | |
| 中国語 B | 2 | | 通年 | 火2 | | | |
| スペイン語 | 4 | | 通年 | 火1・木1 | | | |
| スペイン語 (旧) | 2 | | 通年 | 火3 | | | 9年度カリ |
| スペイン語 A | 4 | | 通年 | 火2・木2 | | | |
| スペイン語 B | 2 | | 通年 | 木2 | | | |
| ロシア語 | 4 | | 通年 | 火1・木1 | | | |
| ロシア語 (旧) | 2 | | 通年 | 水3 | | | 9年度カリ |
| ロシア語 A | 4 | | 通年 | 火2・木2 | | | |
| ロシア語 B | 2 | | 通年 | 火2 | | | |
| 朝鮮語 | 4 | | 通年 | 火1・木1 | | | |
| 朝鮮語 (旧) | 2 | | 通年 | 金5 | | | 9年度カリ |
| 朝鮮語 A | 4 | | 通年 | 火2・木2 | | | |
| 朝鮮語 B | 2 | | 通年 | 木3 | | | |

日本語科目

| 授業科目 | 単位数 | 配当年次 | 実施期間 | 時間割 | 担当教員 | ページ | 備考 |
|-------|-----|------|------|-------|---------|-----|-----|
| 上級日本語 | 2 | | 前期 | 火1・木1 | 高野 寿子 | | |
| 上級日本語 | 2 | | 後期 | 火1・木1 | 高野 寿子 | | |
| 上級日本語 | 2 | | 通年 | 金1 | 高野 寿子 | | |
| 上級日本語 | | | | | | | 非開講 |
| 日本事情 | 2 | | 後期 | 火2 | 高野 寿子 | | |
| 日本事情 | 2 | | 前期 | 金2 | マーク・ジボー | | |

(注意)備考欄に「9年度カリ」と記載された科目は、平成12年度以前入学生用の科目ですので、平成13年度以降入学生は履修することはできません。

C 学科科目

経済学科

平成16年度以前入学生は、P** の科目対応表に注意すること。

印は平成17年度以降新設授業科目

| 講座 | 授業科目 | 単位数 | 配当年次 | 実施期間 | 時間割 | 担当教員 | ページ | 備考 |
|-----------------|------------|-----|------|----------|-------|----------------|-----|--------------|
| 基礎 経済学 科目 | マクロ経済学 | 4 | / | 後期 | 月3・金3 | 加藤 睦洋 | | |
| | ミクロ経済学 | 4 | / | 前期 | 火3・金3 | 山本 賢司 | | |
| | 統計学 | 2 | / | 前期 | 月4 | 遠藤 薫 | | |
| | 経済史 | 2 | | 前期 | 木3 | 今西 一 | | |
| | 現代経済理論 | | | | | | | 非開講 |
| | 現代経済理論 | | | | | | | 非開講 |
| | 経済分析論 | 4 | | 後期 | 月5・木3 | 花田 功一 | | |
| | 数理統計学 | 4 | | 後期 | 火3・金5 | 西山 茂 | | |
| | 経済統計学 | 4 | ・ | 前期 | 火1・火2 | 寺坂 崇宏 | | |
| | 計量経済学 | | | | | | | 非開講 |
| | 経済データ解析論 | | | | | | | 非開講 |
| | 経済学史 | 4 | ・ | 前期 | 火3・金3 | 江頭 進 | | |
| | 日本経済史 | | | | | | | 非開講 |
| | 外国経済史 | 4 | ・ | 後期 | 火3・木3 | 平井 進 | | |
| 外国経済史 | 4 | ・ | 前期 | 月4・金4 | 松家 仁 | | | |
| 応用 経済学 科目 | 国際経済学 | 2 | | 前期 | 月3 | 船津 秀樹 | | |
| | 公共経済学 | 4 | ・ | 後期 | 月2・金2 | 佐野 博之 | | |
| | 労働経済学 | 4 | | 前期 | 火1・金4 | 中村 健一 | | |
| | 産業組織論 | 4 | ・ / | 前期 | 月3・木3 | 鶴沢 秀 | | |
| | 財政学 | 4 | ・ | 前期 | 月2・金2 | 角野 浩 | | |
| | 金融論 | | | | | | | 非開講 |
| | 国際金融と世界経済 | | | | | | | 非開講 |
| | 現代ファイナンス理論 | 4 | | 後期 | 火1・金4 | 和田 良介 | | |
| | 国際貿易理論 | 4 | | 後期 | 月4・木1 | 柴山 千里 | | |
| | 国際マクロ経済学 | 4 | ・ / | 後期 | 火2・木2 | 廣瀬 健一 | | |
| 基礎 発展 科目 | 経済数学 | 2 | / | 後期 | 金4 | 兼岩 龍二 | | |
| | 経済学と現代 | 2 | | 前期 | 金3 | 今西 一外 | | |
| | 経済学入門 | 2 | ・ | 前期 | 月4 | 佐野 博之 | | |
| | 経済学入門 | 2 | ・ | 後期 | 月4 | 渋谷 浩 | | |
| | 経済学特別講義 | 2 | ・ | 前期 後期 | 水2 | 和田 良介 船津 秀樹 | | Aクラス Bクラス |
| | インターンシップ | 2 | ・ | 通年 | 別途通知 | 遠藤 薫外 | | |
| | 卒業研究 | 6 | | | | | | 早期卒業者に限る |
| 研究指導 | 12 | ・ | 通年 | | | | | |

(注) 配当年次 / は、平成17年度以降入学生が、平成16年度以前入学生がであることを示す。
 配当年次 ・ / は、平成17年度以降入学生が ・、平成16年度以前入学生がであることを示す。
 「経済学入門」及び「経済学入門」は、平成18年度以降入学生のみ履修を認めます。
 平成17年度以前入学生の履修はできません。

商 学 科

平成16年度以前入学生は、P** の科目対応表に注意すること。
印は平成17年度以降新設授業科目

| 講座 | 授 業 科 目 | 単位数 | 配当年次 | 実施期間 | 時間割 | 担当教員 | ページ | 備 考 | |
|-----------------------|-----------------------|-------------|------|------|-------|---------------|---------|--------------|-----|
| 商 学 科 目 | 流通システム論 | 4 | | 通年 | 月5 | 伊藤 一 白 貞王 | | | |
| | 流通システム論 | 2 | ・ | 前期 | 月5 | 伊藤 一 | | | |
| | 流通システム論 | 2 | | 後期 | 月5 | 白 貞王 | | | |
| | 社会と金融 | 2 | | 前期 | 木1 | 中浜 隆 | | | |
| | マーケティング | 4 | | 前期 | 月3・月4 | 高宮城朝則 | | | |
| | 貿易論 | 4 | / | 前期 | 月2・水1 | 穴沢 眞 | | | |
| | マーケティング行動論 | 4 | ・ | 後期 | 金4・金5 | 近藤 公彦 | | | |
| | チャンネル・マネジメント | | | | | | | 非開講 | |
| | 国際マーケティング | 4 | ・ | 後期 | 月2・水1 | アラト・加ラス | | | |
| | 地域市場システム論 | 2 | ・ | 夏季集中 | 別途通知 | 石井 吉春 | | | |
| | 保険論 | | | | | | | 非開講 | |
| | 金融市場論 | | | | | | | 非開講 | |
| | 銀行論 | 4 | ・ | 後期 | 月1・木2 | 大矢 繁夫 | | | |
| | 商学特講 | 2 | ・ | 後期 | 木2 | ステファソソ | | | |
| 経 営 学 科 目 | 経営学原理 | 4 | | 前期 | 火2・火3 | 松尾 睦 | | | |
| | 経営学原理 | 2 | ・ | 前期 | 火2 | 松尾 睦 | | | |
| | 経営学原理 | 2 | | 前期 | 火3 | 松尾 睦 | | | |
| | 経営管理論 | 4 | | 後期 | 月3・月4 | 玉井 健一 | | | |
| | 経営史 | 4 | | 通年 | 木3 | 高田 聡 | | | |
| | 経営学説史 | | | | | | | 非開講 | |
| | 企業形態論 | 4 | ・ | 後期 | 月5・水2 | 小田 福男 | | | |
| | 労務管理論 | | | | | | | 非開講 | |
| | 財務管理論 | 2 | ・ | 夏季集中 | 別途通知 | 中村 竜哉 | | | |
| | 国際経営論 | | | | | | | 非開講 | |
| | エコロジーと経営戦略 | | | | | | | 非開講 | |
| | 地域企業論 | 4 | ・ | 後期 | 火2・金1 | 田中 幹大 | | | |
| | 経営学特講 | 2 | ・ | 夏季集中 | 別途通知 | 榊原 清則 | | | |
| | 会 計 学 科 目 | 簿記論 | 4 | | 前期 | 月2・月3 | 松本康一郎 | | |
| 簿記原理 | | 2 | | 後期 | 火2 | 坂柳 明 渡辺 和夫 | | Aクラス Bクラス | |
| 応用簿記 | | 2 | | 夏季集中 | 別途通知 | 大沼 宏 | | | |
| 経営と会計 | | 2 | / | 前期 | 木3 | 福島 吉春 | | | |
| 財務会計論 | | 4 | | 前期 | 火1・金2 | 渡辺 和夫 | | | |
| 原価計算論 | | 4 | | 前期 | 月2・木3 | 篠本 智之 | | | |
| 管理会計論 | | 4 | / | 後期 | 火3・金2 | 乙政 佐吉 | | | |
| 監査論 | | 4 | ・ | 後期 | 火1・木3 | 坂柳 明 | | | |
| 国際会計論 | | | | | | | | 非開講 | |
| 組織と会計 | | 2 | ・ | 後期 | 金3 | 篠本 智之 | | | |
| 税務会計論 | | | | | | | | 非開講 | |
| 会計学特講 | | | | | | | | 非開講 | |
| 発 展 科 目 | | 英語コミュニケーション | | | | | | | 非開講 |
| | | 英語コミュニケーション | 2 | | 後期 | 火3 | マク・ホルスト | | |
| | 比較文化 | | | | | | | 非開講 | |
| | 比較文化 | 2 | | 前期 | 火3 | マク・ホルスト | | | |
| | インターンシップ | 2 | ・ | 通年 | 別途通知 | 大矢繁夫外 | | | |
| | 卒業研究 | 6 | | | | | | 早期卒業者に限る | |
| 研究指導 | 12 | ・ | 通年 | | | | | | |

(注) 配当年次 / は、平成17年度以降入学生が、平成16年度以前入学生がであることを示す。
配当年次 / は、平成17年度以降入学生が、平成16年度以前入学生がであることを示す。

(注) 平成11年度以前の入学生は、商学科の専門科目のうち、「英語コミュニケーション」、「英語コミュニケーション」、「比較文化」、「比較文化」については、単位を修得しても卒業所要単位に算入しない。

「流通システム論」(4単位)、「経営学原理」(4単位)、「簿記論」(4単位)は平成16年度以前入学生のみ履修を認めます。

「流通システム論」(2単位)、「経営学原理」(2単位)、「簿記原理」(2単位)は平成17年度以降入学生のみ履修を認めます。

企業法学科

平成16年度以前入学生は、P** の科目対応表に注意すること。

印は平成17年度以降新設授業科目

| 講座 | 授業科目 | 単位数 | 配当年次 | 実施期間 | 時間割 | 担当教員 | ページ | 備考 |
|-----------------------|------------------|----------|------|-------|-------|-------|--------|----------|
| 基 礎 法 科 目 | 憲法・基礎 | 2 | ・ | 後期 | 水2 | 結城洋一郎 | | |
| | 憲法・基礎 | 2 | / | 前期 | 水3 | 結城洋一郎 | | |
| | 行政法 | 4 | ・ | 前期 | 水2・木3 | 石黒 匡人 | | |
| | 民法・基礎 | 2 | ・ | 後期 | 木2 | 林 誠司 | | |
| | 民法・基礎 | 2 | / | 前期 | 月4 | 林 誠司 | | |
| | 刑法 | 4 | | 前期 | 月3・火3 | 一原亜貴子 | | |
| | 法学 | 2 | | 前期 | 木2 | 片桐 由喜 | | |
| | 憲法 | 4 | | 前期 | 木3・金3 | 新村 とわ | | |
| | 行政法 | 4 | ・ | 後期 | 月2・水2 | 今本 啓介 | | |
| | 租税法 | 2 | ・ | 前期 | 水1 | 今本 啓介 | | |
| | 民法 | 4 | | 後期 | 木1・木2 | 齋藤 由起 | | |
| | 民法 | 4 | ・ | 前期 | 月5・木2 | 遠山 純弘 | | |
| | 民法 | | | | | | | 非開講 |
| | 刑事法特講 | 4 | ・ | 後期 | 月5・水3 | 一原亜貴子 | | |
| 国際法 | 4 | | 前期 | 金4・金5 | 佐古田 彰 | | | |
| 国際機構論 | 2 | | 後期 | 金2 | 佐古田 彰 | | | |
| 比較法 | 2 | ・ | 夏季集中 | 別途通知 | 篠田 優 | | | |
| 基礎法特講 | | | | | | | 非開講 | |
| 企 業 法 科 目 | 商法 | 4 | | 後期 | 木3・金3 | 道野 真弘 | | |
| | 商法 | 4 | ・ | 後期 | 月4・火1 | 玉井 利幸 | | |
| | 商法 | 4 | ・ | 前期 | 月2・水3 | 多木誠一郎 | | |
| | 民事手続法 | 4 | | 前期 | 水1・水2 | 河野憲一郎 | | |
| | 倒産処理法 | 2 | ・ | 前期 | 木1 | 河野憲一郎 | | |
| | 経済法 | 4 | ・ | 前期 | 金4・金5 | 岡本 直貴 | | |
| | 知的財産権法 | 2 | ・ | 夏季集中 | 別途通知 | 才原 慶道 | | |
| | 労働法 | 4 | ・ | 前期 | 火2・火3 | 本久 洋一 | | |
| | 社会保障法 | 4 | ・ | 後期 | 月3・火3 | 片桐 由喜 | | |
| | 環境法 | | | | | | | 非開講 |
| | 国際経済法 | | | | | | | 非開講 |
| | 国際取引法 | 4 | ・ | 後期 | 火2・木3 | 中村 秀雄 | | |
| | 企業法特講 | | | | | | | 非開講 |
| | 発 展 科 目 | インターンシップ | 2 | ・ | 通年 | 別途通知 | 多木誠一郎外 | |
| 卒業研究 | | 6 | | | | | | 早期卒業者に限る |
| | | | | | | | | |
| 研究指導 | 12 | ・ | 通年 | | | | | |

(注) 配当年次 / は、平成17年度以降入学生が、平成16年度以前入学生がであることを示す。

平成16年度以前入学生が「法学」を履修した場合は、「発展科目」の区分に算入されます。

社会情報学科

平成16年度以前入学生は、P** の科目対応表に注意すること。

印は平成17年度以降新設授業科目

| 講座 | 授業科目 | 単位数 | 配当年次 | 実施期間 | 時間割 | 担当教員 | ページ | 備考 | |
|-----------------------|-----------------------|----------|------|------|----------|-----------------|----------|-----|-----|
| 計画 科学 | 基幹科目 オペレーションズ・リサーチ | 2 | | 前期 | 月4 | 山本 充 | | | |
| | 統計科学 | 2 | | 後期 | 月4 | 小笠原 春彦 | | | |
| | 計画数学 | 2 | | 前期 | 金5 | 行方 常幸 | | | |
| | 発展科目 計画数学 | 2 | | 後期 | 木1 | 石井 利昌 | | | |
| | 応用統計 | 2 | | 前期 | 木2 | 小笠原 春彦 | | | |
| | 社会計画 | 4 | | 後期 | 水1・金2 | 大津 晶 | | | |
| | 計画科学 | 4 | | 後期 | 火1・木2 | 奥田 和重 | | | |
| | 意思決定論 | 4 | | 通年 | 金4 | 行方 常幸 | | | |
| 組 織 と 情 報 | 基幹科目 経営システム基礎 | 2 | | 後期 | 月5 | 平沢 尚毅 | | | |
| | 情報システム管理論 | 2 | | 前期 | 金3 | 持田 泰昭 | | | |
| | 発展科目 プロジェクト実践論 | 2 | | 前期 | 月5 | 酒井 弘一 平沢 尚毅 | | | |
| | 組織コミュニケーション論 | 2 | | 後期 | 金3 | 阿部 孝太郎 | | | |
| | デジタルデザイン論 | 2 | | 後期 | 金5 | 平沢 尚毅 | | | |
| | ビジネスデザイン論 | 2 | | 後期 | 火3 | 酒井 弘一 | | | |
| | 組織情報論 | 2 | | 前期 | 金2 | 阿部 孝太郎 | | | |
| | 社会情報論 | 2 | | 後期 | 木3 | 出川 淳 | | | |
| | 情報システム構築論 | 2 | | 後期 | 水3 | 持田 泰昭 | | | |
| | 応用プロジェクト方法論 | 2 | | 前期 | 火3 | 酒井 弘一 | | | |
| | ビジネスシステム論 | | | | | | | 非開講 | |
| 社 会 と 情 報 | 基幹科目 知識科学基礎 | 2 | | 後期 | 月3 | 木村 泰知 | | | |
| | 発展科目 情報処理 | 4 | | 前期 | 月3・木1・金1 | 中村 隆志 | | | |
| | 情報数理 | 2 | | 前期 | 水3 | 沼澤 政信 | | | |
| | 認知科学 | 4 | | 前期 | 月2・火1 | 佐山 公一 | | | |
| | ソフトウェア科学 | 4 | | 前期 | 水1・水2 | 加地 太一 | | | |
| | コンピュータネットワーク論 | 4 | | 通年 | 木3・夏季 | 三谷 和史 | | | |
| | 情報と職業 | 2 | | 前期 | 水5 | 小山 正芳 | | | |
| 基 幹 科 目 | 社会情報入門 | 2 | | 前期 | 金4 | 木村 泰知 阿部 孝太郎 | | | |
| | 計画科学基礎 | 2 | | 後期 | 金4 | 佐山 公一 大津 晶 | | | |
| | 情報処理基礎 | 2 | | 後期 | 火3 | 三谷 和史 | | | |
| | 発 展 科 目 | 社会情報特講 | | | | | | | 非開講 |
| | | 社会情報特講 | | | | | | | 非開講 |
| | | 社会情報特講 | | | | | | | 非開講 |
| | | インターンシップ | 2 | | 通年 | 別途通知 | 佐山公一外 | | |
| 卒業研究 | 6 | | | | | | 早期卒業者に限る | | |
| 研究指導 | 12 | | 通年 | | | | | | |

専 門 共 通 科 目

平成16年度以前入学生は、P** の科目対応表に注意すること。
印は平成17年度以降新設授業科目

| 授 業 科 目 | 単位数 | 配当年次 | 実施期間 | 時間割 | 担当教員 | ページ | 備 考 |
|----------------|-----|------|---------------|----------|--------------------|-----|--------------|
| 現代哲学論 | | | | | | | 非開講 |
| 現代心理学 | | | | | | | 非開講 |
| 文学と人間 | 4 | | 通年 | 水2 | 中村 史 | | |
| 現代思想 | | | | | | | 非開講 |
| 現代の社会 | 4 | | 通年 | 金2 | 宝福則子 | | |
| 歴史と社会 | 4 | | 通年 | 火2 | 荻野富士夫 | | |
| 政治心理学 | | | | | | | 非開講 |
| 国際関係論 | 2 | | 国際連合大学の単位互換認定 | | | | |
| 環境の分析化学 | | | | | | | 非開講 |
| 自然と物理学 | 4 | | 通年 | 水2 | 杉之原立史 | | |
| 食糧生産と環境 | | | | | | | 非開講 |
| 現代の数学 | | | | | | | 非開講 |
| 現代の数学 | 4 | | 通年 | 水2 | 米田 力生 | | |
| 人間科学論 | | | | | | | 非開講 |
| 国際コミュニケーション | 4 | | 通年 | 金3 金3 | 大塚 譲 高橋 純 | | aクラス bクラス |
| 上級外国語 | | | | | | | 非開講 |
| 上級外国語 a(英語) | 4 | ・ | 通年 | 月4 | ダニエラ・カルヤヌ | | |
| 上級外国語 b(ドイツ語) | 4 | ・ | 通年 | 木3 | オルテハーフェル | | |
| 上級外国語 c(フランス語) | 4 | ・ | 通年 | 火3 | 江口 修 | | |
| 上級外国語 d(中国語) | 4 | ・ | 通年 | 木3 | 裴崢 | | |
| 上級外国語 e(スペイン語) | 4 | ・ | 通年 | 木1 | 山田 眞史 | | |
| 上級外国語 f(ロシア語) | 4 | ・ | 通年 | 火3 | スベヴァコフスキー 山田 久就 | | 前期 後期 |
| 上級外国語 g(朝鮮語) | 4 | ・ | 通年 | 金4 | 宣 憲洋 | | |
| ビジネス英語 | 4 | ・ | 通年 | 木2 | ジョン・クランキー | | |
| 英語学特講 | | | | | | | 非開講 |
| 英文学特講 | 4 | | 通年 | 金3 | 杉村 泰教 | | |
| 研究指導 | 12 | ・ | 通年 | | | | |

教 職 共 通 科 目

| 区 分 | 授 業 科 目 | 単 位 数 | 配 当 年 次 | 実 施 期 間 | 時 間 割 | 担 当 教 員 | ペ ー ジ | 備 考 | 平成19年度 開講予定 |
|--------------------------------------|---------|-------|---------|---------|---------------------------------|---------------------------------|-------|-------|----------------|
| 教 職 に 関 す る 科 目 | 教育基礎論 | 4 | | 通年 | 金5 | 上野耕三郎外 | | 9年度カリ | |
| | 教職論 | 2 | | 後期 | 金5 | 上野耕三郎外 | | | |
| | 教育制度 | 2 | | 前期 | 金5 | 上野耕三郎 | | | |
| | 教育基礎論 A | 2 | | 前期 | 月2 | 佐藤 淳 | | 9年度カリ | |
| | 教育心理 | 2 | | 前期 | 月2 | 佐藤 淳 | | | |
| | 教育基礎論 B | 2 | | 前期 | 金6 | 上野耕三郎 | | 9年度カリ | |
| | 教育の歴史 | 2 | | 前期 | 金6 | 上野耕三郎 | | | |
| | 教育方法学 | 2 | | 前期 | 月3 | 岡部 善平 | | 9年度カリ | |
| | 教育方法 | 2 | | 前期 | 月3 | 岡部 善平 | | | |
| | 商業科教育法 | 2 | | 前期 | 金2 | 小山 正芳 | | 9年度カリ | |
| | 商業科教育法 | 2 | | 前期 | 金2 | 小山 正芳 | | | |
| | 商業科教育法 | 2 | | 後期 | 金6 | 田中 修一 未定 | | | |
| | 英語科教育法 | 4 | | 通年 | 金5 | 高井 收 | | 9年度カリ | |
| | 英語科教育法 | 2 | | 前期 | 金5 | 高井 收 | | | |
| | 英語科教育法 | 2 | | 後期 | 金5 | 高井 收 | | | |
| | 英語科教育法 | 2 | | 前期 | 金4 | 小林 敏彦 | | | |
| | 情報科教育法 | 2 | | 前期 | 月5 | 古谷 次郎 | | | 未定 |
| | 情報科教育法 | 2 | | 夏季集中 | 別途通知 | 鰐淵 泰彰 | | | 未定 |
| | 道德教育の研究 | 2 | | 後期 | 金2 | 上野耕三郎 | | 9年度カリ | |
| | 道德教育 | 2 | | 後期 | 金2 | 上野耕三郎 | | | |
| | 教育実践論 | 2 | | 後期 | 月6 | 岡部 善平 | | 9年度カリ | |
| | 生徒指導 | 2 | | 後期 | 月6 | 岡部 善平 | | | |
| | 教育相談 | 2 | | 前期 | 金1 | 渡辺 誠 | | | |
| | 教育実践論 | 2 | | 前期 | 月6 | 岡部 善平 | | 9年度カリ | |
| | 教育課程論 | 2 | | 前期 | 月6 | 岡部 善平 | | | |
| | 教育実習 | 3 | | | | 上野耕三郎 岡部 善平 君羅 久則 高井 收 | | 9年度カリ | |
| | 事前・事後指導 | 1 | | | | 上野耕三郎 岡部 善平 君羅 久則 高井 收 | | | |
| 教育実習 | 2 | | | | 君羅 久則 高井 收 | | | | |
| 教育実習 | 2 | | | | 上野耕三郎 岡部 善平 君羅 久則 高井 收 | | | | |
| 総合演習 | 2 | | 後期 | 月3 | 岡部 善平 | | | | |

(注意) 備考欄に「9年度カリ」と記載された科目は、平成11年度以前入学生用の科目ですので、平成12年度以降入学生は履修することはできません。

| 区分 | 授業科目 | 単位数 | 配当年次 | 実施期間 | 時間割 | 担当教員 | ページ | 備考 | 平成19年度 開講予定 | | |
|--------------------------------------|------------------|-------------|------|------|----------|----------------|--------------------|------------------|----------------|-------|----|
| 教 科 に 関 す る 科 目 | 商業 専修 職業指導 | 4 | | 通年 | 月5 金6 | 松田 光一 上野耕三郎 | | 前期 9カリ 後期 9カリ | | | |
| | 職業指導 | 2 | | 前期 | 月5 | 松田 光一 | | | | | |
| | 英 語 | 言語学概論 | 4 | | 通年 | 月4 | 大島 稔 | | | | |
| | | 英語学概論 | 4 | ~ | 通年 | 水3 | 山本 久雄 ジョン・クランキー | | | | |
| | | 英語学 | 4 | ~ | 通年 | 木2 | ダニエラ・カルヤヌ | | 9年度カリ | 未定 | |
| | | | 2 | | 前期 | 木2 | ダニエラ・カルヤヌ | | aクラス | | |
| | | 英語学 | 4 | ~ | 通年 | 金4 | 山本 久雄 | | 9年度カリ | × | |
| | | | 2 | | 前期 | 金4 | 山本 久雄 | | aクラス | × | |
| | | 英語学 | | | | | | | 非開講 | 未定 | |
| | | 英文学史 | 4 | ・ | 通年 | 水1 | 君羅 久則 | | | × | |
| | | 英文学概論 | 4 | ~ | 通年 | 月3 | 杉村 泰教 | | | | |
| | | 英 文 学 | 英文学 | 4 | ~ | 通年 | 月1 | 君羅 久則 | | 9年度カリ | 未定 |
| | | | | 2 | | 前期 | 月1 | 君羅 久則 | | aクラス | |
| | | | 英文学 | 4 | ~ | 通年 | 月2 | 吉田 直希 | | 9年度カリ | × |
| | | | | 2 | | 前期 | 月2 | 吉田 直希 | | aクラス | × |
| | | 英文学 | | | | | | | 非開講 | 未定 | |
| | 英会話・英作文 | 4 | ~ | 通年 | 木3 | ジョン・クランキー | | | | | |
| | 英語コミュニケーション | | | | | | | 非開講 | | | |
| | 英語コミュニケーション | 2 | ~ | 前期 | 金2 | 小林 敏彦 | | | × | | |
| | 比較文化 | | | | | | | 非開講 | | | |
| 比較文化 | 2 | ~ | 後期 | 金2 | 高井 収 | | | × | | | |
| その他の科目 | 情報機器概論 | | | | | | | 非開講 | 未定 | | |

(注意) 1. 備考欄に「9年度カリ」と記載された科目は、平成11年度以前入学生用の科目ですので、平成12年度以降入学生は履修することはできません。

2. 6講目が開講されている教職共通科目は、昼間コースの学生も履修できます。

国際交流科目

| 授 業 科 目 | 単位数 | 配当年次 | 実施期間 | 担当教員 | ページ | 備 考 |
|---------------------|-----|------|------|-----------|-----|-----|
| 中級ミクロ経済学 | 4 | | 前期 | 藤生 源子 | | |
| 中級マクロ経済学 | 4 | | 後期 | 横田 宏治 | | |
| 日本経済 | 2 | | 前期 | 横田 宏治 | | |
| アジア太平洋におけるマーケティング戦略 | 2 | | 前期 | ニール・クライマー | | |
| 世界の中の日本企業 | 2 | | 前期 | ニール・クライマー | | |
| 日本的経営入門 | 2 | | 後期 | ニール・クライマー | | |

- (1) 国際交流科目とは、小樽商科大学短期留学プログラム規程に定める授業科目です。
 (2) 国際交流科目のうち、本学の学生が上記の科目を履修した場合、別表の授業科目区分に算入する。

別 表

| 授 業 科 目 | 単位数 | 本学の学生が履修した場合の授業科目区分 |
|---------------------|-----|---------------------|
| 中級ミクロ経済学 | 4 | 経済学科学科科目(発展科目) |
| 中級マクロ経済学 | 4 | 経済学科学科科目(発展科目) |
| 日本経済 | 2 | 経済学科学科科目(発展科目) |
| アジア太平洋におけるマーケティング戦略 | 2 | 商学科学科科目(発展科目) |
| 世界の中の日本企業 | 2 | 商学科学科科目(発展科目) |
| 日本的経営入門 | 2 | 商学科学科科目(発展科目) |

平成12年度以前入学生は、学科専門科目に算入する。

5 . 卒業に必要な単位数

(1) 平成 1 6 年度以降入学者

共通科目及び日本語科目 (* ~ * 頁の科目対応表を参照のこと)

| 区 分 | | 単 位 数 | 備 考 |
|---------------------------------|-------|-----------|--|
| 共通科目 | 基礎 | 6 単位以上 | 外国人留学生在が日本語学と比較日本文化論を修得した場合には、日本語科目の修得単位に振り替えることができる。 |
| | 人間と文化 | 4 単位以上 | |
| | 社会と人間 | 4 単位以上 | |
| | 自然と環境 | 4 単位以上 | |
| | 健康科学 | 2 単位以上 | |
| 外国語科目 | | 14 単位以上 | 1 . 7 外国語科目のうちから 2 外国語科目を選択必修とする。この場合において、外国語科目の は 2 外国語各 4 単位、計 8 単位を、 は 1 外国語を A として 4 単位を、他方を B として 2 単位をそれぞれ必修とする。ただし、外国人留学生的場合は、母語を含めることはできない。 2 . 外国人留学生的の場合は、上級日本語及び日本事情から計 6 単位以上をもって、1 外国語とすることができる。 3 . 外国人留学生在が、外国語科目・日本語科目を 14 単位を超えて修得した場合には、日本語科目の日本事情 ・ に限り 4 単位まで基礎科目中の人間と文化系の修得単位に振り替えることができる。 4 . 外国人留学生以外の学生が日本語科目を修得しても卒業所要単位には算入しない。 |
| 日本語科目 | | (12 単位) | |
| 自由選択 (共通科目の単位数欄に掲げる単位を超える単位) | | 1 2 単位 | |
| 計 | | 5 2 単位 | |

学科科目

経済学科，商学科，企業法学科及び社会情報学科共通（*～*頁の科目対応表を参照のこと）

| 区 分 | 単位数 | 備 考 |
|--|-----------|--|
| 自学科基幹科目 | 12単位 | |
| 自学科発展科目 | 28単位 | 自学科基幹科目の単位数欄に掲げる単位数を超える単位を含めることができる。 |
| 自他学科科目 専門共通科目 教職共通科目 | 20 単位 | 1．自学科基幹科目及び自学科発展科目の単位数欄に掲げる単位数を超える単位を含めることができる。 2．教職共通科目のうち教育の歴史，教育方法，道徳教育，商業科教育法，商業科教育法，教育相談，総合演習を含めることができる。 |
| 研究指導 | 12単位 | 3年以上4年未満の在学で卒業する場合は，6単位を学科発展科目に認定する。 |
| 計 | 72単位 | |
| 卒業所要単位 | 124 単位 | |
| <p>（注）</p> <p>1．自他学科科目とは，所属学科及び所属以外の学科の科目をいう。</p> <p>2．進級に必要な単位数 ア 3年次に進級するためには，46単位(卒業所要単位数に算入される単位数に限る。)以上修得しなければならない。 イ 上記「ア」の単位数を2年を超えて修得した者は，修得した年度の終了後2年以上在学しなければならない。</p> <p>3．研究指導の履修方法 ア 研究指導は原則として必修科目とする。 イ 研究指導を履修する者は，原則として，自学科科目あるいは専門共通科目の研究指導を履修するものとする。 ウ 例外的措置として研究指導を履修しないことが認められた者は，自学科の学科科目のうちから別に12単位を履修しなければならない。</p> | | |

(2) 平成 1 3 年度 ~ 平成 1 5 年度入学者

共通科目及び日本語科目 (* ~ * 頁の科目対応表を参照のこと)

| 区 分 | | 単 位 数 | 備 考 |
|-----------------------------------|-------|-----------|---|
| 共通科目 | 基礎 | 6 単位以上 | 1 . 商業教員養成課程にあつては、情報処理入門 2 単位及び健康科学科目のうちから実技を含めて 2 単位以上必修とする。 2 . 外国人留学生在が日本語学と比較日本文化論を修得した場合には、日本語科目の修得単位に振り替えることができる。 |
| | 人間と文化 | 4 単位以上 | |
| | 社会と人間 | 4 単位以上 | |
| | 自然と環境 | 4 単位以上 | |
| | 健康科学 | 2 単位以上 | |
| 外国語科目 | | 14 単位以上 | 1 . 7 外国語科目のうちから 2 外国語科目を選択必修とする。この場合において、外国語科目の は 2 外国語各 4 単位、計 8 単位を、 は 1 外国語を A として 4 単位を、他方を B として 2 単位をそれぞれ必修とする。ただし、外国人留学生的の場合は、母語を含めることはできない。 2 . 商業教員養成課程にあつては、1 外国語科目は英語を必修とする。 3 . 外国人留学生的の場合は、上級日本語及び日本事情から計 6 単位以上をもって、1 外国語とすることができる。 4 . 外国人留学生在が、外国語科目・日本語科目を 14 単位を超えて修得した場合には、日本語科目の日本事情 ・ に限り 4 単位まで基礎科目中の人間と文化系の修得単位に振り替えることができる。 5 . 外国人留学生在以外の学生が日本語科目を修得しても卒業所要単位には算入しない。 |
| 日本語科目 | | (12 単位) | |
| 自由選択 (共通科目の単位数欄に掲げる単位を超える単位) | | 1 2 単位 | 商業教員養成課程に限る。 |
| | | 8 単位 | |
| 計 | | 52 単位 | 商業教員養成課程に限る。 |
| | | 48 単位 | |

学科科目

イ.経済学科，商学科，企業法学科及び社会情報学科共通（*～*頁の科目対応表を参照のこと）

| 区 分 | 単位数 | 備 考 |
|--|-----------|--|
| 自学科基幹科目 | 12単位 | |
| 自学科発展科目 | 28単位 | 自学科基幹科目の単位数欄に掲げる単位数を超える単位を含めることができる。 |
| 自他学科科目 専門共通科目 教職共通科目 | 20 単位 | 1. 自学科基幹科目及び自学科発展科目の単位数欄に掲げる単位数を超える単位を含めることができる。 2. 教職共通科目のうち教育の歴史，教育方法，道徳教育，商業科教育法，商業科教育法，教育相談，総合演習を含めることができる。 |
| 研究指導 | 12単位 | 3年以上4年未満の在学で卒業する場合は，6単位を学科発展科目に認定する。 |
| 計 | 72単位 | |
| 卒業所要単位 | 124 単位 | |
| <p>(注)</p> <p>1. 自他学科科目とは，所属学科及び所属以外の学科の科目をいう。</p> <p>2. 進級に必要な単位数 ア 3年次に進級するためには，46単位(卒業所要単位に算入される単位に限る。)以上修得しなければならない。 イ 上記「ア」の単位数を2年を超えて修得した者は，修得した年度の終了後2年以上在学しなければならない。</p> <p>3. 研究指導の履修方法 ア 研究指導は原則として必修科目とする。 イ 研究指導を履修する者は，原則として，自学科科目あるいは専門共通科目の研究指導を履修するものとする。 ウ 例外的措置として研究指導を履修しないことが認められた者は，自学科の学科科目のうちから別に12単位を履修しなければならない。</p> | | |

□.商業教員養成課程

| 区 分 | 単位数 | 備 考 |
|---|-------|--|
| 商業教員養成課程科目 | 37単位 | 1 研究指導を除いた科目 2 憲法（日本国憲法2単位を含む。）を必修とする。 3 37単位の中にマカ経済学,ミカ経済学,流通システム論,金融市場論,経営学原理,経営管理論,財務管理論,簿記論,商法,社会情報入門,社会情報入門のうちいずれか18単位を含める。 |
| 教職共通科目(商業専修) | 2単位 | 職業指導を必修とする。 |
| 教職に関する科目 | 25単位 | 教職論,教育の歴史,教育心理,教育制度,商業科教育法,商業科教育法,教育課程論,教育方法,生徒指導,教育相談,総合演習,事前・事後指導及び教育実習を必修とする。 |
| 研究指導 | 12単位 | |
| 計 | 76単位 | |
| 卒業所要単位 | 124単位 | |
| (注) 研究指導の履修方法について ア 研究指導を履修する者は,経済学科,商学科,企業法学科,社会情報学科,あるいは専門共通科目の研究指導を履修するものとする。 イ 例外的措置として研究指導を履修しないことが認められた者は,商業教員養成課程科目について,別に12単位を履修しなければならない。 | | |

(3) 平成12年度入学者

共通科目及び外国語科目等 (*~*頁の経過措置及び*~*頁の科目対応表を参照のこと)

| 区 分 | | 単位数 | 備 考 |
|---------|-----------------------|--|---|
| 共通科目 | 人間形成 | 12 以上 | 3系列以上 |
| | 社会の構造 | | |
| | 文化への視角 | | |
| | 自然と生命 環境論 言語と生活 | | |
| 総合科目 | | 商業教員養成課程にあつては、総合科目 2単位及び健康科学科目のうちから実技を含めて2単位以上必修 | |
| 基礎ゼミナール | | | |
| 健康科学科目 | | | |
| 計 | | 28 | 個別科目、総合科目、基礎ゼミナール及び健康科学科目を合わせる。 |
| 外国語科目等 | 外国語科目 | 20 | 1 7外国語科目のうちから2外国語科目を必修とする。ただし外国人留学生の場合は、2外国語の中に母語を含めることはできない。 2 商業教員養成課程にあつては、1外国語科目は英語を必修とする。 3 外国人留学生の場合は、上級日本語及び日本事情をもって、1外国語科目とすることができる。 4 外国人留学生が、外国語科目・日本語科目を20単位を超えて修得した場合には、日本語科目の日本事情・に限り4単位まで個別科目中の言語と生活系の修得単位に振り替えることができる。 5 外国人留学生以外の学生が、日本語科目を履修しても卒業所要単位に算入しない。 |
| | 日本語科目 | (12) | |
| 合 計 | | 48 | |

専門科目等

イ. 経済学科 (*~*頁の経過措置及び*~*頁の科目対応表を参照のこと)

| 区 分 | | 単位数 | 備 考 |
|----------|---|-----|--|
| 経済学科科目 | | 48 | 1 研究指導を除いた科目 2 48単位の中にマクロ経済学、ミクロ経済学、統計学、経済史のうちいずれか2科目以上含める。 |
| 商学科科目 | } | 24 | 研究指導及び上欄で選択した科目を除いた科目 |
| 企業法学科科目 | | | |
| 社会情報学科科目 | | | |
| 専門共通科目 | | | |
| 研究指導 | | 12 | |
| 計 | | 84 | |
| 卒業所要単位 | | 132 | |

(注)

- (1) 進級に必要な単位数について
 ア 3年次に進級するためには、55単位(卒業所要単位に算入される単位に限る。)以上修得しなければならない。
 イ 前項の単位数を2年を超えて修得した者は、修得した年度の終了後2年以上在学しなければならない。
- (2) 研究指導の履修方法について
 ア 研究指導を履修する者は、原則として、経済学科あるいは専門共通科目の研究指導を履修するものとする。
 イ 研究指導を履修しない者は、経済学科科目について、さらに12単位を履修しなければならない。

ロ. 商学科 (*~*頁の経過措置及び*~*頁の科目対応表を参照のこと)

| 区分 | 単位数 | 備考 |
|----------|-----|--|
| 商学科科目 | 48 | 1 研究指導を除いた科目 2 流通システム論、経営学原理、簿記論のうちいずれか2科目を含める。 3 上記2で履修しなかった科目並びにマーケティング、貿易論、金融システム論、経営管理論、経営史、財務会計論、原価計算論、管理会計論のうちいずれか3科目を含める。 |
| 経済学科科目 | 24 | 研究指導及び上欄で選択した科目を除いた科目 |
| 企業法学科科目 | | |
| 社会情報学科科目 | | |
| 専門共通科目 | | |
| 研究指導 | 12 | |
| 計 | 84 | |
| 卒業所要単位 | 132 | |

(注)

(1) 進級に必要な単位数について

ア 3年次に進級するためには、48単位(卒業所要単位に算入される単位に限る。)以上修得しなければならない。

イ 前項の単位数を2年を超えて修得した者は、修得した年度の終了後2年以上在学しなければならない。

(2) 研究指導の履修方法について

ア 研究指導を履修する者は、原則として、商学科あるいは専門共通科目の研究指導を履修するものとする。

イ 研究指導を履修しない者は、商学科科目について、さらに12単位を履修しなければならない。

ハ. 企業法学科 (*~*頁の経過措置及び*~*頁の科目対応表を参照のこと)

| 区分 | 単位数 | 備考 |
|----------|-----|--|
| 企業法学科科目 | 56 | 1 研究指導を除いた科目 2 56単位の中に、憲法〔総論・人権〕、憲法〔統治機構論〕、行政法〔総論〕、刑法、国際法のうちいずれか2科目を、また民法〔総論〕、民法〔契約法〕、商法〔会社法〕、商法〔商取引法〕、民事手続法のいずれか2科目を含める。 |
| 経済学科科目 | 16 | 研究指導及び上欄で選択した科目を除いた科目 |
| 商学科科目 | | |
| 社会情報学科科目 | | |
| 専門共通科目 | | |
| 研究指導 | 12 | |
| 計 | 84 | |
| 卒業所要単位 | 132 | |

(注)

(1) 研究指導の履修方法について

ア 研究指導を履修する者は、原則として、企業法学科あるいは専門共通科目の研究指導を履修するものとする。

イ 研究指導を履修しない者は、企業法学科科目について、さらに12単位を履修しなければならない。

二. 社会情報学科(*~*頁の経過措置及び*~*頁の科目対応表を参照のこと)

| 区 分 | 単位数 | 備 考 |
|--|-----|---|
| 社会情報学科科目 | 56 | 1 研究指導を除いた科目 2 56単位の中に、計画科学概論、組織と情報概論、社会と情報概論、統計学基礎、計画数学、情報処理基礎のうちいずれか10単位を、また、計画数理、オペレーションズ・リサーチ、統計科学、組織と情報基礎、プロジェクト管理基礎、組織コミュニケーション論、情報処理、情報システム基礎、情報数理、知識科学基礎のうちいずれか20単位を含める。 |
| 経済学科科目 | 16 | 研究指導及び上欄で選択した科目を除いた科目 |
| 商学科科目 | | |
| 企業法学科科目 | | |
| 専門共通科目 | | |
| 研究指導 | 12 | |
| 計 | 84 | |
| 卒業所要単位 | 132 | |
| <p>(注)</p> <p>(1) 進級に必要な単位数について ア 2年次に進級するためには、16単位(卒業所要単位に算入される単位に限る。)以上修得しなければならない。 イ 前項の単位数を1年を超えて修得した者は、修得した年度の終了後3年以上在学しなければならない。 ウ 3年次に進級するためには、52単位(卒業所要単位に算入される単位に限る。)以上修得しなければならない。 エ 前項の単位数を2年を超えて修得した者は、修得した年度の終了後2年以上在学しなければならない。</p> <p>(2) 研究指導の履修方法について ア 研究指導を履修する者は、原則として、社会情報学科あるいは専門共通科目の研究指導を履修するものとする。 イ 研究指導を履修しない者は、社会情報学科科目について、さらに12単位を履修しなければならない。</p> | | |

(4) 平成9年度～平成11年度入学者

共通科目及び外国語科目等(*～*頁の経過措置及び*～*頁の科目対応表を参照のこと)

| 区 分 | | 単位数 | 備 考 |
|---------|--------------|--|---|
| 共通科目 | 人間形成 | 12 以上 | 3系列以上 |
| | 社会の構造 | | |
| | 文化への視角 | | |
| | 自然と生命 | | |
| | 環境論 言語と生活 | | |
| 総合科目 | | 商業教員養成課程にあつては、健康科学科目のうちから実技を含めて2単位以上必修 | |
| 基礎ゼミナール | | | |
| 健康科学科目 | | | |
| 計 | | 28 | 個別科目、総合科目、基礎ゼミナール及び健康科学科目を合わせる。 |
| 外国語科目等 | 外国語科目 | 20 | 1 日本人学生は、日本語科目を除く7外国語科目のうちから、2外国語科目を選択必修。 2 外国人留学生が履修する場合は、日本語科目を含む8外国語科目のうちから2外国語科目(20単位)を選択必修。ただし、母国語を選択することはできない。 3 外国人留学生が、外国語科目等を20単位を超えて修得した場合には、日本語科目の日本事情に限り4単位まで個別科目中の言語と生活系の修得単位に振り替えることができる。 |
| | 日本語科目 | (12) | 4 日本人学生が、日本語科目を履修しても卒業所要単位には算入しない。 |
| 合 計 | | 48 | |

専門科目等

イ. 経済学科(*～*頁の経過措置及び*～*頁の科目対応表を参照のこと)

| 区 分 | | 単位数 | 備 考 |
|----------|---|-----|--|
| 経済学科科目 | | 48 | 1 研究指導を除いた科目 2 48単位の中にマクロ経済学、ミクロ経済学、統計学、経済史のうちいずれか2科目以上含める。 |
| 商学科科目 | } | 24 | 研究指導及び上欄で選択した科目を除いた科目 |
| 企業法学科科目 | | | |
| 社会情報学科科目 | | | |
| 専門共通科目 | | | |
| 研究指導 | | 12 | |
| 計 | | 84 | |
| 卒業所要単位 | | 132 | |

(注)

- (1) 進級に必要な単位数について
 ア 3年次に進級するためには、55単位(卒業所要単位に算入される単位に限る。)以上修得しなければならない。
 イ 前項の単位数を2年を超えて修得した者は、修得した年度の終了後2年以上在学しなければならない。
- (2) 研究指導の履修方法について
 ア 研究指導を履修する者は、原則として、経済学科あるいは専門共通科目の研究指導を履修するものとする。
 イ 研究指導を履修しない者は、経済学科科目について、さらに12単位を履修しなければならない。

ロ. 商学科 (*~*頁の経過措置及び*~*頁の科目対応表を参照のこと)

| 区 分 | 単位数 | 備 考 |
|--|-----|--|
| 商 学 科 科 目 | 48 | 1 研究指導を除いた科目 2 流通システム論、経営学原理、簿記論のうちいずれか2科目を含める。 3 上記2で履修しなかった科目並びにマーケティング、貿易論、金融システム論、経営管理論、経営史、財務会計論、原価計算論、管理会計論のうちいずれか3科目を含める。 |
| 経済学科科目 | 24 | 研究指導及び上欄で選択した科目を除いた科目 |
| 企業法学科科目 | | |
| 社会情報学科科目 | | |
| 専門共通科目 | | |
| 研究指導 | 12 | |
| 計 | 84 | |
| 卒業所要単位 | 132 | |
| (注) | | |
| (1) 進級に必要な単位数について ア 3年次に進級するためには、48単位(卒業所要単位に算入される単位に限る。)以上修得しなければならない。 イ 前項の単位数を2年を超えて修得した者は、修得した年度の終了後2年以上在学しなければならない。 | | |
| (2) 研究指導の履修方法について ア 研究指導を履修する者は、原則として、商学科あるいは専門共通科目の研究指導を履修するものとする。 イ 研究指導を履修しない者は、商学科科目について、さらに12単位を履修しなければならない。 | | |

ハ. 企業法学科 (*~*頁の経過措置及び*~*頁の科目対応表を参照のこと)

| 区 分 | 単位数 | 備 考 |
|---|-----|--|
| 企業法学科科目 | 56 | 1 研究指導を除いた科目 2 56単位の中に、憲法〔総論・人権〕、憲法〔統治機構論〕、行政法〔総論〕、刑法、国際法のうちいずれか2科目を、また民法〔総論〕、民法〔契約法〕、商法〔会社法〕、商法〔商取引法〕、民事手続法のいずれか2科目を含める。 |
| 経済学科科目 | 16 | 研究指導及び上欄で選択した科目を除いた科目 |
| 商学科科目 | | |
| 社会情報学科科目 | | |
| 専門共通科目 | | |
| 研究指導 | 12 | |
| 計 | 84 | |
| 卒業所要単位 | 132 | |
| (注) | | |
| (1) 研究指導の履修方法について ア 研究指導を履修する者は、原則として、企業法学科あるいは専門共通科目の研究指導を履修するものとする。 イ 研究指導を履修しない者は、企業法学科科目について、さらに12単位を履修しなければならない。 | | |

二. 社会情報学科(*~*頁の経過措置及び*~*頁の科目対応表を参照のこと)

| 区 分 | 単位数 | 備 考 |
|---|-----|---|
| 社会情報学科科目 | 56 | 1 研究指導を除いた科目 2 56単位の中に、計画科学概論、組織と情報概論、社会と情報概論、統計学基礎、計画数学、情報処理基礎のうちいずれか10単位を、また、計画数理解、オペレーションズ・リサーチ、統計科学、組織と情報基礎、プロジェクト管理基礎、組織コミュニケーション論、情報処理、情報システム基礎、情報数理解、知識科学基礎のうちいずれか20単位を含める。 |
| 経済学科科目 | 16 | 研究指導及び上欄で選択した科目を除いた科目 |
| 商学科科目 | | |
| 企業法学科科目 | | |
| 専門共通科目 | | |
| 研究指導 | 12 | |
| 計 | 84 | |
| 卒業所要単位 | 132 | |
| (注) | | |
| (1) 進級に必要な単位数について | | |
| ア 2年次に進級するためには、16単位(卒業所要単位に算入される単位に限る。)以上修得しなければならない。 | | |
| イ 前項の単位数を1年を超えて修得した者は、修得した年度の終了後3年以上在学しなければならない。 | | |
| ウ 3年次に進級するためには、52単位(卒業所要単位に算入される単位に限る。)以上修得しなければならない。 | | |
| エ 前項の単位数を2年を超えて修得した者は、修得した年度の終了後2年以上在学しなければならない。 | | |
| (2) 研究指導の履修方法について | | |
| ア 研究指導を履修する者は、原則として、社会情報学科あるいは専門共通科目の研究指導を履修するものとする。 | | |
| イ 研究指導を履修しない者は、社会情報学科科目について、さらに12単位を履修しなければならない。 | | |

6. 履修指導教員制度について

本学では、1年次及び2年次の学生に対し、修学及び履修登録に関する事項について指導及び助言等を行うために、履修指導教員制度を設けています。

履修指導教員は、各々オフィスアワーを設定し、研究室等において学生からの相談を受け付けています。

修学及び履修登録に関する事項等でわからない点、困ったことなどがあれば、気軽にご相談ください。

平成18年度の履修指導教員は下記のとおりです。

なお、各教員の担当学生及びオフィスアワーについては、別途掲示でお知らせします。

1年次担当

| 事項 学科 | 履修指導教員名 | 研究室番号 | 電話番号 | 備考 |
|----------|--------------------|-------------------|-------------------------------|---------------------------------|
| 経済学科 | 江頭進 遠藤薫 花田功一 | 410 425 426 | 27-5330 27-5302 27-5308 | |
| 商学科 | 穴沢眞 小田福 坂柳明 | 309 305 423 | 27-5328 27-5333 27-5339 | |
| 企業法学科 | 多木誠一郎 林誠司 | 435 509 | 27-5374 27-5363 | |
| 社会情報学科 | 木村泰知 行方常幸 | 506 524 | 27-5388 27-5382 | |
| 一般教育等 | 岡部善平 中川喜直 | 454 360 | 27-5418 27-5415 | (基礎科目・専門共通科目履修指導担当) |
| 言語センター | 尾形弘人 高野寿子 | 521 434 | 27-5431 27-5434 | (英語・英語関係教職科目及び英語以外の外国語科目履修指導担当) |

2年次担当

| 事項 学科 | 履修指導教員名 | 研究室番号 | 電話番号 | 備考 |
|----------|------------------------|-------------------|-------------------------------|---------------------------------|
| 経済学科 | 角野浩 平井進 廣瀬健一 | 335 338 431 | 27-5316 27-5323 27-5365 | |
| 商学科 | プレート・加賀 高田聡 乙政佐吉 | 314 535 422 | 27-5349 27-5336 27-5341 | |
| 企業法学科 | 佐古田彰 道野真弘 | 357 522 | 27-5362 27-5361 | |
| 社会情報学科 | 加地太一 佐山公一 | 315 352 | 27-5390 27-5391 | |
| 一般教育等 | 上野耕三郎 花輪啓一 | 341 354 | 27-5400 27-5416 | (基礎科目・専門共通科目履修指導担当) |
| 言語センター | 大塚譲 鈴木将史 | 439 456 | 27-5427 27-5428 | (英語・英語関係教職科目及び英語以外の外国語科目履修指導担当) |

7. 各授業科目のオリエンテーション実施について

学生が履修登録科目を決定する際に、シラバスのより徹底した理解を学生に得させるとともに、科目選択の機会を少しでも増やすことができるように、各授業科目のオリエンテーション期間を設け、今年度は、次のとおり実施します。

オリエンテーションに出席する際には、シラバスを必ず持参してください。

(1) オリエンテーションの期間

初回の講義日をオリエンテーションとします。

[前期・通年開講科目]

1年次配当科目 : 4月10日(月)～14日(金)

2年次以上配当科目 : 4月5日(水)、7日(金)～11日(火)及び13日(木)

6日(木)は、入学式で臨時休業となるため、木曜日分のオリエンテーションは13日(木)におこないます。

[後期開講科目]

全学年 : 10月2日(月)～6日(金)

10月の後期から開講する科目の初回講義日をオリエンテーションとします。

なお、10月4日(水)の3講目は、1年次生を対象とした「入学後一定時期を経てからの少人数制学科オリエンテーション」を実施するため、1年次配当科目が休講となります。休講となったぶんの授業科目のオリエンテーションは、10月11日(水)3講目におこないます。

(2) 各授業のオリエンテーションの時間帯

1回のオリエンテーション時間を40分として、10分の休憩をはさみ、1講に同じ内容のオリエンテーションを2回実施します。

1講目 1回目 8:50 - 9:30 2回目 9:40 - 10:20

2講目 1回目 10:30 - 11:10 2回目 11:20 - 12:00

3講目 1回目 12:50 - 13:30 2回目 13:40 - 14:20

4講目 1回目 14:30 - 15:10 2回目 15:20 - 16:00

5講目 1回目 16:10 - 16:50 2回目 17:00 - 17:40

(3) オリエンテーションの実施科目

下記以外の科目については、上記(1)・(2)の期間、時間帯においてオリエンテーションをおこないます。

基礎ゼミナール、英語 及び 、英語以外の外国語 、健康スポーツのオリエンテーションは、独自にオリエンテーションを設定するので、掲示等に十分注意してください。

1年次配当の英語以外の外国語(ドイツ語 、フランス語 、中国語 、スペイン語 、ロシア語 、朝鮮語)は、所属クラスがあらかじめ決定されているので、2回にわたってのオリエンテーションは行わずに初回から授業をおこないます。

(4) 注意事項

科目によっては、講義室の収容人員、実験・実習用の機材・器具・設備等の数量等の事情により、履修制限をおこなう場合があるので、掲示には十分注意してください。

8 . 入学後一定時期を経てからの少人数制のオリエンテーション 実施について

1年次生を対象に、4月におこなう新入生オリエンテーションのほかに、入学後一定時期を経て、大学生活に慣れた10月初めに、学科のガイダンスや履修指導を中心としたオリエンテーションをおこないます。

4月の新入生オリエンテーションは、全新生を一カ所に集めておこないましたが、10月のオリエンテーションは、学生番号単位で区切った少人数制で、よりきめの細かいオリエンテーションをおこないます。

詳細については、後日掲示で通知しますので、掲示には十分注意してください。

(1) 実施日時

平成18年10月4日(水)12:30～14:25

3講目の1年次配当科目を休講とします。

(2) 実施対象学生

平成18年度入学者

(3) 実施内容

各学科についてのガイダンス

履修指導について

その他

各学科から学科の特徴や自らの将来計画のために学科のどんな科目をどのように履修していけばいいかなどの説明をおこないます。

1年次生は、次年度に学科に所属することとなりますので、オリエンテーションには必ず出席し、各学科についての理解を深め、学科選択の参考とするようにしてください。

9 . 学科所属について（平成17年度以降入学者）

昼間コース学生は、2年次から、経済学科、商学科、企業法学科、社会情報学科のいずれかの学科に所属しなければなりません。そのための募集、申込みは、1年次終了時期の1月中旬実施のオリエンテーションの後、直ちに行われ、教授会において決定のうえ、次年度（2年次）授業開始日に Web 上の「学籍情報参照画面」と「履修成績参照画面」に所属学科名を記載し、各人に通知します。

各学科には、それぞれ定員を定めており、成績順にしたがって希望学科へ振り分けていくので、必ずしも第1希望とする学科に所属できるとは限りません。

1 . 学科所属決定方法

(1) 所属の決定

成績基準による序列表を作成し、学科定員までを所属決定します。
学科定員を超えた者は、成績順で第2志望以下に振り分けます。

(2) 成績基準

次の科目区分に該当する科目の素点合計

| | | |
|-----------------------|-------|-----|
| 基礎科目（成績得点の高い順に） | 4科目以上 | 8単位 |
| 外国語科目（英語及び日本語は2科目とする） | 3科目 | 8単位 |
| 基幹科目（成績得点の高い順位） | 3科目 | 6単位 |

注：健康スポーツ（1単位）は得点を1/2とする。健康スポーツ1科目（1単位）しか修得していない場合は他の2単位科目の得点を1/2にして健康スポーツと合計し、2単位分を算出する。

2 . 学科変更手続き

学科所属を変更したい場合は、学部教務係へ「転科希望理由書」を提出してください。学科変更の決定は、転科希望理由と学業成績を総合して判断しますが、受入可能定員が決まっているので、必ずしも転科が認められるとは限らないので注意してください。

(1) 申請方法・期間

2年次の2月末日までに、転科希望理由書を提出してください。

(2) 各学科の学業成績基準

学科変更の際の学業成績基準が、各学科で次のように決まっているので留意してください。

経済学科：2年次に修得した経済学科科目で、成績の序列が上位の3科目の平均が70点以上であること。

商学科：2年次で修得した商学科科目で、成績が高い順の3科目の平均が70点以上のもの。

企業法学科：法学、憲法・基礎、憲法・基礎、民法・基礎、民法・基礎、商法 から3科目以上単位を修得していること。

社会情報学科：1，2年次配当科目の3つの基幹科目と2年次配当科目の6つの基幹科目の計9つの以下の基幹科目の内から成績の高い6つの科目の平均が70点以上のものを転科可とする。

(受入可能定員を超えた場合は、受入可能定員までの成績の良いもの。)

1，2年次配当基幹科目：社会情報入門、計画科学基礎、情報処理基礎

2年次配当基幹科目：オペレーションズ・リサーチ、統計科学、計画数学、経営システム基礎、情報システム管理論、知識科学基礎

(3) 結果の通知

学科変更の結果は、3年次の前期授業開始時に Web 上の「学籍情報参照画面」と「履修成績参照画面」で通知します。

10 . GPA制度について（平成18年度以降入学者）

本学では、平成18年度入学生から GPA 制度を導入しました。GPA 制度の概要は下記の表に示す通りですが、5段階の成績評価をもとに、GPA（Grade Point Average）を算出し、表示することで学修の到達度をより明確に示し、自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的、意欲的に学修することを目的としています。

また、5段階評価や GPA 制度は、外国の多くの大学が採用しており、国際化に対応した成績評価方法です。これからは、留学や大学院進学等を希望する場合に必要な制度と考えられます。

【新しい成績評価とGPA】

| 合否区分 | 評 価 | 評 点 | グレードポイント |
|-------|-------------------|-----------|----------|
| 合 格 | 秀（A） | 100点～90点 | 4.0 |
| | 優（B） | 89点～80点 | 3.0 |
| | 良（C） | 79点～70点 | 2.0 |
| | 可（D） | 69点～60点 | 1.0 |
| 不合格 | 不可（F） | 59点以下 | 0.0 |
| 履修取消し | W (Withdrawal) | GPA 計算対象外 | |

【GPAの算出方法】

GPAとは、1単位あたりの成績の平均値を示すものです。平成18年度入学生から GPA を以下のとおり計算し、その GPA を Web 上で各人に通知します。

なお、GPA の算出基礎になる科目は「すべての科目」（ただし、インターンシップを除く。）を対象とします。

算出式：

$$\frac{4.0 \times \text{秀の修得単位数} + 3.0 \times \text{優の修得単位数} + 2.0 \times \text{良の修得単位数} + 1.0 \times \text{可の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数（「不可」の単位数を含む）}}$$

（注1）GPA の計算は、小数点第2位以下を四捨五入するものとする。

（注2）「履修取消し（W）」は、計算式に含みません。

(注3)「総履修登録単位数」には、不合格科目を再履修し、合格の評価を得た場合及び再履修の結果再び不合格の評価であった場合の、それぞれ再履修前の不合格評価については、通算のGPAには算入しません。ただし、年度ごとに算出するGPAにはそれぞれ算入します。

【履修取消し制度について】

「履修取消し制度」とは、授業を受けてみたものの、授業内容が勉強したいものと違っていた場合や、授業について行けるだけの知識が不足していた場合など、そのままでは単位を修得することが難しく、不合格となることでGPAが下がることを回避するための特別な制度で、GPA制度導入に伴い新たに導入されたものです。

このため、「履修取消し」を申請し、履修を放棄した科目は、卒業や進級、就職などいかなる理由があっても、その学期において履修取消しの申請を取り消し、履修を復活させることはできませんので、間違いのないようにしなければなりません。

また、前期に履修を取消した単位数分を、後期に追加登録することはできませんので、安易に履修取消しを行うことは避けなければなりません。

履修取消しをした科目は、翌年度に再び履修登録をすることができますので、必要に応じ履修登録して下さい。

なお、履修取消しをした科目についてはGPAの算出の対象外となります。

「履修取消し」は、前期及び後期の一定期間に、本人からの申請により行います。したがって、前期開講科目は前期の一定期間内に、後期開講科目は後期の一定期間内に申請を行うこととなりますが、通年科目の場合は、前期、後期いずれの期間であっても履修取消しの申請を認めます。

履修取消しの申請期間、手続方法など詳細は、掲示でお知らせします。

11. 科目履修方法について

(1) 平成13年度以降入学者

履修登録上限制(キャップ制)について

本学では、1年間に履修登録できる単位数に上限を設けています。

したがって、履修登録にあたっては科目履修の要領(学園生活の手びき参照)を遵守し、授業科目の配当基準年次に従って履修計画を立てなければなりません。

なお、キャップ制の取り扱いは次のとおりですので、留意してください。

1年間に履修できる単位数の上限は、40単位までです。

当該年度に不可となった授業科目(成績が0点となった授業科目を除く。)がある場合、翌年度に限り、40単位を超えて履修できます。

40単位を超えて履修できる単位数は、不可となった授業科目に相当する単位数とし、8単位を限度として履修できます。

研究指導の履修登録は、4年次において昼間コースの学生は12単位を、上限の40単位に含めて行います。

次の科目は履修登録の上限に含めません。

教職共通科目は、卒業所要単位として算入される科目のほかは、上限の40単位を超えて履修登録できます。

学則にもとづいて留学し、留学先大学等で修得した単位で本学の単位として認定されたもの。

大学以外の教育施設等における学修で本学の単位として認定されたもの。

インターンシップ

[1] 共通科目の履修方法

共通科目の卒業所要単位は52単位です。そのうち、基礎科目からは20単位以上、外国語科目からは14単位以上を修得していなければなりません。残りの20単位は共通科目のどの授業科目で単位を修得してもかまいません(詳細は「5 卒業に必要な単位数」)。

基礎科目20単位以上、外国語科目14単位以上には、それぞれ、さらに細かい規則があります。以下のとおりです。

「基礎科目」の履修方法

基礎科目の場合は、「人間と文化」、「社会と人間」、「自然と環境」系から、それぞれ4単位以上、「知の基礎」系から6単位以上、「健康科学」系から2単位以上を、さらに「知の基礎」系を除いた4系合計で20単位以上を修得しなければなりません。

| | | |
|-------|--------|---------|
| 知の基礎 | | 6 単位以上 |
| 人間と文化 | 4 単位以上 | 20 単位以上 |
| 社会と人間 | 4 単位以上 | |
| 自然と環境 | 4 単位以上 | |
| 健康科学 | 2 単位以上 | |

配当年次に従って規則正しく履修してください。配当年次に単位を修得しておかなければ、翌年度以降に履修を希望しても、学科科目と時間が重なったりして履修できない場合も生じます。

「基礎ゼミナール」の履修方法

この科目については、他の一般的な科目と異なり、少人数教育（1クラス15名程度）を行うため、希望者が多い場合は、履修を希望しても認められないことがあります。

基礎ゼミナールの所属の決定（どの教員の基礎ゼミナールに所属するかの決定）は、以下の日程に従って行われるので十分注意してください。

（1）オリエンテーション：4月10日（月）～4月14日（金）

オリエンテーションの日時・教室は掲示により通知します。

（2）第一次選考期間：4月17日（月）～4月18日（火）

この期間中に、第一志望の申し込みを行う者を対象に選考するので、対象となる者は、基礎ゼミナール所属希望調書（以下「希望調書」という）を必ず持参し、各教員の指示（掲示）に従って面接等を受けてください。各教員は、面接の結果に基づき、希望調書の教員記入欄に署名又は捺印し、所属決定者の場合は希望調書を回収し、所属できない場合は当該学生に希望調書を返却します。

各教員による第一次選考で所属の結果に基づき、決定者を掲示により発表します。

また、第二次募集の有無、受け入れ予定人数を発表します。

（3）第二次募集・第二次選考：4月19日（水）～4月20日（木）

第一次選考で所属が決まらなかった者は、希望調書を必ず持参し、各教員の指示（掲示）に従って面接等を受けてください。各教員は、面接の結果に基づき、希望調書の教員記入欄に署名又は捺印し、所属決定者の場合は希望調書を回収します。

各教員による第二次選考の結果に基づき、決定者を掲示により発表します。

基礎ゼミナールの所属が決定した者は、4月17日（月）～4月26日（水）までの履修登録期間中に結果を登録してください。

「外国語科目」の履修方法

外国語科目 14 単位の内訳や履修方法は、やや複雑です。以下の説明をよく読んで履修してください。

共通事項

| 昼 間 コ ー ス | | | |
|-----------|------|---------|------|
| 英語 A | 2 単位 | 中国語 | 4 単位 |
| 英語 B | 2 単位 | 中国語 A | 4 単位 |
| 英語 A 1 | 2 単位 | 中国語 B | 2 単位 |
| 英語 A 2 | 2 単位 | スペイン語 | 4 単位 |
| 英語 B | 2 単位 | スペイン語 A | 4 単位 |
| | | スペイン語 B | 2 単位 |
| ドイツ語 | 4 単位 | ロシア語 | 4 単位 |
| ドイツ語 A | 4 単位 | ロシア語 A | 4 単位 |
| ドイツ語 B | 2 単位 | ロシア語 B | 2 単位 |
| フランス語 | 4 単位 | 朝鮮語 | 4 単位 |
| フランス語 A | 4 単位 | 朝鮮語 A | 4 単位 |
| フランス語 B | 2 単位 | 朝鮮語 B | 2 単位 |

ア 外国語科目については、上記の表のとおり科目ごとに単位認定が行われます。

英語は、すべての科目が 2 単位、英語以外の外国語は、 と A は 4 単位、 B は 2 単位となっています。

イ 2 単位の場合には、毎週 1 クラス、通年 30 週授業出席したうえで、また、4 単位の場合には、毎週 2 クラス、通年 30 週授業出席したうえで、成績評価がなされ、合格または不合格の単位認定が行われます。

ウ 7 外国語科目のうちから 2 外国語科目を選択必修とします。

この場合において、 は 2 外国語各 4 単位、計 8 単位を、 は 1 外国語を A として 4 単位、他方を B として 2 単位、計 6 単位を必修とします。

選択した 2 つの外国語を、それぞれ X 外国語、Y 外国語と呼ぶとすると、以下のようになります。

| | X 外国語 | Y 外国語 | 計 |
|---|---------------|---------------|-------|
| | 4 単位 | 4 単位 | 8 単位 |
| | 4 単位 (A) | 2 単位 (B) | 6 単位 |
| 計 | 8 単位 | 6 単位 | 14 単位 |

エ 英語以外の外国語の場合、 を履修するためには、 の4単位を修得済みでなければなりません。原則として と の同時履修も認められません。

オ を再履修する場合、前年度以前に履修登録した言語と異なる言語を履修するときは、次の手続きを必ず行ってください。

新入生と同じく抽選の対象となるので、外国語選択のマークカードを提出してください。

抽選の結果、履修が認められたときは必ず、別途学部教務係に届け出てください。

カ を再履修する場合、AまたはBのコースを変更して履修しようとするときには、次の点に注意してください。

○既に修得したコースの取得単位は外国語 の必修単位には算入されません。例えばドイツ語 A、4単位を取得していても、Bコースに変更する場合には A、4単位は必修単位には算入されず、新たに B、2単位を修得しなければなりません。

○他の外国語についても、コースを変更しなければなりません。例えばドイツ語 Aを Bに変更した場合、もう一つの外国語も、 Bから Aに変更したうえで、新たに4単位を修得しなければなりません。

○したがって、コースを変更した場合、外国語 の必修単位、6単位全てを改めて修得しなければならないことになります。

なお、コース変更以前に取得した単位は、外国語の必修単位には算入されませんが、自由選択科目として卒業所要単位に含めることができます。

キ 平成12年度以前の入学生で、外国語 の履修を希望する場合は、専門共通科目の上級外国語を履修・修得し、外国語 に読み替えます。(経過措置を参照のこと。)

【英語の履修方法】

平成18年度の英語クラスは、次表のとおりである。

| 英語 A | 英語 B | A1 | A2 |
|--------------|--------------------|---------------|------------------|
| E101A 大島【基礎】 | E121B Caluianu【基礎】 | E201A1 山本(久) | E211A2 川内 |
| E102A 吉田【発展】 | E122B Blankley | E202A1 吉田【発展】 | E212A2 小林 |
| E103A 鈴木(良) | E123B Holst【基礎】 | E203A1 佐藤(幸) | E213A2 小林【発展】 |
| E104A 藤田 | E124B Murphy | E204A1 山本/三浦 | E214A2 高井/小林 |
| E105A 杉村【基礎】 | E125B Clankie【発展】 | E205A1 斉藤(京) | E215A2 川内 |
| E106A 小林【発展】 | E126B Reemst | E206A1 鈴木(良) | E216A2 Holst【発展】 |
| E107A 山本(久) | E127B Murphy【基礎】 | E207A1 斉藤(京) | E217A2 小林 |
| E108A 杉村 | E128B Murphy | E208A1 杉村【発展】 | E218A2 坪谷 |
| E109A 佐藤(幸) | E129B Blankley | | |
| E110A 大島【基礎】 | E130B Caluianu【発展】 | | |
| E111A 上野(之) | E131B Murphy | B | |
| E112A 藤田 | E132B Reemst | E231B 大島 | |
| E113A 杉村【基礎】 | E133B Murphy | E232B 大島 | |
| E114A 佐藤(幸) | E134B Reemst | E233B 吉田 | |

- (1) クラス名のうち、Eで始まる数字と記号は、英語のクラス別を表します。Eに続く1・2は履修基準年次で、それぞれ1年次、2年次配当クラスであることを表します。残りの2桁の数字がクラスを表します。その後の記号と数字は科目を表します。
- (2) 英語のクラスは学生の自由選択によって決定されます。4月の所定の期間中にマークカードに希望するクラスを記入・マークして提出すること。ただし、定員を超えたクラスについては抽選によって決定します。なお、再履修についても同様にクラス分けを行います。
- (3) 英語 A・英語 B

1年次の英語はIA・IBに分かれており、英語を選択した場合にはそれぞれから1クラス2単位ずつ、合計2クラス4単位を必ず修得しなければなりません。

平成18年度の英語IA・IBには標準的なクラスのほかに、次のような基礎クラスと発展クラスが設けられています。

【基礎クラス】

高校までの英語教育で養成された基礎的な英語の力を補強し、さらに多様で高度な英語に対応できるよう、必要な語彙や構文の理解を深め、基礎的な会話能力の向上を目指す。

【発展クラス】

総合的に英語の運用能力を向上させ、様々な分野に応用しうる高度な英語力の獲得を目指す。

| | 英語IA | 英語IB |
|-------|-----------------------------|-----------------------|
| 基礎クラス | E101A・E105A・ E110A・E113A | E121B・E123B・ E127B |
| 発展クラス | E102A・E106A | E125B・E130B |
| 標準クラス | 上記以外のクラス | 上記以外のクラス |

(4) 英語

- (イ) Aコースを選択する学生は A1および A2から、それぞれ1クラス、2単位(合計4単位)を修得しなければなりません。
- (ロ) Bコースを選択する学生は Bより1クラス、2単位を修得しなければなりません。
なお、英語 Aコースを選択した場合には英語以外の外国語の Bコース(2単位)を、英語 Bコースを選択した場合には英語以外の外国語の Aコース(4単位)を修得しなければなりません。
- (ハ) IIAコースには標準的なクラスのほかに、発展クラスが設けられています。

【発展クラス】

総合的に英語の運用能力を向上させ、様々な分野に応用しうる高度な英語力の獲得を目指す。

| | 英語 A1 | 英語 A2 |
|-------|---------------|---------------|
| 発展クラス | E202A1・E208A1 | E213A2・E216A2 |
| 標準クラス | 上記以外のクラス | |

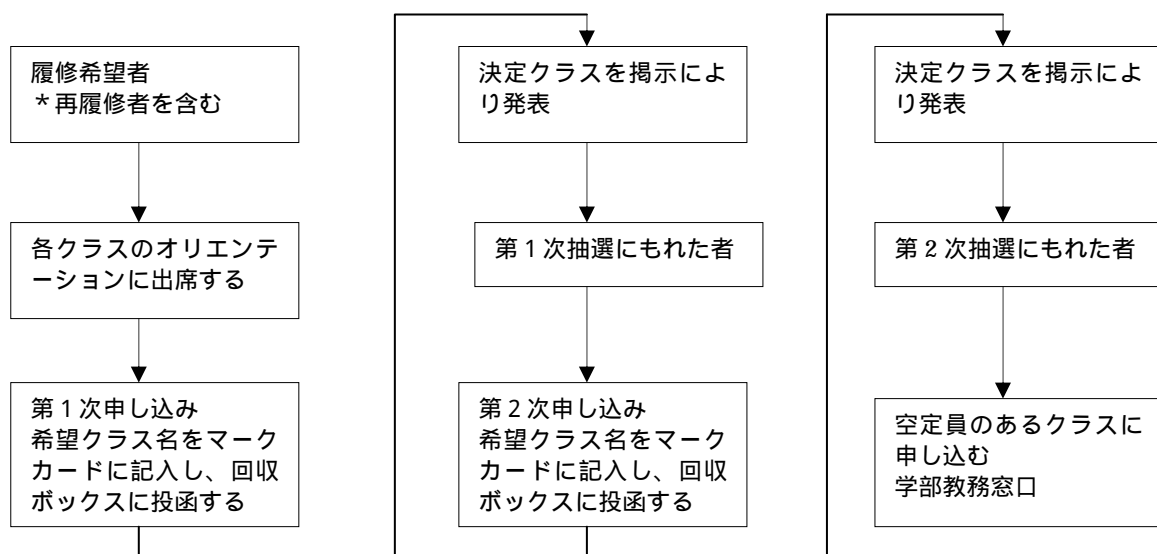
- (5) 各年度において同一配当年次で同一教員のクラスを2つ履修することはできません。
- (6) 1年次英語の再履修について

- (イ) 13年度以降入学生の新入生の再履修は、新入生に準じて履修すること。
- (ロ) 12年度以前の英語 講読Aを修得していない場合には、上表の英語 Aの中から1クラスを履修することとします。この場合には、上表の基礎クラスの中から選ぶようにして下さい。
なお、旧カリの Aを残している学生は基礎クラスを履修・取得することによって、旧カリ Aを修得したこととします。
- (ハ) 12年度以前の英語 講読Bを修得していない場合には、上表の英語 Aの中から1クラスを履修することとします。
- (ニ) 12年度以前の英語 英会話作文Cを修得していない場合には、上表の英語 Bの中から1クラスを履修することとします。
- (ホ) 上記(ロ)、(ハ)の両方に該当する場合には、上表の英語 Aの中から2クラス選んで履修することになります。

(7) 2年次英語の再履修について

- (イ) 13年度以降入学生の再履修については、上記(4)に準じて履修すること。
- (ロ) 12年度以前入学生で、英語 2単位または4単位を修得していない場合には、上表の英語 A1、A2、または Bのクラスの中から1クラスまたは2クラスを選んで履修すること。

英語 A・B、英語 A1・A2・B



【ドイツ語の履修方法】

平成18年度のドイツ語クラスは、次表のとおりである。

| | ドイツ語 | ドイツ語 |
|---|-------------------------------------|---|
| 火 | -1 アルノルト -2 大塚 -3 岡崎 -4 鈴木 | A1 アルノルト A2 大塚 B1 鈴木 B2 岡崎 |
| 水 | (旧) 鈴木 | |
| 木 | -1 大塚 -2 佐藤(和) -3 阿部 -4 鈴木 | A1 鈴木 A2 オルデハーフェル B3 佐藤(和) B4 阿部 |

(1) ドイツ語

単位認定

火曜日と木曜日の授業は連携・一貫したものであり、従って一括して4単位として認定される。

クラス編成

1 / 2 / 3 / 4の4クラス編成。4クラスとも方針・教科書・定員は全く同一だが、1は週2回の内1回をネイティブスピーカーが教えコミュニケーション練習が多目になるのでこれを選択クラスとする。2 / 3 / 4は学生番号順にクラス分けを行う。

1クラスへの所属手続き

1クラスの希望者はドイツ語オリエンテーション(4月10日[月]12時15分より105番教室にて)の際に配布される志望用紙を学生連絡室に設置されているレポートボックスへ4月10日(月)午後5時までに入れること。希望者多数の場合には抽選を行い、希望者が定員に満たない場合にはその分を適宜振り分ける。

クラスリストの発表

全4クラスの所属リストを4月11日(火)8時30分に学生連絡室の教務関係掲示板に発表する。各自所属クラスの教室で最初の授業に臨みたい。

再履修者のクラス所属

ドイツ語を再履修する場合、その所属クラスは前年度と同じである。前年度-1だった者は-1(火・木)を、-2だった者は-2(火・木)を、-3だった者は-3(火・木)を、-4だった者は-4(火・木)を履修すること。

(2) 旧カリキュラムドイツ語 の再履修

平成12年度以前の入学者でドイツ語 を再履修する者は、新カリキュラムのドイツ語 (火曜日・木曜日)および(旧) クラス(水曜日に設けられる再履修者クラス)の授業に出席し合格しなければならない。クラスの移動を希望する者は担当教員と相談すること。

(3) ドイツ語

履修資格

ドイツ語 (4単位)を修得済みであること。

Aコース

ドイツ語 A1・ A2は週2回の授業に参加し4単位を修得しようとする者のコースである。受講を希望する者は、(火)(木)いずれの授業にも参加すること。単位は4単位として一括して認定される。

Bコース

- a) ドイツ語 Bは週1回の授業に参加し2単位を修得しようとする者のコースである。受講を希望する者は、(火)(木)いずれか1クラスの授業に参加すること。
- b) 受講希望者は B1(火)、 B2(火)、 B3(木)、 B4(木)の内のいずれかの1クラスを選択して履修すること。

(4) 旧カリキュラムドイツ語 の再履修

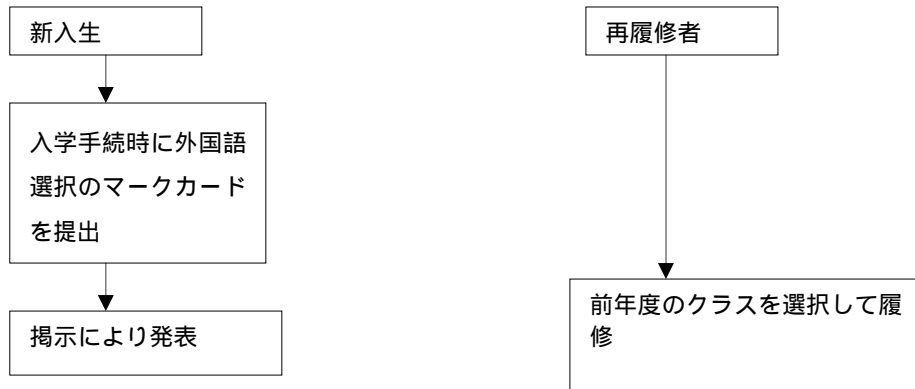
- a) 平成12年度以前の入学者でドイツ語 の4単位を再履修する者は、新カリキュラムのドイツ語 Bの2クラスを選択・履修し、4単位を一括して修得しなければならない。
- b) 平成12年度以前の入学者でドイツ語 の2単位を再履修する者は、新カリキュラムのドイツ語 Bの1クラスを選択・履修しなければならない。なお2単位再履修はカリキュラムの移行に伴う経過措置である。

(5) 本学専任のドイツ語教員の研究室は下記のとおり。

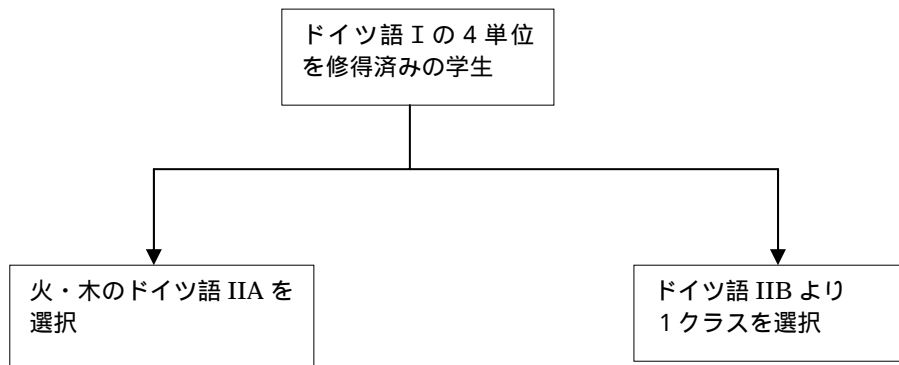
ドイツ語履修上の相談に応じます。気軽に相談に来てください。

大塚 譲 439 鈴木将史 456

ドイツ語



ドイツ語



【フランス語の履修方法】

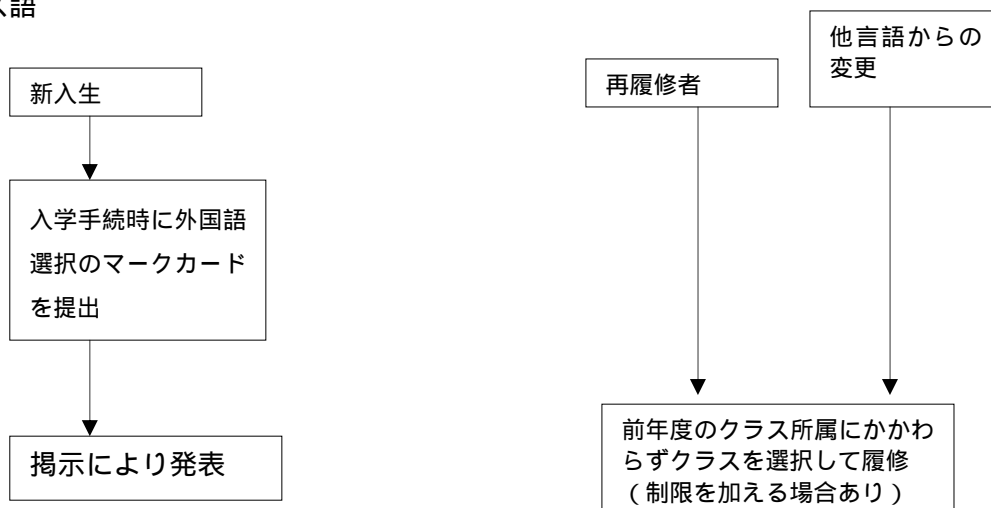
平成18年度のフランス語クラスは、次表のとおりである。

| | フランス語 | フランス語 |
|---|----------|----------|
| 火 | -1 尾形 | A1 ジェゴンデ |
| | -2 江口 | A2 尾形 |
| | -3 高橋 | B1 江口 |
| | -4 ジェゴンデ | B2 高橋 |
| 水 | (旧) 尾形 | |
| 木 | -1 尾形 | A1 尾形 |
| | -2 江口 | A2 遠藤(史) |
| | -3 遠藤(史) | B3 江口 |
| | -4 高橋 | |

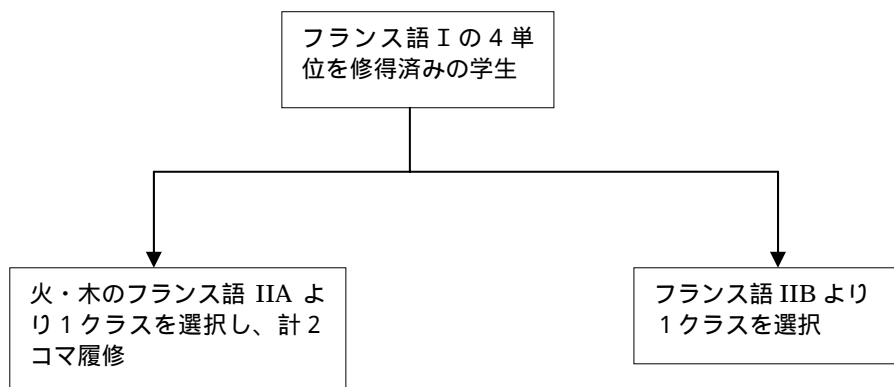
【平成13年度以降入学生のフランス語履修上の注意】

- (1) フランス語 は、火・木の担当教員が異なる場合も4単位一括して認定される。
- (2) フランス語 のクラス所属は、学生番号により均等割りとする。
- (3) フランス語IIを履修するためには、フランス語 の4単位を修得しておかなければならない(フランス語Iとフランス語IIの同時履修は認めない)。
- (4) フランス語 を再履修する場合、前年度のクラス所属にかかわらずクラスを選択すること(クラス定員管理のため制限を加えることもある)。
- (5) フランス語IIはAコース(週2回の授業、4単位)またはBコース(週1回の授業、2単位)の一方を選択し履修しなければならない。
- (6) 他言語からの変更を認められた者のクラス所属は、上記(4)に準ずる。

フランス語



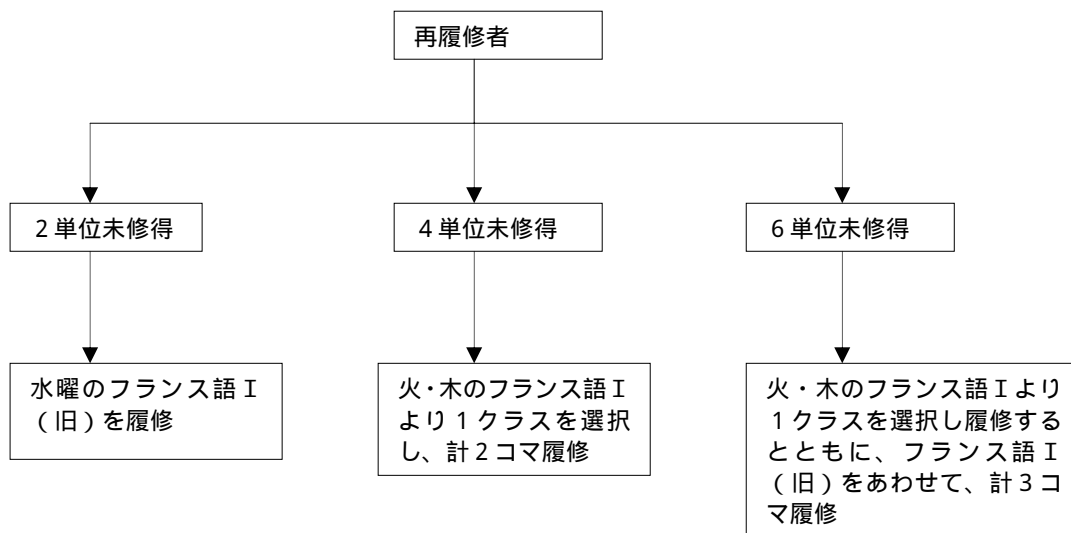
フランス語



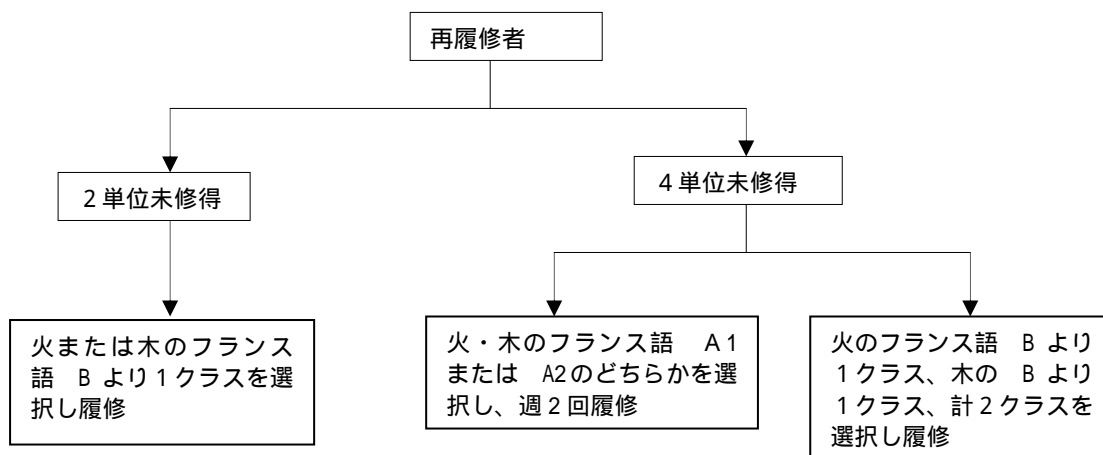
【平成 12 年度以前入学生のフランス語履修上の注意】

- (1) フランス語 に未修得単位がある場合。
- ア) 2 単位未修得の場合は、水のフランス語 (旧) を履修すること。
 - イ) 4 単位未修得の場合は、火・木のフランス語 から 1 クラスを選択し履修すること (単位は 4 単位一括して判定される)。
 - ウ) 6 単位未修得の場合は、火・木のフランス語 から 1 クラスを選択し履修するとともに (単位は 4 単位一括して判定される)、水のフランス語 (旧) をあわせて履修すること。
- (2) フランス語 に未修得単位がある場合。
- ア) 2 単位未修得の場合は、火または木のフランス語 B から 1 クラスを選択し履修すること。
 - イ) 4 単位未修得の場合は、次のいずれかにより履修すること。
 - 火・木のフランス語 A1 または A2 のどちらかを選択、週 2 回履修する (単位は 4 単位一括して判定される)。
 - 火のフランス語 B から 1 クラス、木のフランス語 B から 1 クラス、計 2 クラスを選択し履修する (単位は 2 単位ずつ別個に認定される)。
- (3) フランス語 の履修を希望する場合。
- シラバスの「経過措置」を参照すること。

フランス語I



フランス語



【中国語の履修方法】

平成18年度の中国語クラスは、次表のとおりである。

| | 中国語 | 中国語 |
|---|-----------------------|------------------------------------|
| 火 | 1 霜 鳥 2 谷 内 3 裴 | A1 裴 A2 萩 原 B1 谷 内 B2 霜 鳥 |
| 水 | (旧) 萩原 | |
| 木 | 1 楊 2 裴 原 3 萩 原 | A1 楊 A2 裴 |

【履修上の注意】

1. 中国語

- (1) 中国語 1・ 2・ 3 は、学生番号順によるクラス分けを行う。所属クラスは、追って指示する。
- (2) 別々の教員が同一クラスを週2回担当するが、両者は連動しており、単位は一括して4単位として認定される。
- (3) 平成13年度以降入学生で、中国語 を再履修する場合、その所属クラスは前年度と同じ。前年度 1 クラスだった者は 1(火・木)を、 2 クラスだった者は 2(火・木)を、 3 クラスだった者は 3(火・木)を履修すること。
- (4) 平成12年度以前入学生で、中国語 を再履修する場合、その所属クラスは次のとおり。
 - ア) 中国語 2 単位を未修得の場合
旧年度の所属クラスにかかわらず、水曜日の中国語 (萩原)を履修すること。
 - イ) 中国語 4 単位を未修得の場合
1 クラスだった者は 1(火・木)を、 2 クラスだった者は 2(火・木)を、 3 クラスだった者は 3(火・木)を履修すること。
 - ウ) 中国語 6 単位を未修得の場合
1 クラスだった者は 1(火・木)と中国語 (水)を、 2 クラスだった者は 2(火・木)と中国語 (水)を、 3 クラスだった者は 3(火・木)と中国語 (水)を履修すること。

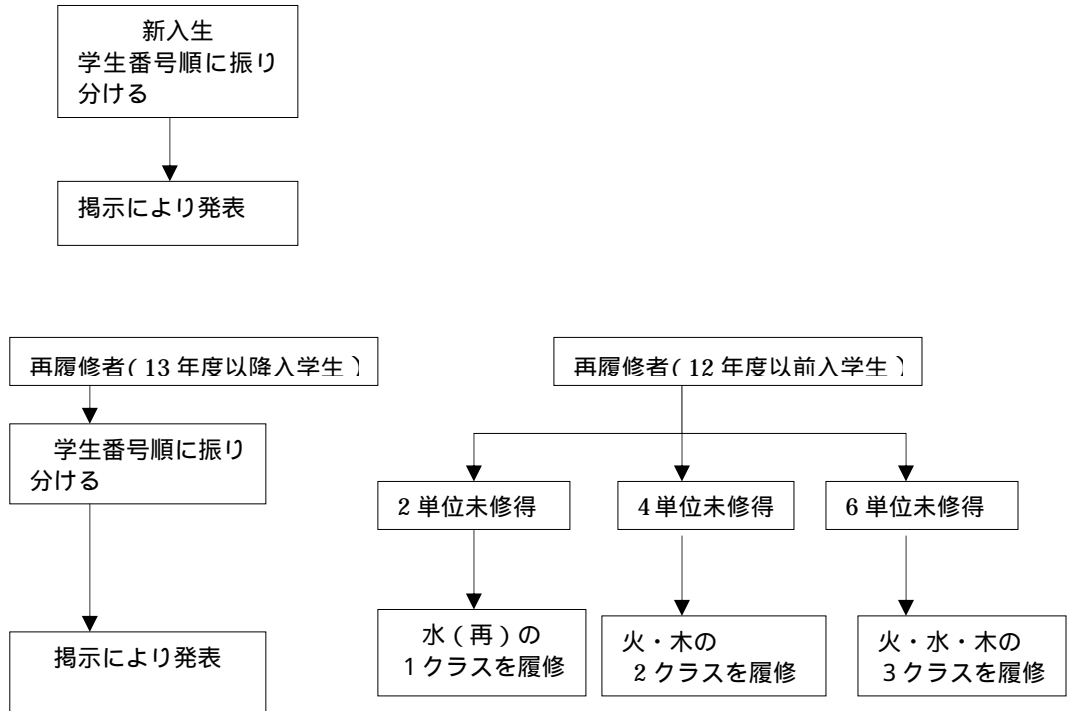
2. 中国語

- (1) 中国語 は、中国語 を4単位修得済みでなければ履修することができない。
- (2) 中国語 A は、週2回の授業を受講し、4単位を修得しようとする者のクラスである。受講を希望する者は、(火)(木)いずれの授業も受講すること。単位は一括して4単位として認定される。受講を希望する者は、 A1・2 クラスのいずれかを選択して履修すること。
- (3) 中国語 B は、週1回の授業を受講し、2単位を修得しようとする者のクラスである。受講を希望する者は、 B1・2 クラスのいずれかを選択して履修すること。
- (4) 平成12年度以前入学生で中国語 を再履修する場合、その所属クラスは次のとおり。
 - ア) 中国語 2 単位を未修得の場合
中国語 B クラスを履修すること。 B1・2 クラスのいずれかを選択して受講すること。

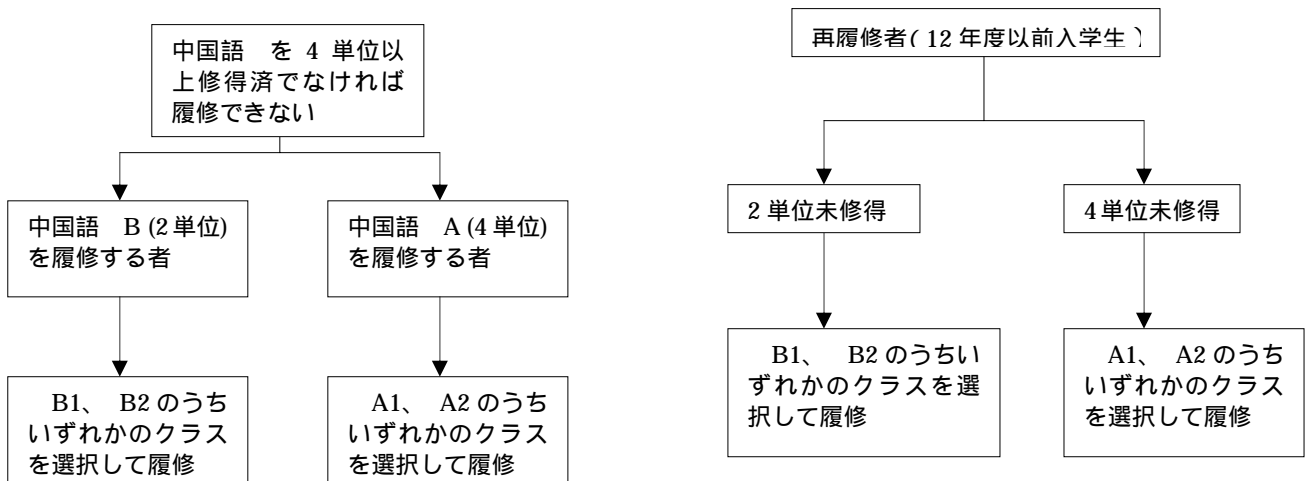
- イ) 中国語 4単位を未修得の場合
中国語 Aクラス(火・木)を履修すること。 A1・2クラスのいずれかを選択して受講すること。

**履修方法に関して不明の点があれば、必ず教員に相談し、指示を受けること。
いずれのクラスの受講者も、4月最初の授業に必ず出席して、必要な指示を受けること。**

中国語



中国語



【スペイン語の履修方法】

平成18年度のスペイン語クラスは、次表のとおりである。

| | スペイン語 | スペイン語 |
|---|--------------------|-----------------|
| 火 | 山田(眞) (旧) 山田(眞) | A 山田(眞) |
| | | |
| 木 | 守下 | A 守下 B 山田(眞) |

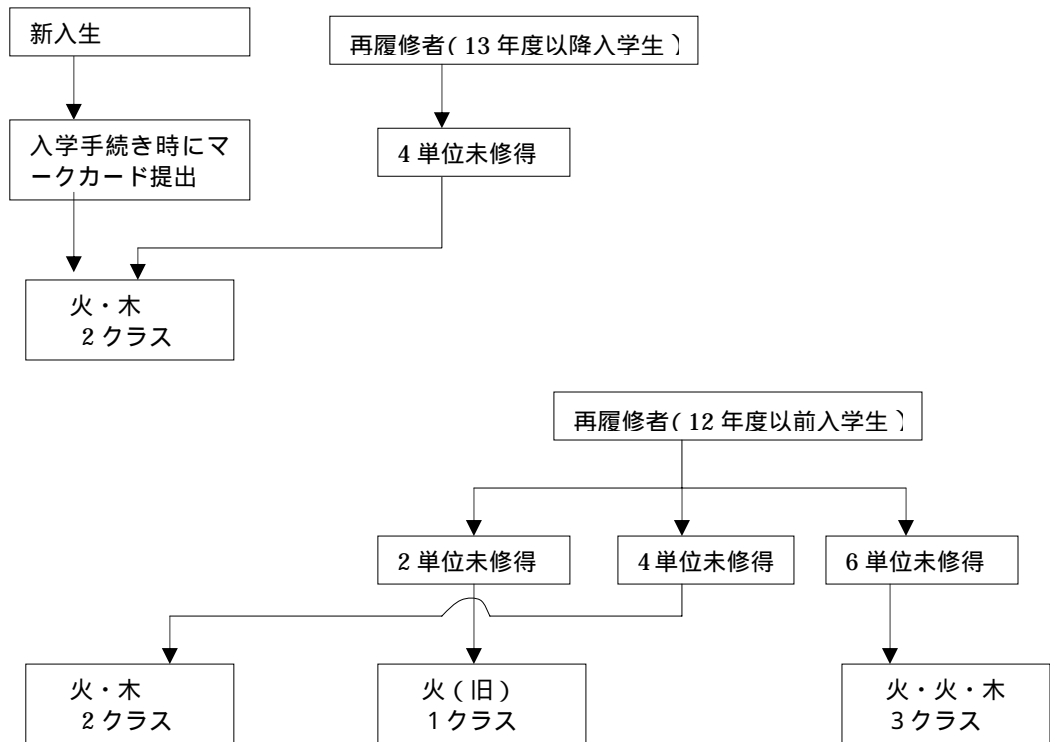
(1) スペイン語

- (イ) 平成18年度入学生は火曜日のクラスと、木曜日の守下教員担当のクラスを履修すること。
- (ロ) 平成13年度以降入学生で、スペイン語 を再履修する者は、火曜日のクラスと木曜日の守下教員担当のクラスを履修すること。
- (ハ) 平成12年度以前入学生で、スペイン語 の再履修者は、次のように履修すること。
 - (a) 6単位再履修する場合には、火曜日の山田教員担当のクラス、木曜日の守下教員担当のクラス及び、火曜日の山田教員担当の旧カリクラスの3つのクラスを履修すること。
 - (b) 4単位再履修する場合には、火曜日の山田教員担当のクラス、木曜日の守下教員担当のクラスの2つのクラスを履修すること。
 - (c) 2単位再履修する場合には、火曜日の山田教員担当の旧カリクラスを履修すること。

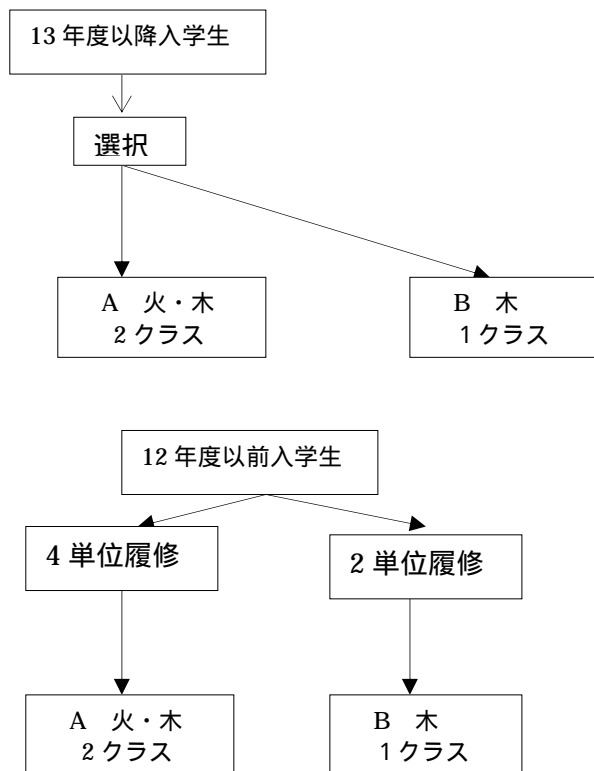
(2) スペイン語

- (イ) スペイン語 については、スペイン語 の必要な単位をすべて修得していないと、履修できない。
- (ロ) 13年度以降入学生はスペイン語 を次のように履修すること。
 - (a) 4単位修得しようとする者は、火曜日と木曜日の A、2クラスを履修すること。
 - (b) 2単位履修しようとする者は、木曜日の Bクラスを履修すること。
- (ハ) 12年度以前入学生でスペイン語 の再履修者は、次のように履修すること。
 - (a) 4単位再履修する場合には、火曜日と木曜日の A、2クラスを履修すること。
 - (b) 2単位再履修する場合には、木曜日の Bクラスを履修すること。

スペイン語



スペイン語



【ロシア語の履修方法】

平成18年度のロシア語クラスは、次表のとおりである。

| | ロシア語 | ロシア語 |
|---|----------------------------|------------------------|
| 火 | 山田(久)(前期) スパヴァコフスキー(後期) | A スパヴァコフスキー B 山田(久) |
| 水 | (旧) 山田(久) | |
| 木 | 山田(久) | A 山田(久) |

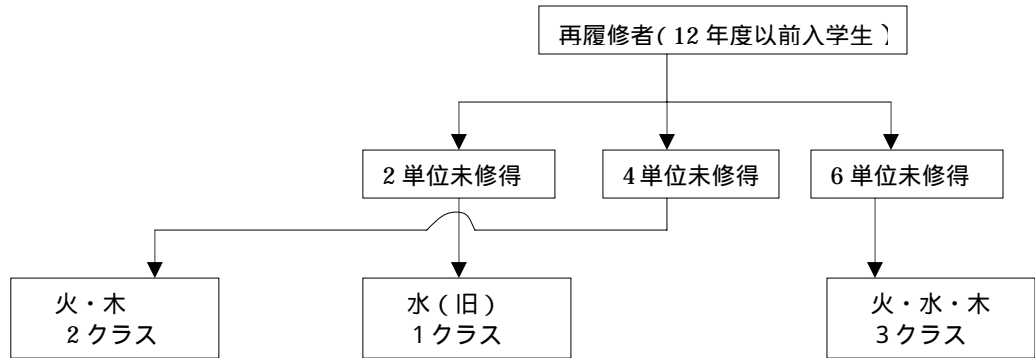
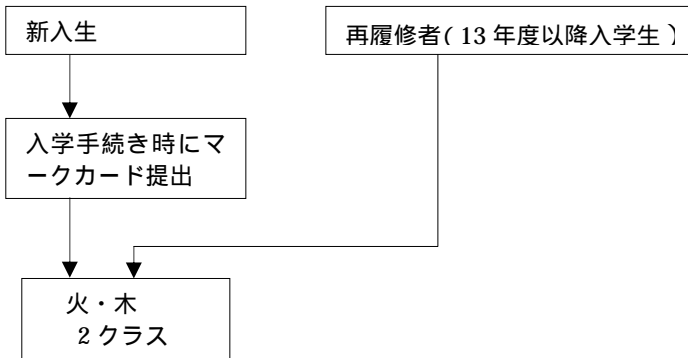
<ロシア語 >

- (1) 火・木のロシア語 は2クラス併せて4単位が認定される。新入生はこの2つを履修すること。
- (2) ロシア語 の再履修について
 - (イ) 13年度以降入学生でロシア語 を再履修する者は、火・木の2クラスを履修しなければならない。
 - (ロ) 12年度以前入学生でロシア語 を履修する者は未修得単位数によって以下のように履修するクラスが変わるので注意されたい。
 - (a) 2単位未修得の者は水曜日のクラスを履修しなければならない。
 - (b) 4単位未修得の者は火・木の2クラスを履修しなければならない。
 - (c) 6単位全て未修得の者は火・水・木の3クラスを全て履修しなければならない。

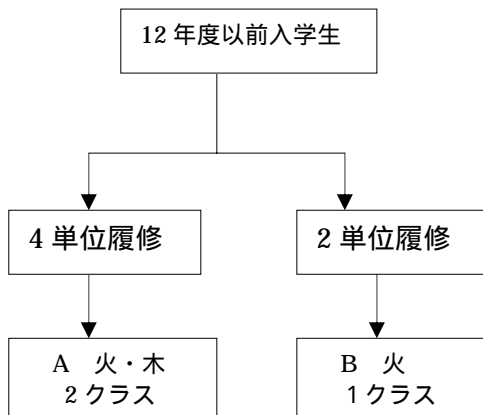
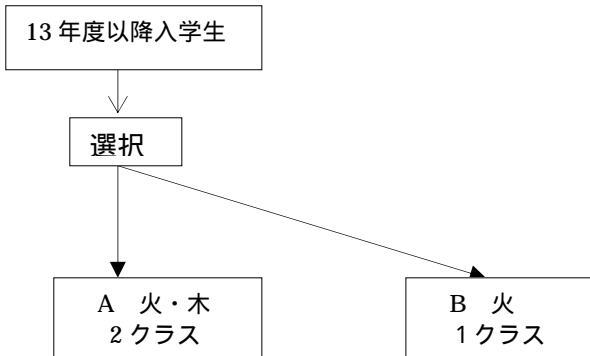
<ロシア語 >

- (1) 13年度以降入学生は、ロシア語 、4単位を修得済みでなければ、ロシア語 を履修することができない。従って、 の同時履修も認められない。
- (2) 13年度以降入学生は、 A(火・木、2クラス4単位)か、 B(火、1クラス2単位)のどちらかを選択して履修すること。
- (3) 12年度以前入学生は、ロシア語 と の同時履修は認めるが、 の単位をより先に取得することはできない。また、 と を同時に履修した場合、 の成績が1クラスでも不可であれば、その年度の の評価は自動的に全て不可となる。
- (4) 12年度以前入学生は、ロシア語 を次のように履修すること。
 - (イ) 4単位履修する場合には、 A、2クラス(火・木)を履修すること。
 - (ロ) 2単位履修する場合には、 B、1クラス(火)を履修すること。

ロシア語



ロシア語



【朝鮮語の履修方法】

平成18年度の朝鮮語クラスは、次表のとおりである。

| | 朝鮮語 | 朝鮮語 |
|---|-------|----------------|
| 火 | 宣 | A 宣 |
| 木 | 小 鹿 | A 小 鹿 B 小 鹿 |
| 金 | (旧) 宣 | |

<朝鮮語 >

- (1) 朝鮮語 は火曜・木曜の2クラス合わせて4単位であるから、両方とも履修しなければならない。
- (2) 13年度以降入学生は、火曜日、木曜日の朝鮮語 、2クラスを履修しなければならない。再履修する場合も同様である。
- (3) 12年度以前入学生で、朝鮮語 を再履修する場合は次の通り選択すること。
 - (イ) 朝鮮語 を2単位未修得の場合には金曜日のクラスを履修すること。
 - (ロ) 朝鮮語 を4単位未修得の場合には火曜日、木曜日の2クラスを履修すること。
 - (ハ) 朝鮮語 を6単位未修得の場合には火曜日、木曜日、金曜日の3クラスを履修すること。

<朝鮮語 >

- (1) 朝鮮語 は、朝鮮語 を4単位以上修得済みでなければ履修することはできない。
- (2) 13年度以降入学生は、 A(火・木 2クラス4単位)か、 B(木、1クラス2単位)のどちらかを選択して履修すること。
- (3) 12年度以前入学生は、朝鮮語 を4単位履修する場合には、 A、2クラスを履修し、2単位履修する場合には、 B、1クラスを履修すること。

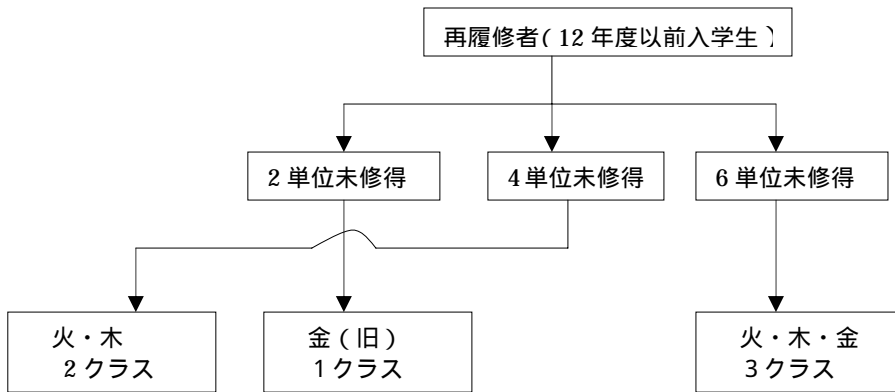
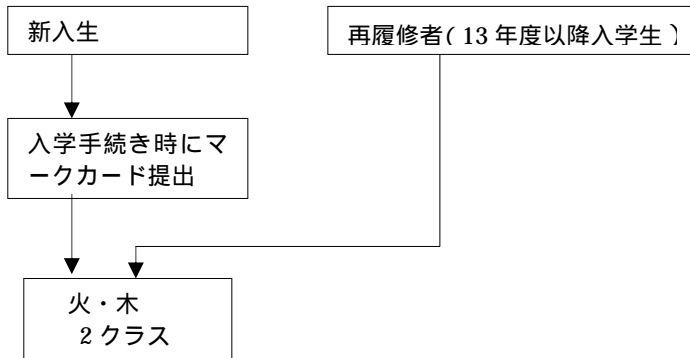
<朝鮮語 >

- (1) 朝鮮語 は、朝鮮語 を2単位または4単位修得済みでなければ履修することができない。
- (2) 今年度は、上級外国語(朝鮮語)を朝鮮語 に読み替えて履修すること。上級外国語は4単位科目であるが、朝鮮語 に読み替える場合、2単位として認定される。

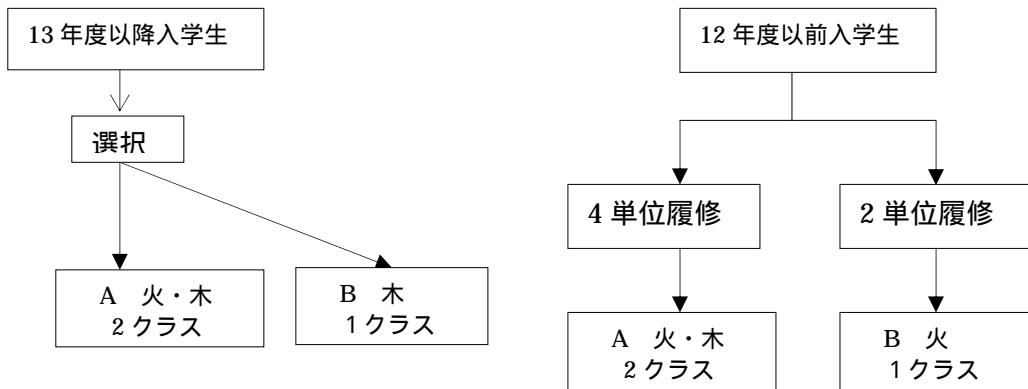
<その他の注意事項>

いずれのクラスの受講者も、4月最初の授業に必ず出席して、必要な指示を受けること。

朝鮮語



朝鮮語



【日本語科目の履修方法】

- (1) 日本語科目は外国人留学生のみが履修し、単位を修得することができます。
- (2) すでに単位を修得した科目は、再履修することができないので注意してください。
- (3) 日本語科目のクラス

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-------------|----------------|------------------------------------|---|------------------------------------|--------------------------------|
| 8:50～10:20 | | 上級日本語 高野（前期） 上級日本語 高野（後期） | | 上級日本語 高野（前期） 上級日本語 高野（後期） | 上級日本語 高野（通年） |
| 10:30～12:00 | | 日本事情 高野（後期） | | | 日本事情 Mark Gibeau （前期） |
| 12:50～14:20 | | | | | 比較日本文化論 Mark Gibeau （前期） |
| 14:30～16:00 | 日本語学 高野（前期） | | | | |
| 16:10～17:40 | | | | | |

(4) 「日本事情」、「日本事情」は、基礎科目の修得単位に振り替えることができます。また、「日本語学」と「比較日本文化論」は、基礎科目ですが、日本語科目の修得単位に振り替えることができます。

(5) 平成11年度以前入学者に対する経過措置

日本語科目に関する学則が改正されたため、平成11年度以前に入学した学生が平成12年度以降に、次の表のB欄に掲げている授業科目を履修し、単位を修得した場合は、A欄に掲げている授業科目の単位を修得したことになります。

| A 欄 | 単位数 | B 欄 | 単位数 |
|-------|-----|-----------|-----|
| 日 本 語 | 4 | 上 級 日 本 語 | 2 |
| | | 上 級 日 本 語 | 2 |
| 日 本 語 | 2 | 上 級 日 本 語 | 2 |
| 日 本 語 | 2 | 上 級 日 本 語 | 2 |

(6) 平成18年度入学者（1年次生）は必ず上級日本語の最初の授業に出席してください。

(7) その他わからないところがあれば、日本語担当、高野教員に問いあわせてください。

[2] 学科科目の履修方法

学科科目の卒業所要単位は72単位です。そのうち、自学科の基幹科目から12単位、同じく自学科の発展科目から28単位、研究指導12単位を修得しなければなりません。残りの20単位は、自学科科目、他学科科目、専門共通科目、教職共通科目から単位を修得することができます（詳細は「5 卒業に必要な単位数」）。

本学の特徴は、学科の垣根を超えて、幅広い学習ができるところにあります。卒業所要単位にとらわれず、関心を広くもって、積極的に他学科科目、専門共通科目を履修するよう心がけてください。

「研究指導（ゼミナール）」の履修方法

研究指導（ゼミナール）は、原則として必修とし、12単位修得しなければなりません。

研究指導は、毎週3時間、3年次から2年間の継続授業で12単位（卒業論文含む。）原則として自分の所属する学科あるいは専門共通科目の研究指導を履修することになります。

なお、4年次になってゼミナールの所属を取りやめる場合には、4月の履修登録期限までにノンゼミに移行することを承諾する旨の学科の許可を受けなければ、ノンゼミになることができません。

《研究指導の単位を残したまま留年した場合の取り扱い》

(1) 研究指導は、2年間の学習と卒業論文を総合して成績評価を受け、単位認定が行われます。本学では、研究指導は、半期（前期又は後期）ごと4つのユニットによって構成されるものとして取り扱っています。以下のとおり。単位認定を受けるためには、この4つのユニットを満たしていることが条件です。

| | |
|--------|---------------|
| 第1ユニット | 第2ユニット |
| 第3ユニット | 第4ユニット（+卒業論文） |

(2) 卒業論文未提出等の理由で、研究指導の単位を残したまま留年した場合は、第4ユニットが欠けていることとなりますから、再度、第4ユニット分を履修しなければなりません。従って、半年留年して9月卒業する場合は、引き続き研究指導を履修しなければなりません。1年間留年する場合は、後期からの履修が可能です。

(2) 平成 1 2 年度以前入学者

平成 1 2 年度以前入学者の卒業に必要な単位数は 1 3 2 単位となっており、その履修方法は各学科によって異なります(詳細は「 5 卒業に必要な単位数」)。

平成 1 2 年度以前入学者のカリキュラムは、共通科目(個別科目、総合科目、基礎ゼミナール、健康科学科目)、外国語科目等(外国語科目、日本語科目)、専門科目、専門共通科目及び教職共通科目の区分で構成されているので、それぞれの区分の履修方法に従って履修計画を立ててください。

[1] 共通科目の履修方法

(1) 個別科目

経過措置にしたがって履修してください。

(2) 総合科目

経過措置にしたがって履修してください。

(3) 健康科学科目

経過措置にしたがって履修してください。

[2] 外国語科目等の履修方法

経過措置にしたがって履修することとなりますが、外国語(・)は、従前のおりの履修となるため、以下の記述を再読し、まちがいのないよう履修してください。

外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、および朝鮮語の 7 外国語が開設されています。

外国語の授業は、毎週 2 時間通年 3 0 週の講義をもって 2 単位とします(学則第 2 3 条第 2 項参照)。

外国語(・ ・)は、各外国語ともそれぞれ 1 年次に毎週 6 時間 6 単位、2 年次に毎週 4 時間 4 単位、3 年次に毎週 2 時間 2 単位、合計 1 2 単位が開設されます。そのうちから 2 外国語 2 0 単位を選択必修とします。

1 年次に上記 7 外国語のうちから 2 外国語を選び、それぞれ 6 単位ずつ、計 1 2 単位を履修し、2 , 3 年次にすでに修得した外国語の中から 8 単位を選択履修することとします。

配当年次および履修方法は次のとおりです。

| 配当年次 | 外国語 | 外国語 | 履 修 方 法 |
|------|-----|-----|----------------------|
| | 6 | 6 | 1年次に2外国語各6単位、計12単位必修 |
| | 4 | 4 | 2年次に2外国語各2単位、計4単位必修 |
| | 2 | 2 | 3年次に1外国語2単位選択 |
| 計 | 12 | 12 | 2外国語計20単位必修 |

ただし、いずれの外国語とも、の2単位を修得するためには、から2単位以上を修得しなければならないものとします。したがって、1・2年次の2外国語について10単位ずつ、計20単位を修得するか、あるいは1外国語につき、12単位、他の外国語を8単位、合計20単位を修得するかのいずれかになります。

なお、英語以外の6外国語は、同一年次配当のクラスを同じ時間帯に開設しているので、同一年度において同一配当年次の2つの外国語を履修することはできません。

各外国語ごとの履修方法については、P**～P**を参照してください。

[3] 専門科目・専門共通科目の履修方法

専門科目は、各学科・課程で指定した選択必修科目（商業教員養成課程は教職共通科目の必修を含む。）専門共通科目及び研究指導を合わせて84単位以上を修得しなければなりません。

ただし、平成11年度以前の入学者は、商学科の専門科目のうち、「英語コミュニケーション」、「英語コミュニケーション」、「比較文化」、「比較文化」については、単位を修得しても卒業所要単位に算入しません。

教職共通科目で「教科に関する科目」のうち、「言語学概論」「英語学概論」「英文学史」「英文学概論」の単位を修得した場合は、英語の免許状の取得を希望しない場合、専門共通科目の単位に充てることができます。ただし、専門共通科目の単位に充てた場合には、教職共通科目として併用できません。

「研究指導（ゼミナール）」の履修方法

研究指導（ゼミナール）は、毎週3時間、3年次から2年間の継続授業で12単位（卒業論文含む。）原則として自分の所属する学科あるいは専門共通科目の研究指導を履修することになります。

なお、4年次になってゼミナールの所属を取りやめる場合には、4月の履修登録期限までにノンゼミに移行することを承諾する旨の学科の許可を受けなければ、ノンゼミになることができません。

《研究指導の単位を残したまま留年した場合の取り扱い》

（1）研究指導は、2年間の学習と卒業論文を総合して成績評価を受け、単位認定が行われます。本学では、研究指導は、半期（前期又は後期）ごと4つのユニットによって構成されるものとして取り扱っています。以下のとおり。単位認定を受けるためには、この4つのユニットを満たしていることが条件です。

| | |
|--------|---------------|
| 第1ユニット | 第2ユニット |
| 第3ユニット | 第4ユニット（+卒業論文） |

（2）研究指導の単位を残したまま留年した場合は、第4ユニットが欠けていることになりますから、再度、第4ユニット分を履修しなければなりません。従って、半年留年して9月卒業する場合は、引き続き研究指導を履修しなければなりません。1年間留年する場合は、後期からの履修が可能です。

(3) 商業教員養成課程所属者(平成15年度以前入学者)の注意事項

1. 情報処理入門の履修について

平成12年度以降入学生は、基礎資格(情報機器の操作)として「情報処理入門」を修得することが必要です。そのため、平成12年度以降において、履修制限等の事情により1・2年次に履修出来なかった者は、3年次において「条件等」により優先的に履修出来るよう配慮いたします。

2. 平成15年度以前入学者の商業教員養成課程科目について

平成15年度以前入学者については、経済学科、商学科、企業法学科、社会情報学科の学科科目(研究指導を除く。)のうち、下表の授業科目を除いたものが商業教員養成課程科目となります。

したがって、商業教員養成課程へ所属している学生は、下表の授業科目の単位を修得しても卒業所要単位には算入されません。

| 授業科目 | 単位 | 配当年次 | 授業科目 | 単位 | 配当年次 | 授業科目 | 単位 | 配当年次 |
|-------------|----|------|-----------|----|------|---------------|----|------|
| 英語コミュニケーション | 2 | | 国際法 | 4 | | オペレーションズ・リサーチ | 2 | |
| 英語コミュニケーション | 2 | | 国際機構論 | 4 | | 組織コミュニケーション論 | 2 | |
| 比較文化 | 2 | | 比較法 | 2 | ・ | 組織情報論 | 2 | ・ |
| 比較文化 | 2 | | 基礎法特講 | 4 | | 社会情報論 | 2 | ・ |
| 行政法 | 4 | ・ | 民事手続法 | 4 | | 情報システム構築論 | 2 | ・ |
| 民法 | 4 | | 環境法 | 4 | ・ | ビジネスシステム論 | 2 | ・ |
| 刑法 | 4 | | 社会計画 | 4 | ・ | デジタルデザイン論 | 2 | |
| 法学 | 2 | | 計画科学 | 4 | ・ | 情報処理 | 4 | |
| 憲法 | 4 | | 意思決定論 | 4 | ・ | 情報数理 | 2 | |
| 行政法 | 4 | ・ | 経営システム基礎 | 2 | | ソフトウェア科学 | 4 | ・ |
| 民法 | 2 | ・ | 情報システム管理論 | 2 | | コンピュータネットワーク論 | 4 | ・ |
| 刑事法特講 | 4 | ・ | 情報処理基礎 | 2 | | 情報と職業 | 2 | ・ |

3. 商業教員養成課程の経過措置について

..... ** ページを参照してください。

4. 教育実習について

..... *** ページを参照してください。

5. 免許状の授与手続きについて

..... *** ページを参照してください。

6. 北海道教育大学との単位互換に伴う教職科目の単位修得について

..... *** ページを参照してください。

12. 履修モデル

昼間コースの教育課程のもとでの体系的な履修を可能にするために「履修モデル」を設定しております。
 「履修モデル」は、自らの将来計画のために何を学び、将来どのような職業に就きたいか等を考えて、履修科目を決定する際の例示的なものであり、これに拘束されるものではありません。下記に掲げるモデル例を参考にしながら各自履修科目を決定してください。

履修モデル 「幅広い教養及び外国語能力を基礎として、経済学を主として学ぶ」

| 区分 配当年次 | 幅広い教養（38単位） | | 外国語（14単位） | | 自学科科目 40単位（20単位） | | 他学科科目 20単位（16単位） | | 研究指導（12単位） | |
|----------------|---|----|-----------|---|---|------|---------------------|-----------|------------|----|
| | | | | | 学科基幹科目 | 12 | 学科基幹科目 | (8) | | |
| | | | | | 学科発展科目 | 28 | 学科発展科目 | (8) | | |
| 12単位 (28単位) | | | | | 経済学科発展科目 | (20) | 他学科科目および 専門共通科目 | (8) | 研究指導 | 12 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 32単位 (8単位) | | | | | 経済学科発展科目 (経済学特別講義 およびインターン シップを含む) | 20 | 他学科科目および 専門共通科目 | 12 (8) | 研究指導 | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 40単位 | 基礎科目（人間系） | 6 | 英語 A1 | 2 | ミクロ経済学 | 4 | 他学科科目 | 2 | | |
| | 基礎科目（社会系） | 6 | 英語 A2 | 2 | マクロ経済学 | 4 | | | | |
| | 基礎科目（自然系） | 4 | 英語以外の外国語 | 2 | 経済数学 | 2 | | | | |
| | 基礎科目（健康系） | 2 | | | 経済史 | 2 | | | | |
| | | | | | 国際経済学 | 2 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 40単位 | 知の基礎 | 10 | 英語 A | 2 | 経済学と現代 | 2 | 簿記原理 | 2 | | |
| | 基礎科目（人間系） | 2 | 英語 B | 2 | 経済学入門 | 2 | 法学 | 2 | | |
| | 基礎科目（社会系） | 2 | 英語以外の外国語 | 4 | 経済学入門 | 2 | 社会情報入門 | 2 | | |
| | 基礎科目（自然系） | 4 | | | | | | | | |
| | 基礎科目（健康系） | 2 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 計 124単位 | * ()内の単位数は、1年間の履修上限内で卒業所要単位を超えて履修する単位数を表す。 | | | | | | | | | |

履修モデル - 1 「マーケティング・金融のスペシャリストとしての知識と教養を習得する」

| 区分 配当年次 | 幅広い教養 (38単位) | | 外国語 (14単位) | | 自学科科目 50単位 (20単位) | | 他学科科目 10単位 (16単位) | | 研究指導 (12単位) | |
|----------------|---|----|------------|---|----------------------|------|----------------------|----------|-------------|----|
| | | | | | 学科基幹科目 | 12 | 学科基幹科目 | | | |
| | | | | | 学科発展科目 | 28 | 学科発展科目 | | | |
| 12単位 (28単位) | | | | | 商学科の発展科目 | (20) | 他学科科目および 専門共通科目 | (8) | 研究指導 | 12 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 32単位 (8単位) | | | | | 商学講座および 商学科の科目 | 28 | 他学科科目および 専門共通科目 | 4 (8) | 研究指導 | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 40単位 | 基礎科目(人間系) | 6 | 英語 A1 | 2 | 流通システム論 | 2 | | | | |
| | 基礎科目(社会系) | 6 | 英語 A2 | 2 | 社会と金融 | 2 | | | | |
| | 基礎科目(自然系) | 4 | 英語以外の外国語 | 2 | マーケティング | 4 | | | | |
| | 基礎科目(健康系) | 2 | | | 経営学原理 | 2 | | | | |
| | | | | | 経営管理論 | 4 | | | | |
| | | | | | 応用簿記 | 2 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 40単位 | 知の基礎 | 10 | 英語 A | 2 | 流通システム論 | 2 | 経済学と現代 | 2 | | |
| | 基礎科目(人間系) | 2 | 英語 B | 2 | 経営学原理 | 2 | 法学 | 2 | | |
| | 基礎科目(社会系) | 2 | 英語以外の外国語 | 4 | 簿記原理 | 2 | 計画科学基礎 | 2 | | |
| | 基礎科目(自然系) | 4 | | | | | | | | |
| | 基礎科目(健康系) | 2 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 計 124単位 | * ()内の単位数は、1年間の履修上限内で卒業所要単位を超えて履修する単位数を表す。 | | | | | | | | | |

履修モデル - 2 「幅広い教養及び外国語能力を基礎として、経営学を中心に商学全般を学ぶ」

| 区分 配当年次 | 幅広い教養 (38単位) | | 外国語 (14単位) | | 自学科科目 50単位 (20単位) | | 他学科科目 10単位 (16単位) | | 研究指導 (12単位) | |
|----------------|---|----|------------|---|----------------------|------|----------------------|----------|-------------|----|
| | | | | | 学科基幹科目 | 12 | 学科基幹科目 | | | |
| | | | | | 学科発展科目 | 28 | 学科発展科目 | | | |
| 12単位 (28単位) | | | | | 商学科の発展科目 | (20) | 他学科科目および 専門共通科目 | (8) | 研究指導 | 12 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 32単位 (8単位) | | | | | 経営学講座および 商学科の科目 | 28 | 他学科科目および 専門共通科目 | 4 (8) | 研究指導 | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 40単位 | 基礎科目(人間系) | 6 | 英語 A1 | 2 | 経営学原理 | 2 | | | | |
| | 基礎科目(社会系) | 6 | 英語 A2 | 2 | 経営管理論 | 4 | | | | |
| | 基礎科目(自然系) | 4 | 英語以外の外国語 | 2 | 経営史 | 4 | | | | |
| | 基礎科目(健康系) | 2 | | | 流通システム論 | 2 | | | | |
| | | | | | 社会と金融 | 2 | | | | |
| | | | | | 経営と会計 | 2 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 40単位 | 知の基礎 | 10 | 英語 A | 2 | 経営学原理 | 2 | 経済学と現代 | 2 | | |
| | 基礎科目(人間系) | 2 | 英語 B | 2 | 簿記原理 | 2 | 法学 | 2 | | |
| | 基礎科目(社会系) | 2 | 英語以外の外国語 | 4 | 流通システム論 | 2 | 計画科学基礎 | 2 | | |
| | 基礎科目(自然系) | 4 | | | | | | | | |
| | 基礎科目(健康系) | 2 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 計 124単位 | * ()内の単位数は、1年間の履修上限内で卒業所要単位を超えて履修する単位数を表す。 | | | | | | | | | |

履修モデル - 3 「会計専門職としてキャリアを積むための知識と教養を習得する」

| 区分 配当年次 | 幅広い教養 (38単位) | | 外国語 (14単位) | | 自学科科目 50単位 (20単位) | | 他学科科目 10単位 (16単位) | | 研究指導 (12単位) | |
|----------------|---|----|------------|---|----------------------|------|----------------------|----------|-------------|----|
| | | | | | 学科基幹科目 | 12 | 学科基幹科目 | | | |
| | | | | | 学科発展科目 | 28 | 学科発展科目 | | | |
| 12単位 (28単位) | | | | | 商学科の発展科目 | (20) | 他学科科目および 専門共通科目 | (8) | 研究指導 | 12 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 32単位 (8単位) | | | | | 会計学講座および 商学科の科目 | 28 | 他学科科目および 専門共通科目 | 4 (8) | 研究指導 | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 40単位 | 基礎科目(人間系) | 6 | 英語 A1 | 2 | 応用簿記 | 2 | | | | |
| | 基礎科目(社会系) | 6 | 英語 A2 | 2 | 経営と会計 | 2 | | | | |
| | 基礎科目(自然系) | 4 | 英語以外の外国語 | 2 | 財務会計論 | 4 | | | | |
| | 基礎科目(健康系) | 2 | | | 原価計算論 | 4 | | | | |
| | | | | | 経営管理論 | 4 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 40単位 | 知の基礎 | 10 | 英語 A | 2 | 簿記原理 | 2 | 経済学と現代 | 2 | | |
| | 基礎科目(人間系) | 2 | 英語 B | 2 | 経営学原理 | 2 | 法学 | 2 | | |
| | 基礎科目(社会系) | 2 | 英語以外の外国語 | 4 | 流通システム論 | 2 | 計画科学基礎 | 2 | | |
| | 基礎科目(自然系) | 4 | | | | | | | | |
| | 基礎科目(健康系) | 2 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 計 124単位 | (注) 他学科科目として、商法(会社法)、マイクロ経済学および統計学関係の授業科目の履修が望ましい。 * ()内の単位数は、1年間の履修上限内で卒業所要単位を超えて履修する単位数を表す。 | | | | | | | | | |

履修モデル 「幅広い教養及び外国語能力を基礎として、企業法学を主として学ぶ」

| 区分 配当年次 | 幅広い教養(38単位) | | 外国語(14単位) | | 自学科科目 50単位(20単位) | | 他学科科目 10単位(16単位) | | 研究指導(12単位) | |
|----------------|--|----|-----------|---|-----------------------|------|---------------------|----------|------------|----|
| | | | | | 学科基幹科目 | 12 | 学科基幹科目 | | | |
| | | | | | 学科発展科目 | 28 | 学科発展科目 | | | |
| 12単位 (28単位) | | | | | 企業法学科の発展 科目 | (20) | 他学科科目および 専門共通科目 | (8) | 研究指導 | 12 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 32単位 (8単位) | | | | | 行政法 | 4 | 他学科科目および 専門共通科目 | 4 (8) | 研究指導 | |
| | | | | | 企業法学科の発展 科目 | 24 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 40単位 | 基礎科目(人間系) | 6 | 英語 A1 | 2 | 憲法・基礎 | 2 | | | | |
| | 基礎科目(社会系) | 6 | 英語 A2 | 2 | 民法・基礎 | 2 | | | | |
| | 基礎科目(自然系) | 4 | 英語以外の外国語 | 2 | 刑法 | 4 | | | | |
| | 基礎科目(健康系) | 2 | | | 商法 | 4 | | | | |
| | | | | | 企業法学科の発展 科目(2年次配当) | 4 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 40単位 | 知の基礎 | 10 | 英語 A | 2 | 法学 | 2 | 経済学と現代 | 2 | | |
| | 基礎科目(人間系) | 2 | 英語 B | 2 | 憲法・基礎 | 2 | 簿記原理 | 2 | | |
| | 基礎科目(社会系) | 2 | 英語以外の外国語 | 4 | 民法・基礎 | 2 | 計画科学基礎 | 2 | | |
| | 基礎科目(自然系) | 4 | | | | | | | | |
| | 基礎科目(健康系) | 2 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 計 124単位 | *()内の単位数は、1年間の履修上限内で卒業所要単位を超えて履修する単位数を表す。 | | | | | | | | | |

履修モデル 「幅広い教養とともに、情報に関する専門知識、合理的かつ科学的な思考能力、問題解決能力を習得する」

| 区分 配当年次 | 幅広い教養（38単位） | | 外国語（14単位） | | 自学科科目 40単位（20単位） | | 他学科科目 20単位（16単位） | | 研究指導（12単位） | |
|----------------|---|----|-----------|------|---|------|---------------------|-----------|------------|----|
| | | | | | 学科基幹科目 | 12 | 学科基幹科目 | | | |
| | | | | | 学科発展科目 | 28 | 学科発展科目 | | | |
| 12単位 (28単位) | | | | | 社会情報学科の 3・4年次配当 科目 | (20) | 他学科科目および 専門共通科目 | (8) | 研究指導 | 12 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 32単位 (8単位) | | | | | 社会情報学科の 3・4年次配当 科目およびインタ ーンシップ | 8 | 他学科科目および 専門共通科目 | 10 (8) | 研究指導 | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | オペレーションズ・リサーチ | 2 | | | | |
| | | | | | 統計科学 | 2 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 40単位 | 基礎科目（人間系） | 6 | 英語 A1 | 2 | 計画数学 | 2 | 他学科科目 | 4 | | |
| | 基礎科目（社会系） | 6 | 英語 A2 | 2 | 計画数学 | 2 | | | | |
| | 基礎科目（自然系） | 4 | 英語以外の外国語 | 2 | 経営システム基礎 | 2 | | | | |
| | 基礎科目（健康系） | 2 | | | 情報システム管理論 | 2 | | | | |
| | | | | | プロジェクト実践論 | 2 | | | | |
| | | | | | 組織コミュニケーション論 | 2 | | | | |
| | | | | | デジタルデザイン 論 | 2 | | | | |
| | | | | | 知識科学基礎 | 2 | | | | |
| | | | | | 情報処理 | 4 | | | | |
| | | | | 情報数理 | 2 | | | | | |
| 40単位 | 知の基礎 | 10 | 英語 A | 2 | 社会情報入門 | 2 | 経済学と現代 | 2 | | |
| | 基礎科目（人間系） | 2 | 英語 B | 2 | 計画科学基礎 | 2 | 簿記原理 | 2 | | |
| | 基礎科目（社会系） | 2 | 英語以外の外国語 | 4 | 情報処理基礎 | 2 | 法学 | 2 | | |
| | 基礎科目（自然系） | 4 | | | | | | | | |
| | 基礎科目（健康系） | 2 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 計 124単位 | * ()内の単位数は、1年間の履修上限内で卒業所要単位を超えて履修する単位数を表す。 | | | | | | | | | |

履修モデル 「幅広い教養及び外国語能力を基礎として、専門共通の各領域を専攻する」

| 区分 配当年次 | 幅広い教養(38単位) | | 外国語(14単位) | | 自学科科目 40単位 | | 他学科科目 20単位 | | 研究指導(12単位) | |
|----------------|--|----|-----------|---|----------------------------|-------|---------------|---|------------|----|
| | | | | | 学科基幹科目 | 12 | 学科基幹科目 | | | |
| | | | | | 学科発展科目 | 28 | 学科発展科目 | | | |
| 12単位 (28単位) | | | | | 所属学科の基幹科目 | 6 | (自然科学を専攻する者) | | 研究指導 | 12 |
| | | | | | | | 食糧生産と環境 | 4 | | |
| | | | | | 所属学科の発展科目 (インターンシップを含む) | 28 | 現代の数学 | 4 | | |
| | | | | | | | 環境の分析化学 | 4 | | |
| | | | | | | | 自然と物理学 | 4 | | |
| 32単位 (8単位) | | | | | | | (人文科学を専攻する者) | | 研究指導 | |
| | | | | | | | 現代哲学論 | 4 | | |
| | | | | | | | 文学と人間 | 4 | | |
| | | | | | | | 歴史と社会 | 4 | | |
| | | | | | | | 現代心理学 | 4 | | |
| | | | | | | | (社会科学を専攻する者) | | | |
| 40単位 | 基礎科目 (専攻分野以外) | 18 | 英語 A1 | 2 | | | 現代思想 | 4 | | |
| | | | 英語 A2 | 2 | | | 現代の社会 | 4 | | |
| | | | 英語以外の外国語 | 2 | | | 他学科科目 | 2 | | |
| | | | | | | | (健康科学を専攻する者) | | | |
| | | | | | | | 人間科学論 | 4 | | |
| | | | | | | | 統計科学 | 2 | | |
| | | | | | | | 情報処理基礎 | 2 | | |
| | | | | | | 他学科科目 | 6 | | | |
| 40単位 | 知の基礎 | 10 | 英語 A | 2 | 経済学と現代 | 2 | 簿記原理 | 2 | | |
| | 基礎科目 | 10 | 英語 B | 2 | 経済学入門 | 2 | 法学 | 2 | | |
| | (専攻分野) | | 英語以外の外国語 | 4 | 経済学入門 | 2 | 社会情報入門 | 2 | | |
| | | | | | | | | | | |
| 計 124単位 | (注)専門共通科目の領域と研究指導の対応関係は次のようになる。自然科学(化学、生物学、物理学、数学)、人文科学(歴史学、哲学、日本文学、心理学)、社会科学(社会学、政治学、社会思想史、教育学) *()内の単位数は、1年間の履修上限内で卒業所要単位を超えて履修する単位数を表す。 | | | | | | | | | |

13 . 平成12年度以前入学者の経過措置

平成9年度～平成12年度入学者の経過措置

平成9年度～平成12年度入学生(9年度カリ学生)が平成13年度以降の新学期に定めるカリキュラム(13年度カリ)を履修する場合の経過措置は以下のとおりです。

1 共通科目(科目対応は表1参照)

(1) 個別科目の履修方法

(ア) 個別科目の中のいずれかの系で卒業所要単位が不足している場合は、13年度カリの新設科目を含む基礎科目(「総合科目 」、 「総合科目 」、 「情報処理入門」、 「基礎ゼミナール」及び健康科学系の科目を除く)によって修得するものとする。修得単位の振り分け先となる系については表1を参照のこと。

ただし、9年度カリで修得した科目と同一名称の科目、または、同一名称から、 がとれた科目(例:9年度カリ「教育学 」及び「教育学 」と、13年度カリ「教育学」)は履修できない。

(イ) 人間と文化、社会と人間、自然と環境の3系内の基礎科目を修得した場合の単位の振り分け先は、9年度カリの個別科目と同一名称の科目であれば、9年度カリにおける6系への分類に準ずることになる。

(ウ) 人間と文化系の「外国事情」は、留学先で修得した単位を認定するための科目であり、この科目の単位は卒業所要単位に算入される。

(エ) 13年度カリの「基礎数学」は、社会情報学科以外の学科では個別科目として扱い、社会情報学科では専門科目として扱う。しかし、社会情報学科にあっても個別科目として履修登録することもできる。(ただし、両方の扱いはできない。また、登録後の変更はできない。)なお、個別科目として履修した場合、修得単位の振り分け先は自然と生命系である。

(2) 総合科目の履修方法

13年度カリの「総合科目 」、 「総合科目 」、 「情報処理入門」を修得した場合は総合科目の単位となる。

(3) 基礎ゼミナール

13年度カリの「基礎ゼミナール」の履修は認めない。

(4) 健康科学科目

平成13年度以降、健康科学科目はすべて13年度カリ科目になるが、履修方法は従来どおりである。ただし、13年度カリの「健康スポーツe」は9年度カリの「健康スポーツf」に、13年度カリの「健康スポーツf」は9年度カリの「健康スポーツg」に、それぞれ対応している。

2 外国語科目

(1) 「英語」の履修方法は次のとおりである。

(ア) 「英語 I」: 9年度カリにおける「英語 IA 群」、「英語 IB 群」の未修得単位は13年度カリの「英語 IA」から、「英語 IC 群」の未修得単位は13年度カリの「英語 IB」から、それぞれの未修得単位分を履修するものとする。

(イ) 「英語 II」: 平成14年度以降は、「英語 IIA 1」、「英語 IIA 2」、「英語 IIB」の中から未修得単位分を履修するものとする。

(ウ) 「英語 III」: 平成15年度以降は外国語科目の単位として卒業に必要な場合に限って、13年度カリの専門共通科目の「上級外国語(英語)」(4単位)を「英語 III」(2単位)に読み替える。

その場合は、その旨を年度始めに明確に表示するものとする。

(2) 英語以外の外国語の履修方法は次のとおりである。

(ア) 「外国語 I」: 2単位未修得の者は9年度カリの「外国語 I」(2単位)を、4単位未修得の者は13年度カリの「外国語 I」(4単位)を、6単位未修得の者は9年度カリの「外国語 I」(2単位)と13年度カリの「外国語 I」(4単位)を合わせて履修するものとする。

(イ) 「外国語 II」: 平成14年度以降は、2単位未修得の者は13年度カリの「外国語 B」(2単位)を履修し、4単位未修得の者は13年度カリの「外国語 A」(4単位)あるいは「外国語 B」(2単位)から4単位分を履修するものとする。

(ウ) 「外国語 III」: 平成15年度以降は、外国語科目の単位として卒業に必要な場合に限って、13年度カリの専門共通科目の「上級外国語」(4単位)を「外国語 III」(2単位)に読み替える。その場合は、その旨を年度始めに明確に表示するものとする。

3 日本語科目

日本語科目は、13年度カリを履修するが履修方法は従来どおりである。

4 専門科目(科目対応は表2ア～エ参照)

(1) 新設科目を含む13年度カリの学科科目(研究指導を除く)を専門科目とみなし、卒業所要単位の算入する。

(2) 修得した9年度カリの科目に対応する13年度カリの科目は履修できない。

(3) 選択必修科目として9年度カリまたは13年度カリの科目を履修する場合は、配当基準年次にかかわらず履修できる。

その他は、各学科ごとに下記のとおりとする。

経済学科の学生に限る

9年度カリまたは13年度カリの「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」、「統計学」、「経済史」のうちいずれか2科目を含める。

商学科の学生に限る

- (1) 9年度カリまたは13年度カリの「流通システム論」、「経営学原理」、「簿記論」のうちいずれか2科目を含める。
- (2) 上記2科目で修得しなかった科目、及び9年度カリまたは13年度カリの「マーケティング」、「貿易論」、「金融システム論」、「経営管理論」、「経営史」、「財務会計論」、「原価計算論」、「管理会計論」、「経営と会計」のうちから3科目を含める。

企業法学科の学生に限る

- (1) 9年度カリの「憲法〔総論・人権〕」、「憲法〔統治機構論〕」、「行政法〔総論〕」、「刑法」、「国際法」、または13年度カリの「憲法」、「憲法」、「行政法」、「刑法」、「国際法」のうちいずれか2科目を含める。
- (2) 9年度カリの「民法〔総論〕」、「民法〔契約法〕」、「商法〔会社法〕」、「商法〔商取引法〕」、「民事手続法」または13年度カリの「民法」、「民法」、「商法」、「商法」、「民事手続法」のうちいずれか2科目を含める。

社会情報学科の学生に限る

- (1) 次の科目のうち10単位を必修とする。
 - (ア) 9年度カリにおける選択必修科目：「計画科学概論」、「組織と情報概論」、「社会と情報概論」、「統計学基礎」、「計画数学」、「情報処理基礎」
 - (イ) 上記に対応する13年度カリ科目：「社会情報入門」、「社会情報入門」、「計画数学」、「計画数学」、「情報処理基礎」
 - (ウ) 13年度カリの次の科目：「情報システム管理論」、「基礎数学」、「情報処理入門」
- (2) 次の科目のうち20単位を必修とする。
 - (ア) 9年度カリにおける選択必修科目：「計画数理」、「オペレーションズ・リサーチ」、「統計科学」、「組織と情報基礎」、「プロジェクト管理基礎」、「組織コミュニケーション論」、「情報処理」、「情報システム基礎」、「情報数理」、「知識科学基礎」
 - (イ) 上記に対応する13年度カリ科目：「オペレーションズ・リサーチ」、「統計科学」、「経営システム基礎」、「プロジェクト実践論」、「組織コミュニケーション論」、「情報処理」、「情報数理」、「知識科学基礎」
 - (ウ) 13年度カリの次の科目：「応用統計」、「計画科学」、「意思決定論」、「コンピュータネットワーク論」
- (3) 13年度カリの科目に対応する9年度カリの専門科目を平成12年度以前に既に

- 修得している場合及び平成13年度以降に修得した場合は、当該13年度カリの科目は選択必修科目として修得したものとみなす。この場合、単位数は9年度カリの科目のものを当てる(「応用統計」、「情報システム管理論」、「基礎数学」各4単位)。
- (4) 13年度カリの「基礎数学」と「情報処理入門」は、社会情報学科の専門科目とみなすが、共通科目の個別科目として履修登録することもできる。(ただし、両方の扱いはできない。また、登録後の変更はできない。)

5 専門共通科目(科目対応は表3参照)

(1) 専門共通科目の履修方法

- (ア) 9年度カリで修得した科目と同じ名称の科目は履修できない。
- (イ) 9年度カリで「自然と環境」を修得済みの場合は、13年度カリの「地球環境科学」は履修できない。
- (ウ) 9年度カリで「自然と化学」を修得済みの場合は、13年度カリの「環境の分析化学」は履修できない。
- (エ) 9年度カリで「自然と生物学」を修得済みの場合は、13年度カリの「食料生産と環境」は履修できない。
- (オ) 9年度カリで「現代の数学」を修得済みの場合は、13年度カリの「現代の数学」は履修できない。

6 その他

修得した13年度カリ科目の成績は、原則として13年度カリの科目名とともに表示する。

14 . 科目対応表

表1

基礎科目、共通科目、一般教育科目等の科目対応

| 系 | 13年度カリキュラム(18年度以降入学者) | | | 系 | 13年度カリキュラム(13~17年度入学者) | | | 9年度カリキュラム(9~12年度入学者) | | | |
|--------------|-----------------------|----|--------------|--------------|------------------------|-------|--------------|----------------------|----|------|---|
| | 授業科目 | 単位 | 配当年次 | | 授業科目 | 単位 | 配当年次 | 授業科目 | 単位 | 配当年次 | 系 |
| 人間と文化 | 哲学 | 2 | | 哲学 | 2 | | 哲学 | 2 | ・ | 人 | |
| | 論理学 | 2 | | 論理学 | 2 | | 論理学 | 2 | ・ | 言 | |
| | 倫理学 | 2 | | 倫理学 | 2 | | 倫理学 | 2 | | 自 | |
| | 宗教学 | 2 | | 宗教学 | 2 | | 宗教学 | 2 | ・ | 人 | |
| | 心理学 | 2 | | 心理学 | 2 | | 心理学 | 2 | ・ | 人 | |
| | 心理学 | 2 | | 心理学 | 2 | | 心理学 | 2 | ・ | 文 | |
| | 教育学 | 2 | | 教育学 | 2 | | 教育学 | 2 | ・ | 人 | |
| | | | | | | | 教育学 | 2 | ・ | | |
| | 日本文学 | 2 | | 日本文学 | 2 | | 日本文学 | 2 | ・ | 人 | |
| | 日本文学 | 2 | | 日本文学 | 2 | | 日本文学 | 2 | ・ | 文 | |
| | 外国文学 | 2 | | 外国文学 | 2 | | 外国文学 | 2 | ・ | 人 | |
| | 外国文学 | 2 | | 外国文学 | 2 | | 外国文学 | 2 | ・ | 文 | |
| | | | | | | | 外国文学 | 2 | ・ | | |
| | 文化論 | 2 | | 文化論 | 2 | | 文化論 | 2 | ・ | 文 | |
| | 言語学 | 2 | | 言語学 | 2 | | 言語学 | 2 | ・ | 言 | |
| | | | | | | | 言語表現法 | 2 | ・ | | |
| | 日本語学 | 2 | | 日本語学 | 2 | | | | | 言 | |
| | 比較日本文化論 | 2 | | 比較日本文化論 | 2 | | | | | 言 | |
| | 言語コミュニケーション論 | 2 | | 言語コミュニケーション論 | 2 | | 言語コミュニケーション論 | 2 | ・ | 言 | |
| | 外国語コミュニケーション | 2 | | 外国語コミュニケーション | 2 | | | | | 言 | |
| 外国語コミュニケーション | 2 | | 外国語コミュニケーション | 2 | | | | | 言 | | |
| 外国事情 | 2 | | 外国事情 | 2 | | 外国事情 | 2 | ~ | 言 | | |
| 社会と人間 | 科学方法論 | 2 | | 科学方法論 | 2 | | 科学方法論 | 2 | ・ | 社 | |
| | 社会科学 | 2 | | 社会科学 | 2 | | 社会科学 | 2 | ~ | 社 | |
| | 歴史学 | 2 | | 歴史学 | 2 | | 歴史学 | 2 | ・ | 人 | |
| | 歴史学 | 2 | | 歴史学 | 2 | | 歴史学 | 2 | ・ | 社 | |
| | 社会思想史 | 2 | | 社会思想史 | 2 | | 社会思想史 | 2 | ・ | 社 | |
| | 社会思想史 | 2 | | 社会思想史 | 2 | | 社会思想史 | 2 | ・ | 文 | |
| | 政治学 | 2 | | 政治学 | 2 | | 政治学 | 2 | | 社 | |
| | 政治学 | 2 | | 政治学 | 2 | | 政治学 | 2 | | 環 | |
| | 社会学 | 2 | | 社会学 | 2 | | 社会学 | 2 | ・ | 社 | |
| | 社会学 | 2 | | 社会学 | 2 | | 社会学 | 2 | ・ | 社 | |
| | 文化人類学 | 2 | | 文化人類学 | 2 | | 文化人類学 | 2 | ・ | 文 | |
| | | | | | | 文化人類学 | 2 | ・ | | | |

| 系 | 13年度カリキュラム(18年度以降入学者) | | | 系 | 13年度カリキュラム(13~17年度入学者) | | | 9年度カリキュラム(9~12年度入学者) | | | | |
|-------|-----------------------|----|------|-------|------------------------|----|------|----------------------|----|------|---|---|
| | 授業科目 | 単位 | 配当年次 | | 授業科目 | 単位 | 配当年次 | 授業科目 | 単位 | 配当年次 | 系 | |
| 自然と環境 | 数学 | 2 | | 自然と環境 | 数学(数学) | 2 | | 数学 | 2 | ・ | 文 | |
| | 数学 | 2 | | | 数学 | 2 | | 数学 | 2 | ・ | 自 | |
| | 物理学 | 2 | | | 物理学 | 2 | | 物理学 | 2 | | 自 | |
| | 物理学 | 2 | | | 物理学 | 2 | | 物理学 | 2 | | 環 | |
| | 化学 | 2 | | | 化学 | 2 | | 化学 | 2 | | 自 | |
| | 化学 | 2 | | | 化学 | 2 | | 化学 | 2 | | 環 | |
| | 生物学 | 2 | | | 生物学 | 2 | | 生物学 | 2 | | 自 | |
| | 生物学 | 2 | | | 生物学 | 2 | | 生物学 | 2 | | 環 | |
| | 環境科学 | 2 | | | 環境科学 | 2 | | 環境科学 | 2 | ・ | 自 | |
| 知の基礎 | 総合科目 | 2 | | 知の基礎 | 学問原論 | 2 | | | | | 人 | |
| | 総合科目 | 2 | | | 総合科目 | 2 | | 総合科目 | 2 | ~ | 総 | |
| | 総合科目 | 2 | | | 現代社会の諸問題 | 2 | | | | | | 社 |
| | 総合科目 | 2 | | | 現代社会の諸問題 | 2 | | | | | | |
| | 基礎数学 | 2 | | | 総合科目 | 2 | | 総合科目 | 2 | ~ | 総 | |
| | 基礎ゼミナール | 2 | | | 情報処理入門 | 2 | | 総合科目 | 2 | | | 総 |
| | | | | | 基礎数学 | 2 | | (基礎数学) | 4 | | | 自 |
| 健康科学 | 生活と健康 | 2 | | 健康科学 | 生活と健康 | 2 | | 生活と健康 | 2 | ・ | 健 | |
| | 予防の医学 | 2 | | | 予防の医学 | 2 | | 予防の医学 | 2 | ・ | 健 | |
| | 健康スポーツa | 1 | | | 健康スポーツa | 1 | | 健康スポーツa | 1 | | 健 | |
| | 健康スポーツb | 1 | | | 健康スポーツb | 1 | | 健康スポーツb | 1 | | 健 | |
| | 健康スポーツc | 1 | | | 健康スポーツc | 1 | | 健康スポーツc | 1 | | 健 | |
| | 健康スポーツd | 1 | | | 健康スポーツd | 1 | | 健康スポーツd | 1 | | 健 | |
| | | | | | | | | 健康スポーツe | 1 | ・ | | |
| | 健康スポーツe(水泳) | 1 | | | 健康スポーツe(水泳) | 1 | | 健康スポーツf | 1 | ~ | 健 | |
| | 健康スポーツf(スキー) | 1 | | | 健康スポーツf(スキー) | 1 | | 健康スポーツg | 1 | ~ | 健 | |
| | 健康スポーツg(スキー) | 1 | | | 健康スポーツg(スキー) | 1 | | | | | 健 | |

注(1) 左右の対応は科目の対応を表し、修得した科目に対応する科目は履修できない。単一の科目と複数科目が対応する場合は、いずれの組み合わせの科目も対応科目となる。

(2) 13年度カリ科目の修得単位が9年度カリのどの系に振り分けられるかは、概ね、当該科目の対応科目がどの系に配置されているかに準じている。修得単位の振り分け先は、配当基準年次の右側の列にそれぞれ以下の略号をもって表示してある。

(人：人間形成、社：社会の構造、文：文化への視角、自：自然と生命、環：環境論、言：言語と生活、総：総合科目、健：健康科学科目)

表2 学教科目の科目対応

ア 経済学科

| 講座 | 13年度カリキュラム(17年度以降入学者) | | | 13年度カリキュラム(13~16年度入学者) | | | 9年度カリキュラム(9~12年度入学者) | | |
|----------|-----------------------|----|----------|------------------------|----|------|----------------------|----|------|
| | 授業科目 | 単位 | 配当年次 | 授業科目 | 単位 | 配当年次 | 授業科目 | 単位 | 配当年次 |
| 基礎経済学 | マクロ経済学 | 4 | | マクロ経済学 | 4 | | マクロ経済学 | 4 | |
| | ミクロ経済学 | 4 | | ミクロ経済学 | 4 | | ミクロ経済学 | 4 | |
| | 経済分析論 | 4 | | 経済分析論 | 4 | | マルクス経済学 | 4 | |
| | 現代経済理論 | 2 | | 現代経済理論 | 2 | | | | |
| | 現代経済理論 | 2 | ・ | 現代経済理論 | 2 | ・ | 現代経済理論 | 4 | |
| | 統計学 | 2 | | 統計学 | 4 | | 統計学 | 4 | |
| | 数理統計学 | 4 | | 数理統計学 | 4 | | 数理統計学 | 4 | |
| | 経済統計学 | 4 | ・ | 経済統計学 | 4 | ・ | 経済統計学 | 4 | |
| | 計量経済学 | 4 | | 計量経済学 | 4 | | 計量経済学 | 4 | |
| | 経済データ解析論 | 4 | ・ | 経済データ解析論 | 4 | ・ | 経済データ解析論 | 4 | ・ |
| | 経済学史 | 4 | ・ | 経済学史 | 4 | ・ | 経済学史 | 4 | |
| | 経済史 | 2 | | 経済史 | 2 | | 経済史 | 4 | |
| | 日本経済史 | 4 | | 日本経済史 | 4 | | 日本経済史 | 4 | |
| | 外国経済史 | 4 | ・ | 外国経済史 | 4 | ・ | 西洋経済史 | 4 | |
| | 外国経済史 | 4 | ・ | 外国経済史 | 4 | ・ | 国際経済史 | 4 | |
| 応用経済学 | 公共経済学 | 4 | ・ | 公共経済学 | 4 | ・ | 公共経済学 | 4 | |
| | 労働経済学 | 4 | | 労働経済学 | 4 | | 労働経済学 | 4 | |
| | 産業組織論 | 4 | ・ | 産業組織論 | 4 | | 産業組織論 | 4 | |
| | | | | | | | 農業経済学 | 4 | |
| | 財政学 | 4 | ・ | 財政学 | 4 | ・ | 財政学 | 4 | |
| | | | | | | | 地域経済学 | 4 | |
| | 現代ファイナンス理論 | 4 | | 現代ファイナンス理論 | 4 | | 金融経済論 | 4 | |
| | | | | | | | 金融政策 | 4 | |
| | 金融論 | 4 | | 金融論 | 4 | | | | |
| | 国際経済学 | 2 | | 国際経済学 | 2 | | 国際経済論 | 4 | |
| | 国際貿易理論 | 4 | | 国際貿易理論 | 4 | | 国際経済政策 | 4 | |
| | | | | | | | 国際政治経済学 | 4 | ・ |
| | 国際金融と世界経済 | 4 | ・ | 国際金融と世界経済 | 4 | ・ | 国際金融論 | 4 | |
| 国際マクロ経済学 | 4 | ・ | 国際マクロ経済学 | 4 | | | | | |
| | 経済数学 | 2 | | 経済数学 | 2 | | 基礎数学 | 4 | |
| | (基礎数学) | 2 | | (基礎数学) | 2 | | | | |
| | 経済学特別講義 | 4 | ・ | 経済学特別講義 | 4 | ・ | 経済学特別講義 | 4 | |
| | | | | | | | 経済学特別講義 | 4 | |
| | | | | | | | 経済学特別講義 | 4 | |
| | 経済学と現代 | 2 | | 経済学と現代 | 2 | | | | |
| | 経済学入門 | 2 | ・ | | | | | | |
| | 経済学入門 | 2 | ・ | | | | | | |
| 研究指導 | 12 | ・ | 研究指導 | 12 | ・ | 研究指導 | 12 | ・ | |

注(1) 左右の対応は科目の対応を表し、修得した科目に対応する科目は履修できない。単一の科目と複数科目が対応する場合は、いずれの組み合わせの科目も対応科目となる。

(2) 平成13年度カリの「基礎数学」は、基礎科目(知の基礎系)である。

イ 商 学 科

| 講座 | 13年度カリキュラム(17年度以降入学者) | | | 13年度カリキュラム(13-16年度入学者) | | | 9年度カリキュラム(9-12年度入学者) | | |
|-------------|-----------------------|----|-------------|------------------------|----|-------------|----------------------|----|------|
| | 授業科目 | 単位 | 配当年次 | 授業科目 | 単位 | 配当年次 | 授業科目 | 単位 | 配当年次 |
| 商 学 | 流通システム論 | 2 | ・ | 流通システム論 | 4 | | 流通システム論 | 4 | |
| | 流通システム論 | 2 | | | | | | | |
| | マーケティング | 4 | | マーケティング | 4 | | マーケティング | 4 | |
| | マーケティング行動論 | 4 | ・ | マーケティング行動論 | 4 | ・ | マーケティング行動論 | 4 | ・ |
| | チャネル・マネジメント | 4 | ・ | チャネル・マネジメント | 4 | ・ | 流通政策 | 4 | ・ |
| | 国際マーケティング | 4 | ・ | 国際マーケティング | 4 | ・ | 国際マーケティング | 4 | ・ |
| | 貿易論 | 4 | ・ | 貿易論 | 4 | | 貿易論 | 4 | |
| | 地域市場システム論 | 4 | ・ | 地域市場システム論 | 4 | ・ | 地域市場システム論 | 4 | ・ |
| | 保険論 | 4 | ・ | 保険論 | 4 | ・ | 保険論 | 4 | ・ |
| | 社会と金融 | 2 | | 社会と金融 | 2 | | 金融システム論 | 2 | |
| | 金融市場論 | 4 | ・ | 金融市場論 | 4 | ・ | 金融市場論 | 4 | ・ |
| | 銀行論 | 4 | ・ | 銀行論 | 4 | ・ | 銀行論 | 4 | ・ |
| | 商学特講 | 4 | ・ | 商学特講 | 4 | ・ | 商学特講 | 4 | ・ |
| | | | | | | | 商学特講 | 4 | ・ |
| 経 営 学 | 経営学原理 | 2 | ・ | 経営学原理 | 4 | | 経営学原理 | 4 | |
| | 経営学原理 | 2 | | | | | | | |
| | 経営学説史 | 4 | ・ | 経営学説史 | 4 | ・ | 経営学説史 | 4 | ・ |
| | 企業形態論 | 4 | ・ | 企業形態論 | 4 | ・ | 企業形態論 | 4 | ・ |
| | 経営管理論 | 4 | | 経営管理論 | 4 | | 経営管理論 | 4 | |
| | 労務管理論 | 4 | ・ | 労務管理論 | 4 | ・ | 労務管理論 | 4 | ・ |
| | 財務管理論 | 4 | ・ | 財務管理論 | 4 | ・ | 財務管理論 | 4 | ・ |
| | | | | | | | 比較経営史 | 4 | ・ |
| | 国際経営論 | 4 | ・ | 国際経営論 | 4 | ・ | 国際経営論 | 4 | ・ |
| | 経営史 | 4 | | 経営史 | 4 | | 経営史 | 4 | |
| | エコロジーと経営戦略 | 2 | ・ | エコロジーと経営戦略 | 2 | ・ | エコロジーと経営戦略 | 4 | ・ |
| | 地域企業論 | 4 | ・ | 地域企業論 | 2 | ・ | 地域企業論 | 4 | ・ |
| | 経営学特講 | 2 | ・ | 経営学特講 | 2 | ・ | 経営学特講 | 4 | ・ |
| | | | | | | | 経営学特講 | 4 | ・ |
| 会 計 学 | 簿記原理 | 2 | | 簿記論 | 4 | | 簿記論 | 4 | |
| | 応用簿記 | 2 | | | | | | | |
| | 経営と会計 | 2 | | 経営と会計 | 2 | | | | |
| | 財務会計論 | 4 | | 財務会計論 | 4 | | 財務会計論 | 4 | |
| | 原価計算論 | 4 | | 原価計算論 | 4 | | 原価計算論 | 4 | |
| | 管理会計論 | 4 | ・ | 管理会計論 | 4 | | 管理会計論 | 4 | |
| | 監査論 | 4 | ・ | 監査論 | 4 | ・ | 監査論 | 4 | ・ |
| | 国際会計論 | 4 | ・ | 国際会計論 | 4 | ・ | 国際会計論 | 4 | ・ |
| | 組織と会計 | 2 | ・ | 組織と会計 | 2 | ・ | 組織と会計 | 4 | ・ |
| | 税務会計論 | 4 | ・ | 税務会計論 | 4 | ・ | 税務会計論 | 4 | ・ |
| | 会計学特講 | 2 | ・ | 会計学特講 | 2 | ・ | 会計学特講 | 4 | ・ |
| | | | | | | | 会計学特講 | 4 | ・ |
| | (基礎数学) | 2 | | (基礎数学) | 2 | | 基礎数学 | 4 | |
| | | | | | | | 専門準備演習 | 4 | |
| 英語コミュニケーション | 2 | | 英語コミュニケーション | 2 | | 英語コミュニケーション | 2 | ・ | |
| 英語コミュニケーション | 2 | | 英語コミュニケーション | 2 | | 英語コミュニケーション | 2 | ・ | |
| 比較文化 | 2 | | 比較文化 | 2 | | 比較文化 | 2 | ・ | |
| 比較文化 | 2 | | 比較文化 | 2 | | 比較文化 | 2 | ・ | |
| 研究指導 | 12 | ・ | 研究指導 | 12 | ・ | 研究指導 | 12 | ・ | |

注(1) 左右の対応は科目の対応を表し、修得した科目に対応する科目は履修できない。単一の科目と複数科目が対応する場合は、いずれの組み合わせの科目も対応科目となる。

(2) 平成13年度カリの「基礎数学」は、基礎科目(知の基礎系)である。

ウ 企業法学科

| 講座 | 13年度カリキュラム(17年度以降入学者) | | | 13年度カリキュラム(13~16年度入学者) | | | 9年度カリキュラム(9~12年度入学者) | | |
|-------|-----------------------|----|-------|------------------------|----|-------|----------------------|----|------|
| | 授業科目 | 単位 | 配当年次 | 授業科目 | 単位 | 配当年次 | 授業科目 | 単位 | 配当年次 |
| 基礎法 | 法学 | 2 | | 法学 | 2 | | 法学 | 2 | |
| | 憲法・基礎 | 2 | ・ | 憲法 | 4 | | 憲法 [総論・人権] | 4 | |
| | 憲法・基礎 | 2 | | | | | | | |
| | 憲法 | 4 | | 憲法 | 4 | | 憲法 [統治機構論] | 4 | |
| | 行政法 | 4 | ・ | 行政法 | 4 | ・ | 行政法 [総論] | 4 | |
| | 行政法 | 4 | ・ | 行政法 | 4 | ・ | 行政法 [各論] | 4 | |
| | 租税法 | 4 | ・ | 租税法 | 4 | ・ | 租税法 | 4 | ・ |
| | 民法・基礎 | 2 | ・ | 民法 | 4 | | 民法 [総論] | 4 | |
| | 民法・基礎 | 2 | | | | | | | |
| | 民法 | 4 | | 民法 | 4 | | 民法 [契約法] | 4 | |
| | 民法 | 4 | ・ | 民法 | 4 | ・ | 民法 [担保法] | 4 | ・ |
| | 民法 | 2 | ・ | 民法 | 2 | ・ | 民法 [特講] | 2 | ・ |
| | 刑法 | 4 | | 刑法 | 4 | | 刑法 | 4 | |
| | 刑事法特講 | 4 | ・ | 刑事法特講 | 4 | ・ | 刑事法特講 | 4 | ・ |
| | 国際法 | 4 | | 国際法 | 4 | | 国際法 | 4 | |
| | 国際機構論 | 4 | | 国際機構論 | 4 | | 国際機構論 | 4 | |
| | 比較法 | 2 | ・ | 比較法 | 2 | ・ | 比較法 | 2 | ・ |
| | 基礎法特講 | 4 | | 基礎法特講 | 4 | | 基礎法特講 | 4 | ~ |
| 企業法 | 商法 | 4 | | 商法 | 4 | | 商法 [会社法] | 4 | |
| | 商法 | 4 | ・ | 商法 | 4 | ・ | 商法 [商取引法] | 4 | |
| | 商法 | 4 | ・ | 商法 | 4 | ・ | 商法 [有価証券法] | 4 | ・ |
| | 民事手続法 | 4 | | 民事手続法 | 4 | | 民事手続法 | 4 | |
| | 倒産処理法 | 2 | ・ | 倒産処理法 | 2 | ・ | 倒産処理法 | 2 | ・ |
| | 経済法 | 4 | ・ | 経済法 | 4 | ・ | 経済法 | 4 | |
| | 知的財産権法 | 4 | ・ | 知的財産権法 | 4 | ・ | 知的財産権法 | 4 | |
| | 労働法 | 4 | ・ | 労働法 | 4 | ・ | 労働法 | 4 | |
| | 社会保障法 | 4 | ・ | 社会保障法 | 4 | ・ | 社会保障法 | 4 | |
| | 環境法 | 4 | ・ | 環境法 | 4 | ・ | 環境法 | 4 | |
| | 国際経済法 | 4 | ・ | 国際経済法 | 4 | ・ | 国際経済法 | 4 | |
| | 国際取引法 | 4 | ・ | 国際取引法 | 4 | ・ | 国際取引法 | 4 | |
| 企業法特講 | 4 | | 企業法特講 | 4 | | 企業法特講 | 4 | ~ | |
| 研究指導 | 12 | ・ | 研究指導 | 12 | ・ | 研究指導 | 12 | ・ | |

注(1) 左右の対応は科目の対応を表し、修得した科目に対応する科目は履修できない。単一の科目と複数科目が対応する場合は、いずれの組み合わせの科目も対応科目となる。

工 社会情報学科

| 講座 | 13年度カリキュラム(17年度以降入学者) | | | 13年度カリキュラム(13~16年度入学者) | | | 9年度カリキュラム(9~12年度入学者) | | |
|----------|-----------------------|----|----------|------------------------|----|---------|----------------------|----|------|
| | 授業科目 | 単位 | 配当年次 | 授業科目 | 単位 | 配当年次 | 授業科目 | 単位 | 配当年次 |
| 計画科学 | | | | | | | 計画数理 | 4 | ・ |
| | オペレーションズ・リサーチ | 2 | | オペレーションズ・リサーチ | 2 | | オペレーションズ・リサーチ | 4 | |
| | 統計科学 | 2 | | 統計科学 | 2 | | 統計科学 | 4 | |
| | 計画数学 | 2 | | 計画数学 | 2 | | 計画数学 | 4 | ・ |
| | 計画数学 | 2 | | 計画数学 | 2 | | | | |
| | 応用統計 | 2 | ・ | 応用統計 | 2 | ・ | 応用統計 | 4 | ・ |
| | 社会計画 | 4 | ・ | 社会計画 | 4 | ・ | 社会計画 | 4 | |
| | | | | | | | 社会計画 | 4 | ・ |
| | 計画科学 | 4 | ・ | 計画科学 | 4 | ・ | 計画科学 | 4 | |
| | | | | | | | 計画科学 | 4 | ・ |
| 意思決定論 | 4 | ・ | 意思決定論 | 4 | ・ | 計画科学 | 4 | ・ | |
| | | | | | | (2) | (H13) | | |
| | | | | | | 計画科学特講 | 2 | ・ | |
| | | | | | | 計画科学特講 | 2 | ・ | |
| 組織と情報 | 経営システム基礎 | 2 | | 経営システム基礎 | 2 | | 組織と情報基礎 | 2 | |
| | プロジェクト実践論 | 2 | | プロジェクト実践論 | 2 | | プロジェクト管理基礎 | 2 | |
| | 組織コミュニケーション論 | 2 | | 組織コミュニケーション論 | 2 | | 組織コミュニケーション論 | 2 | |
| | 応用プロジェクト方法論 | 2 | ・ | 応用プロジェクト方法論 | 2 | ・ | 経営情報論 | 2 | ・ |
| | 組織情報論 | 2 | ・ | 組織情報論 | 2 | ・ | 組織情報論 | 2 | ・ |
| | ビジネスシステム論 | 2 | ・ | ビジネスシステム論 | 2 | ・ | 会計情報論 | 2 | ・ |
| | 社会情報論 | 2 | ・ | 社会情報論 | 2 | ・ | 行政と情報 | 2 | ・ |
| | | | | | | | 情報社会論 | 2 | ・ |
| | 情報システム管理論 | 2 | | 情報システム管理論 | 2 | | 情報システム管理論 | 4 | ・ |
| | 情報システム構築論 | 2 | ・ | 情報システム構築論 | 2 | ・ | | | |
| | デジタルデザイン論 | 2 | | デジタルデザイン論 | 2 | | | | |
| | ビジネスデザイン論 | 2 | ・ | ビジネスデザイン論 | 2 | ・ | プロジェクト管理論 | 2 | ・ |
| | | | | | | | 組織と情報特講 | 2 | ・ |
| | | | | | | 組織と情報特講 | 2 | ・ | |
| 社会と情報 | 情報処理 | 4 | | 情報処理 | 4 | | 情報処理 | 4 | |
| | | | | | | | 情報システム基礎 | 4 | |
| | 情報数理 | 2 | | 情報数理 | 2 | | 情報数理 | 2 | |
| | 知識科学基礎 | 2 | | 知識科学基礎 | 2 | | 知識科学基礎 | 2 | |
| | 認知科学 | 4 | ・ | 認知科学 | 4 | ・ | 知識情報論 | 4 | ・ |
| | ソフトウェア科学 | 4 | ・ | ソフトウェア科学 | 4 | ・ | ソフトウェア科学 | 4 | |
| | | | | | | | ソフトウェア科学 | 4 | ・ |
| | コンピュータネットワーク論 | 4 | ・ | コンピュータネットワーク論 | 4 | ・ | 情報システム | 4 | ・ |
| | | | | | | | 情報活用 | 4 | |
| | 情報と職業 | 2 | ・ | 情報と職業 | 2 | ・ | 情報教育論 | 4 | ・ |
| | | | | | | 情報科学特講 | 2 | ・ | |
| | | | | | | 情報科学特講 | 2 | ・ | |
| 社会情報入門 | 社会情報入門 | 2 | | 社会情報入門 | 2 | | 組織と情報概論 | 2 | |
| | | | | | | | 社会と情報概論 | 2 | |
| | 計画科学基礎 | 2 | ・ | 社会情報入門 | 2 | | 計画科学概論 | 2 | |
| | | | | | | | 統計学基礎 | 2 | |
| | 情報処理基礎 | 2 | ・ | 情報処理基礎 | 2 | | 情報処理基礎 | 4 | |
| | 社会情報特講 | 2 | ・ | 社会情報特講 | 2 | ・ | | | |
| | 社会情報特講 | 2 | ・ | 社会情報特講 | 2 | ・ | | | |
| | 社会情報特講 | 2 | ・ | 社会情報特講 | 2 | ・ | | | |
| | (基礎数学) | 2 | | (基礎数学) | 2 | | 基礎数学 | 4 | |
| (情報処理入門) | 2 | | (情報処理入門) | 2 | | (総合科目) | 2 | | |
| 研究指導 | 12 | ・ | 研究指導 | 12 | ・ | 研究指導 | 12 | ・ | |

注(1) 左右の対応は科目の対応を表し、修得した科目に対応する科目は履修できない。単一の科目と複数科目が対応する場合は、いずれの組み合わせの科目も対応科目となる。

(2) 13年度カリの基礎科目のうち「基礎数学」、「情報処理入門」は、社会情報学科の9年度カリ専門科目(各2単位)とみなす。

表3

専門共通科目の科目対応

| 系 | 13年度カリキュラム(17年度以降入学者) | | | 系 | 13年度カリキュラム(13~16年度入学者) | | | 9年度カリキュラム(9~12年度入学者) | | |
|----------------|-----------------------|----|-------|-------------|------------------------|------|-------------|----------------------|----|------|
| | 授業科目 | 単位 | 配当年次 | | 授業科目 | 単位 | 配当年次 | 授業科目 | 単位 | 配当年次 |
| 専門 共通 科目 | 現代哲学論 | 4 | | 現代哲学論 | 4 | | 現代哲学論 | 4 | ・ | |
| | 現代心理学 | 4 | | 現代心理学 | 4 | | 現代心理学 | 4 | ～ | |
| | | | | | | | 文化人類学 | 4 | ・ | |
| | | | | | | | 比較文学論 | 4 | ・ | |
| | 文学と人間 | 4 | | 文学と人間 | 4 | | 文学と人間 | 4 | ・ | |
| | 現代思想 | 4 | | 現代思想 | 4 | | 現代思想 | 4 | ・ | |
| | 現代の社会 | 4 | | 現代の社会 | 4 | | 現代の社会 | 4 | ・ | |
| | 歴史と社会 | 4 | | 歴史と社会 | 4 | | 歴史と社会 | 4 | ～ | |
| | | | | | | | 現代社会と教育 | 4 | ・ | |
| | 政治心理学 | 4 | | 政治心理学 | 4 | | 政治心理学 | 4 | ・ | |
| | 国際関係論 | 2 | | 国際関係論 | 2 | | 国際関係論 | 2 | ～ | |
| | 地球環境科学 | 4 | | 地球環境科学 | 4 | | 自然と環境 | 4 | ・ | |
| | 環境の分析化学 | 4 | | 環境の分析化学 | 4 | | 自然と化学 | 4 | | |
| | 自然と物理学 | 4 | | 自然と物理学 | 4 | | 自然と物理学 | 4 | | |
| | 食糧生産と環境 | 4 | | 食糧生産と環境 | 4 | | 自然と生物学 | 4 | | |
| | | | | | | | 環境と社会 | 4 | ・ | |
| | 現代の数学 | 4 | | 現代の数学 | 4 | | 現代の数学 | 4 | ～ | |
| | 現代の数学 | 4 | | | | | 現代の数学 | 4 | ・ | |
| | | | | | | | スポーツと社会 | 4 | ・ | |
| | | | | | | | 労働科学 | 4 | ・ | |
| | | | | | | | 体力の科学 | 4 | ・ | |
| | 人間科学論 | 4 | | 人間科学論 | 4 | | | | | |
| | 国際コミュニケーション | 4 | | 国際コミュニケーション | 4 | | 国際コミュニケーション | 4 | ・ | |
| | 上級外国語 | 4 | ・ | 上級外国語 | 4 | ・ | | | | |
| | 上級外国語 | 4 | ・ | 上級外国語 | 4 | ・ | | | | |
| | ビジネス英語 | 4 | ・ | ビジネス英語 | 4 | ・ | | | | |
| 英語学特講 | 4 | | 英語学特講 | 4 | | | | | | |
| 英文学特講 | 4 | | 英文学特講 | 4 | | | | | | |
| 研究指導 | 12 | ・ | 研究指導 | 12 | ・ | 研究指導 | 12 | ・ | | |

注(1) 左右の対応は科目の対応を表し、修得した科目に対応する科目は履修できない。単一の科目と複数科目が対応する場合は、いずれの組み合わせの科目も対応科目となる。

基礎科目

| | | | | |
|--|-------------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 哲学 A・B | <Phibsophy> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 久保田 顕二 | <Kenji Kubota> | 研究室番号<Office> | 343 |
| Office Hours | 水曜日 16:30 ~ 17:30 | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>哲学(西洋哲学)の歴史を学ぶことを通じて、哲学の基本的な考え方を身に付ける。哲学の歴史は大きく、「古代」「中世」「近代」「現代」の4つの時代に区分されるが、今年度は、古代ギリシアにおける哲学発祥の最初期からではなくその黄金期から話を始め、近代哲学に至るまでの歴史をやや詳しくたどる。それ以外の時代における哲学については、適宜、話の中に織り交ぜて説明する。</p> | | <p>テキストは使用しないが、参考文献を随時紹介する。</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>(1) 序論 哲学とは何か (2) 哲学史の時代区分 (3) ソフィストとソクラテス (4) プラトンの哲学 (5) アリストテレスの哲学 (6) ヘレニズム時代の哲学 (7) 教父哲学とスコラ哲学 (8) 近代哲学の特徴 (9) 合理論の哲学 (10) 経験論の哲学</p> | | <p>定期試験の成績に平常点(出席状況、等)を加味する。 なお、試験の直前の週に試験準備用の資料を配布する。その資料とは、答案作成の要領と、実際に出題される設問を含むさまざまな設問との両者を記載したもの。ただし、記載された設問のうちどれが出題されるかは指示されていないので、試験準備にあたっては、すべての設問についてその解答を事前に練っておくことが要求される。</p> | | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>断片的で雑学的な「知識」や「教養」を身に付けようとするによりも、むしろ、思想的な内容を知的に把握したり、思想発展のダイナミズムを捉えたりすることのほうに、より大きな関心を向けてほしい。定期試験においても、細かな事項の記憶を試すような類いの設問は極力出題しないようにする。</p> | | |

| | | | | |
|--|------|---|---------------|----|
| 科目名<Subject> | 論理学 | <Logics> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 斉藤 健 | <Ken Saito> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 4. 述語論理 | | |
| <p>この授業の目的は論理学の基本を身につけてもらうことである。まず論理学はどのような経緯で成立し、何を扱うのかを概観する。次に、「かつ」「または」「ない」「ならば」といった論理結合子によって構成される文の真偽と推論を扱う命題論理について学習する。命題論理の意味論、特に真理表とトートロジーについて学ぶ。</p> <p>また、論理結合子等に関する自然な推論規則からなる演繹としての自然演繹による証明法を練習する。それから、「すべての」「ある」といった量化子と述語を含む論理式を扱う述語論理について学習する。量化子に関する推論規則を導入し、述語論理における論理式に関する推論を学ぶ。</p> <p>また述語論理の意味論の基本を理解することで、言語と世界の関係を深く考察する機会を得たい。</p> | | <p>述語と量子子 述語論理の意味論 言語と構造、充足・真・妥当</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>1. 論理学とその歴史 形式化・人工言語・論理結合子 2. 命題論理 命題論理の意味論 真理表とトートロジー 論理的帰結 3. 自然演繹による証明法 推論規則と証明</p> | | <p>教科書：金子洋之『記号論理入門』(産業図書) 参考書：戸田山和久『論理学をつくる』(名古屋大学出版会)</p> | | |
| | | 4. 成績評価の方法<Grading> | | |
| | | <p>定期試験を中心に評価する。</p> | | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | | |
|--|-------------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 倫理学 | <Ethics> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 | |
| 担当教員名<Name> | 久保田 顕二 | <Kenji Kubota> | 研究室番号<Office> | 343 |
| Office Hours | 水曜日 16:30 ~ 17:30 | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>倫理的に「善い・悪い」「正しい・不正である」ということが何を意味するのかを、身の回りのアクチュアルな倫理問題を題材としながら考えていく。倫理学の応用的な問題(生命倫理学や環境倫理学の個別的な諸問題)を取り上げて考察し、それと同時に、それらの問題を理論的に処理するための概念的枠組みとなる体系的倫理思想を紹介する。説明の順序としては、まず倫理思想の紹介を行う。</p> | | <p>テキストは使用しないが、参考文献を随時紹介する。</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>(1) 序論 倫理学とは何か (2) 功利主義とカント倫理学 (3) 脳死問題と臓器移植問題 (4) オートノミー(自律)とパターンリズム (5) 遺伝子研究の倫理問題 (6) 環境倫理学</p> <p>取り上げる順序には若干変動があるかもしれないが、また予定外のテーマを挿入することもある。</p> | | <p>定期試験の成績に平常点(出席状況、等)を加味する。</p> <p>なお、試験の直前の週に試験準備用の資料を配布する。その資料とは、答案作成の要領と、実際に出題される設問を含むさまざまな設問との両者を記載したもの。ただし、記載された設問のうちどれが出題されるかは指示されていないので、試験準備にあたっては、すべての設問についてその解答を事前に練っておくことが要求される。</p> | | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>高等学校の「倫理」とは内容的に一部分しか重なっていないので、高校時代に「倫理」を履修していなくてもこの授業の理解にはほとんど差し障りがない。また、一部分しか重なっていないというのは、高等学校の「倫理」のほうが、厳密な意味での「倫理学」からは外れる内容を多く含んでしまっているためである(「心理学」、「宗教学」で扱われる内容も含んでいる)。</p> | | |

| | | | | |
|--|-----------------|---|---------------|--------|
| 科目名<Subject> | 心理学 | <Psychology> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 | |
| 担当教員名<Name> | 杉山 成 | <Shigeru Sugiyama> | 研究室番号<Office> | 心理学実験室 |
| Office Hours | 火 17:30 ~ 18:30 | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>基礎科目では、心理学を初めて学ぶ学生のために、基本的な理論や概念の解説を行います。心理学では、基礎的な領域である「知覚心理学」「学習心理学」の領域を中心に、人間の情報処理のメカニズムについて解説します。基本的に講義形式で進めますが、必要に応じて簡単な実験・調査の実施も行う予定です。</p> <p>授業目標は次の2点になります。1. 心理学の実証的パラダイムを学ぶことによって、日常の出来事をより科学的にとらえる観点を習得する。2. 情報処理のメカニズムへの理解を深め、自己と環境の関係について考える。</p> | | <p>テキストは使用せず、適宜、資料プリントを配布します。</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>1. 心理学の方法(心理学の歴史・心理学の対象と方法) 2. 感覚と知覚(順応と対比・図と地の分化・空間知覚) 3. 記憶と忘却の過程(記憶過程モデル・忘却理論) 4. 問題解決(ヒューリスティック・確証バイアス) 5. 学習のメカニズム(条件づけ・観察学習・問題解決)</p> <p>以上の事項について、それぞれ複数回の講義を行います。</p> | | <p>学期末の筆記試験と平常点(出席状況および提出レポートの内容)を総合し、授業目標の達成度に応じて判断します。配分は筆記試験60%、平常点40%です。</p> <p>ただし、出席が基準に満たない場合には、筆記試験を受験することができませんので注意してください。</p> | | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>履修希望者が教室の収容人数を超過する場合には、抽選による履修制限を行ないますので、第1回目の授業(オリエンテーション)に必ず出席してください。</p> | | |

| | | | |
|--|-----------------|--|---------------|
| 科目名<Subject> | 心理学 A・B | <Psychology > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 杉山 成 | <Shigeru Sugiyama> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | 火 17:30 ~ 18:30 | | 心理学実験室 |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 5 現代社会における健康の心理（環境と健康、ライフスタイルと健康） | |
| 基礎科目では、心理学を初めて学ぶ学生のために、基本的な理論や概念の解説を行います。心理学では、精神・身体面における健康増進や疾病予防を考える「健康心理学」の領域を中心に解説します。この領域には、性格や行動における個人差を研究する「パーソナリティ心理学」や、心的機能・過程の発達の変化を研究する「発達心理学」の内容が含まれます。基本的に講義形式で進めますが、自己理解のための調査やテスト実習なども行う予定です。 | | 以上の事項について、それぞれ複数回の講義を行います。 | |
| 授業目標は次の2点になります。1. 自分や他者を主観や直感とは違った観点から、より深くとらえるために、パーソナリティ理論や発達段階の心理的特徴について理解する。2. 心の健康・不健康のメカニズムを理解することを通して、現代社会における逞しい生き方について考える。 | | 3 使用教材<Teaching materials> テキストは開講時に指示します。 | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> 学期末の筆記試験と平常点（出席状況および提出レポートの内容）を総合し、授業目標の達成度に応じて判断します。配分は筆記試験60%、平常点40%です。 ただし、出席が基準に満たない場合には、筆記試験を受験することができませんので注意してください。 | |
| 1. 健康の心理的基礎（欲求不満と適応機制、ストレスとコーピング） | | 5 履修上の注意事項<Remarks> 履修希望者が教室の収容人数を超過する場合には、抽選による履修制限を行ないます。履修制限の手続きについては、前期の履修登録期間に連絡しますので、掲示に十分注意してください。この手続きを行わない場合には、履修登録をしても受講できない可能性があります。 | |
| 2. 生涯発達と健康心理（児童期・青年期・成人期・老年期） | | | |
| 3. 心理的アセスメント（パーソナリティ理論、アセスメントの方法） | | | |
| 4. 健康のための心理的サポート（心理療法・カウンセリング） | | | |

| | | | |
|--|-------------------|---|---------------|
| 科目名<Subject> | 教育学 | <Pedagogy> | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 上野耕三郎 岡部善平 | <Kozaburo Ueno/Yoshie Okabe> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | 事前にメールで連絡をしてください。 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 70年代以降の高度資本主義社会のなかでの学校の位置づけ。 | |
| 「いじめ」「不登校」「学習意欲の低下」などの学校現象がマスメディアでしばしばとり上げられている。しかし、一歩踏み込んで考えてみようとしても、じゅうぶん納得のいく説明を得ることはなかなかない。そのひとつの理由は、既存の教育にかんするもの言いが現実を切りとるのに有効性をなくしてしまっているからではないだろうか。 | | 皆さんは「受験競争」のなかをくぐり抜けてきたのだろうか？受験圧力が高まっているのだろうか？ | |
| この授業では、学校現象に直接アプローチするのではなく、もう少し迂回路を通して学校現象への接近を試みる。その結果、教育あるいは学校をめぐる既存のことばが現実と切り結ぶことがなく、編みかえが必要である、ということがわかれば、すくなくとも授業の意図は達せられたことになる。 | | いまの子どもたちの目に映る学校 情報の波のなかを軽やかに泳ぐ子どもたちにとって、学校や教師はどのような存在なのだろうか？ | |
| 授業は講義、書く作業、ビデオ視聴などによってすすめる。 | | 組織としての学校の特徴 学校教育をめぐる諸問題は、学校が本来もっている仕組みや形に由来するのではないだろうか？ | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 3 使用教材<Teaching materials> テキストは用いない。必要に応じて資料は配付する | |
| 私たちは現代の教育あるいは学校現象を考える視点を、どのように設定したらよいのだろうか？ | | 4 成績評価の方法<Grading> 試験による。 | |
| その視点を得るためには以下のことを順を追って考えてみる。 | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| 近代日本社会のなかでの学校の役割はどのようなものであったのか。揺るぎのない学校の「絶対性」あるいは「聖性」のもとで、人々は自らそして子弟を学校へと通わせた。 | | | |

| | | | |
|---|---|------------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 日本文学 | <Japanese Literature > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 中村 史 | <Fumi Nakamura> | 研究室番号<Office> 405 |
| Office Hours | 面談を希望される方はまず電子メールにてご連絡ください | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| この授業は題して「説話文学の世界」とし、日本の文学と文化の一端を知っていただく機会にしたいと思っています。日本の説話文学作品、『日本霊異記』『三宝絵』『今昔物語集』『宇治拾遺物語』等の説話を取り上げ、口承文芸をも範囲とします。仏教等の思想に触れつつ、また、インド、中国の説話文学作品との比較の視点を持ちつつ授業を進めます。 | テキストはとくに定めません。参考文献は授業中に紹介してゆきます。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| ・オリエンテーション | その方法については履修者の状況を見て最終的に決定します。基本的には定期試験、レポート、および小レポート（数回）によって評価する予定です。 | | |
| ・説話とは何か | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| ・説話と説話集のいろいろ | 履修者は古典文法を修得し、かつ古文・漢文をある程度以上読めることが望ましい。 | | |
| ・『信貴山縁起絵巻』『飛倉の巻』 | なお、履修や成績評価等の重要なこと regarding について電子メール上で対応することはできません。かならず電子メールで予約を取って研究室を訪問してください。 | | |
| ・狐女房譚 | | | |
| ・ジャータカ説話 シビ王本生譚、スタノーマ王本生譚など | | | |
| ・月の兎、猿の生き胆 | | | |
| ・沖縄の口承文芸 | | | |
| ・その他 | | | |
| *履修者の状況を見て予定を変更することはあり得ます。 | | | |

| | | | |
|---|---|------------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 日本文学 A・B | <Japanese Literature > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 中村 史 | <Fumi Nakamura> | 研究室番号<Office> 405 |
| Office Hours | 面談を希望される方はまず電子メールにてご連絡ください | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| この授業は題して「古典文学の世界」とし、日本の文学と文化の一端を知っていただく機会にしたいと思っています。日本の古典文学作品のなかでも、たとえば、『古事記』『日本書紀』『風土記』『万葉集』『大和物語』『伊勢物語』『竹取物語』『平家物語』『雨月物語』等のうちのいくつかを取り上げます。また、琉球の古典をも範囲とし、口承文芸をも視野に入れます。中国やそれ以外の外国文学の作品との比較の視点を持ちつつ授業を進めます。 | テキストはとくに定めません。参考文献は授業中に紹介してゆきます。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| ・オリエンテーション | その方法については履修者の状況を見て最終的に決定します。基本的には定期試験、レポート、および小レポート（数回）によって評価する予定です。 | | |
| ・開闢神話 日本と琉球 | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| ・海幸・山幸、ヤマタノヲロチ | 履修者は古典文法を修得し、かつ古文・漢文をある程度以上読めることが望ましい。 | | |
| ・浦島の文学 | なお、履修や成績評価等の重要なこと regarding について電子メール上で対応することはできません。かならず電子メールで予約を取って研究室を訪問してください。 | | |
| ・一条戻橋をめぐる文学 | | | |
| ・生田川伝説 | | | |
| ・『平家物語』の女性たち | | | |
| ・『出雲風土記』の世界 | | | |
| ・沖縄の口承文芸 | | | |
| ・その他 | | | |
| *履修者の状況を見て予定を変更することはあり得ます。 | | | |

| | | | | |
|--|-----------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 外国文学 | <Foreign Literature > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 萩原 正樹 | <Masaki Hagiwara> | 研究室番号<Office> | 327 |
| Office Hours | 火 13:30 ~ 15:30 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>中国文学の世界は豊潤で広大であるが、詩詞を中心に講じていきたい。講義を基本とするが、受講者数によっては、ゼミ形式の授業も取り入れ、具体的なテーマについての調査・発表・質疑応答なども行ってもらいたいと考えている。</p> | | <p>テキスト:中国芸文研究会編『修訂中国文学概論』(中国芸文研究会出版部) また適宜プリントも用いる。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>1) 中国文学の特質 2) 詩経 3) 楚辞 4) 楽府と古詩 5) 六朝詩 6) 唐詩 7) 宋詩 8) 詞</p> | | <p>定期試験、レポート、出席状況等を総合して評価する。レポートについては授業中に指示するが、提出無き者には単位を認定しない。</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>テキストは、生協を通さず、最初の授業時に教室にて実費で販売する。</p> | | |

| | | | | |
|--|-------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 言語学 | <Linguistics> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 山田 久就 | <Hisanari Yamada> | 研究室番号<Office> | 542 |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>人間のことば(言語)を研究する学問を言語学と呼びます。人間のことばを対象にする研究は全て広い意味で言語学に含まれます。したがって、言語学には広範な研究分野があります。しかし、言語学で最も研究が盛んな分野は文法研究です。文法研究では、個別の言語の文法とともに、世界の諸言語の文法における多様性と一般性・普遍性が研究の対象になります。</p> <p>文法研究の各分野における研究対象(どのようなことに関心を持たれるのか)と研究方法(どのように研究するのか)について学びます。</p> | | <p>基本的には、コンピュータ画面をプロジェクターに投射したものを教材とします。</p> <p>http://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/classes/linguistics (学内からのみアクセス可)にpdfファイルを置きますので各自プリントして持ってきてください。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>次のテーマを数回ずつ扱います。</p> <p>・言語と言語学 ・音韻論(音についての研究) ・形態論(語のしくみについての研究) ・統語論(文のしくみについての研究)</p> <p>いろいろななじみのない言語のデータが出てきます。</p> | | <p>定期試験: 75%。 小テスト(5回): 25%。小テストは予告せずに行います。 授業への参加態度: 上記の合計から減点。</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>教室の収容人数を基準に履修制限を行うので、オリエンテーションに必ず出席してください。オリエンテーションの前にhttp://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/classes/linguistics (学内からのみアクセス可)を参考にしてください。</p> | | |

| | | | | |
|---|---------------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 日本語学 | <Japanese Linguistics> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 | |
| 担当教員名<Name> | 高野 寿子 | <Hisako Takano> | 研究室番号<Office> | 434 |
| Office Hours | Mo & We 12:30-13:30 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>This course serves as an introduction to Japanese Linguistics, a scientific study of the Japanese spoken language. We observe certain linguistic phenomenon, i.e. native speakers' utterances, describe them and analyze them using some linguistic tools and frameworks, and finally make efforts in finding some regularities (descriptive rules/grammar). For native Japanese students, this course will provide an occasion to become aware of what you know when you know the Japanese language (i.e. knowledge, or competence) and capable of conceiving it objectively. Non-native foreign students, who have been mainly exposed to some prescriptive grammar in order to improve your language skills, will have a conceptual understanding of the Japanese as a language system. Grasping the Japanese as a language system objectively will enable us to compare the Japanese language with other systems. In doing so, we will also learn universality and particularity of languages.</p> | | <p>Extracts from: <i>Introduction to Japanese Linguistics</i>, Natsuko Tsujimura, Blackwell Publisher <i>Japanese Syntax and Semantics</i>, S.-Y. Kuroda, Kluwer Academic Publishers</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>In this course, first we learn some basics in linguistics as theoretical tools and frameworks by which we describe and analyze some linguistic phenomena. Then we will read some extracts from some research papers on particular topics (e.g. the notion of subject, passive). Finally, we gather some linguistic data, and give them some descriptions and analyses, hopefully using some of those linguistic tools and theoretical frameworks we learn.</p> | | <p>Mid-term (Short Answer Exam) 40% Oral reports on the assigned readings 20% Term paper 40%</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | なし | | |

| | | | | |
|---|---------|---|---------------|--|
| 科目名<Subject> | 比較日本文化論 | <Comparative Studies of Japanese Culture> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 | |
| 担当教員名<Name> | マーク・ジボー | <Mark G beau> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>「日本」とは何か? 「日本人」とはどういう人なのか? この授業では上記の質問を答えようとした、あるいは答えるために使われた小説、エッセイ、映画等を検討する。「日本」や「日本人」のアイデンティティーを定義させようとするテキストの戦略や方法論を歴史的・政治的な背景を参照にしながら考えていく。最後に現代メディアにより形成されている「日本」や「日本人」の表象の仕方を分析しながら、われわれの世界観がどう影響されているかを考える。</p> | | <p>(多少変更される可能性あり) 山本常朝『葉隠』(一部); 新渡戸稲造『武士道』(一部); 三島由紀夫『葉隠入門』(一部); 三島由紀夫『憂国』; Jim Jarmusch, <i>Ghost Dog</i>; 岡倉天心『茶の本』(一部); 谷崎潤一郎『陰翳礼讃』; 川端康成『雪国』; 川端康成『美しい日本の私』; 大江健三郎『あいまいな日本の私』; アーサー・ゴルデン『さゆり』; ウィリアム・ギブソン『あいどる』; 村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』; Sofia Coppola, <i>Lost in Translation</i>.</p> | | |
| 授業はグループディスカッション(少人数討論)中心となる。 | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | <p>出席・予習:35%; 参加:35%; ファイナルプロジェクト(グループ発表):30%</p> | | |
| <p>授業は主に四つの課題に分けられる: アイデンティティーの問題 「武士」と日本 「美学」と日本 現代メディアの日本</p> | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | なし | | |

| | | | |
|---|--|------------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 外国語コミュニケーション <Communication in Foreign Languages > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 荻原 達夫 | <Tatsuo Ogiwara> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| ドイツ語によるコミュニケーションの訓練を数多く行なうことにより、外国語で自己表現することの楽しさ(あるいは難しさ)を実感します。短い対話の反復練習、応用練習、ヒアリングを中心とした授業です。 | Angela Braun 他著『ドイツへ行こう!』(同社、2005年) | | |
| 2.授業内容<Course contents> | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| 1つのテーマを2,3回に分けて学習します。かつこ内は文法事項です。 | 授業への参加状況(出席および積極性)と筆記試験(2回実施予定)の成績により評価します。平常点30%、試験70%。 | | |
| (1)挨拶,自己紹介のための表現(疑問文,数詞,所有冠詞) | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| (2)地名,言語名,学科名,趣味の言い方(Alphabet) | 単語がたくさん出てきますので辞書は毎回持参してください。 | | |
| (3)活動・計画を伝える表現(不規則動詞,分離動詞,話法の助動詞) | 出席が授業数の3分の2に満たない場合は成績評価しません。 | | |
| (4)空港,店,駅で必要な表現(時刻,冠詞,否定,格変化) | 履修者が多数の場合は履修制限を行うことがあります。 | | |
| (5)タクシー,カフェ・レストランで使う表現(前置詞) | | | |
| (6)観光で使う表現(前置詞,現在完了,過去) | | | |

| | | | |
|---|---|-------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 外国語コミュニケーション a <Communication in Foreign Languages > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 鈴木 将史 | <Masafumi Suzuki> | 研究室番号<Office> 456 |
| Office Hours | 在室時いつでも可 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| 本授業は、ドイツ語を履修している者を対象に、多様な教材を用いドイツ語の基礎的な受容・発信能力を高め、コミュニケーション能力を養うことを目的とする。特にリスニングと独作文に重点を置くのが本授業の特徴だが、他の能力も相応にトレーニングしたい。 | 『楽しくドイツ語を!』(関口一郎著 郁文堂 1900円、及び『はじめての独作文』大岩信太郎著 朝日出版社 1800円) | | |
| 2.授業内容<Course contents> | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| テキストは音声教材と文字教材からなる。比較的長い文章を毎回読み、文章についての質問を聞き、解答する。独作文テキストも併用し、毎回出された独作文の宿題についてチェックする。ドイツ語の補完的授業と位置づけるので、出来るだけ多くの文章を精力的にこなすことがこの授業での作業となる。 | 定期試験の結果を基本とするが、平常点も加味し、3分の1以上欠席した者は履修資格を失う。 | | |
| | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | 履修者が語学学習に不十分なほど多数の場合は履修制限を行う場合もあるが、その際はドイツ語履修中の者を優先する。 | | |

| | | | |
|---|---|---------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 外国語コミュニケーション b <Communication in Foreign Languages > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 江口 修 | <Samu Eguchi> | 研究室番号<Office> 523 |
| Office Hours | 火・木 14:30~16:00 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>フランス語のクラスで身につけつつあるフランス語の運用能力を大きく発展させるための手がかりを示し、獲得してもらうことが目的。</p> <p>方法としては、フランス語にまつわる学習上のさまざまな困難をとりあげて、その原因と解決法を皆で考えることにする。また、語彙力の養成にも重点を置いて、具体的なメソッドを提示しそれに沿って各自訓練してもらう。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>1) フランス語の成立を知ろう</p> <p>2) 古典語との関わり、そして英語との関係</p> <p>3) ものの見方が違うと言えばよいのか？それとも世界が違うのか？</p> <p>4) でもやっぱり同じ地球の住人だ</p> | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | 江口が作成したパワーポイント教材を用います。ノートのとり方も訓練しよう。 | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | レポートを提出してもらいます。それが6割、残りは出席。 | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | 成績評価に使用するので、できるだけ出席を取る。無断欠席が連続する場合(4回がめやす)は即「不可」となる。 | | |

| | | | |
|---|---|----------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 社会科学 <Social Science> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 佐々木 邦子 | <Kuniko Sasak> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>長きにわたり女性の労働は、役割分担に対する社会的固定観念に依拠する問題が多であった。それはひとり我が国のみではない。1970年代頃からの女性をめぐる世界的な潮流とともに、日本においても女性を対象とする政策が開発された効果もあり、現代は、男性と女性の区別を超えて自由に仕事や生き方の選択がしやすい社会になりつつある。しかしながら、問題の本質解決には至っておらず、逆に性別や同姓間の格差が顕著になっている。</p> <p>本講義では、我が国における戦後の社会や雇用慣行の変遷過程で女性労働が辿った変化を中心に、男女労働者の職業的復活に果たすリカレント教育についても題材にする。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>1. 本講義の目的と進め方</p> <p>2. 日本における労働市場の概況</p> <p>3. 日本における雇用慣行の推移</p> <p>4. "</p> <p>5. 多様な人々の働き方(若年者、高齢者、障がい者、女性)</p> <p>6. "</p> <p>7. 戦後日本における女性労働の実態</p> <p>8. "</p> <p>9. 女性政策の動向 - 世界、日本</p> <p>10. "</p> <p>11. 女性の継続就業を可能にする法制度</p> | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | 12. " 13. 日本におけるリカレント教育 14. " 15. まとめ | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | 3 使用教材<Teaching materials> 必要なプリント教材を配付する。 | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | 4 成績評価の方法<Grading> 定期試験、中間課題、講義への参加状況等を総合的に判断する。 | | |
| | 5 履修上の注意事項<Remarks> 初回の講義で伝える。 | | |

| | | | |
|--|---------------------|--|-------------------|
| 科目名<Subject> | 歴史学 | <History > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 荻野 富士夫 | <Fuji Ogino> | 研究室番号<Office> 415 |
| Office Hours | 火曜日・水曜日 13時から14時30分 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>日本の近現代史全般を対象として、受験や「教科書で教えられなかった歴史」に焦点をあてる。下記のような一見、国家や政治などとはかけ離れたテーマを取り上げるが、それらの思想や活動も深く歴史の進展と結びついていたことを明らかにし、歴史に学ぶことの必要と楽しさを考えたい。一週一テーマの講義形式となる。</p> | | <p>毎回プリント教材を配布するほか、テーマごとに参考文献を紹介する。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・もう一つの開国（コレラ） ・「万歳」の誕生 ・日本の軍隊 ・角田柳作（アメリカの日本研究開拓） ・明治国家と女性 ・大正デモクラシー期の女性 ・戦時下の女性 ・知里幸恵 ・山本宣治と産児制限 ・国防婦人会 ・戦後の女性 ・ウーマン・リブ ・手塚治虫のめざしたもの ・鎌田慧の描いたもの | | <p>定期試験とレポート（テーマは日本近現代の女性史に関するもの、四〇〇〇字以上）、適宜実施する授業への批評アンケートによって総合的に評価する。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |

| | | | |
|---|---------------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 歴史学 | <History > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 荻野 富士夫 | <Fuji Ogino> | 研究室番号<Office> 415 |
| Office Hours | 火曜日・水曜日 13時から14時30分 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>現在なお、日本とアジアの人々の間には「歴史認識」のギャップが横たわっている。国際社会のなかで、私たちひとりひとりがその認識の差をみつめ、埋めていくことが求められている。そのひとつの手がかりとして、一九世紀後半以降の日本と朝鮮・中国の交錯した軌跡をたどり、主に植民地化や侵略の実態とその土壌となる意識の形成と展開に焦点をあてつつ、それぞれの異文化への理解者の存在にも目を向けた。一週一テーマの講義形式となる。</p> | | <p>毎回プリント教材を配布するほか、テーマごとに参考文献を紹介する。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・琉球から沖縄へ ・明治思想家のアジア観 ・中国人蔑視観の形成 ・朝鮮人への差別 ・大正デモクラットのアジア像 ・皇民化政策（創氏改名） ・「大東亜共栄圏」の実態 ・B C 級戦犯問題 ・「従軍慰安婦」 ・外務省警察（領事館警察） ・天皇と戦争 ・戦後の「沖縄」像 | | <p>定期試験とレポート（テーマは「近代日本とアジア」に関するもの、四〇〇〇字以上）、適宜実施する授業への批評アンケートによって総合的に評価する。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |

| | | | | |
|---|--|----------------------------------|----------------------------|----------------------|
| 科目名<Subject> | 社会思想史 | <History of Social Phibsophies > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 倉田 稔 | <Minoru Kurata> | 研究室番号<Office> | 421 |
| Office Hours | 授業の前後、教室か研究室、自宅への電話で、いつでも。メールでは答えられない。 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | 講義では、現代日本社会と日本人の思想を話す。専門の学問勉強の前提がひとつだからです。 レポートを書いてもらう。 | | 3.使用教材<Teaching materials> | なし。一部の人が用いるが、参考書がある。 |
| 2.授業内容<Course contents> | 政治と政治家、行政と官僚、司法、経済と実業家、社会、教育、日本人の思想。 以上、時間があるかぎり講ずる。 | | 4.成績評価の方法<Grading> | 参加度、論文と試験の内容。 |
| | | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | 授業参加が重要 |

| | | | | |
|---|---|----------------------------------|----------------------------|----------------------|
| 科目名<Subject> | 社会思想史 | <History of Social Phibsophies > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 倉田 稔 | <Minoru Kurata> | 研究室番号<Office> | 421 |
| Office Hours | 授業の前後、教室か研究室、自宅への電話で、いつでも。メールでは答えられない。 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | テキストを使った講義、使わない講義に分けて、現代の重要な社会思想を講ずる。論文を書いていただくことにより、その力をつける。 | | 3.使用教材<Teaching materials> | 未定 |
| 2.授業内容<Course contents> | <ul style="list-style-type: none"> 1. グローバリズム 2. フェミニズム 3. 社会主義・民主主義・資本主義 4. ファシズム 5. その他の思想 | | 4.成績評価の方法<Grading> | 参加度合い、および、レポートと試験の内容 |
| | | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | 授業参加が重要 |

| | | | |
|---|--|----------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 政治学 | <Political Science > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 相内 俊一 | <Toshikazu A iuch> | 研究室番号<Office> 543 |
| Office Hours | 特に設けない。電子メールで予約してください。 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>現代日本の政治状況を分析し、理解する能力を身に付けることを目的とする。そのため、講義の前半で、戦後日本の政治史を概観し、現在の日本政治の背景にある諸条件を理解する。後半で現在の日本の政治構造と政治過程の特徴を紹介する。</p> <p>前半は教科書 A に沿って戦後政治史を学ぶ。併せて、選挙結果等のデータを分析して理解を深める。後半は、教科書 B を用いて現代日本の政治システムを理解し、現在日本が抱えている政治課題を政治過程の分析を通して明らかにする。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>第 1 部：戦後日本政治史 第 1 週～第 6 週 (テキスト A を用いる)</p> <p>第 2 部：現代日本の政治システムと政治過程 第 7 週～第 15 週(テキスト B を用いる)</p> <p>第 1 部及び第 2 部が終わる毎にレポートを書いて提出する。</p> | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>テキスト A: 石川真澄 「戦後政治史」 岩波書店 (岩波新書 新赤版 367) 1995 年</p> <p>テキスト B: 川人貞史ほか 「現代の政党と選挙」 有斐閣 (有斐閣アルマ) 2001 年</p> | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>クイズ(ミニ・テスト) 5 回程度、レポート及び期末試験の合計点で評価する。(レポート 40%、ミニ・テストと期末試験 60%)</p> | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | <p>レポート、期末試験のうち、一つでも欠けたものには単位を与えない。</p> | | |

| | | | |
|---|--|----------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 政治学 | <Political Science > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 相内 俊一 | <Toshikazu A iuch> | 研究室番号<Office> 543 |
| Office Hours | 特に設けない。電子メールで予約してください。 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>政治学で用いられる基礎概念と、それらを用いた政治過程の分析を紹介する。複雑な政治現象を分析的に理解するための、「科学的分析と推論」の方法を、具体的な政治事象や調査データに基づく分析を通して講義する。随時、受講者に質問をしながら、対話形式で講義を進めたい。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>1 . 政治学はどんな学問か? 政治を科学するとは?…(オリエンテーション)</p> <p>2 . 政治の世界の特徴…(教科書第 1 章)</p> <p>3 . 政治体制・民主主義体制と非民主主義体制…(教科書第 2 章)</p> <p>4 . 経済・福祉の課題と政治…(教科書第 3 章)</p> <p>5 . 政治を過程(プロセス)として捉える(1)…(教科書第 4 章)</p> <p>6 . 政治を過程(プロセス)として捉える(2)…(選挙資料)</p> <p>7 . 公共政策をめぐる諸問題(1)「公共性」の概念…(教科書第 5 章)</p> <p>8 . 公共政策をめぐる諸問題(2)行政と官僚制…(教科書第 5 章)</p> <p>9 . 政党の機能と組織・政党システム…(教科書第 6 章)</p> <p>10 . 政治意識と政治文化(1)…(教科書第 7 章)</p> | | |
| 11 . 政治意識と政治文化(2) <政治意識の形成過程>…(配布資料) | | | |
| 12 . 集権と分権 統合と分裂…(教科書第 8 章) | | | |
| 13 . 国際政治の基本概念…(教科書第 9 章) | | | |
| 14 . グローバルな課題…(教科書第 10 章) | | | |
| 15 . さらに政治学を学ぶ人への道案内 | | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦 『現代政治学』新版 有斐閣 2003 年</p> | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>試験とレポートの成績により評価する。クイズ(ミニ・テスト) 5 回程度と期末試験(70%) レポート(30%)</p> | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | <p>レポート、期末試験のうち、一つでも欠けたものは単位を与えない。</p> | | |

| | | | |
|--|---|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 社会学 A・B | <Soc bgy > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前後期 |
| 担当教員名<Name> | 宝福 則子 | <Noriko Hofuku> | 研究室番号<Office> 527 |
| Office Hours | 金 12時10分～13時。その他、随時、事前にメール・電話で連絡し、可能なら、いつでもOK | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>「環境」をテーマに、社会学としてどのように環境問題を扱うか、その手法を学ぶ。歴史的な環境問題を見る。現在、社会的な関心を集めている問題の諸要因を探る。現在、世界・日本で起こっている環境破壊に対し、誰によって、どのような対応策がとられているのか、また、どのような再生への可能性が探られているのか、さらに未来の世代に健全な環境を残すためにどのような事前対策が考えられているのか等について新聞・ビデオ等のメディアも利用しながら話す。</p> | | <p>教科書として指定しないが、以下等を参考書とし、各自、基本的な環境問題にかんする知識を身につけておく：飯島伸子『環境問題の社会史』有斐閣、船橋・飯島編『講座社会学12』東大出版会、石見徹一『開発と環境の精治経済学』東大出版会、長谷川公一『環境運動と新しい公共圏』有斐閣、亀山康子『地球環境政策』昭和堂、岡部明子『EUの地域・環境政策サステイナブルシティ』学芸出版社等</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>「環境」とは何か？日本と外国の環境問題と環境運動・政策の比較、経済のグローバル化と国境を越えた「環境対策」等</p> | | <p>小テストおよび期末試験により評価する。ただし、小テストを3回以上受けていることが、評価の条件。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>3. の使用教材は、参考書である。その他にも随時、テーマごとに参考書等を挙げる。新聞を読むことを薦める。</p> | |

| | | | |
|---|---|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 社会学 | <Soc bgy > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 宝福 則子 | <Noriko Hofuku> | 研究室番号<Office> 527 |
| Office Hours | 金 12時10分～13時。その他、随時、事前にメール・電話で連絡し、可能なら、いつでもOK | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>社会学は、人間が生活する社会に起こるあらゆる現象を対象として扱う。そこで、社会学とはどんな学問なのか、つまり、何を対象に、またそれをどのような視点から見て分析するのか、個々の社会現象を題材として話す。</p> | | <p>教科書として指定しないが、参考書として勧める：武市・原『グローバル社会とメディア』ミネルヴァ書房、ナンシー・スノー 著・福岡訳『情報戦争』岩波書店、田原『テレビの内側』草思社、鎌田・矢澤・木本『講座社会学14 ジェンダー』東大出版会『講座社会学8 社会情報』東大出版会</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>主に扱うテーマは、メディア（情報社会、情報による大衆操作、メディアと社会生活の変容）及び諸メディアにおける女性の扱われ方・女性と労働等</p> | | <p>小テストおよび期末試験により評価する。ただし、小テストを3回以上受けていることが、評価の条件。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>3. の使用教材は、参考書である。その他にも随時、テーマごとに参考書等を挙げる。新聞を読むことを薦める。</p> | |

| | | | | |
|---|--------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 数学 A・B | <Mathematics > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前後期 |
| 担当教員名<Name> | 米田 力生 | <Riko Yoneda> | 研究室番号<Office> | 355 |
| Office Hours | | | | |
| <p>1.授業の目的・方法<Course objective and method> 学問の様々な分野における基本的手法として、微分積分学は必要不可欠なものである。本講義では、その基礎的理論を中心に学習する。</p> <p>2.授業内容<Course contents> 基本的には教科書に沿って授業を行う。ただし、必ずしも教科書通りに進行するわけではなく、内容の順序変更もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数列と極限 ・ 微分法 | | <p>3.使用教材<Teaching materials> 水田義弘「入門微分積分」サイエンス社</p> <p>4.成績評価の方法<Grading> 出席状況、レポート提出、定期試験を総合的に勘案して評価する。</p> <p>5.履修上の注意事項<Remarks> 特になし</p> | | |

| | | | | |
|--|-------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 数学 | <Mathematics > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 米田 力生 | <Riko Yoneda> | 研究室番号<Office> | 355 |
| Office Hours | | | | |
| <p>1.授業の目的・方法<Course objective and method> 数学は、人々の生活や自然現象に深く関わっている。そのことを意識しながら、集合論、写像、複素数等に関して論理的な考え方を身につけることを目指す。</p> <p>2.授業内容<Course contents> 基本的には教科書に沿って授業を行う。ただし、必ずしも教科書通りに進行するわけではなく、内容の順序変更もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集合 ・ 写像 ・ 複素数 ・ 空間図形 | | <p>3.使用教材<Teaching materials> 田中茂 例解 大学数学入門 実教出版株式会社</p> <p>4.成績評価の方法<Grading> 出席状況、レポート提出、定期試験を総合的に勘案して評価する。</p> <p>5.履修上の注意事項<Remarks> 特になし</p> | | |

| | | | | |
|--|-----------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 物理学 A・B | <Physics > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 杉之原 立史 | <Tatsushi Suginoara> | 研究室番号<Office> | 312 |
| Office Hours | 火 16:30 ~ 18:00 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>物理学は、人類が約 400 年という時間をかけて築いてきた、人類共通の知的財産である。これを正しく理解し、後の世代に伝えていくことは、私たちの世代に課せられた義務であると言える。</p> <p>この授業では、宇宙の成り立ちや進化が、物理学によってどのように理解されているかを、最新の研究成果を交えて解説する。宇宙を通して、物理の世界に触れ、物理に興味を持ってもらうことを目的とする。高校で物理を履修しなかった場合でも、そのことが理解の妨げにならないように配慮する。</p> <p>パソコンの画面をスクリーンに映し、プレゼンテーションソフトを使用して授業を進めていく。</p> | | <p>参考書：池内了『宇宙はどこまでわかっているか』NHK ライブラリー</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 天動説から地動説へ 2. 銀河宇宙像の確立 3. 宇宙の膨張 4. ビッグバン宇宙モデル 5. 素粒子と力の標準理論 6. 初期宇宙の進化 7. 銀河の形成 8. ダークマター 9. 宇宙の物質循環 10. 21世紀の宇宙像 | | <p>学期末の定期試験により評価する。</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>新聞やテレビ、すばる望遠鏡のウェブサイト (http://www.subarutelescope.org/j_index.html) などを通して、日頃から宇宙へ関心を向けておいてほしい。</p> | | |

| | | | | |
|---|-----------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 物理学 | <Physics > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 杉之原 立史 | <Tatsushi Suginoara> | 研究室番号<Office> | 312 |
| Office Hours | 火 16:30 ~ 18:00 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>物理は、私たちの生活を支えるさまざまな技術（テクノロジー）の基礎となってきた。技術のもついい面と悪い面を一人一人が正しく理解し、技術を今後どのように発展させ、利用していくべきかを考えなければならない。そのためには、物理の知識が必要となる。また、エネルギー問題や環境問題のような現代社会における諸問題にも、物理は深く関係している。これらの問題に関して社会の一員として意思決定をおこなう際に、物理への理解が大きな助けになる。この授業は、私たちのふだんの生活や、それを支える技術との関係を通して、物理の世界に触れ、物理のさまざまな分野に興味を持ってもらうことを目的とする。高校で物理を履修しなかった場合でも、そのことが理解の妨げにならないように配慮する。</p> | | <p>プリントを配布する。</p> <p>参考書：原康夫『物理はこんなに面白い』日本経済新聞社</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 第1章 エネルギーとは何だろう 第2章 熱を仕事に変える 第3章 自動車を通して学ぶ力学 第4章 宙返り何度もできる無重力 第5章 電気の正体 第6章 電場と磁場との密接な関係 第7章 光は波か粒子か 第8章 ミクロな世界の物理 量子力学 第9章 相対性理論早わかり | | <p>レポートおよび学期末の定期試験により評価する。</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>定期試験を受けなかった場合は、レポートの完成度にかかわらず単位を与えない。</p> <p>物理学という科目の性格上、継続的な学習の積み重ねが重要である。授業には毎回出席し、復習を欠かさずおこなってほしい。これを怠り、試験の直前になってあわてて勉強を始めるようでは、単位の修得は困難である。</p> | | |

| | | | |
|--|----------------------------------|---|---------------------|
| 科目名<Subject> | 化学 A・B | <Chemistry > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 片岡 正光 | <Masamitsu Kataoka> | 研究室番号<Office> 化学研究室 |
| Office Hours | 月～金曜日 10時頃から19時頃まで(但し火曜日は12時頃から) | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>目的 かけがえのない地球環境は、人類の豊かな暮らしの代償として悪化の一途をたどってきた。クリーンな地球環境を後世に残していくことは、私達人類に課せられた使命である。地球環境の現状を化学的に正しく理解することは、地球環境を守っていく上で不可欠である。本講義では特に地球環境の理解に必要な化学の基礎的な知識を習得することを目的とする。また、地球環境の変遷、地球規模の環境破壊、地球環境の保全等を、生活に関係の深い、水環境、大気環境(エネルギー消費に伴う地球の温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊)、土壌環境(土壌の酸性化等)について、化学の視点で理解することを目的とする。</p> <p>方法 講義は教科書に沿って化学の基礎から講義する(1時間)後半の30分ではOHP、デオ等の視聴覚機材を使って身の回りの化学のトピックスを化学の視点からわかりやすく解説する。</p> | | <p>- 新版 - 教養の現代化学(三共出版)。注意! : 旧版も使用できるが、内容、図表数やページが若干異なるので新版を入手する事を奨める。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>第1～4週 原子の成り立ちとその周期性。 第5～8週 イオン結合、共有結合、配位結合等の化学結合などについて、原子の電子状態から解説する。 第9～12週 水溶液中の酸と塩基の強さと酸解離定数、中和反応、塩の加水分解、緩衝溶液等を学ぶ。 第13～15週 生活に広く用いられている無機物質と新素材を解説する。</p> | | <p>試験は期末に行う。毎回出席をとりこれを点数化しテストの点数に加算する。合格点にわずかに満たない学生は、試験終了後レポートの提出によって救済されるが、出席率の低い学生にはこの救済措置がない。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>高校で化学をほとんど学んでこなかった学生でも、本人の努力によって単位の取得は可能なよう配慮する。本講義は、前期に化学A、化学Bの2コマ開講されるが、講義内容は同一である。</p> | |

| | | | |
|--|----------------------------------|---|---------------------|
| 科目名<Subject> | 化学 | <Chemistry > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 片岡 正光 | <Masamitsu Kataoka> | 研究室番号<Office> 化学研究室 |
| Office Hours | 月～金曜日 10時頃から19時頃まで(但し火曜日は12時頃から) | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>目的 私達は、科学(化学)技術の発展によって人類がかつて経験したことのない豊かな暮らしを享受している。とりわけ化学は衣・食・住や医学などの分野はもとよりエネルギーに深くかかわっており、私達の日常生活と密接に関係している。化学の基礎的な知識は現代社会を生きる私たちに不可欠である。本講義は、私たちの生活を化学の観点で理解するための基礎知識を得ることを目的とする。本講義では化学に引き続き、化学の基礎を平易に解説するとともに、生活に関係の深い食物、医薬品、建築材料等の化学物質や、原子力エネルギー等の身近な現代化学のトピックスを平易に解説する。</p> <p>方法 講義は教科書に沿って化学の基礎を解説する(1時間)後半の30分でOHP、ビデオ等の視聴覚機材を使って地球環境問題や身の回りのトピックスを化学の視点から解説する。</p> | | <p>- 新版 - 教養の現代化学(三共出版)注意! : 旧版も使用できるが、内容、図表数やページが若干異なるので新版を入手する事を奨める。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>第1～3週 物質の三態、すなわち気体、液体、固体の状態と平衡について学ぶ。 第4～5週 化学反応の速度と平衡を学ぶ。 第6～8週 酸化・還元反応と電池の化学反応について学ぶ。 第9～11週 原子核の崩壊と核分裂、原子力エネルギー、核融合エネルギー、クリーンエネルギー等について解説する。 第12～15週 簡単な有機化合物について学んだ後、生活の中の有機物質を解説する。</p> | | <p>試験は期末に行う。毎回出席をとりこれを点数化しテストの点数に加算する。合格点にわずかに満たない学生は、試験終了後レポートの提出によって救済されるが、出席率の低い学生にはこの救済措置がない。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>化学は積み上げて学習していく科目であることから、化学を履修した者がこの科目を選択することが望ましい。</p> | |

| | | | |
|--|-------|--|---------------|
| 科目名<Subject> | 生物学 | <Biology > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 河野 時廣 | <Tokhiro Kouno> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| <p>1 授業の目的・方法<Course objective and method> 目的：地球上に存在するものはすべて生物と非生物とに区分できる。生物は微生物から人間に至るまで多種多様に分類できるが、その基本的構造は同じである。本授業では身の回りに見られる生き物を通して、生命の誕生から現在に至るまでの長い進化の道のりを学び、生物の基礎的な知見の取得を目的とする。 内容：身近な海洋生物を選んで生物に親しみを持ちながら、生命の誕生と進化、生物の系統発生と形態などを学んでいく。 方法：パワーポイントを用いた講義を中心とする。</p> | | <p>3 使用教材<Teaching materials> テキスト：とくに指定しない。</p> <p>4 成績評価の方法<Grading> 学期末の定期試験の成績と履修態度により評価する。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> 試験は授業で学んだことから出題する。テキストをとくに指定しないので、しっかり授業内容を復習しておくこと。</p> | |
| <p>2 授業内容<Course contents> 第1回 ガイダンスと生物学へのアプローチ 第2回 生物とは何か 第3回 生命はどこで生まれたか 第4回 生命誕生 第5回 生命・海の時代 第6回 生命から生物への道 第7回 原生動物への道 第8回 植物と動物の分かれ目 第9回 刺胞動物・クラゲへの道 第10回 軟体動物・イカ・タコ・アワビへの道 第11回 節足動物・エビとカニの話 第12回 棘皮動物・ウニの話 第13回 脊椎動物・魚の話 第14回 脊椎動物・海産ほ乳類の話</p> | | | |

| | | | |
|--|-------|--|---------------|
| 科目名<Subject> | 環境科学 | <Environmental Science > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | |
| 担当教員名<Name> | 小林 三樹 | <Mitsuna Kobayashi> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| <p>1 授業の目的・方法<Course objective and method> 環境の保全は全生物の生存に不可欠である。環境の質は悪化の一途を辿っているのではない手遅れなのでもない。人類は苛酷な労働、食糧不足、伝染病、大気汚染などの劣悪な生存環境を克服し発展してきた。そして今日私たちの豊かで快適な暮らしがあるのだが、一方できょう食べる物さえなく、まして環境のことも明日の地球のことも考える余裕のない人々がおり、彼らにとって経済成長は全てに優先する課題である。さらに紛争や戦争は人々の生存環境と生活を破壊する。私たちが自分の身の回りの環境だけでなく世界の環境を考えると、貧困の解消と平和の構築にどう寄与できるかの視座も持たねばなるまい。産業革命後の英国や高度経済成長後の日本で生じた環境劣化の原因は、金銭のみに過度の価値を置いたこと、共有財産であるはずの大自然を無限と見なして汚し続けたこと、物言わぬ動植物や弱い人間や将来世代の被害に目をつむったことにある。いまや環境科学に関する確たる認識なしには交易商業も製造業も社会的責任を果たし得ない。本学に学ぶ学生が、受講を通じて、広い視野、総合的歴史観、豊かな教養と倫理観・価値観を体得し、現代社会の複合的・国際的な課題に主体的に対処し、世界の人人々に幸せをもたらすことのできる職業人になる基礎を形成してほしい。</p> | | <p>4) 経済成長は何をもたらしたか、その光と影：寿命の延伸と人口圧力、寿命が低下しはじめた国々、資源限界と汚染の進行、食糧生産の限界(土、水、需給)、格差拡大と固定。 5) 便利な社会は何をもたらしたか、その光と影：自動車の功罪、石油資源と覇権、京都議定書の功罪、原子力依存と核拡散、継代汚染の複雑化、有価物と無価物の境界、有害廃棄物越境管理の難しさ、 6) 地球規模環境問題：共通特徴、紛争による生活環境破壊、地域化と世界化、途上国と人口圧力、気象異変、種の多様性への脅威、農業用水の争奪、乾燥地土壌の劣化。 7) 後代への資産と負債：気候変動がもたらす国の盛衰と人口移動、生態学的劣化、基盤施設規模、汚染集積、資源枯渇、貧富の差の拡大、 8) パラダイム変換と共存持続社会：持続可能経済の幻想、資源環境制約、経済誘導、欲望の自制と需要管理、環境倫理、環境監査からCSR(企業の社会的責任)へ、共生世界の構築。</p> | |
| <p>2 授業内容<Course contents> 1) 古代文明と環境問題：農耕定着と灌漑の功罪、金属文明の功罪、造船などによる森林の消失、金属中毒と伝染病。 2) 中世・近世社会の環境問題：農業開発、小規模分立、制約と禁欲、世界交易と環境問題、ペストがもたらした変革。 3) 産業革命は何をもたらしたか、その光と影：向都離村の社会影響、価値意識の変化、煤煙と下水による生活環境の劣化と改良、上下水道整備をめぐる論争、環境汚染と伝染病、都市計画思潮、日本の経済成長・公害の歴史とその後(別子、足尾、都市環境、水俣ほか)、いまなお未工業化国の存在。</p> | | <p>3 使用教材<Teaching materials> プリントを適宜配布する。講義関連の VTR をほぼ毎回映写し理解を深める。</p> <p>4 成績評価の方法<Grading> 受講反応(Reaction Paper)を50%、レポートを50%として総合的に評価する。出席回数2/3は必要条件である。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> 履修上の注意事項：静かに受講すること。私語は他人の受講権の侵害である。前日に十分な睡眠をとること。推薦図書一覧を配布するが、自ら問題意識をもって選書し読書し考える習慣を身につけることが望ましい。</p> | |

| | | | |
|--|---|------------------------------|-----|
| 科目名<Subject> | 総合科目 a (小樽学) | <Multidisciplinary Subject > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 荻野 富士夫外 <Fuji Ogino and others> | 研究室番号<Office> | 415 |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 7 「小樽の食文化 歴史とその系譜」(山崎圭子) | | |
| 田中正造・足尾鉍毒事件に関わる「谷中学」(鉍毒被害地で、治水優先のため廃村となった栃木県の村)、戦後の公害の原点「水俣病」に関わる「水俣学」、あるいは差別・戦争・文化などにおいて独自の位置を占める沖縄に関わる「沖縄学」などの創造に学んで、この小樽においても「小樽学」というものを考えてみたい。「谷中学」「水俣学」などは、学際的事であること、中央：東京を相対化して地域に根ざそうとすること、市民参加型であることなどの特徴をもっているが、「小樽学」においてもそれらを生かしたい。いずれ「北海道学」、さらには「北方学」などへ視点を広げられればと、願っている。 | 8 「小樽の食文化 もう一つのスシ「イズシ」」(山崎圭子) | | |
| そのために、学内の教員だけでなく、学外で「小樽」のさまざまな活動をされている方からも、「小樽」の広さと深さを語っていただく。 | 9 「小樽と石川啄木」(倉田稔) | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 10 「小樽と小林多喜二」(倉田稔) | | |
| 1 オリエンテーション：「小樽と小樽高等商業学校 創立を中心に」(荻野富士夫) | 11 「小樽の経済と港」(小田福男) | | |
| 2 「小樽と小樽高等商業学校 戦争のなかで」(荻野富士夫) | 12 「小樽とロシア」(小田福男) | | |
| 3 「小樽と小樽商科大学 創立から現在まで」(荻野富士夫) | 13 「小樽の市民運動 運河保存運動」(結城洋一郎) | | |
| 4 大学史料展示室の見学・「商大創立五〇周年記念映画」(荻野富士夫) | 14 「小樽の市民運動 その他の市民運動」(結城洋一郎) | | |
| 5 「小樽に残る産業遺産」(渡辺真吾) | 15 学長特別講義(予定) | | |
| 6 「小樽の歴史と建造物」(渡辺真吾) | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| | 各担当者によるプリントの配布など。ビデオ使用。「大学史料展示室」の見学 | | |
| | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| | 各自が「総合科目」の講義のなかで興味・関心をもったテーマについて作成・提出したレポート(4000字以上)により、評価する。内容により各担当者に割り振る。締め切りは最終授業日。なお、レポートの提出資格として、授業には全体の三分の二以上、出席しなければならない。 | | |
| | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | |
|--|--|------------------------------|-------|
| 科目名<Subject> | 総合科目 b (学問原論) | <Multidisciplinary Subject > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 倉田稔・相田慎一 <Minoru Kurata/Shin-ichi Aida> | 研究室番号<Office> | 倉田421 |
| Office Hours | 倉田・相田ともに、授業の前後。倉田は自宅電話でいつでもよい。 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| 学問の入門を講ずる。実際上の勉強の進め方や、大学で前提としているので教えないことなど、語る。後半は、古典を読むのは重要だという観点から、古典を読む。 | 倉田 『学生と社会人のための文章読本』丘書房 カウツキー、レンナー、ゲゼル 『資本論の読み方』ぱる出版 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| 1 勉強の仕方、本の求め方 | T Aが出席をとる場合は出席の最低限が必要となる。最後に、担当者のどちらかにあてて論文を提出して頂く。 | | |
| 2 普通文の書き方 | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| 3 論文の作り方、 | 出席して熱心に講義を聴いてもらうことが必要となる。 | | |
| 4 学術論文の書き方 = 註の付け方 | | | |
| 5 大学とは何か | | | |
| 6 学問とは何か | | | |
| 7 社会科学とはなにか | | | |
| 8 社会諸集団の歴史 | | | |
| 9 史的唯物論精読 | | | |
| 10 - 14 古典の読み方 | | | |

| | | | |
|--|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 総合科目 (社会科学と職業) <Multidisciplinary Subject > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 江頭 進外 <Susumu Egashira and others> | 研究室番号<Office> | 410 |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> 大学における勉強を自分の仕事にどのように結びつけるのかというキャリアデザインを考える。授業では経済、商学、企業法学、社会情報の各科目をどのように仕事に結びつけていくかを学ぶ。また、社会人になる前に学んでおくべきことを幅広く考える。 | 3 使用教材<Teaching materials> 『美しい経済学』 『わかる経営学』 『守る!企業法学』 いずれも「15歳からの大学入門シリーズ」、日本経済評論社刊、2005年。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> 授業の内容は変更されることがあり得る。 1. 経済学とは何か I,II 2. 商学とは何か I,II 3. 企業法学とは何か I,II 4. 社会情報学とは何か I, II 5. 自己分析 6. キャリアデザイン 7. ビジネスマナーと常識 | 4 成績評価の方法<Grading> 各時間後にレポートまたは小テストを行い、その総合評価で採点する。 5 履修上の注意事項<Remarks> ・1年生のみ限定。 ・履修希望者が250人を超える場合は、履修者数制限も有りうるので注意(その場合は抽選を行う)。 | | |

| | | | |
|--|---|---------------|----|
| 科目名<Subject> | 総合科目 (エバーグリーン講座) <Multidisciplinary Subject > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 加藤睦洋・坂柳明・多木誠一郎・木村泰知 | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> 本講義では、さまざまな分野で活躍されている本学卒業生を講師にお招きし、実社会で諸先輩が体験されたことを幅広く講演していただきます。このような講演を受講生が聞くことで、受講生各自が、「社会の実態」を理解するとともに、「グローバルな視点」をもつ必要性を自覚することをねらいとしています。このことは、本学で何をどのように学び、これからの人生でどのように活かしていくかを考えるための助けとなるはずです。 | 3 使用教材<Teaching materials> テキストは使用しません。毎回の授業で、各講師からの資料が配付されます。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> さまざまな分野で「世界の中の日本」を意識せざるを得ない状況のなかで、新しい時代の価値を大学での知的活動を通じてどのように創造していくのが問われています。本講義では、各講師に、「新しい知の創造」に関わる各種トピックスを語っていただきます。 | 4 成績評価の方法<Grading> 後期授業開始時のオリエンテーションで詳しく説明します。 5 履修上の注意事項<Remarks> 各講師におかれては、きわめて多忙なスケジュールの間をぬって後輩である受講生のために本講義を担当して下さいます。受講生諸君は、このことを十分に心に留め、真摯な態度で授業に臨むことを希望します。 | | |

| | | | | |
|---|------------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 情報処理入門 | <An Elementary Course for Information Processing> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 夏季集中 | |
| 担当教員名<Name> | 奥田 和重 | <Kazushige Okuda> | 研究室番号<Office> | 326 |
| Office Hours | 事前にメールで連絡してください。 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>本科目の目的は、一般的に広く普及している Windows に関する知識獲得と操作方法の習得である。コンピュータの構成や仕組み、インターネット閲覧、メールの送受信、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、主にこれらの内容について扱う。</p> <p>入門に位置づけられる授業であるため、初級から中級程度の知識・操作技能を持つ学生を対象とする。明らかにそれ以上の知識・操作技能を持つ学生に対しては、個別に課題を設定する。なお、授業は主に実習形式で進行する。</p> | | <p>集中授業であるため、原則として全出席を必須とする。しかし、やむを得ないと認められる理由がある場合には考慮するので申告すること。講義は実習形式であるため、評価の大部分は課題の達成度に基づく。また、授業に対する態度（遅刻や私語など）についても採点の対象となる。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| <p>授業で扱う内容を以下に示す。なお、授業の進度によりテーマを変更する場合がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの構成 ・Windows の基本操作 ・インターネットの閲覧 ・メールの送受信 ・日本語入力とワープロソフトの操作 ・表計算ソフトの操作 ・プレゼンテーションソフトの操作 | | <p>本科目の配当年次は であるが、履修対象者は平成 17 年度以前に入学した学生である。本年度（平成 18 年度）に入学した学生は履修できない。</p> <p>本科目は、後期開講科目で、開講時期は夏季集中である。日程、時間帯は後日掲示する。本科目は、情報処理センターの実習室で授業を行うため、実習室の物理的制約から本年度は 1 クラス（85 名）の開講を予定している。</p> <p>本科目の履修対象者は、教員免許状取得希望者と昨年度までに本科目の履修許可を得られなかった学生である。教員免許取得希望者は、履修を許可するので、その旨を学務課窓口申し出て「教員免許取得希望」の確認をもらい、所定の手続きを行うこと。昨年度までに履修を許可されなかった学生で本年度の履修を希望する学生は、学務課窓口で「履修許可申請書」を受け取り、必要事項を記入の上、4 月 12 日（水）までに学務課のレポート回収ボックスに提出すること。結果は 4 月 14 日（金）に掲示するので、履修を許可された学生は、履修登録期間中に履修登録をすること。</p> <p>初心者対象であるが、授業をスムーズに進行させるため、最低限のマウス操作、キーボード入力ができることが望ましい。</p> <p>プレゼンテーションソフトの学習に関しては、グループを設定し、何らかの課題について実際にプレゼンテーションを行うことを予定している。</p> | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | | | | |
| <p>授業で使用するテキストは、後日掲示板で掲示する。講義開始までに各自用意すること。テキスト以外に利用する資料はその都度配布する。</p> | | | | |

| | | | | |
|---|----------------------|----------------------------|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 基礎数学A B | <Basic Mathematics> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前 後期 | |
| 担当教員名<Name> | 兼岩 龍二 | <Ryuji Kanewa> | 研究室番号<Office> | 459 |
| Office Hours | 在室中は特に都合が悪くない限りいつでも可 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>本講は基礎科目、知の基礎系に属し、本学全学生に必要とされる「論理的思考」の手助けとなるように、数理論理学の分野から、命題論理と述語論理を紹介する。</p> <p>上記は人間が物事を考えるための補助手段となるであろう。より直接的には、現代社会に於いて益々必要度を増して来ている情報分野の基礎的認識を得るためや、「文科系」と言われる諸科学のなかでもよく使われるようになりつつある現代数学を理解するための、必須のツールとなるであろう。</p> | | <p>配布プリントを使う。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 論理記号 (命題論理) 2. Logical functions 3. 公理系 (命題論理) ・ 証明論 4. 述語・対象領域 5. 全称・存在記号 6. 自由変数・束縛変数 7. 公理系 (述語論理) ・ 証明論 | | <p>定期試験の結果を主に評価する。</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | | | |

| | | | |
|--|--------------------------|--|-------------------|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール <Basic Seminars> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 遠藤 薫 | <Kaoru Endo> | 研究室番号<Office> 425 |
| Office Hours | 月 16:00-17:00 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 国民経済計算についてていねいに見ていく。 各章を分担して発表してもらう。 | | 3.使用教材<Teaching materials> 武野秀樹『GDP とは何か』中央経済社, 2004。 | |
| 2.授業内容<Course contents> 1 GDP の概念 2 GDP の構成 3 金融機関の生産物 4 非市場部門の生産物 5 GDP と国民所得 6 生産物 7 生産活動の範囲 8 生産境界の条件 9 狭義の生産境界 10 変動する生産境界 11 生産境界の国際比較 12 生産活動における「市場」と「非市場」 13 国民経済計算の役割は何か 14 国民経済計算の歩み 15 93SNA とはなにか | | 4.成績評価の方法<Grading> 発表について評価する。 5.履修上の注意事項<Remarks> | |

| | | | |
|--|--------------------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール <Basic Seminars> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 松家 仁 | <Jin Matsuka> | 研究室番号<Office> 432 |
| Office Hours | 授業の直後の休み時間 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 基礎ゼミナールでは、資料の集め方、本の読み方、レポートのまとめ方といった大学での研究方法の基礎についての知識を身につけることを目的とする。ゼミナールは歴史学などの文献輪読と報告によって行う。 | | 3.使用教材<Teaching materials> 未定 | |
| 2.授業内容<Course contents> 輪読対象の文献については、学生の皆さんと相談して決めたい。 | | 4.成績評価の方法<Grading> ゼミでの報告ならびに出席によって評価する。 5.履修上の注意事項<Remarks> 特になし。疑問がある者はメールで問い合わせること。 | |

| | | | |
|---|--------------------------|---|-----|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール <Basic Seminars> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 穴沢 眞 <Makoto Anazawa> | 研究室番号<Office> | 309 |
| Office Hours | 随時(事前にメールで連絡のこと) | | |
| <p>1.授業の目的・方法<Course objective and method> 自ら考え、行動する姿勢を身につけることを目的とします。前半は大学での勉強の仕方を学んでもらうことに主眼をおきます。後半は実際に学んだことをもとにして、演習を行います。</p> <p>2.授業内容<Course contents> 前半 ・ノートテイキング ・リーディングスキル ・図書館の利用法 ・レポート作成 ・プレゼンテーション ・レジメ作成など 後半 演習形式でビジネス関連のテキストの輪読と報告、討論などを行います。</p> | | <p>3.使用教材<Teaching materials> 学習技術研究会編著『知へのステップ』くろしお出版会 その他はテキストはオリエンテーション時に提示します。また、随時資料を配付します。</p> <p>4.成績評価の方法<Grading> 出席、授業態度、レポートにより総合的に判断します。</p> <p>5.履修上の注意事項<Remarks> 履修者は15名までとします。</p> | |

| | | | |
|--|--------------------------|--|-----|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール <Basic Seminars> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 前田 東岐 <Toki Maeda> | 研究室番号<Office> | 427 |
| Office Hours | 木曜日 12:30 ~ 14:00 | | |
| <p>1.授業の目的・方法<Course objective and method> 本基礎ゼミナールでは、以下の2つを目的とする。 大学で学んでゆくためのスキルの習得。 現代社会を理解するための「基礎的な能力」の習得。 受講者による報告と、それをもとした全員によるディスカッションにより進める。</p> <p>2.授業内容<Course contents> 受講者による報告と、それをもとした全員によるディスカッションを行なう。 報告テーマとしては、経営や社会のトピックのほか、受講者作成のレポートも用いる予定である。</p> | | <p>3.使用教材<Teaching materials> ゼミナールのおおよそのスケジュールと併せて、第1回目に提示する。</p> <p>4.成績評価の方法<Grading> 出席状況とゼミナールへの貢献、宿題として課すレポートの内容をもとに、総合的に評価する。</p> <p>5.履修上の注意事項<Remarks> ゼミナールに臨む基本的な姿勢を整え、かつ毎回のゼミに積極的に取り組むことを求める。</p> | |

| | | | | |
|--|--|--|---------------|----|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール | <Basic Seminars> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 山本 眞樹夫 | <Makio Yamamoto> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | 事前にメール(makio@res.otaru-uc.ac.jp)で連絡を下さい。 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> この基礎ゼミは、新入生が大学での学習、研究の仕方を身につけてもらうことを目的としています。問題を認識し、関連資料を収集・分析し、自らの考えを文章で表現することを行います。 | | 3.使用教材<Teaching materials> 適宜プリント等を配布します。また、取り上げる題材に関連したビデオを視聴します。 | | |
| 2.授業内容<Course contents> 企業活動や会計に関する題材を取り上げます。メモ、レポート(学術文書)の作成方法を学び、ビデオ視聴等により問題を認識し、図書館や Web Sites の検索で資料を収集し、自らの考えをメモやレポートにまとめてもらいます。 | | 4.成績評価の方法<Grading> 授業への参加態度、提出されたメモ、レポートを総合して評価します。 | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> かなりの数(ほぼ毎回)のメモやレポートを提出してもらいます。また、授業中に積極的に質問や発言をすることを望みます。 | | |

| | | | | |
|---|----------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール | <Basic Seminars> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 遠山 純弘 | <Junkou Tooyama> | 研究室番号<Office> | 516 |
| Office Hours | 初回に指示する。 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 本演習では、今後、法律を学ぶ上で必要な基本的な知識および技術を習得することを目的とする。前半は、文献や判例の調べ方、読み方など、今後法律を勉強する上で必要な最小限の知識および技術の習得を目指す。後半は、それを用いて、実際に判例を読んでもらい、それについて議論をしてもらう。 | | 3.使用教材<Teaching materials> 授業中に適宜紹介する。 | | |
| 2.授業内容<Course contents> 授業は、以下のように進める予定である。図書館の利用方法、文献の調べ方、判例一般、判例の読み方、レジユメの作り方、演習 | | 4.成績評価の方法<Grading> 予習、質疑応答および報告内容を総合的に評価する。出席をするのは、当然の前提になるので、それ自体は評価の対象としない。 | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> 詳しい注意事項は、授業の初回で説明する。それゆえ、履修を希望する者は、必ず初回に出席すること(やむを得ない事由により出席できない、あるいは、できなかった者は、直接研究室にきてその旨申し出ること)。いずれにせよ、初回その他授業中における説明を聞いていないために生ずる不利益は、各自が自ら負担すること。各授業において六法は必ず持参すること。 | | |

| | | | |
|---|--|--------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール <Basic Seminars> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 道野 真弘 | <Masahiro MICHINO> | 研究室番号<Office> 522 |
| Office Hours | 研究室在室中は原則としていつでも可 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| 法律学を学ぶための基礎的な勉強方法等、技術的な部分を身につける。 | 今のところ、ガイダンスにおいて『守る！企業法学』を用い、それ以降は弥永真生『法律学習マニュアル』（有斐閣、第2版、2005年）を主として用いる（5．参照）。 | | |
| 2.授業内容<Course contents> | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| おおよそ以下のとおり。 | 出席状況、授業への参加意欲、レポート等を総合的に判断する。また場合によっては、一定の課題を課すことがある。 | | |
| 1 ガイダンス - 高校までの勉強と、大学での「学問」について | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| 2 図書館の利用方法 | 使用教材はじめ詳細については、ガイダンスの際のほか逐次ゼミナールの際に指示する。 | | |
| 3 文献検索の方法 | | | |
| 4 判例の読み方 | | | |
| 5 レジユメの作成、報告方法 | | | |
| 6 卒業論文に向けた「テーマ」の考え方 | | | |
| 7 その他 | | | |

| | | | |
|---|---|-------------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール <Basic Seminars> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 石井 利昌 | <Toshimasa Ishii> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | 在室中ならいつでも可 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| [目的] 近年のコンピュータの発達に伴い、社会現象を数理的に解析することの重要性がますます高まっています。 本科目では、社会に現れる諸問題に対する意思決定を効果的に行うための数理的な手法であるオペレーションズ・リサーチ (Operations Research, OR) に関する文献を輪読しながら、その一端に触れると共に、文献の読み方、パソコンの活用法、プレゼンテーションの仕方などを学ぶことを目的とします。 | <テキスト> 「文科系の線形計画法入門」 平本巖、栗原和夫 著 牧野書店 | | |
| [方法] 基本的には、輪読形式。また、実際に、コンピュータを用いて問題を解くことも行います（但し、既存のソフトウェアを使用し、プログラミングを行うわけではありません）。 | 4.成績評価の方法<Grading> 日頃の学習態度により評価します。 | | |
| 2.授業内容<Course contents> | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| オペレーションズ・リサーチ分野の中で、最も基礎的で、かつ広範に応用されている手法の一つである線形計画法を主に扱います。 | 上記の「授業方法」にもある通り、コンピュータを使用しますが、プログラミングは行いませんので、プログラミング経験がなくても履修できます。 | | |

| | | | | |
|--|-----------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール | <Basic Seminars> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 持田 泰昭 | <Yasuaki Mochida> | 研究室番号<Office> | 408 |
| Office Hours | 随時、特に本講義前後の各1時間 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>本授業では、次のことを目的とする。</p> <p>与えられたテーマや文献に関する議論とプレゼンテーション、正確で分かりやすいレポートやレジユメの作成。他に、図書館、情報処理センター、インターネットの活用による文献検索の仕方。</p> <p>授業方法は、テキストの輪読とレポート作成演習とする。</p> | | <p>テキスト：木下是雄「レポートの組み立て方」、ちくま学芸文庫、筑摩書房、¥780</p> <p>参考書：木下是雄「理科系の作文技術」、中央公論社</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>特に、与えられたテーマに対するレポートの書き方の基本を習得することに重点をおく。具体的には、要点をわかりやすく整理し、自らの意見を主張するために、いかにレポートを体系的、論理的に組み立てるかである。レポートは、事実や既存研究の調査・分析に基づいて自らの意見を主張するのであって、作文とは異なります。</p> <p>(1) レポートの組み立て方：テキストの輪読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマの絞り方(主題の設定) ・ 事実と意見の相違 ・ レポート作成の手順、章立て ・ 叙述の順序と流れ <p>(2) 簡単なテーマを例題としたレポートの書き方訓練</p> <p>(3) 各人が書き上げたレポートを相互に読み、わかり易さという観点からの見直し(相互レビュー)。</p> | | <p>作成したレポート、レビュー結果などを総合的に評価する。</p> | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | 相互レビューなどで議論すること。人の意見をよく聞き、率直に自分の意見を述べれば良い。 | | |

| | | | | |
|---|-----------------------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール | <Basic Seminars> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 相内 俊一 | <Toshikazu Aiuchi> | 研究室番号<Office> | 543 |
| Office Hours | 特に設けない。あらかじめ電子メールで予約してください。 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>このゼミナールは、まじめに取り組むすべての参加者が、大学で学ぶ上で必要な「土台」である</p> <p>論文を正しく・深く読む力 討論と説得の技術 論理を構成する力、論理的推論(logical thinking)の力を習得できる事をめざしている。また、英文の論文を一部読むが(ゴールドン・ウィークの課題にする予定)、それを通して、英文で書かれた論文を速く・正確に読む力をつけるなど、専門課程における教科やゼミナールで要求されるレベルのスキルも習得してもらおう。もちろん、外国人が書いた論文を通して、日本社会や日本政治を見る観点も豊かにすることも、このゼミナールの目的のひとつである。</p> | | <p>藤原 帰一 『戦争を記憶する』講談社現代新書 2001年</p> <p>鈴木 貞美 『日本の文化ナショナリズム』平凡社新書 2005年</p> <p>Chalmers Johnson, <i>Blowback: The Cost and Consequences of American Empire</i>, Henry Holt & Co., 2000 (第2章 Okinawa: Asia's Last Colony コピーを配布します)</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>・ 文献探索の諸方法を知り、それを活用するスキルを身につける。</p> <p>・ 論文を読み、討論し、考える。毎回、全員が要約をつくり、報告する。それに基づいて討論と批評が行われる。</p> <p>・ 一人1回5分間の、オーラル・コミュニケーション(口頭でのプレゼンテーション)を毎週行い、相互に批評する。</p> | | <p>毎時間の討論(出席、準備、内容、参加の積極性)50%</p> <p>毎週発表(レポート・報告・オーラルコミュニケーション)50%</p> | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | 予習と復習が絶対に必要。テキストを必ず入手して読んでくること。2年生以上の学生にオブザーバーとして参加を認めることがある。私設ティーチング・アシスタントによる指導が受けられる。 | | |

| | | | | |
|---|--|------------------|--|-----|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール | <Basic Seminars> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 荻野 富士夫 | <Fujio Ogino> | 研究室番号<Office> | 415 |
| Office Hours | 火曜日・水曜日 13時から14時30分 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>「アジア歴史資料センター」の史料を通じて、「近代日本とアジア」を考える。</p> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| 2.授業内容<Course contents> | <p>「アジア歴史資料センター」とは、「インターネットを通じ国の機関が保管するアジア歴史資料を、パソコン画面上で提供する電子資料センター」のことで、だれでも・どこでも・無料で利用することのできる近現代史史料の宝庫です。現在、千万画像以上が公開されています。この膨大な史料群のなかから、各自がテーマを設定し(たとえば日露戦争における日本海会戦、辛亥革命、「従軍慰安婦」、真珠湾攻撃に至る日米交渉など)「原史料」を読み解き、報告をしてもらい、討論をします。</p> | | <p>「アジア歴史資料センター」の史料群のなかから各自の関心のあるテーマを設定し、レジュメ・資料を準備し、発表(四五分ほど)。その発表に対して質疑応答をおこなったうえで、参加者全員で意見を交換します。</p> | |
| | | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| | | | <p>「アジア歴史資料センター」の史料群。利用・検索の仕方などについては、最初に説明。</p> | |
| | | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | | <p>発表内容(それには事前の十分な調査と資料の検討が不可欠) 討論への参加状況によって判断します。</p> | |

| | | | | |
|---|---|---------------------|---|-------|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール | <Basic Seminars> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 片岡 正光 | <Masamitsu Kataoka> | 研究室番号<Office> | 化学研究室 |
| Office Hours | 月～金曜日 10時頃から19時頃まで(但し火曜日は12時頃から) | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>化学の学習は、理論の学習はもとよりであるが、実験を行うことによって初めて正しく理解されることが多い。実際にピーカーの中で起きる化学反応を駆使して目的物質の濃度を測定する事により、実際の化学分析の一端を体験することを目的とする。</p> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| 2.授業内容<Course contents> | <p>物質の精製、沈殿重量分析、容量分析等の基礎分析技術の習得と、最新の分析機器を用いる環境水の化学分析を行う。環境水の分析では雨水、運河水、港湾海水など、小樽市内で採取した実試料中の環境化学物質の濃度を測定する。また、途中で石けん作りを楽しむ。得られたデータの推計学的取り扱い方法やレポートの書き方についても指導する。教官から実験の概略について説明を受けたのち、一人一人が与えられた実験台(指定席)に着き、個人に配布されたガラス器具、試薬などを使って整然と化学実験を行う。環境の化学分析では、班ごとに分析機器を用いて実験を行う。</p> | | <p>テキストは使用しない。実験を行う前の週にプリントを配布する。</p> | |
| | | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| | | | <p>実験態度(特に出席)と、毎回提出するレポートによって評価する。 "実験のゼミはおもしろそうだ"という安易な気持ちで受講しないこと。化学実験は常に危険を伴うので、うわついた気持ちで実験を行うと大事故につながる恐れがある。1回で終わらない実験もあり、欠席の場合にはその週のうちに実験して遅れを取り戻す必要がある。</p> | |
| | | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | | <p>受講者は"学生教育研究災害保険"に加入することを義務づける。実験が終わってから器具の洗浄などのあと片づけがあるので、帰宅が1時間程度遅れることがある。自然科学実験室収容人数を考慮して、最大履修者数は20名程度である。</p> | |

| | | | |
|---|--|------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール | <Basic Seminars> | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 兼岩 龍二 | <Ryuji Kaneiwa> | 研究室番号<Office> 459 |
| Office Hours | 在室中は特に都合が悪くない限り、いつでも可 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | 線形代数または重積分の中から題材を選び問題演習をゼミ形式で行う。 | | |
| 2.授業内容<Course contents> | 上記1.に依る。 | | |
| 3.使用教材<Teaching materials> | 未定。テキストが決まったら、必要な部分をコピー配布する。 | | |
| 4.成績評価の方法<Grading> | 平常点による。 | | |
| 5.履修上の注意事項<Remarks> | 履修者の上限を15名とする。希望者が多数の場合は、抽選により、15名までにしぼる。題材が決ったら、当方で概説をして、問題は各ゼミ生に割り当てる。ゼミ生は問題を解いて、それを皆の前で解説しなければならない。また関連する質問に答えなければならない。出席を重視する。 | | |

| | | | |
|---|--|------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール | <Basic Seminars> | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 久保田 顕二 | <Kenji Kubota> | 研究室番号<Office> 343 |
| Office Hours | 水曜日 16:30 ~ 17:30 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | 生命倫理学の問題を扱った文献を輪読して互いに意見を交わすことにより、現代社会が今まさに直面しているある種の倫理問題に対する基本的な理解力を身に付ける。 スキルの面では、履修者には、文献読解の力を向上させることのほか、これまでの受動的な学習態度を脱して授業に能動的に参加する姿勢を身に付けること、明晰な論述文を作成する技能を習得すること、等が求められる。 | | |
| 2.授業内容<Course contents> | あらかじめ担当者を決めておき、文献の指示された一定範囲についての報告を行ってもらう。担当者には、レジュメを作成・配布のうえで内容の要約と解説を行ってもらい、さらに自分自身の疑問なり意見なりを出してもらう(素人的なものでよく、専門的である必要はない)。その報告をもとにみなで意見を交換する。 なお、数回を終了した段階で、授業の進め方について履修者の側からの意見や希望を聴取し、そして、教育的に妥当とみなされる範囲で、その意見や希望を授業の中に積極的に反映させる。また数回目以降は、授業全体の進行役も、一部、授業担当者ではなく履修者のうちの誰かに(たとえば希望者に順番に)委ねることがありうる。 | | |
| 3.使用教材<Teaching materials> | 日本語の文献(英語からの翻訳、または日本の倫理学者の手になるもの)であって、かつ比較的平易なものを選ぶ。内容的には、安楽死・尊厳死、人工妊娠中絶、生殖医療、遺伝子操作、等を扱ったものが候補となるが、実際にどういった文献を読むかは、参加者とも相談のうえで決めたい(オリエンテーション時に、幾つかの文献の冒頭箇所をコピーして配布し、参加者の希望を確認する)。 なお、半期を通じてコピーだけで済ます予定である。 | | |
| 4.成績評価の方法<Grading> | 発表、平常点(出席状況、授業態度、等)、およびレポートによる。 | | |
| 5.履修上の注意事項<Remarks> | 履修者数は、上限15名までである。 | | |

| | | | |
|--|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール <Basic Seminars> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 倉田 稔 <Minoru Kurata> | 研究室番号<Office> | 421 |
| Office Hours | 授業の前後、教室か研究室、自宅への電話で、いつでも。メールでは答えられない。 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| 社会科学、人文科学の分野で、ディスカッション、独自勉強をする。研究報告、レポート執筆をする。 | 『グローバル資本主義の物語』 | | |
| 2.授業内容<Course contents> | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| 参加人数によるが、前半は、輪読会、後半は各自の研究途中経過の発表会となる。 | 参加度合い、報告の内容、最終レポートの内容。 | | |
| | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | 出席、参加が重視される。つまり討論。 | | |

| | | | |
|---|--|---------------|--------|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール <Basic Seminars> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 杉山 成 <Shigeru Sugiyama> | 研究室番号<Office> | 心理学実験室 |
| Office Hours | 火 17:30 ~ 18:30 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| テーマ：心の理論を学ぶ 概要：本ゼミの目的は2つあります。ひとつはゼミという学修形態への習熟であり、具体的には資料の探索方法や効果的な発表方法、建設的な討論の進め方等、基本的スキルの習得を目指します。もうひとつは、題材として扱うカウンセリングや心理療法の人間観についての議論を通して、人間に対する洞察力を深めることです。 | テキストは使用せずに、その都度、参考文献を紹介します。 | | |
| 2.授業内容<Course contents> | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| 各回ごとに、あらかじめ決められた担当者が担当部分についての抄録（レジюме）を作成した上で発表を行い、討論を行います。また、数回にわたりグループワークや集団討論、ディベート等を取り入れる予定です。最終的に、それら知見を踏まえて、教員の添削のもと、自分で設定したテーマに関する4000字程度の最終レポートを完成させます。 | 平常点（出席状況・担当内容の発表内容・討論への参加度）と最終レポートの内容によって判断します。 | | |
| | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | ゼミ室で行なうため、受講者は15名までとなります。受講希望者がそれを越える場合は、問題意識についての小レポート（テーマ「現代社会における心理的問題」・1000字以内・様式自由）を提出してもらい、それによって受講者を決定することになります。受講希望者はオリエンテーションに必ず出席してください。 | | |

| | | | | |
|--|-----------------|---|------------------|-----|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール | | <Basic Seminars> | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 杉之原 立史 | <Tatsushi Suginohara> | 研究室番号<Office> | 312 |
| Office Hours | 火 16:30 ~ 18:00 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> エネルギー問題に関する理解を深めるとともに、文章の読解・発表・討論の能力を向上させることを目的とする。 | | 3.使用教材<Teaching materials> テキスト：小島紀徳『エネルギー 風と太陽へのソフトランディング』日本評論社 | | |
| 2.授業内容<Course contents> エネルギーとは何か？ 現在、人類が利用しているエネルギー資源の種類と量は？ これから私たちはどのようにエネルギーを使っていくべきか？ このような問いについて、テキストを読みながら履修者全員で議論し、考えていきたい。 ゼミでは、テキストの内容について、履修者に順番に発表してもらい、発表する順番と分担（担当ページの割り振り）は初回の授業時に決める。発表者には、担当した範囲の内容を整理し、関連する文献やウェブページを調べたうえで、レジュメを作成し、発表をおこなってもらい、発表者以外の人にもその範囲を読んでおき、積極的に質問することが求められる。 | | 4.成績評価の方法<Grading> 出席状況、参加姿勢、発表内容などを総合的に評価する。 | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> 予習としてテキストをよく読み、よく考え、自分なりの意見を持ってゼミに参加してほしい。無断欠席や遅刻は厳禁とする。 | | |

| | | | | |
|---|----------------------------|---|------------------|-----|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール | | <Basic Seminars> | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 中村 史 | <Fumi Nakamura> | 研究室番号<Office> | 405 |
| Office Hours | 面談を希望される方はまず電子メールにてご連絡ください | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> この授業は題して「『源氏物語』を読む」となります。日本の古典文学を学び楽しむことを通じて、大学で学ぶための基礎学力を養う入門的（あるいは教養的）ゼミです。 | | 3.使用教材<Teaching materials> テキストはとくに定めません。参考文献は授業中に紹介してゆきます。 | | |
| 2.授業内容<Course contents> 『源氏物語』54帖のストーリーを履修者に分担して読破していただき、それぞれの担当部分を解説する発表をしていただきます。また、『源氏物語』についてのやさしい論文を紹介・解説する発表をしていただきます。図書館体験や『源氏物語』関係論文の探索をし、時間が許すならば、『源氏物語』（のいずれかの巻）の本文を読み、『源氏物語』についての小講義等も行われます。 *履修者の状況を見て予定を変更することはあり得ます。 | | 4.成績評価の方法<Grading> その方法については履修者の状況を見て最終的に決定します。基本的には参加態度、発表とレポートのよしあしによって評価する予定です。 | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> 履修者は古典文法を修得し、かつ古文・漢文をある程度以上読めることが望ましい。 基礎ゼミナールの性質上、万が一履修希望者が15名を超える場合には選抜の方法を考えざるをえません。なお、履修や成績評価等の重要なことについて電子メール上で対応することはできません。かならず電子メールで予約を取って研究室を訪問してください。 | | |

| | | | | |
|---|--|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール | <Basic Seminars> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 宝福 則子 | <Noriko Hofuku> | 研究室番号<Office> | 527 |
| Office Hours | 金12時10分～13時。その他、随時、事前にメール・電話で連絡し、可能なら、いつでもOK | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> ゼミ生各々が問題意識をもっているテーマについて、受け身ではなく、自律的に研究・発表し、討論する能力を養う。最終的には、論文を書くことを学ぶ。方法としては、以下に挙げる書物を各ゼミ生が熟読し、最低限知っておくべき共通の知識を獲得する。各週、一人あるいはグループで諸事項について発表し、具体的な環境問題の事例について新聞や他の資料を利用しながら、具体例を示し、それについて討論する。発表者は簡単なレジュメ（メモ程度でよい）を配布する。図書館の利用法やインターネット利用による文献の探し方等も学ぶ。 | | 3.使用教材<Teaching materials> 亀山康子『地球環境政策』昭和堂 | | |
| 2.授業内容<Course contents> 「環境と社会」を大きなテーマとし、具体的に個々の問題を扱う。 | | 4.成績評価の方法<Grading> ゼミ中の討論への参加度、発表、小論文の出来具合で評価する。 | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> 環境問題に関心があること以外には、特に条件はないが、積極的にゼミに参加することを望む。 | | |

| | | | | |
|---|---------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール | <Basic Seminars> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 米田 力夫 | <Rikio Yoneda> | 研究室番号<Office> | 355 |
| Office Hours | | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 微積分や線形代数の中から問題演習をゼミ形式で行い、数学の基礎的な考察力を身につけることを目指す。 | | 3.使用教材<Teaching materials> 未定 | | |
| 2.授業内容<Course contents> 履修者の上限を15名までとする。簡単な解説の後、演習問題等をゼミ生に割り当てて解説させる。 | | 4.成績評価の方法<Grading> 出席状況、平常点、レポート提出を総合的に勘案して評価する。 | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> 特になし | | |

| | | | | |
|---|-------------------|--|------------------|-----|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール | | <Basic Seminars> | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 杉村 泰教 | <Yasunori Sugimura> | 研究室番号<Office> | 541 |
| Office Hours | (金) 14:30 ~ 17:00 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 英国の劇作家 Harold Pinter の代表作 <i>The Room and The Dumb Waiter</i> (1960)を精読する。比較的平易な英語の行間に潜む複雑な意味を検討する。この作品について独自の視点から感想文を英語で書き、作者に関する出来るだけ詳細な情報を収集して提出する。 | | 3.使用教材<Teaching materials> Harold Pinter, <i>The Room and the Dumb Waiter</i> (Methuen Paperback) | | |
| 2.授業内容<Course contents> 1回 ~ 7回 The Room 8回 ~ 15回 The Dumb Waiter | | 4.成績評価の方法<Grading> レポートによる。 | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> 3回以上欠席した場合は、レポートを提出することが出来ない。輪読の形式で読み進めるので無断欠席は認めない。 | | |

| | | | | |
|---|-----------------|--|------------------|-----|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール | | <Basic Seminars> | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 萩原 正樹 | <Masaki Hagiwara> | 研究室番号<Office> | 327 |
| Office Hours | 火 13:30 ~ 15:30 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 中国文化入門。中国の歴史や文化を対象としてその理解に努めるとともに、文献の調べ方や読み方など、基礎的な研究方法について学びます。パソコンでの中国語表示・入力方法やインターネット・E-Mail の利用法についても学んでいきます。 この授業は、学生と教師との対話型・双方向性の授業です。また時おり視聴覚教材も使用する予定です。 | | 3.使用教材<Teaching materials> 愛知大学現代中国学部編『ハンドブック現代中国』(あるむ) | | |
| 2.授業内容<Course contents> 受講者の皆さんの読解、発表と討論が中心となります。具体的なテーマについての調査・発表・質疑応答を行い、最終的には各自が決めたテーマに関するレポートを完成してもらいます。 | | 4.成績評価の方法<Grading> レポートと、出席・授業態度(発表・発言)を総合して評価します。 | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> 受講者の皆さんには、積極的に授業に参加することを希望します。皆さんの積極的な発言が授業進行の原動力となります。なおこのゼミの履修者は、同時に中国語を履修していることが望ましいですが、意欲があれば中国語を履修していなくてもかまいません。 | | |

| | | | | |
|--|--------------------------------------|---|------------------|-----|
| 科目名<Subject> | 基礎ゼミナール | | <Basic Seminars> | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 山田 眞史 | <Mafumi Yamada> | 研究室番号<Office> | 513 |
| Office Hours | Mediante cita concertada previamente | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>スペイン文化への入門です。ここでいう「文化」とは文化記号論や文化人類学が研究の対象とするものを指します。試みに挙げてみれば、儀礼、祭り、文学、美術、建築、音楽、言語、スポーツ、生活習慣、書物、料理、映画、伝承、舞踏、宗教、余暇、その他さまざまです。それらが「スペインにかかわるかぎり」この授業の対象となります。</p> | | <p>その都度指示します。</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>参加者がそれぞれ上記のテーマ（あるいはそれ以外）を選び、それについて文献などにより研究し、レジメをつくって発表する。皆でそれについて論じ、各テーマについて理解を深める。スペイン文化への扉を叩くだけおわるか、それとも少しでも開くことができるか、それは各人にかかっています。</p> | | <p>発表の内容、討論の内容（対象をどれだけ理解しているか）。</p> | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>雑談の会ではありません。学問への入口です。志望者の多いのが例年、頭痛のタネです。本当に自分の目指すものが何なのか、真剣に考えたうえで、志望してください。</p> | | |

| | | | |
|---|----------------------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 生活と健康A・B | <Lifestyle and Health Medicine> | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 石崎 香理 | <Kaori Ishizaki> | 研究室番号<Office> 310 |
| Office Hours | e-mailにて、事前に日時を予約、確認して下さい。 | | |
| <p>1.授業の目的・方法<Course objective and method> 人間が健康であるためには、身体生理機能が完全でなければならない。超高齢化社会を迎えるに当たり、QOL（生活の質）という言葉がよく聞かれる。心身共に健康に質よく生きるためにはどのような生活が理想なのか。ヒトが持っている防衛体力に面からみた健康について講義を行う。</p> <p>2.授業内容<Course contents> (1) 心身機能について 身体機能とは 免疫機能とは その他 (2) 環境や疾病について 私たちをとりまく様々な環境 感染症 (3) 適度な運動習慣について 「適度な」とは QOL や老化 救急法・応急処置</p> <p>* 番号は講義順ではない。</p> | | <p>3.使用教材<Teaching materials> 資料配付・その他</p> <p>4.成績評価の方法<Grading> 出席状況・レポート・テストの総合評価とします。</p> <p>5.履修上の注意事項<Remarks> 詳細はオリエンテーション時に説明をします。</p> | |

| | | | | |
|---|--------------------------------|--|---------------|--------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ a1.b1 | <Exercise and Sports> | | バドミントン |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 前・後期 | |
| 担当教員名<Name> | 田野 有一 | <Yuichi Tano> | 研究室番号<Office> | 452 |
| Office Hours | 時間帯については、e-mailにて問い合わせの上、調整する。 | | | |
| <p>1.授業の目的・方法<Course objective and method> 学生時代のみならず、卒業後、社会人としても「健康に対する正しい知識と実践力を身に付け、自己の健康管理能力を備えた心身共にバランスのとれた人材教育を施す」ために開講される健康科学科目の実技編として位置づけられる。 本コースは、いつでも、どこでも、だれもが手軽に行える「大衆スポーツ」として広く親しまれているバドミントンを取り上げる。 大学卒業後も「生涯スポーツ」として自ら実践していけることを目指している。</p> <p>2.授業内容<Course contents> 大衆スポーツ・生涯スポーツとしての本コースでは、次に掲げる技術練習をはじめ、ルール・マナー・楽しみ方、協調性の大切さも学ぶ。 技能程度に合わせ、簡易ゲームを中心に展開。 <技能練習> * 初歩編...ラケットのグリップ方法、扱い方、フットワーク、コート区分など... * 基本編...各種ストローク練習（クリア、ドロップ、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ） * 応用編...シングルゲーム、ならびにダブルゲーム時における、攻め・守りのフォーメーションなど <ルールと審判法></p> | | <p>3.使用教材<Teaching materials> 本コースで必要とされる用具類は、すべて健康スポーツ担当教官側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。 (雨天時には、屋内用運動靴が必要)</p> <p>4.成績評価の方法<Grading> 実施回数（授業回数）の 2/3 以上の出席者を「成績評価対象者」とし、平素の履修態度、出席状況技能レベル等を考慮に入れて、総合的に評価する。</p> <p>5.履修上の注意事項<Remarks> 全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行い、本コースの参考資料とする。履修が決定後の履修コースの変更は認められない。 安易な履修取り消し等は断じて避けなければならない。 本コースの履修者数、他コースの履修者数等によって、実施場所の変更がある。 用具係り（用具の持出/運搬/収納）当番制とする予定。</p> | | |

| | | | |
|--|-------------------|--|-------------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ a1.a2.a5 | <Exercise and Sports> | 硬式テニス |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 花輪 啓一 | <Keiichi Hanawa> | 研究室番号<Office> 354 |
| Office Hours | 水曜日 10:00 ~ 14:00 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 4) ダブルス・ゲームの仕方とルールの解説 5) 授業の後半はゲーム | |
| <p>テニスは体の素早い反応と瞬発力を必要とする見かけよりもずっと激しいスポーツです。しかもそのテクニックのなかなか難しく、初心者がいきなり自分の思ったところへ打るといったことはまずないでしょう。ボールばかり追いかけるばかりで、たちまちお手上げとなってしまいます。しかし、基本からしっかりマスターすれば、あとは自分の体力にあったテニスで、生涯楽しめる幅広いスポーツです。</p> <p>つまり、健康づくりや生涯スポーツとして最適な種目と言えます。本コースでは初心者を対象に基本技術とルールを習得し、楽しくダブルスでのゲームができることを目標に行う。</p> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 本コースで必要とされる用具類は、すべて健康スポーツ担当教官側で用意するが、ラケットを自分専用を持っている人は持参した方が望ましい。また、テニスシューズは各自が用意すること。使用するコートはオムニコート（全天候型）2面、クレーコート1面を使用する。 | |
| 1) テニスの概要 | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・用具の歴史 ・テニスコート変革 ・コートでのマナー | | 授業実施回数の 2/3 以上の出席者を「成績評価対象者」とし、平素の履修態度、出席状況を考慮に入れ、総合的に評価する。 | |
| 2) 基本動作 | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ラケットの握り方 ・ストロークの基本の取得 | | <ul style="list-style-type: none"> ・全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行う。 ・グループ別学習形態をとることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。 | |
| 3) 基本技術 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・フォアハンド&バックハンドストローク ・ロブ（ロビング） ・ボレー ・スマッシュ ・サーブ（サーブ） | | | |

| | | | |
|---|---------------------------------|--|-------------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ a1.a5 | <Exercise and Sports> | ウォーキング |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 中川 喜直 | <Yoshinao Nakagawa> | 研究室番号<Office> 360 |
| Office Hours | Mailにて調整:nak@res.otaru-uc.ac.jp | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| <p>本コースは、大学・社会人になって活用できる健康づくりの方法を学び、自ら進んで健康の保持増進ができる能力を体得する。ウォーキングでは歩くことを通して自然環境に触れ、歩行が心身に与える効果について学習する。将来の社会生活において健康づくりになる運動の仕方や方法論の基礎を修得し、運動習慣を身につけることを目的とする。本コースはスポーツ嫌いの学生にとって最適なコースである。</p> | | <p>本コースで必要とされる用具は、すべて健康スポーツ担当教官側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。</p> <p>また、講義ではDVDとVTRなども活用し、PCを使った教材によって理解を深めて学習をする。</p> | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| <講義> | | 授業実施総回数の 2 / 3 以上の出席者を、「成績評価対象者」とし、平素の履修態度、出席状況等を考慮に入れ総合的に評価する。 | |
| ウォーキングの生理学と効用について：消費カロリー・心拍数・歩数などを測り運動強度を知り、各種スポーツの運動強度と消費エネルギー量を解説する。また、生活習慣病予防と健康の保持増進との関係について講義する。 | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| <実技> | | <ul style="list-style-type: none"> ・全コースとも共通実施種目として「体力テスト」を行う。 ・グループ別学習形態を採ることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。 | |
| 自然と触れ合う：「エコ・ウォーキング」、ゆっくり歩く：「スローウォーキング」、全身運動の歩行：「ストックウォーキング」、競技スポーツとしての「競歩」「急歩」、なんば歩き、横歩き、後ろ歩き、山歩きなどを体験し、効率の良い歩き方や、ピッチ走法・ストライド走法などを体験する。 | | | |
| 尚、ウォーキングは商大に隣接する遊歩道を使う。集合場所は体育館前、雨天時は体育館内にて実施する。 | | | |

| | | | |
|--|---------------------------------|--|-------------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ a2.b1.b2 | <Exercise and Sports> | 軽スポーツ |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 前・後期 |
| 担当教員名<Name> | 中川 喜直 | <Yoshinao Nakagawa> | 研究室番号<Office> 360 |
| Office Hours | Mailにて調整:nak@res.otaru-uc.ac.jp | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| <p>本コースは、大学・社会人になって活用できる健康づくりの方法を学び、健康の保持増進ができる能力を体得する。軽スポーツは様々な運動・スポーツを体験しながら、生涯に亘って継続できるスポーツを見つけることを目的とする。また、運動習慣を身につけ、将来の社会生活において健康づくりとなる運動の仕方や方法を修得する。</p> | | <p>本コースで必要とされる用具は、すべて健康スポーツ担当教官側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。</p> <p>また、講義ではDVDとVTRなども活用し、PCを使った教材によって理解を深めて学習をする。</p> | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| <p><講義></p> <p>各種スポーツの概要：歴史とマナー・ルールや、各種スポーツの運動強度と消費カロリー及び健康の保持増進との関係について解説する。また、スポーツのバイオメカニクスを学習する。</p> <p><実技></p> <p>各種スポーツの基礎技術の習得を中心に、ゲームの楽しみ方やチームプレーを実技の中で学ぶ。以下の各種スポーツの中から、2週毎に種目を選択する。学生の希望を取り入れる予定で、ユニークな種目は体験のために取り入れる。時間的にできない種目もある。</p> <p>ミニテニス、フットサル、ユニホック、ストックウオーキング、バレーボール、ソフトバレーボール、ソフトボール、アルチメット、バスケットボール、バトミントン、卓球、野球、ブーメラ、ン・フリスビー、キンボール ウオーキング</p> | | <p>授業実施総回数の2/3以上の出席者を、「成績評価対象者」とし、平素の履修態度、出席状況等を考慮に入れ総合的に評価する。</p> | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・全コースとも共通実施種目として「体力テスト」を行う。 ・グループ別学習形態を採ることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。 | |

| | | | |
|--|--------------|--|---------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ a3.a4 | <Exercise and Sports> | ソフトボール |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 細川 賢一 | <Ken-ichi Hosokawa> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| <p>スポーツを通して、学生の心身共に健全な人格の育成、自主的に運動を行うことにより自らを鍛え且つ楽しみ大学生活を豊かなものにし、生涯にわたって健康な生活を過ごすことのできる知識・技能・態度の体得やスポーツを楽しむながら実践していく基礎を養成する。</p> | | <p>本コースで必要とされる用具類は、すべて健康スポーツ担当教官側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。(雨天時には、屋内用運動靴が必要)</p> | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| <p>個人技の獲得</p> <p>ボールの握り～投げかた</p> <p>キャッチング～スローイング、ピッチング、バッティング、</p> <p>守備等の各種基本知識と基本技術練習</p> <p>ルールの理解と実践</p> <p>試合</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・授業回数の2/3以上の出席を単位認定の条件とする。 ・評価は、出席状況、参加態度を重要視し、総合的に評価する。 ・ゲーム成績も多少含む。 | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行い、本コースの参考資料とする。履修決定後の履修コースの変更は認められない。また、安易な履修取り消し等は断じて避けなければならない。</p> <p>ソフトボールの実技に適した運動着、屋外用運動靴以外の着用は認められないので注意すること。</p> | |
| | | <p>* 実施場所は本学「野球場」。</p> <p>* 用具係（用具の持出/運搬/収納）は当番制。</p> | |

| | | | |
|---|--------------------------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ a3.a4.b5 | <Exercise and Sports> | 卓球 |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 前・後期 |
| 担当教員名<Name> | 田野 有一 | <Yuichi Tano> | 研究室番号<Office> 452 |
| Office Hours | 時間帯については、e-mailにて問い合わせの上、調整する。 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| <p>学生時代のみならず、卒業後、社会人としても「健康に対する正しい知識と実践力を身に付け、自己の健康管理能力を備えつけた心身共にバランスのとれた人材教育を施す」ために開講される健康科学科目の実技編として位置づけられる。</p> <p>卓球は各人の技術水準に応じて楽しめるスポーツの一つとして広く国民に親しまれている。</p> <p>本コースは、いつでも、だれもが手軽に行える“大衆スポーツとしての卓球”といった観点から、それに必要な基本技術やルールをはじめ、ゲーム展開上での戦法とその技術を学ぶ。</p> | | <p>本コースで必要とされる用具類は、すべて健康スポーツ担当教官側で用意する。但し屋内用運動靴に関しては各自用意すること。</p> <p>*自己愛用のラケットを使用してもよい。</p> | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| <p>基本技術の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラケットの種類と選択方法 ・各種ストローク…フォア/バック (ロング、ショート、ドライブ、カット) ・つつつき打法 ・各種サービスとレシーブ方法 <p>ルールを学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シングルス ・ダブルス ・ゲーム(試合)の展開 ・シングルス・ダブルス ・各種戦法とその対処方法 ・戦績記録と反省 | | <p>授業総回数(授業時数)の2/3以上の出席者を「成績評価対象者」とし、履修態度、出席状況、技能レベルを考慮に入れて総合的に評価する。</p> | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行い本コースの参考資料とする。履修が決定後の履修コースの変更は認められない。また、安易な履修取り消し等は断じて避けなければならない。</p> <p>卓球の実技の適した運動着、室内運動靴以外の着用は認められないので注意すること。</p> | |

| | | | |
|--|--------------|---|---------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ a3.a4 | <Exercise and Sports> | バドミントン |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 森田 憲輝 | <Noriteru Morita> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| <p>バドミントンは手軽に行えるスポーツで、年齢や性別にとらわれず誰とでも競い合える生涯スポーツでもあります。その魅力は、打球感であったり、ラリーの応酬であったりします。したがって、授業では、第一に相手と長く打ち合えることを目標とします。また、シングルスやダブルスのゲームも行い、それぞれの戦術についても学びます。この種目が受講者の健康づくりの手段となることを目標に展開していきたいと思います。</p> | | <p>本科目で必要とされる用具(ラケット・シャトル等)は、担当教官側で用意する。受講生はジャージ・シューズ等の準備を要する。</p> | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1) シャトル拾い、ラケットさばき 2) 基本ストロークの打ち方(クリア、ドロップ、ドライブなど) 3) シングルのルールと簡易ゲーム 4) シングルのゲームプラン 5) ダブルスのルールと簡易ゲーム 6) ダブルスのゲームプラン 7) チーム対抗のバドミントン大会(リーグ戦) 8) ゲーム結果とアドバイスを記録 | | <p>授業実施総回数の2/3以上の出席者を「成績評価対象者」とし、平素の履修態度、出席状況を考慮に入れて、総合的に評価する。</p> | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行う。</p> <p>グループ別学習形態をとることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。</p> | |

| | | | |
|---|--------------------------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ a5 | <Exercise and Sports> | ソフトボール |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 田野 有一 | <Yuichi Tano> | 研究室番号<Office> 452 |
| Office Hours | 時間帯については、e-mailにて問い合わせの上、調整する。 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| <p>学生時代のみならず、卒業後、社会人としても「健康に対する正しい知識と実践力を身に付け、自己の健康管理力を備えた心身共にバランスのとれた人材教育を施す」ために開講される健康科学科目の実技編として位置づけられる。ソフトボールは、各人の技術水準に応じて楽しめるスポーツの一つとして広く国民に親しまれている。一発逆転の意外性の体験、また仲間同志の協調性や適度な運動負荷が求められる人生上での生涯スポーツの定着化を目指している。</p> | | <p>本コースで必要とされる用具類は、すべて健康スポーツ担当教官側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。(雨天時には、屋内用運動靴が必要) *自己愛用のグローブを使用してもよい。</p> | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| <p>個人的技術の獲得 キャッチボール、守備、ピッチング、バッティング...などの各種基本的な知識・技術の練習と体得 集団的技術の獲得 連携プレーの技術練習(走者がいる場合とそうでない場合のプレーの違いについて) ゲーム(試合)の展開 簡易ゲーム 正規のゲーム(審判...球審、塁審を含む) 勝因と敗因の分析と課題発見、克服方法の模索。チーム戦績結果(勝敗/勝率)記録。</p> | | <p>実施回数(授業時数)の2/3以上の出席者を「成績評価対象者」とし、履修態度、出席状況、技能到達レベル等を考慮に入れ、総合的に評価する。</p> | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行い、本コースの参考資料とする。履修決定後の履修コースの変更は認められない。また、安易な履修取り消し等は断じて避けなければならない。ソフトボールの実技に適した運動着、室外用運動靴以外の着用は認められないので注意すること。</p> <p>*実施場所は本学「野球場」。 *用具係(用具の持出/運搬/収納)は当番制。</p> | |

| | | | |
|---|----------------------------|--|-------------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ b1,b2 | <Exercise and Sports> | バレーボール |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 石崎 香理 | <Kaori Ishizaki> | 研究室番号<Office> 310 |
| Office Hours | e-mailにて、事前に日時を予約、確認して下さい。 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| <p>バレーボールの競技特性を把握させ、バレーボールを構成している基本技能や動き、ルール等を学習する。その指導課程に於いて、社会性の育成、健全なる競技精神や、授業における安全性についての習慣や態度の育成を図ることを目的とする。また、プレーヤー相互の協力と信頼を養うことにより、チームプレーの達成を目標とする。</p> | | <p>本コースで必要とされる用具は、全て健康スポーツ担当教官側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。(雨天時は上靴が必要となる)</p> | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| <p>バレーボールの競技特性と、技術的な動きの説明。パスやサーブ、スパイクなどの基本技術の習得のための、効果的な練習方法とその実践。チーム設計として、ポジショニング、連係プレー、フォーメーションプレーを行い、2人?4人でのゲーム展開の後、6人制の試合形式を学習する。ゲーム運営や審判も全員が協力し行うようにする。ミニソフトバレーを使用することもある。</p> | | <p>授業実施回数の2/3以上の出席者を、「成績評価対象者」とし、平素の履修態度、出席状況等を考慮に入れ総合的に評価する。</p> | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行う。 *グループ別学習形態をとることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。</p> | |

| | | | |
|---|---|-----------------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ b3.b4 | <Exercise and Sports> | バドミントン |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 細川 賢一 | <Ken-ichi Hosokawa> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>スポーツを通して、学生の心身共に健全な人格の育成、自主的に運動を行うことにより自らを鍛え且つ楽しみ大学生活を豊かなものにし、生涯にわたって健康な生活を過ごすことのできる知識・技能・態度の体得やスポーツを楽しむながら実践していく基礎を育成する。</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | <p>基本技術の練習 基本ショット(ネットショット、ドライブ、ドロップ、 ハイクリア、スマッシュ、サービス) ルール及びマナーの理解 シングルスゲームおよびダブルスゲームの展開 審判法</p> | | |
| 3.使用教材<Teaching materials> | <p>本コースで必要とされる用具類は、すべて健康スポーツ担当教官側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。 (雨天時には、屋内用運動靴が必要)</p> | | |
| 4.成績評価の方法<Grading> | <p>・授業回数の 2/3 以上の出席を単位認定の条件とする。 ・評価は、出席状況、参加態度を重視し、総合的に評価する。 ・技能やゲーム成績も多少含む。</p> | | |
| 5.履修上の注意事項<Remarks> | <p>全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行い、本コースの参考資料とする。 履修が決定後の履修コースの変更は認められない。 安易な履修取り消し等は断じて避けなければならない。 室内用の運動靴を用意すること。 * 用具係り(用具の持出/運搬/収納)当番制とする予定。</p> | | |

| | | | |
|---|---|-----------------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ b3.b4 | <Exercise and Sports> | 卓球 |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 中川 喜直 | <Yoshinao Nakagawa> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | Mailにて調整:nak@res.otaru-uc.ac.jp | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>本コースは、大学・社会人になって活用できる健康づくりの方法について卓球を通して学び、健康の保持増進ができる能力を体得する。また、卓球の技術を習得するとともに、ゲームを通して体力を養うことを目的とする。さらに、スポーツの理解を深めて、1)卓球の楽しさ知ること、2)戦術と技術を開発し、それを修得すること、3)チームプレイを身につけることなど、生涯スポーツとして位置づけるように卓球を学ぶ。</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | <p><講義> 卓球の概要：ピンポンから卓球へ今日までの歴史とルール・マナーの歩み、卓球の運動強度と消費カロリー、卓球のバイオメカニクスや健康の保持増進との関係について学ぶ <実技> 1)卓球ルールの変遷と基本技術の解説 2)基本姿勢・スイング・ラケット・ボールに慣れる 3)ペンホルダーグリップ・シェイクハンドグリップによる基礎技術、フォアハンドレシーブ・バックハンドレシーブ 4)サイド・バック・トップスピンのかけ方 5)ロング打法・ショート打法・カット打法 6)スマッシュ・ロビング・スマッシュ打法 7)ゲーム(シングルス・ダブルス) 8)ルール等の簡易テストを行う場合がある</p> | | |
| 3.使用教材<Teaching materials> | <p>本コースで必要とされる用具は、すべて健康スポーツ担当教官側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。 また、講義ではDVDとVTRなども活用し、PCを使った教材によって理解を深めて学習をする。</p> | | |
| 4.成績評価の方法<Grading> | <p>授業実施総回数の 2 / 3 以上の出席者を、「成績評価対象者」とし、平素の履修態度、出席状況等を考慮に入れ総合的に評価する。</p> | | |
| 5.履修上の注意事項<Remarks> | <p>・全コースとも共通実施種目として「体力テスト」を行う。 ・グループ別学習形態を採ることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。</p> | | |

| | | | |
|---|-------------------|--|-------------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ b5 | <Exercise and Sports> | バドミントン |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 花輪 啓一 | <Keiichi Hanawa> | 研究室番号<Office> 354 |
| Office Hours | 水曜日 10:00 ~ 14:00 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.フットワーク サイドステップ、クロスステップ | |
| バドミントンは19世紀前半からインドのボンベイ州プーナ付近で行われていたプーナ(Poona)というゲームが、1973年インド駐留の英国陸軍士官によって英国本国に伝えられ、それが改良されたのがバドミントン(Badminton)である。わが国に渡来したのは昭和初期といわれているが競技としてプレーされたのは昭和10年以降横浜YMCAにおいてであると言われている。このバドミントンはコートが卓球を除けば比較的狭いところで行う競技である。また、シャトルの初速は他の球技種目と比較して最も速く、一方、終速は最も遅いのが他の競技種目と違う唯一の特徴をもっている種目である。さらに、バドミントンはラケットやシャトルの持つ特性から性別、年齢に関係なく初心者からでも手軽に行える運動種目である。このような特性を持っているバドミントンを通して運動不足がちな現代生活の中に運動をする習慣を身に付けていただくことを目的とする。 | | 4.ゲーム(主に、ダブルス・ゲーム) 5.審判方 | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| バドミントンは生涯スポーツ種目の一つとして楽しんで頂くためにも、それなりの技術の習得が必要である。特に、基本的な下記の技術の習得について授業展開をして行く。 | | 本コースで必要とされる用具類は、すべて健康スポーツ担当教官側で用意するが、ラケットを自分専用に持っている人は持参した方が望ましい。 | |
| 1.ラケットの握り方 2.基本的ストローク ハイクリアー、ドロップショット、ドライブ、プッシュ、スマッシュ、ネット | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| | | 授業実施回数の2/3以上の出席者を「成績評価対象者」とし、平素の履修態度、出席状況を考慮に入れ、総合的に評価する。 | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | ・全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行う。 ・グループ別学習形態をとることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。 | |

| | | | |
|--|----------------------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ b5 | <Exercise and Sports> | バスケットボール |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 石崎 香理 | <Kaori Ishizaki> | 研究室番号<Office> 310 |
| Office Hours | e-mailにて、事前に日時を予約、確認して下さい。 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| バスケットボールは世界中の多くの人々に親しまれているスポーツですが、日本ではまだまだ野球やサッカーのようなメジャースポーツになっていないとは言えません。それらにはチームプレーばかりが先行し、個人技術の不足がゲームの内容をつまらなくしているのです。個人技術が高まればバスケットボール特有のスピード感あふれる試合展開が出来、それらがチームプレーに繋がってきます。そのためには、まず基礎をしっかりと身につけるルールやチームプレーを学び、更に瞬発力や敏捷性・持久力を養いながら体力の向上、健康増進に繋がることを目的とします。 | | 本コースで必要とされる用具は、全て健康スポーツ担当教官側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。(雨天時は上靴が必要となる) | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| バスケットボールに慣れることから始め、初心者でも、最終的に試合が行える様にすすめていく。基本的な持ち方、ドリブルやパスなどのボールコントロール(シュート、リバウンド、スピードなど含む)を行う。また的確なボディコントロール(フェイント、ピボット、ステップ、ストップターンなどのフットワーク)を取り入れ、最終的に5対5の試合を行う。 | | 授業実施回数の2/3以上の出席者を、「成績評価対象者」とし、平素の履修態度、出席状況等を考慮に入れ総合的に評価する。 | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | ・全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行う。 ・グループ別学習形態をとることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。 | |

| | | | |
|---|--------------------------------|--|-------------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ c1.d1 | <Exercise and Sports> | バドミントン |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 前・後期 |
| 担当教員名<Name> | 田野 有一 | <Yuichi Tano> | 研究室番号<Office> 452 |
| Office Hours | 時間帯については、e-mailにて問い合わせの上、調整する。 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 学生時代のみならず、卒業後、社会人としても「健康に対する正しい知識と実践力を身に付け、自己の健康管理能力を備えた新進共にバランスのとれた人材教育を施す」ために開講される健康科学科目の実技編として位置づけられる。 本コースは、いつでも、どこでも、だれもが手軽に行える「大衆スポーツ」として広く親しまれているバドミントンを取り上げる。 大学卒業後も“生涯スポーツ”として自ら実践していけることを目指している。 | | 3.使用教材<Teaching materials> 本コースで必要とされる用具類は、すべて健康スポーツ担当教官側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。 (雨天時には、屋内用運動靴が必要) | |
| 2.授業内容<Course contents> 大衆スポーツ・生涯スポーツとしての本コースでは、次に掲げる技術練習をはじめ、ルール・マナー。楽しみ方、協調性の大切さも学ぶ。 技能程度に合わせ、簡易ゲームを中心に展開。 <技能練習> * 初歩編...ラケットのグリップ方法、扱い方、フットワーク、コート区分など...。 * 基本編...各種ストローク練習(クリア、ドロップ、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ) * 応用編...シングルゲーム、ならびにダブルスゲーム時における、攻め・守りのフォーメーションなど <ルールと審判法> | | 4.成績評価の方法<Grading> 実施回数(授業時数)の2/3以上の出席者を「成績評価対象者」とし、平素の履修態度、出席状況技能レベル等を考慮に入れて、総合的に評価する。 | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> 全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行い、本コースの参考資料とする。 履修が決定後の履修コースの変更は認められない。 安易な履修取り消し等は断じて避けなければならない。 本コースの履修者数、他コースの履修者数等によって、実施場所の変更がある。 用具係り(用具の持出/運搬/収納)当番制とする予定。 | |

| | | | |
|--|-------------------|--|-------------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ c1.c2 | <Exercise and Sports> | 硬式テニス |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 花輪 啓一 | <Keiichi Hanawa> | 研究室番号<Office> 354 |
| Office Hours | 水曜日 10:00 ~ 14:00 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> テニスは体の素早い反応と瞬発力を必要とする見かけよりもずっと激しいスポーツです。しかもそのテクニックのなかなか難しく、初心者がいきなり自分の思ったところへ打るといったことはまずないでしょう。ボールばかり追いかけるばかりで、たちまちお手上げとなってしまいます。しかし、基本からしっかりマスターすれば、あとは自分の体力にあったテニスで、生涯楽しめる幅広いスポーツです。 つまり、健康づくりや生涯スポーツとして最適な種目と言えます。本コースでは初心者を対象に基本技術とルールを習得し、楽しくダブルスでのゲームができることを目標に行う。 | | 4) ダブルス・ゲームの仕方とルールの解説 5) 授業の後半はゲーム | |
| 2.授業内容<Course contents> 1) テニスの概要 ・用具の歴史 ・テニスコート変革 ・コートでのマナー 2) 基本動作 ・ラケットの握り方 ・ストロークの基本の取得 3) 基本技術 ・フォアハンド&バックハンドストローク ・ロブ(ロビング) ・ボレー ・スマッシュ ・サーブ(サーブ) | | 3.使用教材<Teaching materials> 本コースで必要とされる用具類は、すべて健康スポーツ担当教官側で用意するが、ラケットを自分専用を持っている人は持参の方が望ましい。また、テニスシューズは各自が用意すること。使用するコートはオムニコート(全天候型)2面、クレーコート1面を使用する。 | |
| | | 4.成績評価の方法<Grading> 授業実施回数の2/3以上の出席者を「成績評価対象者」とし、平素の履修態度、出席状況を考慮に入れ、総合的に評価する。 | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> ・全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行う。 ・グループ別学習形態をとることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。 | |

| | | | |
|--|---------------------------------|--|-------------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ c1 | <Exercise and Sports> | ウォーキング |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 中川 喜直 | <Yoshinao Nakagawa> | 研究室番号<Office> 360 |
| Office Hours | Mailにて調整:nak@res.otaru-uc.ac.jp | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| <p>本コースは、大学・社会人になって活用できる健康づくりの方法を学び、自ら進んで健康の保持増進ができる能力を体得する。ウォーキングでは歩くことを通して自然環境に触れ、歩行が心身に与える効果について学習する。将来の社会生活において健康づくりになる運動の仕方や方法論の基礎を修得し、運動習慣を身につけることを目的とする。本コースはスポーツ嫌いの学生にとって最適なコースである。</p> | | <p>本コースで必要とされる用具は、すべて健康スポーツ担当教官側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。</p> <p>また、講義ではDVDとVTRなども活用し、PCを使った教材によって理解を深めて学習する。</p> | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| <p><講義></p> <p>ウォーキングの生理学と効用について：消費カロリー・心拍数・歩数などを測り運動強度を知り、各種スポーツの運動強度と消費エネルギー量を解説する。また、生活習慣病予防と健康の保持増進との関係について講義する。</p> <p><実技></p> <p>自然と触れ合う：「エコ・ウォーキング」、ゆっくり歩く：「スロージョギング」、全身運動の歩行：「ストックウォーキング」、競技スポーツとしての「競歩」「急歩」、なんば歩き、横歩き、後ろ歩き、山歩きなどを体験し、効率の良い歩き方や、ピッチ走法・ストライド走法などを体験する。</p> <p>尚、ウォーキングは商大に隣接する遊歩道を使う。集合場所は体育館前、雨天時は体育館内にて実施する。</p> | | <p>授業実施総回数の2/3以上の出席者を、「成績評価対象者」とし、平素の履修態度、出席状況等を考慮に入れ総合的に評価する。</p> | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・全コースとも共通実施種目として「体力テスト」を行う。 ・グループ別学習形態を採ることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。 | |

| | | | |
|--|--------------------------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ c2 | <Exercise and Sports> | ソフトボール |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 田野 有一 | <Yuichi Tano> | 研究室番号<Office> 452 |
| Office Hours | 時間帯については、e-mailにて問い合わせの上、調整する。 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| <p>学生のみならず、卒業後、社会人としても「健康に対する正しい知識と実践力を身につけ、事故の健康管理力を備えた心身共にバランスのとれた人材教育を施す」ために開講される健康科学科目の実技編として位置づけられる。</p> <p>ソフトボールは、各人の技術水準に応じて楽しめるスポーツの一つとして広く国民に親しまれている。一発逆転の意外性の体験、また仲間同志の協調性や適度な運動負荷が求められる人生上での生涯スポーツの定着化を目指している。</p> | | <p>本コースで必要とされる用具類は、すべて健康スポーツ担当教官側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。(雨天時には、屋内用運動靴が必要)</p> <p>*自己愛用のグローブを使用してもよい。</p> | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| <p>個人的技術の獲得</p> <p>キャッチボール、守備、ピッチング、バッティング...などの各種基本的な知識・技術の練習と体得</p> <p>集団的技術の獲得</p> <p>連携プレーの技術練習(走者がいる場合とそうでない場合のプレーの違いについて)</p> <p>ゲーム(試合)の展開</p> <p>簡易ゲーム</p> <p>正規のゲーム(審判...球審、塁審を含む)</p> <p>勝因と敗因の分析と課題発見、克服方法の模索。チーム戦績結果(勝敗/勝率)記録。</p> | | <p>実施回数(授業時数)の2/3以上の出席者を「成績評価対象者」とし、履修態度、出席状況、技能レベル等を考慮に入れ、総合的に評価する。</p> | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行い、本コースの参考資料とする。</p> <p>履修決定後の履修コースの変更は認められない。また、安易な履修取り消し等は断じて避けなければならない。</p> <p>ソフトボールの実技に適した運動者、室外用運動靴以外の着用は認められないので注意すること。</p> <p>*実施場所は本学「野球場」</p> <p>*用具係(用具の持出/運搬/収納)は当番制。</p> | |

| | | | |
|---|-------------------|--|-------------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ d1 | <Exercise and Sports> | 卓球 |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 花輪 啓一 | <Keiichi Hanawa> | 研究室番号<Office> 354 |
| Office Hours | 水曜日 10:00 ~ 14:00 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| 卓球は比較的手軽に行うことができる身近なスポーツで、一般市民に愛好される室内スポーツで天候や季節に影響されずに実施できる運動種目である。今回この授業を受講しようとしている学生の多くは、一度は体験しその楽しさを経験されていると思われる。この授業では卓球の基本的な動作からスタートし、基本的な練習とゲームを中心に繰り返し実践しながら、卓球の高い技術を習得し、卓球を通して楽しく健康、体力の向上を目指すことを目標とする。 | | 本コースで必要とされる用具類は、すべて健康スポーツ担当教官側で用意するが、ラケットを自分専用を持っている人は持参した方が望ましい。 | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| 1) 各ラケットの握り方 2) クリップと構え 3) ストロークの基本動作 フォアハンド、バックハンド、ドライブ、カット、ロング、ショート 4) 突っつき打法 5) スマッシュ 6) 各種サーブ（サーブ） 7) 各種サーブスの対処法 8) ダブルス・ゲームの仕方とルールの解説 9) ゲーム（ダブルスが主） | | 授業実施回数の 2/3 以上の出席者を「成績評価対象者」とし、平素の履修態度、出席状況を考慮に入れ、総合的に評価する。 | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | ・全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行う。 ・グループ別学習形態をとることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。 | |

| | | | |
|---|---------------------------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ d1 | <Exercise and Sports> | 軽スポーツ |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 中川 喜直 | <Yoshinao Nakagawa> | 研究室番号<Office> 360 |
| Office Hours | Mailにて調整:nak@res.otaru-uc.ac.jp | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| 本コースは、大学・社会人になって活用できる健康づくりの方法を学び、健康の保持増進ができる能力を体得する。軽スポーツは様々な運動・スポーツを体験しながら、生涯に亘って継続できるスポーツを見つけることを目的とする。また、運動習慣を身につけ、将来の社会生活において健康づくりとなる運動の仕方や方法論を修得する。 | | 本コースで必要とされる用具は、すべて健康スポーツ担当教官側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。また、講義ではDVDとVTRなども活用し、PCを使った教材によって理解を深めて学習をする。 | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| <講義> 各種スポーツの概要：歴史とマナー・ルールや、各種スポーツの運動強度と消費カロリー及び健康の保持増進との関係について解説する。また、スポーツのバイオメカニクスを学習する。 <実技> 各種スポーツの基礎技術の習得を中心に、ゲームの楽しみ方やチームプレーを実技の中で学ぶ。以下の各種スポーツの中から、2週毎に種目を選択する。学生の希望を取り入れる予定で、ユニークな種目は体験のために取り入れる。時間的にできない種目もある。 ミニテニス、フットサル、ユニホック、ストックウオーキング、バレーボール、ソフトバレーボール、ソフトボール、アルチメット、バスケットボール、バトミントン、卓球、野球、プーメラ、フリスビー、キンボール、ウオーキング | | 授業実施総回数の 2 / 3 以上の出席者を、「成績評価対象者」とし、平素の履修態度、出席状況等を考慮に入れ総合的に評価する。 | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | ・全コースとも共通実施種目として「体力テスト」を行う。 ・グループ別学習形態を採ることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。 | |

| | | | |
|---|--------------------------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ d2 | <Exercise and Sports> | 卓球 |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 田野 有一 | <Yuichi Tano> | 研究室番号<Office> 452 |
| Office Hours | 時間帯については、e-mailにて問い合わせの上、調整する。 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| <p>学生時代のみならず、卒業後、社会人としても「健康に対する正しい知識と実践力を身に付け、自己の健康管理能力を備えつけた心身共にバランスのとれた人材教育を施す」ために開講される健康科学科目の実技編として位置づけられる。</p> <p>卓球は各人の技術水準に応じて楽しめるスポーツの一つとして広く国民に親しまれている。</p> <p>本コースは、いつでも、だれもが手軽に行える“大衆スポーツとしての卓球”といった観点から、それに必要な基本技術やルールをはじめ、ゲーム展開上での戦法とその技術を学ぶ。</p> | | <p>本コースで必要とされる用具類は、すべて健康スポーツ担当教官側で用意する。但し屋内用運動靴に関しては各自用意すること。</p> <p>*自己愛用のラケットを使用してもよい。</p> | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| <p>基本技術の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラケットの種類と選択方法 ・各種ストローク…フォア/バック (ロング、ショート、ドライブ、カット) ・つつつき打法 ・各種サービスとレシーブ方法 <p>ルールを学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シングルス ・ダブルス <p>ゲーム(試合)の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シングルス・ダブルス ・各種戦法とその対処方法 ・戦績記録と反省 | | <p>授業総回数(授業時数)の2/3以上の出席者を「成績評価対象者」とし、履修態度、出席状況、技能レベルを考慮に入れて総合的に評価する。</p> | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行い本コースの参考資料とする。</p> <p>履修が決定後の履修コースの変更は認められない。また、安易な履修取り消し等は断じて避けなければならない。</p> <p>卓球の実技の適した運動着、室内運動靴以外の着用は認められないので注意すること。</p> | |

| | | | |
|--|-------------------|---|---------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ d2 | <Exercise and Sports> | バドミントン |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 花輪 啓一 | <Keiichi Hanawa> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | 水曜日 10:00 ~ 14:00 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.フットワーク | |
| <p>バドミントンは19世紀前半からインドのボンベイ州プーナ付近で行われていたプーナ(Poona)というゲームが、1973年インド駐留の英国陸軍士官によって英国本国に伝えられ、それが改良されたのがバドミントン(Badminton)である。わが国に渡来したのは昭和初期といわれているが競技としてプレーされたのは昭和10年以降横浜YMCAにおいてであるといわれている。このバドミントンはコートが卓球を除けば比較的狭いところで行う競技である。また、シャトルの初速は他の球技種目と比較して最も速く、一方、終速は最も遅いのが他の競技種目と違う唯一の特徴をもっている種目である。さらに、バドミントンはラケットやシャトルの持つ特性から性別、年齢に関係なく初心者からでも手軽に行える運動種目である。このような特性を持っているバドミントンを通して運動不足がちな現代生活の中に運動をする習慣を身に付けていただくことを目的とする。</p> | | <p>サイドステップ、クロスステップ</p> | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.ゲーム(主に、ダブルス・ゲーム) | |
| <p>バドミントンは生涯スポーツ種目の一つとして楽しんで頂くためにも、それなりの技術の習得が必要である。特に、基本的な下記の技術の習得について授業展開をして行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.ラケットの握り方 2.基本的ストローク <p>ハイクリアー、ドロップショット、ドライブ、プッシュ、スマッシュ、ネット</p> | | 5.審判方 | |
| | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| | | <p>本コースで必要とされる用具類は、すべて健康スポーツ担当教官側で用意するが、ラケットを自分専用を持っている人は持参した方が望ましい。</p> | |
| | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| | | <p>授業実施回数の2/3以上の出席者を「成績評価対象者」とし、平素の履修態度、出席状況を考慮に入れ、総合的に評価する。</p> | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行う。</p> <p>グループ別学習形態をとることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。</p> | |

| | | | |
|---|--------------------|--|---------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ e | <Exercise and Sports> | 水泳集中 |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 夏季集中 |
| 担当教員名<Name> | 田野有一、花輪啓一、中川喜直、堤 毅 | | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| <p>1.授業の目的・方法<Course objective and method> 水泳は水の抵抗の作用によりかなりの運動の量を要することから、短時間でエアロビクスの効果を得ることができ、肥満者にとってはシェイプアップ効果が大きい。また、浮力の作用により体重の負担が軽くなり運動が行いやすい。一方、運動したあとの水泳は、疲労回復に非常に役立つ。これは、他の運動で偏った使われ方をした筋肉が水泳で全身を動かすことにより調整されるからである。 このような、効用をもつ水泳について、水による事故防止の観点から、より確かな泳法の習得と向上および健康づくりを目的に展開される。</p> <p>2.授業内容<Course contents> 各自の技能レベルにより4班(初級、中級A・B、上級)に分けて実施する。 平成18年6月10日(土)・11日(日)・17日(土) 午前8時50分～午後4時00分 ・共通実習として救急処置についての実習がある。 ・実施会場は本学室内温水プール(25m×5コース)で行う。</p> | | <p>3.使用教材<Teaching materials> ・各自が用意するもの...水着、バスタオル、その他(ゴーグル、耳せん等の使用は可)</p> <p>4.成績評価の方法<Grading> ・成績評価は集中授業の受講態度、技能程度、出席状況等を考慮に入れて、総合的に評価する。</p> <p>5.履修上の注意事項<Remarks> ・短期集中授業であるため、欠席等により単位の修得が不可能になる場合があるので、十分注意すること。 ・修者自身の安易な履修取り消しは禁止する。 ・実技に先立って、ガイダンスが行われる。</p> | |

| | | | |
|--|---------------------------------|--|---------------|
| 科目名<Subject> | 健康スポーツ f(スキー)、g(スキー) | <Exercise and Sports> | スキー集中 |
| 単位数<Credits> | 1 | 配当年次<Years> | 冬季集中 |
| 担当教員名<Name> | 田野有一、花輪啓一、中川喜直、石崎香理、山本哲二、山田亮、堤毅 | | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| <p>1.授業の目的・方法<Course objective and method> スキー集中では、一般的なスキー技能の習得を目標に冬期スポーツの一つとして開講する。冬期の運動不足の解消として健康的な体力の保持増進のために、また、屋外の生涯スポーツとしてスキー技術を学習する。近年、カービングスキーが定着して、スキーの回転性能がアップした。これに伴い早くスキーが上達できるようになった。スキーのメッカ小樽の大学出身者として基礎技術をマスターしたい。</p> <p>2.授業内容<Course contents> 講義では初心者から上級者まで、7班に別けてレベルに応じた実習を行う。初心者は歩行から学習しリフトに乗り滑走できるまで、上級者はコブ、新雪スキーまでを実習する。また、簡単なポール滑走も行う予定である。</p> <p>1班 上級A 小回りターンの習得(急斜面・不整地) 2班 上級B 小回りターンの習得(急斜面) 3班 中級A 小回りターンの習得(緩斜面) 4班 中級B 大回りターンの習得(中斜面) 5班 中級C 大回りターンの習得(緩斜面) 6班 初級者 シュテムターンの習得(中斜面) 7班 初級者 ブルークボーゲンの習得(中斜面)</p> <p><日程>平成19年1月4,5,6日 午前8:50～午後4:00 <場所>朝里川温泉スキー場 現地集合</p> | | <p>3.使用教材<Teaching materials> 特になし</p> <p>4.成績評価の方法<Grading> ・成績評価は集中授業の受講態度、技能程度、出席状況等を考慮に入れて、総合的に評価する。</p> <p>5.履修上の注意事項<Remarks> ・リフト代は各自負担(平成17年度1日当たり1300円) ・スキー用具は各自準備すること。 ・実技に先立って、ガイダンスが行われる。</p> | |

外国語科目
(英語)

| | | | | |
|---|------------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語 E101A 【基礎クラス】 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 大島 稔 | <Minoru OSHIMA> | 研究室番号<Office> | 353 |
| Office Hours | 月・金12:50-14:20 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>このクラスは、1年生英語A群の「基礎クラス」です。このクラスは、高校までの文法事項を復習しながら、文章の内容把握がスムーズにできるようになるための基礎的な英語読解能力とコミュニケーション能力を高めるための聴解能力を養うことを目的としています。視聴覚機器としてカセットテープレコーダーを用います。</p> | | <p>Tsuchiya, Takeshita et al. (2005), <i>A Complete College English Program Book 1</i>, 金星堂</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>第1課 Gun Control (数の一致) 第2課 Say Hi to Hybrids (冠詞) 第3課 Skyscrapers (可算・不可算名詞) 第4課 Virtual Reality (動名詞・不定詞) 第5課 The Egyptian Pyramids (時制) 第6課 21st-Century Addictions (時制) 第7課 Academy Awards (受動態) 第8課 California, Here I Come! (後置修飾) 第9課 Anyone for a Cup of Tea? (比較) 第10課 Sushi (関係代名詞) 第11課 Living in a Ubiquitous Society (接続詞) 第12課 The Freer Phenomenon (接続詞) 第13課 The Computer Revolution (仮定法) 第14課 Stride toward Freedom (分詞構文) 第15課 How Do You Like Louis Vuitton? (分詞構文)</p> | | <p>(1)出席点(30%)、(2)2週ごとの復習テスト(70%)</p> | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>このクラスでは、予習を前提として授業を進めますので、予習は必至です。</p> | | |

| | | | | |
|---|--|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語 E102A 【発展クラス】 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 吉田 直希 | <Naoki Yoshida> | 研究室番号<Office> | 433 |
| Office Hours | 月14:30~17:00 E-mail: yoshida@res.otaru-uc.ac.jp Tel: 27-5426 | | | |
| このクラスは英語IA発展クラスです。 | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | <p>プリント、副教材を使用します(第1回目授業時に配布、指示します)。</p> | | |
| <p>対話型、双方向型の授業 情報機器、視聴覚機器を使用 現代の散文を読んで、内容を正しく理解する能力を身につけることを目的とする読解力養成のためのクラスです。</p> | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | <p>出席:10点 授業への参加状況:40点 試験およびレポート:50点</p> | | |
| <p>大学生の知的好奇心を刺激する多様なテーマやトピックに関する比較的高度な内容の英文を題材とします。毎回まとまった量の読解教材を読み、文法、内容等の理解を確認します。 また、個人・グループによる口頭発表を通して、テキストの内容理解を深めていきます。十分に予習し、積極的に議論に参加することが求められます。適宜小テストを実施します。</p> | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>3回まで欠席(遅刻は欠席扱い)を認めます。 毎回の授業で3回以上の発言がない場合は欠席扱いとなります。</p> | | |

| | | | |
|--|----------|--|---------------|
| 科目名<Subject> | 英語 E103A | <English > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 鈴木 良克 | <Yoshikatsu Suzuki> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| <p>1.授業の目的・方法<Course objective and method> 内容把握が最終目的であるが、発音及び文法も重視するので、それらの面の予習も怠らないで下さい。</p> <p>2.授業内容<Course contents> 第1週はオリエンテーションを、第2週は音声学の講義をおこない、第3週から John Barton の著書、<i>Knowledge is Power</i> を使用し前期、後期を通して精読する予定です。</p> | | <p>3.使用教材<Teaching materials> John Barton : <i>Knowledge is Power</i>- 成美堂 ¥ 1,800</p> <p>4.成績評価の方法<Grading> 前期1回、後期1回の試験、及び小テスト、出席回数及び予習内容を考慮して最終評価とします。</p> <p>5.履修上の注意事項<Remarks> 講義には必ず辞書を用意して下さい。</p> | |

| | | | |
|--|----------------|--|---------------|
| 科目名<Subject> | 英語 E104A E112A | <English > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 藤田 佳也 | <FUJITA Yoshiya> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| <p>1.授業の目的・方法<Course objective and method> 本授業は、「英語で書かれた文章を正確に理解する能力をしっかりと身につけること」をねらいとする。言語の細かなニュアンスを敏感に嗅ぎ取るために、「読む」という行為を出来るかぎり意識的に行う習慣を自分のものにして欲しいと考えている。</p> <p>2.授業内容<Course contents> 授業は、1 前回分の小テストの返却と講評・解説 2 リスニング演習 3 テキストの読解 4 小テスト という手順で進めていく。授業においては、進度よりも正確に理解することに重点を置きたい。</p> | | <p>3.使用教材<Teaching materials> The Universe of English II (東京大学出版会)</p> <p>4.成績評価の方法<Grading> 出席状況、小テストの結果、受講の姿勢及び定期試験の結果を総合的に判断し、評価する。</p> <p>5.履修上の注意事項<Remarks> 前・後期それぞれ1 / 3 以上欠席の場合、単位は与えない。また、遅刻、下調べの不十分な場合は、欠席としてカウントする。</p> | |

| | | | | |
|---|-------------------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語 E105A 【基礎クラス】 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 杉村 泰教 | <Yasunori Sugimura> | 研究室番号<Office> | 541 |
| Office Hours | (金) 14:30 ~ 17:00 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> 前期は、プリントを使用して高校で習得した基本的な語彙、慣用語句、文法等の知識を確認する。後期は、アイルランドの小説家 James Joyce の平易な短篇小説を読む。 | | 3 使用教材<Teaching materials> James Joyce, <i>Dubliners</i> (成美堂) | | |
| 2 授業内容<Course contents> 1回 ~ 15回 プリント学習 16回 ~ 18回 Araby 19回 ~ 20回 Eveline 21回 ~ 25回 The Boarding House 26回 ~ 30回 A Painful Case | | 4 成績評価の方法<Grading> 主として定期試験の成績による。出席率、授業への参加態度、予習の状況を重視する。 | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> 授業実施時数の3分の2以上出席しなければ、定期試験を受けることはできない。原則として遅刻は欠席と同等に扱う。 | | |

| | | | | |
|---|-------------------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語 E106A 【発展クラス】 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 小林 敏彦 | <Toshiko Kobayashi> | 研究室番号<Office> | 319 |
| Office Hours | 金曜午後 4:10 ~ 6:10 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> わかりやすく、楽しく、ためになる授業を目指す。授業は英語で行うが、授業終了前の5分間は日本語で捕捉し、質疑応答を行う。前期は洋楽と洋画を活用したリスニングを行い、「洋楽が聞き取れ、カラオケで歌え、洋画を字幕を見ないで鑑賞できるようになる」ことに一歩でも近づくことを目指す。後期は洋楽とメディアを活用した4技能活動を行い、「硬派なニュースの聴き取りと背景知識の理解を行いメディア・リテラシーを高め、自らの意見を英語で世界に発信する」ための訓練を行う。 授業の流れ(前期) 1) アテンダンス、2) ポップス歌詞聞き取りと合唱、3) 対話文の聴き取り演習、4) 洋画の聴き取りタスク、5) 対話文の作成と BBS へのアップロード授業の流れ(後期) 1) アテンダンス、2) ポップス歌詞聞き取りと合唱(15分間)、3) コミュニケーションストラテジーを含む教室内でのコミュニケーション活動(15分間)、4) ニュースの聴き取りタスク(45分間)、5) 英作文 BBS へのアップロード(15分間) | | 洋画 1. ROCKY IV 2. BABE 3. ARMAGEDDON 4. LEON 5. BEAN 6. TITANIC 7. THE FUGITIVE 8. STAR WARS IV 9. TERMINATOR 2 10. CONTACT 11. INDEPENDENCE DAY 12. DIE HARD 3 13. THE MATRIX 14. THE NEGOTIATOR 15. THE LAST EMPEROR | | |
| 2 授業内容<Course contents> 洋楽 1: Eye of the tiger 2: Dancing queen 3: Yesterday once more 4: Believe 5: Bridge over troubled water 6: My heart will go on 7: Crazy for you 8: For your eyes only 9: Go west 10: New York city boy 11: Y.M.C.A. 12: In the navy 13: Sukiyaki 14: Stand by me 15: Yesterday 16: Take me home country road 17: Unchained melody 18: Candle in the wind 19: Pretty woman 20: Imagine 21: Love me tender 22: Can't help falling in love 23: Mr. Lonely 24: El Condor Pasa 25: Top of the world 26: Last Christmas 27: Tears in heaven 28: What a wonderful world 29: That's what friends are for 30: We are the world | | 3 使用教材<Teaching materials> 『3パターンで決まる日常英会話ネイティブ表現』 語研 『VOA 英語ニュース・リスニング初挑戦』 語研 | | |
| | | 4 成績評価の方法<Grading> 「秀」は授業態度が優秀で、通年で無遅刻無欠席、課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が90点を越えた者に与えられる。「優」は授業態度が優秀で通年で欠席および遅刻が1回だけ、課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が80~89点の者に与えられる。「良」は授業態度が優秀で、通年で遅刻および欠席が1~4回、課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が70~79点の者に、「可」は平均点が60~69点の者に与えられる。「不可」は通年で遅刻および欠席が5回に達した者、課題を一度でも提出しなかった者、および小テスト及び前期後期試験の平均点が60点に達しなかった者に与えられる。体育会系部活動の合宿および大会遠征については英文での報告を後日行うことで3回まで公欠とし、欠席にカウントしない。 | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> 授業には積極的に参加し、配布物は必ずバインダーに保存し、毎回持参すること。私語は絶対慎むこと。遅刻は欠席扱いとする。 | | |

| | | | |
|---|----------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 英語 E107A | <English > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 山本 久雄 | <Hisao Yamamoto> | 研究室番号<Office> 526 |
| Office Hours | 金曜日13:00~14:30 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 目的：英文読解力の向上 方法：学生の和訳に対する教官の補足説明 | | 3.使用教材<Teaching materials> テキスト：A Background to English P.S. Tregidgo 著 英光社 | |
| 2.授業内容<Course contents> 第1週 オリエンテーション 第2～30週 本文の読解 | | 4.成績評価の方法<Grading> 年2回の定期試験・出席・授業内での発表による総合評価 | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> 全授業数の1/3以上の欠席者は受験不可 | |

| | | | |
|--|-----------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 英語 E108A | <English > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 杉村 泰教 | <Yasunori Sugamura> | 研究室番号<Office> 541 |
| Office Hours | (金) 14:30~17:00 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 前期は、プリントを使用して慣用語句、文法、構文等の知識を確認する。 後期は、環境と文化に関する評論文を読む。 | | 3.使用教材<Teaching materials> Mallory Fromm, <i>The Cultural Network</i> (成美堂) | |
| 2.授業内容<Course contents> 1回～15回 プリント学習 16回～30回 評論文 | | 4.成績評価の方法<Grading> 主として定期試験の成績による。出席率、授業への参加態度、予習の状況を重視する。 | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> 授業実施時数の3分の2以上出席しなければ、定期試験を受けることはできない。 原則として遅刻は欠席と同等に扱う。 | |

| | | | | |
|---|---|----------------|--|----|
| 科目名<Subject> | 英語 E109A E114A | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 佐藤 幸子 | <Sachiko Sato> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>現代に生きる我々は世界のニュースを避けて生きることは出来ない。常に英語ニュースに取り囲まれ、それに対する知識、理解能力を必要とされている。従って、単語の知識、内容理解、ヒアリングの能力などを習得することを目的とする。</p> | | <p>3.使用教材<Teaching materials> 中川一郎：International News SANSHUSHA 1800円と税</p> | |
| 2.授業内容<Course contents> | <p>毎時間、講義の最初に数名の学生に英語のショートスピーチをしてもらう。テキストを使用して、時事英語の学習をした後、毎回、前回進んだ範囲の単語のテストを行う。</p> | | <p>4.成績評価の方法<Grading> 出席率、発表、レポートの内容などを総合して評価する。</p> <p>5.履修上の注意事項<Remarks> 遅刻は認めない。</p> | |

| | | | | |
|---------------------------|--|-----------------|---|-----|
| 科目名<Subject> | 英語 E110A 【基礎クラス】 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 大島 稔 | <Minoru OSHIMA> | 研究室番号<Office> | 353 |
| Office Hours | 月・金12:50-14:20 | | | |
| このクラスは、1年生英語A群の「基礎クラス」です。 | <p>1.授業の目的・方法<Course objective and method> このクラスは、「基礎クラス」なので、高校までの学習事項を復習しながら、大学で必要な英語能力である、聴解力、文章の内容把握力、発表力をつけることを目的としています。 教材は、TOEIC Test に対応した問題をフルに利用したもので、12課あります。各課は2部に分かれています。第1部では、視聴覚機器としてカセットテープレコーダーを用い「聴き取り」能力をアップすることで、「書く、話す」能力の育成をめざします。第2部は、高校までの「文法事項」の知識の復習と総まとめを行い、その応用として「読む、書く」能力の育成をめざします。</p> | | <p>3.使用教材<Teaching materials> Ikeuchi, Masanao, Masanori Nagaoka, Toshihiro Ashikaga & Yukio Sugama (2006), <i>English Delight - Brushing Up the Four Skills for the TOEIC Test</i> -, 朝日出版</p> | |
| 2.授業内容<Course contents> | <p>第1章 風景・情景&自動詞と他動詞 第2章 日常生活()&5文型 第3章 日常生活()&時制と数 第4章 家庭()&完了形 第5章 家庭()&助動詞 第6章 学校&受動態 第7章 食事&不定詞 第8章 買い物&動名詞 第9章 旅行&分詞 第10章 レジャー()&仮定法 第11章 レジャー()&形容詞・副詞 第12章 ビジネス&関係詞</p> | | <p>4.成績評価の方法<Grading> (1)出席点(30%)、(2)4回の確認テスト(70%)</p> <p>5.履修上の注意事項<Remarks> このクラスでは、予習を前提として授業を進めますので、予習は必至です。</p> | |

| | | | |
|---|-------------------|---|---------------|
| 科目名<Subject> | 英語 E111A | <English > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 上野 之江 | <Yukie Ueno> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | 月曜日 12:00 ~ 12:30 | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> TOEIC (Test of English for International Communication) で C レベルのスコアをめざす。 1) TOEIC の問題形式を理解する。 2) Listening 問題の傾向を知る。 3) 文法、読解問題の傾向を知る。 4) 語彙を増強する。 5) 新傾向問題に慣れる。 最初の 30 分はその週のテキストを読み解答と解説をします。語彙と表現を覚えます。文法の復習も毎週行います。最後に確認テストを実施します。毎週の授業は解答と解説、テストの単調な繰り返しです。この繰り返しの中で、TOEIC の語彙、文法、解答方法をしっかり身につけて下さい。2006 年より TOEIC はリニューアルされ、米、英、カナダ、豪の英語によるリスニング問題になります。文法、読解問題にも若干の変更があります。授業で紹介します。 | | 3. 使用教材<Teaching materials> 『Build Up Your TOEIC Vocabulary: A Basic Course』松柏社, 2003 年, 1,700 円 | |
| 2. 授業内容<Course contents> (第 1 学期・第 2 学期共通) 第 1 週 オリエンテーション 第 2~5 週 Listening (Parts 1 - 4), 文法問題 (Parts 5 - 6) 第 6 週 復習テスト 1 第 7 ~ 11 週 Listening (Parts 1 - 4), 文法問題 (Parts 5 - 6) 第 12 週 復習テスト 2 第 15 週 期末テスト | | 4. 成績評価の方法<Grading> 復習テスト 1 : 30%, 復習テスト 2 : 30%, 期末試験 40%。通算正答率 60% 以上を合格とします。復習テスト、期末テストともに既習問題半分、未習問題半分を出題します。毎週テキストを予習して来て下さい。 5. 履修上の注意事項<Remarks> 各学期欠席 4 回以上の者は中間、期末試験の受験資格を失います。 | |

| | | | |
|---|-------------------------|--|-------------------|
| 科目名<Subject> | 英語 E113A 【基礎クラス】 | <English > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 杉村 泰教 | <Yasunori Sugimura> | 研究室番号<Office> 541 |
| Office Hours | (金) 14:30 ~ 17:00 | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> 前期は、プリントを使用して高校で習得した基本的な語彙、慣用語句、文法等の知識を確認する。後期は、アイルランドの小説家 James Joyce の平易な短篇小説を読む。 | | 3. 使用教材<Teaching materials> James Joyce, <i>Dubliners</i> (成美堂) | |
| 2. 授業内容<Course contents> 1回 ~ 15回 プリント学習 16回 ~ 18回 Araby 19回 ~ 20回 Eveline 21回 ~ 25回 The Boarding House 26回 ~ 30回 A Painful Case | | 4. 成績評価の方法<Grading> 主として定期試験の成績による。出席率、授業への参加態度、予習の状況を重視する。 5. 履修上の注意事項<Remarks> 授業実施時数の3分の2以上出席しなければ、定期試験を受けることはできない。 原則として遅刻は欠席と同等に扱う。 | |

| | | | | |
|--|----------------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語 E121B 【基礎クラス】 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | ダニエラ・カルヤヌ | <Daniela Calianu> | 研究室番号<Office> | 536 |
| Office Hours | Monday 16:10 - 17:40 | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>This is a course in essential English. The course will offer practice for all the four skills (listening, speaking, reading and writing) with special attention to listening and speaking. During classes you will:</p> <ul style="list-style-type: none"> -watch video -do comprehension activities -discuss language points -pattern practice -dictation <p>LANGUAGE: The language used in class is ENGLISH at all times.</p> <p>PREPARATION: You will need to watch the video before class. A copy of the video tape can be found at the Language Center.</p> | | <p>Hideo Oka and Waltraud Oka: Come and Join Us at Gostwycke Hall, Seibido, • 1800</p> <p>The textbook is accompanied by a video introducing the everyday life of a group of amusing characters living and working at Gostwycke Hall, an English castle turned into a hotel available at the Language Center.</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>Each lesson introduces everyday expressions language useful for: introductions, greetings, giving and asking advice, making requests, agreeing and disagreeing, etc.</p> | | <p>Class activity: 50% Year final test: 50% Penalty points Class activity: I will give dictations every week. The results of the dictation will count as 50% of your grade. If you miss the class you get 0 points for that day. Penalties: Students who engage in unacceptable activity will get 1 penalty point. You cannot pass this class if you have more than 6 penalty points. For each penalty point you lose 5 points from your grade. Unacceptable activity -sleeping during class -having private conversations in Japanese -arriving late</p> | | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | You will need pen, a notebook, the textbook, and a dictionary. | | |

| | | | | |
|---|----------------|---|---------------|----|
| 科目名<Subject> | 英語 E122B E129B | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | ティモシー・ブランクレ | <Timothy Blankley> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>To gain practical experience in the four skills at a beginner to intermediate level. Students communicate their own ideas, practice language features, interact with others, use specific strategies and expansion activities. Students practice stages mentioned and finally demonstrate a level of expertise in the speaking genre as outlined within the lessons.</p> | | <p>Text: Title: English KnowHow Student Book 1 Therese Naber and Angela Blackwell ISBN: 0195975669 Units: Price: 2400 Yen</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>Interesting and realistic content on topics such as spending time, lifestyles, customs, clothing, technology, gift-giving, movies, health and plans and goals.</p> | | <p>Based on class participation and two oral tests.</p> | | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語 E123B 【基礎クラス】 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | マーク・ホルスト | <Mark Holst> | 研究室番号<Office> | 359 |
| Office Hours | 月 4.10 ~ 5.30; 火 10.00 ~ 12.00; 木 10.30 ~ 12.50 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>This course aims to develop your communicative skills in English, and make you feel more confident about using the language. The stress is on fluency.</p> <p>You are expected to participate fully in the class and to try your best to use only English. The activities are intended to be as interesting and relevant to you as possible.</p> | | <p>The teacher will give you weekly worksheets. You must buy a notebook for your written work.</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>1) In class, we will develop your communication skills in English through:</p> <p>Dialogue practice (developing a conversation and responding to what others say); describing people, things, places, actions, words; opinion giving; presentation skills; listening skills - videos of English language movies & dramas.</p> <p>2) Outside class:</p> <p>Weekly written assignments; study for vocabulary tests; prepare for group presentations.</p> | | <p>performance in your written work & vocabulary tests;</p> <p>performance in group projects and speaking tests at the end of each semester.</p> <p>Regular attendance is compulsory in this course</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | | |
|---|----------------------------|--|---------------|----|
| 科目名<Subject> | 英語 E124B E128B E131B E133B | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | マーティン・マーフィー | <Martin Murphy> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>This class is designed with a focus on listening and speaking proficiency through exploring practical, functional language that is used in everyday English Communication. The emphasis is on classroom participation in listening and communicative activities as a method of developing already acquired English.</p> | | <p>Fifty Fifty Book 2 (Longman) by Warren Wilson and Roger Barnard</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>The course will follow the text and use other outside materials of the instructor's choosing.</p> <p>Students will focus on the following aspects:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Understanding basic English conversation, • Working in pairs and small groups to practice English conversation. • Active student participation in generating conversation. • Expressing opinions and ideas in English. | | <p>Tests 40%,</p> <p>Mid year and final tests 30%,</p> <p>Activities and classroom participation 30%</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>*Because classroom participation is so vital, poor attendance will lower the final grade.</p> | | |

| | | | | |
|--|----------------------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語 E125B 【発展クラス】 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | ショーン・克蘭キー | <Shawn Clankie> | 研究室番号<Office> | 419 |
| Office Hours | By appointment or Th. 12-1 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>This course is English for 1st year students, and will focus primarily on English conversation and communication skills necessary for meaningful communication. By the end of the course, students should be able to do the following:</p> <p>a. Build self-confidence in their speaking abilities.</p> <p>b. Recognize weaknesses in their abilities, and try to overcome these weaknesses.</p> <p>c. Express themselves at more than a survival level in English.</p> <p>d. Build a stronger knowledge of the cultures that use English.</p> <p>e. Improve their other skills (reading, listening, writing).</p> | | <p><u>The Earth and Our Health</u> (2003) by Kobayashi, T. and S. Clankie. Tokyo: Seibido. (Required)</p> <p><u>Grammar for Speaking: Questions and Answers</u> (available from 5/2006). Tokyo: Goken (Required)</p> <p>In addition, handouts of newspaper articles will be distributed as necessary. All students should come to class with writing materials and paper. A dictionary is also helpful.</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>This will be a learner-centered course. That means most of the work you do in this class will be small group work where each person must participate in the given task. Group discussions of each unit and problem solving activities will occur weekly, along with reading, and a limited amount of written work. There will also be at least one presentation in English.</p> | | <p>Your final grade in this class depends on several factors. These include homework and quizzes, participation, and attendance. As this is a speaking class, the more you participate the better you are likely to do. Therefore, participation is 50% of your grade. Attendance is important to your participation grade. If you don't come, you can't possibly participate. Therefore, if you miss more than three classes per 15 week period (in a 30 week course) you will fail that part of the class. The remaining 50% will include assignments and your presentation.</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | | |
|---|----------------------|---|---------------|----|
| 科目名<Subject> | 英語 E126B E132B E134B | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | ピーター・リームスト | <Peter Reemst> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>The overall purpose of this course is to encourage students to be more confident and effective communicators in English. The course will give practice in all of the four main skill areas of language, but will emphasize the importance of speaking skills. The main idea is to get students to interact with others in English.</p> | | <p>The textbook is <i>American Headway 3</i> (Student Book with CD) - ISBN: 5975618</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>The content of this course is largely derived from the text and looks at the way English is used in a variety of everyday situations. The course will be structured around a weekly routine of learning activities including listening comprehension, pronunciation, pair work, group discussions, presentations, and role plays.</p> | | <p>Attendance and participation (50%); interviews and speaking tests (50%).</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>Regular attendance and enthusiastic participation is expected.</p> | | |

| | | | | |
|--|------------------|--|---------------|----|
| 科目名<Subject> | 英語 E127B 【基礎クラス】 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | マーティン・マーフィー | <Martin Murphy> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | | |
| <p>1 授業の目的・方法<Course objective and method> This class is designed with a focus on listening and speaking proficiency through exploring practical, functional language that is used in everyday English Communication. The emphasis is on classroom participation in listening and communicative activities as a method of developing already acquired English.</p> <p>2 授業内容<Course contents> The course will follow the text and use other outside materials of the instructor's choosing.</p> <p>Students will focus on the following aspects:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Understanding basic English conversation, • Working in pairs and small groups to practice English conversation. • Active student participation in generating conversation. • Expressing opinions and ideas in English. | | <p>3 使用教材<Teaching materials> Fifty Fifty Book 2 (Longman) by Warren Wilson and Roger Barnard</p> <p>4 成績評価の方法<Grading> Tests 40%, Mid year and final tests 30%, Activities and classroom participation 30%</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> *Because classroom participation is so vital, poor attendance will lower the final grade.</p> | | |

| | | | | |
|---|------------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語 E130B 【発展クラス】 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | ダニエラ・カルヤヌ | <Daniela Calianu> | 研究室番号<Office> | 536 |
| Office Hours | Tuesday: 12-14 | | | |
| <p>1 授業の目的・方法<Course objective and method> The aims of this course are to improve your skills in the following areas: - finding useful information on the Internet - reading without translation - listening - making short presentations Classes will focus on gathering information about the country and presenting it to your classmates. I will give dictations and quizzes based on the material you collect.</p> <p>2 授業内容<Course contents> We will discuss a large variety of topics, such as, geography, arts, wildlife, cuisine, travel, etc. Students will have to search information related to the topic of the day for the country of their choice and present the information.</p> | | <p>3 使用教材<Teaching materials> Richard McMahon, Travel Abroad Project, Nan ' Un-Do. \ 2000</p> <p>4 成績評価の方法<Grading> Quizzes: 50%; Presentations 50% If you are absent you will get 0% for the quiz or presentation.</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> 1. You will need a notebook, and a dictionary 2. NO SLEEPING IN CLASS. Sleeping in class is rude and shows lack of interest. If you are not interested please refrain from taking this class. 3. If you are late for class, you must be able to explain clearly why. You cannot come late without a good reason.</p> | | |

| | | | | |
|---|----------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語 E201A1 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 山本 久雄 | <Hisao Yamamoto> | 研究室番号<Office> | 526 |
| Office Hours | 金曜日13:00～14:30 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 目的：英文読解力の向上 方法：学生の和訳に対する教官の補足説明 | | 3.使用教材<Teaching materials> テキスト： <i>An Outline History of English: External History</i> Jacek Fisiak 著 英潮社 | | |
| 2.授業内容<Course contents> 第1週 オリエンテーション 第2～3週 本文の読解 (本年度は第2章以降を扱う) | | 4.成績評価の方法<Grading> 年2回の定期試験・出席・授業内での発表による総合評価 | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> 全授業数の1/3以上の欠席者は受験不可 | | |

| | | | | |
|---|--|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語 E202A1 【発展クラス】 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 吉田 直希 | <Naoki Yoshida> | 研究室番号<Office> | 433 |
| Office Hours | 月14:30～17:00 E-mail: yoshida@res.otaru-uc.ac.jp Tel: 27-5426 | | | |
| このクラスは英語 IIA1 発展クラスです。 | | 3.使用教材<Teaching materials> プリント、副教材を使用します(第1回目授業時に配布、指示します)。 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 対話型、双方向型の授業 情報機器、視聴覚機器を使用 英語によるコミュニケーション力向上を目標とします。毎日欠かさずCD教材を使用しリーディング、リスニング、スピーキングの練習をすることが求められます。 | | 4.成績評価の方法<Grading> 出席：10点 授業への参加状況：40点 試験およびレポート：50点 3回まで欠席(遅刻は欠席扱い)を認めます。発言がない日は欠席扱いとなりますので注意してください。 | | |
| 2.授業内容<Course contents> 大学生の知的好奇心を刺激する多様なテーマやトピックに関する内容の英文を題材とします。毎回まとまった量の読解教材を読み、文法、内容等の理解を確認します。また、個人・グループによる口頭発表を通して、テキストの内容理解を深めていきます。十分に予習し、積極的に議論に参加することが求められます。適宜小テストを実施します。 | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | |
|--|--|----------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 英語 E203A1 | <English > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 佐藤 幸子 | <Sachiko Sato> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>現代は世界のニュースが瞬時に我々に届く時代である。日々、英語ニュースに囲まれ、その理解能力を必要とされている。従って、内容理解、単語の知識、ヒアリングの能力など、様々な力を習得することを目的とする。</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | <p>毎時間、講義の最初に数名の学生に英語のショートスピーチをしてもらう。テキストを使用して、時事英語の学習をした後、毎回、前の時間に進んだ範囲の単語テストを行う。</p> | | |
| 3. 使用教材<Teaching materials> | <p>宮本倫好：English through the News Media Asahi Press 1600 円と税</p> | | |
| 4. 成績評価の方法<Grading> | <p>出席率、発表、レポートの内容、などを総合して評価する。</p> | | |
| 5. 履修上の注意事項<Remarks> | <p>遅刻は認めない。</p> | | |

| | | | |
|-----------------------------|---|---------------|-------|
| 科目名<Subject> | 英語 E204A1 | <English > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 山本久雄・三浦京子<Hisao Yamamoto/Kyoko Mura> | 研究室番号<Office> | 山本526 |
| Office Hours | 山本：金曜日13:00～14:30 | | |
| (前期：山本教員分) | <p>1. 授業の目的・方法<Course objective and method></p> <p>目的：英文読解力の向上 方法：学生との和訳に対する教官の補足説明</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | <p>第1週 オリエンテーション 第2～15週 本文の読解 (本年度は第2章以降を扱う)</p> | | |
| 3. 使用教材<Teaching materials> | <p>テキスト：An Outline History of English: External History Jacek Fisiak 著 英潮社</p> | | |
| 4. 成績評価の方法<Grading> | <p>前期の定期試験・出席・授業内での発表による総合評価</p> | | |
| 5. 履修上の注意事項<Remarks> | <p>全授業数の1/3以上の欠席者は受験不可</p> | | |
| (後期：三浦教員分) | <p>1. 授業の目的・方法<Course objective and method></p> <p>(テーマ) 英国の文学作品(小説)を読み、批評する。 英国小説家 D.H.ロレンスの短篇小说 The Shade of Spring 「春の陰影」を精読する。作品に出現する象徴的な言葉を手がかりに、想像力を解放することによって、魅力溢れるものとして受容したい。たとえば「森」</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | <p>2. 授業内容<Course contents></p> <p>輪読形式でテキストを読み、議論する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容に関するガイダンス 2. 『チャタレイ夫人の恋人』における問題点及び主題 3. 哲学史解説 4. 「春の陰影」 <ul style="list-style-type: none"> ・正確に和訳した上で、段落ごとに解釈する。 ・象徴的な意味内容をもつと考えられる語句に関しては、可能な限り事典などを用いて調べる。 5. 作品の全体的解釈、主題への言及 6. 他の作家との比較研究 7. 試験 | | |
| 3. 使用教材<Teaching materials> | <p>D.H.Lawrence, <i>Sun and Other Stories</i>, 大学書林</p> | | |
| 4. 成績評価の方法<Grading> | <p>試験によって評価する。</p> | | |
| 5. 履修上の注意事項<Remarks> | <p>出席を重視する。</p> | | |

| | | | |
|--|--|---------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 英語 E205A1 E207A1 | <English > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 斉藤 京子 | <Kyoko Saito> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> アメリカの広告文化の理解とイディオムの理解及び習得 | 3.使用教材<Teaching materials> Selling America 著者 James Vardaman 出版社 MACMILLAN LANGUAGEHOUSE Idioms for Everyone 著者 Barry Ward 出版社 MACMILLAN LANGUAGEHOUSE | | |
| 2.授業内容<Course contents> (1) Selling America を精読し、内容を理解する。ビデオにより海外のコマーシャルを観て、教材の理解をより深める。 (2) Idioms for Everyone からのイディオムを理解し使用出来るようにする。 | 4.成績評価の方法<Grading> 試験、課題、授業への参加状況、出席状況を総合評価する。 5.履修上の注意事項<Remarks> 出席重視。 通年5回欠席した時点で受講資格を失います。 | | |

| | | | |
|---|--|--------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 英語 E206A1 | <English > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 鈴木 良克 | <Yoshikatsu> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 内容把握が最終目的であるが、発音及び文法も重視するので、それらの面の予習も怠らないで下さい。 | 3.使用教材<Teaching materials> John Barton : <i>Knowledge is Power</i> - 成美堂 ￥1,800 | | |
| 2.授業内容<Course contents> 第1週はオリエンテーションを、第2週は音声学の講義をおこない、第3週から John Barton の著書、 <i>Knowledge is Power</i> を使用し前期、後期を通して精読する予定です。 | 4.成績評価の方法<Grading> 前期1回、後期1回の試験、及び小テスト、出席回数及び予習内容を考慮して最終評価とします。 5.履修上の注意事項<Remarks> 講義には必ず辞書を用意して下さい。 | | |

| | | | | |
|--|-------------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語 E208A1 【発展クラス】 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 杉村 泰教 | <Yasunori Sugimura > | 研究室番号<Office> | 541 |
| Office Hours | (金) 14:30 ~ 17:00 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> 前期は、プリントを使用して比較的難解な 語句や文法、構文等の知識を確認する。 後期は、人類学に関する評論文を読む。 | | 3 使用教材<Teaching materials> Ashley Montagu, <i>On Being Human</i> (成美堂) | | |
| 2 授業内容<Course contents> 1回 ~ 15回 プリント学習 16回 ~ 30回 評論文 | | 4 成績評価の方法<Grading> 主として定期試験の成績による。出席率、授業への参加態度、予習の状況を重視する。 | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> 授業実施時数の3分の2以上出席しなければ、定期試験を受けることはできない。 原則として遅刻は欠席と同等に扱う。 | | |

| | | | | |
|--|------------------|---|---------------|----|
| 科目名<Subject> | 英語 E211A2 E215A2 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 川内 裕子 | <Hiroyuki Kawach> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> リスニング、シャドーイング、ディクテーション、サイトトランスレーション、リーディング、リプロダクション、英作文など、通訳技能訓練に関わるさまざまな実践的作業を通して、総合的な英語の力を身につけ、耳で聞いて理解する能力を伸ばすことを目的とする。 | | 3 使用教材<Teaching materials> 教科書 “Applying Interpreting Skills for Communication” コミュニケーションと通訳演習 斎藤彩子 / リチャード・G・ポター / 皆川治恵 / 吉田かよ子 著 (南雲堂) | | |
| 2 授業内容<Course contents> 1) 教科書全 12 章 (各章 E J、J E の全 6 ページ) 例: Unit 1. スポーツ交流 Unit 2. 映画 Unit 3. 環境保護 Unit 4. 環境問題 Unit 5. 国際交流 Unit 6. インタビュー 2) その他 折に触れて別の教材(読解資料、音楽など)を提供する。 | | 4 成績評価の方法<Grading> ・年二回の試験と出席日数および受講態度を総合的に評価する。 | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> ・自分の出席日数およびやむなく欠席した日の授業内容について、自己管理を自覚すること。 ・授業中には必ず発言の機会が与えられる。受動的態度ではなく、積極的に聞き取る能力や実践的な力を伸ばすことに意欲をもつ学生のみ、履修を勧める。 ・教科書、辞書必携。 | | |

| | | | | |
|--|---------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語 E212A2 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 小林 敏彦 | <Toshiko Kobayashi> | 研究室番号<Office> | 319 |
| Office Hours | 金曜午後4:10~6:10 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 29: That's what friends are for 30: We are the world | | |
| <p>わかりやすく、楽しく、ためになる授業を目指す。授業は日本語で行う。前期は洋楽と洋画を活用したリスニングを行い、「洋楽が聞き取れ、カラオケで歌え、洋画を字幕を見ないで鑑賞できるようになる」ことに一歩でも近づくことを目指す。後期は洋楽とメディアを活用した4技能活動を行い、「硬派なニュースの聞き取りと背景知識の理解を行いメディア・リテラシーを高め、自らの意見を英語で世界に発信する」ための訓練を行う。</p> | | <p>洋画 1: Air Force One 2: Courage Under Fire 3: Sar Wars I 4: Top Gun 5: The Matrix Reloaded 6: Spiderman 7: Deep Impact 8: JFK 9: Bagdad Cafe 10: Harry Potters 11: Spirited Away 12: Ghost 13: Home Alone 14: 13 Days 15: The Last Samurai</p> | | |
| 授業の流れ(前期) | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| 1) アテンダンス、2) ポップス歌詞聞き取りと合唱、3) 対話文の聞き取り演習、4) 洋画の聞き取りタスク、5) 対話文の作成とBBSへのアップロード | | 『3パターンで決まる日常英会話ネイティブ表現』 語研 『VOA 英語ニュースリスニング・トレーナー』 語研 | | |
| 授業の流れ(後期) | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| 1) アテンダンス、2) ポップス歌詞聞き取りと合唱(15分間)、3) コミュニケーション・ストラテジーを含む教室内でのコミュニケーション活動(15分間)、4) ニュースの聞き取りタスク(45分間)、5) 英作文 BBS へのアップロード(15分間) | | <p>「優」は授業態度が優秀で、通年で無遅刻無欠席、課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が80点を超えた者に与えられる。「良」は授業態度が優秀で通年で欠席および遅刻が1~4回、課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が70~79点の者に与えられる。「可」は授業態度が優秀で、通年で遅刻および欠席が1~4回、課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が60~69点の者に与えられる。「不可」は通年で遅刻および欠席が5回に達した者、課題を一度でも提出しなかった者、および小テスト及び前期後期試験の平均点が60点に達しなかった者に与えられる。体育会系部活動の合宿および大会遠征については英文での報告を後日行うことで3回まで公欠とし、欠席にカウントしない。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| <p>洋楽 1: Honesty 2: Dancing queen 3: Yesterday once more 4: Believe 5: Bridge over troubled water 6: My heart will go on 7: Crazy for you 8: For your eyes only 9: Go west 10: New York city boy 11: Y.M.C.A 12: In the navy 13: Sukiyaki 14: Stand by me 15: Yesterday 16: Take me home country road 17: Unchained melody 18: Candle in the wind 19: Pretty woman 20: Imagine 21: Love me tender 22: Can't help falling in love 23: Mr. Lonely 24: El Condora Pasa 25: Top of the world 26: Last Christmas 27: Tears in heaven 28: What a wonderful world</p> | | <p>授業には積極的に参加し、配布物は必ずバインダーに保存し、毎回持参すること。私語は慎むこと。遅刻は欠席扱いとする。</p> | | |

| | | | | |
|--|-------------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語 E213A2 【発展クラス】 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 小林 敏彦 | <Toshiko Kobayashi> | 研究室番号<Office> | 319 |
| Office Hours | 金曜午後4:10~6:10 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 26: Last Christmas 27: Tears in heaven 28: What a wonderful world | | |
| <p>わかりやすく、楽しく、ためになる授業を目指す。授業は英語で行うが、授業終了前の5分間は日本語で捕捉し、質疑応答を行う。前期は洋楽と洋画を活用したリスニングを行い、「洋楽が聞き取れ、カラオケで歌え、洋画を字幕を見ないで鑑賞できるようになる」ことに一歩でも近づくことを目指す。後期は洋楽とメディアを活用した4技能活動を行い、「硬派なニュースの聞き取りと背景知識の理解を行いメディア・リテラシーを高め、自らの意見を英語で世界に発信する」ための訓練を行う。</p> | | <p>29: That's what friends are for 30: We are the world</p> <p>洋画 1: Air Force One 2: Courage Under Fire 3: Sar Wars I 4: Top Gun 5: The Matrix Reloaded 6: Spiderman 7: Deep Impact 8: JFK 9: Bagdad Cafe 10: Harry Potters 11: Spirited Away 12: Ghost 13: Home Alone 14: 13 Days 15: The Last Samurai</p> | | |
| 授業の流れ(前期) | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| 1) アテンダンス、2) ポップス歌詞聞き取りと合唱、3) 対話文の聞き取り演習、4) 洋画の聞き取りタスク、5) 対話文の作成とBBSへのアップロード | | 『3パターンで決まる日常英会話ネイティブ表現』 語研 『VOA 英語ニュース・パワーリスニング』 語研 | | |
| 授業の流れ(後期) | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| 1) アテンダンス、2) ポップス歌詞聞き取りと合唱(15分間)、3) コミュニケーション・ストラテジーを含む教室内でのコミュニケーション活動(15分間)、4) ニュースの聞き取りタスク(45分間)、5) 英作文 BBS へのアップロード(15分間) | | <p>「優」は授業態度が優秀で、通年で無遅刻無欠席、課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が80点を超えた者に与えられる。「良」は授業態度が優秀で通年で欠席および遅刻が1~4回、課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が70~79点の者に与えられる。「可」は授業態度が優秀で、通年で遅刻および欠席が1~4回、課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が60~69点の者に与えられる。「不可」は通年で遅刻および欠席が5回に達した者、課題を一度でも提出しなかった者、および小テスト及び前期後期試験の平均点が60点に達しなかった者に与えられる。体育会系部活動の合宿および大会遠征については英文での報告を後日行うことで3回まで公欠とし、欠席にカウントしない。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| <p>洋楽 1: Honesty 2: Dancing queen 3: Yesterday once more 4: Believe 5: Bridge over troubled water 6: My heart will go on 7: Crazy for you 8: For your eyes only 9: Go west 10: New York city boy 11: Y.M.C.A 12: In the navy 13: Sukiyaki 14: Stand by me 15: Yesterday 16: Take me home country road 17: Unchained melody 18: Candle in the wind 19: Pretty woman 20: Imagine 21: Love me tender 22: Can't help falling in love 23: Mr. Lonely 24: El Condora Pasa 25: Top of the world</p> | | <p>授業には積極的に参加し、配布物は必ずバインダーに保存し、毎回持参すること。私語は慎むこと。遅刻は欠席扱いとする。</p> | | |

| | | | | |
|---|---|--|--|---------|
| 科目名<Subject> | 英語 E214A2 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 高井 收・小林敏彦 <Osamu Takai/Toshiko Kobayashi> | 研究室番号<Office> | | 501/319 |
| Office Hours | 高井 :金13:00~14:00 | | | |
| (高井教員分) 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> The main objectives are developing communication skills including reading comprehension skills in English, and becoming more effective in oral communication skills. 2. 授業内容<Course contents> 1. Reading a story in the CD at the language lab 2. Group work in class 3. Discussion in class | | 3. 使用教材<Teaching materials> Textbook: S. Kathleen Kitao & Kenji Kitao, <i>Faster Reading for Better Comprehension (CD-ROM で学ぶ速読演習) Seibido.</i> 4. 成績評価の方法<Grading> Weight equally distributed between attendance, participation; assignments, and exams. 5. 履修上の注意事項<Remarks> This course is designed for the students who would like to improve their communication skills in English. Therefore, the language of the instruction in this class is basically English. このクラスは対話型のクラスです。また、情報機器を使用します。 | | |

| | | | | |
|---|---|--|--|---------|
| 科目名<Subject> | 英語 E214A2 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 高井 收・小林敏彦 <Osamu Takai/Toshiko Kobayashi> | 研究室番号<Office> | | 501/319 |
| Office Hours | 小林 :金曜午後4:10~6:10 | | | |
| (小林教員分) 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> わかりやすく、楽しく、ためになる授業を目指す。授業は日本語で行う。洋楽とメディアを活用した4技能活動を行い、「硬派なニュースの聴き取りと背景知識の理解を行いメディア・リテラシーを高め、自らの意見を英語で世界に発信する」ための訓練を行う。 授業の流れ(前期) 1) アテンダンス、2) ポップス歌詞聞き取りと合唱、3) 対話文の聴き取り演習、4) 洋画の聴き取りタスク、5) 対話文の作成とBBSへのアップロード 授業の流れ(後期) 1) アテンダンス、2) ポップス歌詞聞き取りと合唱(15分間)、3) コミュニケーション・ストラテジーを含む教室内でのコミュニケーション活動(15分間)、4) ニュースの聴き取りタスク(45分間)、5) 英作文BBSへのアップロード(15分間) 2. 授業内容<Course contents> 洋楽 15: Yesterday 16: Take me home country road 17: Unchained melody 18: Candle in the wind 19: Pretty woman 20: Imagine 21: Love me tender 22: Can't help falling in love 23: Mr. Lonely 24: El Condor Pasa 25: Top of the world 26: Last Christmas 27: Tears in heaven 28: What a wonderful world 29: That's what friends are for 30: We are the world | | 3. 使用教材<Teaching materials> 『VOA 英語ニュースリスニング・トレーナー』 語研 4. 成績評価の方法<Grading> 「優」は授業態度が優秀で、通年で無遅刻無欠席、課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が80点を越えた者に与えられる。「良」は授業態度が優秀で通年で欠席および遅刻が1~4回、課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が70~79点の者に与えられる。「可」は授業態度が優秀で、通年で遅刻および欠席が1~4回、課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が60~69点の者に与えられる。「不可」は通年で遅刻および欠席が5回に達した者、課題を一度でも提出しなかった者、および小テスト及び前期後期試験の平均点が60点に達しなかった者に与えられる。 体育会系部活動の合宿および大会遠征については英文での報告を後日行うことで3回まで公欠とし、欠席にカウントしない。 5. 履修上の注意事項<Remarks> 授業には積極的に参加し、配布物は必ずバインダーに保存し、毎回持参すること。遅刻は欠席扱いとする。 | | |

| | | | | |
|--|---|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語 E216A2 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | マーク・ホルスト | <Mark Holst> | 研究室番号<Office> | 359 |
| Office Hours | 月 4:10 ~ 5:30; 火 10:00 ~ 12:00; 木 10:30 ~ 12:50 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>This course aims to give you an opportunity to further develop your communicative skills in English, and learn about British culture. Each class will be based around a particular topic relating to an aspect of Britain. You must participate fully and use only English.</p> | | <p>Weekly work sheet for each lesson.</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>Develop communication skills in English through:</p> <p>E discussions on the weekly topics E listening skills - watching videos E presentation skills</p> <p>Outside class, - weekly writing assignments, & study for weekly vocabulary tests.</p> | | <p>written work; weekly vocabulary tests; speaking tests each semester; presentations. regular attendance is compulsory</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | | |
|---|------------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語 E217A2 | <English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 小林 敏彦 | <Toshiko Kobayashi> | 研究室番号<Office> | 319 |
| Office Hours | 金曜午後 4:10 ~ 6:10 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 29: That's what friends are for 30: We are the world | | |
| <p>わかりやすく、楽しく、ためになる授業を目指す。授業は日本語で行う。前期は洋楽と洋画を活用したリスニングを行い、「洋楽が聞き取れ、カラオケで歌え、洋画を字幕を見ないで鑑賞できるようになる」ことに一歩でも近づくことを目指す。後期は洋楽とメディアを活用した4技能活動を行い、「硬派なニュースの聴き取りと背景知識の理解を行いメディア・リテラシーを高め、自らの意見を英語で世界に発信する」ための訓練を行う。</p> | | <p>洋画 1: Air Force One 2: Courage Under Fire 3: Sar Wars I 4: Top Gun 5: The Matrix Reloaded 6: Spiderman 7: Deep Impact 8: JFK 9: Bagdad Cafe 10: Harry Potters 11: Spirited Away 12: Ghost 13: Home Alone 14: 13 Days 15: The Last Samurai</p> | | |
| 授業の流れ(前期) | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>1) アテンダンス、2) ポップス歌詞聞き取りと合唱、3) 対話文の聴き取り演習、4) 洋画の聴き取りタスク、5) 対話文の作成と BBS へのアップロード</p> | | <p>『3パターンで決まる日常英会話ネイティブ表現』 語研 『VOA 英語ニュースリスニング・トレーナー』 語研</p> | | |
| 授業の流れ(後期) | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>1) アテンダンス、2) ポップス歌詞聞き取りと合唱(15分間)、3) コミュニケーション・ストラテジーを含む教室内でのコミュニケーション活動(15分間) 4) ニュースの聴き取りタスク(45分間)、5) 英作文 BBS へのアップロード(15分間)</p> | | <p>「優」は授業態度が優秀で、通年で無遅刻無欠席、課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が80点を越えた者に与えられる。「良」は授業態度が優秀で通年で欠席および遅刻が1~4回、課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が80点以上の者に与えられる。「可」は授業態度が優秀で、通年で遅刻および欠席が1~4回、課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が60~79点に与えられる。「不可」は通年で遅刻および欠席が5回に達した者、課題を一度でも提出しなかった者、および小テスト及び前期後期試験の平均点が60点に達しなかった者に与えられる。体育会系部活動の合宿および大会遠征については英文での報告を後日行うことで3回まで公欠とし、欠席にカウントしない。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| <p>洋楽 1: Honesty 2: Dancing queen 3: Yesterday once more 4: Believe 5: Bridge over troubled water 6: My heart will go on 7: Crazy for you 8: For your eyes only 9: Go west 10: New York city boy 11: Y.M.C.A. 12: In the navy 13: Sukiyaki 14: Stand by me 15: Yesterday 16: Take me home country road 17: Unchained melody 18: Candle in the wind 19: Pretty woman 20: Imagine 21: Love me tender 22: Can't help falling in love 23: Mr. Lonely 24: El Condora Pasa 25: Top of the world 26: Last Christmas 27: Tears in heaven 28: What a wonderful world</p> | | <p>授業には積極的に参加し、配布物は必ずバインダーに保存し、毎回持参すること。私語は慎むこと。遅刻は欠席扱いとする。</p> | | |

| | | | |
|--|--|----------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 英語 E218A2 | <English > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 坪谷 雍子 | <Yoko Tsuboya> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <ul style="list-style-type: none"> • Opinion Column • Business News Story • Review • Miscellaneous | | |
| 目的：This course will help the students read English newspapers through English. | | | |
| 内容：This class will teach the students how to read English papers, how English papers are organized and how to get informations from the papers. | 3.使用教材<Teaching materials> MINORU OHTSUKI "News for You" 2006/2007 (SEIBIDO) | | |
| 方法：The students will learn how to understand English papers by reading "The Japan Times" and the text book, "Newspaper English". They will also have the opportunity to write and speak out their opinions in English. | 4.成績評価の方法<Grading> Weekly assignments, presentations, class attendance, and examinations | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 5.履修上の注意事項<Remarks> Excessive class absences (more than 1/3) and poor report and presentation will damage your grade. | | |
| <ul style="list-style-type: none"> • Reading English Newspapers-why • Reading English Newspapers-how • Organization of Newspapers-what • Organization of Newspapers-where • Headlines-grammar • Headlines-Abbreviations and special vocabulary • Parts of News Articles • News Articles-grammar • Information Feature story • Sports News • Editorial | | | |

| | | | |
|---|--|-----------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 英語 E231B E232B | <English > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 大島 稔 | <Minoru Oshima> | 研究室番号<Office> 353 |
| Office Hours | 月・金1250-1420 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3.使用教材<Teaching materials> Kawana, Norihito & Stuart Walker (2006), <i>Time to Train Yourself</i> , 成美堂 | | |
| このクラスは、英語のB群のクラスで、80～100人規模の大人数クラスである。クラスは40～50人からなる2つのグループ(A・B)に分けられ、隔週で実習室とLLでの授業が行われる。実習室では、各自がコンピュータを使って教科書付随の自習用CD-ROMによりe-learning予習を行う。LLでは、教科書とCDを使って教員との双方向型の授業を行う。実習室では、音読の練習、語法、文法、読解、ディクテーション、リスニングに関する問題を解いて十分に予習して、教材理解の基礎を作る。LLでは、T/F、Q & A、Summary Cloze Testなどの問題を通して、理解した内容を英語で表現する能力の養成を目的とする。 | 4.成績評価の方法<Grading> 隔週のLLの授業の最後に、文法事項、読解、聴き取り、writingに関する確認テストを行い、それにより評価する。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 5.履修上の注意事項<Remarks> 最初の授業でグループ分けのテストを行い、CD-ROM教材の使い方を説明するが、Word processorの操作やTypewritingにできる限り早く慣れるようにしてください。 | | |
| 第1課 Able | | | |
| 第2課 Rich | | | |
| 第3課 Afraid | | | |
| 第4課 Tall | | | |
| 第5課 Pure | | | |
| 第6課 Warm | | | |
| 第7課 Talkative | | | |
| 第8課 Hairy | | | |
| 第9課 Strong | | | |
| 第10課 Harmful | | | |
| 第11課 Merry | | | |
| 第12課 Famous | | | |

| | | | |
|--|----------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 英語 E233B | <English > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 吉田 直希 | <Naoki Yoshida> | 研究室番号<Office> 433 |
| Office Hours | 月14:30 ~ 17:00 | E-mail: yoshida@res.otaru-uc.ac.jp | Tel: 27-5426 |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>このクラスは、英語のB群のクラスで、80 ~ 100人規模の大人数クラスである。クラスは40 ~ 50人からなる2つのグループ(A・B)に分けられ、隔週で実習室とLLでの授業が行われる。</p> <p>対話型、双方向型の授業 情報機器、視聴覚機器を使用 英語によるコミュニケーション力向上を目標とします。毎日欠かさずCD教材を使用しリーディング、リスニング、スピーキングの練習をすることが求められます。</p> | | <p>プリント、副教材を使用します(第1回目授業時に配布、指示します)。</p> <p>4 成績評価の方法<Grading> 出席: 10点 授業への参加状況: 40点 試験およびレポート: 50点</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> 3回まで欠席(遅刻は欠席扱い)を認めます。発言がない日は欠席扱いとなりますので注意してください。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | | |
| <p>大学生の知的好奇心を刺激する多様なテーマやトピックに関する内容の英文を題材とします。毎回まとまった量の読解教材を読み、文法、内容等の理解を確認します。</p> <p>また、個人・グループによる口頭発表を通して、テキストの内容理解を深めていきます。十分に予習し、積極的に議論に参加することが求められます。適宜小テストを実施します。</p> | | | |

外国語科目
(英語以外)

ドイツ語学習の目標とプロセス

目標設定

本学のドイツ語教育は、基本文法の理解と併せて「話し」「聞き」「読み」「書く」いわゆる4技能の総合されたコミュニケーション能力(言語行動能力)の育成をも重視しています。ドイツ語 と では基本文法を理解しつつこの総合コミュニケーション能力の基本を習得することが学習目標となります。しかしこの基本の上に更に準専門的なドイツ語総合能力の獲得を目指すことも可能です。その際「国際コミュニケーション(ドイツ語)」「(2年次配当) 上級外国語(ドイツ語)」「(3年次配当)と「上級外国語(ドイツ語) (4年次配当)」、「研究指導」(専門ゼミ)と段階的に学習を進めながら、その間にドイツ語圏の大学での「夏期短期語学留学」(毎夏実施。単位にもなる。)に参加して日頃の学習にさらに磨きを掛けるのも有効です。そして最終的には、本学の姉妹校であるパイロイト大学、ウィーン経済大学、ベルリン経済大学へ交換留学し、語学力と専門的知識との融合を目指すことです[恵まれた条件での留學生活が保証されており、単位の取得も可能。パイロイト大学の場合には奨学金制度もある]。またインターナショナルタイプのドイツ語検定試験[オーストリア・ドイツ語検定試験(年2回本学で実施)およびゲーティンステイトゥート(ドイツ)の能力資格試験]や日本のドイツ語技能検定試験[通称独検(年2回、春は本学で実施)]等は、折りに触れて自分の到達レベルを知る目安として極めて有効です。

このように本学のドイツ語学習をステップとしてドイツ語圏の大学への留学やその後の内外での職業活動や研究活動を目指す諸君が出現することを願っています。

4年間の学習モデル

【第一段階】

ドイツ語 / 外国語コミュニケーション

目標：基本文法 / 4技能の初歩 / ドイツ語圏の日常文化
目安：独検4級

【第二段階】

ドイツ語 / 国際コミュニケーション

目標：4技能総合力(1) / ドイツ語圏の社会文化(1) /
自力での旅行や簡単な日常的受信能力
関連目標：短期語学留学(パイロイト大夏季コース)
目安：オーストリア・ドイツ語検定基礎級 / 独検3級

【第三段階】

上級外国語 / 上級外国語 / 研究指導[3年ゼミ]

目標：4技能総合力(2) [「本物」をごくゆっくりこなす力 / ドイツ語圏の社会文化(2) / 日常的自己発信能力
関連目標：「交換留学」の準備と実行
目安：オーストリア・ドイツ語検定基礎級・標準級
ゲーテ・ドイツ語検定標準級
2級

【第四段階】

上級外国語 / 研究指導[4年ゼミ]

目標：4技能総合力(3) [「本物」をゆっくりこなす力 / ドイツ語圏の社会文化(3) / 本格的自己発信力
関連目標：交換留学
目安：オーストリア・ドイツ語検定標準級・中級・上級
ゲーテ・ドイツ語検定中級 / 独検2級・1級
DSH[ドイツ大学語学能力試験]

| 科目名<Subject> | ドイツ語 <German> | | |
|--|---|-------------|---------------------------------|
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教官名<Name> | 1.ガニール・アルルト(火)・大塚 譲(木) 2.大塚 譲(火)・佐藤和枝(木) 3.岡 朝美(火)・阿部和夫(木) 4.鈴木将史(火・木) | | 研究室番号<Office> 大塚439 鈴木456 |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> ドイツ語 は週2回(火・木)の授業を行ない、「会話」「文法」「文化の紹介」に配慮した総合教科書を使います。一方では「会話テキスト」の中の基本表現を理解・習得しさらに自己表現の練習も行い、あわせて付属のCDにより良い耳を作ってゆきます。他方では、基本表現にもとづく文法説明と適切・豊富な練習(文法ドリル、パートナー練習、作文練習など)を通して体系的な文法知識を身に付けることができます。徐々にレベルアップして行く「読解テキスト」で各課が締めくくられることも、総合力を目指すこの教科書の特徴のひとつです。また折に触れて現代のドイツ語圏の生活文化(若者文化・ユーロ・クリスマスなど)が紹介されますが、このことも奥行きのあるコトバの理解に結びついています。従って真面目に参加していれば自ずから総合的なドイツ語能力が身に付くはずです。また、外国語の授業は何よりもまずコミュニケーションの方法を学ぶ時間ですから、コトバの学習に限らず「話す」という行為が非常に大切です。皆さんの積極的な参加を期待します。 | | | |
| 2.授業内容<Course contents> 1～3週：第1課【動詞の人称変化(1)等】《知り合う等》 / 1～6週：第2課【名詞の性、冠詞等】《注文・道順等》 7～9週：第3課【動詞の人称変化(2)等】《電話等》 / 10～12週：第4課【前置詞等】《誘う等》 13～15週：第5課【現在完了等】《休暇の報告等》 / 16～18週：第6課【受動文等】《事故と入院等》 19～21週：第7課【形容詞の格変化等】《キリスト教の習慣等》 / 22～24週：第8課【関係文等】《クリスマス》 25～27週：補足1【形容詞の名詞化等】《大学生》 / 28～30週：補足2【分詞等】《夢を語り、繰言を言う》 | | | |
| 3.使用教材<Teaching materials> 『シュトラッセ』(新野・Briel・佐藤・茅野・松岡共著、朝日出版社) | | | |
| 4.成績評価の方法<Grading> 授業回数 の 1/3 以上欠席すると単位取得の権利を失います。中間試験・期末試験の結果に加えて、授業での積極性(出席率、発言、提出宿題等)を評点化し、100ポイント中の60に満たない者を不合格とします。試験成績を70%、平常成績を30%とします。 | | | |
| 5.履修上の注意事項<Remarks> 火曜と木曜の授業は連動しており、4単位は一括して出ますから各曜日もれなく出席すること。 | | | |

| 科目名<Subject> | ドイツ語 (9年度カリ用) <German> | | |
|--|------------------------|--|----------------------|
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 鈴木 将史 | <Masafumi Suzuki> | 研究室番号<Office> 456 |
| Office Hours | 在室時いつでも可 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 火曜と木曜の授業を補完する目的で、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能の技術向上に努めます。特に文法的な理解を基礎におき、着実にゆっくり授業を進める予定です。 | | 3.使用教材<Teaching materials> テキストは特に指定しません。適宜プリント等を用意します。 | |
| 2.授業内容<Course contents> 実生活の様々な場面に即したテキストを適宜選択し、練習問題中心に授業を進めます。 | | 4.成績評価の方法<Grading> 全授業の2/3以上の出席が、単位認定の前提条件となります。成績は定期試験の結果と、平常点を勘案した総合評価とします。 | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> 火曜・木曜の授業と連動しているため、週3回授業には必ず出席すること。 | |

| | | | |
|---|--|---|---------------------|
| 科目名<Subject> | ドイツ語 A1(火・木) <German> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | ダニエル・アルルト 鈴木将史<Amold Daniel/Masafumi Suzuki> | | 研究室番号<Office> 鈴木456 |
| Office Hours | | | |
| <p>1. 授業の目的・方法<Course objective and method> 【目的：方法】基礎文法の学習を中心とした1年次の学習に続き、今年は文法知識を駆使して生きた会話能力に磨きをかけていきます。ドイツ語圏(ドイツ・オーストリア・スイス)の生活・文化・社会などについての最新・多様な情報(歌や自然な日常会話、またインターネットなど、目や耳からの情報)を題材に、4技能の総合力を育成していきます。自分の意見を表明し、人と意見の交換をすることも大切な課題となってきました。週の1回はネイティブ・スピーカーの教師、1回は日本人教師に学びます。使用する教科書『TANGRAM』はドイツ生まれの総合教科書で、日本語は一切ありませんが、日本語の上手なネイティブ・スピーカーも含めて教師が適切に道案内しますので、恐れる必要はありません。</p> <p>2. 授業内容<Course contents> 授業で扱うテーマは「家族と家事」「今日の若者」「休暇と旅行」「食事と健康」「ファッション」など、日本人にとっても身近なものばかりです。ドイツ語圏の人々はこれらのテーマについて、どのように考え、どのように語り合うのでしょうか? それぞれのテーマに関し、様々なタイプの練習を重ねることにより、異文化の理解力と総合的な語学力とを養います。</p> | | <p>3. 使用教材<Teaching materials> 『TANGRAM aktuell 1, A1/2(Lektion 5-8)』(Hueber Verlag)(¥ 2600)</p> <p>4. 成績評価の方法<Grading> 平常点、試験の総合評価。</p> <p>5. 履修上の注意事項<Remarks> 週2回の授業は連携しています。一つの授業は次回の授業の準備となりますから出席は絶対重視です。また、授業は教師と学生の共同作業で成り立っていますから、質問・要望などは大いに歓迎します。</p> | |

| | | | |
|--|---|---|---------------------|
| 科目名<Subject> | ドイツ語 A2(火・木) <German> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 大塚 譲 桂サ・オルテガ・フェル <Yuzuru Otsuka/Gesal Ortega> | | 研究室番号<Office> 大塚439 |
| Office Hours | | | |
| <p>1. 授業の目的・方法<Course objective and method> 基礎文法の学習を中心とした1年次の学習に続き、今年は文法知識を駆使して生きた会話能力に磨きをかけていきます。ドイツ語圏(ドイツ・オーストリア・スイス)の生活・文化・社会などについての最新・多様な情報(歌や自然な日常会話、またインターネットなど、目や耳からの情報)を題材に、4技能の総合力を育成していきます。自分の意見を表明し、人と意見の交換をすることも大切な課題となってきました。週の1回はネイティブ・スピーカーの教師、1回は日本人教師に学びます。使用する教科書『TANGRAM』はドイツ生まれの総合教科書で、日本語は一切ありませんが、日本語の上手なネイティブ・スピーカーも含めて教師が適切に道案内しますので、恐れる必要はありません。</p> <p>2. 授業内容<Course contents> 授業で扱うテーマは「家族と家事」「今日の若者」「休暇と旅行」「食事と健康」「ファッション」など、日本人にとっても身近なものばかりです。ドイツ語圏の人々はこれらのテーマについて、どのように考え、どのように語り合うのでしょうか? それぞれのテーマに関し、様々なタイプの練習を重ねることにより、異文化の理解力と総合的な語学力とを養います。</p> | | <p>3. 使用教材<Teaching materials> 『TANGRAM aktuell 1, A1/2(Lektion 5-8)』(Hueber Verlag)(¥ 2600)</p> <p>4. 成績評価の方法<Grading> 平常点、試験の総合評価。</p> <p>5. 履修上の注意事項<Remarks> 週2回の授業は連携しています。一つの授業は次回の授業の準備となりますから出席は絶対重視です。また、授業は教師と学生の共同作業で成り立っていますから、質問・要望などは大いに歓迎します。</p> | |

| | | | |
|---|--|-------------------|---------------|
| 科目名<Subject> | ドイツ語 B1 | <German > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 鈴木 将史 | <Masafumi Suzuki> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | 在室時いつでも可 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>本格的な独文に触れることにより、より実践的な独文読解能力を養い、併せて練習問題を解きながら、文法事項の徹底的習得、独作文の応用力強化を目標とする。テキスト自体ドイツの日常生活から題材を取ったものが多いので、異文化理解の一助ともなるだろう。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>通常の読解テキストと大きく異なり、本教科書は豊富な復習問題の特徴としている。各課の構成は、「本文」、「表現練習」、「語彙を増やそう」、「文法の復習」そして「読解トレーニング」からなり、明確な理解・確認のもとに語学力の総合的な運用力を高める工夫が成されている。全12課ある内容を着実にこなしていくが、最後には他のテキストも適宜使用し、より高度なドイツ語に挑みたい。</p> | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>『ドイツ語読み方教室』（大谷弘道著 三修社 2100円）</p> | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>定期試験の結果を基本とするが、平常点も加味し、3分の1以上欠席した者は履修資格を失う。</p> | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | | | |

| | | | |
|---|--|------------------|---------------|
| 科目名<Subject> | ドイツ語 B2 | <German > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 岡 朝美 | <Tomomi Okazaki> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>ドイツ語によるコミュニケーションの力を付けることを目標にします。ドイツ語圏の文化に触れ、それに対応する日本の文化をドイツ語で表現することを目指します。場面や内容に応じて自分で文章がつけられるよう、基本的な表現や文型をもとに文章をつくっていくプリントを使用する場合があります。ビデオで、ドイツ語圏の都市や料理などを紹介していきます。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>1 課 旅行と交通 (ドイツの交通機関)</p> <p>2 課 レストランとホテルで (ドイツのレストラン・ユースホステル)</p> <p>3 課 街で (道案内、ドイツの郵便局・タクシー)</p> <p>4 課 天気 (ドイツ語圏の四季と休暇地)</p> <p>5 課 健康に関すること (ドイツの習慣)</p> <p>6 課 贈り物と招待 (ドイツのお祝い)</p> <p>7 課 買い物 (衣服・色・買い物)</p> <p>8 課 環境 (ゴミ処理、ドイツの環境改善対策・エコフィットプログラム)</p> | | |
| 9 課 禁止と命令 (ドイツの街で見かける標識) | | | |
| 10 課 履歴と学校制度 (ドイツの学校と大学) | | | |
| 11 課・12 課 祝祭と祝日 (クリスマス、年末・年始) | | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>教科書『Szenen 2 場面で学ぶドイツ語 NEU』(三修社)</p> | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>定期試験、平常点の総合評価</p> | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | | | |

| | | | |
|--|---------|--|---------------|
| 科目名<Subject> | ドイツ語 B3 | <German > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 佐藤 和枝 | <Kazue Satoh> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| <p>1. 授業の目的・方法<Course objective and method> 【目的】外国語学習の本来の目的は、異なる言語とその背景をなす文化を学ぶことによって世界に関する認識の地平を広げ、自らの価値観を相対化してより公正な判断能力を養うことにあります。この目的を念頭に置きつつ、身近なテーマに関して外国語を話し、読み、理解する能力を養っていきます。</p> <p>【方法】前半は比較的平易な文章を読み、これまで学習したドイツ語の知識を確認し、深めていきます。後半部では少し難易度を上げ、さらにドイツ語能力と異文化の理解力を高めていく努力をします。</p> | | <p>3. 使用教材<Teaching materials> 『CD 付き ドイツ語万華鏡』スザンネ・シェアマン、篠原敏昭、岡田恒雄著（三修社 ¥ 2500）</p> <p>4. 成績評価の方法<Grading> 平常点、試験の総合評価。</p> <p>5. 履修上の注意事項<Remarks> 授業回数の 1/3 以上を欠席すると単位取得資格を失います。 授業をよく理解するためには予習は必須条件です。</p> | |
| <p>2. 授業内容<Course contents> この授業では、ドイツの文化や日常生活の様々な面について書かれたテキストを読みながら、ドイツ語を学習します。使用する教科書は、「おもちゃ」、「パーティー」、「喫茶店」、「買い物」、「電気製品」、「ペット」など、身近なテーマに沿って書かれた短いテキストと、練習問題、文法の復習から構成されていますので、ドイツ人の生活について、日本の場合と比較しながら学び、同時に文法事項の復習もします。さらに、テーマごとに視聴覚教材や他の資料も利用し、幅広くドイツ語圏の文化や生活を紹介していきます。後半部に使用するテキストは後日指定します。</p> | | | |

| | | | |
|---|---------|---|---------------|
| 科目名<Subject> | ドイツ語 B4 | <German > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 阿部 和夫 | <Kazuo Abe> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| <p>1. 授業の目的・方法<Course objective and method> この授業では、昨年度の授業で得たドイツ語の知識をさらに発展させ、実用的な語学力を身につけることを目標にしています。ドイツ語による聞き取りや会話を含めコミュニケーション能力の育成に重点を置いた内容です。ドイツ語のリズムに親しみ、日常的な会話ができるようになっていただきたい。教科書のほかに様々な資料を配布し、ドイツの社会や文化についても適宜紹介していく予定です。ドイツ語と日本語の違い、あるいはドイツ人と日本人の価値観の違いについてなど様々な問題意識をもって参加すると、授業がより楽しいものとなるでしょう。</p> | | <p>3. 使用教材<Teaching materials> ・『Dialog - ステップアップ版』 近藤弘 / 小林ゲアリンデ / 新倉真矢子 / 松尾博史 共著 郁文堂</p> <p>4. 成績評価の方法<Grading> 基本的には学期末定期試験の結果による。ただし、小テストおよび平常点も重視する。</p> <p>5. 履修上の注意事項<Remarks> 毎回必ず独和辞典を持参すること</p> | |
| <p>2. 授業内容<Course contents> 《前期》ドイツ語 の復習と平行して、場面に応じた会話練習や自己紹介、聞き取り練習といった初歩的な学習から始まります。ドイツ人の暮らし、食べ物、住まいといった日常的なものや学生生活など身近な話題が次々に登場します。 《後期》より実用度の高い応用練習に移行し、読む、聞く、話す、書く力を総合的に高める学習を進めて行きます。取り扱う内容は環境問題、戦争と平和、教育制度といった時事的なものまで多岐にわたり、ドイツ語だけではなくドイツ事情や社会問題についても学習可能な構成です。</p> | | | |

| | | | | |
|--|---------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | フランス語 1(火・木) | <French > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 尾形 弘人 | <Hirotomogata> | 研究室番号<Office> | 521 |
| Office Hours | 火 13:00~14:00 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> 基本的なフランス語の運用能力(話す、聞く、読む、書く)の養成を目指します。口、耳、目、手をフル活用して練習に取り組んでください。初めて学ぶ言葉ですから間違うのは当たり前。誤りを恐れずに積極的に授業に参加してください。 | | 3 使用教材<Teaching materials> 小倉孝誠他著『エメ・ヴ・ラ・フランス』、第三書房、\2,200 | | |
| 2 授業内容<Course contents> 以下に紹介する各課を、練習プリントも含め4 回程度の授業で消化していく予定です。 | | 4 成績評価の方法<Grading> 定期試験、小テスト、課題、出席率、予習の有無、積極性など総合的に判断する。 | | |
| 1) 元気かい? 2) フランスはお好きですか? 3) パリでの生活 4) 書店にて 5) オルセー美術館にて 6) 大学食堂 7) ヴァカンス 8) アキコが南仏を訪れる 9) 今夜、暇かい? 10) エレーヌが自分の人生を語る 11) カフェにて 12) 引越は大変だ 13) アンドレが新しいアパートに入る | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | | |
|--|-----------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | フランス語 2(火・木) | <French > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 江口 修 | <Osamu Eguchi> | 研究室番号<Office> | 523 |
| Office Hours | 火 木 14:30~16:00 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> 外国語学習の目的はさまざまなものが考えられるが、根本はその言語である状況に対応することができる、つまり具体的な運用能力の獲得であろう。そのためには持てる認識能力の総動員が必要となる。そして最初が肝心、しかしその最初が大変。つまりスキルとして身につけていない段階では無用のエネルギーを使ったり、妙なところに力が入ったりして疲れてしまうからだ。スポーツで、ある程度基礎技術に習熟するとあまり疲れることなく、なんとなく楽にしかも格好良くできるようになると感じる、あの感覚が大切なのだ。フランス語においては、リズムとテンポそしてパターンに習熟すれば進歩は一段と早くなる。 | | 1 2) 三人称の深い世界へ 1 3) 比較が好きなのは日本人だけではない 1 4) 受け身が嫌いなフランス語 1 5) 仮定そして感情の表現へ! | | |
| 2 授業内容<Course contents> 1) フランスとフランス語に親しむ 2) 挨拶と自己紹介 3) 続 自己紹介 4) 好きなもの、持ち物 5) 友達のことを話す(三人称へ) 6) さあ質問するぞ 7) 近い過去、近い未来、非人称構文 8) 数量表現は難しい? 9) 人の紹介、そして自分の一日を語る 10) 頼むこと、命令すること、そして未来を語る 11) さあ過去を語ろう | | 3 使用教材<Teaching materials> 『新・東京 パリ、初飛行』藤田裕二 / 藤田知子 / Sylvie Gillet 著 (駿河台出版社) ¥ 2,200 + 税 | | |
| | | 4 成績評価の方法<Grading> 期末試験 6割、残りは出席とクラスでの成果。 | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> 語学は苦しくても出席を続けることが結局はものを言う。無断欠席が連続する場合(4回がめやす)は即「不可」となる。 | | |

| | | | | |
|--|---|--|-------|----|
| 科目名<Subject> | フランス語 3(火・木) | <French > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 高橋 純 遠藤史子 <Atsushi Takahashi/Fumiko Endo> | 研究室番号<Office> | 高橋525 | |
| Office Hours | 高橋 :火曜日・木曜日12:00~14:30 | | | |
| <p>1 授業の目的・方法<Course objective and method> 木曜日の授業(遠藤先生担当)と連携して、「読む、書く、聴く、話す」の4技能の訓練を通じてのフランス語の基本構造の習得を目指す。木曜日の授業が応用練習を中心とするのに対して、この授業ではフランス語文法の理解を深めることに重点を置く。 応用練習においてのみでなく、授業内での説明や指示にもできるだけフランス語を用いて、フランス語の表現に耳を慣らし、フランス語で言われたことに対して言葉(フランス語)やしぐさや行動で反応が起こせるようにする。授業は、フランス語の表現を覚える、文の仕組みを理解する、自分の考えを表現する手段として使いこなす、の3段階で構成される。</p> <p>2 授業内容<Course contents> 10 課からなるテキストの文法事項を動詞のみにかぎって紹介すると以下ようになる。 第1群規則動詞の直説法現在 / 不規則動詞 être, faire の直説法現在 不規則動詞 avoir, aller, venir の直説法現在 不規則動詞 prendre, devoir の直説法現在 第2群規則動詞の直説法現在 / 不規則動詞 dormir, vouloir, pouvoir の直説法現在 / 命令法 不規則動詞 attendre, mettre, voir の直説法現在 / 近接未来・近接過去 / 非人称動詞 (この課のテーマは動詞ではなく、部分冠詞、中性代名詞、補語人称代名詞)</p> | | <p>過去分詞 / 直説法複合過去 代名動詞 直説法半過去 / 複合過去と半過去 直説法単純未来 / 直説法前未来</p> <p>3 使用教材<Teaching materials> 阿南婦美代他著『新アンパロール』朝日出版社、\2500</p> <p>4 成績評価の方法<Grading> 読み、書き、聞き、話す4技能を対象として総合的に評価する。定期試験のみでなく平常時の小テストも課す。小テストを含む平常点は全体評価の3割とする。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> 出席重視。授業では、応用練習のために視聴覚教材を利用し、補足説明のために適宜プリントを配布する。</p> | | |

| | | | | |
|---|--|--|--|----|
| 科目名<Subject> | フランス語 4(火・木) | <French > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | ニコラ・ジェゴンダ 高橋純 <Nicolas Jegonday/Atsushi Takahashi> | 研究室番号<Office> | | |
| Office Hours | | | | |
| <p>(ジェゴンダ教員分)</p> <p>1 授業の目的・方法<Course objective and method> 基本的なフランス語の運用能力(話す、聞く、読む、書く)の養成を目指します。口、耳、目、手をフル活用して練習に取り組んでください。初めて学ぶ言葉ですから間違えるのは当たり前。誤りを恐れずに積極的に授業に参加してください。</p> <p>2 授業内容<Course contents> 1) 挨拶、その1 2) 挨拶、その2 3) さあ、自己紹介 4) 今度は人を紹介してみよう 5) 好きなものを言う、好きか嫌いか 6) 注文してみよう 7) どこかへ行こう 8) どんな人が、どんな物が言ってみよう 9) 買い物しよう 10) 過去のことを語ってみよう</p> | | <p>3 使用教材<Teaching materials> O.ビルマン他著『Dialogue(ディアローグ)』、第三書房、\2,800</p> <p>4 成績評価の方法<Grading> 定期試験、小テスト、課題、出席率、予習の有無、積極性など総合的に判断する。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> 昨年度と同じ教科書を使うが、再履修者以外は必ず教科書を購入すること。また、辞書については追って指示する。</p> | | |

| | | | | |
|--|--|---|--|-------|
| 科目名<Subject> | フランス語 4(火・木) | <French > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | ニコラ・ジェゴンドー 高橋純<Nicolas Jegonday/A tsushi Takahash> | 研究室番号<Office> | | 高橋525 |
| Office Hours | 高橋 :火曜日・木曜日12 :00 ~ 14 :30 | | | |
| (高橋教員分) 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 火曜日の授業(ジェゴンドー先生担当)と連携して、「読む、書く、聴く、話す」の4技能の訓練を通じてのフランス語の基本構造の習得を目指す。火曜日の授業が応用練習を中心とするのに対して、この授業ではフランス語文法の理解を深めることに力点を置く。 応用練習においてのみでなく、授業内での説明や指示にもできるだけフランス語を用いて、フランス語の表現に耳を慣らし、フランス語で言われたことに対して言葉(フランス語)やしぐさや行動で反応が起こせるようにする。授業は、フランス語の表現を覚える、文の仕組みを理解する、自分の考えを表現する手段として使いこなす、の3段階で構成される。その際には、火曜日の授業のテキスト『ディアローグ』で使われる語彙と表現を取り入れて進める。 | | devoir, savoirの直説法現在 直説法複合過去および受動態 代名動詞および不定法 直説法単純未来および直説法前未来 直説法半過去および直説法大過去 条件法現在および条件法過去 直説法単純過去および直説法前過去 接続法 3.使用教材<Teaching materials> 鈴木/恒川著『新初等フランス語文法』朝日出版社、¥1300 4.成績評価の方法<Grading> 読み、書き、聞き、話す4技能を対象として総合的に評価する。定期試験のみでなく平常時の小テストも課す。小テストを含む平常点は全体評価の3割とする。 | | |
| 2.授業内容<Course contents> 15課67項目の文法事項を動詞のみにかぎって紹介すると以下ようになる。 第1群規則動詞の直説法現在 avoir, etreの直説法現在 第2群規則動詞の直説法現在 命令法およびaller, venirの直説法現在 prendre, voirの直説法現在 faire, partirの直説法現在 pouvoir, vouloir, direの直説法現在 | | 5.履修上の注意事項<Remarks> 出席重視。授業では、応用練習のために視聴覚教材を利用し、補足説明のために適宜プリントを配布する。 | | |

| | | | | |
|---|-----------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | フランス語 (9年度カリ用) | <French > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 尾形 弘人 | <Hi roto Ogata> | 研究室番号<Office> | 521 |
| Office Hours | 火 13:00 ~ 14:00 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 辞書を片手に簡単な文章をじっくり読みながら、フランス語の基本的な構造を理解する。 | | 3.使用教材<Teaching materials> 未定 | | |
| 2.授業内容<Course contents> テキストは皆さんと相談のうえ、決定します。 | | 4.成績評価の方法<Grading> 総合的に判断する。 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | | |
|--|--|--|--|-------|
| 科目名<Subject> | フランス語 A1(火・木) | <French > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | ニコラ・ジェゴンデ・尾形弘人 <Nicolas Jegonday/Hiroto Ogata> | 研究室番号<Office> | | 尾形521 |
| Office Hours | 尾形:火 13:00~14:00 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| 1年次で身につけたフランス語の運用能力(話す、聴く、読む、書く)をさらに定着・発展させることを目的とします。主役は皆さんです。教師とのやり取りやグループ活動では、間違いを恐れずに積極的に参加してください。 | | ジェゴンデ:1年次の『ディアローク』を継続使用(持っていない学生は下記の5「注意事項」を参照のこと)。 尾形:中山真彦著『新デパール』、白水社、\ 2,100 | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| ジェゴンデは1年次の教科書『ディアローク』を継続し、会話中心の口頭練習を主に行う。尾形は文法の復習(および未習事項の補足)と読解を中心に授業を進める。 | | 定期試験、課題、出席率、受講態度その他により、総合的に判断します。 | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | ジェゴンデ使用の『ディアローク』を持っていない学生は、尾形の授業で申し出てください。 | | |

| | | | | |
|---|--------------------------------------|--|--|-------|
| 科目名<Subject> | フランス語 A2(火・木) | <French > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 尾形弘人・遠藤史子 <Hiroto Ogata/Fumiko Endo> | 研究室番号<Office> | | 尾形521 |
| Office Hours | 尾形:火 13:00~14:00 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| 1年次で身につけたフランス語の運用能力(話す、聴く、読む、書く)をさらに定着・発展させることを目的とします。主役は皆さんです。教師とのやり取りやグループ活動では、間違いを恐れずに積極的に参加してください。 | | 中村敦子他著『グリック!クリケ! 2年目のフランス語』、第三書房、\ 2,300 | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| 教科書は(1)文法問題、(2)聞き取り、穴埋め問題、(3)応用問題からなり、(1)および(2)は尾形が担当し、余裕があれば実用フランス語検定試験対策もおこないたい。遠藤は(3)をベースに、さらにフレキシブルに練習を発展させていく予定。 | | 定期試験、課題、出席率、受講態度その他により、総合的に判断します。 | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | | | |

| | | | | |
|--|-----------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | フランス語 B1 | <French > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 江口 修 | <Osamu Eguchi> | 研究室番号<Office> | 523 |
| Office Hours | 火・木 14:30~16:00 | | | |
| <p>1 授業の目的・方法<Course objective and method> 一年次で身につけたフランス語の運用能力をさらに発展させることが目的、しかし週一回だけのこのクラスでは、少し別のアングルから攻めてみよう。 つまりカラオケでフランス語の歌を歌えるようになるうというのだ。フランス語のリズムやテンポをさまざまな形でしかし的確に示しているのが「歌」なのだ。</p> <p>2 授業内容<Course contents> 1) まずは聞いてみよういろいろな歌 2) 自分の好きなリズム、メロディーを見つけよう 3) 発音の矯正とリズムへの乗せ方 4) 覚えてしまおう 5) さあシャンソンコンクールだ</p> | | <p>3 使用教材<Teaching materials> 『シャンソンで覚えるフランス語 3』、大野修平 / 野村二郎著 (第三書房) ¥2,940</p> <p>4 成績評価の方法<Grading> このクラスは一曲を最後まで歌えるようになった時点で合格。歌の難度や歌唱の完成度が加点されて成績となる。試験は行わない。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> 無断欠席が連続する場合 (4回がめやす) は即「不可」となる。</p> | | |

| | | | | |
|--|--------------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | フランス語 B2 | <French > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 高橋 純 | <Atsushi Takahashi> | 研究室番号<Office> | 525 |
| Office Hours | 火曜日・木曜日12:00~14:30 | | | |
| <p>1 授業の目的・方法<Course objective and method> フランス語で習得した知識を発展的に応用し活用して、フランス語の理解力・運用能力の向上を目指す。日常生活に始まる様々な領域から、そこで発信される多彩なフランス語の表現を取り上げ、それらを理解する努力を通じて、そのために必要な道具としてのフランス語の知識を増やしつつ、背景にあるフランス文化・社会の理解を深める。 教科書には、会話からなる本文と併せて documents authentiques (フランスで日常実際に見られる様々なフランス語：各課の内容のあとに () で示してある) がついているので、これは学生が報告者となって紹介してもらうことになる。</p> <p>2 授業内容<Course contents> Lecon 1: 受講の申し込みをする。(名刺、広告チラシ) Lecon 2: ホテルで部屋を頼む。(ホテルの案内) Lecon 3: テレビ番組をたずねる。(天気図) Lecon 4: パリを上から見る。(パリの地図) Lecon 5: 趣味(絵と写真)について話す。(宣伝広告) Lecon 6: カフェで飲み物を注文する。(レストランのメニュー) Lecon 7: 健康・スポーツについて話す。(美容に関する記事)</p> | | <p>Lecon 8: 電話をかける。(ミニテルの案内) Lecon 9: 友人に手紙を書く。(祝祭日の暦) Lecon 10: 旅に誘う。(レジャーに関する記事) Lecon 11: スキーで失敗する。(ドーデの短編小説から) Lecon 12: フランス語の綴りは難しい。(綴り字改定に関する記事)</p> <p>3 使用教材<Teaching materials> 長谷川 / 林田他著 『フランス知ってる? (4訂版)』 青山社、¥2100</p> <p>4 成績評価の方法<Grading> 授業への積極的参加、課題及び期末試験。平常点の比重は3割。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> 授業に参加する前向きな姿勢を評価する。外国語は間違えながら(つまり不完全でも自分で使いながら)身につけるものであることを肝に銘じておくこと。</p> | | |

| | | | |
|---|-----------------|---|---------------|
| 科目名<Subject> | フランス語 B3 | <French > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 江口 修 | <Osamu Eguchi> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | 火・木 14:30~16:00 | | 523 |
| <p>1 授業の目的・方法<Course objective and method> 一年次で身につけたフランス語運用能力をさらに発展させることが目的。 このクラスでは聞き取り書き取りを中心に、コンピューターを活用してさまざまなフランス語に接してゆく。パソコンはもはや筆記用具、多言語使用に習熟しよう。</p> <p>2 授業内容<Course contents> 授業の構成は次のとおり。「聞き取り書き取り」を通年で扱い、適宜フランス語の URL に接続して、新聞記事やニュース、広告のキャッチコピーを収集し翻案を試みる。</p> | | <p>3 使用教材<Teaching materials> 「聞き取り書き取り」は江口が用意した教材を用いる。CALL ラボなのでそのほかについては教室で指示する。</p> <p>4 成績評価の方法<Grading> 定期試験（翻訳問題）の成績が5割、残りは毎回提出が要求される課題の出来。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> 無断欠席が連続する場合（4回がめやす）は即「不可」となる。</p> | |

| | | | |
|--|---|---------------|----|
| 科目名<Subject> | 中国語 1(火・木) | <Chinese > | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 霜鳥かおり 楊志剛 <Kaori Shimotori/Yang Zhigang> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| <火曜日> 中国語の基礎語彙・文法を学び、簡単な会話・読解の力を身につけることを目的とします。テキストに従って基礎文法を学び、その上で、学んだ単語と文型を運用して表現できるよう、読む・書く・聞く・話す練習をします。視覚的にはなじみやすい中国語ですが、音声によるコミュニケーション能力を身につけることを目指し、口と耳を積極的に使って参加してください。 補助資料としてビデオ等視聴覚教材を用い、中国の生活や文化を紹介します。 | <火曜日> 本間 史・孟 広学『中国語ポイント42』(白水社) | | |
| <木曜日> 初めて中国語を学ぶ人を対象として、発音とその表記法(ピンイン)、簡単な文の基本構造と基本文型、及び違う場面における簡単な表現形式を学び、簡単な会話ができるようになることを目標とする。テキストによる会話練習や文法の説明を並行して行い、ビデオによる現代中国社会、文化事情の紹介も行う。 | <木曜日> 『アニメ中国語 恋する莎莎』相原 茂 / 陳淑梅 / 飯田 敦子 著 朝日出版社 | | |
| 2.授業内容<Course contents> | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| <火曜日> まず初めの数時間でピンイン・発音を学びます。その後、課ごとに基礎語彙と文法を学んでいきます。また、それを運用した会話を練習します。 | <火曜日> 試験と平常点(出席・授業に臨む態度・小テストの成績)で評価します。 | | |
| <木曜日> テキストの第十課まで行う予定。 | <木曜日> 出席度を重視し、本文の暗記、中間テストや試験の点数を合わせて総合評価する。 | | |
| | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | 二人の教官の授業は連動しており、4単位は一括して認定します。予習と復習をして授業に参加してください。中国語辞典は必須。 | | |

| | | | |
|--|--|---------------|------|
| 科目名<Subject> | 中国語 2(火・木) | <Chinese > | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 谷内哲治 裴 崢 <Tetsuji Tanuchi/Pei Zheng> | 研究室番号<Office> | 裴308 |
| Office Hours | (裴)火 13:30 ~ 15:30 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| <火曜日> これからますます重要となる中国語を、歴史、文化、生活習慣から生きた言葉として学び、言葉を通して中国に対する理解を深めることを目的とする。基本語彙、文型、文法を繰り返し練習して簡単な日常会話を習得する。 前期 - 中国語の音の構成を理解し、独特のイントネーションを覚えるためにテキストの録音などを活用しながら学ぶ。併せて、基本的な文型、文法、語彙を学んで中国語の特徴を理解し、中国語のアウトラインを把握する。 後期 - 前期に引き続き、中国語の基本語彙、文型、文法を繰り返し練習し、実践にも応用できるようにする。 | <木曜日> 2週間の中国旅行を話題として生き生きと描いたテキストを使って、基本的で、かつ実用的な表現を場面の中で勉強します。 | | |
| <木曜日> 中国語の基本的な会話を勉強し、読む力の基礎を身につけ、伝言や日記など短い文章が書けるようにします。 発音や基本文型は耳から学び、使いこなせるように練習を繰り返します。受講者が授業活動に積極的に参加できるように配慮し、中国語の基礎を、実践を通して楽しく習得できるように努めます。 この授業は、学生と教師との対話型・双方向性の授業です。また時おり視聴覚教材も使用する予定です。 | <火曜日> 本間史・孟広学共著『中国語ポイント42』(白水社) <木曜日> 陳淑梅・蘇明『中国を歩こう』(金星堂) | | |
| 2.授業内容<Course contents> | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| <火曜日> 前期 - 発音編 第1課から第5課 後期 - 第6課から第12課 | <火曜日> 定期試験、平常点(出席回数など)で総合評価します。 <木曜日> 定期試験のほか、出席・授業態度、小テストも総合して評価します。定期試験 50%、授業態度 30%、小テスト 20%。授業回数の1/3以上 欠席した者は、自動的に単位取得の権利を失います。 | | |
| | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | 授業を楽しむ方法は、予習をして積極的に授業に参加することです。 『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 『プログレッシブ中国語辞典』小学館 『クラウン中日辞典』三省堂 など、辞書を一冊用意して下さい。二人の教員の授業は連動しており、4単位は一括して認定します。予習と復習をして授業に参加してください。 | | |

| | | | | |
|---|--|--|---------------|---------|
| 科目名<Subject> | 中国語 3(火・木) | | <Chinese > | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 | |
| 担当教員名<Name> | 裴 崢 萩原正樹 <Pei Zheng/Masaki Hagiwara> | | 研究室番号<Office> | 308/327 |
| Office Hours | (裴)火 13:30 ~ 15:30 (萩原)火 13:30 ~ 15:30 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p><火曜日></p> <p>中国語の基本的な会話を勉強し、読む力の基礎を身につけ、伝言や日記など短い文章が書けるようにします。</p> <p>発音や基本文型は耳から学び、使いこなせるように練習を繰り返します。受講者が授業活動に積極的に参加できるように配慮し、中国語の基礎を、実践を通して楽しく習得できるように努めます。</p> <p><木曜日></p> <p>中国語の基礎の習得。簡単な中国語を読み、書き、話し、聞ける能力の習得を目的とします。授業は、基本的にテキストに従って進行していきます。時折、補充教材やビデオなども用いたいと思います。</p> <p>この授業は(火)(木)ともに、学生と教師との対話型・双方向性の授業です。また時おり視聴覚教材も使用する予定です。</p> | | <p><火曜日></p> <p>陳淑梅・蘇明『中国を歩こう』(金星堂)</p> <p><木曜日></p> <p>渋谷裕子等『新しいキャンパス的中国語』(同学社)</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p><火曜日></p> <p>2週間の中国旅行を話題として生き生きと描いたテキストを使って、基本的で、かつ実用的な表現を場面の中で勉強します。</p> <p><木曜日></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発音とピンインの習得 ・基本的な表現の習熟 ・簡体字の理解・習得 ・中国語の「態」や「補語」等の重要な文法事項 | | <p><火曜日></p> <p>定期試験のほか、出席・授業態度、小テストも総合して評価します。定期試験 50%、授業態度 30%、小テスト 20%。授業回数の1/3以上</p> <p>欠席した者は、自動的に単位取得の権利を失います。</p> <p><木曜日></p> <p>定期試験 50%、出席 30%、授業態度 20%。授業回数の1/3以上欠席した者は、自動的に単位取得の権利を失います。</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | 二人の教員の授業は連動しており、4単位は一括して認定します。予習と復習をして授業に参加してください。中国語辞典は必須です。 | | |

| | | | | |
|---|-------------------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 中国語 (9年度カリ用) | | <Chinese > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 | |
| 担当教員名<Name> | 萩原 正樹 <Masaki Hagiwara> | | 研究室番号<Office> | 327 |
| Office Hours | 火 13:30 ~ 15:30 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>中国語の基礎の習得。簡単な中国語を読み、書き、話し、聞ける能力の習得を目的とします。具体的な授業の進め方については、開講時に受講者と相談の上決めたいと思います。</p> <p>この授業は、学生と教師との対話型・双方向性の授業です。</p> | | <p>劉郷英等『中国語精選サラダ』(朝日出版社)</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・発音とピンインの習得 ・基本的な表現の習熟 ・簡体字の理解・習得 ・中国語の「態」や「補語」等の重要な文法事項 | | <p>前期・後期の定期試験の点数及び出席状況、平常点等を総合して評価します。</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | | | |

| | | | |
|---|--------------------|---|--------------------|
| 科目名<Subject> | 中国語 A1(火・木) | <Chinese > | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 裴 崢・楊志剛 | <Pei Zheng/Yang Zhigang> | 研究室番号<Office> 裴308 |
| Office Hours | (裴)火 13:30 ~ 15:30 | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | |
| <p><火曜日></p> <p>身近な話題を話し、自分の感想を書き表し、日常的な会話と読み物を大まかに理解できるようにします。</p> <p>文の構造と機能を十分理解した上、授業活動を通して応用力を高めます。学生と教師、学生相互間の反復実習を重視し、ビデオなども活用します。</p> <p>この授業は、学生と教師との対話型・双方向性の授業です。また時おり視聴覚教材も使用する予定です。</p> <p><木曜日></p> <p>1 年に学習した事柄を復習しつつ、会話と作文を中心に中国語の表現力を高めることをめざし、中国語文学作品の精読による中国人のものの考え方及び表現方法を理解することを目標とする。テキストやプリントによって文法ポイントの説明や会話練習を行う。</p> | | <p><火曜日></p> <p>楊凱栄・張麗群『実力のつく中国語』(白帝社)</p> <p><木曜日></p> <p>『新版 中国語さらなる一歩』 竹島 金吾 白水社</p> | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | |
| <p><火曜日></p> <p>日本人学生が留学先で出会った様々な場面を取り上げて、身近な会話が展開されているテキストを使います。生き生きとしたコミュニケーションを学ぶと共に、登場人物の積極的な交流を実現させようとする努力も見習いましょう。</p> <p><木曜日></p> <p>テキストの1課～12課まで。</p> | | <p><火曜日></p> <p>定期試験のほか、授業態度、小テストも総合して評価します。定期試験 50%、授業態度 30%、小テスト 20%。授業回数の 1/3 以上欠席した者は、自動的に単位取得の権利を失います。</p> <p><木曜日></p> <p>出席度を重視し、中間テストと定期試験の点数を合わせて総合評価する。</p> | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>二人の教員の授業は連動しており、4単位は一括して認定します。予習と復習をして授業に参加してください。中国語辞典は必須です。</p> | |

| | | | |
|--|--|---|-----------------------|
| 科目名<Subject> | 中国語 A2(火・木) | <Chinese > | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 萩原正樹・裴 崢 | <Masaki Hagihara/Pei Zheng> | 研究室番号<Office> 327/308 |
| Office Hours | (萩原)火 13:30 ~ 15:30 (裴)火 13:30 ~ 15:30 | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | |
| <p><火曜日></p> <p>中国語の基礎から応用レベルの習得。基礎文法の完成と中級程度の読み書き、会話能力の育成を目的とします。授業は、基本的にテキストに従って進行していきます。受講者の皆さんには、積極的に授業に参加することを希望します。皆さんの積極的な発言が授業進行の原動力となります。</p> <p><木曜日></p> <p>身近な話題を話し、自分の感想を書き表し、日常的な会話と読み物を大まかに理解できるようにします。</p> <p>文の構造と機能を十分理解した上、授業活動を通して応用力を高めます。学生と教師、学生相互間の反復実習を重視し、ビデオなども活用します。</p> <p>この授業は(火)(木)ともに、学生と教師との対話型・双方向性の授業です。また時おり視聴覚教材も使用する予定です。</p> | | <p><火曜日></p> <p>石慧敏等『上海びより』(好文出版)</p> <p><木曜日></p> <p>楊凱栄・張麗群『実力のつく中国語』(白帝社)</p> | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>日本人学生が留学先で出会った様々な場面を取り上げて、身近な会話が展開されているテキストを使います。生き生きとしたコミュニケーションを学ぶと共に、登場人物の積極的な交流を実現させようとする努力も見習いましょう。</p> | | <p><火曜日></p> <p>定期試験 50%、出席 30%、授業態度 20%。授業回数の 1/3 以上欠席した者は、自動的に単位取得の権利を失います。</p> <p><木曜日></p> <p>定期試験のほか、授業態度、小テストも総合して評価します。定期試験 50%、授業態度 30%、小テスト 20%。授業回数の 1/3 以上欠席した者は、自動的に単位取得の権利を失います。</p> | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>二人の教員の授業は連動しており、4単位は一括して認定します。予習と復習をして授業に参加してください。中国語辞典は必須です。</p> | |

| | | | |
|--|--|--------------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 中国語 B1 | <Chinese > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 谷内 哲治 | <Tetsuji Taniuchi> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| 中国語 で学んだ内容をさらに発展させ、併せて言葉を通して中国の歴史や文化に対する理解をより深めることを目的とする。中国語による基本的なコミュニケーションを習得する。 | 中国語入門300語ワールド『大事なことはみんな中国語で言える』朝日出版社 相原茂/他共著 | | |
| 前期 - 中国語 で学んだ基本的な文型や文法を再確認し、テキストの録音テープやビデオを活用してリスニングとリーディングのトレーニングを行う。 | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| 後期 - 前期に引き続き「話す」「聞く」「読む」さらに「書く」などの能力を習得し、実践にも応用できる能力を養う。 | 定期試験、平常点（出席回数など）で総合評価します。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| 前期 - ユニット1（第1課から第4課）ユニット2（第5課から第8課） | 授業を楽しむ方法は、予習をして積極的に授業に参加することです。 | | |
| 後期 - ユニット3（第9課から第12課）ユニット4（第13課から第16課） | 『初めての中国語学習辞典』朝日出版社 『プロGRESS中国語辞典』小学館 『クラウン中日辞典』三省堂 など、辞書を一冊用意して下さい。 | | |

| | | | |
|---|------------------------------------|-------------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 中国語 B2 | <Chinese > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 霜鳥 かおり | <Kaori Shimotori> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| 中国語 で学んだ基本的な単語や表現を復習し定着を図るとともに更に発展させ、テキストの単語と文法を運用して中国語で表現できるように、聞く・話す（読む・書く）練習をします。補助資料としてビデオ等視聴覚教材を用い、中国の生活や文化を紹介します。 | 塚本慶一監修・劉穎 著『2年生のコミュニケーション中国語』（白水社） | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| 日本人の短期留学生在が中国に行ってよく出会う場面を設定して編まれたテキストを用い、各場面での会話表現を学びます。 | 試験と平常点（出席・授業に臨む態度・小テストの成績）で評価します。 | | |
| | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | 予習・復習をして授業に参加してください。 | | |

| | | | |
|--|--|---|-------|
| 科目名<Subject> | スペイン語 (火・木) | <Spanish > | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 山田眞史 守下幸子 <Ma fumi Yamada/Sachiko Morishita> | 研究室番号<Office> | 山田513 |
| Office Hours | 山田 Mediante cita concertada previamente | | |
| (火曜日)山田教員分 | | (木曜日)守下教員分 | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> スペイン語の文法,読解,会話の基本を学びます。初めての外国語のはずです。授業への準備が必ず必要です。ちゃんとついてくれば,スペイン語の終わる頃にはスペインの新聞,雑誌が読めるようになります。アカデミックな文体も読めるでしょう。しかし決して楽な語学ではありません。 | | 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 初級のスペイン語を学習し、聴く、読む、書く、話すことを目標にする。 | |
| 2.授業内容<Course contents> 発音から始めて,テキストの構成に従って,進めます。 | | 2.授業内容<Course contents> 練習問題の多いテキストを使用するが、更に口頭の練習も取り入れる。 | |
| 3.使用教材<Teaching materials> スペイン語12課 マロト著、白水社 現代スペイン語辞典、白水社 | | 3.使用教材<Teaching materials> ESPANOL 2000 - NIVEL ELEMENTAL 著者：J.Sanchez Lobato / N. Garcia Fernandez 発行：Sociedad General Espanola de Libreria S.A. - Madrid | |
| 4.成績評価の方法<Grading> 平常の授業での質問への答え,レポート数回,小テスト,定期試験,出席によります。 | | 4.成績評価の方法<Grading> 作文、小テスト、定期試験、出席、積極的な参加を総合して評価する。 | |
| 5.履修上の注意事項<Remarks> 授業数の1/3を越える欠席があれば受験資格がありません。遅刻は認めません。毎回出席を確認します。 | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |

| | | | |
|---|--------------------------------------|--|-----|
| 科目名<Subject> | スペイン語 (9年度カリ用) | <Spanish > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 山田 眞史 <Ma fumi Yamada> | 研究室番号<Office> | 513 |
| Office Hours | Mediante cita concertada previamente | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> スペイン語の文法、読解、会話の基礎を学びます。 | | 3.使用教材<Teaching materials> スペイン語12課 マロト著、白水社 現代スペイン語辞典、白水社 | |
| 2.授業内容<Course contents> 発音から始めてテキストの構成に従って進めます。 今年度はかなり厳しくすすめます。 相応の負担があります。 | | 4.成績評価の方法<Grading> 平常の授業での質問への答え,レポート数回,小テスト,定期試験,出席によります。 | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> 授業数の1/3を越える欠席があれば受験資格がありません。遅刻は認めません。毎回出席を確認します。 数年越し履修を続け、今もって単位修得がないわけですから、相当の努力、全授業出席の心構えは必要です。 スペイン語 A もしくは B との同時履修は認められません。 | |

| | | | | |
|--|--|--|---------------|-------|
| 科目名<Subject> | スペイン語 A (火・木) | | <Spanish > | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 | |
| 担当教員名<Name> | 山田眞史 守下幸子 <Ma fumi Yamada/Sachiko Morishita> | | 研究室番号<Office> | 山田513 |
| Office Hours | 山田 Mediante cita concertada previamente | | | |
| (火曜日)山田教員分 | | (木曜日)守下教員分 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> スペイン人やスペインの生活に密着したストーリーを読み、その内容についてのスペイン語の問いにスペイン語で答える。 | | 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 一年次に使用した教科書を継続し、スペイン語の文法を完成する。 | | |
| 2.授業内容<Course contents> テキストの構成に従って進みます。予習が必ず必要です。そうしないと、何が何だかわからなくなります。 | | 2.授業内容<Course contents> テキストを進行させながら、会話や作文の能力を伸長させる。 | | |
| 3.使用教材<Teaching materials> Nuevas Narraciones Espavolas 2 (タイトル) SGEL (出版社) | | 3.使用教材<Teaching materials> AVANCE - NIVEL ELEMENTAL 著者：Concha Moreno / V. Moreno / P. Zurita 発行：Sociedad General Espanola de Libreria S.A. - Madrid | | |
| 4.成績評価の方法<Grading> 平常の授業での質問への答え、レポート数回、小テスト、定期試験、出席によります。 | | 4.成績評価の方法<Grading> 出席、積極的参加、作文、小テスト、定期試験を総合して評価する。 | | |
| 5.履修上の注意事項<Remarks> スペイン語の単位をすべて修得していない限り、履修は認めません。 授業数の1/3を越える欠席があれば受験資格がありません。遅刻は認めません。毎回出席を確認します。 | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | | |
|---|--------------------------------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | スペイン語 B | | <Spanish > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 | |
| 担当教員名<Name> | 山田 眞史 <Ma fumi Yamada> | | 研究室番号<Office> | 513 |
| Office Hours | Mediante cita concertada previamente | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> スペイン人やスペインの生活に密着したストーリーを読み、その内容についてのスペイン語の問いにスペイン語で答える。(スペイン語 Aと同様です。) | | 3.使用教材<Teaching materials> Nuevas Narraciones Espavolas 1 (タイトル) SGEL (出版社) | | |
| 2.授業内容<Course contents> テキストの構成に従って進みます。予習が必ず必要です。そうしないと、何が何だかわからなくなります。 | | 4.成績評価の方法<Grading> 平常の授業での質問への答え、レポート数回、小テスト、定期試験、出席によります。 | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> スペイン語の単位をすべて修得していない限り、履修は認めません。 授業数の1/3を越える欠席があれば受験資格がありません。遅刻は認めません。毎回出席を確認します。 | | |

| | | | |
|---|--|---------------|-------|
| 科目名<Subject> | ロシア語 (火・木) <Russian > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | (火):山田久就(前期) / スペヴァコフスキー(後期) (木):山田久就 | 研究室番号<Office> | 山田542 |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>実用的なロシア語の習得に必要な基礎知識を身につけることが主たる目的です。そのために必要な講義・練習を行います。また、ロシアという国の文化や民族などに関する話題についても提供していきます。</p> <p>山田担当の授業では文法と文字言語を中心に進め、後期に始まるスペヴァコフスキー担当の授業では音声言語と反復練習を中心に進めていきます。</p> | <p>(山田)</p> <p>教科書:「НИКОИНОСЕМАННО / ロシア語教程 (初級編)」、東京ロシア語学院。また、必要に応じてプリントを配布します。配布したプリントは http://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/ja/classes/russian1 (学内からのみアクセス可) に pdf ファイルで置きます。</p> <p>コンピュータ画面をプロジェクターに投射して授業を進めます。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>山田担当の授業では、最初の数回、文字と発音に関する説明とそれに慣れるための練習を行い、その後、教科書の第1課から順に進めていきます。1回4～5ページ程度をめどに進めていきますが、必要に応じて進度は速くもなり遅くもなりません。最初の頃は比較的ゆっくりと進み、慣れるにしたがってだんだんと速く進むようになるでしょう。</p> <p>スペヴァコフスキー担当の授業では、ロシア語に慣れるための練習を様々なテーマに沿って繰り返し行います。</p> | <p>定期試験の他、出席回数、遅刻回数、授業への参加態度、授業での応答等を参考にして総合的に評価します。</p> | | |
| | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | |
|---|--|-------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | ロシア語 (9年度カリ用) <Russian > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 山田 久就 | <Hisanari Yamada> | 研究室番号<Office> 542 |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>実用的なロシア語の習得に必要な基礎知識を身につけることが主たる目的です。</p> | <p>(山田)</p> <p>教科書:「НИКОИНОСЕМАННО / ロシア語教程 (初級編)」、東京ロシア語学院。また、必要に応じてプリントを配布します。配布したプリントは http://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/ja/classes/russian1 (学内からのみアクセス可) に pdf ファイルで置きます。</p> <p>コンピュータ画面をプロジェクターに投射して授業を進めます。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>火、木のロシア語の授業の進度にあわせ、火、木の授業の予習と復習を兼ねて練習を繰り返します。ロシア語文法の中で具体的にどの点に重点を置いて練習するのは授業への参加者の関心と必要性を考慮して決めます。</p> | <p>定期試験の他、出席回数、遅刻回数、授業への参加態度、授業での応答等を参考にして総合的に評価します。</p> | | |
| | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | |
|--|--|---------------|-------|
| 科目名<Subject> | ロシア語 A (火・木) <Russian > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | スベヴァコフスキー・山田久就 <Spevakovski/Hisanari Yamada> | 研究室番号<Office> | 山田542 |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> ロシア語 で学んだことを確定・発展させ、ロシア語の基礎的知識と運用能力を確実なものにすることを目的とします。 | 3 使用教材<Teaching materials> (山田) 教科書：「 RUSSIAN LANGUAGE / ロシア語教程 (初級編)」、東京ロシア語学院。また、必要に応じてプリントを配布します。配布したプリントは http://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/ja/classes/russian2a (学内からのみアクセス可) に pdf ファイルで置きます。 コンピュータ画面をプロジェクターに投射して授業を進めます。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> 火曜日のスベヴァコフスキー担当の授業は音声言語中心に行われ、会話形式のテキストやビデオを使い、ロシア語に慣れるための練習を様々なテーマに沿って繰り返していきます。 木曜日の山田担当の授業ではロシア語 の授業で使用した教科書の残った箇所から始め、教科書を終わることを目指します。 | 4 成績評価の方法<Grading> 定期試験の他、出席回数、遅刻回数、授業への参加態度、授業での応答等を参考にして総合的に評価します。 | | |
| | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | |
|--|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | ロシア語 B <Russian > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 山田 久就 <Hisanari Yamada> | 研究室番号<Office> | 542 |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> ロシア語 の授業で学んだことを確定・発展させ、主として文字言語の能力をより確かなものにすることを目的とします。 | 3 使用教材<Teaching materials> 教科書：「 RUSSIAN LANGUAGE / ロシア語教程 (初級編)」、東京ロシア語学院。また、必要に応じてプリント等も配布します。配布したプリントは http://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/ja/classes/russian2b (学内からのみアクセス可) に pdf ファイルで置きます。 コンピュータ画面をプロジェクターに投射して授業を進めます。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> ロシア語 の授業で使用した教科書の残った箇所から始め、教科書を終わることを目指します。 | 4 成績評価の方法<Grading> 定期試験の他、出席回数、遅刻回数、授業への参加態度、授業での応答等を参考にして総合的に評価します。 | | |
| | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | |
|--|--|---------------|----|
| 科目名<Subject> | 朝鮮語 (火・木) | <Korean > | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 宣 憲洋・小鹿照世<Hun-Yang Sun/Teruyo Koshka> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | |
| (火曜日) 宣教員分 | 第 16 課 冠形詞 | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | 第 17 課 冠形詞形語尾 (現在) | | |
| ハングル (文字) の創製原理を理解し、字母の名称を知り、正しく発音できる。簡単なあいさつができ、買い物や飲食店での注文ができる。ごく短い文を読み、書き、聞き取ることができる。口頭練習に重点を置きます。発音練習を兼ねて韓国のポップソングなど一緒に歌いましょう。 | 第 18 課 冠形詞形語尾 (過去) | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | 第 19 課 冠形詞形語尾 (未来) | | |
| 各課の内容は下記の通りですが、「朝鮮語 1」では、このうち 1～4 と第 1 課～第 19 課までを学習します。 | 第 20 課 昨日何をしましたか | | |
| 1. 「ハングル」文字と発音 (母音) 2. 子音 | 第 21 課 今日学校が終わったら何をしますつもりですか | | |
| 3. 名前をハングルで書いてみよう | 第 22 課 時間ができたら何をしたいですか | | |
| 4. 「かな」とハングル対照表 | 第 23 課 今度の休みに何をしますつもりですか | | |
| 第 1 課 これは何ですか | 第 24 課 将来何になりたいですか | | |
| 第 2 課 これは机ですか | 第 25 課 宝くじで 1 億円当たったら、そのお金を何をしたいですか | | |
| 第 3 課 こんにちは | 第 26 課 言葉遊び (色彩形容詞と ' ? ' 変則活用) | | |
| 第 4 課 教室に何がありますか | 第 27 課 ことわざ (? ?) | | |
| 第 5 課 今日どこで何をしていますか | 第 28 課 ? ? ? (体) | | |
| 第 6 課 人には顔があります | 第 29 課 間接話法 | | |
| 第 7 課 語幹・語尾・原形 | 第 30 課 ? ? (端午) | | |
| 第 8 課 今日は何日ですか | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| 第 9 課 漢数詞 | 教科書: 『韓国語教科書 1』, 青人社, 2004 年。 | | |
| 第 10 課 月日 | 「コスモス朝和辞典」第 2 版 (白水社, 3,689 円)、「新訂韓日辞典」(三修社, 5,600 円)、「朝鮮語辞典」(小学館, 7,770 円) の内いずれか一冊辞書を用意してください。 | | |
| 第 11 課 今日は何曜日ですか | 4. 成績評価の方法<Grading> | | |
| 第 12 課 「hai 形」 | 出席率、授業参加姿勢、定期試験、提出物により総合的に判断する。 | | |
| 第 13 課 「hai 形」の用法 | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| 第 14 課 固有数詞 | 朝鮮語 および朝鮮語 A は 4 単位分割不可能で、成績も 2 クラス分まとめて 1 本で出されます。 | | |
| 第 15 課 数冠形詞 | | | |

| | | | |
|---|---|---------------|----|
| 科目名<Subject> | 朝鮮語 (火・木) | <Korean > | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 宣 憲洋・小鹿照世<Hun-Yang Sun/Teruyo Koshka> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | |
| (木曜日) 小鹿教員分 | 第 13 課 一度遊びに来てください・・・相手の意志を聞いたり、誘ってみましょう。 | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| 基本文字 (ハングル) の成り立ちを理解し、正しい発音ができる。基本文法、文型を学び簡単な日常会話の習得を目指します。パートナー練習では基礎的な語彙や言い回しを使って会話を楽しくてください。楽しく学べるよう各課のテーマにあった教材を使って授業を進めます。語学は積み重ねが大切ですから一課ごと確実に習得していきましょう。 | 教科書; チャレンジ! 韓国語 (金順玉・阪堂千津子著 白水社) | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | 辞書については授業で紹介します。 | | |
| 第 1 課～第 4 課 基本文字の学習 | 4. 成績評価の方法<Grading> | | |
| 第 5 課 私は～です・・・自己紹介をしましょう | 出席率 (35 ~ 40%) 定期試験 (45 ~ 50%) 小テスト (10%) その他 (授業参加姿勢、提出物等) により総合的に判断します。 | | |
| 第 6 課 時間ありますか・・・相手の予定や持ち物の有無をたずねて見ましょう。 | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| 第 7 課 それは何ですか・・・興味を持ったことをたずねてみましょう。 | 新出の単語については予め自宅学習して授業に臨んでください。 | | |
| 第 8 課 今何時ですか・・・いろいろなものを数えてみる (時間、年齢など) | 単位については 4 単位分割不可能で、成績も火、木クラス分まとめて 1 本で出されます。 | | |
| 第 9 課 初デートの約束・・・電話での会話、電話番号、月日、時間 | | | |
| 第 10 課 何が好きですか・・・自分のすること、したいことを表現して見ましょう。 | | | |
| 第 11 課 週末に何をしましたか・・・自分のしたことを表現して見ましょう。 | | | |
| 第 12 課 スープが冷たくておいしいです・・・自分の気持ちや周りの様子を表現する。 | | | |

| | | | |
|---|--|---|---------------|
| 科目名<Subject> | 朝鮮語 (9年度カリ用) | <Korean > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 宣 憲洋 | <Hun-Yang Sun> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | ハングル(文字)の創製原理を理解し、字母の名称を知り、正しく発音できる。簡単なあいさつができ、買い物や飲食店での注文ができる。ごく短い文を読み、書き、聞き取ることができる。口頭練習に重点を置きます。発音練習を兼ねて韓国のポップソングなど一緒に歌いましょう。 | 第16課 冠形詞 第17課 冠形詞形語尾(現在) 第18課 冠形詞形語尾(過去) 第19課 冠形詞形語尾(未来) 第20課 昨日何をしましたか 第21課 今日学校が終わったら何をするつもりですか 第22課 時間ができたら何をしたいですか 第23課 今度の休みに何をするつもりですか 第24課 将来何になりたいですか 第25課 宝くじで1億円当たったら、そのお金を何をしたいですか 第26課 言葉遊び(色彩形容詞と'?' '変則活用) 第27課 ことわざ(???) 第28課 ???(体) 第29課 間接話法第30課 ??(端午) | |
| 2.授業内容<Course contents> | 各課の内容は下記の通りですが、「朝鮮語1」では、このうち1~4と第1課~第19課までを学習します。 1.「ハングル」文字と発音(母音) 2.子音 3.名前をハングルで書いてみよう 4.「かな」とハングル対照表 第1課 これは何ですか 第2課 これは机ですか 第3課 こんにちは 第4課 教室に何がありますか 第5課 今どこで何をしていますか 第6課 人には顔があります 第7課 語幹・語尾・原形 第8課 今日は何日ですか 第9課 漢数詞 第10課 月日 第11課 今日は何曜日ですか 第12課 「hai形」 第13課 「hai形」の用法 第14課 固有数詞 第15課 数冠形詞 | 3.使用教材<Teaching materials> 教科書:『韓国語教科書1』, 青山社, 2004年。 「コスモス朝和辞典」第2版(白水社, 3,689円)、「新訂韓日辞典」(三修社, 5,600円)、「朝鮮語辞典」(小学館, 7,770円)の内いずれか一冊辞書を用意してください。 4.成績評価の方法<Grading> 出席50%、試験の成績50% 5.履修上の注意事項<Remarks> 旧カリの学生のためのクラス。 | |

| | | | |
|---|--|---|---------------|
| 科目名<Subject> | 朝鮮語 A(火・木) | <Korean > | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 宣 憲洋・小鹿照世<Hun-Yang Sun/Teruyo Koshka> | | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| (火曜日) 宣教員分 | | 第18課 冠形詞形語尾(過去) 第19課 冠形詞形語尾(未来) 第20課 昨日何をしましたか 第21課 今日学校が終わったら何をするつもりですか 第22課 時間ができたら何をしたいですか 第23課 今度の休みに何をするつもりですか 第24課 将来何になりたいですか 第25課 宝くじで1億円当たったら、そのお金を何をしたいですか 第26課 言葉遊び(色彩形容詞と'?' '変則活用) 第27課 ことわざ(???) 第28課 ???(体) 第29課 間接話法 第30課 ??(端午) | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | 自分の意思や希望を韓国語で表現できる。 韓国語の論文が読める。 | | |
| 2.授業内容<Course contents> | 各課の内容は下記の通りですが、「朝鮮語 A」では、このうち第28課~第30課までを学習し、第30課終了後は、韓国の自然と風土、産業などに関するプリント教材を学習します。 1.「ハングル」文字と発音(母音) 2.子音 3.名前をハングルで書いてみよう 4.「かな」とハングル対照表 第1課 これは何ですか 第2課 これは机ですか 第3課 こんにちは 第4課 教室に何がありますか 第5課 今どこで何をしていますか 第6課 人には顔があります 第7課 語幹・語尾・原形 第8課 今日は何日ですか 第9課 漢数詞 第10課 月日 第11課 今日は何曜日ですか 第12課 「hai形」 第13課 「hai形」の用法 第14課 固有数詞 第15課 数冠形詞 第16課 冠形詞 第17課 冠形詞形語尾(現在) | 3.使用教材<Teaching materials> 教科書:『韓国語教科書1』, 青山社, 2004年。 「コスモス朝和辞典」第2版(白水社, 3,689円)、「新訂韓日辞典」(三修社, 5,600円)、「朝鮮語辞典」(小学館, 7,770円)の内いずれか一冊辞書を用意してください。 4.成績評価の方法<Grading> 出席率、授業参加姿勢、定期試験、提出物により総合的に判断する。 5.履修上の注意事項<Remarks> 朝鮮語 および朝鮮語 Aは4単位分割不可能で、成績も2クラス分まとめて1本で出されます。 | |

| | | | |
|---|--|---------------|----|
| 科目名<Subject> | 朝鮮語 A (火・木) | <Korean > | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 宣 憲洋・小鹿照世<Hun-Yang Sun/Teruyo Koshika> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | (木曜日)小鹿教員分 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>朝鮮語での学習を基に話す、書く、聴く、読む、の四技能をさらに高めます。この言語の難点である発音については、課ごとに説明、練習を繰り返します。ドリルで各課の類型を使って文を作る練習をし、その課の最後には聞き取り練習をします。朝鮮語 同様 ペアワークやゲームなどを通して表現力アップを目指します。</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | <p>第1課 サッカーがお好きですか...自分の意志、計画を表現する。 第2課 明日は何をなさいますか...尊敬形、願望、希望を表現する。勧誘表現。 第3課 郵便局へ行く...連体形を学び表現の幅を広げる。 第4課 喫茶店で...相手の意向を確認する。仮定の意を表現する。 第5課 韓国料理店で...料理を注文する。感じたことを表現する。 第6課 道を尋ねる...方法や手段の説明をする。事柄を比較する。 第7課 地下鉄駅で...ソウルの地下鉄に乗る、疑似体験。 第8課 タクシーに乗る...意図、予定を表現する。</p> | | |
| 3.使用教材<Teaching materials> | <p>教科書；韓国語中級 李 昌圭著 白帝社 2800円+税</p> | | |
| 4.成績評価の方法<Grading> | <p>出席率(35～40%)定期試験(45～50%)小テスト(10%)その他(授業参加姿勢、提出物等)により総合的に判断します。</p> | | |
| 5.履修上の注意事項<Remarks> | <p>新出の単語については予め自宅学習して授業に臨んでください。 4 単位分割不可能で、成績も火、木クラス分まとめて1本で出されます。</p> | | |

| | | | |
|---|--|------------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 朝鮮語 B | <Korean > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 小鹿 照世 | <Teruyo Koshika> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>朝鮮語での学習を基に話す、書く、聴く、読む、の四技能をさらに高めます。この言語の難点である発音については、課ごとに説明、練習を繰り返します。ドリルで各課の類型を使って文を作る練習をし、その課の最後には聞き取り練習をします。朝鮮語 同様 ペアワークやゲームなどを通して表現力アップを目指します。</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | <p>第1課 サッカーがお好きですか...自分の意志、計画を表現する。 第2課 明日は何をなさいますか...尊敬形、願望、希望を表現する。勧誘表現。 第3課 郵便局へ行く...連体形を学び表現の幅を広げる。 第4課 喫茶店で...相手の意向を確認する。仮定の意を表現する。 第5課 韓国料理店で...料理を注文する。感じたことを表現する。 第6課 道を尋ねる...方法や手段の説明をする。事柄を比較する。 第7課 地下鉄駅で...ソウルの地下鉄に乗る、疑似体験。 第8課 タクシーに乗る...意図、予定を表現する。</p> | | |
| 3.使用教材<Teaching materials> | <p>教科書；韓国語中級 李 昌圭著 白帝社 2800円+税</p> | | |
| 4.成績評価の方法<Grading> | <p>出席率(35～40%)定期試験(45～50%)小テスト(10%)その他(授業参加姿勢、提出物等)により総合的に判断します。</p> | | |
| 5.履修上の注意事項<Remarks> | <p>新出の単語については予め自宅学習して授業に臨んでください。</p> | | |

| | | | | |
|---|-----------------------------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 上級日本語 | <Advanced Japanese > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 高野 寿子 | <Hisako Takano> | 研究室番号<Office> | 434 |
| Office Hours | 月・水 12:30-13:30 or by appointment | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>このクラスは、学部一年に入学したばかりの留学生を対象とします。新しい学習環境で直面する様々な問題を解決し、自立した学習者として機能する為の日本語運用能力を身につけることが、このクラスの目的です。</p> | | <p>「アカデミック・ジャパニーズ」、The Japan Times</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>授業では、履修登録・オリエンテーション・奨学金の申請などに始まり、講義を聴く、ノートを取る、教科書や関連資料を読む、クラスで討論や口頭発表をする、レポートを書くなどに至るまで、毎日の学生生活で遭遇すると思われる多くの状況を擬似体験します。そうすることで、大学生として必要な日本語運用能力と語彙を養う努力をします。</p> | | <p>どのくらい準備して毎回クラスに出席しているかを主に評価の基準とします。試験もしますし、課題も出します。成績は、それら全てを総合して出します。</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>これは、あくまで語学運用能力を訓練するクラスですから、授業に出席することが大前提です。</p> | | |

| | | | | |
|---|-------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 上級日本語 | <Advanced Japanese > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 高野 寿子 | <Hisako Takano> | 研究室番号<Office> | 434 |
| Office Hours | TBA | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>このクラスは、上級日本語 I を履修した、或いはそれと同等の語学力を持つ留学生を対象とします。話し言葉から始めて、書き言葉を目指します。目標は、初歩的なタームペーパーが書けるようになることです。</p> | | <p>「トピックによる日本語総合演習」上級、スリーエーネットワーク</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>授業では、話したり人の話を聞いたりすることから始めて、そこで集めた情報を読むことで得た知識と合わせて発表したり、レポートを書いたりします。実際にすることは以下の通りです。さまざまなトピックでインタビュー調査などを準備し、それを実施します。その結果を活字から得られる情報と照らし合わせて検証したり、自国のそれと比較したりして分析し、レポートを書きます。そのレポートをニュースレターにして発行します。</p> | | <p>小テストと作文・発表を 60 %、残りの 40 %は、学期末プロジェクト(ニュースレターの作成)の各段階で出してもうレポートと最後に書く記事、ニュースレター作成への貢献度、その出来具合などを総合的に評価します。</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>これは、語学力の向上を目的にしたクラスですが、個人プロジェクトをベースに授業が進みますので、個人の計画性、実行力、積極性というような知的態度が前提とされます。</p> | | |

| | | | | |
|--|---------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 上級日本語 | <Advanced Japanese > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 高野 寿子 | <Hisako Takano> | 研究室番号<Office> | 434 |
| Office Hours | 水 13:00-14:00 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>このクラスは、一年次で上級日本語 I/II を履修した、或いはそれと同等の語学力を持つ留学生を対象とします。新聞・雑誌・インターネット・ニュースなどの記事を多読と速読で収集し、整理分析し、それを簡潔で平易な日本語で口頭発表する訓練をします。</p> | | <p>新聞、雑誌、テレビのニュース番組、インターネットを使います。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>前期は、情報収集と、その整理をします。新聞雑誌を読み、概要を書き、口頭で報告します。また、テレビのニュースを聞き、インターネットで母国語の新聞を読み、日本語のサマリーを書き、口頭で報告します。問題点を整理し、データベースを作ります。後期は、個人個人でテーマを決めてリサーチし、パワーポイントなどを使ってそのリサーチの成果を発表します。</p> | | <p>語彙の小テスト 30 %、発表を 40 %、中間・期末テスト 30 %</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>これは、語学力の向上を目的にしたクラスですが、個人プロジェクトをベースに授業が進みますので、個人の計画性、実行力、積極性というような知的態度が前提とされます。</p> | | |

| | | | | |
|--|-------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 日本事情 | <Japanese Affairs > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 高野 寿子 | <Hisako Takano> | 研究室番号<Office> | 434 |
| Office Hours | TBA | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 2 授業内容<Course contents> | | |
| <p>このクラスは、短期留学プログラムの交換留学生と学部留学生が、学生生活の基盤となる地域社会について学ぶ授業です。特に日々の学生生活の場面で遭遇する「言葉と文化」について考えます。短期留学プログラムの新生には、これは日本での留学生生活をより円滑にスタートさせるためのオリエンテーションともなりますし、学部留学生にとっては、様々な文化的背景を持つ留学生と交流し、異文化間コミュニケーションを实践するよい機会ともなります。</p> <p>Course Objectives:</p> <p>This course is designed for both the exchange students through YOUC program and the regular international students to learn about the local society that provides the basis of their student life. In particular, they do so in the aspects of language and Culture which they are to encounter in every situation of their daily student life. This course will serve as an orientation for those new exchange students to make a smooth transition to life in a foreign social environment. For those regular international students, this course will provide an opportunity to share their knowledge and experience with students from diverse cultural backgrounds.</p> | | <p>このクラスでは日本語能力レベルの異なる学生が一緒に学ぶこととなりますので、授業は基本的に英語と日本語を併用して進めます。「生活の中の言葉」をテーマに、グループで幾つかのプロジェクトを立案実行し、クラスでレポートするというのが主な内容です。</p> <p>Course contents:</p> <p>Since this course is to be taken by students with different language proficiency levels, the class will be conducted in both English and Japanese. Students will engage in various group projects focusing on language and Culture. They are to plan and conduct a research project, and give an oral report in the class.</p> | | |
| | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| | | <p>出席率(40%)、 Semester・プロジェクト(40%)、単語クイズ(10%) 課外活動(10%)</p> <p>Grading:</p> <p>The course grade will be determined by attendance (40%), Semester project (40%), Voc-Quiz (10%) and extra-curriculum activities (10%).</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | |
|---|--|---------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 日本事情 <Japanese Affairs > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | マーク・ジボー | <Mark G beau> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>What is Japan? Who are the Japanese? What does it mean to be Japanese?</p> <p>In this class we will examine novels, essays and films that tried to answer the above questions or were used by others to answer the above questions. However, rather than attempting to discover the "true" definition of Japan and "Japaneseness," we will instead examine the strategies and techniques those texts employ to create specific representations of Japanese identity and examine the relationship between those representations and their historical and political contexts. Finally we will analyze contemporary representations of Japan and Japanese identity in the media and consider how they impact our understanding of Japan. The bulk of classtime will be allocated to small group discussion of questions related to the day's reading. Careful preparation and active, thoughtful participation are essential for success in this class.</p> | <p>(Tentative)</p> <p>Yamamoto Tsunetomo, <i>Hagakure</i> (selections); Inazo Nitobe, <i>Bushido</i> (selections); Mishima Yukio, <i>My Hagakure</i> (selections), <i>Patriotism</i>, Jim Jarmusch, <i>Ghost Dog</i>, Kakuzo Okakura, <i>The Book of Tea</i>; Tanizaki Jun'ichiro, <i>In Praise of Shadows</i> (selections); Kawabata Yasunari, <i>Snow Country</i>, <i>Japan, the Beautiful and Myself</i>; Oe Kenzaburo, <i>Japan, the Ambiguous</i>, and Myself; Arthur Golden, <i>Memoirs of a Geisha</i>; William Gibson, <i>Idoru</i>; Murakami Haruki, <i>Hara Borealis</i> and <i>the End of the World</i>; Sofia Coppola, <i>Lost in Translation</i>.</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | 4. 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>The class will be divided into 4 main themes:</p> <p>*Questions of Identity *Martial Japan *Aesthetic Japan *Japan in contemporary media</p> | <p>Attendance and preparation (quizzes):35%</p> <p>Participation (discussion and summary essays):35%</p> <p>Final Project (group presentations):30%</p> <p>It is important to come to every class and to arrive on time. If you arrive after the quiz is complete you will be marked absent.</p> | | |
| | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | <p>This class will be conducted entirely in English. Students unable to participate in high-level English language discussion should enroll in Comparative Studies of Japanese Culture.</p> <p>この授業はすべて英語で運営されます。高度英語のディスカッションに参加できない学生は「比較日本文化論」を履修すべきである。</p> | | |

經 濟 學 科
學 科 科 目

| | | | | |
|---|--|------------------|---|-----|
| 科目名<Subject> | マクロ経済学 | <Macroeconomics> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | / | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 加藤 睦洋 | <KATO Mutsuhiro> | 研究室番号<Office> | 460 |
| Office Hours | 授業直後。もしこの時間帯が不都合なら、面談の上別途時間を決める。 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>経済学の研究に使われる分析方法には、ミクロ経済学的方法とマクロ経済学的方法の2方法がある。前者は、経済の一時的均衡を研究するための方法であるのに対し、後者は、景気変動と経済成長を研究するための方法である。本講義では、初中級レベルのマクロ経済学の理論を説明する。講義方法は、黒板を使った伝統的スタイルによる。</p> | | <p>3.使用教材<Teaching materials> 井堀利宏著『入門マクロ経済学』新世社、¥2,780 + 税</p> | |
| 2.授業内容<Course contents> | <p>教科書の</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学とは 2. 国民経済計算とGDP 3. 乗数モデル 4. IS-LM分析 5. 財政金融政策 6. 失業とインフレーション 7. 省略 8. 経済成長モデル 9. 経済成長と貯蓄、投資 10 以下省略 <p>を説明する。(「省略」と書いた章は講義しない。)</p> | | <p>4.成績評価の方法<Grading> 中間試験及び定期試験の合計得点による。</p> <p>5.履修上の注意事項<Remarks> (i) 『ミクロ経済学』を履修すること。 (ii) 現実経済・時局経済・各国経済の話はしない。経済学が、現実経済を理解するのにどう役に立つのか、といった話もしない。(経済学が理解できれば、自ずと経済の見え方は違ってくるであろうし、理解することに失敗した者には、何を説明しても無駄である。) (iii) 講義内容は、抽象的・数学的な経済理論の説明に終始する。それ故、このような種類の話には拒絶反応を起こす方々は、よくよく思索した上で履修届を提出すること。</p> | |

| | | | | |
|---|--|------------------|--|-----|
| 科目名<Subject> | ミクロ経済学 | <Microeconomics> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | / | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 山本 賢司 | <Kenji Yamamoto> | 研究室番号<Office> | 424 |
| Office Hours | 開講時にお知らせ致します。 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>この科目では、市場機構による資源配分と所得配分に焦点を合わせてミクロ経済学の概要を説明します。</p> <p>どの社会においても経済的な資源は稀少です。その資源が、経済活動の中でいかに配分されるか。また、資源の受け取る対価(要素所得)はどのように分配されるか。ミクロ経済学は、これらの資源配分と所得分配の問題にたいする解答を、主に市場機構の働きによって与えます。この科目では、市場機構の働きを中心に、不完全競争など市場の機能を阻害する要因についても検討します。</p> <p>方法：担当教員による講義</p> | | <p>第13週 市場の失敗 第14週 競争的均衡分析の限界 第15週 ゲーム理論入門</p> | |
| 2.授業内容<Course contents> | <ol style="list-style-type: none"> 第1週 経済問題の事例 第2週 単純な部分均衡分析 第3週 消費者行動の理論 I 第4週 消費者行動の理論 II 第5週 企業行動の理論 I 第6週 企業行動の理論 II 第7週 生産物市場での価格の決定 I 第8週 生産物市場での価格の決定 II 第9週 生産要素市場での価格の決定 第10週 一般均衡分析 I 第11週 一般均衡分析 II 第12週 市場均衡と経済的厚生 | | <p>3.使用教材<Teaching materials> 次の教科書と共に配布資料を使います。 西村和雄著『ミクロ経済学入門 第2版』(岩波書店: 1995)</p> <p>4.成績評価の方法<Grading> 2回の試験(各100点)と5回のクイズ(各10点)の合計点(250点)で評価します。</p> <p>5.履修上の注意事項<Remarks> (1) 「経済学入門I, II」と「数学I」を既に履修済みであること。 (2) 「マクロ経済学」を併せて履修することが望ましい。 (3) 履修者数の上限を凡そ教室の収容人数とします。これを上回る履修希望者が現れた場合には、履修制限を行うことがあります。履修制限は平成13年度以降入学者に限り適用され、この科目では経済学科所属学生を優先します。</p> | |

| | | | | |
|--|---------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 統計学 | <Statistics> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | / | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 遠藤 薫 | <Kaoru Endo> | 研究室番号<Office> | 425 |
| Office Hours | 月 16:00-17:00 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>データは特定の確率分布にしたがってランダムに発生するとして、この確率分布の期待値と分散について推定あるいは検定を行なう。得られた一部のデータから全体についての推測を行なうことになる。</p> | | <p>長尾昭哉・遠藤薫『やさしい統計学の本』同文館出版、1997。 (第1章から第6章まで)</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>(1) 標本 (2) ランダム・サンプリング (3) 1変量母集団と標本 (4) 古典的仮説検定 (5) ベイズ統計学 (6) 確率分布</p> | | <p>定期試験による。</p> | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | | |
|---|------|-----------------------------------|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 経済史 | <Economic History> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | / | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 今西 一 | <Hajime Imanishi> | 研究室番号<Office> | 533 |
| Office Hours | | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>歴史とは過去と現代との対話である。とは20世紀最大の歴史家 E.H.カーの言葉である。歴史的に生きるとは何かを一緒に考えていきたい。</p> | | <p>今西一著『国民国家とマイノリティ』(日本経済評論社)</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>1. <外国人>とは何か？ 2. フランス革命と明治維新 3. <同化>と<異化> 4. 「部落史」の問題点 5. 「アイヌ史」と沖縄史 他</p> | | <p>テストを1回行います。</p> | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | テキストを持って授業に参加して下さい。 | | |

| | | | | |
|---|------------------|-------------------------------------|---------------|-------|
| 科目名<Subject> | 経済分析論 | <Economic Analysis> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 花田 功一 | <Koichi Hanada> | 研究室番号<Office> | 4 2 6 |
| Office Hours | 木曜 13:30 ~ 14:30 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| マルクス経済学の立場から資本主義経済の基礎理論を展開し、それに基づいて戦後の日本経済を分析していきます。 | | 私のノートにしたがって話を進めていきます。参考文献はその都度示します。 | | |
| 第1部では、資本主義経済はどのような構造を持ち、そこにはどのような矛盾があるのかということ、及び、資本主義経済は結局どこに行き着くのかということを理論的に明らかにします。 | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| 第2部では、第1部での資本主義経済の基礎理論に基づいて戦後の日本経済を分析し、90年代からの日本経済の深刻な停滞の根本原因を明らかにします。 | | 中間、期末各1回の試験の結果や出席の状況によって評価します。 | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| 第1部 資本主義経済の理論 | | | | |
| 第1編 資本主義経済の基礎構造 | | | | |
| 第2編 資本主義経済の発展と停滞 | | | | |
| 第2部 戦後日本経済分析 | | | | |
| 第1編 高度成長の展開(1955 ~ 70年) | | | | |
| 第2編 高度成長の終焉とスタグフレ・シヨンの発生(1971 ~ 74年) | | | | |
| 第3編 エレクトロニクス革命による経済の拡大と拡大力の大幅な低下(1975 ~ 84年) | | | | |
| 第4編 エレクトロニクス革命による経済の拡大の終焉とバブルの発生(1985 ~ 93年) | | | | |
| 第5編 経済の拡大力の一層の低下と停滞の持続(1994 ~ 2000年) | | | | |

| | | | | |
|--|----------------|--|---------------|-------|
| 科目名<Subject> | 数理統計学 | <Mathematical Statistics> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 西山 茂 | <Shigeru Nishiyama> | 研究室番号<Office> | 4 1 8 |
| Office Hours | 木12:00 ~ 14:30 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 標本平均の分布 | | |
| 「統計学」入門編でとりあげる統計的手法の基礎となる数理を明らかにする。内容としては、平均値と分散・標準偏差など「統計学」入門編の復習。確率論の基礎、無作為標本の意味、統計量の確率分布である標本分布の概念、大数の法則と正規分布、区間推定と仮説検定あたりまでをカバーする。この授業でとりあげる内容は、社会で広く活用されているデータ解析、計量経済分析などの理論的な基礎になっている。また統計数値表を使えるようになることも統計学を学習する一つの目標である。 | | 標本分散の分布 | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 第4章 統計的推測 | | |
| 第1章 データの分布 | | 正規分布から派生する分布 | | |
| 統計的な考え方 | | 統計的推測 | | |
| データの要約 | | 母数の推定 平均の推定と分散の推定 | | |
| データの特徴値 | | 統計的仮説検定 平均の推定、検出力と判断ミス、二集団の比較 | | |
| 二変量の関係 | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| 多変量の関係 | | 西山 茂『基礎の徹底』エコノミスト社 | | |
| 第2章 確率分布 | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| 確率分布と確率変数 | | 二回の定期試験(80%)及び平常点(20%)を総合評価する。平常点は小テスト、授業での練習問題に対する解答、宿題の提出から構成される。 | | |
| 離散型の確率変数から連続型確率変数へ | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| 期待値と分布の特徴 | | 統計学は講義を一度聴いただけでは理解しにくい箇所が多い。教科書の重要な要点を復習し、練習問題に取り組むことが大事である。ホームページで公開している e-Learning にアクセスし、補講を視聴すれば、大事なポイント、例題や練習問題の説明を聞くことができる。統計 e-Learning コーナーの URL は | | |
| 主な確率分布 | | http://nisiyama2.ih.otaru-uc.ac.jp/elhome/Main.html | | |
| 確率変数の関数の分布 | | である。 | | |
| 第3章 標本分布 | | | | |
| 統計量と標本分布 | | | | |

| | | | | |
|--|----------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 経済統計学 | <Economic Statistics> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | . | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 寺坂 崇宏 | <Takahiro Terasaka> | 研究室番号<Office> | 430 |
| Office Hours | 火曜日12:00~12:30 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> この授業は、データを利用した経済分析の方法を習得することを目的としています。さらに多くの実証分析例を見ながら、分析に使用される経済データについて学習したいと考えています。授業は火曜日の1,2時限に開講されますが、1時限目を講義形式で、2時限目を情報処理センターでの実習形式で進める予定です。 | | 3.使用教材<Teaching materials> 白砂堤津耶(1998)「[例題で学ぶ]初歩からの計量経済学」日本評論社 受講が確定しましたら必ず購入してください(履修上の注意事項を参照のこと)。 | | |
| 2.授業内容<Course contents> 統計学の基礎知識、データの整理(復習) 平均、変化率、分散と標準偏差、相関係数: 家計調査、賃金・雇用関連データ 統計学の基礎知識、指数の理論 ラスパイレス指数とパーシェ指数:生産・出荷・在庫関連指数、物価指数 回帰分析の基礎 最小2乗法、古典的回帰モデルの仮定:消費関数の推計 重回帰分析、生産関数の推計 決定係数、重相関係数、偏相関係数:生産関数の推計 回帰モデルの仮説検定 t検定、F検定 ダミー変数を用いた分析 一時ダミー、季節ダミー、質的データのダミー処理、係数ダミー 系列相関 ダービンワトソン比、コ克蘭・オーカット法 | | 4.成績評価の方法<Grading> 中間試験(配点100点) 期末試験(配点100点)の平均点で評価します。 | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> ・統計学、計量経済学いずれかの単位を取得していることを前提にして授業を進めます。 ・情報処理センターでの実習形式の授業を予定していますので、授業の定員を88名とします。 受講を希望する学生は初回の講義に必ず出席してください。正当な理由で出席できないものは、初回の講義が始まるまでに直接、あるいはメールなどで教官へ連絡して下さい。 定員を超えた場合は履修制限を実施します。 | | |

| | | | | |
|--|------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 経済学史 | <History of Economic Thoughts> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | . | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 江頭 進 | <Susumu Egashira> | 研究室番号<Office> | 410 |
| Office Hours | | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 本講義では、現代に至るまでの経済学の発達史の歴史を辿り、経済学者たちがどのような現象を目にして、それに対する説明を与えていったのかということを考える。本年度はできるだけ、現代に近い経済学者を採り上げ経済学と現代の意味を考察することを目的とする。 | | 3.使用教材<Teaching materials> 高哲男編『自由と秩序の経済思想』(名古屋大学出版会) | | |
| 2.授業内容<Course contents> 1.オリエンテーション 2.古典派の経済学 3.アダム・スミスと見えざる神の手 4.カール・マルクスの理論とその後 5.ソステイン・ヴェブレンと社会の進化 6.ジョン・ケインズと福祉国家 7.フリードリッヒ・ハイエクと自由な社会 8.ミルトン・フリードマンのケインズ批判 9.進化経済学と複雑な社会 | | 4.成績評価の方法<Grading> 中間・期末テストの点数による。 | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> ・ミクロ・マクロ経済学の導入を済ませていることが望ましい。 ・世界史の知識は無くても困らないが、あった方が理解に役立つ。 | | |

| | | | |
|---|--|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 外国経済史 <Economic History of Foreign Countries > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 平井 進 | <Susumu Hirai> | 研究室番号<Office> 338 |
| Office Hours | 水曜日の昼休み | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| <p>2年次の「経済史」の履修による基本知識の習得を前提とした、<u>西洋経済史</u>の講義。自由主義・民主主義・近代資本主義といった近代社会の構成要素は、19世紀以降社会的・文化的な摩擦を伴いつつも世界各地に広がり、規範として我々に大きな影響を与えてきました。こうした諸要素の歴史的母胎となった西欧社会の展開を地域の観点からとらえ、基層から考察します。</p> <p>具体的には、村落・都市のあり方（地域秩序）を考察上の出発点にして、伝統的な経済組織・権力編成・社会生活とそれらの近代的な転換のあり方を考えていきます。</p> | | <p>1)高校の時に用いたもので結構ですが、歴史地図・地図帳を常に参照して下さい。</p> <p>2)参考文献：岡田泰男編『西洋経済史』（八千代出版）、楠井敏郎編『エレメンタール西洋経済史』（英創社）；石坂昭雄編『西洋経済史』（有斐閣）；藤田幸一郎『狂気の近代』（花伝社）；レーゼナー『農民のヨーロッパ』（平凡社）；中野忠『前工業化ヨーロッパの都市と農村』（成文堂）；坂井洲二『年貢を納めていた人々』（法政大学出版会）、など。</p> | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| <p>1.近代とその社会文化的な前提</p> <p>1.1. 歴史的個性：近代の西欧の性格とグローバル化</p> <p>1.2. 歴史的な前提：家族・共同体・支配の西欧的類型</p> <p>2. 旧ヨーロッパ社会</p> <p>2.1. 古代から中世へ</p> <p>2.2. 封建社会：村落と農業；領土制；都市と商工業</p> <p>2.3. プロト工業化と地域社会</p> <p>2.3. 身分制国家・社会的な社会編成・重商主義的な経済政策</p> <p>3. 近代市民社会</p> <p>3.1. 革命と改革：旧ヨーロッパ社会の解体と経済的自由主義</p> <p>3.2. 産業革命：西欧諸国の工業化</p> <p>3.3. 市民社会：「市民」と労働者；社会国家への道</p> <p>概ねこのようになりますが、変更もあり得ます。西欧の地域経済史となるため、西欧と非西欧との関係史、経営史やアメリカ大陸・東欧の歴史は扱いません。領域的に農業史、時期的に前工業化期の比重がやや大きくなります。</p> | | <p>主に学期末試験（持ち込み不可・問題の事前発表なし・論述形式）、学年を問わず、厳正に成績を評価し、「陳情」・「泣き落とし」は受け付けませんので、きちんとした試験準備が必要です。書評論文（指定文献の1つを選択し、4000-6000字でその内容を説明・批評する）の課題も出し、その評点を加えます。</p> <p>したがって、「単位稼ぎ」を目的とする人ではなく、本当に知的で文化的関心があり、真面目に勉強する気がある人に向けています。授業選択の基準は、単位取得の容易さではなく、知的関心ではないでしょうか。</p> | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>1) 科目の性質上、日常的な感覚の延長では理解しにくい、過去の、しかも異文化の社会の実態をとり扱うことを履修者は予め理解して下さい。そうした意味で、西洋史に知的な関心があり、社会の文化的側面に興味がある人の履修が望まれます。</p> <p>2) そうした人なら他学科でも歓迎しますが、高校で「世界史」を学習し、本学入学後「経済史」を履修したことが本科目を履修する前提となります。「封建社会」・「工業化」・「市場経済」・「市民社会」などのイメージを素朴であれ、一応もっていることが望まれます。</p> <p>3) 関連科目である「外国経済史Ⅱ」と「経営史」をできるだけ履修すること。</p> | |

| | | | |
|--|--|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 外国経済史 <Economic History of Foreign Countries > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 松家 仁 | <Jin Matsuka> | 研究室番号<Office> 423 |
| Office Hours | 授業の直後の休み時間 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 17-18 第二次大戦 | |
| <p>この授業は、20世紀のポーランド・ドイツ関係史を取り扱う。そして民族対立の激化に、経済（とりわけ統制経済）ならびに大学・研究者（社会科学・人文科学）が果たした役割について考察する。</p> | | <p>ブロンベルクの血の日曜日事件 - 境界の人々の対応（民族リスト問題） - 大学とナチズム - ポーランド人強制労働 - 疎開とドイツの敗戦</p> | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 19-21 西ドイツの戦後 | |
| <p>1-2 導入 史料について（史料の種類・利用方法）史料評価について</p> <p>3-4 前提としての19世紀</p> <p>どのような人々がこの問題に関心を持ってきたのか、あるいはどういう人が関心を持たなかったのか？ 支配と被支配の構造 - 中産階級の成長 - 二つの境界領域のあり方 - 文化そして言語学・人類学との関連性 - 民族主義の相互的な過激化（プロイセンの植民政策とポーランド側の対抗分割）</p> <p>5-6 第一次大戦（占領政策一般）</p> <p>ドイツの占領政策 - 占領地の公用語・農民との意思疎通 - 衛生への関心</p> <p>7-8 第一次大戦（統制経済）</p> <p>統制経済全般の問題点 - 統制経済の民族ごとに与えた影響（戒律・習慣など） - 宣伝戦 - ドイツ領内でのポーランド人徴用労働者問題</p> <p>9-10 ポーランド独立における諸問題</p> <p>武力衝突・収容所 - ヴェルサイユ条約と少数民族保護条約 - 住民投票 - 国籍法・国籍認定と資産問題・農地改革 - 植民地問題 - 公用語問題</p> <p>11-13 戦間期（-1931）</p> <p>少数民族問題と国際連盟 - 少数民族学校 - 国勢調査（1921年と1931年） - 戦間期における経済の統制性と民族問題（消費者保護・職人資格・衛生・価格政策） - グダンスク自由市とグディニャ港建設（回廊問題） - ドイツ国内におけるポーランド人少数民族問題 - 社会科学・人文科学と民族主義</p> <p>14-16 戦間期（1931-）</p> <p>ドイツにおけるナチズムの台頭 - 和解の試み（通商関係改善・教科書対話） - ポーランド回廊問題 - 少数民族団体へのナチズムの浸透 - 少数民族宣言 - 農地改革と対立の激化 - 戦争へ</p> | | <p>被追放者・同郷団体 - 不徹底な非ナチ化 - 反ポーランド的歴史学 - 歴史教科書（1950年代後半の教科書対話） - 教会による対話の試み - ドイツ社会史とドイツ・ナショナリズム - 資産請求 - 1970年代の教科書対話とその問題点 - 東方政策</p> <p>22-24 ポーランドの戦後</p> <p>ドイツ人収容所 - 民族性審査とドイツ人資産問題 - ポーランド領に「復帰」した土地からのドイツ人追放 - 西方研究所 - 戦後ポーランド歴史学におけるドイツ（共産主義と民族主義・反省しないドイツ） - 残留ドイツ人問題</p> <p>25-26 冷戦終結後のポーランド・ドイツ関係</p> <p>強制労働者への「補償」問題 - ドイツ人によるポーランド残留資産請求（プロイセン信託とポーランド信託） - 追放記念館建設問題 - ポーランドから見たドイツにおける歴史教育・教科書対話の問題点 - 教育の限界（家庭での歴史）</p> <p>27-28 まとめ</p> <p>民族対立において知識人が果たした役割 - 日本の問題</p> | |
| | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| | | さしあたり参考書として、拙著『統制経済と食糧問題』（成文社2001年） | |
| | | 4.成績評価の方法<Grading> | |
| | | 履修状況全般をみて評価する。レポートを課すことも考えている。 | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | 特になし。疑問がある者はメールで問い合わせること。 | |

| | | | |
|---|--|---------------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 国際経済学 | <International Economics> | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 船津 秀樹 | <Hideki Funatsu> | 研究室番号<Office> 333 |
| Office Hours | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | この授業では、経済学の基本的な概念に基づいて、国際経済に関する理解を深めるとともに、経済理論を応用して、さまざまな国際経済問題を分析する能力を養うことを目的とします。授業は、講義形式で展開されますが、協力学習の形態をとる場合もあります。 | | |
| 2.授業内容<Course contents> | (1) 国際経済学の方法 (2) 絶対優位と比較優位 (3) 国際貿易のリカード・モデル (4) 国際貿易のヘクシャー・オリーン・モデル (5) 国際貿易の不完全競争モデル (6) 保護貿易主義の部分均衡分析 (7) 不確実性下の国際貿易 (8) 生産要素の国際間移動 (9) 不完全雇用下の貿易と投資 (10) 国際収支と所得支出分析 (11) 為替リスクと最適な資産選択 (12) 人的資本と経済成長 (13) 国際教育と経済協力 (14) 経済発展と不平等 (15) 地域経済統合と世界貿易 | | |
| 3.使用教材<Teaching materials> | 参考文献は、授業中に適宜紹介します。講義の要点および練習問題は、ホームページにて公開しています。 | | |
| 4.成績評価の方法<Grading> | 優(100~80): 国際経済について優れた理解力を有し、経済理論を応用して、さまざまな国際経済問題について優れた分析をすることができる。 良(79~70): 国際経済について良い理解力を有し、経済理論を応用して、さまざまな国際経済問題について良い分析をすることができる。 可(69~60): 国際経済について理解力を有し、経済理論を応用して、さまざまな国際経済分析について分析をすることができる。 不可(59~0): 国際経済について十分な理解力を持たず、経済理論を応用して、さまざまな国際経済問題について分析をすることができない。 | | |
| 5.履修上の注意事項<Remarks> | 授業中の小テスト(30%)および期末試験(70%)による総合評価 | | |
| 5.履修上の注意事項<Remarks> | この授業をより良く学ぶためには、ミクロ経済学とマクロ経済学を並行して履修することが大切です。 | | |

| | | | |
|---|--|--------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 公共経済学 | <Public Economics> | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 佐野 博之 | <Hiroyuki Sano> | 研究室番号<Office> 436 |
| Office Hours | 授業中またはウェブサイトでお知らせします。 | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | 本講義では、公共経済学のスタンダードな研究成果を中心に紹介し議論を展開したうえで、現実の経済に立ち戻って様々な問題を考察していく予定です。 これまでの研究成果に沿って、以下の3つの点を明らかにしていくことが目的です。第1に、市場の機能とその限界を知った上で、国や自治体による介入が必要な経済部門はどのようなものか。第2に、国や自治体が経済に介入するとき、どのような方策が採られるべきか。第3に、現実の政策はいかなるプロセスを経て決定され、その結果経済はどのような影響を受けるのか。現実の経済における諸問題に対し、経済学がどのような政策提言を行ってきたのかを学ぶことが最終目標です。 講義は主に、Power Pointとプロジェクターを用いて進められます。ウェブサイト(5に記載)から、Power Pointのスライドに対応した授業用のノートがダウンロードできます。毎回1題程度の練習問題に取り組み、出来た人に解答してもらいます。 | | |
| 2.授業内容<Course contents> | 序章 公共経済学は何を扱うのか 第1章 市場の機能と効率的資源配分 1.1 純粋交換経済 1.2 生産を伴う経済 1.3 市場経済と所得格差 第2章 外部性と市場の失敗 2.1 外部性と社会的費用 2.2 環境問題と外部不経済 2.3 外部性の内部化と環境政策 2.4 地球温暖化防止と京都メカニズム | | |
| 3.使用教材<Teaching materials> | テキストは特に指定しません。授業中に参考文献を紹介します。授業用のノートは、ウェブサイト(5に記載)からダウンロードできます。 | | |
| 4.成績評価の方法<Grading> | 基本的に、2回の定期試験(各100点満点)の平均点を評点とします。ただし、授業中の練習問題に解答したときは、1回につき2~4点を評点に加算します。加算する方法については、ウェブサイト(5に記載)で確認してください。レポートは課しません。 | | |
| 5.履修上の注意事項<Remarks> | 履修に際しては、事前に下記のウェブサイトをチェックしておいてください。 http://www.otaru-uc.ac.jp/~sano/lecture/ 授業用ノート等のダウンロードもここからできます。問い合わせは sano@res.otaru-uc.ac.jp まで。 | | |

| | | | | |
|--|--|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 労働経済学 | <Labor Economics> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 中村 健一 | <Ken-ichi Nakamura> | 研究室番号<Office> | 417 |
| Office Hours | kenakamu@res.otaru-uc.ac.jp あてに会見の予約を依頼してください。 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>人々が働いたり、勉強をしたり（これは働くことの準備にあたります）することは、社会の形成のための重要な要素です。</p> <p>このような我々にとって大切な、働くことに関わることがらを、経済学の視点で調べ、分析する分野が労働経済学です。</p> <p>この講義では、教科書に沿いながら労働経済学の内容を入門的に紹介します。</p> | | <p>以下の本を教科書として使用します。</p> <p>太田聡一・橘木俊詔 『労働経済学入門』 有斐閣 2004年</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>(1) 労働経済学への招待</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人が働くということ 2. 賃金と雇用の決まり方 3. データでみる日本の労働市場 <p>(2) 労働経済学の基本問題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ人によって賃金はちがうのか 2. 「学び」と「訓練」 3. 人が会社をやめるとき <p>(3) 誰もが安心して働ける社会をめざして</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高失業の経済学 2. 女性を働きやすくする 3. 若者を働きやすくする 4. 高齢者を働きやすくする | | <p>定期試験の成績によって評価します。</p> | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>講義に関するさまざまな連絡や資料の配付は、全て以下のウェブサイト（ホームページ）を用いて行ないます。適宜参照するようにして下さい。</p> <p>http://www010.upp.so-net.ne.jp/kenakamu/</p> <p>また各種お問い合わせは kenakamu@res.otaru-uc.ac.jp までお願いします。</p> | | |

| | | | | |
|---|-------------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 産業組織論 | <Industrial Organization> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | / | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 鶴沢 秀 | <Masaru Uzawa> | 研究室番号<Office> | 301 |
| Office Hours | 最初の授業開始時までには知らせる。 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 第13章 戦略的企業行動と参入問題 | | |
| <p>自動車、ピアノ、カラーテレビ、DVD、ウイスキー、ビール、板ガラス、カラーフィルムなど、日本の産業は少数の企業で構成されている。他方、数多くの建設会社、レストラン、コンビニがある。石油元売り会社は少数でもガソリンスタンドの数は5万を越える。コカコーラとペプシは米国では、ほぼ同じマーケットシェアなのに、日本では大きく違っている。北海道電力を含め、国内10電力会社は地域独占を認められている。宝くじの販売は他の銀行も引き受け可能なのに、みずほ銀行が実質的に独占している。何故だろう。</p> <p>このような産業組織の問題を応用ミクロ経済学を用いて分析する。現実の経済を分析する基礎的な考え方に習熟し、日本および世界の経済に十分な関心を寄せてもらいたい。授業は、プロジェクトを利用し、図解や数値例を多く用いる。</p> | | <p>第14章 規制とその意義</p> <p>第15章 報酬率規制下の企業行動</p> <p>第16章 プライス・キャップ規制の得失</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>第0章 イントロダクション</p> <p>第1章 市場構造 - 市場行動 - 市場成果パラダイム</p> <p>第2章 市場集中度を測る</p> <p>第3章 マーケット・シェアの例</p> <p>第4章 独占企業の行動</p> <p>第5章 厚生水準を測る</p> <p>第6章 寡占企業の理論1 クールノー・モデル</p> <p>第7章 寡占企業の理論2 シュタッケルベルク・モデル</p> <p>第8章 寡占企業の理論3 ゲーム理論とフォーク定理</p> <p>第9章 寡占企業の理論4 ベルトラン・モデル</p> <p>第10章 寡占企業の理論5 エッジワース・モデル</p> <p>第11章 製品差別化と競争</p> <p>第12章 参入阻止価格理論について</p> | | <p>拙著『産業組織論』（エコノミスト社、2000年） なお、http://www.res.otaru-uc.ac.jp/~uzawa/welcomej.html から関連資料が得られる。 あるいは、http://www.res.otaru-uc.ac.jp/~uzawa/cal-jp.html を参照されたい。</p> | | |
| | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| | | <p>経済学科の採点基準に従う。前期中間テスト、前期期末テスト（各100点満点）の両方を受験した者で、合計120点以上の場合を合格とする。なお、クラスルーム実験経済学の加算点を考慮する。</p> | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>ミクロ経済学の基礎的な知識を前提とする。ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学、国際貿易理論、公共経済学、財政学、経済統計学などの科目を履修済みまたは同時履修が望ましい。</p> | | |

| | | | | |
|---|----------------------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 財政学 | <Public Finance> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 前期 | |
| 担当教員名<Name> | 角野 浩 | <Ko Sumino> | 研究室番号<Office> | 335 |
| Office Hours | 毎回の講義前後および質問はメールで予約を受け付け随時 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 第3章 公債の経済分析 | | |
| <p>財政学は、政府の経済活動に関する分析を中心に行い、主に租税政策、公債発行、社会保障等々をテーマとする。本講義では、まずミクロの基礎理論について学習し、財政統計等の資料を通じて財政の仕組みや現状についての基礎知識を理解する。さらに基礎理論で養われた視点から、現在日本が行うべき政府の政策課題を見出してゆく。例えば、租税政策、国債管理政策、公共投資政策、社会保障政策等は早急に検討されるべき政策課題である。受講者は、講義を通じて、各自の視点からどのような政策課題に焦点をあてて財政改革の方向性を検討すべきかを見極め、社会的厚生を高めるためにどのような財政的手段を採るべきかを考察してゆくことを目標とする。</p> | | <p>公債発行の経済効果について（クラウディング・アウトの問題、リカードの等価定理、パローの中立性命題、世代重複モデルによる将来世代の負担の公平性）</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 第4章 社会保障の経済分析 | | |
| <p>本年度は以下の講義項目を予定している。</p> <p>第1章 概論および経済数学</p> <p>現在の日本の財政事情について（国債残高、公債依存度、社会保障、少子高齢化、財政の硬直化、租税の公平性、地方の三位一体改革）経済数学の復習（関数・微分の考え方、最適性の必要条件）</p> <p>第2章 租税の経済分析</p> <p>租税政策・税制改革について（租税原則、税の効率性と公平性のトレードオフ、租税帰着分析、最適課税論、租税改革論、外部経済に対するピグー的租税政策、租税優遇措置と脱税）</p> | | <p>社会保障の経済効果について（公的年金 v s 私的年金、積立方式 v s 賦課方式、年金制度改革、医療制度、逆選抜、モラル・ハザード）</p> | | |
| 3.使用教材<Teaching materials> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| テキスト | | テキスト | | |
| ・井堀利宏『財政学』第2版、現代経済学入門、岩波書店、2001年。 | | ・井堀利宏『財政学』第2版、現代経済学入門、岩波書店、2001年。 | | |
| ・岸本哲也・入谷純編著『財政学』基本経済学シリーズ第6巻、八千代出版、1996年。 | | ・岸本哲也・入谷純編著『財政学』基本経済学シリーズ第6巻、八千代出版、1996年。 | | |
| 参考書 | | 参考書 | | |
| ・井堀利宏『公共経済の理論』有斐閣、1996年。 | | ・井堀利宏『公共経済の理論』有斐閣、1996年。 | | |
| ・木下康司編『図説日本の財政』平成17年度版、東洋経済新報社、2005年。 | | ・木下康司編『図説日本の財政』平成17年度版、東洋経済新報社、2005年。 | | |
| 4.成績評価の方法<Grading> | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| 中間試験（50点）、期末試験（50点）の総合評価にて成績を評価する。 | | 中間試験（50点）、期末試験（50点）の総合評価にて成績を評価する。 | | |
| 5.履修上の注意事項<Remarks> | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| 「ミクロ経済学」の基礎知識を前提とした応用ミクロ経済学の講義である。ある程度の経済数学に慣れておく必要がある。 | | 「ミクロ経済学」の基礎知識を前提とした応用ミクロ経済学の講義である。ある程度の経済数学に慣れておく必要がある。 | | |

| | | | | |
|---|--------------------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 現代ファイナンス理論 | <Financial Economics> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 後期 | |
| 担当教員名<Name> | 和田 良介 | <Ryosuke Wada> | 研究室番号<Office> | 537 |
| Office Hours | 火 13:30 14:20の予定。および授業後。 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 先物 | | |
| <p>基本的な概念の理解、各種金融商品の取引方法と理論価格の理解。</p> | | オプション | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 第2回中間テスト(12月冬休み前) | | |
| <p>項目：次のような項目を説明します。金融の役割、利率と利息の計算方法、キャッシュフローの現在価値、債券、株式、外国為替の取引方法と理論価格、先物、オプション、スワップ等の金融派生商品の役割、取引方法、理論価格、分散投資の効果。</p> <p>数学：授業では「等比級数の和」、「分数の微分」、「確率変数の期待値、分散、共分散」等に関する公式を利用します。</p> <p>宿題：宿題を5回程度出す予定です。5人程度のグループを作り、協力して宿題に取り組むことを勧めます。1つのグループから1つ答を提出してもらいます。宿題の問題には、新聞の相場欄を用いるものや、利息の計算を行なうものがあります。このような計算問題は電卓で出来ない訳ではありませんが、ExcelあるいはMathematicaといったコンピューター・ソフトを使えると早く解けます。これらソフトの操作方法は説明します。</p> <p>日程：次のような順番で進めたいと思います。</p> <p>金融市場の機能 投資の基本概念 債券投資分析</p> <p>第1回中間テスト（11月初旬から中旬）</p> | | スワップ | | |
| | | ポートフォリオ理論 | | |
| | | 期末テスト(期末テスト期間中) | | |
| 3.使用教材<Teaching materials> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| 未定 | | 未定 | | |
| 4.成績評価の方法<Grading> | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| 2回の中間および期末テスト各30%、宿題10%。筆記試験の得点が配点合計の30パーセントに満たない場合は宿題の点数は評価の対象にしません。そのため総合的な成績評価を決める際に、同じ宿題グループの人でも算入される宿題の点数が同じとは限りません。積極的な質問などを評価します。授業参加点を宿題5点分として計算します。 | | 2回の中間および期末テスト各30%、宿題10%。筆記試験の得点が配点合計の30パーセントに満たない場合は宿題の点数は評価の対象にしません。そのため総合的な成績評価を決める際に、同じ宿題グループの人でも算入される宿題の点数が同じとは限りません。積極的な質問などを評価します。授業参加点を宿題5点分として計算します。 | | |
| 5.履修上の注意事項<Remarks> | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | | |
|--|--------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 国際貿易理論 | <International Trade Theory> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 柴山 千里 | <Chisato Shibayama> | 研究室番号<Office> | 437 |
| Office Hours | 木曜日2講目 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>国際貿易および貿易政策の理論の学習を目的とします。どのような国が何を貿易するのか、貿易によって誰が利益を得て誰が損失を被るのか、さまざまな貿易政策はどのような効果をもたらすのかなどを理論的に検討することによって、今日の貿易をめぐるさまざまな問題や意見に対して経済理論からの見解を学びます。</p> | | <p>教科書は使っていませんが、伊藤元重・大山道広『国際貿易』岩波書店を学習の参考にすると思います。</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界と日本の貿易 2. 比較優位と貿易利益 3. ヘクシャー＝オリーン・モデル 4. 国際貿易の最適生 5. 特殊要素モデル 6. 新しい貿易理論 7. 経済成長 8. 要素移動 9. 関税の効果 10. 数量制限 11. 補助金 12. 地域経済統合 13. ダンピングとアンチ・ダンピング 14. 貿易の政治経済分析 | | <p>中間・期末試験の成績。</p> | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>ミクロ経済学履修済みが望ましいです。</p> | | |

| | | | | |
|--|--------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 国際マクロ経済学 | <International Macroeconomics> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | / | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 廣瀬 健一 | <Ken-ichi Hirose> | 研究室番号<Office> | 431 |
| Office Hours | 開講時にアナウンスします | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | Part 世界経済と経済成長 | | |
| <p>この授業では、ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎知識を前提として、国際マクロ経済学の講義を行います。前半（Part ~ ）は標準的な学部レベルの国際マクロ経済学の知識を習得してもらい、後半（Part ~ ）はミクロ経済学的基礎付けにより構築された“新しいマクロ経済学”の手法を取り入れた分析を紹介することを目的とします。</p> | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 新古典派成長理論 2. 世界経済における成長率の収束に関する議論 3. 内生的成長理論 | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>Part イントロダクション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 為替レートの基礎概念 2. 国際収支の基礎概念 <p>Part 為替レートの決定理論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長期理論：購買力平価 2. 短期理論：金利平価 3. 外為市場介入の効果 <p>Part 伝統的な国際マクロ経済分析</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 為替レート変動による経常収支の調整 2. マンデル・フレミング・モデル 3. 為替レートのオーバー・シュートイング <p>(Part ミクロ経済学（静学分析）の復習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家計の効用最大化行動 2. 企業の利潤最大化行動 3. 一般均衡分析 <p>Part 最適化に基づいた国際マクロ経済分析</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 異時点間取引から見た経常収支 2. 動学的最適化に関する様々なトピックス 3. new open economy macroeconomics とは？ | | <p>特定の教科書は使用しません。参考文献は開講時にお知らせいたします。</p> | | |
| | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| | | <p>期末試験によって評価します。</p> | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>(1) この授業では、ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎知識（それを理解するために必要な数学知識も含む）を前提として講義を行います。したがって、経済学科科目の「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」はすでに履修済みであることを原則とします。</p> <p>(2) Part の内容はあくまでも復習ですので、初回講義時に配布予定のプリントを事前に各自で予習しておくことが要求されます。</p> <p>(3) 授業レベルは学習意欲の高い学生に合わせて設定しております。したがって、単位取得だけが目的の人は最初から履修登録をされない方が賢明でしょう。</p> <p>(4) なお、授業に関する情報は下記のホームページに掲載する予定です。</p> <p>http://www.otaru-uc.ac.jp/~hirose/</p> | | |

| | | | | |
|---|-----------------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 経済数学 | <Mathematics for Economics> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | / | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 兼岩 龍二 | <Ryuji Kaneiwa> | 研究室番号<Office> | 459 |
| Office Hours | 在室中は特に都合が悪くない限り、いつでも可 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 現代の経済学では、多くの部門で数学的表現をするように、なっている。 具体的には、産業連関論、一般均衡論、経済成長論、消費者行動の理論、生産の理論、景気変動論、独占論、不完全競争の理論、等々で枚挙にいとまがない。そこでは、「経済学を学ぶならまず数学を学べ」という標語が通用するほどである。 本講では経済学の多くの部門で使われる数学の基礎的な部分--微分積分学の概説と演習を行う。 | | 3.使用教材<Teaching materials> テキストは石村直之・武隈愼一著：経済数学：新生社で、他に配布プリントを使う。 | | |
| 2.授業内容<Course contents> 1.種々の関数の導関数 2.平均値の定理とテイラー展開 3.多変数関数と偏微分 4.多変数関数の極値 5.制約条件付き極値問題 6.経済学への応用 | | 4.成績評価の方法<Grading> 定期試験の結果を主に評価する。 | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | | |
|--|--------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 経済学と現代 | <Current Economic Issues> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 今西 一外 | <Hajime Imanishi and others > | 研究室番号<Office> | 533 |
| Office Hours | | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 現代は多様化し、国際化の時代を迎えている。どのように生きていくのか、という指針を、各教科の担当の教員の話の聞かなかで考えてもらいたい。 | | 3.使用教材<Teaching materials> 各教員がプリントなどを用意する。 | | |
| 2.授業内容<Course contents> 経済史、経済学史、経済理論、国際貿易、金融論など、各教科の教員が、それぞれの分野の入門、勉強の仕方などを話す。 | | 4.成績評価の方法<Grading> 各授業で出席をとり、簡単な感想を書いてもらう。その結果で決める。 | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> 熱意のない人は参加しなくてもよい。 | | |

| | | | | |
|--|-----------------------|--|---------------|-------|
| 科目名<Subject> | 経済学入門 | <Introduction to Economics > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 佐野 博之 | <Hiroyuki Sano> | 研究室番号<Office> | 4 3 6 |
| Office Hours | 授業中またはウェブサイトでお知らせします。 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>経済学を初めて学ぶ皆さんに、その内容を平易に紹介する講義です。経済学の基本的な発想や分析手法を、主に言葉と図を用いて説明していきます。</p> <p>経済学の基礎理論は、ミクロ経済学とマクロ経済学によって構成されています。この経済学入門Iでは、ミクロ経済学の紹介を行ない、後期の経済学入門IIではマクロ経済学の紹介を行ないません。</p> <p>ミクロ経済学とマクロ経済学を知って、はじめて経済学の全体像が理解できます。この経済学入門Iを履修したら、ぜひ経済学入門IIでマクロ経済学を勉強してみてください。</p> <p>講義は教科書(3に記載)に則し、Power Pointとプロジェクターを用いて進行します。ウェブサイト(5に記載)から、Power Pointのスライドに対応した授業用のノートがダウンロードできます。</p> | | <p>以下の本を教科書として使用します。</p> <p>ジョセフ・E・スティグリッツ/カール・E・ウォルシュ 「スティグリッツ入門経済学 第3版」 東洋経済新報社</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>1. 経済学とは何か(第1章)</p> <p>2. 経済学的な考え方(第2章)</p> <p>3. 取引と貿易(第3章)</p> <p>4. 需要・供給と価格(第4章)</p> <p>5. 需要・供給分析の応用(第5章)</p> <p>()内は教科書の対応箇所です。時間があれば、「不完全市場入門」(第6章)も行う予定です。</p> | | <p>期末試験の成績によって評価します。試験は、マークシート方式の選択肢式です。</p> | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>履修に際しては、事前に下記のウェブサイトをチェックしておいてください。</p> <p>http://www.otaru-uc.ac.jp/~sano/lecture/ 授業に関する情報はこのサイトで確認できます。また、Power Pointのスライドに対応したノートなどの資料もダウンロードできます。問い合わせは sano@res.otaru-uc.ac.jp まで。</p> <p>注意：経済学入門I・IIは、本年度(平成18年度)入学の学生しか履修できません。</p> | | |

| | | | | |
|--|---------------|---|---------------|-------|
| 科目名<Subject> | 経済学入門 | <Introduction to Economics > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 渋谷 浩 | <Hiroshi Shibuya> | 研究室番号<Office> | 5 3 9 |
| Office Hours | 授業の始めにお知らせします | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 個々の経済主体である消費者や生産者の経済行動に焦点を当てた「ミクロ経済学」の内容を取り扱う「経済学入門」と合わせて履修することにより、経済学の基礎知識を一通り学習することになります。「経済学入門I」と「経済学入門II」を履修することによって、経済学の様々な専門分野を今後学習していくために必要な基礎知識を身に付けることができるわけです。 | | |
| <p>なぜ経済学を学ぶ必要があるのでしょうか？それは、私達の生活の場である経済の仕組みを理解し、社会の中で経済的に自立して生きていくために必要な知識を得るためだと思います。大学を卒業し社会に出て生活することを想像してみてください。一日24時間の中で目が覚めている時間実に大きな部分を、労働者として、消費者として、企業家として、投資家として、何らかの経済活動に従事しながら生きていくこととなります。人生目標が何であれ、それを達成するためには自分の意思で行動できる自由という手段が必要です。しかし、経済的基盤がなければ、すなわち経済的に自立していなければ、目標を達成するために必要な自由を獲得することはできません。そして、経済的に自立するためには、私たちが毎日生活している社会経済の仕組みを正しく理解しておくことがどうしても必要になってくるのです。このように考えてみると、人生において経済学を学ぶことの重要性が理解できるのではないのでしょうか。</p> <p>経済学入門IおよびIIでは、みなさんが学んでいかなければならない経済学に関する基礎知識を提供します。この基礎知識を初期の段階でマスターしておかないと、これから学習するいろいろな経済学の専門分野を深く十分に理解することができなくなります。したがって、学生生活の初期の時点で、経済学の基礎知識をきちんと学んでおくことが将来のためにとても大事になってきます。経済学の基礎知識をしっかりと学んだ上で、金融経済学、国際経済学、公共経済学、労働経済学、産業組織論、計量経済学などの専門科目の学習に進んでください。経済学の基礎知識をしっかりと学んでいるかどうかによって、専門分野へ進んだ後の学習効果に大きな違いが出てきます。</p> <p>本科目「経済学入門II」では、失業、インフレーション、デフレーション、景気循環、経済成長、金融政策、財政政策など、すなわち国全体の経済活動に焦点を当てた「マクロ経済学」について学ぶことを目的とします。幸いにもというべきか不幸にもというべきか、過去20年間における日本経済の浮き沈みの歴史は、マクロ経済学を学ぶ上で最適な材料を数多く提供してくれました。本科目を通じて、マクロ経済学の理論を学びながら同時に日本経済の最近の動向と問題点について学んでいくことにしましょう。</p> | | 2.授業内容<Course contents> | | |
| | | <p>教科書の第8章～第11章を中心に学習します。講義で説明するのは次のような内容です。</p> <p>第8章 マクロ経済学と完全雇用 マクロ経済活動の目的と測定、経済成長、失業、インフレーション、基本的マクロ・モデル、労働市場、生産物市場、資本市場 一般均衡、基本的完全雇用モデルの拡張</p> <p>第9章 経済成長 成長の基礎要因、生産性</p> <p>第10章 失業とマクロ経済学 経済不況、総需要の決定要因、消費、投資、政府と貿易、総需要の再生</p> <p>第11章 インフレーションとデフレーション インフレーションのコスト、インフレーションと失業、金融政策、財政政策</p> | | |
| | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| | | スティグリッツ著「入門経済学(第3版)」東洋経済新報社、2005年。 | | |
| | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| | | 定期試験の結果に基づいて評価します。 | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>(1) 前期に「経済学入門」を履修しておくことを強く推薦します。</p> <p>(2) 授業および経済学全般に関する情報をホームページに掲載していく予定なので参考にしてください。ホームページには、小樽科大学ホームページ 経済学科 教員紹介 渋谷浩 ウェブサイト個人から、または直接 Web アドレス http://www11.plala.or.jp/shibuya123/ からアクセスできます。</p> | | |

| | | | | |
|---|----------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 経済学特別講義A | <Topics in Economics> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 和田 良介 | <Ryosuke Wada> | 研究室番号<Office> | 537 |
| Office Hours | 火 13:00- 14:20 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> この授業は、短期留学プログラムで開講される Financial Economics と同じものです。学部生が履修する場合には科目名のみ変わります。 The objective is to understand basic concepts of financial economics; optimization over time, asset valuation and risk management. Lectures are given in English. Many homework exercises require use of computers; Excel and Mathematica. Use of software will be explained. | | 3.使用教材<Teaching materials> text book: Zvi Bodie and Robert Merton, Finance, Prentice Hall, 2000 | | |
| 2.授業内容<Course contents> 1. time value of money and discounted cash flow analysis 2. valuation of bonds and stocks 3. risk management 4. prices of derivatives; futures, forward and options contracts The level of mathematical sophistication is elementary algebra, including sum of geometric progressions (sequences). | | 4.成績評価の方法<Grading> Allocation of weights will be one exam (60 %), homeworks (25%), class participation (15%). Working together on homeworks is encouraged. | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | | |
|---|----------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 経済学特別講義B | <Topics in Economics> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 船津 秀樹 | <Hideki Funatsu> | 研究室番号<Office> | 333 |
| Office Hours | | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> The purpose of this course is to introduce students from different areas to various aspects of regional economies in Asia and Pacific. The course particularly emphasizes on the activities of Asia Pacific Economic Cooperation | | 3.使用教材<Teaching materials> Web resources from APEC homepage | | |
| 2.授業内容<Course contents> (1) Introduction to Asia-Pacific Economic Cooperation (2) US-Japan Trade Relation (3) Free Trade and the World Economic Welfare (4) Regionalism and Global Economic Integration (5) Free Trade Area under WTO (6) Open Regionalism Concept of APEC (7) East Asia Free Trade Area (8) Country Risk and Export Credit Insurance (9) Free Trade Zone and Regional Economic Development (10) Concluding Remarks on the future of Asia and the Pacific | | 4.成績評価の方法<Grading> Class participation (50%) and the result of final examination (50%) | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> この授業は、短期留学プログラム協力科目として行われます。交換留学生と一緒に学びますので、英語コミュニケーション能力が必要です。 | | |

| | | | |
|--|---|-------------|---------------|
| 科目名<Subject> | インターンシップ <Internship> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教官名<Name> | 遠藤薫・大矢繁夫・多木誠一郎・佐山公一・花輪啓一・鈴木将史 | | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> 企業、官公庁等での就業体験を通じて職業意識を養うとともに、実務に触れることにより学習意欲を向上させる。 | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| 2.授業内容<Course contents> 企業、官公庁等での実習（5日から2週間程度）が中心。実習の前の、講義・講習、実習後のレポート提出が義務づけられる。詳細は、5月に公表される「平成18年度インターンシップ教育プログラム」で明らかにされるが、だいたい、以下のスケジュールで行われる。 5月：オリエンテーション。「平成18年度インターンシップ教育プログラム」の公表 6月：事前講義 7月：ビジネスマナー講習。 8～9月：企業等で実習（原則として夏休み期間） 10月：成果レポート提出 12月：大学、学生、研修先による意見交換会 | 4.成績評価の方法<Grading> 上記の教育プログラムへの参加、レポートの評価等を総合的に考慮する。 | | |
| | 5.履修上の注意事項<Remarks> 科目の性格上、研修先は、4月以降にならなければわからない。その数も限られているので希望者がすべて履修できるわけではない。また、研修先は、必ずしも希望どおりとはならない。 募集は4月から5月にかけて行われるので、掲示に注意すること。 通常履修とは別の手続・方法で行われる。 キャップ制の対象とはならない。 実習は原則として夏休み期間に、講義・講習・レポート報告会等は通常の時間割とは別の日程や時間を使って行われるので、それに参加できることが条件である。 「総合科目（IIL-グリーン講座）」を履修していることが望ましい。 | | |

商 学 科
学 科 科 目

| | | | |
|---|---|-------------------|---------|
| 科目名<Subject> | 流通システム論 | <Macro Marketing> | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 伊藤 一・白 貞王 <Hajime Ito/Jungyin BAEK> | 研究室番号<Office> | 443/444 |
| Office Hours | メールでの事前連絡が必要です。 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>流通システムとは、生産から消費にいたるまでの商品の流通構造のことである。いかに効率よく流せるかによって、商品の価値が変わってくるし、市場全体の経済効率化が高まっていく。近年、企業活動がグローバル化し、情報技術が進展するにつれ、日本的流通システムの変容が迫られている。今回の講義では日本の流通システムの動態をテーマにし、日本の流通システムがどのように変化してきたのか、またそうした変化は諸外国の流通システムとどの程度「類似性」と「異質性」を持っているのか、といった問題を明らかにしたい。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>講義の進め方としては、次の2部構成をとる。</p> <p>第1部 理論編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通システムの動態を説明できる基礎的理論を説明する <p>第2部 実践編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通の基礎理論に関する理解を前提として、本講義の中心テーマでもある戦後の日本の流通システムの発展を跡付けながら、理論的分析を行う。 ・日本的流通システムの特質や問題点をチャネル・マネジメント論の観点から整理し、できれば諸外国の流通システムとの比較を行う。 | | |
| | <p>・最終的に、日本の流通システムが今後どのように展開していくかについて展望する。</p> <p>3.使用教材<Teaching materials> 講義のはじめにプリントおよび関連資料を配布する。あらかじめ大阪市立大学商学部編『ビジネス・エッセンシャルズ 流通』有斐閣、2002 を読んで、講義に出席することが望ましい。</p> <p>4 成績評価の方法<Grading> 定期試験のほか、講義中に行うクイズも加味して評価する。またランダムにとった出席も評価対象とする。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> 特になし。</p> | | |

| | | | |
|---|--|--------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 流通システム論 | <Macro Marketing > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 伊藤 一 | <Hajime Ito> | 研究室番号<Office> 443 |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>流通システムとは、生産から消費にいたるまでの商品の流通構造のことである。いかに効率よく流せるかによって、商品の価値が変わってくるし、市場全体の経済効率化が高まっていく。近年、企業活動がグローバル化し、情報技術が進展するにつれ、日本的流通システムの変容が迫られている。今回の講義では日本の流通システムの動態をテーマにし、日本の流通システムがどのように変化してきたのか、またそうした変化は諸外国の流通システムとどの程度「類似性」と「異質性」を持っているのか、といった問題を明らかにしたい。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>講義の進め方としては、使用教材の第1部に該当する「流通組織の基礎理論」について説明する。</p> <p>第1章 経済社会の中での流通と商業 第2章 商業の市場形成機能 第3章 商業における品揃え形成過程 第4章 商業の社会性と売上の集中 第5章 マーケティングの登場と商業 第6章 閉鎖的体系の構築とその限界</p> | | |
| | <p>3.使用教材<Teaching materials> 講義のはじめにプリントおよび関連資料を配布する。あらかじめ大阪市立大学商学部編『ビジネス・エッセンシャルズ 流通』有斐閣、2002 を読んで、講義に出席することが望ましい。</p> <p>4 成績評価の方法<Grading> 定期試験のほか、講義中に行うクイズも加味して評価する。またランダムにとった出席も評価対象とする。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> 特になし。</p> | | |

| | | | |
|---|----------------------------|---|-----|
| 科目名<Subject> | 流通システム論 <Macro Marketing > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 白 貞王 <Jungym BAEK> | 研究室番号<Office> | 444 |
| Office Hours | メールでの事前連絡が必要です。 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>流通システムとは、生産から消費にいたるまでの商品の流通構造のことである。いかに効率よく流せるかによって、商品の価値が変わってくるし、市場全体の経済効率化が高まっていく。近年、企業活動がグローバル化し、情報技術が進展するにつれ、日本的流通システムの変容が迫られている。今回の講義では日本の流通システムの動態をテーマにし、日本の流通システムがどのように変化してきたのか、またそうした変化は諸外国の流通システムとどの程度「類似性」と「異質性」を持っているのか、といった問題を明らかにしたい。</p> | | <p>講義のはじめにプリントおよび関連資料を配布する。あらかじめ大阪市立大学商学部編『ビジネス・エッセンシャルズ 流通』有斐閣、2002 を読んで、講義に出席することが望ましい。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>本講義では、流通システム論 で身につけた理論的枠組みのもとで、戦後の日本の流通システムの発展を跡付ける。その後、それが今後どのように展開していくかについて展望する。講義の進め方としては、使用教材の第2部に該当する「流通組織の動態」について説明を行う。</p> <p>第7章 大量生産に対応した流通組織の発展 第8章 流通組織におけるコンフリクトとその調整 第9章 流通組織の「適応」過程 第10章 流通組織の新展開 第11章 投機型流通から延期型流通への転換 結 章 21世紀の流通システム</p> | | <p>定期試験のほか、講義中に行うクイズも加味して評価する。またランダムにとった出席も評価対象とする。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | 特になし。 | |

| | | | |
|--|-----------------------------|----------------------------------|-----|
| 科目名<Subject> | 社会と金融 <Society and Finance> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 中浜 隆 <Takashi Nakahama> | 研究室番号<Office> | 544 |
| Office Hours | 火・木 13:00~14:00 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>本授業の目的は、金融システムに関する基礎理論と基礎知識を習得することである。方法は、口述・板書で行う。</p> | | <p>教科書は使用しない(口述・板書で行う)。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>貨幣と金融(第1回~第3回)</p> <p>(1) 貨幣の機能と種類 (2) 直接金融と間接金融</p> <p>金融機関と金融業務(第4回~第10回)</p> <p>(1) 金融機関の種類 (2) 銀行業務 (3) 証券業務 (4) 保険業務</p> <p>金融市場(第11回~第12回)</p> <p>(1) 短期金融市場 (2) 長期金融市場</p> <p>中央銀行(第13回~第15回)</p> <p>(1) 中央銀行の機能 (2) 中央銀行と金融政策</p> | | <p>定期試験の成績によって評価する。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | 不合格者に対する事後的救済措置(レポート等)はいっさい講じない。 | |

| | | | |
|--|------------------------------|---|-----|
| 科目名<Subject> | マーケティング <Marketing> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 高宮城 朝則 <Tomonori Takamiyagi> | 研究室番号<Office> | 413 |
| Office Hours | 随時。事前に連絡をしてください。 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>マーケティング論は企業が市場にたいしてどのように働きかけるのかを分析することを目的としています。この授業ではマーケティング・マネジメントの視点から、企業と市場との相互関係と企業の働きかけのあり方について、基本的な考え方や手法を説明します。</p> <p>授業は講義を基本として行い、一部では学生とのディスカッションも行います。またプロジェクトなどの機器を使用します。授業内容に関してインターネット上で情報提供を行う予定です。</p> | | <p>テキスト：片桐誠士・高宮城朝則・東 徹編、『現代マーケティングの構図』嵯峨野書院、2000年。参考文献については授業中に紹介します。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>授業はテキストにそって進めていきます。なお、テキストの第2章、第5章については授業の中で随時取り入れて説明していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マーケティングの現代的意味 ・ マーケティングの戦略的展開 ・ マーケティングの環境 ・ 製品計画 ・ 価格決定 ・ プロモーションと広告 ・ 営業とセールス・プロモーション ・ マーケティング・チャネルとロジスティクス ・ マーケティングの新しい課題 | | <p>中間および期末試験の成績（70％）および小テスト・クイズの評価（30％）を総合して評価します。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>第1回目のオリエンテーションで授業の進め方を詳しく説明しますので、履修希望者は必ず出席してください。</p> | |

| | | | |
|--|---------------------------|--|-----|
| 科目名<Subject> | 貿易論 <International Trade> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 穴沢 眞 < Makoto Anazawa > | 研究室番号<Office> | 309 |
| Office Hours | 随時（事前にメールで連絡のこと） | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | (4) 貿易実務関連 | |
| <p>国境を越えた財、サービスの取引である貿易について様々な角度から考察することがこの講義の目的です。また、企業の多国籍化により貿易のパターンが変化してゆく状況についても言及します。</p> <p>授業はパワーポイントを使った講義形式で行います。資料等は随時配布します。</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 輸出入活動 ・ 通関業務など | |
| 2 授業内容<Course contents> | | (5) 企業の多国籍化と貿易 | |
| <p>貿易に関する理論、政策、実務などについての基本的な事項を説明します。さらに企業のロジスティクス戦略について日本企業を例にとり考察します。必要に応じて時事的な問題についても解説します。具体的な内容は以下の通りです。</p> <p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 貿易の実態 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日中貿易 ・ 物流 (2) 貿易理論 <ul style="list-style-type: none"> ・ 比較優位理論 ・ PLCモデル ・ 競争優位など (3) 貿易政策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 関税 ・ FTA など | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業内貿易 ・ 貿易と直接投資 ・ ロジスティクス戦略 ・ 日本企業の事例など | |
| | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| | | <p>テキストは使用しません。参考資料等は適宜配布します。</p> | |
| | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| | | <p>2回の定期試験と授業中の小テスト等により評価します。履修者数により定期試験以外の評価の仕方が変わる可能性があります。詳細についてはオリエンテーションの時に伝えます。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>履修希望者は必ずオリエンテーションに出席して下さい。上記の記載事項に変更等がある場合はオリエンテーションの時に伝えます。</p> | |

| | | | |
|---|--|---------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | マーケティング行動論 <Marketing Behavior> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 近藤 公彦 | <Kimiko Kodo> | 研究室番号<Office> 328 |
| Office Hours | 火・木 10:30~13:00 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>マーケティング行動論では、実際の企業のケース(事例)を題材として、その企業を取り巻く環境とその企業の強み・弱みを分析し、どのような戦略を取るべきかを考えます。ケース・メソッドと呼ばれるこの方法は、ビジネススクール(MBAを取得できる大学院)で通常行われているもので、ケース分析能力と戦略立案能力を養うことを目的としています。ケースから「正解を探す」のではなく、分析とディスカッションを通じて「正解を創る」のがケース・メソッドの醍醐味です。</p> | <p>授業で取り上げるケースはコピーの上、配布します。また適宜、次の文献を使用します。</p> <p>小樽商科大学ビジネススクール編『MBAのためのケース分析』同文館。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>授業は学生間、学生と教員間のディスカッション形式で行います。まず、学生をグループに分けて、グループ内でケースの課題をディスカッションし、グループとしての意見をまとめていただきます。つづく全体ディスカッションでは、グループの意見を示してもらったとともに、他のグループの意見に対してコメントしていただきます。取り上げるケースとしては、自動車メーカー、家電メーカー、精密機器メーカー、日用品メーカー、化粧品メーカー、流通・小売など、皆さんに馴染みのある企業を予定しています。</p> <p>皆さんには、授業の事前課題として、ケースを熟読し、分析し、各自の「正解」を用意してくる、事後課題として、授業でのグループ・ディスカッションと全体ディスカッションを踏まえて、グループとしてのケース・レポートを作成・提出することが求められます。</p> | <p>ディスカッションへの貢献度 50%</p> <p>ケース・レポートの質 50%</p> <p>(出席は必須です)</p> | | |
| | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | <p>事前課題、ディスカッションへの参加、事後課題と、授業には相応の負担が必要です。決して楽な授業ではありませんが、ディスカッションと戦略立案の疑似体験はきっとエキサイティングなものとなるでしょう。論理的な思考と創造性を駆使してケースに立ち向かってください。</p> <p>なお履修者が多数に上る場合は、何らかの基準で履修制限をかける可能性があります。</p> | | |

| | | | |
|---|--|------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 国際マーケティング <International Marketing> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | プラート・カロラス | <Caro lus Praet> | 研究室番号<Office> 314 |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 20-21 Global Product Policy Decisions I: Developing New Products for Global Markets | | |
| <p>The objective of the course is to generate an understanding of the various topics facing international and global marketers.</p> | 22-23 Global Product Policy Decisions II: Marketing Products and Services | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 24-25 Global Pricing | | |
| <p>After an initial sketch of globalization of markets and competition, the environment in which international or global marketers operate will be dealt with in detail.</p> <p>This will be followed by a treatment of various aspects of global marketing research, segmentation and positioning.</p> <p>Subsequently, global marketing strategies and market entry strategies available to global marketers will be sketched. This will be followed by a discussion of the elements of the marketing mix (product, price, place, and promotion).</p> <p>Finally, attention will be devoted to the quickly growing commercial use of the Internet (E-commerce) and its impact on global marketing.</p> <p>Classes will use the lecture format for discussing theoretical concepts, which will be illustrated through concrete examples and cases.</p> | 26-27 Communicating with the World Customer | | |
| | 28 Global Distribution | | |
| | 29-30 Global Marketing and the Internet | | |
| | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| | <p>1) The main textbook is <i>Global Marketing Management</i> by Masaaki Kotabe and Kristiaan Helsen (edition has yet to be decided upon, but the 3rd edition is the most likely candidate for adoption: John Wiley and Sons (WIE); ISBN: 0471451878).</p> <p>2) A Japanese translation of only part (7 out of 19 chapters) of the second edition of this textbook is also available: 「グローバル・ビジネス戦略」小田部 正明(著)、クリスチアン ヘルセン(著)¥3,045、同文館出版、ISBN: 4495638114</p> <p>3) An additional textbook recommended to those who lack confidence in their English reading skills is 「グローバル・マーケティング」第2版、諸上 茂登(著)、藤沢 武史(著)、¥2,940 中央経済社、ISBN: 4502373907</p> | | |
| 1-2 Globalization and the Evolution of Global Marketing | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| 3-4 Global Economic Environment | <p>The method of grading will be announced at the start of the course.</p> | | |
| 5-6 Global Financial Environment | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| 7-9 Global Cultural Environment and Buying Behavior | <p>Classes will be taught in English. However, essay parts of exams may be answered in Japanese and written assignments may be submitted in Japanese. Please note that multiple choice questions in exams will be in English. Students will be expected to have a basic understanding of marketing and to have taken an introductory class in marketing at the undergraduate level.</p> | | |
| 10-11 Political and Legal Environment | | | |
| 12-13 Global Marketing Research | | | |
| 14-15 Global Segmentation and Positioning | | | |
| 16-17 Global Marketing Strategies | | | |
| 18-19 Global Market Entry Strategies | | | |

| | | | |
|---|---|------------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 地域市場システム論 <Regional Market System > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 夏季集中 |
| 担当教員名<Name> | 石井 吉春 | <Yoshharu Ishii> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| 地域経済の現状・課題や地域政策の役割を踏 また上で、経済社会の変化に対応した「公民連 携」「地方分権」「産学連携」「事業再生」など の地域再生・活性化手法について概観した上 で、北海道の発展方向についても検討する。 | 教材については、適宜配布する予定。 なお、 http://homepage2.nifty.com/yoishii/ で、 内容が共通する地域政策論の講義資料などが閲 覧できるので、事前学習などに参照してくださ い。 また、事前に購読すべき参考図書としては、 「地方財政」(林宜嗣著、有斐閣)、「地方財政 改革」(本間正明・斉藤慎編、有斐閣)、「日本 の「構造改革」」(佐和隆光著、岩波新書)、「ソ ーシャルガバナンス」(神野直彦、澤井安勇編 著、東洋経済新報社)、「公共経営論」(宮脇淳 著、PHP 研究所)、「ニュー・パブリック・マネ ジメント」(大住荘四郎著、日本評論)、「公民 連携による新たな地域創造」(石井吉春編、ぎ ょうせい)、「PPP ではじめる地域再生」(日本 政策投資銀行地域企画チーム編、ぎょうせい)、 「NPO 入門」(山内直人著、日本経済新聞社) などがある。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| [地域政策の現状と課題] | 試験のほか、講義時に適宜課す演習問題及び 出席状況によって評価する。 | | |
| 01 講 地域政策の意義 | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| 02 講 内外の地域政策の動向 | 演習の際には、パソコン(エクセル)、電卓な どを準備すること。 | | |
| 03 講 今後の地域政策の方向 | | | |
| [公民連携 (PPP) の可能性] | | | |
| 04 講 公民連携プロジェクトの評価 | | | |
| 05 ~ 06 講 評価の基礎となるキャッシュフ ロー | | | |
| 07 講 公民連携手法その 1(PFI 活用を中心 にして) | | | |
| 08 講 公民連携手法その 2(民営化と NPO 活 用を中心にして) | | | |
| 09 回 演習 | | | |
| [個別方策] | | | |
| 10 講 地方分権と地域自立 | | | |
| 11 講 産学連携と新規事業創出 | | | |
| 12 講 不良債権処理と事業再生 | | | |
| [北海道の発展方向] | | | |
| 13 講 北海道経済の現状と課題 | | | |
| 14 講 北海道の地域発展の方向 | | | |
| 15 回 試験を実施 | | | |

| | | | |
|--|--|---------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 銀行論 <Banking and Finance> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 大矢 繁夫 | <OHYA Shigeo> | 研究室番号<Office> 320 |
| Office Hours | 随時可 (事前にメールで連絡をしてください)。 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 9 中央銀行の業務と役割 | | |
| 銀行は貨幣と信用を創造し、それを取り扱うが、近 年の金融グローバル化や制度改革、そして金融技術の イノベーションの進展とともに、その業務領域は現在 大きな広がりを見せている。そのような状況の中で、 貨幣や銀行の本質についての理論的検討が改めて必要 とされている。また、わが国経済全般に重くのしかか っていた「不良債権問題」や銀行システムの信認不安 という問題はようやく克服されつつあるが、80年代 以降の経験を踏まえて、あるべき銀行像や金融行政の あり方もこれから問われ続けることになる。このよう な問題状況を念頭におきつつ、貨幣・信用・銀行につ いての従来の理論と制度を解説し、最近の問題点を探 ったうえで将来展望も考えることが本講義の目的をな す。なお、金融関連の時事問題についても解説する。 板書、プリント配布のほか、パワーポイント等も随時 利用して講義する。 | 10 銀行と貨幣市場 11 銀行と資本市場 - 債券市場、株式市場 - 12 銀行とデリバティブ取引 - 証券先物取引、証券オプション取引 - 13 銀行と国際通貨 14 既存のマネーシステム・銀行システムの問題点と 将来 銀行の再生、銀行とリスク、ナローバンク 15 総括 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| 1 対象と課題 | 参考文献：呉文二・島村高嘉『金融読本(第25版)』 東洋経済新報社 鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社 大矢繁夫『ドイツ・ユニバーサルバンキング の展開』北大図書刊行会 資料：授業のときにプリントを随時配布 | | |
| 2 貨幣と銀行の歴史 | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| 3 商業信用と銀行信用 | 中間試験と定期試験の成績によって評価する。授業 中に適宜行う小テストも加味する。 | | |
| 4 貨幣と信用創造 | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| 5 銀行の種類 | 授業のあとのノート整理等をきちんと行っておくこ と。 | | |
| 6 銀行の業務 1 - 預金、貸出、為替 - | | | |
| 7 銀行の業務 2 - 証券、外国為替等 - | | | |
| 8 銀行とペイメントシステム | | | |

| | | | | |
|---|--|------------------|--|-----|
| 科目名<Subject> | 商学特講 | | <Topics in Commerce> | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | . | 後期 |
| 担当教員名<Name> | ヨシ・ステファンソン | <Jon Stefansson> | 研究室番号<Office> | 317 |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>The aim of this course is to introduce students to management related topics in the field of commerce. This course will focus on various aspects of human resources management, both in Japan and abroad. This course will introduce both theoretical models as well as looking at HRM in a business context. This course will mainly be conducted in the form of lectures and the instructor will utilize PowerPoint presentations and videos as teaching aids.</p> | | <p>3.使用教材<Teaching materials></p> <p>Primary reading material will come from the following textbook: Bratton, J., & Gold, J. (2003). Human Resource Management: Theory and Practice (3rd edition). Palgrave Macmillan. (ISBN 0-333-99325-X hardback; ISBN 0-333-99326-8 paperback). Other reading material will be announced at the beginning of the course.</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>A tentative outline of the lectures is as follows:</p> <p>Part I: Introduction</p> <ul style="list-style-type: none"> E Introduction to HRM E HRM and the business environment. E Strategic HRM. <p>Part II: Employee development and performance</p> <ul style="list-style-type: none"> E Performance enhancing HRM. E Employee development. <p>Part III: Contemporary concerns</p> <ul style="list-style-type: none"> E Globalization. E Expatriate management. E Ethics. <p>Additional topics related to HRM will be discussed if time allows.</p> | | <p>4 成績評価の方法<Grading></p> <p>Grading will be based on attendance, class participation, short assignments, individual term paper, and a final exam (or a final presentation). Further details regarding the grading will be provided at the beginning of the course.</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks></p> <p>All lectures will be conducted in English. Students attending this class must have a working knowledge of computers and will have to use the Internet in their studies. The instructor will post assignments and class notes on the class website. Students enrolled in this class are required to participate in class discussions and attend all lectures.</p> | |

| | | | | |
|---|--------------------------|-----------------|---|-----|
| 科目名<Subject> | 経営学原理 | | <Principles of Business Administration > | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 松尾 睦 | <Makoto Matsuo> | 研究室番号<Office> | 534 |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>経営学原理、経営学原理 に準じる。</p> | | <p>3.使用教材<Teaching materials></p> <p>経営学原理、経営学原理 に準じる。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>経営学原理、経営学原理 に準じる。</p> | | <p>4 成績評価の方法<Grading></p> <p>経営学原理、経営学原理 に準じる。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks></p> <p>特になし</p> | |

| | | | | |
|--|-------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 経営学原理 | <Principles of Business Administration > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 松尾 睦 | <Makoto Matsuo> | 研究室番号<Office> | 534 |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | ケース分析演習(3) | | |
| 本講義では、ケース分析の方法について学ぶ。 | | ケース分析演習(4) | | |
| ケース分析とは、「実際の企業が抱える問題点を発見し、解決策を考え出す」作業である。授業では、企業の事例をビデオで観て、その内容を経営学の理論を使って分析し、問題点と解決策を考える。まず、経営学の理論を学び、道具として使いこなせるように演習を行う。次に、ビデオの事例(ケース)を使って、企業の現状を分析する能力を養う。 | | ケース分析演習(5) | | |
| なお、履修を希望する学生は「大学において何を学びたいか」に関する課題レポートを、A4用紙1枚(ワープロ書き、800-1000字程度)にまとめ、4月14日(金)12:00まで学務課レポートボックスに提出すること。履修者が多い場合には、このレポートの内容によって履修者を決定する(その場合、履修を許可する者の学生番号を4月18日(火)までに掲示する)。 | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| | | 教科書：小樽商科大学ビジネススクール編著『MBAのためのケース分析』同文館 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| 前期 | | 授業中に実施する小テストやコメントカード提出が50%、レポートが50%。 | | |
| ケース分析とは何か | | ただし、小テストで70点以上得点しないとレポート提出の資格がなくなるので注意すること。また、授業に4分の3以上出席しないと単位が認められないので注意すること。 | | |
| SWOT分析 | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| マーケティングの理論 | | 特になし | | |
| 戦略の理論 | | | | |
| 組織の理論 | | | | |
| 会計の理論 | | | | |
| ケース分析演習(1) | | | | |
| ケース分析演習(2) | | | | |

| | | | | |
|--|-------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 経営学原理 | <Principles of Business Administration > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 松尾 睦 | <Makoto Matsuo> | 研究室番号<Office> | 534 |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 2 授業内容<Course contents> | | |
| 本講義の目的は次の2つである。第1の目的は、組織で活動するために必要とされる知識やスキルを理解した上で、演習を通して自身の知識・スキルを高めることにある。第2の目的は、キャリア開発のあり方について学んだ上で、自身のキャリアプランを立てることにある。 | | 組織で必要とされる知識・スキル | | |
| 第1の点に関して、組織において必要とされる知識には、対人能力、概念的な能力、専門知識等がある。授業では、ビデオや文書を使用したケースメソッド、グループディスカッション、プレゼンテーションを通して自身の知識・スキルを高める。第2の点に関しては、各種の演習を通して、自身の認知スタイル、意思決定スタイルを把握した上で、中長期的なキャリアプランを設定する。 | | 対人(コミュニケーション)スキル | | |
| なお、履修を希望する学生は「私のキャリアプラン(大学卒業後10年間に、どのような職につき、どのような仕事をしたいと考えるか)」についての課題レポートを、A4用紙1枚(ワープロ書き、800-1000字程度)にまとめ、4月14日(金)12:00まで学務課レポートボックスに提出すること。履修者が多い場合には、このレポートの内容によって履修者を決定する(その場合、履修を許可する者の学生番号を4月18日(火)までに掲示する)。 | | 概念的(コンセプチュアル)スキル | | |
| | | 専門知識 | | |
| | | 自己管理スキル | | |
| | | ケース分析(1) | | |
| | | ケース分析(2) | | |
| | | ケース分析(3) | | |
| | | キャリア開発 | | |
| | | 認知スタイル | | |
| | | 意思決定スタイル | | |
| | | キャリアプランと目標設定 | | |
| | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| | | 教科書：特になし。授業時に資料を配布する。 | | |
| | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| | | 授業中に実施する小テストやコメントカード提出が50%、レポートが50%。 | | |
| | | 授業に4分の3以上出席しないと単位が認められないので注意すること。 | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | 特になし | | |

| | | | | |
|--|--|-----------------------|--|-----|
| 科目名<Subject> | 経営管理論 | <Business Management> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 後期 | |
| 担当教員名<Name> | 玉井 健一 | <Ken-ichi Tamai> | 研究室番号<Office> | 416 |
| Office Hours | | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>経営管理論は、経営管理者（社長、事業部長、生産部長など）が組織を運営するために必要とされる技法を探究することを課題としている。したがって、管理の役割を演じる経営者および管理者の役割を分析することが重要になる。さらに、「管理する」という言葉は、管理される対象を志向するため、その対象としての経営組織をシステムの理解していくことも必要になる。要するに、経営管理論は、管理活動と組織特性の相互の関係に注目しながら優れた管理のあり方を考えていくのである。</p> <p>授業では組織と管理の関係に基づき、1. 経営組織と環境の関係に関わる経営戦略（企業戦略、事業戦略）、2. 分業や調整の枠組みに関わる組織設計、3. 組織の中で働く従業員との関係に関わるリーダーシップとモチベーションに関する理論を学び、企業にとってどのような経営が必要かを議論していく。</p> | | <p>3. 使用教材<Teaching materials></p> <p>テキスト 金原達夫『やさしい経営学』， 金原達夫,文真堂</p> <p>参考文献 塩次喜代明，高橋伸夫，小林敏男， 『経営管理』有斐閣アルマ</p> <p>4. 成績評価の方法<Grading></p> <p>筆記試験（75点）、授業中の質問に対する解答（25点）</p> <p>5. 履修上の注意事項<Remarks></p> <p>授業は上記のテキスト（やさしい経営学）を利用しますので、持参してください。</p> <p>講義では、ディスカッションを取り入れますので積極的に発言してください。</p> | |
| 2. 授業内容<Course contents> | <p>経営管理論の課題と方法 環境分析のツール 全社レベルの戦略 事業レベルの戦略 組織設計論 リーダーシップ論</p> | | | |

| | | | | |
|--|--|--------------------|--|-----|
| 科目名<Subject> | 経営史 | <Business History> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 | |
| 担当教員名<Name> | 高田 聡 | <Satoshi Takata> | 研究室番号<Office> | 535 |
| Office Hours | おって掲示する。 | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>企業活動の史的展開を対象とし、変化を促す企業内外における動因を探ることが最終的な目的である。考察の焦点を前世紀の企業活動で世界的な基準をひとつ強みに指し示したアメリカ合衆国地域におく。20世紀についての個別経営の事例検討ではGM社等を柱に自動車産業関連の地域経営史的考察を軸とする。経営の諸側面のなかでは企業者精神、労働倫理、経営労務関係等の人間的側面、とくに多文化社会に生きる市井の人々における同側面、に検討の重点をおく。講義は板書、副読本、配付資料（英文が大半）、映像資料等を併用する予定。</p> | | <p>5. 経営と規制(2)：ニューディール期 6. 20世紀アメリカの経営社会：草の根からの構図 第2次大戦後の企業経営 1. 経営の国際化と多極化 2. 日本企業の経営史的特徴</p> | |
| 2. 授業内容<Course contents> | <p>トピックは以下を予定。</p> <p>序. 経営史講義の対象、課題、授業計画</p> <p>. 19世紀以前の企業経営：イギリスとアメリカを中心に</p> <p>1. 前工業化期の企業勃興 2. 経営・仕事観の変化 3. 産業革命と工業経営 4. 産業革命の諸帰結：英米の経営と社会</p> <p>. アメリカ企業の台頭：20世紀前半期までの大企業化</p> <p>1. 重工業化と企業経営 2. 社会的背景：フロンティア/多文化社会 3. 経営と規制(1)：革新主義期 4. 経営革新：フォードとGMでの事例</p> | | | |
| | | | <p>3. 使用教材<Teaching materials></p> <p>左の1を参照。副読本等に関してはおって指示する。</p> <p>4. 成績評価の方法<Grading></p> <p>以下が原則。2度の定期試験（各50点満点）の合計点に、「経営史意見票」からの点（1回に1点程度）を加算する。意見票とは、講義に関する質問・意見等を募るもので、1ヶ月につき1回程配付の予定。なお、2度の定期試験をともに欠かさず受験した受講生のみ、最終の（1点以上の）成績評価の対象となる。</p> <p>5. 履修上の注意事項<Remarks></p> <p>（1）上の諸項目には補足・変更がありうる。講義初頭に講義運営の詳細を配付し説明する。欠かさず出席されたい。</p> <p>（2）講義は、経営学原理講義（または同講義）の履修済みに匹敵する知識を前提に進められる。</p> <p>（3）英文資料読解等でほぼ毎回かなりの予習が不可欠となる。</p> | |

| | | | |
|---|--|-------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 企業形態論 <Business Organizations> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 小田 福男 | <Fukuoka> | 研究室番号<Office> 305 |
| Office Hours | 火曜日13時～14時 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>この科目は、様々な企業の所有・支配・経営の構造を解明する科目として経営学関連科目の中に位置付けられている。今年度は、日本企業を意識した企業形態を体系的に講義する。なお、後半では近年大きな変化を見せているロシアの企業形態についても講義する予定である。以上のような講義によって、日本とロシアの企業形態を体系的に理解することを目的とする。</p> <p>プロジェクターを利用して講義する予定であるが、受講人数等の状況によっては双方向型授業を取り入れることもある。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <ol style="list-style-type: none"> 1) 企業概念 2) 企業形態の展開 3) 日本の企業制度史 4) 法制上の企業形態 5) 株式会社の現実 6) 企業競争と独占 7) 結合企業形態 8) 企業格差の構造 9) 企業の国際化 10) 公企業 11) 協同組合 12) ロシアの企業形態 13) 日本・ロシア合併企業 | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>テキスト：小松章著『企業形態論(第2版)』(新世社,2000年)</p> <p>参考文献：奥林康司編著『現代の企業システム 経営と労働』(税務経理協会,2000年)</p> <p>増地昭男著『企業形態研究』(千倉書房,2000年)</p> <p>伊丹敬之著『日本型コーポレートガバナンス 従業員主権企業の論理と改革』(日本経済新聞社,2000年)</p> | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>定期試験の成績(80%)と提出されたコメント(20%)で評価する。なお、双方向型で授業を行う場合は、プレゼンテーション、レポート等で評価することもある。</p> | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | | | |

| | | | |
|---|---|--------------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 財務管理論 <Financial Management> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 夏季集中 |
| 担当教員名<Name> | 中村 竜哉 | <Tatsuya Nakamura> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>経産省は中小企業等を日本経済活性化の原動力にするという方針の下、これらの弱点である高度化・多様化する金融・財務に関する人的基盤の欠如を改善するために財務管理サービスを担う人材育成プログラムを立ち上げた。本講義ではこれを参考にし、前期には基本的な企業金融理論と企業規模別に利用可能な資金調達手段を学ぶ。後期には金融機関と円滑に交渉できるような中期経営計画と事業計画を策定するスキルやポイントを学習する。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <ol style="list-style-type: none"> (1) 経営計画の策定プロセスと経営計画の構造、事業計画の構造とイメージ (2) 財務分析その1-収益性分析- (3) 財務分析その2-流動性分析- (4) 財務分析その3-生産性分析と成長性分析- (5) 事業計画の策定プロセス-パラメータの設定、シナリオ作成- (6) シミュレーションの実施その1-売上高/コスト・シミュレーション- (7) シミュレーションの実施その2-資金繰り・シミュレーション- (8) 金融機関との関係の重要性と金融機関による格付け (9) 損益分岐点分析 (10) 適正な在庫水準の推計 (11) 実現可能性の検証と事業計画の最終 | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>経済産業省編『地域金融人材育成プログラム テキスト』(経済産業省のHPから印刷可)</p> | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>課題(レポート)の提出を求め、それを評価の対象とする。</p> | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | <p>教員からの一方的な知識の押し付けにならないように、受講生との双方向型授業をめざす。具体的には、企業金融理論が実務で利用されていることを知るためにニュース番組等を視聴したり、受講生をいくつかのグループに分けてエクセル等を使って財務的課題を解決する方法を策定してもらう。</p> | | |
| (12) 財務計画の管理-モニタリング、原因分析、課題の抽出と施策の立案- | | | |

| | | | | |
|--|----------|---|---------------|----|
| 科目名<Subject> | 地域企業論 | <Regional Business> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | . | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 田中 幹大 | <M khiro Tanaka> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | 講義初回に伝える | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | (6) 地域企業の新たな展開 - 中小企業ネットワーク | | |
| <p>「地域企業」という場合、地域に根を張っている企業であれば大企業も含まれるが、その主役は中小企業である。中小企業は、地域を活動の場として雇用を創出し、地域のニーズに応えていく地域経済・社会の担い手になっている。1980年代以降、中小企業の地域で果たす役割が目されるようになり、国や地方自治体の政策メニューにも地域の中小企業を意識した内容が多く登場するようになった。しかし現実には、バブル経済崩壊以後、グローバルな経営環境・構造変化のもとで、中小企業の量的増加は一転して量的減少傾向となり、廃業、倒産が続くなど地域の中小企業経営は厳しい状況にある。</p> <p>本講義では、地域の中小企業、特に中小製造業を中心に、その歴史や、経営環境が大きく変化している中での現状と課題、活性化の方策などを、全国、北海道、小樽市内の中小企業の活動事例を踏まえつつ検討していく（パワーポイントや映像資料など情報機器、視聴覚機器を用いる）。</p> | | (7) 全国、北海道、小樽市の地域中小企業 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| (1) 地域企業の現状 | | <基本テキスト> | | |
| (2) 中小企業と下請分業関係 | | ・植田浩史他『中小企業・ベンチャー企業論』有斐閣アルマ、2006年4月刊行予定 | | |
| (3) 中小企業と産業集積 | | <参考テキスト> | | |
| (4) 地域中小企業と地域産業政策 | | ・植田浩史編『「縮小」時代の産業集積』創風社、2004年 | | |
| (5) 地域中小企業と中国の躍進 | | ・植田浩史『現代日本の中小企業』岩波書店、2004年 | | |
| | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| | | 中間レポート(30%)と期末試験(70%)による。 | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | 初回に講義全体の説明(オリエンテーション)を行う。 | | |

| | | | | |
|---|-------|---|---------------|------|
| 科目名<Subject> | 経営学特講 | <Topics in Business Administration> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | . | 夏季集中 |
| 担当教員名<Name> | 榊原 清則 | <Kiyonori Sakakibara> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>この授業は2つの部分から構成されている。第1は、経営学の2つの大きな柱である組織論と戦略論の基礎的・導入的な内容をとりあげる前半部分である。第2は、広義のイノベーション(変革、革新、創造)に焦点を当てる後半の部分である。授業では毎回、まずは基礎的な講義を行い、次いで、特定のディスカッション・トピックを立てて、学生によるディスカッションを行う。</p> | | <p>毎回、レジュメを用意し配布する。参考文献として、2つの拙著がある。榊原清則『経営学入門(上)(下)』日経文庫；榊原清則『イノベーションの収益化』有斐閣。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| 組織論入門(組織とは何か、組織はなぜできるか、組織の目的・目標など) | | 期末の試験は、ない。授業でのディスカッションへの参加度と、授業中に複数回行うテストの2つで評価する。 | | |
| 戦略論入門(企業とは何か、経営戦略とは何か、資源戦略・競争戦略・ドメイン戦略など) | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| イノベーション論(イノベーションの意義、イノベーションの類型、研究開発の戦略とマネジメントなど) | | 授業中発言を求めるので、学習計画上、毎回授業に出てくることが出来る学生を、履修対象者として想定している。特に必要な予備知識といったものは、ない。 | | |

| | | | | |
|---|--|---------------------------|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 簿記論 | <Introductory Accounting> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 前期 | |
| 担当教員名<Name> | 松本 康一郎 | <Koichiro Matsumoto> | 研究室番号<Office> | 540 |
| Office Hours | いきなり研究室に来訪するのではなく、まずはe-mailにて松本とコンタクトを取って下さい (matsumoto@resotaru-uc.ac.jp) | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>企業において最も基本的な記録・計算システムである簿記について、とくに商業企業に適用されている複式簿記の基本的計算メカニズムと重要な基本的取引の簿記処理をしっかりと理解することに努めます。</p> | | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>企業簿記の定義と前提 簿記の記録・計算単位・基本的計算要素 企業複式簿記の基本的計算目的と勘定体系 企業複式簿記における記帳手続一巡 商品売買取引の概要と簿記処理 現金・当座預金取引の概要と簿記処理 手形取引の概要と簿記処理 その他の債権・債務取引の概要と簿記処理 固定資産取引の概要と簿記処理 経過勘定取引の概要と簿記処理</p> | | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>テキストとして、久野光朗『簿記論テキスト』同文館を使用するとともに、本学 HP にて講義ノート・講義資料を配付します。</p> | | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>ほぼ毎週の授業にて提出を求める「クイズないし課題」と「中間試験」および「前期試験」の結果にもとづいて、最終成績を決定します。</p> | | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | <p>本科目は、2004 年度までの昼間コース入学生が履修することのできる科目です。授業中は私語厳禁です。このことを含めて、受講に際しての最低限のマナーを守れない受講生には、教室からの退出を求めます。</p> | | | |

| | | | | |
|---|---|---------------------------|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 簿記原理 A | <Introductory Accounting> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 | |
| 担当教員名<Name> | 坂柳 明 | <Akira Sakayanagi> | 研究室番号<Office> | 423 |
| Office Hours | 水曜11:30 - 12:00 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>営利活動を営む会社は、様々な事業活動を行って利益獲得を目指しているが、そのような事業活動の結果を計数的に把握する手法としての簿記を学習する。簿記を学習する上では、既与えられている会計基準を前提にした会計処理を素早く正確にできるかどうか問題である。そこで、授業では練習問題を多く取り入れ、そこで会計処理（仕訳処理）に慣れてもらうことを主眼とした授業を行いたい。</p> | | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>扱うトピックとして、以下のものを考えている。どのトピックをどの程度掘り下げるかは、授業の進度に応じて決まる。なお、練習問題やそれに関連する議論をある程度網羅的に盛り込まざるを得ないため、配布プリントが多くなります（1回あたりA4で5～9枚）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ：簿記の必要性について ：仕訳、勘定、取引の説明 ：個別論点（現金、当座預金、手形取引、掛取引、商品売買、引当金、減価償等）の解説 ：様々な帳簿、試算表と精算表、貸借対照表と損益計算書の解説 | | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>テキストとして、久野光朗、『簿記論テキスト』、同文館、2000年を挙げておく。他の参考文献は、授業中の配布プリントで紹介する。授業が難しい、あるいはやさしいと感じた方は、適宜市販の簿記の問題集、参考書で知識の補充、確認、先取り学習を行ってください。</p> | | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>何回か課す提出課題（30点～40点）そして定期試験（60点～70点）の成績によって評価する。</p> | | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | <p>2.でも述べたように、授業中の配布プリントが多くなるのが予想されるため、プリントを読むのが面倒な人、復習するのが面倒な人には、この授業は勧めません。なお、<u>簿記原理 A の履修可能者は、学生番号 1 番から 240 番までとします。</u></p> | | | |

| | | | |
|--|-----------|--|-------------------|
| 科目名<Subject> | 簿記原理B | <Introductory Accounting> | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 渡辺 和夫 | <Kazuo Watanabe> | 研究室番号<Office> 414 |
| Office Hours | 研究室前に掲示する | | |
| <p>1. 授業の目的・方法<Course objective and method> この科目では複式簿記の基本原則を学習する。複式簿記は体系的な記録方法であり、会計学の基礎となる技術である。この技術をマスターするためには順序立ててひとつずつ確実に理解することが大切である。授業ではできるだけ多くの練習問題を取り入れたいと考えている。</p> <p>2. 授業内容<Course contents> テキストの第 部および第 部のうち、基本的な部分を取り上げる。</p> | | <p>3. 使用教材<Teaching materials> テキスト 久野光朗編著、『簿記論テキスト』、同文館。</p> <p>4. 成績評価の方法<Grading> 最終試験 80% 練習問題 20%</p> <p>5. 履修上の注意事項<Remarks> 簿記原理 B の履修可能者は、学生番号 251 番以降の者とする。 なるべく計算用具を持参して下さい。</p> | |

| | | | |
|--|--------|---|---------------|
| 科目名<Subject> | 応用簿記 | <Introductory Accounting > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 夏季集中 |
| 担当教員名<Name> | 大沼 宏 | <Hiroshi Onuma> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | 講義終了前後 | | |
| <p>1. 授業の目的・方法<Course objective and method> 企業会計の基礎である複式簿記の学習が本講義の目的です。講義を通じて帳簿記帳技術及び基礎となる会計理論の修得を目標とします。簿記は技術的色彩の強い科目であるため記帳練習は欠かせないと思われます。それ故講義は演習と理論解説をバランスよく行う予定です。 この講義は双方向の授業を予定しています。また黒板を利用した問題演習及び解答を進めていくので、授業へ積極的に関わってください。</p> <p>2. 授業内容<Course contents> 1. 簿記諸取引の処理 売掛金・買掛金取引 手形取引 有価証券取引 その他の債権・債務取引 商品売買取引 減価償却手続 資本取引 その他の収益・費用 2. 決算 試算表・精算表の作成 決算整理手続き 帳簿の締切 損益計算書と貸借対照表の作成 なお演習を行う予定であるので、毎回計算機持参のこと。</p> | | <p>3. 使用教材<Teaching materials> 基本テキスト：久野光朗編『簿記論テキスト』（同文館） なお演習を重点的に行うので、次のワークブックも必要です。 加古宜士・渡部裕巨[編著]『新検定簿記ワークブック / 3級商業簿記 第4版』（中央経済社）</p> <p>4. 成績評価の方法<Grading> 講義内容は日商簿記検定の 2/3 級程度の内容が中心となるでしょう。かといって資格を有していることに対して特段の配慮は行いません（資格取得は薦めずし、資格を持っていると単位認定がなされます）。あくまで授業中の態度、課題の提出状況、期末試験の結果から総合的に評価します。</p> <p>5. 履修上の注意事項<Remarks> 応用簿記は簿記原理既習者を主に対象とするので、簿記について全く知識を持たずに履修するのは少々骨が折れると思います。但し短期間で日商簿記検定 3 級程度を終わらせたいと考えているかたは、十分に準備して履修してください。また演習を重点的に行うので、出席者は各々予習が必要です。分からないことがあれば遠慮なく質問してください。質問は直接聞きに来て頂くか、以下のアドレスへ。 アドレス：yhohnuma@yahoo.co.jp</p> | |

| | | | |
|--|--|--|---------------|
| 科目名<Subject> | 経営と会計 <Elementary Management Accounting> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | / 前期 |
| 担当教員名<Name> | 福島 吉春 | <Yoshiharu Fukushima> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 第 10 章 営利企業と家計：家を建てたら債務超過になって破産するか | |
| <p>会計は「会計」というフィルターを通して、経済単位の活動を（主として）財務数値を使って記録し表現する手段である。一般に会計学では営利企業を対象として説明するが、学校法人や家庭といった非営利経済主体でも、資本主義経済社会で活動するがぎり会計学的な見方は必要である。19 世紀に企業外部への財務公開が制度化されて、財務会計が成立したが、会計はそれ以前から簿記などのかたちで、組織運営の手段になっていた。</p> <p>授業では対象を近代会計学に限らず、また営利企業に限定することなく、組織あるいは個別経済単位を維持し、運営するための手段として、管理会計の基本的な考え方を理解してもらおう。</p> | | 第 11 章 入るを量りて出づるを制す：特別勘定あるいは特別会計 | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 第 12 章 損益分岐点分析：損をしないための利益計画 | |
| 第 1 章 プラス・ゼロ（限りなくゼロに近いプラス） | | 第 13 章 損失計画および閉店戦略 | |
| 第 2 章 資本主義経済と非営利経済単位 | | 第 14 章 美は均衡（バランス）にあり：バランス・スコアカード | |
| 第 3 章 複式簿記と会計学の歴史 | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| 第 4 章 小心翼翼：損をしないための会計学 | | 教科書は使用しない。 | |
| 第 5 章 売家と唐様で書く三代目にならないための教育 | | 毎回、授業の最初に、内容を簡単に説明したプリントを配布する予定でいる。同時に参考文献も指示する。 | |
| 第 6 章 売家と唐様で書く三代目にさせないための教育 | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| 第 7 章 簿記・会計と利益：財務会計と管理会計 | | 基本的には期末の定期試験の成績で評価するが、出席率や、講義中に数回おこなう予定の豆テストも考慮する。なお、定期試験は計算問題と論述問題を出題するが、いずれかが零点に近い場合、総得点が高くても成績は不可とする。 | |
| 第 8 章 今日の百円は明日の百円にあらず：貨幣の時間価値と複利計算 | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| 第 9 章 猪山金蔵信之はいかにして破産をまぬがれたか：「加賀藩御算用者」の家計簿 | | 管理会計では計算をおこなう。それも乗除算が中心なので授業および定期試験のときは電卓を用意すること。算盤でもよい。なお授業では、電卓を忘れたときに携帯の電卓機能を使うことも取りあえずは可能だが、定期試験のときは携帯の使用は許可しない。 | |

| | | | |
|---|------------------------------|---|---------------|
| 科目名<Subject> | 財務会計論 <Financial Accounting> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | / 前期 |
| 担当教員名<Name> | 渡辺 和夫 | <Kazuo Watanabe> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | 研究室前に掲示する | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| <p>目的：財務諸表に関する測定と伝達の理論について講義する。</p> <p>内容：財務諸表は企業の外部の利害関係者に会計情報を伝達する手段であり、貸借対照表と損益計算書が中心的な役割を果たしている。簿記論ではそれらの作成手続きを学んだのに対し、この科目ではそれらの理論を学習する。したがって、資産・負債・資本・収益・費用をめぐる会計問題が主に取り上げられる。</p> <p>方法：テキストにそくして講義を行う</p> | | テキスト 渡辺和夫著、財務諸表論の基礎・五訂版、税務経理協会。 | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| § 1 総論 | | 前期試験 45% 後期試験 45% | |
| § 2 資産会計 | | レポート 10% (12回) | |
| § 3 負債会計 | | ただし、レポートを8回以上提出していない場合には、成績評価の対象になりません。 | |
| § 4 資本会計 | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| § 5 損益会計 | | なるべく計算用具を持参してください。 | |
| § 6 財務諸表 | | | |

| | | | |
|---|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 原価計算論 <Cost Accounting> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 旗本 智之 <Satoshi Hatamoto> | 研究室番号<Office> | 457 |
| Office Hours | 在室時はいつでもOKです。 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| 目的： I 製造業を中心とした原価計算の基本的な考え方を理解すること II テキストを読むこと III グループで討論すること IV 発言すること V 手続きにそって原価計算を実行すること | 教科書：上埜 進、長坂悦敬、杉山善浩『原価計算の基礎』税務経理協会 教科書：安部修仁、伊藤元重『吉野家の経済学』日経ビジネス人文庫、日本経済新聞社 参考書：上埜 進編著『工業簿記・原価計算演習：理論と計算』税務経理協会 | | |
| 方法：私は講義をしません。大切なことは教科書に書いてありますので、指定された範囲を丁寧に読んでください。また、いろいろと変わった課題を課します。一生懸命取り組んでください。授業中は発言の機会を設けますので、「ここが分かりません！」でも結構ですから、発言してください。グループで討論する時間もあります。討論を通して、読んだことを再確認したり、自分の考えをまとめたり、他の人に教えてあげてください。 | 4 成績評価の方法<Grading> 課題の提出、授業中の発言、定期試験（中間および期末）を総合的に評価します。評価方法の詳細は第1回目のときに示します。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> I 原価計算の基礎知識 II 簿記の復習 III 費目別計算 IV 部門別計算 V 個別原価計算 VI 総合原価計算 VII 連産品と連結原価 VIII 標準原価計算制度 | 5 履修上の注意事項<Remarks> 第1回目の時に詳細なガイダンスを行います。 簿記論を履修中あるいは履修済みである人を対象とします。 授業の方法からいって、授業に欠かさず出席し、授業に参加することが必要となります。 2年生での履修をおすすめします。 | | |

| | | | |
|---|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 管理会計論 <Management Accounting> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 乙政 佐吉 <Sakichi Ohtomasa> | 研究室番号<Office> | 422 |
| Office Hours | 在室中はいつでも可（できれば事前にメールで連絡して下さい） | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| 管理会計は財務諸表分析、予算統制、標準原価計算という管理会計技法から発生している。近年ではまた、複雑な環境において持続的競争優位を維持するための管理会計が提唱され、発展している。そのため、管理会計論では伝統的な管理会計技法に関する基礎知識を習得することのみならず、戦略とより密接にリンクした管理会計について理解することが目的となる。講義においては、具体的な計算例の提示や演習を交えるとともに、管理会計実践のケース等を使用しながら、経営における管理会計の役割を考える。 | テキストは使用せず、必要に応じて資料を配付する。なお、予習及び復習用の参考教材として以下の書籍をあげておく。 加登豊著『管理会計入門』日本経済新聞社。 浅田孝幸・頼誠・鈴木研一・中川優著『管理会計・入門〔新版〕 戦略経営のためのマネジリアル・アカウンティング』（有斐閣アルマ）有斐閣。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> 1. 管理会計の基礎概念 2. 原価管理 3. 利益計画と予算管理 4. 事業部制会計 5. 意思決定会計 6. ABC/ABM 7. 原価企画 8. 品質原価計算 9. バランス・スコアカード 10. 新たな組織構造と管理会計 | 4 成績評価の方法<Grading> 試験（中間・期末）の結果を中心に成績評価を行う。 | | |
| | 5 履修上の注意事項<Remarks> 特になし | | |

| | | | | |
|--|-----------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 監査論 | <Auditing> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | . | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 坂柳 明 | <Akira Sakayanagi> | 研究室番号<Office> | 423 |
| Office Hours | 水曜11:30 - 12:00 | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>目的：現実社会で監査が果たしている必要性・機能について学習する。財務会計と監査論の違いにも留意しながら講義を行いたい。</p> <p>方法：「監査論」に登場する様々な概念の関係を整理する作業は、学問上は重要かもしれないが、実社会に出る多くの学生にとっては必要不可欠とは言えない。この授業では、そうしたトピックは必要最小限にとどめ、現実に監査人が直面してきた状況（あるいは、今後直面すると想定される状況）を示しながら、特に監査人の対応問題について講義する。</p> | | <p>参考書として、山浦久司、『会計監査論[第3版]』、中央経済社、2003年、八田進二他、『新版監査論を学ぶ』、同文館、2004年を挙げておくが、文献は、その都度紹介する。</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>監査の必要性・機能 誰が（どのような場合に）監査を必要とするか？</p> <p>監査実施局面の問題 監査手続、監査要点、監査証拠、試査、内部統制、リスク・アプローチ</p> <p>監査報告局面の問題 各種監査意見、意見差控（意見不表明）、未確定事項と見積もりの監査、ゴーイング・コンサーン問題</p> | | <p>何回か課す提出課題、そして定期試験の成績によって評価する。</p> | | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>「簿記論」、「財務会計論」を履修済み（成績は良い方がよい）であることが非常に望ましい。また、配布プリントが多くなる（1回あたりA4で5～9枚）ので、文章を読むのが面倒な人には、この授業は勧めない。</p> | | |

| | | | | |
|---|---------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 組織と会計 | <Advanced Management Accounting> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | . | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 旗本 智之 | <Satoshi Hatamoto> | 研究室番号<Office> | 457 |
| Office Hours | 在室時はいつでもOKです。 | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>目的：最近、注目を浴びてきたビジネス用語として「企業価値」があります。何となく分かるもののはっきりとは分からない用語の一つです。企業価値概念を理解するためには、会計に焦点を当てたケーススタディが効果的です。本授業では、会計のケースを中心に企業価値とそれを高める手法を学びます。</p> <p>方法：ケースを理解するために補助的な講義を行うが、受講者にもケーススタディを行ってもらおう。</p> | | <p>教科書：大津広一『企業価値を創造する会計指標入門』ダイヤモンド社</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>i DCFモデルによる企業価値評価</p> <p>ii ROE</p> <p>iii ROA</p> <p>iv ROIC</p> <p>v 売上高営業利益率</p> <p>vi EBITDA マージン</p> <p>vii フリーキャッシュフロー</p> | | <p>課題の提出、授業中の発言、定期試験を総合的に評価します。評価方法の詳細は第1回目のときに示します。</p> | | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>第1回目の時に詳細なガイダンスを行います。</p> | | |

| | | | |
|---|---|-----------------------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語コミュニケーション | <Communication in English > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | Mark Holst | 研究室番号<Office> | 359 |
| Office Hours | 月 4.10 ~ 5.30; 火 10.00 ~ 12.00; 木 10.30 ~ 12.50 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>This course aims to improve your English communication skills through:</p> <ul style="list-style-type: none"> - examining English language advertisements; - learning about and practicing presentation skills in class - writing summaries of TV commercials - Making & recording a 1 minute TV commercial to be shown at the end of the course. <p>Outside class you have both homework assignments (reading and writing). At the end of the course you will have a written test and a class presentation in groups.</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 6 Creating TV adverts (Project start) | | |
| | 7 Styles of TV advert - Emotional #1 | | |
| | 8 Styles of TV advert - Emotional #2 | | |
| | 9 Styles of TV advert - Emotional #3 | | |
| | 10 Styles of TV advert - Logical #1 | | |
| | 11 Styles of TV advert - Logical #2 | | |
| | 12 Styles of TV advert - Logical # | | |
| | 13 Presentation Skills | | |
| | 14 Presentations | | |
| | 15 End of Course Writing Test | | |
| | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| | Weekly Handouts, based on <i>Advertising for Dummies</i> (Recommended to buy) | | |
| | Examples of English language advertisements (DVD, VHS & Internet based sources). | | |
| | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| | You will be graded on the following points: E weekly homework assignments (watching different TV commercials & summarising them); E end of course group CMs; E end of the course written test. | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | | | |
| Weekly schedule | | | |
| 1 | Introduction to Advertising | | |
| 2 | Defining and positioning your message | | |
| 3 | Types of advertising media | | |
| 4 | Print Adverts | | |
| 5 | Radio & TV | | |

| | | | |
|---|---|------------------------------------|-----|
| 科目名<Subject> | 比較文化 | <Comparative Studies of Cultures > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | Mark Holst | 研究室番号<Office> | 359 |
| Office Hours | 月 4.10 ~ 5.30; 火 10.00 ~ 12.00; 木 10.30 ~ 12.50 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>This course aims to look at different aspects of different cultures around the world and consider how they compare with the situation in Japan.</p> <p>In class the focus will be on speaking and listening skills, doing communicative activities on the weekly topics. Outside class you have both homework assignments (reading and writing). At the end of the course you will have a written test and a class presentation in groups.</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| | To be decided | | |
| | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| | You will be graded on the following points: E your performance in your homework; E your performance in your presentations; E your performance in a written test at the end of the semester. | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | | | |
| Identity, race, nation state, education, family, work & leisure, cross-cultural communication, religion, political systems, diet, culture clash. Homework: 2 academic essays, reading from the text book, project preparation. | | | |

| | | | |
|---|---|-------------|---------------|
| 科目名<Subject> | インターンシップ <Internship> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | ・ 通年 |
| 担当教官名<Name> | 遠藤薫・大矢繁夫・多木誠一郎・佐山公一・花輪啓一・鈴木将史 | | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> 企業、官公庁等での就業体験を通じて職業意識を養うとともに、実務に触れることにより学習意欲を向上させる。 | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> 企業、官公庁等での実習（5日から2週間程度）が中心。実習の前の、講義・講習、実習後のレポート提出が義務づけられる。詳細は、5月に公表される「平成18年度インターンシップ教育プログラム」で明らかにされるが、だいたい、以下のスケジュールで行われる。 5月：オリエンテーション。「平成18年度インターンシップ教育プログラム」の公表 6月：事前講義 7月：ビジネスマナー講習。 8～9月：企業等で実習（原則として夏休み期間） 10月：成果レポート提出 12月：大学、学生、研修先による意見交換会 | 4. 成績評価の方法<Grading> 上記の教育プログラムへの参加、レポートの評価等を総合的に考慮する。 | | |
| | 5. 履修上の注意事項<Remarks> 科目の性格上、研修先は、4月以降にならなければわからない。その数も限られているので希望者がすべて履修できるわけではない。また、研修先は、必ずしも希望どおりとはならない。 募集は4月から5月にかけて行われるので、掲示に注意すること。 通常履修とは別の手続・方法で行われる。 キャップ制の対象とはならない。 実習は原則として夏休み期間に、講義・講習・レポート報告会等は通常の時間割とは別の日程や時間を使って行われるので、それに参加できることが条件である。 「総合科目（IT・グリーン講座）」を履修していることが望ましい。 | | |

企 業 法 学 科
学 科 科 目

| | | | |
|---|---|-----------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 憲法・基礎 (日本国憲法) <Constitutional Law Introduction (Japanese Constitution) > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 結城 洋一郎 | <YUKI Yoichiro> | 研究室番号<Office> 453 |
| Office Hours | 下記5.履修上の注意事項参照 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>「憲法」という法形式が存在することの法的・歴史的意義を学ぶとともに、我が国の憲法の全体構造を概観し、併せて、憲法原論上の争点と主要な具体的判例を検討することによって、憲法学の基礎的素養を獲得することを目指す。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>総論</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 「憲法」の概念 (2) 国民主権の原理 (3) 憲法の制定と変動 <p>日本国憲法の構造</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 国民主権と象徴天皇制 (2) 平和主義 (3) 人権の保障 (4) 権力分立の思想 (5) 立法権と国会 (6) 行政権と議院内閣制 (7) 司法権と違憲法令審査権 (8) 地方自治 | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>特に指定しないが、最初の講義の中で何点か紹介する。</p> | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>定期試験の成績による。</p> | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | <p>講義の中で随時述べる。質問などがある者には、講義の際又は研究室で対応する。来訪を希望する者は、電話(27-5358)又は電子メール(yuki@res.otaru-uc.ac.jp)で来訪を予約されたい。</p> <p>・夜間主コース学生で夜間主コースの「憲法」履修者は、本講義を履修することができない。</p> | | |

| | | | |
|---|--|-----------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 憲法・基礎 (人権) <Constitutional Law Introduction (Human Rights) > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 結城 洋一郎 | <YUKI Yoichiro> | 研究室番号<Office> 453 |
| Office Hours | 下記5.履修上の注意事項参照 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>「憲法・基礎」の履修を前提として、我が国の憲法上、人権は如何に保障されているのかを具体的判例を素材として検討し、この作業を通じ、究極的には、あるべき権利保障の形態についての理論的基盤を獲得することを目指す。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>人権総論</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 人権の概念 (2) 日本国憲法における人権の主体と限界 <p>人権保障の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 幸福追求権とプライバシーの権利 (2) 平等 (3) 思想・良心の自由 (4) 信教の自由と政教分離原則 (5) 違憲審査をめぐる理論 (6) 表現の自由 (7) 経済的自由 (8) 社会権 (9) 刑事手続と人権 | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>特に指定しないが、最初の講義の中で何点か紹介する。</p> | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>定期試験の成績による。</p> | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | <p>講義の中で随時述べる。質問などがある者には、講義の際又は研究室で対応する。来訪を希望する者は、電話(27-5358)又は電子メール(yuki@res.otaru-uc.ac.jp)で来訪を予約されたい。</p> | | |

| | | | | |
|---|--|-----------------------|--|-----|
| 科目名<Subject> | 行政法 | <Administrative Law > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | . | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 石黒 匡人 | <Masato Ishiguro> | 研究室番号<Office> | 531 |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>行政法学の基礎と重要問題の理解を目的として、具体的な事例をできるだけとりあげながら、講義する。</p> <p>ほぼ前半で、基礎的な事項を全体的にひととおり講義し、その後それを前提に</p> <p>やや発展的内容を展開していく。</p> | | <p>3 使用教材<Teaching materials></p> <p>櫻井敬子・橋本博之『現代行政法（第2版）』（有斐閣）</p> <p>いずれかの六法。</p> <p>参考書は講義の際に紹介する。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>1 序論</p> <p>2 公法の基本原理</p> <p>3 行政の作用</p> <p>4 行政手続</p> <p>5 行政訴訟</p> <p>6 国家補償</p> | | <p>4 成績評価の方法<Grading></p> <p>定期試験の結果による。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks></p> <p>講義時間と同じ時間の予習と復習が前提になっていますので、予習をせずに受講しても理解できないことが多いことを覚悟の上、履修すること。（『学園生活の手びき』中の「単位の計算方法」参照）</p> <p>1・2年次開講の憲法、民法、商法、刑法の各科目を履修済であることと、3年次開講の民法、商法の各科目を履修中であることを前提にして講義を進めていく。</p> <p>教科書と六法を持参のうえで講義に臨むこと。</p> <p>定期試験の解答については、鉛筆・シャープペンシルによることは認めない。</p> <p>第1回目の講義の際に行うガイダンスを必ず聞いたうえで履修を決定すること。</p> | |

| | | | | |
|---|--|---------------------------|---|-----|
| 科目名<Subject> | 民法・基礎 | <Civil Law Introduction > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | . | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 林 誠司 | <Seiji Hayashi> | 研究室番号<Office> | 509 |
| Office Hours | 随時（但し、メール等にて事前に連絡すること）。 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>本講義は、民法の基本理念、並びに、民法第1編総則中主として権利の主体・客体、法律行為に関する法制度、各種の法的概念の概説を行い、これらについての知識、及び、法的思考力を涵養することを目的とする。</p> | | <p>3 使用教材<Teaching materials></p> <p>教科書：山田卓生他著『民法 総則』（有斐閣・第三版）</p> <p>参考文献：『別冊ジュリスト No.175 民法判例百選 総則・物権 [第五版 新法対応補正版]』（有斐閣）</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>第1回 ガイダンス、民法の基本原則</p> <p>第2回 民法の基本原則（承前）、権利能力</p> <p>第3回 意思能力、行為能力</p> <p>第4回 行為能力（承前）</p> <p>第5回 住所、不在者、失踪者、法人総論</p> <p>第6回 法人の種類、法人の設立、法人の内部関係、法人の対外関係</p> <p>第7回 法人の対外関係（承前）、権利能力なき社団</p> <p>第8回 権利能力なき社団（承前）、物</p> <p>第9回 法律行為総説、法律行為の客観的有効要件</p> <p>第10回 法律行為の客観的有効要件（承前）、心裡留保</p> <p>第11回 虚偽表示</p> <p>第12回 錯誤</p> <p>第13回 詐欺・強迫</p> <p>第14回 意思表示の到達と受領、無効・取消</p> <p>第15回 無効・取消（承前）、条件・期限、期間</p> | | <p>4 成績評価の方法<Grading></p> <p>期末試験による。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks></p> <p>・教科書・六法は各自必ず購入し、毎回（但し、六法については、初回はこの限りではない）持参すること。</p> <p>・法学を履修していることが望ましい。民法総則は今後民法 及び他の法律科目を履修していく上での前提となる基礎知識を含むものであり、今後民法（及びその他の法律科目）の履修を予定する者は全員履修することが望ましい。</p> <p>・本講義は学生各自の予習を前提とする。初回は教科書の27頁まで読んでくること。</p> <p>・夜間主コース学生で民法 履修者は本講義を履修することができない。</p> | |

| | | | | |
|---|------------------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 民法・基礎 | <Civil Law Introduction > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | / | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 林 誠司 | <Seiji Hayashi> | 研究室番号<Office> | 509 |
| Office Hours | 随時(但し、メール等にて事前に連絡すること) | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>本講義は、民法の基本理念、並びに、民法第1編総則中主として代理及び時効並びに第3編第5章不法行為に関する法制度、各種の法的概念の概説を行い、これらについての知識、及び、法的思考力を涵養することを目的とする。</p> | | <p>教科書：山田卓生他著『民法 総則』(有斐閣・第三版)及び藤岡康宏他著『民法 債権各論』(有斐閣・第三版) 参考文献：『別冊ジュリスト No.175 民法判例百選 総則・物権 [第五版 新法対応補正版]』(有斐閣)及び『別冊ジュリスト No.176 民法判例百選 債権 [第五版 新法対応補正版]』(有斐閣)</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>第1回 ガイダンス、代理総説 第2回 代理権、代理行為の成立要件 第3回 代理行為の有効要件、無権代理 第4回 無権代理(承前) 第5回 表見代理 第6回 表見代理(承前) 第7回 時効制度の存在理由、取得時効 第8回 消滅時効、時効の中断・停止 第9回 時効の中断・停止(承前)、時効の援用 第10回 不法行為総説、権利・法益侵害、故意・過失 第11回 故意・過失(承前)、責任能力、損害、因果関係 第12回 損害賠償の方法、損害賠償請求権者 第13回 賠償範囲と賠償額の算定 第14回 監督者責任、使用者責任、工作物責任 第15回 共同不法行為、特別法上の不法行為、請求権競合</p> | | <p>期末試験による。</p> | | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>・教科書・六法は各自必ず購入し、毎回持参すること。教科書は『民法』と『民法』の2冊を使用するので、双方を購入すること。どちらか一方を購入すればよいのではない。 ・法学を履修していることが望ましい。民法総則は今後民法 及び他の法律科目を履修していく上での前提となる基礎知識を含むものであり、今後民法(及びその他の法律科目)の履修を予定する者は全員履修することが望ましい。 ・本講義は学生各自の予習を前提とする。初回は『民法』145頁から150頁まで読んでくること。 ・夜間主コース学生で民法 履修者は本講義を履修することができない。</p> | | |

| | | | | |
|---|--------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 刑法 | <Criminal Law> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | / | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 一原 亜貴子 | <Akko Ichihara> | 研究室番号<Office> | 508 |
| Office Hours | | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>刑法総論、特に刑法の基本原則、犯罪論体系の概説および犯罪論について講義する。内容は抽象的な理論が中心となるが、できるだけ具体的な事例を挙げ、時には受講生に質問をしながら、正確な知識と考える力を身につけてもらえるよう進めていく。PowerPointを使用することがある。</p> | | <p>以下に挙げるもののうち、いずれか1冊を用意すること。 中山研一『〔新版〕口述刑法総論〔補訂版〕』(成文堂) 山中敬一『ロースクール講義 刑法総論』(成文堂) 山口厚『刑法総論〔補訂版〕』(有斐閣)</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>(1) 刑事法概論・刑法概論 ・刑法とは (2) 刑法の基本原則 ・刑法の機能 ・刑罰論 ・学派の争い ・罪刑法定主義 ・刑法の適用範囲 (3) 犯罪論の基礎 ・犯罪論の体系 ・構成要件(不作為犯、因果関係、故意、過失) ・正当化事由 ・責任 ・未遂 ・共犯 ・罪数</p> | | <p>中間試験及び定期試験(いずれも筆記)の成績で評価する。</p> | | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>本講義は受講生の予習を前提として進める。使用教材に挙げたもの以外の参考書については、オリエンテーションで指示する。なお、最新の六法(小型のもので良い)を必携のこと。</p> | | |

| | | | |
|---|--|-----------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 法学 | <Introduction to Law> | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 片桐 由喜 | <Yuki Katagiri> | 研究室番号<Office> 407 |
| Office Hours | 研究室在室時は随時。事前に来室日時をメールで連絡すると確実。 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>具体的な事例を用いて、私たちの社会で法律がどのように機能しているかを理解することが本講の目的である。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>(1) 法律はどこで使われているか テキストに沿って進行予定</p> <p>(2) 法学入門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法とは何か ・法と裁判 ・法と解釈 | | |
| | <p>3 使用教材<Teaching materials></p> <p>家田愛子編著『18歳からの教養ゼミナール』（北樹出版、2005年） 最新の六法。</p> <p>4 成績評価の方法<Grading></p> <p>主として期末試験による。なお、数回の小テストを予定している。これは成績に考慮される。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks></p> <p>履修希望者が教室の収容人数を超過する場合には、第1段階として1年生に限定、それでも超過する場合には、1年生の中で抽選による履修制限を行う。そのため、第1回目のオリエンテーションに必ず出席すること。</p> | | |

| | | | |
|---|---|-----------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 憲法 | <Constitutional Law > | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 新村 とわ | <Towa NIMURA> | 研究室番号<Office> 517 |
| Office Hours | 随時(事前にメールでご連絡下さい) towan1210@res.otaru-uc.ac.jp) | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>日本国憲法は人権と統治機構とに大きく分けられるが、この講義では、そのうちの「統治機構」を主に担当する。国家の構造(国会・内閣・司法等)を定めた憲法が「人権保障のための基礎法」であることを理解することが目的である。講義は、指定教科書を軸に、憲法の基礎概念・条文の解釈・判例・時事問題等も資料に、口頭による説明と板書により進められる。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>1) 統治総論</p> <p>2) 選挙と代表</p> <p>3) 国会</p> <p>4) 内閣</p> <p>5) 司法</p> <p>6) 財政</p> <p>7) 地方自治</p> <p>8) 憲法の保障</p> | | |
| | <p>3 使用教材<Teaching materials></p> <p>野中 = 中村 = 高橋 = 高見著『憲法〔第3版〕』(有斐閣、2001年)</p> <p>六法(種類は問わない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・判例集(別冊ジュリ『憲法判例百選〔第4版〕』等) <p>4 成績評価の方法<Grading></p> <p>定期試験による。出席も加味する場合がある。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks></p> <p>一回目のガイダンスの際に説明する。</p> | | |

| | | | |
|---|---|-----------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 行政法 | <Administrative Law > | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 今本 啓介 | <Keisuke MAMOTO> | 研究室番号<Office> 512 |
| Office Hours | 随時 (事前にメールで予約をしてもらうのが望ましいです) | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>本講義は、行政法総論・行政救済法の範囲で、石黒教授担当の「行政法Ⅰ」で取り上げられなかった部分、及び現在通説的な塩野宏先生の体系にいう「行政法Ⅲ」の部分(国家行政組織法・地方自治法等)を中心に学ぶことを目的としています。</p> <p>以前は「行政法各論」で扱う領域は幅広かったですが、近年は租税法や社会保障法、経済法等のように学問的にすでに独立しており、本学の科目上も独立して設置されているものもありますので、本講義ではこれら本学で設置されている独立した各論分野以外の分野を中心に、具体的には国家行政組織法・地方自治法を取り上げたいと考えています。時間に余裕があれば、警察法や都市計画法なども取り上げてゆければと思っています。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>詳細な目次は初回の講義で配布します。</p> <p>I 「行政法Ⅰ」で取り上げられなかった部分</p> <p>II 行政組織法</p> <p>1 行政組織法の一般理論</p> <p>2 国家行政組織法</p> <p>III 地方自治法</p> <p>1 地方自治の基礎理論</p> <p>2 地方公共団体の意義</p> <p>3 地方公共団体の事務</p> <p>4 地方公共団体の権能</p> | | |
| | <p>5 地方公共団体の機関</p> <p>6 住民の権利・義務</p> <p>7 普通地方公共団体に対する国又は都道府県の関与等</p> <p>IV その他の行政法各論分野</p> | | |
| | <p>3.使用教材<Teaching materials></p> <p>教科書は特に指定しません。参考文献一覧は初回の講義で配布します。</p> | | |
| | <p>4 成績評価の方法<Grading></p> <p>基本的に、中間・期末2回の定期試験で評価します。出席はとりますが、あくまでも成績をつける際の補助的な材料にすぎないことに粒子してください。</p> | | |
| | <p>5 履修上の注意事項<Remarks></p> <p>憲法・行政法Ⅰの講義を聴いていることが望ましいです。講義に際しては、六法(できれば小六法クラス)を持参してください。また、授業にはできる限り出席することを心がけてください。</p> | | |

| | | | |
|---|--|------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 租税法 | <Tax Law> | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 今本 啓介 | <Keisuke MAMOTO> | 研究室番号<Office> 512 |
| Office Hours | 随時 (事前にメールで予約をしてもらうのが望ましいです) | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>本講義は、所得税法・法人税法を中心に、特に租税実体法について学ぶことを目的としています。授業では、みなさんにとっては近いようで遠い存在である租税について、判例をできるだけ紹介しながら、できるだけわかりやすく講義を行うことを心がけたいと思います。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>詳細な目次は初回の講義で配布します。</p> <p>I 租税法総論</p> <p>1 租税法の基本原則</p> <p>2 租税手続法</p> <p>(1) 租税確定手続</p> <p>(2) 租税徴収手続</p> <p>3 租税争訟法</p> <p>II 租税法各論</p> <p>1 所得税法</p> <p>(1) 所得の意義</p> <p>(2) 所得の分類</p> <p>(3) 必要経費</p> <p>2 法人税法</p> <p>(1) 所得税との関係</p> <p>(2) 法人所得の計算</p> <p>(3) 法人税額の計算</p> <p>(4) 法人組織税制</p> <p>(5) 組合・信託等の事業体の課税</p> | | |
| | <p>3.使用教材<Teaching materials></p> <p>教科書は特に指定しません。ただ、『別冊ジュリスト租税判例百選(第4版)』を元に判例の紹介をしますので、できるだけ用意してください。ほかの参考文献については、初回の講義で一覧を配布します。</p> | | |
| | <p>4 成績評価の方法<Grading></p> <p>基本的に期末試験により評価します。出席はとりますが、あくまでも成績をつける際の補助的な材料にすぎないことに留意してください。</p> | | |
| | <p>5 履修上の注意事項<Remarks></p> <p>最近では租税法は行政法から独立した分野になってきていますが、行政法Ⅰを聴いている方が講義は理解しやすいと思います。企業法学科の学生のみならず、税理士志望の学生や税務会計に関心のある学生にも是非受講していただきたいと思っています。</p> | | |

| | | | |
|--|-------|--------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 民法 | <Civil Law > | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 齋藤 由起 | <Yuki Saito> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | 随時 | | 510 |
| <p>1 授業の目的・方法<Course objective and method> 債権法（債権総論・契約法・契約各論）は、売買や賃貸借などに関する規定を含み、私たちの生活にとって最も身近な法律である。本講義の目的は、実際の生活・取引社会において直ちにぶつかる法律問題を理解・解決できる基礎的な知識・考え方を身につけてもらうことである。 そのために、本講義では、単に抽象的な概念を説明するのではなく、当該制度において実際に問題となり得る具体的な事例を念頭においた説明を心がける。講義はテキスト及びレジュメを中心に、判例集を適宜参照しながら進める予定である。</p> <p>2 授業内容<Course contents> 講義内容・順序は、以下のように考えているが、進行具合等により、変更の可能性はある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、民法における債権法の位置づけ、契約の機能、基本原理 2. 売買 売買契約の意義・機能、契約の分類、売買契約の成立、手附の効力、売買契約の客体 3. 売買 双務契約の効力（同時履行の抗弁権、危険負担）、売主の義務（含：瑕疵担保責任）、買主の義務、債権における信義則 4. 売買 債務不履行、履行の強制、解除、損害賠償 5. 債権の消滅 代物弁済、供託、相殺、準占有者への弁済など 6. 贈与 7. 使用貸借、消費貸借 <p>8. 賃貸借 賃貸借契約の意義、賃貸借の効力、賃貸借の終了事由、賃借権の物権化</p> <p>9. 賃貸借 不動産賃貸借と借地借家法、敷金・権利金に関する問題</p> <p>10. 委任、請負、寄託など</p> <p>11. 不当利得、事務管理</p> <p>12. 債権者代位権、詐害行為取消権</p> <p>13. 債権譲渡</p> <p>14. 多数当事者の債権債務関係</p> <p>3. 使用教材<Teaching materials> ・教科書：野村豊弘ほか『民法（Sシリーズ）』（第2版補訂2版）』（有斐閣）藤岡康宏ほか『民法（Sシリーズ）』（第2版補訂）』（有斐閣）を用いる。本講義の範囲は、不法行為を除く債権法全体（債権総論・各論）を含むので、教科書は、『民法』と『民法』の2冊とも使用する。いずれか一方を持っていればよいのではない。 ・参考書：『別冊ジュリスト 160 民法判例百選 債権（第5版）』（有斐閣）を用いる。その他については、講義において適宜指示する。</p> <p>4 成績評価の方法<Grading> ・定期試験（中間試験・期末試験）の成績により評価する。出席は成績評価の対象としない。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> ・講義を受ける際、六法・教科書は必ず持ってくる。 ・民法 を履修していることが望ましい。</p> | | | |

| | | | |
|---|---------------|------------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 民法 | <Civil Law > | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 遠山 純弘 | <Junkou Tooyama> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | ガイダンスの際に指示する。 | | 516 |
| <p>1 授業の目的・方法<Course objective and method> 物権法および担保物権法の全体構造および骨格を理解してもらい、できるだけ物権法の基本的な制度および体系を理解してもらうよう講義を行っていく。それと同時に、判例で問題となった細かな事件やそれに対する判例・学説の考え方などを取り扱うことで、物権法および担保物権法に関する理解や考え方をよりいっそう深めてもらう。 また、事件を取り扱う際には、法律学は実用的な学問であるとの私の考えに従い、できるだけ紛争あるいは訴訟を念頭において訴訟がどのように進められているのかも考えながら講義を行っていく。 さらに、担保物権法では、金融取引における実務とあわせて考えるべき問題もあるので、できる限り金融実務の動きとあわせて講義を行う。</p> <p>2 授業内容<Course contents> 前期は、物権総論、占有権、所有権を中心に、後期は、担保物権を中心に講義をする。授業内容を大まかに述べるならば、以下の順序で行う。1. 物権法一般、2. 物権変動と登記、3. 占有権、4. 所有権（共有を含む）、5. 担保物権総論、6. 抵当権、7. 留置権、8. 先取特権、9. 質権、10. 非典型担保（譲渡担保を中心に） 前期は、2を中心に、後期は、6を中心に講義を行う。</p> <p>3. 使用教材<Teaching materials> テキスト：（Sシリーズ）淡路剛久ほか『民法（物権法）』（第3版）』（有斐閣） 参考書：さしあたり、『民法判例百選（第五版 新法対応補正版）』（有斐閣）を中心的な参考文献として用いるが、それ以外の参考書も用いる予定なので、それらに関しては授業中に適宜紹介する。</p> <p>4 成績評価の方法<Grading> レポートあるいは定期試験の結果に基づいて評価する。レポートにするか、試験にするかは、授業の実際の出席人数を見ながら決定する。詳細は、初回のガイダンスで説明する。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> 詳しい注意事項は、授業の初回で説明する。それゆえ、履修を希望する者は、必ずガイダンスに出席すること（やむを得ない事由により出席できない、あるいは、できなかった者は、直接研究室にきてその旨申し出ること）。いずれにせよ、ガイダンスその他授業中における説明を聞いていないために生ずる不利益は、各自が自ら負担すること。</p> | | | |

| 科目名<Subject> | 刑事法特講 <Topics in Criminal Law> | | |
|---|--|-----------------|-------------------|
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 一原 亜貴子 | <Akko Ichihara> | 研究室番号<Office> 508 |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>刑法のうち、各論について講義する。刑法各論は、刑法典の各則を中心とする各犯罪類型の個別的な成立要件を扱うため、具体的な事例や判例を数多く採り上げて進めていく予定である。なお、総論の知識を要するため、「刑法」の講義を履修済みであることが望ましい。PowerPointを使用することがある。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>(1) 個人的法益に対する罪</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生命に対する罪 ・ 身体に対する罪 ・ 自由に対する罪 ・ 秘密・名誉に対する罪 ・ 信用及び業務に対する罪 ・ 財産に対する罪 <p>(2) 社会的法益に対する罪</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共危険罪 ・ 取引の安全に対する罪 ・ 風俗に対する罪 <p>(3) 国家的法益に対する罪</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国家の存立に対する罪 ・ 国交に関する罪 ・ 国家の作用に対する罪 | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>以下に挙げるもののうち、いずれか1冊を用意すること。</p> <p>山口厚『刑法各論〔補訂版〕』（有斐閣） 西田典之『刑法各論〔第二版〕』（弘文堂）</p> | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>中間試験及び定期試験（いずれも筆記）の成績で評価する。</p> | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | <p>本講義は受講生の予習を前提として進める。使用教材に挙げたもの以外の参考書については、オリエンテーションで指示する。なお、最新の六法（小型のもので良い）を必携のこと。</p> | | |

| 科目名<Subject> | 国際法 <International Law> | | |
|---|---|----------------|-------------------|
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 佐古田 彰 | <Akira Sakota> | 研究室番号<Office> 357 |
| Office Hours | 随時(事前に電子メールで連絡を下さい) | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>国際法は、主権国家が並存する国際社会に妥当する法である。つまり、国際法は、それぞれの国家が自国の国益をぎりぎりまで追求し自国の持つあらゆる力をぶつけ合った結果として国家が納得づくの上で作られた法であって、決して空理空論でもなく、また必ずしも人類の理想を示しているわけでもなく、まさに国際社会の現実を反映した法である。</p> <p>本講では、そのような国際法の特徴や考え方について、判例や具体的な事例を取り上げながら、海洋法、国際経済法、国際刑事法、国際人権法、宇宙法といった国際法の各論を素材にして、説明する。受講者は、現実の国際社会における国際法の機能・有用性とその限界を理解してもらいたい。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>[1] 総論</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 国際法と国際社会 二 国際法の法源 三 国際法の主体 四 国際法と国内法 <p>[2] 国際法秩序の維持と確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 国際責任 二 国際紛争の平和的解決 三 国際の平和と安全の維持 | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>[3] 領域・空間の区分による国家管轄権の法構造</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 国家管轄権の意義 二 国家領域 三 海洋の区分 四 国際河川・国際運河・南極 五 空域・宇宙空間 <p>小田滋 = 石本泰雄編『解説条約集』三省堂 条約集と六法（小さいものでよい）は必ず持つてくること。</p> | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>出席点、試験及びレポートの総合評価による。</p> | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | <p>「2. 授業内容」で記した [3] は時間の余裕があれば行う。 この授業は出席重視である。</p> | | |

| | | | |
|--|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 国際機構論 <International Organizations> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 佐古田 彰 <Akira Sakota> | 研究室番号<Office> | 357 |
| Office Hours | 随時(事前に電子メールで連絡を下さい) | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3 使用教材<Teaching materials> 小田滋 = 石本泰雄編『解説条約集』(三省堂) | | |
| 国際機構は、国際社会の組織化現象の一つの到達点であり、現代国際社会を理解する上で避けることのできない重要な意義を有する。この授業では特に国連を素材にして、一般国際法の観点から国際機構の法的特質について説明する。 なお、国際機構を理解するには、法的な理論面からだけでなく実際面での知識も必要であることから、視覚教材を多く用い、また必要に応じて世界史(現代史)の話もする予定である。 | 4 成績評価の方法<Grading> 出席及び試験による。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 5 履修上の注意事項<Remarks> 「2. 授業内容」で記した [3] は時間の余裕があれば行う。 この授業は、国際法科目を履修済みであることを前提として行う。 | | |
| [1] 概説 | | | |
| 一 国際機構の概念 | | | |
| 二 国際機構の歴史 | | | |
| 三 国際機構論の方法論 ~ 国際行政法の視点から | | | |
| [2] 国際機構の法的特質 | | | |
| 一 国際機構の法主体性 | | | |
| 二 国際機構の組織内部関係 | | | |
| 三 国際機構の対外的法関係 | | | |
| [3] 国連の活動 | | | |
| 一 国際の平和と安全の維持 | | | |
| 二 国際人権保障 | | | |
| 三 日本と国連 | | | |

| | | | |
|--|--|---------------|------|
| 科目名<Subject> | 比較法 <Comparative Law> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 夏季集中 |
| 担当教員名<Name> | 篠田 優 <Yu Shinoda> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3 使用教材<Teaching materials> 授業開始時にプリント教材を配布する。 | | |
| 本講義では、比較法学という学問について一定のイメージを結んだうえで、永く日本の比較法学の考察対象であり続けている西洋法の輪郭を描き、非西洋法の二つの全く異なる具体例として社会主義法、日本法を西洋法に比較対置することによって、「法の認識」を深める一助とすることを目的とする。 | 4 成績評価の方法<Grading> 授業の最後に行なう試験、日に1~2回提出してもらったコメントの提出状況とその内容を総合的に考量して評価する。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 5 履修上の注意事項<Remarks> 比較法学は、基礎法学中最も実定法学に近い法学である。ゆえに、六法必携である。とはいえ、実定法学科目未修者の受講を拒むものではない。カリキュラム上の障害がなければ、実定法学科目未修者でも六法を準備すれば受講することができる。 | | |
| 第1章 比較法学という学問 | | | |
| 定義 法の認識と改善はどの法学分野でもやっていること、比較法学の独自性はどこにある? 比較法は「学」か? 比較法学の成果: 法系論と法文化論 日本の実定法学は実はみんな比較法 法科大学院への憂い | | | |
| 第2章 西洋法史概観 | | | |
| 西洋法の淵源: ローマ法、ゲルマン法、カノン法 民法 90 条・206 条、192 条 ローマ法の継受 ローマ法 v 慣習法 法典化 人権思想 | | | |
| 第3章 近代法とそれを支える文化 | | | |
| 個人の誕生 「闘争において汝の権利 = 法を見出せ」 | | | |
| 第4章 反あるいは超近代法の試みとしての社会主義法とその後 | | | |
| 法の死滅 | | | |
| 第5章 結びにかえて 現代法・日本法・比較法 | | | |

| | | | |
|--|----------------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 商法 <Commercial Law > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 道野 真弘 | <Masahiro MICHINO> | 研究室番号<Office> 522 |
| Office Hours | 研究室在室中は原則としていつでも可 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>会社法は、共同企業の典型的形態である会社組織の成立、運営、消滅をめぐる利害関係者（会社・出資者・経営者・債権者等）の利益調整を行う、企業活動に関する重要な法律である。本講では、このような会社法の知識を身につけ、会社法が実際の企業活動においてどのように機能しているかを知ってもらうことを目的として、学問上「会社法」と総称される部分の中でも特に重要な株式会社法の株式および機関を中心に説明する。なお昨年、「会社法」という名の法律が制定され、いわゆる会社法制の現代化がなされた。本年5月には施行される。</p> <p>講義はテキスト、レジュメを中心に、参考書等を参照しながら全体を概観できるよう体系的に進める予定である。</p> | | <p>講義ではパワーポイントファイル（HP にて一部公開中。改訂の可能性あり）に沿って進めることにする。先ほども述べたように本年5月に会社法が施行され、またそれを補完する政省令もそれにあわせて施行されるため、テキスト等については現段階では指定できない（5．参照）。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>おおよそ以下のとおりを考えている（進行状況によっては変更の可能性ある）。</p> <p>序章：商法入門、会社法入門</p> <p>第1章：会社総論</p> <p>第2章：株式会社</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．総論 2．株式 3．機関 4．その他 | | <p>定期試験による（中間・期末各100点計200点満点）。この点数によって（秀・）優・良・可を決するのが原則であるが、不定期で行う講義中の小テストなどを加味することがある。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>会社法は技術的な法律であり、独学では困難な面も多いので、極力講義に出席することを勧める。なお、会社法の改正（制定）により、六法は平成18年以降のものでないと無意味である。テキスト等も今後政省令等に準拠したものが出てくると思われるので、後期開講時のオリエンテーションで改訂版シラバスを配布する。</p> | |

| | | | |
|--|-----------------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 商法 <Commercial Law > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 玉井 利幸 | <Toshiyuki Tamai> | 研究室番号<Office> 530 |
| Office Hours | 随時。ただし、事前にメールで連絡すること。 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>商法総則・商行為法に関する基本的な法的知識の習得。</p> | | <p>未定。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>一．商法総則</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．商法の意義 2．商行為と商人 3．商業登記 4．商号 5．商業使用人 6．代理商 7．営業 <p>二．商行為</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．商行為法総則 2．商事売買 3．仲立営業・問屋営業 4．運送営業 5．倉庫営業 6．匿名組合 | | <p>定期試験による。授業中に小テストを行った場合は、その結果も加味する。その他の要素は考慮しない。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>レポート等の救済措置は一切行わないので注意すること。</p> <p>受講を希望する者は必ずガイダンスに出席すること。</p> | |

| | | | |
|--|-----------------------|--|-----|
| 科目名<Subject> | 商法 <Commercial Law > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 多木 誠一郎 <Seichiro Tak> | 研究室番号<Office> | 435 |
| Office Hours | 毎週月曜日14時30分～16時00分 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>手形法・小切手法に関する基礎を身につけることを目的にして、実際に問題になった事例を引用しながら、受講生の皆さんと一緒に考えていきます。</p> | | <p>(1)教科書 今井宏監修、新海兵衛編集『現代企業法講座5 手形・小切手法』(中央経済社、平成12年)</p> <p>(2)判例集 落合誠一 = 神田秀樹編『手形小切手判例百選』(有斐閣、第6版、平成16年)</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・総論 ・約束手形の振出 ・約束手形の裏書 ・約束手形の支払 ・約束手形の遡及 ・約束手形の保証 ・為替手形・小切手 | | <p>定期試験によります。なお課題・小テストについての評価を、加点要素にします。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>コツコツと地道に勉強していきましょう。</p> | |

| | | | |
|--|----------------------------|--|-----|
| 科目名<Subject> | 民事手続法 <Civil Procedure> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 河野 憲一郎 <Ken-ichiro KAWANO> | 研究室番号<Office> | 515 |
| Office Hours | 随時(但し、メール等にて事前に連絡すること) | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>私人間の権利義務関係をめぐる争いを最終的に強制的に解決するための制度である民事訴訟制度の構造とこれを規律する価値原理について学んでゆく。定評のある体系書を批判的に読みこなし、自らの力で研究を進めてゆけるようになることが本講義の最終的な目的である。</p> <p>講義方法は、伝統的なレクチャー・メソッドによる。毎回予習を行った上で、講義に出席し、きちんとノートを録って、適宜これを整理することが、民事訴訟法の理論体系を理解する上で近道である。</p> | | <p>期末試験の結果による。民事訴訟法上の基本的な諸概念を正確に理解し、必要に応じて適切な条文を引用した答案で、構成がしっかりとなされ、日本語として意味の通る文章で書かれたものであれば、良い評価が与えられるはずである。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| <ul style="list-style-type: none"> 第1章 総論 第2章 訴訟手続の開始 第3章 訴訟手続の進行 第4章 訴訟手続の終了 第5章 複雑訴訟 第6章 上訴・再審 第7章 略式手続 | | <p>標準的な大学における民事訴訟法の講義と同様に、民法総則、債権総論、債権各論に関する諸講義を履修済みであり、物権法総論に係る講義を履修中であることを前提に講義を進め、かつ期末試験の出題を行なう。加えて、本学では、他大学と比較して民事訴訟(手続)法に配当されている単位数は少ないため、授業のペースが多少早めにならざるをえない。よって、2年次での履修は、率直に言って、あまり望ましくはない(なお、2年次での本講義の履修を3年次において民事手続法ゼミを履修する上での前提条件とはしないことを付言しておく)。</p> <p>期末試験の解答については必ずペン書きによること(鉛筆・シャープペンシル不可)。</p> <p>私語、講義中の入室など他人の迷惑になる行為を行なった者に対しては即刻退室を命じる。また、講義中の指示に従わない者に対しては、定期試験の受験を認めない等の処分を行なう。以上の点を十分に了承した上で受講するようにしてください。</p> | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | | | |
| <p>教科書：中野貞一郎 = 松浦馨 = 鈴木正裕『新民事訴訟法講義』(有斐閣)及び伊藤眞 = 高橋宏志 = 高田裕成『民事訴訟法判例百選』(有斐閣)(いずれも最新版)を予定。</p> | | | |

| | | | |
|--|----------------------------|--|-----|
| 科目名<Subject> | 倒産処理法 <Bankruptcy> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 河野 憲一郎 <Ken-ichiro KAWANO> | 研究室番号<Office> | 515 |
| Office Hours | 随時 (但し、メール等にて事前に連絡すること)。 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>企業や個人が経済的に決定的に破綻した場合に、各種の権利者に対して公平かつ平等な弁済を行うとともに、当該企業や個人の経済的な立ち直りを確保するための法制度について講述する。2 単位の講義であること、学部レベルの講義であることに鑑みて、本講義では、これまで学んできた民法、商法、民事訴訟法についての理解を確認しつつ、倒産諸法制のうちでもっとも基本的な破産法についての体系的な理解を身につけることを目的とする（民事再生法、会社更生法等については概要のみを扱うこととする）。</p> <p>講義方法は、伝統的なレクチャー・メソッドによる。毎回予習を行った上で、講義に出席し、きちんとノートを取って、適宜これを整理することが、倒産処理法の理論体系を理解する上で近道である。</p> | | <p>教科書：伊藤眞『破産法』（有斐閣、第4版補訂版、2006年）及び青山善充＝伊藤眞＝松下淳一『倒産判例百選』（有斐閣、第3版、2002年）。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>序論</p> <p>第1部 破産法</p> <p>第1章 破産手続開始手続</p> <p>第2章 積極財産</p> <p>第3章 消極財産</p> <p>第4章 破産配当</p> <p>第5章 免責・復権</p> <p>第2部 企業再建型倒産手続</p> <p>第1章 民事再生・会社更生</p> <p>第2章 個人再生</p> | | <p>期末試験の結果による。倒産処理法上の基本的な諸概念を正確に理解し、必要に応じて適切な条文を引用した答案で、構成がしっかりとなされ、日本語として意味の通る文章で書かれたものであれば、良い評価が与えられるはずである。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>民法総則、債権総論、債権各論に関する諸講義を履修済みであり、物権法総論、担保物権法に係る講義を履修中であることを前提に講義を進め、かつ期末試験の出題を行なう。</p> <p>期末試験の解答については必ずペン書きによること（鉛筆・シャープペンシル不可）。</p> <p>私語、講義中の入室など他人の迷惑になる行為を行なった者に対しては即刻退室を命じる。また、講義中の指示に従わない者に対しては、定期試験の受験を認めない等の処分を行なう。</p> <p>以上の点を十分に了承した上で受講するようにしてください。</p> | |

| | | | |
|---|-----------------------|--|----|
| 科目名<Subject> | 経済法 <Antitrust Law> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 岡本 直貴 <Naoki Okamoto> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>この講義では、経済活動を規律する法（経済法）領域の中心とされる「独占禁止法」を取り上げる。独占禁止法の全体像を把握し、基本的な知識を習得することが、主たる目標となる。</p> <p>講義では、まず独占禁止法の目的及び基本概念を解説し、次いで規制類型ごとに具体的な法運用を検討する。独占禁止法は最近大改正がなされ、その内容及び法運用に対しても、社会的耳目が集まりつつある。そこでこの講義においても、判・審決の動向を踏まえながら、できるだけ最新のトピックを扱っていきたいと考えている。</p> | | <p>岸井ほか『経済法 - 独占禁止法と競争政策(第5版)』（有斐閣、近刊）厚谷襄児＝裨貫俊文編『独禁法審決・判例百選[第6版]』（有斐閣、2002年）。その他の教材・参考書については、講義のときに紹介する。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>講義内容は、概ね以下のとおりである。開講時により詳細な講義計画を配布する。</p> <p>(1) 独占禁止法の基本概念</p> <p>(2) 不当な取引制限</p> <p>(3) 私的独占</p> <p>(4) 企業結合</p> <p>(5) 不公正な取引方法</p> <p>(6) 独占禁止法の執行・実現</p> | | <p>定期試験の成績による。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | 最新の六法を用意すること。 | |

| | | | |
|--|--|---------------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 知的財産権法 <Intellectual Property Law> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 夏季集中 |
| 担当教員名<Name> | 才原 慶道 | <Yoshimichi Sahara> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>いわゆる知的財産権法のうち、主に特許法と著作権法を取り上げる。これらの概要を知ることによって、知的財産がどのように保護されているのかを理解する。</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | <p>(1) 知的財産権とは (2) 特許法 ア. 特許付与の手續 イ. 特許要件 ウ. 職務発明 エ. 特許発明の技術的範囲 オ. 均等論 カ. 間接侵害 キ. 包袋禁反言 ク. 無効の抗弁 ケ. 用尽 コ. 先使用権 サ. 並行輸入 (3) 著作権法 ア. 著作物性 イ. 著作者 ウ. 著作権の内容 エ. 著作権の制限規定 オ. 著作者人格権</p> | | |
| 3. 使用教材<Teaching materials> | 田村善之「知的財産法」(第4版、近刊、有斐閣) | | |
| 4. 成績評価の方法<Grading> | レポートを予定。 | | |
| 5. 履修上の注意事項<Remarks> | 講義には六法を持参すること。 | | |

| | | | |
|--|--|-------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 労働法 <Labor Law> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 本久 洋一 | <Yoichi Motohisa> | 研究室番号<Office> 518 |
| Office Hours | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>労働法の体系的理解を本講義の目的とする。授業は、一般的な講義形式による。講義では、現在の社会問題(賃下げ、解雇等のいわゆるリストラ、過労自殺、セクハラ、男女差別、不当労働行為、派遣等の不安定雇用等)を取り上げて、立法および裁判例において、どのような解決がはかられているかを説明し、検討する。なお、新立法、新判例には、講義中に積極的に対応する。</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | <p>一 労働法とはなにか 二 労働契約の成立・展開・終了 三 雇用における差別禁止・人格権保護 四 賃金と労働時間 五 労働組合および組合活動の保護 六 団体交渉とストライキ</p> | | |
| 3. 使用教材<Teaching materials> | <p>菅野和夫・西谷敏・荒木尚志編『労働判例百選[第七版]』別冊ジュリスト165号(2002年、有斐閣) 角田邦重・毛塚勝利・脇田滋編『新現代労働法入門[第3版]』(2005年、法律文化社)を用いる。講義場で使用するので、必ず持つてくること。</p> | | |
| 4. 成績評価の方法<Grading> | 定期試験の成績による。 | | |
| 5. 履修上の注意事項<Remarks> | 六法(『小六法』などの中型のもの)を必ず持つてくること。 | | |

| | | | |
|---|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 社会保障法 <Social Security Law> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 片桐 由喜 <Yuki Katagiri> | 研究室番号<Office> | 407 |
| Office Hours | 在室中随時。メールによる事前連絡があると確実。 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>本講義は社会保障制度について、まず基本的な知識の習得を目的とする。ところで、わが国の少子高齢社会現象や経済・社会状況の変化が、社会保障制度に直接的な影響を及ぼす。そのため、近年、個別制度の改正が進む。そこで、次に、かかる変化が立法政策にどのように反映されるかなども検討する。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>1 社会保障総論 2 社会保険 (1) 医療保険 (2) 年金保険 3 公的扶助 4 社会福祉 (1) 社会福祉総論 (2) 老人福祉 (3) 障害者福祉 (4) 児童福祉</p> | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>岩村正彦・菊池馨実『目で見ると見る社会保障法第三版』(有斐閣、2004年)</p> | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>試験。ただし、授業中に実施するミニテスト、などは積極的に評価する。</p> | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | <p>小六法必携。</p> | | |

| | | | |
|---|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 国際取引法 <International Business Law> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 中村 秀雄 <NAKAMURA, Hideo> | 研究室番号<Office> | 442 |
| Office Hours | 授業日の在室中随時 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>国際取引契約の理論を学ぶと共に、どのような形で実際に国際取引が行われるのかを、資料を使いながら勉強する。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>1. 国際取引で重要な役割を果たす英国法にもとづいて、国際取引契約法の基礎を学ぶ。 2. 「小樽商會がLondon Millennium Companyに機械を売却する」という取引モデルに従って、国際取引はどのように行われるか、契約書がどのように作られていくのかを学ぶ。</p> | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>中村秀雄 『国際取引法講義』 第2版</p> | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>定期試験の成績に、出席、授業中の発表態度、時々提出してもらったレポートの成績を加味して評価する。</p> | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | <p>国際取引に関心を持って、「自分が商人ならどう行動するか」を常に考えて授業にのぞんでほしい。「正しい答」より、「自分で考えた答」をもつことを期待する。 履修名簿に従って指名して意見を述べてもらうので、出席することが重要である。</p> | | |

| | | | |
|--|--|-------------|---------------|
| 科目名<Subject> | インターンシップ <Internship> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | ・ 通年 |
| 担当教官名<Name> | 遠藤薫・大矢繁夫・多木誠一郎・佐山公一・花輪啓一・鈴木将史 | | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> 企業、官公庁等での就業体験を通じて職業意識を養うとともに、実務に触れることにより学習意欲を向上させる。 | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| 2 授業内容<Course contents> 企業、官公庁等での実習（5日から2週間程度）が中心。実習の前の、講義・講習、実習後のレポート提出が義務づけられる。詳細は、5月に公表される「平成18年度インターンシップ教育プログラム」で明らかにされるが、だいたい、以下のスケジュールで行われる。 5月：オリエンテーション。「平成18年度インターンシップ教育プログラム」の公表 6月：事前講義 7月：ビジネスマナー講習。 8～9月：企業等で実習（原則として夏休み期間） 10月：成果レポート提出 12月：大学、学生、研修先による意見交換会 | 4 成績評価の方法<Grading> 上記の教育プログラムへの参加、レポートの評価等を総合的に考慮する。 | | |
| | 5 履修上の注意事項<Remarks> 科目の性格上、研修先は、4月以降にならなければわからない。その数も限られているので希望者がすべて履修できるわけではない。また、研修先は、必ずしも希望どおりとはならない。 募集は4月から5月にかけて行われるので、掲示に注意すること。 通常履修とは別の手続・方法で行われる。 キャップ制の対象とはならない。 実習は原則として夏休み期間に、講義・講習・レポート報告会等は通常的时间割とは別の日程や時間を使って行われるので、それに参加できることが条件である。 「総合科目（IT・グリーン講座）」を履修していることが望ましい。 | | |

社 会 情 報 学 科
学 科 科 目

| | | | |
|---|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | オペレーションズ・リサーチ <Operations Research> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 山本 充 <Mitasu Yamamoto> | 研究室番号<Office> | 411 |
| Office Hours | 在室時 (メールで事前に連絡を下さい) | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>オペレーションズ・リサーチ (OR) は、合理的な意思決定を行うための科学的な手法の学問体系であり、様々な最適化の手法があり、数式モデルにより最適解を求めて行く方法が基本となっている。本講義では下記に示した OR の代表的な手法を例題や演習問題により修得することを目的とする。</p> <p>講義の方法は、手法の解説、問題の解法を講義し、演習問題や課題を各自が解くことで進める。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>(1) ガイダンス</p> <p>(2) 在庫管理 発注点法, 定期発注法</p> <p>(3) 待ち行列 到着分布とサービス分布, 待ち行列のモデル化, 単一窓口, 複数窓口</p> <p>(4) 線形計画法 図解法, シンプレックス法, 双対性, 輸送問題, 最適配置問題</p> <p>(5) ゲーム理論 ゼロ和 2 人ゲーム, 純粋戦略, 混合戦略</p> | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | 長畑秀和著 『OR へのステップ』 共立出版 | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | 予習及び復習の課題 (毎回), 授業中の小試験 (不定期) により評価する。 | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | 2/3 以上の出席を必要とする (出席点は無い)。確率分布など統計学の基礎知識を必要とする。講義には電卓を用意すること (携帯電話の電卓機能は認めない)。 | | |

| | | | |
|---|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 統計科学 <Statistical Science> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 小笠原 春彦 <Haruhiko Ogasawara> | 研究室番号<Office> | 503 |
| Office Hours | 随時 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>トピックスは統計学を中心とする統計的推定・検定である。統計的推定とは限られた情報 (標本) から真の値 (母集団) を確率の指標とともに求める方法であり、検定とはデータから得られる結論の正しさを確率により判断する方法である。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>(1) 授業のねらい、計量的方法の意義と導入</p> <p>(2) 仮説検定の考え方、帰無仮説と対立仮説、p 値と危険率、両側検定と片側検定、2 種の誤り</p> <p>(3) 平均の検定 (分散既知) と正規分布</p> <p>(4) スチューデント化統計量と t 分布</p> <p>(5) 分散の検定とカイ自乗分布、等分散の検定と F 分布</p> <p>(6) ノンパラメトリック検定、順位和とその分布</p> <p>(7) 分散分析一元配置モデル・分散分析表、平方和の期待値</p> <p>(8) 自由度と検定統計量</p> <p>(9) 分散分析二元配置モデル・分散分析表</p> <p>(10) 要因の交互作用</p> <p>(11) アンバランス型データの処理</p> | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | スライドを使用する。 | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | 主に試験の結果による。 | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | 当授業は統計の入門コースを修了した者、あるいは以前に統計の勉強をしたことがあるものを対象にした統計学のコースである。 | | |

| | | | | | |
|---|---|-----------------------|---|----------------------------|--|
| 科目名<Subject> | 計画数学 | | | <Programming Mathematics > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 | |
| 担当教員名<Name> | 行方 常幸 | <Tsuneyuki Nam ekata> | 研究室番号<Office> | 524 | |
| Office Hours | 火曜日13:00から14:30 | | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>社会現象を数理的に分析する際に、簡略化して線形（1次）近似を行うことが多い。その線形モデルを扱うときに必要となるのが、高校時代から学習し始めたベクトル、行列、等を扱う線形数学である。この授業では数値例を利用しながら、線形数学の基礎を学習する。授業内容の提示に情報機器（プロジェクタ）を主に利用する。内容の理解を深めるため、情報処理センターでパソコンを利用した演習を数回行う予定である。</p> | | <p>3.使用教材<Teaching materials> 授業の開始（オリエンテーション）時に連絡する。</p> <p>4.成績評価の方法<Grading> 定期試験の成績による。（演習時に課すレポートの提出により、10点未満の差で可にならない場合の救済措置あり。）</p> <p>5.履修上の注意事項<Remarks> 情報処理センターの利用申請をしておくこと。</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | <p>ベクトルと行列 行列式 行列の階数 連立1次方程式 固有値とその応用</p> | | | | |

| | | | | | |
|---|---|------------------|--|----------------------------|--|
| 科目名<Subject> | 計画数学 | | | <Programming Mathematics > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 後期 | |
| 担当教員名<Name> | 石井 利昌 | <Toshimasa Ishi> | 研究室番号<Office> | | |
| Office Hours | 在室中ならいつでも可 | | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>本科目では、微分・積分についての講義を行う。</p> <p>微分・積分は、経済問題や社会現象の解析においても必須のものとなっている。</p> <p>例えば、経済現象を関数で表わし、その増加・減少の状態を調べたり、最大値・最小値を求めることが多いが、そのために微分・積分は有用である。</p> <p>下記の授業内容を通して微分・積分の基礎について理解し、基本的な計算が行えるようになることを目的とする。授業方法については、基本的には講義形式で、適宜レポート課題を与える。</p> | | <p>3.使用教材<Teaching materials> <参考資料> 「微分積分学の基礎」 水本久夫 著 培風館</p> <p>4.成績評価の方法<Grading> 定期試験及びレポートにより評価する。</p> <p>5.履修上の注意事項<Remarks></p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | <p>微分法 テイラー展開 偏微分法 不定積分と定積分 微分方程式</p> | | | | |

| | | | | |
|---|--------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 応用統計 | <Applied Statistics> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | . | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 小笠原 春彦 | <Haruhiko Ogasawara> | 研究室番号<Office> | 503 |
| Office Hours | 随時 | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>多変量解析の手法である回帰分析法・主成分（因子）分析法を主に扱う。当授業は既に統計の入門コース及び概論コースを修了した者を対象とする。多変量解析とは多数の変量からなるデータから有用な情報を効率よく計量的に得る統計的手法のことである。</p> | | <p>スライドを使用する。参考図書：永田靖・棟近雅彦「多変量解析法入門」サイエンス社</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>(1) 授業のねらい、行列計算の基礎 (2) 回帰分析の各手法（単回帰分析・重回帰分析・多変量単（重）回帰分析） (3) 回帰分析モデルにおける仮定、パラメータとパラメータの推定 (4) 回帰係数の推定量の分布、回帰における推定誤差、重相関係数と自由度 (5) 数量化理論Ⅰ類、偏相関係数とパス解析 (6) 主成分分析と対称行列の固有値・固有ベクトル・スペクトル分解、データ行列の特異値分解 (7) 成分の分散の最大化、成分の分散の規準化、成分を求めるウェイト (8) 成分負荷の推定、パワー法による固有値・固有ベクトルの解 (9) 残差行列と対応する成分 (10) 因子分析モデル、共通因子・独自因子・特殊因子・測定誤差</p> | | <p>主に試験の結果による。</p> | | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>初等解析及び線形数学の基礎の知識があることが望ましい。</p> | | |

| | | | | |
|---|----------------------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 社会計画 | <Social Planning> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | . | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 大津 晶 | <Shouhitsu> | 研究室番号<Office> | 428 |
| Office Hours | 在室時は随時、事前にメール等で確認することを勧める。 | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>本講義は都市・地域計画において調査、分析、計画、評価の各局面で用いられる理論を学び、身の回りの諸問題を題材とした演習とプレゼンテーションを通じて、よりよい社会環境を計画する手法を習得することを目的とする。講義の各テーマごとに分析手法の解説と問題演習を繰り返し、講義で学習した手法を用いて各自の興味に応じた題材の分析が課される。課題作品のプレゼンテーションとディスカッションを通じて、分析手法の理解度および効果的な提案能力の向上を図る。受講者数などを考慮してグループワークを課す可能性もある。なお例年「小樽・札幌再発見」、「ポロノイ図を用いた施設配置の分析」、「最短経路問題を利用したネットワークの分析」などを課題としている。</p> | | <p>教科書は特に指定しない。講義中に適宜資料を配付し、内容に応じた参考文献等を紹介する。受講者は各自、定規、コンパス、電卓を準備する必要がある。</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・都市・地域の調査・分析方法 ・空間データの分析 ・地域人口の分析 ・施設密度の分析 ・施設配置の分析 ・道路網の分析 ・空間特性の分析 ・地域構造の分析 ・公共政策の分析 ・トピックス | | <p>講義への出席、課題作品、プレゼンテーション、講義・討論への参加を総合的に評価する。詳細は初回の講義で説明する。</p> | | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>本講義の受講者は単なる知識の習得にとどまらず、自分の手を動かして作業すること、課題作品を効果的に表現すること、他者の主張に対して適切にコメントすること、などの能動的・双方向的参加態度を求められる。その他、資料等の各種情報は講義用ウェブサイトを通じて提供するので注意すること。</p> | | |

| | | | |
|--|------------------------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 計画科学 | <Management Science> | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 奥田 和重 | <Kazusige Okuda> | 研究室番号<Office> 326 |
| Office Hours | 在室中であればいつでも可(事前にメール等で連絡すること) | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 5. サプライチェーンと制約理論 | |
| <p>目的：“もの(情報, サービスを含む)”造りのシステムである生産システムの計画・運用・管理に関してその意義, 現在の主要技術・方法論, 今後のあり方などについて総合的に理解することを目的とする。</p> <p>方法：後期開講科目であることから週2回の授業がある。そこで週2回の授業を一まとめ(モジュール)として扱い, 7モジュールで授業計画を構成する。各モジュールは次の「予習」「授業」「復習」で構成する。</p> <p>予習＝事前に教科書を読み, 疑問点を整理しておくこと。</p> <p>授業＝講義形式とする。モジュール毎に演習を15分程度実施する。質問は随時受け付けるが授業終了時に配布するコメントシートに記入してもよい。</p> <p>復習＝モジュール毎に宿題を課すので問題を解き, レポートにまとめて次回のモジュールに提出すること。</p> | | SCM(サプライチェーンマネジメント), TOC(制約理論) | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>1. 生産管理概論 生産と生産管理, 生産管理の構成, コンピュータによる生産管理</p> <p>2. 生産計画 需要予測, 全般的生産計画, 生産数量解析, 日程計画</p> <p>3. 生産管理 品質管理, 在庫管理, 工程管理</p> <p>4. MRPとJIT MRP(資材所要両計画), Just-In-Time(JIT)</p> | | <p>プリントを適宜配布する。</p> <p>参考図書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AC.D.J.Waters: An Introduction to Operations Management, Addison-Wesley, (1991) ・人見勝人：新・生産管理工学, コロナ社, (1997) ・人見勝人：入門編生産システム工学, 共立出版, (1994) | |
| | | 4. 成績評価の方法<Grading> | |
| | | <p>定期試験ならびに数回の課題(レポート, 小テスト, 演習等)にもとづき総合的に評価する。</p> <p>成績 = 0.6 × (定期試験の平均点) + 0.4 × (レポート, 小テスト, 演習等の平均点)</p> | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>・成績評価の条件は, 全授業回数の2/3以上出席していることである。2/3以上出席していなければ成績評価の対象としない。</p> <p>・出席は, 毎回授業終了時に配布するコメントシートの提出で確認する。</p> <p>・第1回目の授業でオリエンテーションを行うので, 履修希望者は必ず出席すること。オリエンテーション時に詳細なシラバスを配布し説明する。</p> <p>・真摯な態度で受講すること</p> | |

| | | | |
|---|-----------------|--|-------------------|
| 科目名<Subject> | 意思決定論 | <Decision Theory> | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 行方 常幸 | <Tsuneyuki Nam ekata> | 研究室番号<Office> 524 |
| Office Hours | 火曜日13:00から14:30 | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>社会生活において私たちは自分の利益と他人の利益が複雑に入り組んだ状況で日々の意思決定を行っている。このような状況を単純化し数理的に扱う試みであるゲーム理論を参考に, 物事を公平に扱うにはどうすべきか? 自分の利益をなるべく多くしたい人が集まった場合, 結果としてどのような状況になるのだろうか? 等を数値例を通じて学習する。授業内容の提示に情報機器(プロジェクタ)を主に利用する。手計算で解けない問題を情報処理センターのパソコンを利用して解く演習を数回行う予定である。</p> | | <p>授業の開始(オリエンテーション)時に連絡する。</p> | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>公平性の様々な表現</p> <p>足りない物を参加者に分けるには?</p> <p>部分提携が意味を持つ場合に全体の利益をいかに分けるか?</p> <p>投票による意見の集約, 等</p> <p>非協力ゲームとナッシュ均衡</p> <p>社会的ジレンマと様々な解消法</p> | | <p>定期試験の成績による。(演習時に課すレポートの提出により, 10点未満の差で可にならない場合の救済措置あり。)</p> | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>情報処理センターの利用申請をしておくこと。</p> | |

| | | | | |
|--|--------------|-------------------------------------|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 経営システム基礎 | <Introduction to Business System s> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 平沢 尚毅 | <Naotake Hirasawa> | 研究室番号<Office> | 358 |
| Office Hours | 在室中であればいつでも可 | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>本講義では、企業の仕組み全般を、それぞれの仕組みの位置付けや相互関係などについて理解し、記憶にとどめていただくことを目的としている。その理由は、今後の（2年次あるいは3年、4年次における）企業経営・運営にかかわる専門科目の内容を個別独立したものとして覚えるのではなく、それぞれが有機的に連繋しているものとして、理解するための基礎・基盤知識を形成するためである。</p> <p>前半の講義の内容は、企業における業務の仕組みや組織の仕組み、組織運営（経営）の仕組み、業績評価の仕組み等であり、今後の企業に期待される方向性などについても言及する。これらを踏まえて、後半では、経営システムのモデル化に関する演習を行う。モデルの記述には、UMLを応用する。</p> | | <p>・ 必要資料を適宜配布</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：会社の設立と機関の仕組み</p> <p>第3回：業務（仕事）および組織の仕組み</p> <p>第4回：経営（組織運営）の仕組み</p> <p>第5回：経営体質と会社変革要因</p> <p>第6回：経営を支える情報システム （第6回の講義の後、中間試験を実施する）</p> <p>第7～14回：経営システムモデルの演習</p> | | <p>・ 中間試験、出席およびレポート</p> | | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>・ 中間試験にパスした者が後半の演習を受けることができる</p> | | |

| | | | | |
|--|-----------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 情報システム管理論 | <Information System Management> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 持田 泰昭 | <Yasuaki Mochida> | 研究室番号<Office> | 408 |
| Office Hours | 随時、特に本講義前後の各1時間 | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 後半) | | |
| <p>本授業の前半では、情報システムとその構成に関する基本を学ぶ。後半では、情報システムのライフサイクルプロセス（構築プロセス）とともに、企画・開発・運用・保守・活用のために必要となる基礎知識を習得することを目的とする。特に、ソフトウェア開発に焦点をおく。</p> <p>授業方法は資料、プリント等を教材とした講義方式とするが、演習問題も課す。</p> | | <p>(4) 情報システム開発モデル：3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウォータフォールモデル ・ プロトタイピング ・ スパイラルモデル <p>(5) 情報システム構築の基礎：5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画プロセス ・ 伝統的な開発プロセス 要件分析 システム設計，プログラム設計 プログラミング 単体テスト，結合テスト ・ 運用 / 保守プロセス <p>最終回：試験</p> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>第1回目：オリエンテーション</p> <p>前半)</p> <p>(1) 情報システムとは：1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットなどの今日の特徴 ・ システム形態の変遷と進化 <p>(2) コンピュータハードウェア：2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータの構造 ・ CPU、記憶装置の仕組み ・ 2進数による内部表現 <p>(3) ソフトウェア：3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ソフトウェアの機能階層 ・ オペレーティングシステム（OS） ・ OSにおけるハードウェア資源管理（CPU、メモリの仮想化） | | <p>資料やプリント等をほぼ毎回配付する。</p> | | |
| | | 4. 成績評価の方法<Grading> | | |
| | | <p>試験の成績を重視するが、出席状況、学習姿勢等を総合的に評価する。</p> | | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>資料やプリントの配付は原則として講義時間帯のみとする。</p> | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-------------|------------------------|-----|-------|-----|------------------------|-----|---------------------|-----|---------------|-----|--------|------|------------------------|-----|--------------------|------|-------------|-----|-------------------|------|-----------|-----|------------------------|------|----------------|
| 科目名<Subject> | プロジェクト実践論 <Practice of Project> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員名<Name> | 酒井弘一 平沢尚毅 <Koichi Sakai/Naotake HIRASAWA> | | 研究室番号<Office> 337/358 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Office Hours | 在室中であればいつでも可 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>(授業計画)</p> <table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンス</td> <td>第8回</td> <td>プロジェクト進行のための基礎技能に関する説明</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>プロジェクト管理の基礎技能に関する説明</td> <td>第9回</td> <td>中間報告プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>グループ分け</td> <td>第10回</td> <td>プロジェクト進行のための基礎技能に関する説明</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>プロジェクト実施計画作成に関する説明</td> <td>第11回</td> <td>最終プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>実施計画に関するプレゼンテーション</td> <td>第12回</td> <td>個人レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>プロジェクト進行のための基礎技能に関する説明</td> <td>第13回</td> <td>プロジェクト管理に関する総括</td> </tr> </table> <p>上記授業計画の内容などは、授業の進捗（進み具合）などによって変更される可能性もあります。</p> | | | 第1回 | ガイダンス | 第8回 | プロジェクト進行のための基礎技能に関する説明 | 第2回 | プロジェクト管理の基礎技能に関する説明 | 第9回 | 中間報告プレゼンテーション | 第3回 | グループ分け | 第10回 | プロジェクト進行のための基礎技能に関する説明 | 第4回 | プロジェクト実施計画作成に関する説明 | 第11回 | 最終プレゼンテーション | 第5回 | 実施計画に関するプレゼンテーション | 第12回 | 個人レポートの提出 | 第6回 | プロジェクト進行のための基礎技能に関する説明 | 第13回 | プロジェクト管理に関する総括 |
| 第1回 | ガイダンス | 第8回 | プロジェクト進行のための基礎技能に関する説明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2回 | プロジェクト管理の基礎技能に関する説明 | 第9回 | 中間報告プレゼンテーション | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3回 | グループ分け | 第10回 | プロジェクト進行のための基礎技能に関する説明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4回 | プロジェクト実施計画作成に関する説明 | 第11回 | 最終プレゼンテーション | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5回 | 実施計画に関するプレゼンテーション | 第12回 | 個人レポートの提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第6回 | プロジェクト進行のための基礎技能に関する説明 | 第13回 | プロジェクト管理に関する総括 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>現実社会は、人々が「何かことを成す」ことによって動いています。人を動かし、目的を達成するための知識は、本を読んだり授業を聞くだけでは身につかず、自分で積極的に活動し、プロジェクトに参加しなければ、得ることができません。</p> <p>本授業では、参加者のグループワーク（擬似プロジェクトへの参加）が必須となります。したがって授業時間以外（土日等の休日も含む）の活動が必要となります。受講生同士の授業時間以外のスケジュール調整やリーダーシップの発揮に「真剣に」取り組みことが求められます。</p> <p>この授業では、そうした実践を通じた知識の体得を目標に置いています。大学の授業形態の仕組みを自ら変えていくくらいの気持ちで参加して下さい。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>・必要に応じ、資料、シートを配布。参加者が準備しななければならないものもあるが、その都度指示します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>・擬似プロジェクトの成果と個人レポートが中心となります。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | <p>1) 掲示を出すので、受講希望者は、掲示版に注意すること。 2) 他の参加者の迷惑になるので、安易な気持ちで履修届けを出さないこと。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 前週の宿題 | グループワーク | 10 次週の宿題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---|--|-------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 組織コミュニケーション論 <Communication Theory in Organizations> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 阿部 孝太郎 <Kotaro Abe> | | 研究室番号<Office> 514 |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>学生が、作文やプレゼンテーションなどに積極的に参加することによって、実践的な知識・技術を学んでいくようにする。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>世界標準の内容に従いつつ、日本固有の状況を考慮して話を進める。ただし、社会情報学科の講義ということも考慮して、パワー・ポイントの利用、電子会議、Computer Mediated Communication などのトピックにできるだけ触れるようにする。</p> <p>レベルは、入門・初級・中級程度を想定しているため、前知識はあまり必要ない。</p> <p>具体的なテーマとしては、以下のものを予定。</p> <p>第一回目～三回目 説得をはじめとするビジネス・コミュニケーション</p> <p>第四回目 ビジネス・ライティング</p> <p>第五回目 ライティングの添削</p> <p>第六回目～八回目位 スピーキング・プレゼンテーション</p> <p>第八回目以降 (電子)会議、異文化コミュニケーション等について</p> | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>・メインのテキスト 授業開始時に配付するオリジナルのプリント</p> <p>・参考文献 メアリー・ムンター監修 ハーバード・ビジネススクール・プレス編 『ハーバード・ビジネススクール・エッセンシャルズ<4>対話力』(講談社)</p> | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>作文、プレゼンテーション、小テスト(授業時間内に二、三回程度)等による。</p> | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | <p>全員がパソコンに触れる環境が望ましいが、受講人数が多い場合、パソコンを使う機会が減ることが予想される。</p> | | |

| | | | |
|---|--|-------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | デジタルデザイン論 <Theory of Utilizing Digital Media for Business > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 平沢 尚毅 | <Naotake HRASAWA> | 研究室番号<Office> 358 |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>情報通信技術の発展は、種々の情報のデジタル化を促進し、情報伝達の可能性が広がっている。その特徴は、マルチメディア性とインタラクティブ性にある。この講義では、企業や行政などの組織体が Web サイトを通じて、意図した情報を発信することを前提とした擬似的なプロジェクトを通じて情報デザインの基本を学習してゆく。授業の形式は、『プロジェクト実践論』に準拠した形で行うので、講義時間以外のグループワークが主体になる。基本的な流れは、次のようになる。</p> <p>数名のグループに分かれ、指定されたテーマについて企画案を作成し、調査を実施し、その結果に基づいて、プロトタイプを作成する。さらに、これを評価する計画を作成し、評価を実施し、最終報告としてまとめる。対象とする Web は、企業、個人経営、行政など、対象を限定しないが、実際にあるものを対象とする。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>第1回 ガイダンスおよびグループ分け 第2回 Web システムとデジタルコンテンツに関する解説 第3回 Web システム企画プロジェクト概要の作成 第4回 企画報告会 第5～6回 システムの要求分析 第7回 中間報告会</p> | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>第8～10回 概要設計 第10～12回 詳細設計 第13回 最終報告会</p> <p>必要に応じて、資料などを配付。</p> | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>プロジェクトの成果と個人レポートによる。</p> | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | <p>1) 受講希望者には、事前に宿題を提出させるので、掲示板に注意すること。 2) 情報処理センターを利用する場合があるので、必ず、利用申請を完了しておくこと。コンピュータを利用するので、最低限のリテラシーを習得していることを前提としている。</p> | | |

| | | | |
|---|--|---------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | ビジネスデザイン論 <Theory of Business System Design> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 酒井 弘一 | <Koichi Saka> | 研究室番号<Office> 337 |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>注意：本科目の履修者は前期の応用プロジェクト方法論も同時に履修すること。この授業だけの履修は、評価されないので、気をつけること。</p> <p>この授業では、地域企業の経営モードを革新するための、ビジネスデザイン構築プロジェクトを行う。</p> <p>プロジェクトの実施には学生同士のグループワークが必須になる。授業時間以外（土日、冬休みも含めて）の活動もかなり必要である。</p> <p>毎週宿題が出る。やってこないと、その週の議論に参加することが困難になり、成績評価に影響する。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>毎週、ビジネスデザイン立案に関する宿題が出され、その内容のディスカッションを行う。</p> <p>先輩の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶことの方が変わった ・結果だけではなく、授業に参加したプロセスが学生の財産になる ・真剣に取り組めば、5 倍の知識が得られる ・自分の暮らしを変えたい人に勧める | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>毎週課題を配布</p> | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>グループプレゼンテーション並びに授業参加者の相互評価。企業戦略のプロジェクト実施には4ヶ月以上の準備を要求される。</p> | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | <p>夏休みから実質開始になるので、注意すること。地元企業の迷惑にもなるので、やり抜く覚悟のないものは履修届を出さないこと。グループワークでは本音の議論も避けられなくなるので、気持ちの覚悟もして参加すること。昨年度の受講生から感想を聞いておくことが望ましい。</p> | | |

| | | | | |
|---|--|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 組織情報論 | <Information Theory for Organizational> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | . | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 阿部 孝太郎 | <Kotaro Abe> | 研究室番号<Office> | 514 |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>企業情報化において、エンジニアではなく、マネジャー・サイドから何をすべきかといったテーマについて、実践的知識・理論を学ぶ。できるだけ、グループ・ディスカッション及びそれを元にしたプレゼンテーションと、小テスト(実施、添削・解説)を行う。</p> | | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>世界標準の内容に従いつつ、日本固有の状況を考慮して、具体的な事例(できるだけ日本の)を紹介しながら話を進める。レベルは、専門課程の初級・中級程度(一部・上級)を想定している。具体的なテーマとしては、以下のものを予定。</p> <p>第一回目 ~ 二回目 情報システムと経営戦略 第三回目 IT(Information Technology)の組織に対するインパクト 第四回目 ITと労働のデザイン 第五回目 ITとビジネスプロセスの変化 第六回目 インターネット上のビジネス 第七回目 ナレッジ・マネジメント 第八回目 プロジェクト・マネジメント 第九回目 ITと会計 第十回目 情報と倫理</p> | | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>・メインのテキスト 授業開始時に配付するオリジナルのプリント ・参考文献 ボイエット&ボイエット『経営革命大全』日経ビジネス人文庫</p> | | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>グループ・ディスカッションの発言(プレゼン)、小テストによる。</p> | | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | <p>経営学の初歩的な知識を有し、なおかつ、すでに「組織コミュニケーション論」の単位を履修していることが望ましい。前知識なしに受けると、「やや難しい」と感じるようだ(前年度アンケートより)。</p> | | | |

| | | | | |
|---|--|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 社会情報論 | <Introduction to Social System in the Information Age> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | . | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 出川 淳 | <Atsushi Degawa> | 研究室番号<Office> | 538 |
| Office Hours | 木曜日14:30~17:30 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>本講義では、社会や地域、コミュニティなどで流通している情報(社会情報)について理解を深め、それらを有効活用するためのスキルや改めるべき態度について学ぶことを目的としています。換言すると、情報が氾濫している現代において上手に情報を入手しそれを活用する技能の獲得とその必要性の理解です。具体的には、時事問題、政治・行政関連情報、経済関連情報などの社会的・国際的な情報、自治体(都道府県、市町村)関連の情報、および生活者・住民にとって最も身近なコミュニティの応報などが対象となりますが、理解やスキルの獲得、社会人として必要な態度・考え方への自己変革の方法は、主に、受講者皆さんの自発的な“考察”に拠ります。そのため、宿題やレポートが多く出されます。</p> | | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>1回：ガイダンスおよび5年後の自分に必要となるスキルについての考察 ・情報入手・取捨選択の方法や情報の理解・活用の要件に関する概要 など ・5年後の自分に必要となるスキルについての考察 2~4回：社会人として必要とされる適切な判断力について ・社会人として必要な判断力と判断に必要な情報・知識・技能</p> | | | |
| 5~7回：TVから提供される情報について | <p>・ニュース番組で提供される情報 ・討論番組で提供される情報 など</p> | | | |
| 8~10回：新聞から提供される情報について | <p>・見出情報と内容の理解 ・社説 など</p> | | | |
| 11~13回：社会やコミュニティにおける情報発信について | <p>・社会やコミュニティのあるべき姿 ・社会人としての情報発信、受信のあり方(コミュニケーション)</p> | | | |
| 14回：社会人としての情報の有効活用について | | | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | <p>・資料を適宜配布 ・ビデオ ・HP</p> | | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | <p>・出席、授業への参加度、宿題、レポート等</p> | | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | <p>・特になし</p> | | | |

| | | | | |
|--|-----------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 情報システム構築論 | <Information Systems Constructing> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | . | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 持田 泰昭 | <Yasuaki Mochida> | 研究室番号<Office> | 408 |
| Office Hours | 随時,特に本講義前後の各1時間 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | (4)伝統的システム設計方法 | | |
| <p>情報システム構築のための代表的な方法論や技法を習得することを目的とする。具体的には、情報システム管理論(2年次科目)で学んだ伝統的な構築プロセスや技法について、その問題点を再整理するとともに、より実践的で今日的な構築方法について学ぶ。そこでは、特にソフトウェア開発プロセスに着目する。また、伝統的な構造化技法とオブジェクト指向技法によるシステム設計の比較評価をケーススタディにより行う。</p> <p>授業方法は講義方式とするが、演習も含む。</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・ トップダウン的アプローチ ・ 構造化技法による簡単な演習 ・ 問題点 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | (5)オブジェクト指向へ(背景) | | |
| 第1回目:オリエンテーション | | (6)オブジェクト指向開発の基本 | | |
| (1)ソフトウェア開発プロセスとは | | <ul style="list-style-type: none"> ・ オブジェクト, クラス ・ オブジェクトまたはクラス間の関係 ・ メソッド ・ 属性 など | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ ソフトウェアエンジニアリング ・ プロセスフレームワーク | | (7)オブジェクト指向モデリング | | |
| (2)プロセスモデルの進化と変遷 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ システム構造設計の簡単な演習 オブジェクト抽出, クラス化, クラス間関係の定義 ・ 従来方法との比較 ・ オブジェクト指向の効果 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ ウォータフォールモデル ・ インクリメンタルモデル ・ 進化型モデル ・ 統一プロセス ・ 規範的プロセスからアジャイルへ | | 最終回:試験 | | |
| (3)統一プロセスの特徴 | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ ソフトウェア開発の実践原則 ・ プロセスの表現(ワークフロー) ・ 反復型開発(フェーズ) ・ ユースケース主導開発 | | 資料やプリント等をほぼ毎回配付する。 | | |
| | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| | | 試験の成績を重視するが、出席状況、学習姿勢等を総合的に評価する。 | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | 資料やプリントの配付は原則として講義時間帯のみとする。 | | |

| | | | | |
|---|-------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 応用プロジェクト方法論 | <Advanced Methodology of Utilizing Project for Corporate Innovation> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | . | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 酒井 弘一 | <Koichi Saka> | 研究室番号<Office> | 337 |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>注意:本科目の履修者は後期のビジネスデザイン論も同時に履修すること。この授業だけの履修は、評価されないので、気をつけること。</p> <p>この授業では、実際に身近な組織の戦略を策定し、提言するプロジェクトを実施する。具体的な企業経営事例の議論を中心に、応用プロジェクトの前提となる経営戦略の基本的理解を深める。</p> <p>毎週宿題があり、発表、報告が課せられる。やっとなないと、その週の議論に参加することが困難になり、成績評価やプロジェクトの結果に影響する。</p> <p>参加者のグループワークが必須になる。はじめの数回の授業を欠席し、グループに所属できなかったものは評価対象外となるので気をつけること。連休明けに出ても遅い。</p> <p>後期のビジネスデザインプロジェクトの準備もあり、授業時間以外(土日、夏休みも含めて)の活動も相当必要なので、覚悟して履修すること。</p> | | 毎週事例を配布 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| 先輩の感想 | | グループプレゼンテーション並びに授業参加者の相互評価 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 戦略を実際に組むことで今までと違った考え方が身についた ・ 後期に他の大学生のリーダーとなるので、その準備になる ・ 宿題やグループワークは大変だが、就職活動やその準備にも役立つ ・ 3年生で履修しておけば、学生生活が少しは変わったと思う | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | 他の参加者の迷惑になるので、他のことで忙しいものは履修を考えない方がよい。オリエンテーションの日程に関わらず実質的に授業に入るので情報を集め気持ちを固めておくこと。昨年度の受講生から感想を聞いておくことが望ましい。 | | |

| | | | | |
|---|--------------|-------------------------------------|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 知識科学基礎 | <Introduction to Knowledge Science> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 | |
| 担当教員名<Name> | 木村 泰知 | <Yasutomo Kimura> | 研究室番号<Office> | 506 |
| Office Hours | 在室中であればいつでも可 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>人間と同等の処理能力を有するコンピュータを実現させるために、数多くの研究が行われてきた。</p> <p>例えば、英語から日本語へ翻訳する機械翻訳、音声からテキストへ変換する音声認識、他にも自然言語理解などがあげられる。</p> <p>これらの実装には、コンピュータ内部における知識の表現方法を考える必要がある。</p> <p>講義の目的は、知識表現及び、その応用方法を理解することである。</p> | | <p>プリント教材を配布する。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・人工知能の歴史 ・コンピュータにおける知識表現 ・意味解析 ・音声認識 ・翻訳処理 ・対話処理 ・情報検索 ・エキスパートシステムの基礎 ・ニューラルネットの基礎 ・遺伝的アルゴリズムの基礎 | | <p>レポート、定期試験により評価</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | | |
|--|------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 情報処理 | <Information Processing> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 前期 | |
| 担当教員名<Name> | 中村 隆志 | <Takashi Nakamura> | 研究室番号<Office> | 316 |
| Office Hours | 在室中ならいつでも可 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 10) C++Builder による Windows アプリケーション作成 | | |
| <p>パソコンの普及と優れたアプリケーション・ソフトウェアの出現により、プログラミングは不要の時代になったと言われる。しかし、これはあくまでエンドユーザの話であって、ソフトウェア開発においては、当然ながらプログラミングは重要である。計画科学の分野でも、最適化問題解法アルゴリズムの開発等にはプログラミングに関する考え方が必要不可欠となる。したがって、社会情報学科に所属する学生にとってプログラミングは避けて通れないものである。</p> <p>この授業では、プログラムの基本的な作成方法をマスターすることを目的として、講義・実習を行う。使用するプログラミング言語はCで、Borland社のC++Builderを利用する。変数、配列やポインタの概念、プログラムの制御構造、関数などのプログラミングの基礎を学習する。また、オブジェクト指向とC++の初歩についても学び、C++Builder 本来のWindows アプリケーション作成法にもふれる。</p> | | <p>3 使用教材<Teaching materials></p> <p>[テキスト] 大石弥幸：「例題で学ぶC言語の基礎[第2版]」、ムイスリ出版</p> <p>[参考書] 柴田望洋：「定本 明解C言語 入門編」、ソフトバンクパブリッシング</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1) プログラミング言語と処理系 2) 入出力と演算 3) 分岐 4) 繰り返し 5) 配列と文字列 6) ポインタ 7) 関数 8) 構造体 9) オブジェクト指向とC++ | | <p>試験、ならびに実習への出席、実習課題の提出状況により、総合的に評価する。</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>授業は次のように半期制で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間2講のうち、1講は1クラスで講義教室を使い、講義主体の授業を行う。もう1講は情報処理センター実習室で実習主体に行う。実習は履修者が110人以下の場合には1クラスで、110人以上ならばA、Bの2クラスに分けて行う。 ・実習室に入れる人数並びにサポートする教員には限りがあるため、履修者多数の場合は学科の発展科目となっている社会情報学科所属者を優先し、その他の履修希望者は抽選により履修を決定することもある。 ・毎週、課題が出題される。 ・第1回目の授業(オリエンテーション)でこの授業専用の履修申込書を配付するので、必ず出席すること。これを提出しないと、履修は認めないので注意すること。 | | |

| | | | |
|---|---|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 情報数理 | <Mathematics of Information> | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 沼澤 政信 | <NUMAZAWA Masanobu> | 研究室番号<Office> 451 |
| Office Hours | 訪問希望者はその旨(日時,用件)をメールにて連絡ください.numazawa@resotaru-uc.ac.jp | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>本科目は、様々な研究分野の境界領域である情報科学およびコンピュータ科学の基礎理論の理解に必要とされる数理の基本的知識の習得を目的とします。主として、情報系において広く有用な離散数理について解説、演習を行い、情報科学、コンピュータ科学のどの分野に対してどのように応用されているかを示します。</p> | | <p>教科書(市販テキスト)は特に用いません。講義資料としてプリントを使用します。各週の講義資料は Web 上に一定期間に限り提示するようにします(アクセスは学内限定)。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>集合：集合，離散集合，部分集合，ベキ集合，集合演算 論理と集合：述語，論理演算，論理式，論理演算の性質 対応と集合：対応，集合の直積 写像：部分写像と写像，写像の性質，逆写像 関係：二項関係，関係行列と関係グラフ，関係の合成 グラフと隣接行列：離散グラフ，隣接行列木：無向木，全域木，有向木，順序木 など</p> | | <p>総合点は出席および試験(中間試験，定期試験)で評価します。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>授業はプロジェクトを使用して行います。評価方法の詳細などは，第一回講義のガイダンスにてお知らせいたします。</p> | |

| | | | |
|--|---------------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 認知科学 | <Cognitive Science> | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 佐山 公一 | <Koichi Sayama> | 研究室番号<Office> 352 |
| Office Hours | 随時(電子メールで事前に連絡すること) | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 指示表現の理解 | |
| <p>認知科学は、人間がどのような知識を有し、どういった知的処理を行っているかを解明しようとする学問である。本講義では、この認知科学の重要な基礎理論の一つである人間の“言語の理解”をテーマとする。人間の言語理解の特徴を認知心理学的側面、人工知能的側面、認知言語学的側面、神経科学的側面から詳しく解説する。人間の言語理解の“過程(プロセス)”をコンピュータ上にモデル化するにはどうしたらよいかを述べる。授業はすべてパワーポイントを使って行う。</p> | | <p>4. 視点 5. 修辭的な発話の種類と会話の公準 6. 隠喩文理解過程の段階モデル：隠喩文理解過程の仮説的枠組み 7. 段階モデルにおける段階性の実験的な検証 8. “顕著性の不均衡”の仮説 9. アドホックなカテゴリー化 10. 属性のマッチングとカテゴリー化 11. 概念的比喩 12. 間接的発話行為として機能する文の理解過程の段階モデル 13. アイロニーの理解過程</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>前半：人間の言語理解の概要 1. 人間の情報処理の基本的な説明概念 2. 記憶と注意 3. 言語の神経科学 4. 音声 5. 単語認知と心内辞書 6. 単語認知についての経験的事実 7. 単語認知過程のモデルと心内辞書のモデル 8. カテゴリー化 9. 統語解析過程と統語知識 10. 統語解析に関する経験的事実と過程モデル 11. 文章の理解過程 後半：人間の効率的な情報伝達の仕組み 1. メンタルスペースの理論 2. 情報のなわばり</p> | | <p>プリントを配付する。</p> | |
| | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| | | <p>主に、中間試験と期末試験の得点、および小テスト2回の得点にもとづいて評価する。講義の内容に関連した実験に参加していただく予定である。実験への参加と講義の出席も評価に加える。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>毎回出席して、講義そのものに積極的に関わることが必要である。</p> | |

| | | | |
|---|-----------------------------|--|-----|
| 科目名<Subject> | ソフトウェア科学 <Software Science> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 加地 太一 <Taichi Kajii> | 研究室番号<Office> | 315 |
| Office Hours | 随時 | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | ただし、本講義では事務処理あるいはネットワークなどの計算機の使用法、およびウィンドウズプログラミングについては行わない。むしろ、計算機での問題解決の流れを論理的に考察する数学的な分野であると考えていただきたい。 | |
| ソフトウェア科学の基本概念の一つとしてアルゴリズムの問題がある。アルゴリズムとは問題を解決するための手順の記述であり、その方法論である。ソフトウェア科学はこの基本概念のまわりに展開する。本講義では優れたアルゴリズムの考え方とそのプログラミング技法を事例によってわかりやすく説明し、同時にソフトウェア科学におけるいくつかの問題点について理解を深める。また、アルゴリズムを理解することによりコンピュータの本質について知ることを期待する。主に以下のアルゴリズムとデータ構造における問題を通して講義、演習を進める。 | | 3. 使用教材<Teaching materials> テキスト：なし 参考図書：茨木：「C によるアルゴリズムとデータ構造」、昭晃堂 平田：「C によるアルゴリズムとデータ構造」、科学技術出版社 杉山：「C で学ぶデータ構造とアルゴリズム」東京電機大学出版局 アंक：「アルゴリズムの絵本」翔泳社 石畑：「アルゴリズムとデータ構造」、岩波書店 エイホ他：「データ構造とアルゴリズム」、培風館 | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> 課題の提出とペーパー試験により判定する。(課題が未提出の場合、減点の対象となる。) | |
| 本講義では発展型プログラム技術の習得とコンピュータ上においてどのように効率的に問題を解いていくのかということが焦点となる。以下の問題について理論的な講義を行い、さらに、その問題について演習課題を行うことにより理解を深める。 | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> 本講義は科目「情報処理」で学んだプログラム言語Cの知識を要する。したがって、「情報処理」の講義を履修していないものは本講義の履修が困難である。また、計算機センターでの計算機演習を伴うため、人数を制約せざるを得ない。そこで、履修希望者が80人を超えた場合、情報処理(C言語)に関する簡単な試験により履修の選抜を行う。許可されていない学生が学務課で履修登録を行っても成績評価の対象とはならない。履修選抜に関しては4月上旬に掲示にて詳しい選抜方法を説明するので注意すること。 | |
| 1. アルゴリズムについて | | | |
| 2. ソフトウェア設計の方法論 | | | |
| 3. アルゴリズムの効率と計算量 | | | |
| 4. 情報の概念とデータ構造 | | | |
| 5. ファイルの概念と情報の転送 | | | |
| 6. ポインタによる動的変数の実現 | | | |
| 7. 基本的な抽象データ型(リスト) | | | |
| 8. 特殊なリストの構成(スタック、キュー) | | | |
| 9. 探索とアルゴリズム | | | |
| 10. 効率的な探索アルゴリズムの実現方法 | | | |
| 11. 効率的なデータの処理とソーティング技法 | | | |
| 12. 問題解決とアルゴリズム | | | |

| | | | |
|--|---|---|-----|
| 科目名<Subject> | コンピュータネットワーク論 <Computer Networks and Internets> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 三谷 和史 <Kazufumi Mitani> | 研究室番号<Office> | 455 |
| Office Hours | mit@mit-sotaru-uc.ac.jp まで連絡のこと。 | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 夏季集中 | |
| 目的：インターネットで一躍有名となったコンピュータネットワークを、その基礎の部分から応用まで、なぜそうなっているのか、という点から考えながら理解することを目的とする。 | | C言語によるネットワークプログラミング。 サーバとクライアントの構造。 ジャンケンサーバとクライアントの作成。 クライアントでの手の考え方。 勝ち抜き戦でのクライアントの評価。 | |
| 内容：前期は通信の基礎からイーサネットに代表されるLAN、そしてIP、TCPといったネットワークプロトコル、経路制御やDNS等の基本的アプリケーション、WWW等の応用アプリケーション、セキュリティ等について解説を行なう。後期は実際にネットワーク上で通信を行なうプログラムの作成を通じてネットワークを使うために必要なことごとくを学ぶ。 | | 3. 使用教材<Teaching materials> 教科書は特に定めないが、参考書を適宜示す。後期については、実習書を配布する。他にunixとC言語の適当な参考書があればよい。講義にはPPTを使用する。 | |
| 方法：前期は講義、夏季集中は計算機実習によって行なう。 | | 4. 成績評価の方法<Grading> 前期は出席回数と前期の試験の結果で夏季集中講義の受講の可否を決める。夏季集中講義は出席と課題提出状況及びレポートにより評価を行ない、前期の成績と併せて総合的に評価を行なう。 | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> 後期分は夏季集中で行なう予定である。情報処理センターの利用、特にunix環境の利用方法を自習しておくこと。 | |
| 講義の進み具合により多少の増減があるが、前期 | | | |
| イントロダクション。 | | | |
| デジタルとアナログ。 | | | |
| 通信の基礎。 | | | |
| イーサネットとCSMA/DA。 | | | |
| TCP/IPの仕組み。 | | | |
| 経路制御とDNS。 | | | |
| 応用アプリケーション。 | | | |
| ネットワークセキュリティ。 | | | |

| | | | |
|--|------------------------------------|--------------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 情報と職業 <Information and Profession> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 小山 正芳 | <Masayoshi Koyama> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| この科目は、基本は教職科目である。高等学校情報科担当教員として、従来の「職業指導」より幅広く、情報に関する職業人としてのあり方や勤労観、職業観、倫理観等を理解し、高校生をいかに教えるかを学ぶことを目的とする。 | プリントを用意する。参考文献はその都度紹介する。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| 1. 情報社会の進展と職業 | 定期試験、レポート、出席で評価。 | | |
| 2. 情報化と雇用の変化 | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| 3. 情報化によるオフィス環境 | 教職科目なので出席重視。 | | |
| 4. 高等学校教科「情報」の基本 | | | |
| 5. 情報処理産業と情報処理技術者 | | | |
| 6. 情報処理技術者とシステム開発 | | | |
| 7. 情報化社会における職業観・勤労観 | | | |
| 8. 情報化社会の進展と倫理観 | | | |
| 9. 情報化社会における勤務形態の変化 | | | |
| 10. ニート、フリーター等をどう捉えるか他 | | | |

| | | | |
|--|--|------------------------------|-----------------------|
| 科目名<Subject> | 社会情報入門 <Introduction to Information and Management Science > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 木村泰知 阿部孝太郎 | <Yasutomo Kimura/Kotaro Abe> | 研究室番号<Office> 506/514 |
| Office Hours | 在室中であればいつでも可 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| 社会生活の各分野にコンピュータが導入され、活用されている。 授業の目的は、コンピュータが活用されている場面を知り、そのしくみを理解することである。 | 「情報学入門 - 大学で学ぶ情報社会・情報活用・情報科学 - 」,大内,岡部,栗原,2006年 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| ・コンピュータの基礎 | レポート,定期試験により評価 | | |
| ・コンピュータの役割 | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| ・インターネットの利用方法 | | | |
| ・コンピュータで言葉を処理する方法 | | | |
| 現在の動向を考慮して解説していくつもりである。 | | | |

| | | | | |
|--|--|--|---------|----|
| 科目名<Subject> | 計画科学基礎 | <Introduction to Management Science> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | . | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 佐山 公一・大津 晶 <Koichi Sayama/Shou Ohtsu> | 研究室番号<Office> | 352/428 | |
| Office Hours | 佐山 随時(電子メールで事前に連絡すること)大津 随時(電子メールで事前に連絡すること) | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | (4) 問題の答えの問題 ~ 解の正しさと問題の解決 ~ | | |
| この授業は、社会情報学科における専門領域の入門コースの一つである。前半は佐山が担当し、統計学の基礎を講義する。後半は大津が担当し、計画数理の基礎を講義する。 前半は、統計学の基礎を学ぶことを目的とし、統計解析ソフトを使ったパソコン実習により基礎的な統計学に関する理解を深める。後半は、計画数理の基礎的な考え方を身につけることを目的とし、比較的身近な話題に関連するトピックを題材にして数理的な問題解決法のセンスと作法を学ぶ。 | | 3 使用教材<Teaching materials> (佐山) 配布資料を用いて講義する。 (大津) 必要に応じて資料を配付する。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> 前半と後半の成績の総合評価を成績とする。前半の評価は主に定期試験の結果による。後半の評価は講義各回に課すレポートによる。 | | |
| 前半：統計学の基礎 | | 5 履修上の注意事項<Remarks> (佐山) 受講前にあらかじめ情報処理センターの利用申請をしておくこと。 (大津) 特になし。 | | |
| (1) データの整理 | | | | |
| (2) グラフ化 | | | | |
| (3) 平均，分散 | | | | |
| (4) 相関 | | | | |
| (5) 平均の差の検定 | | | | |
| (6) 分散の差の検定 | | | | |
| 後半：計画数理の基礎 | | | | |
| (1) 問題の見つけ方の問題 ~ 数学と計画数理 ~ | | | | |
| (2) 問題の定式化の問題 ~ 事象の本質的な構造 ~ | | | | |
| (3) 問題の解法の問題 ~ 直感の大切さと危うさ ~ | | | | |

| | | | | |
|---|------------------------------------|--|-----|----|
| 科目名<Subject> | 情報処理基礎 | <Introduction to Information Processing> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | . | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 三谷 和史 <Kazufumi Mitani> | 研究室番号<Office> | 455 | |
| Office Hours | mitani@mit-sotaru-uc.ac.jp まで連絡のこと | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| 本科目は、コンピュータシステム及びコンピュータネットワークの基礎知識についての講義を行う。 | | 講義はプロジェクトを用いて行う予定である。 教材等は初回の講義で示す。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| 情報理論 | | 出席状況と試験の成績によって評価を行う | | |
| コンピュータハードウェア | | | | |
| オペレーティングシステム | | | | |
| ソフトウェア | | | | |
| プログラミング言語 | | | | |
| インターネット | | | | |
| 情報倫理とセキュリティ | | | | |
| 等 | | | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | 高校で科目情報を履修した学生が入学してくる年度にあたるため、高校での理解度に従って内容に多少の変化が生じる可能性がある。 | | |

| | | | |
|--|--|-------------|---------------|
| 科目名<Subject> | インターンシップ <Internship> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | ・ 通年 |
| 担当教官名<Name> | 遠藤薫・大矢繁夫・多木誠一郎・佐山公一・花輪啓一・鈴木将史 | | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> 企業、官公庁等での就業体験を通じて職業意識を養うとともに、実務に触れることにより学習意欲を向上させる。 | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| 2 授業内容<Course contents> 企業、官公庁等での実習（5日から2週間程度）が中心。実習の前の、講義・講習、実習後のレポート提出が義務づけられる。詳細は、5月に公表される「平成18年度インターンシップ教育プログラム」で明らかにされるが、だいたい、以下のスケジュールで行われる。 5月：オリエンテーション。「平成18年度インターンシップ教育プログラム」の公表 6月：事前講義 7月：ビジネスマナー講習。 8～9月：企業等で実習（原則として夏休み期間） 10月：成果レポート提出 12月：大学、学生、研修先による意見交換会 | 4 成績評価の方法<Grading> 上記の教育プログラムへの参加、レポートの評価等を総合的に考慮する。 | | |
| | 5 履修上の注意事項<Remarks> 科目の性格上、研修先は、4月以降にならなければわからない。その数も限られているので希望者がすべて履修できるわけではない。また、研修先は、必ずしも希望どおりとはならない。 募集は4月から5月にかけて行われるので、掲示に注意すること。 通常履修とは別の手続・方法で行われる。 キャップ制の対象とはならない。 実習は原則として夏休み期間に、講義・講習・レポート報告会等は通常的时间割とは別の日程や時間を使って行われるので、それに参加できることが条件である。 「総合科目（IT・グリーン講座）」を履修していることが望ましい。 | | |

專門共通科目

| | | | |
|---|----------------------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 文学と人間 | <Literature and Human Being> | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 中村 史 | <Fumi Nakamura> | 研究室番号<Office> 405 |
| Office Hours | 面談を希望される方はまず電子メールにてご連絡ください | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄芝居鑑賞 ・その他 <p>*履修者の状況を見て予定を変更することはありえます。</p> | |
| この授業は題して「沖縄の口承文芸」となります。具体的には沖縄・豊見城の口承文芸（伝説・昔話など）を取り上げます。授業担当者も参加した実際の聞きとり調査にもとづく資料によって、口承文芸のもつさまざまな意味や価値について考察してゆきます。番外編の授業を入れる場合があります。 | | 3.使用教材<Teaching materials> テキストはとくに定めません。参考文献は授業中に紹介してゆきます。 | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> その方法については履修者の状況を見て最終的に決定します。基本的には定期試験、レポート、および複数回の小レポートによって評価する予定です。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・沖縄、口承文芸 ・平良古島 ・高良タユウ ・真玉橋の人柱 ・名嘉地ウフヤーとキジムナー ・継子の雪払い ・城間ナーカ ・カラー節由来 ・渡嘉敷ペーク ・ガーナムイの話 ・宜保チマシー ・肝試し・返り討ち ・ジョン万次郎 ・モーイ親方 ・ナーチャミー由来 ・チョーハグン親方 ・生き返った娘 ・普天間権現伝説 | | 5 履修上の注意事項<Remarks> 履修者は古典文法を修得し、かつ古文・漢文をある程度以上読めることがのぞましい。 なお、履修や成績評価などの重要なことについて電子メール上で対応することはできません。かならず電子メールで予約をとって研究室を訪問してください。 | |

| | | | |
|--|--|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 現代の社会 | <Contemporary Society> | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 宝福 則子 | <Noriko Hofuku> | 研究室番号<Office> 527 |
| Office Hours | 金 12時10分?13時。その他、随時、事前にメール・電話で連絡の上、可能なら、いつでもOK | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | |
| <p>発展途上国の貧困・開発・環境破壊を歴史的経緯と経済のグローバル化との関連から見る。履修者が多くない場合、宝福が話し、その後、履修者との対話・討論形式で進める予定なので、ゼミ室で実施。</p> | | <p>教科書：スーザン・ジョージ著、杉村・真田訳『オルター・グローバル化宣言?もうひとつの世界は可能だ!もし・・・』作品社、同著者『なぜ世界の半分が飢えるのか-食糧危機の構造』朝日選書257、同著者『債務ブーメラン・第三世界債務世界を脅かす』朝日選書539、石見徹一『開発と環境の政治経済学』東大出版会、参考書：大野健一『途上国のグローバル化』東洋経済新報社、ディヴィッド・ランサム著・市橋訳『フェア・トレードとは何か』青土社、国連開発計画（UNDP）『人間開発報告書』（毎年発行）</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>発展途上国の諸問題群（環境問題含む）の把握、持続可能な開発の諸政策、地球環境問題（主として温暖化問題）の諸解決策</p> | | <p>小テストの出来具合、討論への参加度、400字詰め原稿用紙20枚程度の小論文で評価する。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>ジョージ著『オルター・グローバル化宣言・・・』を主に読みながら、ゼミ形式で、討論をしながら進める。必ずしも上記参考書ではなくとも、関連書に目を通しておく。</p> | |

| | | | |
|--|---------------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 歴史と社会 | <History and Modern Society> | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 荻野 富士夫 | <Fujio Gino> | 研究室番号<Office> 415 |
| Office Hours | 火曜日・水曜日 13時から14時30分 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>近代の日本の思想は何を問題にし、それをどのように論じてきたのだろうか。よりどころの見つけにくい現代にあって、ひとりひとりが自立的に生きることを探る一つ的手段として、近代日本思想史上の「古典」をていねいに、じっくりと読むこととしたい。</p> | | <p>鹿野『近代国家を構想した思想家たち』『近代社会と格闘した思想家たち』（いずれも岩波ジュニア新書、二〇〇五年）ほかに関連する史料のプリントを配布。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>鹿野政直『近代国家を構想した思想家たち』『近代社会と格闘した思想家たち』に取上げられた思想家たち（前者には坂本龍馬、福沢諭吉、内村鑑三、市川房枝、大杉栄ら、後者には田中正造、柳田国男、与謝野晶子、平塚らいてう、石川啄木ら）のなかから、関心のある人物を選び、その著作を読み込み、思想の軌跡を追う。</p> | | <p>授業での各自の報告と討議への参加状況、および発表内容をもととしたレポート（6000字程度）。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>ゼミ形式の発表と討議を中心とする。一五名程度の参加者が望ましい。</p> | |

| | | | |
|---|-----------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 自然と物理学 | <Nature and its Physical Laws> | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 杉之原 立史 | <Tatsushi Sugnohara> | 研究室番号<Office> 312 |
| Office Hours | 火 16:30 ~ 18:00 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>高校の物理では、微分や積分などの数学を使うことが許されていないため、本来ならば基本法則から導き出すことができる法則についても公式として覚えなければならない。このことが、高校で学習する物理をわかりにくいものにしていく。</p> <p>この授業は、物理学全体の基礎となっている力学を、数学的な道具立てとともに、美しい1つの体系として理解してもらうことを目的とする。</p> <p>授業は教科書に沿って、通常の講義形式でおこなう。ただし、履修者数が少なければ、6月頃からゼミ形式に変更することもありうる。その場合は、教科書の内容について、履修者に順番に発表してもらうことになる。</p> | | <p>教科書：十河清・和達三樹・出口哲生『ゼロからの力学I・II』岩波書店</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>以下の内容を予定している。ただし、授業の進みぐあいによっては、一部を割愛することもありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動の記述 2. 平面上の運動 3. 運動の法則 4. さまざまな運動 5. 運動量保存則とエネルギー保存則 6. 角運動量とその保存則 7. 惑星の運動を解く 8. 多粒子系の運動 | | <p>毎回の授業の内容に即した計算問題を解いてもらい、次回にレポートとして提出してもらう。その提出状況および内容と、定期試験（2回）により評価する。</p> <p>ゼミ形式を採用することになった場合は、発表も評価の対象とする。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>4 単位の通年科目であり、単位取得が容易な科目とはいえないので、履修登録をする際には熟慮してほしい。</p> | |

| | | | | |
|--|-------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 現代の数学 | <Nowadays Mathematics > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 | |
| 担当教員名<Name> | 米田 力生 | <Ryok Yoneda> | 研究室番号<Office> | 355 |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> 数学は、人々の生活や自然現象に深く関わっている。そのことを意識しながら、行列、写像等に関して論理的な考え方を身につけることを目指す。 | | 3 使用教材<Teaching materials> 谷口太聖・廣田祐士 大学生のための数学基礎 株式会社カットシステム | | |
| 2 授業内容<Course contents> 基本的には教科書に沿って授業を行う。ただし、必ずしも教科書通りに進行するわけではなく、内容の順序変更もある。 ・ 三角関数、指数関数、対数関数 ・ 連立一次方程式と行列 ・ ベクトル空間と線形写像 ・ 数 ・ 集合と写像 | | 4 成績評価の方法<Grading> 出席状況、レポート提出、定期試験を総合的に勘案して評価する。 | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> 特になし | | |

| | | | | |
|--|---------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 国際コミュニケーション a | <International Communication> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 | |
| 担当教員名<Name> | 大塚 譲 | <Yuzuru Otsuka> | 研究室番号<Office> | 439 |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> ドイツ語を履修している/修得した者を対象とする。「話し書く」という言葉の運用練習を通してドイツ語の基礎的総合力の習得を目指す。Delfin[イルカ]という名の上質の速習総合教材を使うが、書名が示すように多様かつ刺激的な練習問題が駆使されるので、参加者には予習復習の上での毎回出席が求められる。しかしこの教科書のもう一つの特徴は、4技能間の関連に配慮した構成の安定性にあるから、慣れてくれば学習しやすく、イルカの泳ぎのようにスイスイ習得が進むはずである。「コミュニケーション」がしたくなるはずである。「学習達成」の目安は、「独検3級」の90点前後での合格、あるいは「オーストリア・ドイツ語検定・基礎級」の通常合格に置いていいだろう。受験の義務はないが、例年の経験からすると、無理の無い妥当な目標と言える。 | | 小プロジェクト インタビュープロジェクト (グループワーク): テーマを決め準備し交換留学生にインタビュー。その成果をプレゼンテーション。 小プロジェクト 「オーストリア・ドイツ語検定・基礎級」の「過去問」研究。 小プロジェクト の実施の程度は教科書の進度との兼ね合いで流動的である。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> 扱われる主なトピック 人物紹介/住まい/祝祭/食生活/引越し・家具調度/流行と趣味/学校とキャリア/ニュース/国々と人々/希望と現実/スポーツと健康/職業生活/生活とユーモア /政治・歴史・未来/文化と余暇/言語・人の出会い | | 3 使用教材<Teaching materials> Delfin(Max Hueberverlag Munchen)[参加者人数の確定後、ドイツから直接取り寄せる。それまではプリントを使用。] | | |
| | | 4 成績評価の方法<Grading> 平常点と試験の成績を総合評価。 | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> 予習復習の上での毎回出席を原則とすること。2回続けて欠席すると分からなくなる恐れがある。 | | |

| | | | |
|--|---|--|-----|
| 科目名<Subject> | 国際コミュニケーション b <International Communication> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 高橋 純 <Atsushi Takahashi> | 研究室番号<Office> | 525 |
| Office Hours | 火曜日・木曜日12:00~14:30 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | テキストには文法説明も練習問題もあるが、文法説明についてはフランス語で済んでいるものとする。また、練習問題は反復・応用練習の一環として各自の自習課題とする。 | |
| この授業は、フランス語を履修した/して、さらにみずからこの言語を用いて積極的に情報発信してみたいという意欲ある者を対象としている。そのような情報発信を実際に行うための道具としてできるだけ多くのフランス語の表現を覚えなければならない。現地録画・録音による映像を主体とした教材を繰り返し見て聞くことによって、言葉をそれが発せられた状況と一体のものとしてとらえる訓練をしながら、フランス語を手段としての自己表現のレベルを高めてゆくことを目指す。 | | 3.使用教材<Teaching materials> 中山/杉山著『ミニ・ボンジュール・パリ(改訂版)』白水社、\1995 (教室用DVDにはフランス語字幕がついているので、適宜これを活用する。) | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> 授業への積極的参加、課題及び期末試験。平常点の比重は3割。 | |
| Lecon 1. L'arrivee Lecon 2. Au cafe Lecon 3. Au marche (Chanson: Le temps des cerises) Lecon 4. Chez Sophie Lecon 5. En bateau-mouche Lecon 6. A Notre-Dame Lecon 7. Voyage a Tours Lecon 8. Chateaux de la Loire (Les contes d'Hoffmann 《Barcarolle》) Lecon 9. Au jardin du Luxembourg Lecon 10. Au musee du Louvre Lecon 11. Le concert Lecon 12. Au revoir | | 5 履修上の注意事項<Remarks> 授業への前向きな姿勢を評価する。外国語は間違えながら(つまり不完全でも自分で使いながら)身につけるものであることを肝に銘じておくこと。 | |

| | | | |
|---|--|---|-----|
| 科目名<Subject> | 上級外国語 a (英語) <Advanced course in Foreign Languages > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | ダニエラ・カルヤヌ <Daniela Calianu> | 研究室番号<Office> | 536 |
| Office Hours | Monday 16:10 - 17:40 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | Semester 2: Debate applications Each topic will need careful preparation. You cannot debate a subject without knowing the basic facts about it. If you come unprepared to class you will be asked to leave, and your evaluation will reflect this fact. | |
| The aim of this class is to introduce you to the art of debate. The first semester we will go through a debate textbook in order to get familiar with debate terminology and techniques. During the second semester we will apply the knowledge to real debates. | | 3.使用教材<Teaching materials> Lubetsky, Michael (2000) Discover Debate, Language Solutions Inc.; additional materials prepared by teacher | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> Debate involves teamwork. If you are absent or if you are present but inactive, you cannot achieve the objectives of this course. Moreover, you are keeping the whole team, and class back. Success in a debate requires good preparation. If you come to the debate application unprepared you are a handicap to your team. Grading will reflect these things. Class activity 70% Debate Contest: 30% | |
| Semester 1 1. Orientation: introducing basic debate terms 2. Types of opinions and vocabulary for agreeing and disagreeing 3. Explaining your opinion: giving reasons 4. Brainstorming for reasons, creating a questionnaire 5. Supporting opinions- types of support 6. Debate introductions and conclusions 7. Presenting your house 8. Refuting opinions 9. Tennis debate 10. Challenging supports 11. Criticizing an advertisement 12. Refutation format 13. Debate formats 14. The Rebuttal You will need to read the lessons from the textbook before coming to class. | | 5 履修上の注意事項<Remarks> Unacceptable behavior: -absence without a serious reason -coming late to class -coming unprepared to class -using Japanese during class -engaging in other activities during class (phone mail, sleeping) | |

| | | | |
|---|--|---------------|----|
| 科目名<Subject> | 上級外国語 b (ドイツ語) <Advanced course in Foreign Languages > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | ゲーザ・オルデハーフェル<Gesa O lbehave> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | ドイツ語を実際に使いながらドイツ語圏の国々の文化や習慣を様々な視点から考えます。ドイツ語を理解する能力と自己を表現する能力を高めながら、同時にドイツやヨーロッパについて考え学ぶことを目指しています。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | ドイツで作られたビデオ教材を使用し、「大学生活」「ドイツ：イメージと実際」「女性像? 男性像」「仕事と経済」などのテーマを取り上げます。まずビデオの場面とそこで使われるドイツ語を理解することから始めます。さらに対話やロールプレイなど様々な練習によって、新しい語彙を学びながら、それぞれのテーマについて考え、自分の意見をドイツ語で表現することを楽しく学んでいきます。 | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | ドイツ製のビデオ教材『Einblicke』を中心とした学習。教室ではプリント配付。 | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | 積極的な参加と試験を総合して評価。 | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | 出席と積極的な参加を心がけてください。 | | |

| | | | |
|---|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 上級外国語 c (フランス語) <Advanced course in Foreign Languages > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 江口 修 <Osamu Eguchi> | 研究室番号<Office> | 523 |
| Office Hours | 火・木 14:30~16:00 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 「読みぬく力」のアップを目指す。量をこなせば、ある日質(レベル)が一段と上がるという経験をフランス語でも得て欲しい。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | シュールレアリスム小説として名高いルイ・アラゴンの『パリの農夫(百姓)』を読み進める。視点をずらせばパリがたちまちシュールな空間へと変貌するという趣向の小説、かなり想像力のアクロバットが必要とされる。シュールレアリスムに関心のある者来たれ。 | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | Le Paysan de Paris, Louis Aragon (Gallimard) \974 (ペーパーバック版) | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | 出席が5割、授業での成果発揮が5割。試験は行わない。 | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | 成績評価に使用するので、必ず出席を取る。無断欠席が連続する場合(4回がめやす)は即「不可」となる。 | | |

| | | | |
|--|---|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 上級外国語 d (中国語) <Advanced course in Foreign Languages > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | ・ 通年 |
| 担当教員名<Name> | 裴 崢 | <Pei Zheng> | 研究室番号<Office> 308 |
| Office Hours | 火 13:30 ~ 15:30 | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>これは中国語を2年間習得した学生を対象に開くコースです。この1年の学習を通して次の目標に到達することを目指します。聞く：中国語の日常会話と討論、またはやさしい放送の大まかな理解ができること。話す：自分の考えを順序よく述べ、比較的豊富な語彙と正確な表現で話すこと。読む：社会生活に関する報道の要点を理解でき、書きことばに親しめること。書く：日常用語をマスターした上で、比較的豊富な語彙と構造の複雑な文で短い作文が書けること。演習を主とし、受講者の皆さんには中国語を多く使うことを要求します。みんなで文法、文型、表現、文化などを議論したいです。この授業は、学生と教師との対話型・双方向性の授業です。また時おり視聴覚教材も使用する予定です。</p> | | <p>佐藤富士雄・柴森『青島の朝』(白帝社)</p> | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>中国の沿海都市、青島の市民生活を生き生きと反映したテキストを使います。豊富に編集された法律、経済、社会等の新聞記事、恋愛や家庭生活のエッセイ、及びそれらの話題から繰り広げられた対話の勉強を通して、中国語の総合的な力を高めながら、現代中国の変貌も発見して行きましょう。学生と教師、学生相互間の反復実習を重視し、テキストに関する話題について討論したり、意見を発表したりする機会も設けたいと思います。</p> | | <p>定期試験のほか、授業態度、提出物(作文等)、小テストも総合して評価します。定期試験 50%、授業態度 15%、提出物 15%、小テスト 20%。授業回数の1/3以上欠席した者は、自動的に単位取得の権利を失います。</p> | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>予習と復習をして授業に参加してください。中国語辞典は必須です。</p> | |

| | | | |
|--|---|------------------------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 上級外国語 e (スペイン語) <Advanced course in Foreign Languages > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | ・ 通年 |
| 担当教員名<Name> | 山田 眞史 | <Ma fumi Ymada> | 研究室番号<Office> 513 |
| Office Hours | Mediante cita concertada previamente | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>スペイン・ロマン派の詩人ベッケルの物語を読みます。スペイン語の美しい散文を味わってください。</p> | | <p>Los ojos verdes</p> | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>正確に訳すことを目的とします。難解なところは細かく注釈します。ただ文法論などをするつもりはありません。目的は文学観賞です。</p> | | <p>・ 授業での訳、 ・ テストなど、によります。</p> | |
| | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>毎回出席すること。</p> | |

| | | | | |
|---|---|---|---|----|
| 科目名<Subject> | 上級外国語 f (ロシア語) | <Advanced course in Foreign Languages > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | . | 通年 |
| 担当教員名<Name> | スベヴァコフスキー 山田久就 <Spevakovski/Hisanari Yamada> | 研究室番号<Office> | 山田542 | |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | ロシア語の実用的で自立的な能力を身につけるための練習を行います。 | | 3 使用教材<Teaching materials> 必要に応じてプリント等を配布します。 | |
| 2 授業内容<Course contents> | スベヴァコフスキー担当の前期の授業は実用的な会話練習を中心に、作文、読解の練習なども行い、またビデオ・スライドなどをお見せしたりします。山田担当の後期の授業はロシア語、で学んだ文法の復習・反復練習を行うとともに、初歩的な会話に必要な表現を反復練習を通して身につけます。ただし、授業への参加者の希望によってテーマは柔軟に変更することがあります。また、ロシアという国の文化や民族などに関する話題についても提供していく予定です。 | | 4 成績評価の方法<Grading> 定期試験の他、出席回数、遅刻回数、授業への参加態度、授業での応答等を参考にして総合的に評価します。 | |
| | | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |

| | | | | |
|---|--|---|--|----|
| 科目名<Subject> | 上級外国語 g (朝鮮語) | <Advanced course in Foreign Languages > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | . | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 宣 憲洋 | <Hun-Yang Sun> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 1. 論文・論説等が読みこなせるようにする。 2. 韓国の文化を概観する。 上記2点を目標とします。 | | 3 使用教材<Teaching materials> 毎回プリント教材を配布する。 | |
| 2 授業内容<Course contents> | 1. ハングル 2. プルゴギ(焼肉) 3. 韓服(チマ・チョゴリ) 4. キムチ 5. 仏国寺 6. 石窟庵 7. テッコンド 8. 高麗人参 9. 仮面劇 10. 雪嶽山など韓国・韓国文化に関するトピック、それぞれA4版2ページ程度の文章を3週で1項目のペースで読みます。 | | 4 成績評価の方法<Grading> 出席50%、試験の成績50% | |
| | | | 5 履修上の注意事項<Remarks> 積極的に、楽しく勉強しましょう。予習は必要不可欠。 | |

| | | | |
|--|----------------------------|--|-----|
| 科目名<Subject> | ビジネス英語 <Business English> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | シヨン・克蘭キー <Shawn C lankie> | 研究室番号<Office> | 419 |
| Office Hours | By appointment or Th. 12-1 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>This will be a course of business English, and will cover not only the standard skills of speaking, listening, reading, and writing, but also important skills such as public speaking, business letter writing, negotiation skills, comparative business communication practices, and culture considerations. Goals for this course include:</p> <p>a. Build self-confidence in their speaking, listening, reading, and writing abilities as applicable to a variety of business settings.</p> <p>b. Recognize weaknesses in their abilities, and try to overcome these weaknesses.</p> <p>c. Express themselves at a professional level in English.</p> <p>d. Build a stronger knowledge of the cultures that use English as a business language.</p> | | <p>Grammar for Speaking: Questions and Answers (available from 5/2006). Tokyo: Goken (Required)</p> <p>Handouts of business subjects will be frequent and used for discussions.</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>This will be a lecture and practice course. That means the time will be split between introductions of the topic by the instructor and practice/discussion amongst the students. Group discussions of business-related topics and business-related problem solving activities will occur weekly, along with dictations, reading, and written work. There may also be one individual presentation in English and one group presentation.</p> | | <p>Your final grade in this class depends on several factors. These include homework and quizzes, participation, and attendance. As this is a business English, the more you participate the better you are likely to do. Therefore, participation is 50% of your grade. Attendance is important to your participation grade. If you don't come, you can't possibly participate (and will probably not succeed in business). Therefore, if you miss more than three classes per 15 week period (in a 30 week course) you will fail that part of the class. The remaining 50% will include assignments and your presentation.</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |

| | | | |
|--|---|--|-----|
| 科目名<Subject> | 英文学特講 <Special Lecture on English Literature> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 杉村 泰教 <Yasunori Sugmura> | 研究室番号<Office> | 541 |
| Office Hours | (金) 14:30 ~ 17:00 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>William Golding の代表的な小説 <i>Lord of the Flies</i> (1954)は、その意味の多義性と象徴の複雑さに於いて語り尽くせない奥深さがあるが、現在、研究も進み、従来の批評を覆す新たな読み方も可能となっている。最近の研究成果を取り入れた解釈を付け加えながら英文を精読する。</p> | | <p>William Golding, <i>Lord of the Flies</i> (Faber Paperback)</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>1回 ~ 5回 The Sound of the Shell, Fire on the Mountain</p> <p>6回 ~ 10回 Huts on the Beach, Painted Faces and Long Hair</p> <p>11回 ~ 15回 Beast from Water, Beast from Air</p> <p>16回 ~ 20回 Shadows and Tall Trees, Gift for the Darkness</p> <p>21回 ~ 25回 A View to a Death, The Shell and the Glasses</p> <p>26回 ~ 30回 Castle Rock, Cry of the Hunters</p> | | <p>主として定期試験の成績による。出席率、授業への参加態度、予習の状況を重視する。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p>授業実施時数の3分の2以上出席しなければ、定期試験を受けることはできない。原則として遅刻は欠席と同等に扱う。</p> | |

教職共通科目

| | | | |
|---|-----------------------------------|----------------------------|---|
| 科目名<Subject> | 教育基礎論 | <Principles of Education > | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 上野耕三郎外 <Kozaburo Ueno and others> | 研究室番号<Office> | 341 |
| Office Hours | 事前にメールで連絡をしてください。 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 半期は「教育制度」、半期は「教職論」に準じる。 | | 3 使用教材<Teaching materials> 必要な資料はその都度配布する。 |
| 2 授業内容<Course contents> | 半期は「教職論」、半期は「教育制度」に準じる。 | | 4 成績評価の方法<Grading> 基本的に定期テストによる。 |
| | | | 5 履修上の注意事項<Remarks> |

| | | | |
|---|--|---|--|
| 科目名<Subject> | 教職論 | <Introduction to Professional Teaching> | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 上野耕三郎外 <Kozaburo Ueno and others> | 研究室番号<Office> | 341 |
| Office Hours | 事前にメールで連絡をしてください。 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>「いじめ」「不登校」「校内暴力」などというような問題をすこしでも考えてみれば、いままで自明視されてきた倫理がその基盤から揺るがせられていることに誰しもが気づくであろう。「熱血教師」が求められているのだろうか。それは現実への単純なリアクションでしかないのではなかろうか。</p> <p>この授業では現職の先生方にお話をうかがうことを予定している。</p> <p>その内容の詳細については現在のところ未定であるが、できれば次のようなことをうかがうことができれば、と考えている。</p> <p>現場での日々の教師の営為がどのようなものであるか。</p> <p>どのような問題に直面しているのか。</p> <p>教師あるいは学校はそれに対してどのような対応をしているのか。</p> <p>そしてそれにはどのような問題点があるのか。</p> <p>教育という世界はしばしば古典的ともいえるものの言いに呪縛されている。授業を通して、古典的なもの言いかから抜け出し、すこしでも現実からものを考える契機を提供できれば、そしてそれが教職の途への一歩ともなれば、この授業の目的は果たされるであろう。</p> | | 2 授業内容<Course contents> 上野が数回分講義する。他の講師の方は現在折衝中である。したがって、話される内容の詳細については未定である。 |
| | | | 3 使用教材<Teaching materials> 必要な資料はその都度配布する。 |
| | | | 4 成績評価の方法<Grading> テストによる |
| | | | 5 履修上の注意事項<Remarks> |

| | | | | |
|---|-------------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 教育制度 | <Educational System > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 | |
| 担当教員名<Name> | 上野 耕三郎 | <Kozaburo Ueno> | 研究室番号<Office> | 341 |
| Office Hours | メールで事前に連絡をしてください。 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 2 授業内容<Course contents> | | |
| <p>この授業では日本の学校、とくに高等学校の問題を中心に考えることにします。</p> <p>かつて「15の春を泣かすな」というスローガンのもとで、高校全入運動が進められましたが、その目的を果たしたいま、高校はかつては考えもしなかった問題を抱え込んでしまっています。一例を挙げれば、現在高校中退者は毎年10万人前後を数えています。1クラス40人として毎年2、500クラスが消滅している計算になります。もちろん、この授業を履修している皆さんが卒業した高校では、まったく「中退」というようなことは身の廻りに生じなかったかもしれません。というのも「輪切り」された高校では問題となる現象は一樣ではないからです。高校の問題といっても進学校での問題と、いわゆる教育困難校での問題とはまったく質を異にしていることもあるのです。大学受験に邁進することが暫定的課題である高校もあるし、一年の終わりには一クラスの生徒数が半分にもなった高校もある、という具合に。しかし、多くには「中退」は高校生の先鋭的な意識を映しているように思えます。この授業では、このような現象の基層にあるものをさぐり、その打開策として制度改革を検討してみます。</p> | | <p>1 はじめに</p> <p>2 現在の高校教育の問題点の洗い出し。何が問題となっているのだろうか？</p> <p>3 いまのわれわれが立っている地点はどのようなものか？</p> <p>4 戦後高校の変容</p> <p>5 平等主義と高校教育。教育における「平等」とは何であるか？</p> <p>6 根本の問題はどこにあるのか</p> <p>7 ヨーロッパ先進諸国の後期中等教育との比較</p> <p>8 高校教育の問題が教育困難校に先鋭的にあらわれている。</p> <p>9 高校進学率90%以上の日本独特の教育現象</p> <p>10 「多様化」「自由化」路線の高校改革をどう考えたらよいのだろうか？</p> | | |
| | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| | | 必要な資料はその都度配布する。 | | |
| | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| | | 定期試験による。 | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | | |
|---|---------|---|---------------|--|
| 科目名<Subject> | 教育基礎論 A | <Principles of Education A> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 | |
| 担当教員名<Name> | 佐藤 淳 | <Jun Sato> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>教育の本質は大きく言って「文化の伝承」だと考えています。しかし、伝承といえども単に「伝える」だけでは真に理解させることはできないでしょう。いかに教えれば適用可能性の高い知識を獲得させることができるのか、本講義ではここに焦点を絞ってお話します。</p> | | <p>テキスト：「授業に学び授業を創る 教育心理学 第2版」宇野忍編、中央法規</p> <p>資料：講義中に適宜配布します。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>1 教育心理学とは...心理学と教育の関係、実証的手法について</p> <p>2 理解とは何か...認知的プロセスとしての理解過程</p> <p>3 問題解決と知識構造...知識構造の成り立ちと推論</p> <p>4 学習者の誤概念...素朴理論、素朴概念、ル・バー</p> <p>5 教授ストラテジー...授業方略、学習援助の方法の模索</p> <p>6 学習における動機づけ...メカニズム理論の概観と意欲喚起への示唆</p> <p>7 教育評価とは何か...評価の方法、対象と目的、評価の本来の意味</p> | | <p>講義の内容がどれだけ「理解」されたかを評価の観点とします。論述式の試験(100%)を実施して判断します。</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | ぜひ教師になったつもりで「自我関与」してみてください。自らの思考過程を「メタ認知」することも重要です。それらの手がかりとするために、必ず講義ノートを作成してください。いつも板書は少ないながら、口述は豊富にいたしますのでご注意ください。 | | |

| | | | | |
|---|---|--------------------------|---|----|
| 科目名<Subject> | 教育心理 | <Educational Psychology> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 佐藤 淳 | <Jun Sato> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>教育の本質は大きく言って「文化の伝承」だと考えています。しかし、伝承といえども単に「伝える」だけでは真に理解させることはできないでしょう。いかに教えれば適用可能性の高い知識を獲得させることができるのか、本講義ではここに焦点を絞ってお話します。</p> | | <p>3.使用教材<Teaching materials> テキスト：「授業に学び授業を創る 教育心理学 第2版」宇野忍編、中央法規 資料：講義中に適宜配布します。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>1 教育心理学とは...心理学と教育の関係、実証的手法について 2 理解とは何か...認知的プロセスとしての理解過程 3 問題解決と知識構造...知識構造の成り立ちと推論 4 学習者の誤概念...素朴理論、素朴概念、ル・バー 5 教授ストラテジー...授業方略、学習援助の方法の模索 6 学習における動機づけ...メカニズム理論の概観と意欲喚起への示唆 7 教育評価とは何か...評価の方法、対象と目的、評価の本来の意味</p> | | <p>4 成績評価の方法<Grading> 講義の内容がどれだけ「理解」されたかを評価の観点とします。論述式の試験(100%)を実施して判断します。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> ぜひ教師になったつもりで「自我関与」してみてください。自らの思考過程を「メタ認知」することも重要です。それらの手がかりとするために、必ず講義ノートを作成してください。いつも板書は少ないながら、口述は豊富にいたしますのでご注意ください。</p> | |

| | | | | |
|---|---------------------|-----------------------------|--|-----|
| 科目名<Subject> | 教育基礎論 B | <Principles of Education B> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 上野 耕三郎 | <Kozaburo Ueno> | 研究室番号<Office> | 341 |
| Office Hours | 事前にメールで連絡をしてください。 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>「教育の歴史」に準じる。</p> | | <p>3.使用教材<Teaching materials> 必要な資料はその都度配布する。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>「教育の歴史」に準じる。</p> | | <p>4 成績評価の方法<Grading> 基本的に定期テストによる。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks></p> | |

| | | | |
|--|------------------------------|---|-----|
| 科目名<Subject> | 教育の歴史 <History of Education> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 上野 耕三郎 <Kozaburo Ueno> | 研究室番号<Office> | 341 |
| Office Hours | 事前にメールで連絡をしてください。 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 6 . 絶対主義国家と教育 - 「教育勅語」「御真影」 | |
| この講義では、日本の明治以降の教育をまずはざっと見ることから始め、その起源となる西洋の近代教育の考え方、とくに思想に焦点を当て、その検討をすることをめざす。 | | 7 . 戦争と国民学校 | |
| 日本の学校の歴史をきわめておおざっぱに区切るとすると、3つに区切ることでも可能であろう。私たちはその第3区にいる。そのことを理解すると、現在の学校問題も自ずと理解できよう。このことを理解することが、授業のひとつの柱である。 | | 8 . 大正新教育 - 池袋児童の村 | |
| 日本の教育の場合は（ヨーロッパでも多かれ少なかれそうですが）上からの国家による教育が近代化の推進力となった。絶対主義的国家体制下での教育に対する、抵抗原理として「子ども中心」の教育が謳われることがある。私たちが自明視している「子ども」という考え方を検討する。これが第2の柱である。 | | 9 . ルソー - 子どもの発見と消極教育 | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 10 . ペスタロッチ - 貧民教育の実践者 | |
| 1 . はじめに | | 11 . フレーベル - 幼稚園の創始者 | |
| 2 . 日本の近代公教育の歴史 - どうして日本はこんなに教育熱心だったのか 学制序文「被仰出書」 | | 12 . デューイ - アメリカ進歩主義教育 | |
| 3 . 戦後の教育 - 『山びこ学校』と無着成恭 | | 13 . 子ども中心主義とは何か | |
| 4 . 1970年代中葉以降の学校問題 - 校内暴力、いじめ、不登校 | | 14 . 子どもの発見と現代の教育問題 | |
| 5 . 日本の学校 130年の歴史をどう見るか | | 15 . まとめ | |
| | | 3 使用教材<Teaching materials> 必要な資料はその都度配布する。 | |
| | | 4 成績評価の方法<Grading> 定期テストによる。 | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |

| | | | |
|--|-----------------------------|---|-----|
| 科目名<Subject> | 教育方法学 <Educational Methods> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 岡部 善平 <Yoshhei Okabe> | 研究室番号<Office> | 454 |
| Office Hours | 随時 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> 必要な資料をコピーして配布する予定。参考書はその都度指定する。 | |
| この講義では、教育方法についての基礎的な知識を習得することを目的とする。そのために、学習指導および授業に関する原理的、実際的な諸問題を中心に講義する。 | | 4 成績評価の方法<Grading> 学習指導案の提出とその内容（40%）、指定されたテーマによる期末レポートの提出とその内容（40%）、および授業中の小レポートの提出（20%）によって行う。 | |
| 学校教育における授業は、知識伝達の場であると同時に、教師・生徒間の主要なコミュニケーションの場でもある。本講義では、学習者の知識習得の過程とその過程における人間関係の視点から、これまで展開されてきた教育方法に関する諸理論を解説し、今日の授業実践において学ぶべきことを明らかにする。また、いくつかの授業実践やわれわれ自身の授業経験を取り上げ、様々な授業形態および授業の構造について検討する。その上で、学習指導案の書き方を学びながら、実際に指導案を作成し、教材研究および授業設計の方法について考えていくつもりである。 | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | | |
| 1 . 教育経験からみた教育方法 | | | |
| 2 . 学び方と教育方法 | | | |
| 3 . 教室におけるコミュニケーション | | | |
| 4 . 教育課程と教育方法 | | | |
| 5 . 教育評価の目的と方法 | | | |
| 6 . 授業の構造 | | | |
| 7 . 学習指導案の作成 | | | |

| 科目名<Subject> | 教育方法 <Educational Methods> | | |
|--|----------------------------|--|-------------------|
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 岡部 善平 | <Yoshihei Okabe> | 研究室番号<Office> 454 |
| Office Hours | 随時 | | |
| <p>1 授業の目的・方法<Course objective and method> この講義では、教育方法についての基礎的な知識を習得することを目的とする。そのために、学習指導および授業に関する原理的、実際的な諸問題を中心に講義する。</p> <p>学校教育における授業は、知識伝達の場であると同時に、教師・生徒間の主要なコミュニケーションの場でもある。本講義では、学習者の知識習得の過程とその過程における人間関係の視点から、これまで展開されてきた教育方法に関する諸理論を解説し、今日の授業実践において学ぶべきことを明らかにする。また、いくつかの授業実践やわれわれ自身の授業経験を取り上げ、様々な授業形態および授業の構造について検討する。その上で、学習指導案の書き方を学びながら、実際に指導案を作成し、教材研究および授業設計の方法について考えていくつもりである。</p> <p>2 授業内容<Course contents></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育経験からみた教育方法 2. 学び方と教育方法 3. 教室におけるコミュニケーション 4. 教育課程と教育方法 5. 教育評価の目的と方法 6. 授業の構造 7. 学習指導案の作成 | | <p>3 使用教材<Teaching materials> 必要な資料をコピーして配布する予定。参考書はその都度指定する。</p> <p>4 成績評価の方法<Grading> 学習指導案の提出とその内容（40%）、指定されたテーマによる期末レポートの提出とその内容（40%）、および授業中の小レポートの提出（20%）によって行う。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks></p> | |

| 科目名<Subject> | 商業科教育法 <Methodology of Teaching Commerce> | | |
|---|---|---|---------------|
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 小山 正芳 | <Masayoshi Koyama> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| <p>1 授業の目的・方法<Course objective and method> 高等学校の商業科担当教員として、教科指導上の基礎的知識及び科目の内容について、理解・修得することを目的とする。</p> <p>2 授業内容<Course contents></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育改革の動きと方向 2. 戦後の高等学校商業教育の移り変わり 3. 現行学習指導要領による商業教育 4. 教科「商業」の各科目について 5. 商業科目の学習指導法と資格取得 6. 高等学校教育の現状と課題 7. 特色ある学校教育と商業教育 8. 学校教育における教師の役割りと研修 9. 最近の教員採用（商業）の動向他 | | <p>3 使用教材<Teaching materials> プリントを用意する。参考図書・文献はその都度紹介する。</p> <p>4 成績評価の方法<Grading> 定期試験、レポート、出席で評価する。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> 教職科目なので出席を重視する。</p> | |

| | | | | |
|---|--|-------------------------------------|---|----|
| 科目名<Subject> | 商業科教育法 | <Methodology of Teaching Commerce > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 小山 正芳 | <Masayoshi Koyama> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>高等学校の商業科担当教員として、教科指導上の基礎的知識及び科目の内容について、理解・修得することを目的とする。</p> | | <p>3 使用教材<Teaching materials> プリントを用意する。参考図書・文献はその都度紹介する。</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>1. 学校教育改革の動きと方向 2. 戦後の高等学校商業教育の移り変わり 3. 現行学習指導要領による商業教育 4. 教科「商業」の各科目について 5. 商業科目の学習指導法と資格取得 6. 高等学校教育の現状と課題 7. 特色ある学校教育と商業教育 8. 学校教育における教師の役割りと研修 9. 最近の教員採用（商業）の動向他</p> | | <p>4 成績評価の方法<Grading> 定期試験、レポート、出席で評価する。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> 教職科目なので出席を重視する。</p> | |

| | | | | |
|---|---|-------------------------------------|---|----|
| 科目名<Subject> | 商業科教育法 | <Methodology of Teaching Commerce > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 田中修一 未定 <Shuichi Tanaka/> | | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>この授業は「商業科教育法」を受け、実際の教育現場を想定しながら、年間指導計画、単元別指導計画及び学習指導案（1時間分）を各自が立案し、それに基づいて実際に模擬授業を行うことを目的とする。</p> <p>具体的には簿記会計や情報処理（プログラミング）に関する教材研究、指導計画や学習指導案の作成から始まり、実際の模擬授業を通して、授業の導入、展開、工夫した教材の利用など効果的な学習指導方法を考察する。また、相互評価により、学習目標を達成するための意見交換を行い、商業教育における教科指導技術の向上を図る。</p> | | <p>第 6 回（第 13 回）模擬授業～学習指導案の作成と実践 第 7 回（第 14 回）模擬授業～学習指導案の作成と実践</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>半期のうち、前半を「簿記会計」、後半を「情報処理（プログラミング）」にあてる。履修者は年間指導計画、単元別指導計画及び学習指導案に基づいて授業構成を考え、実際に模擬授業を行う。</p> <p>第 1 回（第 8 回）オリエンテーション、簿記会計・情報処理（プログラミング）の学習目標と指導法、商業科の教育課程 第 2 回（第 9 回）年間指導計画、単元別指導計画、学習指導案、指導ノートの作成及び評価 第 3 回（第 10 回）模擬授業～学習指導案の作成と実践 第 4 回（第 11 回）模擬授業～学習指導案の作成と実践 第 5 回（第 12 回）模擬授業～学習指導案の作成と実践</p> | | <p>3 使用教材<Teaching materials> ・事前にインターネットで学習指導案の事例を検索し、研究しておくことよ。 ・高等学校教科書を購入してもらう。使用教科書は後日指示する。 ・参考文献：「高等学校学習指導要領 解説・商業編」平成 12 年 3 月 文部省</p> <p>4 成績評価の方法<Grading> ・平常点（模擬授業、学習指導案）出席状況、提出物等により総合的に評価する。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> ・実践的な授業内容であるため、出席を重視する。 ・「商業科教育法」を履修済み、または履修中であること。 ・「簿記論」を履修済み、または履修中であることが望ましい。 ・Excel や Word などパソコンの操作に慣れていることが望ましい。 ・模擬授業の際は、毎時の学習指導案を作成し、教材を準備の上、授業に臨むこと。</p> | |

| | | | | |
|---|--------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語科教育法 | <Methodology of Teaching English > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 | |
| 担当教員名<Name> | 高井 収 | <Osamu Takai> | 研究室番号<Office> | 501 |
| Office Hours | 金14:30~15:30 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>英語科教育の全般について、理論と具体的な指導方法を修得する事を目標とします。授業は理論編では与えられたトピックについて皆さんが作成したパワーポイントでの発表を中心に討論するという授業方法を取り、実践編においては模擬授業などを入れた学習者主導型の授業形態となります。皆さんの体験を通して英語教育方法論を修得してもらいます。</p> | | <p>片山嘉雄、佐々木昭、遠藤栄一、松村幹男編『新・英語科教育の研究<改訂版>』大修館書店</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>教科書の内容は「英語教育原論」、「英語教育教材論」、「英語科教科課程論」、「英語教育方法論」、「英語教育評価論」、「英語教育学習者論」、「英語教育教師論」が含まれ、授業では一応全般には触れませんが、特に、「英語教育方法論」に焦点をあて、前半では理論面から、後半では実践面から方法論を捉えて行きます。情報機器・視聴覚機器の教室内での利用方法も指導します。</p> | | <p>出席、定期試験、模擬授業、その他、授業への参加態度などを総合して評価します。 詳細 要約付き（英語教育に関する）文献リスト（Annotated Bibliography） 出席 授業活動参加 ミニ授業 定期テスト（前期・後期）</p> | | |
| 英語教育学 | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1) 英語教育本質論（原論） 2) 英語教育教材論 3) 英語科教科課程論 4) 英語教育方法論（理論面と実践面） 5) 英語教育評価論 | | <p>フロッピーディスクまたはメモリーディスクを用意してください。</p> | | |

| | | | | |
|--|--------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語科教育法 | <Methodology of Teaching English > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 | |
| 担当教員名<Name> | 高井 収 | <Osamu Takai> | 研究室番号<Office> | 501 |
| Office Hours | 金14:30~15:30 | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>英語科教育の全般について、理論と具体的な指導方法を修得する事を目標とします。授業は前期の理論編においては与えられたトピックについて皆さんが作成したパワーポイントでの発表を中心に討論するという学習者主導型の授業形態を取り、皆さんの体験を通して英語教育方法論を修得してもらいます。</p> | | <p>片山嘉雄、佐々木昭、遠藤栄一、松村幹男編『新・英語科教育の研究<改訂版>』大修館書店</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>教科書の内容は「英語教育原論」、「英語教育教材論」、「英語科教科課程論」、「英語教育方法論」、「英語教育評価論」、「英語教育学習者論」、「英語教育教師論」が含まれ、授業では一応全般には触れませんが、特に、「英語教育方法論」に焦点をあて、この前期では理論面から方法論を捉えて行きます。</p> | | <p>出席、定期試験、その他、授業への参加態度などを総合して評価します。</p> | | |
| 英語教育学 | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1) 英語教育本質論（原論） 2) 英語教育教材論 3) 英語科教科課程論 | | <p>フロッピーディスクまたはメモリーディスクを用意してください。</p> | | |

| | | | | | |
|---|--------------|---------------|--|------------------------------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語科教育法 | | | <Methodology of Teaching English > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 高井 収 | <Osamu Takai> | 研究室番号<Office> | | 501 |
| Office Hours | 金14:30~15:30 | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> 英語科教育の全般について、理論と具体的な指導方法を修得する事を目標とします。授業は後期の実践編においては模擬授業などを入れ、学習者主導型の授業形態となります。皆さんの体験を通して英語教育方法論を修得してもらいます。 | | | 3 使用教材<Teaching materials> 片山嘉雄、佐々木昭、遠藤栄一、松村幹男編『新・英語科教育の研究<改訂版>』大修館書店 | | |
| 2 授業内容<Course contents> 教科書の内容は「英語教育原論」、「英語教育教材論」、「英語科教科課程論」、「英語教育方法論」、「英語教育評価論」、「英語教育学習者論」、「英語教育教師論」が含まれ、授業では一応全般には触れますが、特に、「英語教育方法論」に焦点をあて、前期の理論編の知識を基に、この後期では実践面から方法論を捉えて行きます。情報機器・視聴覚機器の教室内利用方法も指導します。 英語教育学 1) 英語教育方法論(理論面と実践面) 2) 英語教育評価論 | | | 4 成績評価の方法<Grading> 出席、定期試験、模擬授業、その他、授業への参加態度などを総合して評価します。 | | |
| | | | 5 履修上の注意事項<Remarks> 前期の英語科教育法Ⅰが基礎となります。フロッピーディスクまたはメモリーディスクを用意してください。 | | |

| | | | | | |
|---|---------------|---------------------|--|------------------------------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語科教育法 | | | <Methodology of Teaching English > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 小林 敏彦 | <Toshiko Kobayashi> | 研究室番号<Office> | | 512 |
| Office Hours | 金曜午後4:10~6:10 | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> 教材開発論(material development)の授業である。わかりやすく、楽しく、ためになる授業を目指す。授業は日本語で行う。将来中学、高校の英語授業で活用できるコミュニケーションを中心としたリスニングとスピーキング活動を体験しながら、実際にデータを自ら収集し加工し作成し配布するための技法を学ぶ。さらに、教室での英語表現の習得を目指す。 | | | 第14回 洋画を活用した4技能統合活動：ピア・エバリュエーション、第15回 洋画を活用した4技能統合活動：優秀者プレゼンテーション | | |
| 2 授業内容<Course contents> 1：教材作成法 2：ピア・エバリュエーション 3：優秀者プレゼンテーションの流れで行い。以下の分野での教材作成を予定している。毎回授業の冒頭に、テキストから教室での英語表現に関する小テストを行う。 | | | 3 使用教材<Teaching materials> 『外国人の先生と話そう』(大修館書店) | | |
| 第1回 リスニング理論(1)：英文プリントを読む、第2回 リスニング理論(2)：英文プリントを読む、第3回 教室での正しい英語表現、第4回 洋画を使用した活動と聴き取りシート：教材作成法、第5回 洋画を使用した活動と聴き取りシート：ピア・エバリュエーション、第6回 洋画を使用した活動と聴き取りシート：優秀者プレゼンテーション、第7回 生データを活用したリスニング活動(インタビュー)：教材作成法、第8回 生データを活用したリスニング活動(インタビュー)：ピア・エバリュエーション、第9回 生データを活用したリスニング活動(インタビュー)：優秀者プレゼンテーション、第10回 情報ギャップを利用したスピーキング：教材作成法、第11回 情報ギャップを利用したスピーキング：ピア・エバリュエーション、第12回 情報ギャップを利用したスピーキング：優秀者プレゼンテーション、第13回 洋画を活用した4技能統合活動：教材作成法 | | | 4 成績評価の方法<Grading> 「優」は無遅刻無欠席、課題をすべて提出し、試験が80点を超え、作成した教材で優を得た者に与えられる。「良」は欠席および遅刻が1回、課題をすべて提出し、前期後期試験の平均が80点以上の者、作成した教材で優を得た者に与えられる。「可」は通遅刻および欠席が1回、課題をすべて提出し、試験のが60~79点の者に与えられる。「不可」は遅刻および欠席が3回に達した者、課題を一度でも提出しなかった者、および試験が60点に達しなかった者に与えられる。 | | |
| | | | 5 履修上の注意事項<Remarks> このクラスは教職の学生を対象にした内容であり、実用的内容を有するので、教育実習以前に履修することが望ましい。授業には積極的に参加し、配布物は必ずバインダーに保存し、毎回持参すること。課題を完了しないままで出席した者や予習状況が悪い者欠席扱いとする。遅刻は欠席扱いとする。欠席は3回目で単位を失う。教育実習で休む者は、実習に関する英文のレポート(A4で5枚程度)を提出もらうことができる。 | | |

| | | | | |
|--|--------|--|---------------|----|
| 科目名<Subject> | 情報科教育法 | <Methodobgy of Teaching hformation System > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | . | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 古谷 次郎 | <Jiro Furuya> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> 本授業は、情報教育の特質と高等学校における情報教育の内容を学習、理解することにより、情報科教員に必要な資質と能力を習得することを目的とする。 本授業は、主に普通教科「情報」と専門教科「情報」の目標、科目編成、指導内容について講義形式で解説、展開する。 | | 3 使用教材<Teaching materials> 高等学校学習指導要領解説 情報編 開隆堂出版 \90+税 | | |
| 2 授業内容<Course contents> 第1回 普通教科「情報」の目標と科目編成 第2～3回 「情報A」の指導内容と授業展開 第4～5回 「情報B」の指導内容と授業展開 第6～7回 「情報C」の指導内容と授業展開 第8回 専門教科「情報」の目標と科目編成 第9～14回 専門教科「情報」各科目の指導内容と授業展開 | | 4 成績評価の方法<Grading> 出席回数、提出課題及び定期試験によって評価する。 | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> 出席も重視する。 | | |

| | | | | |
|---|--------|---|---------------|------|
| 科目名<Subject> | 情報科教育法 | <Methodobgy of Teaching hformation System > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | . | 夏季集中 |
| 担当教員名<Name> | 鰐淵 泰彰 | <Yasuaki Wanabuchi> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> 本授業は、情報教育の特質と高等学校における情報教育の内容を学習、理解することにより、情報科教員に必要な資質と能力を習得することを目的とする。 本授業は、主に普通教科「情報」と専門教科「情報」の年間指導計画、単元別指導計画及び学習指導案の作成とそれに基づく模擬授業を演習形式で解説、展開する。 | | 3 使用教材<Teaching materials> 高等学校学習指導要領解説 情報編 開隆堂出版 | | |
| 2 授業内容<Course contents> ・情報モラル、 ・年間指導計画、単元別指導計画、学習指導案の作成 ・普通教科「情報」の模擬授業 ・専門教科「情報」の模擬授業（アルゴリズム） | | 4 成績評価の方法<Grading> 出席回数と提出課題及び演習（模擬授業）の成果によって評価する。 | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> 「情報科教育法」を履修済みであること。出席を重視する。 | | |

| | | | |
|---|---------------------------|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 道徳教育の研究 <Moral Education> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 上野 耕三郎 <Kozaburo Ueno> | 研究室番号<Office> | 341 |
| Office Hours | 事前にメールで連絡をしてください | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 「道徳教育」に準じる。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 「道徳教育」に準じる。 | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | 必要な資料はその都度配布する。 | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | 定期テストあるいはレポート課題による。 | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | | | |

| | | | |
|---|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 道徳教育 <Moral Education> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 上野 耕三郎 <Kozaburo Ueno> | 研究室番号<Office> | 341 |
| Office Hours | 事前にメールで連絡をしてください | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>学校問題現象といわれるものをすこしでも考えてみれば、今まで自明視されてきた倫理がその基盤から揺らいでいることに誰も気づくであろう。新たな時代には新たな倫理が求められているのかもしれない。</p> <p>だが、教育という世界はしばしば古典的(「学校的」といってもよいかもしれない)ともいえるもの言いに呪縛されている。それも事実である。とすると、揺るぎなき倫理を前提として「道徳」教育を考えても、その有効性は限定されたものとなる。</p> <p>「じゃあ具体的にどうしたらよいか」と訊ねる声が聞こえそうだが、正直言うとつらいものがある。中学教師も必ずしも確固たる「道徳」教育の手だてをもっているわけではない。というのも、</p> <p>「道徳教育」は特設「道徳」のなかでのみおこなえるものではない。</p> <p>子どもと学校は高度な資本主義のなかで翻弄されている。だから、「教師」や「生徒」を責めてもほとんど意味がない。</p> <p>学校教育問題以前に、家庭そして社会が地殻変動を起こしている。学校は高度資本主義社会に取り残された古典的制度であるがゆえに、「建前」を繰り返し主張する。だから、特設「道徳」では、教師の意図することを適当に理解したポーズをとっておけばよいことになる。</p> <p>中学生は思春期の段階にある。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>思春期の問題行動とみなされることながらをとりあげながら、中学生や高校生の心的ありようを探ってみる。</p> | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | 必要な資料はその都度配布する。 | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | 定期テストあるいはレポート課題による。 | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | <p>については、これまでの授業で少しは理解してもらえたのではないかと考えている。しかし、については深く触れてこなかった。この授業ではできるかぎり と関連させて、に焦点を合わせて、10代の心のありようを考えてみたい。もう少し言うと、「一人前」あるいは大人になることの難しさを現代の10代は抱えている。このテーマを中心にして授業を展開する予定である。</p> | | |

| | | | | |
|--|-------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 教育実践論 | <Practical Pedagogy > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 岡部 善平 | <Yoshiei Okabe> | 研究室番号<Office> | 454 |
| Office Hours | 随時 | | | |
| <p>1. 授業の目的・方法<Course objective and method> この授業は、学校教育において学習指導とともに重要な役割を果たす生徒指導について、その基礎的な知識を習得することを目的としている。</p> <p>生徒指導は、これまで問題行動を起こした生徒への対応や服装検査などの生活指導に限定されて行われる傾向にあった。もちろんこれらも生徒指導における活動内容の一部ではあるが、近年生徒指導は、進路および学習ガイダンス機能の充実など、学習指導では十分に対応できない人間形成に関わる重要な役割を担うことが期待されている。そこで本講義では、現代の中学生、高校生、および学校が置かれた社会環境をふまえながら、生徒指導の目的や意義、役割について考える。また、いくつかの事例を取り上げ、生徒指導の方法や教職についての理解を深めていく。</p> | | <p>3. 使用教材<Teaching materials> 必要な資料をコピーして配布する予定。参考書はその都度指定する。</p> <p>4. 成績評価の方法<Grading> 指定されたテーマによる期末レポートの提出とその内容(70%)、授業中の発表や報告(30%)によって行う。</p> <p>5. 履修上の注意事項<Remarks></p> | | |
| <p>2. 授業内容<Course contents></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導の基本理解 2. 現代の学校教育における諸問題 3. 学校における組織的な生徒指導 4. 生徒指導の方法 5. 生徒指導の展開例 | | | | |

| | | | | |
|--|-------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 生徒指導 | <Guidance and Counseling> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 岡部 善平 | <Yoshiei Okabe> | 研究室番号<Office> | 454 |
| Office Hours | 随時 | | | |
| <p>1. 授業の目的・方法<Course objective and method> この授業は、学校教育において学習指導とともに重要な役割を果たす生徒指導について、その基礎的な知識を習得することを目的としている。</p> <p>生徒指導は、これまで問題行動を起こした生徒への対応や服装検査などの生活指導に限定されて行われる傾向にあった。もちろんこれらも生徒指導における活動内容の一部ではあるが、近年生徒指導は、進路および学習ガイダンス機能の充実など、学習指導では十分に対応できない人間形成に関わる重要な役割を担うことが期待されている。そこで本講義では、現代の中学生、高校生、および学校の置かれた社会環境をふまえながら、生徒指導の目的や意義、役割について考える。また、いくつかの事例を取り上げ、生徒指導の方法や教職についての理解を深めていく。</p> | | <p>3. 使用教材<Teaching materials> 必要な資料をコピーして配布する予定。参考書はその都度指定する。</p> <p>4. 成績評価の方法<Grading> 指定されたテーマによる期末レポートの提出とその内容(70%)、授業中の発表や報告(30%)によって行う。</p> <p>5. 履修上の注意事項<Remarks></p> | | |
| <p>2. 授業内容<Course contents></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導の基本理解 2. 現代の学校教育における諸問題 3. 学校における組織的な生徒指導 4. 生徒指導の方法 5. 生徒指導の展開例 | | | | |

| | | | | |
|--|------|---|---------------|----|
| 科目名<Subject> | 教育相談 | <Educational Counseling> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 渡辺 誠 | <Makoto Watanabe> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| 単に生徒から相談を受けた場合の接し方だけではなく、いわゆるむずかしい生徒や家族との関わりといったことまでを含め、実際例を取り上げながら幅広く考えてゆく。また、具体的なテーマとして、非行、不登校、いじめ等の問題を扱う。授業の進め方は講義形式のみではなく、質疑応答、文献を読んだレポートに基づくディスカッションなどの方法も取り入れる予定である。 | | 特定のテキストは使用せず、必要な資料をプリントにして配布する。 | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | | |
| 1. 教育相談の基本的な考え方と態度 | | 総授業回数の三分の二以上出席した履修者を評価の対象とする(なお、遅刻は三回で欠席一回として取り扱う)。評価は出席を含む授業への参加状況と期末のレポートにより行う。 | | |
| 2. 不登校 | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| 3. 非行 | | 文献を読むだけでは伝わりにくいであろう実践的知識、技能を、直接話をするこてで伝えようとするという面が、この授業にはあります。 | | |
| 4. いじめ | | 休まずに出席し、授業に参加してください。 | | |

| | | | | |
|--|-------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 教育実践論 | <Practical Pedagogy > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 岡部 善平 | <Yoshieï Okabe> | 研究室番号<Office> | 454 |
| Office Hours | 随時 | | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | | |
| この講義では、学校教育の不可欠な枠組みをなす教育課程について、その編成・実施・評価の諸原理および諸課題を、とくに中等教育に焦点を当てて解説する。それによって、学校での教育課程編成に関する基本的な視点の習得をめざす。 | | 必要な資料をコピーして配布する予定。参考書はその都度指定する。 | | |
| 生徒にいつ、何を学ばせるかという議論は、これまで様々な観点から展開されてきた。とくに近年、各学校が自主的に教育課程を編成し、教育の多様化・個性化が進行する傾向にあって、教育課程は、それを実際に学ぶ生徒の実態にまで踏み込んで検討される必要に迫られている。そこで本講義では、学習指導要領の変遷および教育課程に関する諸理論を、われわれ自身の教育経験を捉え直しながら検討し、今日の教育課程をめぐる状況と問題点について考えていく。また、ユニークな教育課程をもつ事例校の教育実践を取り上げながら、学校における教育課程編成の方法と課題について考える。 | | 4. 成績評価の方法<Grading> | | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 指定されたテーマによる期末レポートの提出とその内容(70%)、授業中の発表や報告(30%)によって行う。 | | |
| 1. 教育課程とカリキュラムの概念 | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| 2. 学習指導要領の変遷 | | | | |
| 3. 中等教育における教育課程の特質と問題点 | | | | |
| 4. 教育課程の理論的背景 | | | | |
| 5. 教育意図と学習経験のズレ | | | | |
| 6. 教育課程の評価と経営 | | | | |
| 7. 学校における教育課程編成の実際 | | | | |

| | | | | |
|--|-------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 教育課程論 | <Curriculum Development> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 岡部 善平 | <Yoshiei Okabe> | 研究室番号<Office> | 454 |
| Office Hours | 随時 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>この講義では、学校教育の不可欠な枠組みをなす教育課程について、その編成・実施・評価の諸原理および諸課題を、とくに中等教育に焦点を当てて解説する。それによって、学校での教育課程編成に関する基本的な視点の習得をめざす。</p> <p>生徒にいつ、何を学ばせるかという議論は、これまで様々な観点から展開されてきた。とくに近年、各学校が自主的に教育課程を編成し、教育の多様化・個性化が進行する傾向にあって、教育課程は、それを実際に学ぶ生徒の実態にまで踏み込んで検討される必要に迫られている。そこで本講義では、学習指導要領の変遷および教育課程に関する諸理論を、われわれ自身の教育経験を捉え直しながら検討し、今日の教育課程をめぐる状況と問題点について考えていく。また、ユニークな教育課程をもつ事例校の教育実践を取り上げながら、学校における教育課程編成の方法と課題について考える。</p> | | <p>必要な資料をコピーして配布する予定。参考書はその都度指定する。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程とカリキュラムの概念 2. 学習指導要領の変遷 3. 中等教育における教育課程の特質と問題点 4. 教育課程の理論的背景 5. 教育意図と学習経験のズレ 6. 教育課程の評価と経営 7. 学校における教育課程編成の実際 | | <p>指定されたテーマによる期末レポートの提出とその内容(70%)、授業中の発表や報告(30%)によって行う。</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | | |
|---|-------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 総合演習 | <Seminar on Integrated Education> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 岡部 善平 | <Yoshiei Okabe> | 研究室番号<Office> | 454 |
| Office Hours | 随時 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>この授業が対象とする「総合的な学習の時間」は、従来の教科・科目の枠にとらわれず、環境、異文化理解、情報、福祉などのテーマを各学校や教師が独自に設定し、授業を進めていく教育実践である。本授業では、中学校および高校の「総合的な学習の時間」の目的、課題と展望、実際の授業の進め方について、授業事例の収集および検討や模擬授業の実施を通して理解することを目的とする。</p> <p>本授業では、受講者がそれぞれ自主的にテーマを設定し、指導案を作り、実際に模擬授業を行っていく予定である。したがって、本授業の受講者には、積極的にこの実技演習に参加することが求められる。</p> | | <p>必要な資料をコピーして配布する予定。参考書はその都度指定する。</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合的な学習の目的と意義 2. 総合的な学習と教科学習との関係 3. 総合的な学習の事例紹介 4. 模擬授業のテーマ設定 5. テーマに関わる情報および事例収集 指導案の作成および教材研究 6. 模擬授業 | | <p>模擬授業の実施とその内容(60%)、授業への参加状況(40%)によって行う。</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | 履修条件ではないが、「教育方法」を履修済みであることが望ましい。 | | |

| 科目名<Subject> | 職業指導 <Vocational Guidance> | | |
|--|---|--|---------------------|
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 松田光一・上野耕三郎 <Koichi Matsuda/Kozaburo Ueno> | | 研究室番号<Office> 上野341 |
| Office Hours | | | |
| <p>1 授業の目的・方法<Course objective and method> 教育職員免許法では、職業科目の免許状を取得するためには職業指導 2 単位を履修しなければならないが、中学校や高校では職業指導という名称は使わず進路指導といっている。進路指導は単に生徒の当面の進学指導や就職指導だけを意味するものではなく、広く将来の生き方に関わる部分も含めた教師による指導・援助の過程である。人間の生き方は職業と結びつけて考えられる部分が多いので、職業をめぐる諸問題を多面的に学習し、進路指導に活かされることを目標に進める予定である。</p> <p>2 授業内容<Course contents> (1) 職業とは何か (2) 職業観・職業意識の変化 (3) 産業社会の変動と職業 (4) 職業指導の歴史 (5) 日本の職業教育 (6) 企業内教育訓練の系譜・職業資格制度と教育 (7) 内部労働市場とキャリア発達 (8) 進路選択の諸理論 (9) 学校における進路指導 (10) 今日の職業指導の課題</p> | | <p>3 使用教材<Teaching materials> 教科書は使用しない。授業にあわせて資料を配付する。</p> <p>4 成績評価の方法<Grading> 出席状況、レポートおよび定期試験によって総合的に評価する。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> 出席を重視する。</p> | |

| 科目名<Subject> | 職業指導 <Vocational Guidance> | | |
|--|----------------------------|--|---------------|
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 松田 光一 <Koichi Matsuda> | | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| <p>1 授業の目的・方法<Course objective and method> 教育職員免許法では、職業科目の免許状を取得するためには職業指導 2 単位を履修しなければならないが、中学校や高校では職業指導という名称は使わず進路指導といっている。進路指導は単に生徒の当面の進学指導や就職指導だけを意味するものではなく、広く将来の生き方に関わる部分も含めた教師による指導・援助の過程である。人間の生き方は職業と結びつけて考えられる部分が多いので、職業をめぐる諸問題を多面的に学習し、進路指導に活かされることを目標に進める予定である。</p> <p>2 授業内容<Course contents> (1) 職業とは何か (2) 職業観・職業意識の変化 (3) 産業社会の変動と職業 (4) 職業指導の歴史 (5) 日本の職業教育 (6) 企業内教育訓練の系譜・職業資格制度と教育 (7) 内部労働市場とキャリア発達 (8) 進路選択の諸理論 (9) 学校における進路指導 (10) 今日の職業指導の課題</p> | | <p>3 使用教材<Teaching materials> 教科書は使用しない。授業にあわせて資料を配付する。</p> <p>4 成績評価の方法<Grading> 出席状況、レポートおよび定期試験によって総合的に評価する。</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> 出席を重視する。</p> | |

| | | | | |
|--|-----------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 言語学概論 | <Introduction to General Linguistics> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 | |
| 担当教員名<Name> | 大島 稔 | <Minoru OSHIMA> | 研究室番号<Office> | 353 |
| Office Hours | 月・金 12:50-14:20 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>言語といっても、世界に 6,000 の言語があると言われ、人間の生活のあらゆる局面で言語が使われるため、言語現象も多岐にわたり、しかも、言語現象は、基本的に言語中枢と呼ばれる脳細胞の中で起こります。解明するのが厄介な現象です。この授業では、英語と日本語を分析の対象とし、言語のさまざまなレベル(音声・語彙・統語・語用論・談話・文体・発想・文化)における言語現象を組織的・体系的に説明するための基本を学びます。必要がある場合には、他の言語も参照します。</p> | | <p>吉村公宏(2004), 『はじめての認知言語学』, 研究社</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>第1章 言語学とは 第2章 認知とは 第3章 カテゴリー化 第4章 プロタイプについて 第5章 意味の類似とネットワーク 第6章 スキーマ 第7章 他動性と動作主 第8章 構文 第9章 多義性 第10章 メタファーとメトニミー 第11章 日英語の対照</p> | | <p>(1) 出席点(30%) (2) 課題レポート(70%)</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>ことばの仕組みや働きは、身近すぎてなかなか気づきにくい現象が多いのですが、中学・高校までに習った日本語や英語の知識を使って、言語現象を素直な目で観察し、分析する態度を身につけてください。</p> | | |

| | | | | |
|--|--|---|---------|--|
| 科目名<Subject> | 英語学概論 | <Introduction to English Linguistics> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 通年 | |
| 担当教員名<Name> | 山本久雄 ショーン・クランキー- <Hisao Yamamoto/Shawn Crankey> | 研究室番号<Office> | 526/419 | |
| Office Hours | 山本：金曜日13:00~14:30 クランキー：Thursday 1 st or 3 rd pd., or by appt. | | | |
| (山本教員分) | | 2 授業内容<Course contents> | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | This will be a learner-centered course. That means most of the work you do in this class will be small group work where each person must participate in the given task. Group discussions of linguistic topics and problem solving activities will occur weekly, along with readings, summaries, and a limited amount of written work. There may also be one presentation in English. | | |
| <p>目的：英語学に関する基礎知識の習得 方法：英文テキストの精読</p> | | | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>第1週 オリエンテーション 第2~15週 意味論</p> | | <p><u>Grammar for Speaking: Questions and Answers</u> (available from 5/2006). Tokyo: Goken (Required)</p> <p>An additional linguistics text of the class materials will be available from the instructor on the first day of class. Each student should bring 1000 yen to cover the cost of the book. All students should come to class with writing materials and paper. A dictionary is also helpful.</p> | | |
| 3 使用教材<Teaching materials> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>テキスト： <i>Contemporary Linguistic Analysis :An Introduction</i> William O'grady and Michael Dobrovolsky 著 松柏社</p> | | <p>Your final grade in this class depends on several factors. These include homework and quizzes, participation, and attendance. As this is a class where participation is important, the more you participate the better you are likely to do. Therefore, participation is 50% of your grade. Attendance is important to your participation grade. If you don't come, you can't possibly participate. Therefore, if you miss more than three classes in the 15 week period you will fail that part of the class. The remaining 50% will include assignments and your presentation.</p> | | |
| 4 成績評価の方法<Grading> | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| <p>前期の定期試験・出席・授業内での発表による総合評価</p> | | <p>全授業数の1/3以上の欠席者は受験不可</p> | | |
| 5 履修上の注意事項<Remarks> | | | | |
| (クランキー教員分) | | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | | | |
| <p>This is a course in introductory linguistics (2 sem.), and will be split with Professor Yamamoto (1 sem.). In this class we will look at several linguistic topics relevant to the classroom and how each works in real life. The objectives for this course are as follows:</p> <p>a. Build self-confidence in their speaking, listening, reading, and writing abilities.</p> <p>b. Learn some of the central ideas of linguistics and how they work in the classroom.</p> <p>c. Gain a broader appreciation for how language works.</p> | | | | |

| | | | | |
|---|--|------------------------|--|-----|
| 科目名<Subject> | 英語学 | <English Linguistics > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | ~ | 通年 |
| 担当教員名<Name> | ダニエラ・カルヤヌ | <Daniela Calianu> | 研究室番号<Office> | 536 |
| Office Hours | Monday 16:10 - 17:40 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>The aim of this course is to develop skills for collecting linguistic data and making generalizations on the basis of such data. We will explore different methods of obtaining linguistic data; analyse the data, make generalizations and discuss them.</p> | | <p>3.使用教材<Teaching materials> Internet resources; HOLOGRAM software</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>Introduction: Internet language resources and how to use them Linguistic data: texts and questionnaires Data collection and analysis: -Prepositions -Verbs -Nominalizations -Special sentence patterns -Speech Acts</p> | | <p>4 成績評価の方法<Grading> Class activity (questions, participation in discussions) 70%; final presentation 30%</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> i. Although this course is independent from English Linguistics 1, it assumes familiarity with the terminology and the skills introduced in that course. ii. Questions: I will give points for relevant questions.</p> | |

| | | | | |
|---|---|------------------------|--|-----|
| 科目名<Subject> | 英語学 a | <English Linguistics > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | ダニエラ・カルヤヌ | <Daniela Calianu> | 研究室番号<Office> | 536 |
| Office Hours | Monday 16:10 - 17:40 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>The aim of this course is (a) to familiarize students with the basic terminology of English grammar and its meaning (b) to help students understand some of the basic distinctions on which grammatical thinking is based and (c) to develop some of the basic skills required for practicing grammar. The course will consist of: preparatory activities for developing the required skills; short lectures; self-study using the software; critical discussions.</p> | | <p>3.使用教材<Teaching materials> HOLOGRAM software, materials prepared by teacher</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | <p>Classifying Introduction: how to classify -Word Classes -Verb Types -Larger units: phrases, clauses, sentences Schematizing -Introduction: schemas and scripts -Sentence constituents -Verbs -Phrases Form and function -Introduction -Phrases -Sentence constituents realized as clauses</p> | | <p>4 成績評価の方法<Grading> Class activity (questions, participation in discussions) 70%; final paper 30%</p> <p>5 履修上の注意事項<Remarks> Questions: I will give points for relevant questions.</p> | |

| | | | |
|--|-------------------|--|-------------------|
| 科目名<Subject> | 英語学 | <English Linguistics > | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | ~ 通年 |
| 担当教員名<Name> | 山本 久雄 | <Hisao Yamamoto> | 研究室番号<Office> 526 |
| Office Hours | 山本：金曜日13:00~14:30 | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | |
| 目的：英文法の習得 方法：英文テキストの精読 | | テキスト： <i>A University Grammar of English</i> Randolph Quirk and Sidney Greenbaum 著 Longman | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | |
| 第1週 オリエンテーション | | 年2回の定期試験・出席・授業内での発表による総合評価 | |
| 第2~15週 7章 | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | |
| 第16~30週 8章 | | 全授業数の1/3以上の欠席者は受験不可 | |

| | | | |
|--|-------------------|--|-------------------|
| 科目名<Subject> | 英語学 a | <English Linguistics > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 山本 久雄 | <Hisao Yamamoto> | 研究室番号<Office> 526 |
| Office Hours | 山本：金曜日13:00~14:30 | | |
| 1. 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3. 使用教材<Teaching materials> | |
| 目的：英文法の習得 方法：英文テキストの精読 | | テキスト： <i>A University Grammar of English</i> Randolph Quirk and Sidney Greenbaum 著 Longman | |
| 2. 授業内容<Course contents> | | 4. 成績評価の方法<Grading> | |
| 第1週 オリエンテーション | | 前期の定期試験・出席・授業内での発表による総合評価 | |
| 第2~15週 7章 | | 5. 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | 全授業数の1/3以上の欠席者は受験不可 | |

| | | | | |
|---|-----------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英文学史 | <History of English Literature> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | . | 通年 |
| 担当教官名<Name> | 君羅 久則 | <Hisanori Kimura> | 研究室番号<Office> | 322 |
| Office Hours | 月曜16:10 ~ 17:45 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 第 25 ~ 28 回 | 古典主義の文学 | |
| ベーオウルフに始まる英文学の歴史を伝統的な時代区分に従って分け、各時代の主な潮流や変遷を、詩を中心に考えていきます。各時代を詳しく知ることが必要ですが、時代と時代のつながりを理解することが重要です。具体的には下記のテキストを時折利用しつつ重要な作家と作品を取り上げて重点的に補説し、加えて代表的な作品は部分的にはあるが、原典によって読むことになります。各時代の主な作品(開講時に列挙する)は翻訳でもよいから予め読んでおくことが望ましい。授業中に取り上げて読む作品(詩を中心にその他散文や劇作品などの抜粋)についてはその都度ハンドアウトを配ります。なお講義時間中は補説中心となるので必ずノートをとること(フリーノート形式)。 | | 第 29 ~ 30 回 | ロマン主義の文学 | |
| | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| | | テキスト:志子田光雄著『英文学史概要』金星堂 参考書:志子田光雄著『英詩理解の基礎知識』(金星堂)他、講義時間中に適宜紹介する。 | | |
| | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| | | 前期 後期の期末試験の他、レポート 授業への参加度等を加味して総合的に判定する。 | | |
| | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | 授業実施時数の2/3以上出席しなければ評価の対象外(単位の認定はしない)とします。 | | |
| 2.授業内容<Course content> | | | | |
| 『ベーオウルフ』から全てのジャンルが現れる19世紀の文学までを、次のような予定で概観していきます。授業は補説中心ですが、詩や劇作品などの抜粋を読むほか、各時代関連の絵画やビデオなどの映像教材をもできるだけ多く利用することになります。 | | | | |
| 第 1 回 Introduction | | | | |
| 第 2 ~ 5 回 中世前期 | | | | |
| 第 6 ~ 11 回 中世後期 | | | | |
| 第 12 ~ 19 回 ルネサンス | | | | |
| 第 20 ~ 22 回 ビューリタニズムの文学 | | | | |
| 第 23 ~ 24 回 王政回復期の文学 | | | | |

| | | | | |
|--|-------------------|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英文学概論 | <Introduction to English Literature> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | ~ | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 杉村 泰教 | <Yasunori Sugamura> | 研究室番号<Office> | 541 |
| Office Hours | (金) 14:30 ~ 17:00 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| 前期は、英文学の作品に見られる創作上の基本的な技法について論ずる。 後期は、現代文芸批評の全体像を解説する。 | | 資料による。 | | |
| 2.授業内容<Course contents> | | 4.成績評価の方法<Grading> | | |
| 1回 ~ 2回 Leitmotif | | 主として定期試験の成績による。出席率、授業への参加態度、予習の状況を重視する。 | | |
| 3回 ~ 4回 Dramatic Irony | | 5.履修上の注意事項<Remarks> | | |
| 5回 ~ 6回 Free Indirect Discourse, Stream of Consciousness | | 授業実施時数の3分の2以上出席しなければ、定期試験を受けることはできない。 原則として遅刻は欠席と同等に扱う。 | | |
| 7回 ~ 8回 Point of View, The Symbolic and the Semiotic | | | | |
| 9回 ~ 10回 Repetition and Difference, Intertextuality | | | | |
| 11回 ~ 15回 Metaphor and Simile, Sense of an Ending | | | | |
| 16回 ~ 30回 英米の現代文芸批評を中心に、その理論と用語を説明し、批評家の代表的な著書から抜粋した英文を精読する。 | | | | |

| | | | |
|--|-----------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 英文学 | <English Literature > | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | ~ 通年 |
| 担当教員名<Name> | 君羅 久則 | <Hisanori Kimura> | 研究室番号<Office> 322 |
| Office Hours | 月曜16:10 ~ 17:45 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>シェークスピアの四大悲劇の1つ『マクベス』は、人間の心の奥底に潜む悪の可能性を3人の魔女に仮託し精緻な言葉の表現として展開して見せた芸術です。その神髄を完全に見極めることは難しいが、言葉とその表現を手がかりとしてそこに近づくことは可能です。そのためには劇構成ばかりでなく、修辞法、韻律、イメージなどの詩の表現方法を理解することが肝要になります。</p> <p>『マクベス』を理解するためには、『マクベス』だけを見るのではなく、作者のシェークスピア、さらにルネサンスという時代についても考えなければなりません。作品、作家、時代についてのビデオ等の映像・画像利用しながら理解を深める予定です。</p> | | <p>テキスト: William Shakespeare, <i>Macbeth</i>. 研究社小英文学叢書 参考書: 齊藤勇 「シェークスピア研究」 研究社 志子田光雄 「英詩理解の基礎知識」 金星堂 C. T. Onions, rev. Robert D. Eagleton, <i>A Shakespeare Glossary</i>. Oxford, 1986.</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>『マクベス』を下記の順序で取り上げながら、劇の構成、修辞法、韻律、イメージ、音の効果的な使い方などを中心にシェークスピアの言葉の芸術について考えていくことにします。最初の2回は英詩法、修辞法、時代背景、作者について概説します。これを聞き逃すと以降の理解が困難になります。</p> <p>第1 ~ 3回 Introduction 第3 ~ 9回 第1幕 第10 ~ 15回 第2幕 第16 ~ 19回 第3幕 第20 ~ 23回 第4幕 第24 ~ 27回 第5幕 第28 ~ 30回 まとめ</p> | | <p>前期・後期の期末試験、課題、授業での発表、参加度を加味して総合的に判定する。授業実施時数の2/3以上出席しなければ評価の対象外(単位の認定はしない)とします。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p><i>Macbeth</i> の録音テープがあるので、各自で用意してください。</p> | |

| | | | |
|--|-----------------|---|-------------------|
| 科目名<Subject> | 英文学 a | <English Literature > | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 君羅 久則 | <Hisanori Kimura> | 研究室番号<Office> 322 |
| Office Hours | 月曜16:10 ~ 17:45 | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | |
| <p>シェークスピアの四大悲劇の1つ『マクベス』は、人間の心の奥底に潜む悪の可能性を3人の魔女に仮託し精緻な言葉の表現として展開して見せた芸術です。その神髄を完全に見極めることは難しいが、言葉とその表現を手がかりとしてそこに近づくことは可能です。そのためには劇構成ばかりでなく、修辞法、韻律、イメージなどの詩の表現方法を理解することが肝要になります。</p> <p>『マクベス』を理解するためには、『マクベス』だけを見るのではなく、作者のシェークスピア、さらにルネサンスという時代についても考えなければなりません。作品、作家、時代についてのビデオ等の映像・画像利用しながら理解を深める予定です。</p> | | <p>テキスト: William Shakespeare, <i>Macbeth</i>. 研究社小英文学叢書 参考書: 齊藤勇 「シェークスピア研究」 研究社 志子田光雄 「英詩理解の基礎知識」 金星堂 C. T. Onions, rev. Robert D. Eagleton, <i>A Shakespeare Glossary</i>. Oxford, 1986.</p> | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | |
| <p>『マクベス』を下記の順序で取り上げながら、劇の構成、修辞法、韻律、イメージ、音の効果的な使い方などを中心にシェークスピアの言葉の芸術について考えていくことにします。最初の2回は英詩法、修辞法、時代背景、作者について概説します。これを聞き逃すと以降の理解が困難になります。</p> <p>第1 ~ 3回 Introduction 第3 ~ 9回 第1幕 第10 ~ 15回 第2幕 第16 ~ 19回 第3幕 第20 ~ 23回 第4幕 第24 ~ 27回 第5幕 第28 ~ 30回 まとめ</p> | | <p>前期・後期の期末試験、課題、授業での発表、参加度を加味して総合的に判定する。授業実施時数の2/3以上出席しなければ評価の対象外(単位の認定はしない)とします。</p> | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | |
| | | <p><i>Macbeth</i> の録音テープがあるので、各自で用意してください。</p> | |

| | | | | |
|---|--|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英文学 | <English Literature > | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | ~ | 通年 |
| 担当教員名<Name> | 吉田 直希 | <Naoki Yoshida> | 研究室番号<Office> | 433 |
| Office Hours | 月14:30 ~ 17:00 E-mail: yoshida@res.otaru-uc.ac.jp Tel: 27-5426 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> 対話型、双方向型の授業 英文学を学ぶ上で必要な基礎的知識を身につけ、それらを多くの作品読解に応用する。 | | 3 使用教材<Teaching materials> プリントを使用します。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> テキストの内容に関する討論を中心に進める。 | | 4 成績評価の方法<Grading> 授業への参加状況：50点 試験およびレポート：50点 | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> 必ずオリエンテーションに参加すること。 | | |

| | | | | |
|---|--|--|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英文学 a | <English Literature > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 吉田 直希 | <Naoki Yoshida> | 研究室番号<Office> | 433 |
| Office Hours | 月14:30 ~ 17:00 E-mail: yoshida@res.otaru-uc.ac.jp Tel: 27-5426 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> 対話型、双方向型の授業 英文学を学ぶ上で必要な基礎的知識を身につけ、それらを多くの作品読解に応用する。 | | 3 使用教材<Teaching materials> プリントを使用します。 | | |
| 2 授業内容<Course contents> テキストの内容に関する討論を中心に進める。 | | 4 成績評価の方法<Grading> 授業への参加状況：50点 試験およびレポート：50点 | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> 必ずオリエンテーションに参加すること。 | | |

| | | | | |
|--|----------------------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英会話・英作文 | <English Conversation and Composition> | | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | ~ | 通年 |
| 担当教員名<Name> | シヨン・克蘭キー | <Shawn C Rankie> | 研究室番号<Office> | 419 |
| Office Hours | By appointment or Th. 12-1 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>This is a whole language course yet one that will place greater emphasis on Speaking and Writing. In this course students will learn to:</p> <p>a. Build self-confidence in their speaking, listening, reading, and writing abilities.</p> <p>b. Recognize weaknesses in their abilities, and try to overcome these weaknesses.</p> <p>c. Express themselves at more than a survival level in English.</p> <p>d. Build a stronger knowledge of the cultures that use English.</p> <p>e. Gain a broader appreciation for how language works.</p> | | <p>Grammar for Speaking: Questions and Answers (available from 5/2006). Tokyo: Goken (Required)</p> <p>An additional writing text is required for this course. Details will be given on how to get the book during the first or second class.</p> <p>Students will also be responsible for locating additional articles for study. All students should come to class with writing materials and paper. A dictionary is also helpful.</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>This will be a learner-centered course. That means most of the work you do in this class will be small group work where each person must participate in the given task. Group discussions of music and problem solving activities will occur weekly, along with reading, and a limited amount of written work.</p> | | <p>Your final grade in this class depends on several factors. These include homework and quizzes, participation, and attendance. As this is a speaking class, the more you participate the better you are likely to do. Therefore, participation is 50% of your grade. Attendance is important to your participation grade. If you don't come, you can't possibly participate. Therefore, if you miss more than three classes per 15 week period (in a 30 week course) you will fail that part of the class. The remaining 50% will include assignments and other work.</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |

| | | | | |
|--|-----------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 英語コミュニケーション | <Communication in English> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | ~ | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 小林 敏彦 | <Toshiko Kobayashi> | 研究室番号<Office> | 319 |
| Office Hours | 金曜午後 4:10~ 6:10 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 第14回 英語のnursery rhymes 『天使にラブソングを』 | | |
| <p>洋画を通じて英語コミュニケーションの諸相と背景にある英語圏の文化を学ぶ。対話の中で描かれるさまざまな諸相やその背後にある文化をテーマごとに整理し、それぞれに割り当てられた学生が2人1組(または1人)で作品をビデオで部分的に紹介しながら30分間(時間厳守)のプレゼンテーションを英語で行う。作品は下から選ぶ。</p> <p>まずペアを結成してから授業に出席すること。なお日本語の使用は厳禁とするが、授業終了前の5分間は日本語で説明の捕捉と質疑応答を行う。</p> | | 第15回 英語のノンバーバル・コミュニケーション 『交渉人』 | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>授業の流れ: 1) 毎回洋楽の聴き取り 2) 学生による発表 3) 背景説明と授業内ディスカッション</p> <p>授業の予定:</p> <p>第1回 キリスト教文明の理解 『セブン』</p> <p>第2回 説得コミュニケーション 『12人の怒れる男たち』</p> <p>第3回 復讐 『レオン』</p> <p>第4回 テロリズム 『ダイハード3』</p> <p>第5回 偏見と克服 『ベイブ』</p> <p>第6回 人種差別 『評決のとき』</p> <p>第7回 愛国心 『ロッキー4』</p> <p>第8回 日本人のステレオタイプ 『ティファニーで朝食を』</p> <p>第9回 大統領のリーダーシップ 『インデペンデンスデイ』</p> <p>第10回 冤罪 『逃亡者』</p> <p>第11回 言語と階級意識 『マイ・フェア・レディ』</p> <p>第12回 愛と奇跡(人に信じてもらうための談話構造) 『ゴースト』または『コンタクト』</p> <p>第13回 英語の卑語、俗語 『ショーシャンクの空に』</p> | | 『映画英語教育論』(スクリーンプレイ社) | | |
| | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| | | <p>「優」は無遅刻無欠席、課題をすべて提出し、プレゼンで優を得て、かつ定期試験で80点以上を獲得した者に与えられる。「良」は欠席および遅刻が1回、課題をすべて提出し試験のが80点以上の者、プレゼンで優を得た者に与えられる。「可」は通遅刻および欠席が1回、課題をすべて提出し、試験のが60~79点の者に与えられる。「不可」は遅刻および欠席が3回に達した者、課題を一度でも提出しなかった者、プレゼンで不可または定期試験が60点に達しなかった者に与えられる。</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>このクラスは教職の学生を対象にした内容であり、授業は英語を使用するので、履修にあたっては留意すること。授業には積極的に参加し、配布物は必ずバインダーに保存し、毎回持参すること。課題を完了しないままで出席した者や予習状況が悪い者欠席扱いとする。遅刻は欠席扱いとする。欠席は3回目で単位を失う。教育実習で休む者は、実習に関する英文のレポート(A4で5枚程度)を提出もらうことがある。</p> | | |

| | | | | |
|---|----------------|---|---------------|-----|
| 科目名<Subject> | 比較文化 | <Comparative Studies of Cultures > | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | ~ | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 高井 収 | <Osamu Takai> | 研究室番号<Office> | 501 |
| Office Hours | 金14:30 ~ 15:30 | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | | 3 使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>Based on the basic ideas of intercultural communication, Japanese patterns of communication are examined through reading the related topics, interviewing people, and observation in the Japanese society.</p> <p>The main objectives include developing skills for observing and interpreting Japanese culture, and becoming more effective in intercultural communication.</p> <p>The course is built on three parts.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Methods of cross-cultural comparison 2. Cultural observation and interpretation 3. Intercultural communication skills | | <p>Textbook: Stroti, Craig. (1999) <i>Figuring Foreigners Out - A Practical Guide</i>. Intercultural Press.</p> <p>Recommended readings: Samovar, Larry A., Porter, Richard E., & Stefani, Lisa A. (2004) <i>Communication Between Cultures</i>. Wadsworth Publishing Company.</p> <p>The additional references will be announced in the beginning of the course.</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction on intercultural communication 2. Observation 3. Simulation and discussion 4. Group work | | <p>Weight equally distributed between attendance, participation; assignments, and exams.</p> | | |
| | | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | <p>Attendance becomes very significant since this course is offered only in a half year.</p> <p>We will start reading from Chapter 3 through Chapter 5 of the textbook in this class, since we have done from Chapter 1 though Chapter 2 in the class of Comparative Culture III in 2005.</p> | | |

国際交流科目

| | | | |
|--|--|-------------------------------|---------------|
| 科目名<Subject> | 中級ミクロ経済学 | <Intermediate Microeconomics> | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 藤生 源子 | <M hako Fujio> | 研究室番号<Office> |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>This course is an introduction to the basic tools of Microeconomic theory. The primary objective of this course is to develop and understand these tools and learn how to apply them to real world problems. A wide variety of applications of the theory will be presented throughout the course. By the end of the course you will have a deeper understanding of how economists analyze problems as well as skills to apply on your own.</p> | <p>Robert S. Pindyck and Daniel L. Rubinfeld, Microeconomics</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>The topics covered in this course include: consumer theory, producer theory, competitive markets, market structure, competitive strategy, information, market failure and the role of government.</p> | <p>The course grade will be based upon class participation, quizzes, a mid-term exam and a final exam.</p> | | |
| | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | <p>The details and changes will be announced at the beginning of the semester by the instructor.</p> | | |

| | | | |
|---|--|-------------------------------|-------------------|
| 科目名<Subject> | 中級マクロ経済学 | <Intermediate Macroeconomics> | |
| 単位数<Credits> | 4 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | 横田 宏治 | <Koji Yokota> | 研究室番号<Office> 520 |
| Office Hours | | | |
| 1 授業の目的・方法<Course objective and method> | 3.使用教材<Teaching materials> | | |
| <p>This course aims at basic understanding of macroeconomics. In contrast to microeconomics, macroeconomics directly studies the relationship between the aggregate variables rather than pursuing rigor of microeconomics. For example, the knowledge of macroeconomics helps to understand the current state of economy from published indicators and to predict the consequences of a particular policy by the government.</p> <p>The main objective of this course is to acquire the knowledge of macroeconomic theory. Applications are mentioned only in relation to the implications of the theory. Assignments are provided more or less weekly. Students should review the handouts for each assignment.</p> | <p>Textbook: Olivier Blanchard "Macroeconomics" 3rd ed., 2003 (Prentice Hall).</p> | | |
| 2 授業内容<Course contents> | 4 成績評価の方法<Grading> | | |
| <p>The topics covered by this course are: national income, IS-LM analysis, AS-AD analysis, unemployment, inflation, economic growth and international macroeconomics.</p> | <p>The grade is mainly based on results of the mid-term and final examinations. The results of assignments are also a part of grading.</p> | | |
| | 5 履修上の注意事項<Remarks> | | |
| | | | |

| | | | | |
|---|---|--------------------|--|-----|
| 科目名<Subject> | 日本経済 | <Japanese Economy> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | 横田 宏治 | <Ko-ji Yokota> | 研究室番号<Office> | 520 |
| Office Hours | | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | This is an application course of economics which analyzes Japanese economy using theoretical tools. It mixes lectures and presentation and discussion sessions by students. The topics are chosen from the current status and modern economic history of Japan. | | 3.使用教材<Teaching materials> Bibliography will be provided in the class. References Flath, The Japanese Economy, Oxford University Press, 2000. Ito, The Japanese Economy, MIT Press, 1992. Nakamura, The Postwar Japanese Economy, 2nd ed., University of Tokyo Press, 1995. | |
| 2.授業内容<Course contents> | "Rapid growth" in 1950-70's, bubble economy, depression and credits, scope of firms, international trade and other topics. | | 4.成績評価の方法<Grading> Grading is based on attendance, quality of presentation and an examination. 5.履修上の注意事項<Remarks> <i>Prerequisites:</i> Intermediate Macroeconomics or equivalent. | |

| | | | | |
|---|---|---------------|--|----|
| 科目名<Subject> | アジア太平洋におけるマーケティング戦略<Marketing Strategy in Asia and Pacific> | | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | | 前期 |
| 担当教員名<Name> | ニール・クライマー | <Neil Clymer> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | The primary objective of this course is to introduce students to both strategic management and marketing related issues that face Asian companies. The classes will be conducted the same way as many MBA courses, lectures followed by case studies that serve to reinforce the lecture material. The instructor will present the lectures and will act as facilitator for student driven case study discussions. This course will challenge students to apply their knowledge and critical thinking skills in the context of real-life business dilemmas. | | 12. Market infrastructure / Case 8: Broadband in Korea 13. Marketing strategy / Case 9: NTT DoCoMo i-mode 14. Impact of social issues / Case 10: The GM Dilemma 15. Final exam | |
| 2.授業内容<Course contents> | A tentative outline of the lectures is as follows: 1. Outline for the course 2. National markets in Asia-Pacific 3. Strategic planning / Case 1: INSEAD Asia 4. Brand management / Case 2: Acer & BenQ 5. Pricing / Case 3: Shanghai Underwater World 6. Promotion / Cases 4: French wine in Asia 7. Distribution / Case 5: Super Premium Cold Chain 8. New market entry / Case 6: QB House 9. Internet marketing in Asia / Case 7: Alibaba.com 10. Group presentations 11. Group presentations | | 3.使用教材<Teaching materials> Each student who participates in this course is required to purchase the casebook listed below: Schutte, Hellmut, Ang, Swee Hoon, Leong, Siew Meng, & Tan, Chin Tiong, <i>Marketing Management - An Asian Casebook</i> , Singapore, Pearson. (ISBN: 981-244-561-7). 4.成績評価の方法<Grading> Grading will be based on class participation, homework, a group presentation, and a final exam. Further details will be provided at the beginning of the course. 5.履修上の注意事項<Remarks> All lectures will be conducted in English. Students attending this class must have a working knowledge of computers and will have to use the Internet in their studies. The instructor will post class assignments. | |

| | | | |
|---|---|---------------|----|
| 科目名<Subject> | 世界の中の日本企業 <Japanese Companies in Global Business> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 前期 |
| 担当教員名<Name> | ニール・クライマー <Neil Clymer> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>Institutional factors implicit in cross-border transactions, differences in national economies, and a panorama of cultural propensities distinguish competition in the global marketplace. Students will learn how firms confront these issues. We will place special emphasis on how Japanese firms (and to a lesser degree, how foreign firms in Japan) address the challenges of global business. Class material will be primarily based on the textbook.</p> <p>Class time will consist of instructor presentation and student discussion of the reading material.</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | <p>An outline of course is as follows:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.Outline for the course 2.International legal, technical, and political forces 3.International trade theories 4.National and international trade policies 5.International monetary system and financial markets 6.International strategic management 7.Strategies for analyzing and entering foreign markets 8.International strategic alliances 9.International organizational design and control 10.International operations management 11.International financial management | | |
| | <p>12.Cultural factors that differentiate national markets</p> <p>13.International human resource management</p> <p>14.Ethics and social responsibility in international business</p> <p>15.Final exam</p> | | |
| | <p>3.使用教材<Teaching materials></p> <p>Each student who participates in this course is required to purchase the textbook listed below: Griffin, Ricky W., & Pustay, Michael W. (2005). <i>International Business: A Managerial Perspective</i>, 4/e (International Edition). Upper Saddle River, New Jersey: Prentice Hall. (ISBN: 0-13-123017-4)</p> | | |
| | <p>4.成績評価の方法<Grading></p> <p>Grading will be based on class participation, homework assignments, a two person partnership class report, and a final exam. Further details regarding the grading will be provided at the beginning of the course.</p> | | |
| | <p>5.履修上の注意事項<Remarks></p> <p>All lectures will be conducted in English. Students attending this class must have a working knowledge of computers and will have to use the Internet in their studies. The instructor will post class assignments.</p> | | |

| | | | |
|---|--|---------------|----|
| 科目名<Subject> | 日本的経営入門 <Introduction to Japanese Management> | | |
| 単位数<Credits> | 2 | 配当年次<Years> | 後期 |
| 担当教員名<Name> | ニール・クライマー <Neil Clymer> | 研究室番号<Office> | |
| Office Hours | | | |
| 1.授業の目的・方法<Course objective and method> | <p>The aim of this course is to introduce students to Japanese management. This class will familiarize students with management related topics such as work culture and the working environment, as well as institutional factors and principles of management that prevail in Japanese companies. Special emphasis will be placed on management in Japanese manufacturing companies and social aspects of Japanese management. Class time will consist of instructor presentation and student discussion of the reading material.</p> | | |
| 2.授業内容<Course contents> | <p>A tentative outline of the course topics is as follows:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Historical roots of Japanese management. • The roles of the government, universities, and industry associations. • Social aspects of traditional Japanese management styles. • Contrasts between Japanese and foreign management approaches. • Human resources management in Japan. • The crisis of maintaining lifetime employment in large firms. • Competition within Japanese manufacturing industries. • The Toyota Manufacturing System. | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> • Management of the R&D and intellectual property functions • Management in Japanese firms abroad. • Selected case studies. | | |
| | <p>3.使用教材<Teaching materials></p> <p>Each student who participates in this course is required to purchase the books listed below: Jackson, Keith & Tomioka, Miyuki. (2004) <i>The Changing Face of Japanese Management</i>. London, England. Routledge. (ISBN: 0-415-28745-6) and Liker, Jeffrey. (2004) <i>The Toyota Way</i>. New York, N.Y. McGraw-Hill (ISBN: 0-07-139231-9).</p> | | |
| | <p>4.成績評価の方法<Grading></p> <p>Grading will be based on class participation, homework assignments, group presentation, and a final exam. Further details regarding the grading will be provided at the beginning of the course.</p> | | |
| | <p>5.履修上の注意事項<Remarks></p> <p>All lectures will be conducted in English. Students attending this class must have a working knowledge of computers and will have to use the Internet in their studies. The instructor will post class assignments.</p> | | |

研究指導

経済学科

研究指導は2年連続で12単位

| 担当教員名 Seminar Name | テ　　マ | 概　　要 |
|--------------------------|---|---|
| 今　西　一 Hajime Imanishi | アジアの比較近代史 | アジアの近代化の同一性と差異性を考える。アジアのなかの日本という視点から、日本の近代化の特質を見てゆきたい。中国の「人民元」の切り上げひとつでも今後の日本と中国に大きな影響を与える。アジアへの冷静な見方を養っていく。 |
| 鵜　沢　秀 Masaru Uzawa | 産業組織論に関する事、産業政策に関する事、ゲーム理論の応用による寡占理論、実験経済学に関する事、パソコン利用による経済学学習方法について、および応用ミクロ経済学に関する事などについて | <p>3年次には、テキストの輪読を中心にして、基礎学力をつけてもらいます。また、個別テーマを決めるための準備期間にします。毎月月末の週1回は、コンピュータ室においてExcel, PowerPoint, HTML, MATHEMATICA などについて基本的な勉強をします。簡単なプレゼンテーションに慣れてもらいます。ゼミでは、報告された内容について、各自が意見を述べあい、議論を高めて行きます。</p> <p>4年次には、プレゼンテーションを含む個別研究発表とディスカッションを通じて卒業論文の作成をめざします。</p> <p>3年次および4年次にかかわらず、学生懸賞論文に応募するのを推奨します。</p> <p>お互いに協力しあって、各自の能力をより高めることを目標にゼミの運営をしたいと思っています。「協力の利益」を体験しましょう。専門知識を習得し、応用できる能力を身につけてもらうのはもちろん、自分の意見や考えを適切に相手に伝える能力（技術）を磨きあげてもらいたいと考えています。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|--------------------------|--|--|
| 江 頭 進 Susumu Egashira | 平成18年度は、ジョセフ・シュンペーターの議論を中心に、経済発展や企業家精神の役割を勉強する。近年の企業家ブームは主に経営学を中心に煽られたものであるが、企業家の活動が経済全体の動きに対する役割の視点はあまり語られることがない。この問題に最初に目をつけたシュンペーターの議論の学習を通じて、個々の経済活動とマクロ経済の関係の理解を目指す。また、同時にディベートやプレゼンテーションの技能の習得も重視している。 | 基本的には週一回、1, 2名のテキスト報告を中心とする。また、年に4, 5の学内他ゼミとのディベート、さらに年2回の他大学との合同ゼミを行う予定である。また、夏期には1泊2日の合宿が行われる。 |
| 佐 野 博 之 Hiroyuki Sano | 公共経済学。経済政策全般。 当ゼミでは、公共部門の経済活動に関する問題をミクロ経済学の組みの中で考え、分析していくことを、最終目標とします。規制緩和、公営企業の民営化、地方分権といった「構造改革」に関連するテーマはもちろんのこと、年金・医療問題、環境問題といった21世紀の日本や世界が抱える問題も公共経済学の研究対象です。 | 初年度の前半は、基礎を身につけるために公共経済学の文献を輪読します。その後は、いくつか関心のあるテーマを見つけ、それらに関してグループごとに研究をします。さらに、それらのテーマに関して討論会を行います。こうして、各自が関心を持ったテーマを深く掘り下げて研究し、4年次での卒業論文につなげていく予定です。公共経済学に対する理解を深めることはもちろんのこと、説得力のあるプレゼンテーションと積極的なディスカッションの能力を身につけることも目標の一つです。ちなみに、過去に提出された卒論のテーマは、環境問題や教育問題から年金・医療問題、地方分権、さらにはスポーツへの公的な関わりに至るまで様々です。 |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|------------------------------|---|--|
| 柴 山 千 里 Chisato Shibayama | <p>今日、世界はグローバル化のなかでますます国境を越えた取引が盛んになっています。そのような中で私たちのくらしや世界との結びつきはどのようになってゆくののでしょうか？グローバル化問題点は何でしょうか？より望ましい形でグローバル化を進めるにはどうしたらいいのでしょうか？このような問題を考えるために、本ゼミでは国際経済の理論を学び現状を検討します。</p> | <p>3年次のゼミでは、前期に国際経済学の教科書をレポーター方式で発表し、国際貿易の理論を勉強します。後期には、通商白書を読み、ゼミ論を作成し、インナーゼミナール大会で発表します。</p> <p>4年次のゼミは、卒論指導を行います。</p> |
| 渋 谷 浩 Hiroshi Shibuya | <p>国際金融およびファイナンス理論の学習を目標とする。金利、株価、為替レートの変動は国民経済、企業経営、家計経済に大きな影響を及ぼす。したがって、これらの重要な経済変数に関する理論を正しく理解することは、世界経済の中で政府、企業、個人が適切な判断そして行動するために必要不可欠になってきている。</p> <p>本ゼミでは、今日の世界経済と日本経済の動向について一緒に議論を通じて生きた経済学を学ぶ。ゼミ生は、世界経済および日本経済について研究しながら、世界経済と日本経済のあるべき姿について考える。また、金融市場の仕組みと機能、さらに証券投資に関する基礎知識についても学ぶ。同時に、株式投資の模擬実験などを通じて実践的に国際金融およびファイナンス理論について学ぶ。</p> | <p>3年次には、指定する文献を読んで各自発表し、世界経済および日本経済の出来事について議論を交わしながら、それらを理解するのに必要な経済知識を学ぶ。ゼミ生は、自主的・能動的に学習することが期待されている。</p> <p>4年次には、3年次に学習した経済知識に基づいて卒論を作成する。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|----------------------------|---|---|
| 角野 浩 Ko Sumino | <p>財政学および公共経済学全般に関する知識の習得を目的とします。また、ミクロ経済学の復習から基礎理論を固めます。そして、現実の経済状況を理論的な視点から眺める事が出来る事を目指します。</p> | <p>3年次は、財政学に関する洋書の輪読を行ない、毎回報告者によりレポートをして頂きます。また、ミクロ経済学のテキストを併用し、実際に問題を解きながら、基礎理論を復習します。</p> <p>4年次は、各自で財政学および公共経済学を中心に興味のあるテーマを選び、レポートを重ねた上で、卒業論文を作成します。</p> |
| 寺坂 崇宏 Takahiro Terasaka | <p>現代の日本経済について、経済データを使用して分析することを主題とします。</p> | <p>3年次では、はじめに今まで授業で勉強してきた統計学の基本的事項を確認して、これらを社会問題の分析に使える形に整理します。さらに、データ分析の代表的な手法である計量経済分析の方法について勉強します。その上で、公表されている経済データを実際に収集して、報道番組や新聞などでも話題になる経済問題について、データから検証するトレーニングを実施したいと考えています。昨年のゼミでは、日本の物価水準や失業問題、生産量の決定などの難しい問題についても議論しました。データ分析では、はじめはEXCELを使用しますが、慣れてきましたら、より上級の経済分析ソフトを使用することを予定しています。</p> <p>4年次では、計量経済分析のさらに進んだ話題（最尤法、時系列解析）について勉強するとともに、修得してきた統計的手法をできるだけ生かして、卒業論文を執筆していきたいと考えています。</p> <p>ゼミナール活動を通じて、様々な経済現象について自ら仮説を設定して、その仮説をデータから検証する能力を身につけることができるよう指導していきたいと考えています。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|--------------------------------------|--|---|
| <p>中 村 健 一 Ken-ichi Nakamura</p> | <p>私たちの行動（働くことや学ぶことなど）は、期せずして私たちが相互に関わりあい、社会的関係を形成するという役割を担っています。そしてこのような社会的関係の多くは経済的な側面を持っており、その分析には経済学が有用です。</p> <p>経済学によって我々の形成する社会について学び、同時に、ふだん語られない経済学の背景となる知識についても注目しながら、様々なことについて考えてみましょう。</p> | <p>基礎的な経済学の能力を養った後に、その応用となるような主題を選んで卒論の作成に取り組んでもらう予定です。参加者の関心に応じて、テキストややり方が変わっていくのが当ゼミの特徴です。</p> |
| <p>花 田 功 一 Koichi Hanada</p> | <p>戦後日本経済の研究</p> <p>戦後の日本経済がどのような経過・段階を経て現在に至っているかということの研究し、日本経済の現状に対する理解を深めたいと思います。</p> | <p>下記のような文献のうちから各自一冊選んでもらい順番に報告してもらおうという形式で進めていきたいと思ひます。</p> <p>中村隆英『日本経済 その成長と構造 第3版』東京大学出版会、1993年</p> <p>中村隆英『現代経済史』岩波書店、1995年</p> <p>橋本寿郎『戦後の日本経済』岩波新書、1995年</p> <p>井村喜代子『現代日本経済論：敗戦から「経済大国」を経て』有斐閣、1993年</p> <p>小島恒久『戦後日本経済の流れ』河出書房新社、1996年</p> <p>吉田和男『平成不況10年史』PHP研究所、1998年</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|----------------------------|---|---|
| 平 井 進 Susumu Hirai | <p><u>西欧の歴史・文化・社会---ドイツ・フランスを中心とする日常生活史。</u></p> <p>日常的な文化・生活のあり方を歴史的に眺めて、個人を取り巻く社会秩序の仕組みと変化を考えます。</p> <p>例えば家族史です。それが扱う家族と結婚、性別分業とセクシュアリティは、私的・個人的な問題にみえますが、文化や道徳、人口や福祉に関わるため、少子化をめぐる現在の議論のように、古くから社会的な規制や国家の政策の対象となり、意外にもその時々隠れた権力関係や経済事情が読み取れます。</p> <p>こうした勉強を通じて、既存の制度や公定の見解、常識的な価値観をそのまま信じるのではなく、自立した個人として自由かつ冷静に判断することができる、社会的で批判的な知性を楽しく養いましょう。</p> | <p>関連する基本書を輪読します。さらにヨーロッパの歴史や社会問題を扱う映画も観ます（先学期は「グッバイ・レーニン」など）。卒論は西洋史に関するテーマを自主的に選び、調査してまとめることが目標です。</p> |
| 廣 瀬 健 一 Ken-ichi Hirose | <p>マクロ経済学、金融ファイナンス論、国際マクロ経済学・国際金融論</p> <p>特に、現代のマクロ経済学・ファイナンス理論では、家計・企業など各経済主体の最適化行動に厳密に基づいて分析を行う「ミクロ経済学的基礎付け」が重要視されており、そうした考え方も積極的に取り入れながら学習します。</p> | <p>3年次：テキストの輪読などを通じて、本ゼミの研究主題に関する基礎的な知識を身につけてもらいます。</p> <p>4年次：卒業論文の作成に向けて、各自の個人研究の発表を行ってもらいます。</p> |
| 船 津 秀 樹 Hideki Funatsu | <p>国際経済の理論的および実証的研究</p> | <p>3年次においては、国際経済学の英文テキストを輪読し、主要な概念および理論について、習熟します。</p> <p>4年次においては、各自の設定したテーマに基づいて、卒業論文の執筆を指導します。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|-----------------------------------|--|---|
| <p>松 家 仁 Jin Matsuka</p> | <p>私は、具体的には現代ポーランド社会経済史という非常に専門的な分野を研究対象としています。しかし、日本国内で得られる史料的制約を考慮すれば、私の研究対象である東欧・ドイツなどの研究を日本で十分に行うことは困難です。そこで、研究指導においては学生が自主的に選択した研究主題（経済史に関するテーマ）に沿って研究指導を行う予定です。なお、日本（北海道など地域経済）などもその研究対象としても構いません。</p> | <p>学生が主体的に自らの研究課題を認識して各自で独立した研究活動を行うのが、ゼミの基本的な前提です。それゆえ、明確な問題意識を持つ学生に来て欲しいと考えています。また歴史という研究分野の特殊性から、学生の発表を主体としたゼミ運営を考えています。</p> <p>前半は読書会、後半は発表・報告を中心に研究指導を運営するつもりです。</p> <p>この研究指導に参加することにより、資料調査、論文の基本的な作法、わかりやすい発表の方法も同時に身に付くはずです。</p> |
| <p>山 本 賢 司 Kenji Yamamoto</p> | <p>ミクロ経済学：この領域では、社会を構成する家計や企業の選択が、市場を介しての資源配分、所得分配をどのように決定するかが主題である。また、市場がどのように形成されるかも、もう一つの主題である。</p> | <p>3年次：指定図書の話読と指導を通じて、基礎理論の習得を目指す。</p> <p>4年次前期：卒業論文のテーマの決定。</p> <p>4年次後期：卒業論文の作成指導 (なお、卒業論文の原稿は、履修者による相互の批評を受ける)。</p> |
| <p>横 田 宏 治 Koji Yokota</p> | <p>マクロ経済学を中心とした経済理論の研究。</p> <p>三年生は、短期留学プログラムに在籍する留学生と合同で、経済学説史のテキストを用いて、マクロ経済学の登場に至る経済理論の発展を学ぶ。</p> <p>四年生は、卒業論文に向けた研究指導を行う。</p> | <p>短期留学プログラムに在籍する留学生と合同で行なうゼミであるため、ゼミ内の公用語は英語である。英語の原文が読めることはもちろん、英語で議論するだけの語学力と意欲を必要とする。ただし、四年次の研究指導においては、場合により日本語を用いる。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|-----------------------|--|--|
| 和田良介 Ryosuke Wada | <p>金融資産価格の理論的、実証的研究。特に金融派生商品と呼ばれる金融商品の取引方法や価格理論を主に学びます。金融派生商品の例としては「先物」、「オプション」、スワップ等があります。先物やオプションでは、将来いくらの価格で株式や外国為替などを受け渡すか、現時点で価格や条件等の約束を取り決めます。</p> | <p>(1) 3年次： 金融理論の学習。 コンピューター・ソフトやプログラミング言語の練習。ソフトは Excel、Mathematica (数学ソフト)、Latex (数式もきれいに書ける組版ソフト) を使います。また Excel の操作を自動的に行うために、Visual Basic (プログラミング言語) を練習します。数学や数学的なモデルは、コンピューターを使って「試しに計算してみる」、「グラフを描いてみる」、「シミュレーションをやる」ことを通じて、理解していきます。</p> <p>(2) 4年次：金融派生商品の取引の仕組みや理論価格の理解が主なテーマ。前期は教科書の演習問題を解いて行きます。夏休み以降は卒論を共同で作成します。学んだ金融理論とコンピューターを用いて実証分析を行います。</p> <p>(3) 卒論：卒論の例を通じてゼミの活動内容を説明したいと思います。共同で卒論を作成しています。また卒論を元にした論文をビジネス創造センターが募集する「懸賞論文」に 11 月末～ 12 月上旬に例年応募しています。</p> <p>平成 17 年度の卒論のテーマは Value at Risk でした。これは例えば、金融機関が保有する金融資産から 10 日間のうちに発生し得る大幅な損失に目安をつけようとするものです。卒論ではこのためのコンピューター・プログラムを作成し、複数の資産の組み合わせを想定してリスク管理のための効果を検討しました。</p> <p>平成 16 年度の卒論の題名は「デリバティブの失敗」でした。先物やオプション取引で大きな損失を出した事例を取り上げ、原因を分析しました。これら失敗事例の原因には、売買担当者の業務逸脱を見逃す内部</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|------------------------------|-------------|---|
| <p>和田良介 Ryosuke Wada</p> | | <p>監督の不備といったデリバティブ取引に限らない一般的なものから、リスク回避のために行った「ヘッジ」の「ヘッジ割合の誤り」といったような勉強しないと理解も難しいものまであります。「懸賞論文」では佳作となりました。</p> <p>平成 15 年度の卒論の題名は「変動利付国債の価格評価」でした。変動利付国債は、オプションやスワップが埋め込まれた理論的なテーマであり、また同時に具体的な数字が出るテーマでもあります。また、理論価格を求めるために、コンピューター・シミュレーションが必要でした。そのために Visual Basic でプログラムを作成しました。</p> <p>「懸賞論文」に応募して佳作の評価を受けました。</p> <p>(4) 成績評価の基準</p> <p>1. 進捗確認のテスト。金融理論の問題演習やプログラムの課題に取り組んできたか確認するために夏休みあるいは冬休み後にテストを行います。例えば、平成 13 ~ 15 年の 8 月に行ったテストの場合には、3 年生の問題は Visual Basic による「すごろく」のプログラム作成でした。コンピューターで発生させた「乱数」をさいころ代わりに使い、エクセルシートの中で駒を進めるというものでした。</p> <p>2. 共同で作成する卒業論文における貢献。</p> <p>3. レク活動やコンピューターのメンテナンス等のゼミ運営に関する貢献。</p> |

商学科

研究指導は2年連続で12単位

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|-------------------------|---|---|
| 穴 沢 眞 Makoto Anazawa | 日本とアジアの経済的つながりを日本企業の海外進出を中心に考察します。主に製造業を取り上げ、貿易、直接投資、現地経営など様々な角度から分析を試みます。 | テキストの輪読を中心に進めますが、レジメの作成や報告を行っていただき、これをもとに議論します。海外進出企業のケース・スタディも予定しています。 |
| 伊 藤 一 Hajime Ito | 現代企業マーケティング活動を理論的に分析する。調査対象分野の例としては、化粧品企業の商品開発戦略、ホテル業のCS経営、飲料事業のチャネル戦略、小売店のPB、医療事業のCS経営などがある。 | 3年次は理論的研究を中心に指導 内容：アンケート法（調査設計、調査票の作成、統計分析、コンセプトの作り方） グループインタビュー法（具体的テーマにそくし実践） 4年次：具体的テーマにそくして実際の調査分析 卒業論文用の研究。 |
| 大 矢 繁 夫 OHYA Shigeo | 貨幣、銀行、金融システムに関する基礎的研究および最近の諸問題（金融システムの変貌、新しい金融とリスク管理、メガバンクの行方、ナローバンク制度、地域金融のあり方等）の解明。 | 3年次：上記テーマに関するテキストの輪読と討論（発表者はレジメ作成）および新聞・雑誌の記事・論文の紹介と討論を行います。またインナーゼミへ向けた論文の作成も行います。 4年次：前半は、各人の個別研究に関わるテキストの紹介と検討を行い、後半は卒業論文作成の指導を行います。 |
| 小 田 福 男 Fukuo Oda | 日本企業の競争力 生産現場の視点から 近年、自動車を中心とした製造業の一部の分野で日本企業が好業績をあげている。このような分野での日本企業の国際的な競争力が再度見直されてきている。そして、その強い競争力の秘密を生産現場、ものづくりの現場に求める調査研究が進行している。今年度は、ものづくりの現場からみた日本企業のすぐれた特質を明らかにしようとしている研究動向を取り上げる。 | 下記の指導テキストを輪読し、討論する。討論には積極的に参加することが求められる。研究主題に関心があり、一定の準備作業（予習）をして出席すれば、それはだれでもできることである。 藤本隆宏著『日本のもの造り哲学』（日本経済新聞社、2004年） 藤本隆宏著『能力構築競争』（中央公論新社、2003年） 藤本隆宏著『生産システムの進化論』（有斐閣、1997年） 『ものづくり白書（2005年版）』（ぎょうせい、2005年） |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|----------------------------|--|--|
| 乙 政 佐 吉 Sakichi Otomasa | <p>管理会計（原価計算およびコストマネジメントを含む）が研究の対象となります。ケース、雑誌・新聞記事、インターネットのようなさまざまな媒体から獲得できる資料も使用しながら、企業経営において管理会計がどのような働きをしているのかについて学んでいきます。</p> <p>なお、研究対象は企業組織が基本となりますが、役所や病院のような非営利組織、アルバイト先の職場、クラブ・ゼミ、家族なども「組織」の1つです。本ゼミでは、企業組織だけでなく自らの身近な組織についても、管理会計の視点から考えていくことを主題としています。</p> | <p>初年度においては、管理会計に関する基本知識を身につけるため、テキストを輪読します。輪読の際には、事前に報告者を決めて発表してもらいます。発表を通じて、プレゼンテーションの方法やレポートの書き方、あるいは、議論の仕方などを学びます。</p> <p>第2年度からは、各自の研究テーマについて報告してもらいます。研究報告・討論を順次積み重ね、コミュニケーション能力および問題発見・問題解決能力を高めながら、卒業論文を作成していきます。</p> |
| 坂 柳 明 Akira Sakayanagi | <p>監査論及び財務会計論。会計や監査の専門知識を単に吸収するだけでなく、会計・監査を題材にして、「こんな考え方はできないか？あんな考え方はどうか？その考え方がだめなら、それはなぜだめなのか？」といった頭の体操を重視した演習を行いたい。また、自分の頭で考えたことを、いかに説得力をもって他人に伝えるか、という訓練にも主眼を置いている。</p> | <p>財務会計あるいは監査論のテキストを参加者に担当してもらおう。担当者は事前に（目安は1週間前）参加者に対して、自分がわからないところ、自分はこのように考えるといった「問題提起」をいくつか提出してもらおう。当日は、発表者と参加者がその「問題提起」をもとに討論する。その際、「問題提起」に対する回答を回答者（全員にするかどうかは未定）に用意してもらおう。</p> <p>なお、文献だけの勉強では議論の素材が出てこない可能性があるため、関心のある参加者には、日本やアメリカの財務諸表や監査報告書を集めてきてもらうことを考えている。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|--------------------------------|--|--|
| 坂 柳 明 Akira Sakayanagi | | <p>例えば、監査論上、財務報告の信頼性を確保する仕組みである「内部統制」という概念が登場するが、銀行債権の自己査定につき、「すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業部店及び与信所管部が資産査定を実施し、当該部署から独立した与信監査室が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。」(日本信託銀行2001年有価証券報告書47頁。その他、三井住友銀行1998年有価証券報告書63頁等も参照。)といった具体例を踏まえると、少しは監査論や財務会計が身近に感じられるように思われる。当ゼミを希望する学生で、関心のある人は、上記のような「内部統制のケースについて調べてきてほしい。</p> |
| 高宮城 朝 則 Tomonori Takamiyagi | <p>流通システムとマーケティングの動態に関する理論的・実証的研究</p> <p>商品が社会的に流通していく仕組み、売手の立場からの対応策、地域の振興やまちづくりへの取り組みのあり方など、世の中の様々な流通・マーケティング現象について理論と実証の立場から検討を加えていくゼミです。</p> | <p>3年次：基礎文献輪読をつうじて流通システム・マーケティングにかかわる理論と研究方法を習得します。前期後半からグループによる実証研究を行います。4年次：応用文献の輪読とともに、卒業論文の指導を行います。</p> <p>通常のゼミに加えて、他大学との合同ゼミナール(研究発表会)も実施する予定です。</p> |
| 中 浜 隆 Takashi Nakahama | リスクマネジメントと保険 | <p>3年生 研究主題に適する本を選定し、輪読していきます。</p> <p>4年生 前期は研究主題に適する本を輪読し、後期は卒業論文の指導を行います。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|-------------------------|---|---|
| プラト・加ヲ Carolus Praet | <p>このゼミでは、多国籍企業とその環境が互いにどのように影響を与えるのかをマーケティングの立場から議論していきます。例えば以下のようなテーマを扱います。</p> <p>日米欧多国籍企業はグローバル市場でどのようなマーケティング戦略を使い、また、どのようなマーケティングプログラムで競争優位を築こうとするのか？国内市場でのマーケティング戦略とマーケティング・ミックスはそのまま外国市場で使えるのか？様々な多国籍企業は実際にどのような行動をしているのか？文化と消費者行動はどのように関連しているのか？多国籍企業はそれにどのように対応しているのか？というようなテーマを議論します。グループ研究によって学生の情報検索能力、問題意識の育成、論文の書き方に関する知識等の促進を図っていきます。</p> | <p>3年次：国際マーケティングに関するテキスト、記事及びケースの輪読と討論。グループ研究。</p> <p>4年次：卒業論文の制作に関する指導。</p> |
| 白 貞 壬 Jungyim BAEK | <p>小売業における国際化という現象が具体的にどのような動きとして現実に現れているかを主な研究主題とします。日本市場に参入している外国の小売企業と国内の小売企業との競争関係だけでなく、外国市場に進出している日本の小売企業と外国企業、そして現地企業との競争関係を理論的に分析していきます。最終的には、小売業の国際化現象がどのような特徴をもち、流通全体に対していかなる影響を与えるかを明らかにします。</p> | <p>下記テキストの章立てに合わせて、報告担当者の報告をもとにディスカッションを行います。後半はケースを用いて理論的に分析し、設定したグループごとにその分析結果から導出された課題を選び解決してもらいます。</p> <p>『ピュア・グローバルへの着地』 向山雅夫、千倉書房</p> <p>『小売業の海外進出と戦略』 川端基夫、新評論</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|--------------------------|---|---|
| 前田 東 岐 Toki Maeda | <p>組織論。</p> <p>近年，多様性を増している組織と，そこに関わる個人のありようについて，研究を行なう。</p> <p>具体的には，組織における個人のモチベーションと，リーダーシップについて，そしてそれらの相関について，多面的な考察を行なう。</p> | <p>3年次前期：基礎的文献の輪読を通じて，知識の習得を行なう。</p> <p>3年次後期：事例を用いて基礎力の確立を目指す。合わせてインターゼミナール大会ため，グループ研究を行なう。</p> <p>4年次前期：より高度な文献の輪読を通じて，各自の問題意識の確立を目指す。</p> <p>4年次後期：事例の研究と，卒業論文の作成を行なう。</p> |
| 山本 眞樹夫 Makio Yamamoto | 簿記論、財務会計の基礎および財務諸表分析 | <p>3年前期：財務諸表の仕組みを一通り学んだ後、財務諸表分析を行う。</p> <p>3年後期：中級程度の簿記問題に取り組む。</p> <p>4年前期：財務会計論の基礎を学ぶ。</p> <p>4年後期：卒論指導。</p> |
| 高田 聡 Satoshi Takata | <p>経営史、なかでも、企業とヒトの関わりを中心とする研究。</p> <p>具体的には、経営と労働の相互関係、仕事倫理のあり方、などに関する歴史的、国際的な分析。</p> | <p>輪読・討論および卒業論文の作成（ゼミナリスト間の切磋琢磨を通じて論文作成を図りたい）。</p> |

企業法学科

研究指導は2年連続で12単位

| 担当教員名 Seminar Name | テ　　マ | 概　　要 |
|-----------------------------|--------------------|---|
| 石 黒 匡 人 Masato Ishiguro | 行政法学上の重要問題の研究。 | <p>第一に、行政法学上の重要問題に関する判例および学説の研究を中心にすすめることにより、行政法学の基礎を修得する。第二に、そこでえられた成果を基に、各自選択したテーマについて研究して論文を書くことにより、行政法学をより深く理解し、同時に法的思考力を身につけるようにする。ほぼ毎回全員に簡単な課題が与えられる。また、論文については、中間報告と最終報告が義務づけられる。3年次は第一段階の研究が、4年次は論文指導が、それぞれ中心となるが、3年次でも、卒業論文作成の訓練も兼ねて、3年次ゼミレポートを作成し提出してもらおう。(もちろん卒論までの内容は要求されないが、それに準じるもので、4年次履修登録のための条件である。3年次のゼミ開始時までにはレポートを提出してもらい、それを発展させて、4年次ゼミ開始までに提出してもらおう。)単なる出席ではなく、議論への参加を伴う実質的な出席が、当然の義務である。</p> |
| 一 原 亜 貴 子 Akiko Ichihara | 刑法における解釈論上の基本的諸問題。 | <p>3年次においては、毎回、担当者を決めて刑法総論のテキストの内容を報告してもらい、これをもとに全員で議論を行う。4年次においては、前期は最高裁を中心とした最新判例の研究を行う。後期は各自の問題関心にに基づき選択した卒業論文のテーマについて報告してもらおう。本ゼミを通じて、刑法総論・各論の基礎知識を習得すると共に、問題発見能力及び問題解決能力を身につけ、最終的には、得られた解決を説得的に表現する能力を養うことを目的とする。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|---------------------------------|-------------------|--|
| <p>今本啓介 Keisuke Imamoto</p> | <p>「公共政策と行政法」</p> | <p>私の研究指導では、昨年度と同様、「公共政策の研究」と「行政法の演習」の二本立てで進めてゆきたいと思いません。行政法は、公共政策実現のための法ですから、行政法の研究指導において、行政法の演習（行政判例研究等）と並んで、各々が関心を持つ公共政策の研究を行うことは有意義だと思いません。</p> <p>具体的には次のように研究指導を進めてゆきたいと考えています。</p> <p>3年前期（H.18.4～7）……各人が関心を持つ公共政策についての入門的な本（新書等）を読んでもらい、報告してもらおう。なお、報告者以外の者にも適宜コメンテーターの役割を担ってもらい、報告者の報告する本を読むことを求める。この期間、行政法については、「行政法」の授業を履修してもらい、行政法の基礎を習得してもらおう。</p> <p>3年夏合宿（H.18.9）……共通のテーマを定め、これに関する研究書に近い本を読む。</p> <p>3年後期（H.18.10～H.19.2）……一度目の卒論の報告をしてもらおう。また、空いた時間に行政判例研究を行う。</p> <p>4年前期（H.19.4～7）……3年生の報告に対するコメントを適宜してもらおう。余裕があれば、卒論の報告をしてもらおう。</p> <p>4年夏合宿（H.19.9）……共通のテーマを定め、これに関する研究書に近い本を読む。</p> <p>4年後期（H.19.10～H.20.2）……卒論の報告を適宜してもらおう。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|--------------------------------|--|--|
| 片 桐 由 喜 Yuki Katagiri | <p>社会保障制度に関わる判例研究がゼミの中心である。これを通して、判例を読むこと、それを要約すること、問題となる制度を理解することおよび判決に対する自分の意見を文章に表すことができるようになることをめざす。</p> | <p>1 判決を読んで、ゼミの前日までに2000字に要約して提出する。 2 判決を読んで、その結論に対する賛否を明らかにし意見を書いて、そのレジュメをゼミが始まる前に配布。これは一人で意見を書く場合と3人で書く場合とがある。 3 ゼミでは各人の意見を基に議論をする。</p> |
| 河 野 憲 一 郎 Ken-ichiro KAWANO | <p>民事訴訟法解釈論における諸問題の検討</p> | <p>(1) 定評のある体系書の輪読を通じて、民事訴訟法(特に、判決手続)に関する基礎的な理解を確実なものにする。あわせて「手続法的な思考」に馴染んでもらう。 (2) 代表的な判例を挙げて、判例研究を行なう。当該判例に関連する問題点に関しては、憲法、民法、商法といった関連分野の問題点の検討もあわせて行ない、総合的に読解する能力を身につける。 (3) 各自の卒業論文についての報告、指導。</p> |
| 齋 藤 由 起 Yuki Saito | <p>民法全般に関する重要問題の検討。</p> | <p>3年次は判例研究を行う。各判例につき報告者が発表し、参加者全員で議論することによって、民法の基本的な知識・考え方を徹底的に習得する。 4年次においては、それまで習得した知識や考え方をもとに、自ら選択したテーマについて報告し、論文を作成してもらう。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|--------------------------|--|---|
| 佐古田 彰 Akira Sakota | 国際法に関する諸問題の研究。 | 3年次は、現実起こった国際法上の紛争について、ゼミ生が原告、被告及び裁判官の3班に分かれて、裁判を行います。4年次は、卒論指導を行います。こういった勉強を通じて、法的なものの考え方・論理的思考、文章読解力・作文能力、プレゼンテーションの仕方などの基本的能力が身に付くよう、指導します。 |
| 多木 誠一郎 Seiichiro Taki | <p>商法全般を対象にします。担当教員としては、とりわけ手形法を扱いたいと思っておりますが、参加者の希望を考慮してできるだけ柔軟に対処します。</p> <p>なお、担当教員は協同組合に関する法的問題に関心があります。農協・生協・漁協・信用金庫・信用組合・労働金庫をはじめとする協同組合（ないし協同組織）に就職を希望する等、興味のある方がいらっしゃれば、協同組合法も取り上げます。</p> | <p>3年生は、まず教科書を輪読します。11月ぐらいから裁判例ほかを用いて事例研究を行います。いずれも担当を割り振り、発表していただきます。</p> <p>4年生は、続けて事例研究を行った後、卒業論文の執筆に向けた報告をしていただきます。</p> <p>以上の学習計画は、1つの例です。受講生の皆さんの意見も聞きながら、ゼミでの学習計画を一緒に作っていきましょう。</p> |
| 玉井 利幸 Toshiyuki Tamai | 会社法の重要問題。 | <p>まず、会社法の基本的な知識を習得するために、担当者を決めて会社法のテキストを輪読していきます。次に、会社法の理解を深めるために、判例を報告者に割り当てて、会社法の判例研究を行います。</p> <p>最後に、4年次の途中から、卒業論文の指導を行います。</p> |
| 遠山 純弘 Junkou Tooyama | <p>本ゼミナールの最終的な目的は、法律の適切な方法を身につけることにある。法律の思考には一定のルールがある。もっとも、ほとんどの学生はそれを知らないか、まったく無視して、法律の問題を考えている。私が見る限り、民法が分からないといっている学生のほとんどは、これに属する。そこで、本ゼミナールでは、適切な法律の思考方法を身につけ、法律問題 これは、日常生活で起こる問題はもちろん、各種試験の問題も含む を適切に解決できる能力を養う。</p> | <p>3年次は、特に適切な法律の思考方法を身につける訓練をする。そこで、3年次には、まず法律の思考を学んだ上で、主に司法試験の問題を用いて、最初に学んだ思考方法を身につけていく。特に前半は、択一の問題、後半は、論述の問題を用いる予定である（ただ、付言しておけば、私の考えでは、法律の思考という点では、択一も論述も基本的には違いはない。）。4年次は、3年次に身につけた法的な思考方法をさらに深めるべく、論文の作成を行う。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|-----------------------------------|---|---|
| <p>中 村 秀 雄 Hideo Nakamura</p> | <p>・3年次には国際商取引を実務・法律の両面から学ぶ。 ・4年次には英国動産売買法を逐条研究するほか、実際に自分たちで国際取引を行う。</p> | <p>・実務で使われた英文契約書を資料とし、その条項の法律の意味、目的などを調べて来てもらった上で、全員でディスカッションしながら、生きた国際取引法を学ぶ。自分がもし当事者だったらどのような契約内容にするかを考えれば、楽しく学ぶことが出来る。 ・英国動産売買法を、日本の契約法と比較しつつ学ぶ。 ・4年次にはそれまでの知識をもとに、国際取引を実際に行う。過去には就職活動用手帳(中国から)、革製名刺ケース(香港から)などの商大グッズを輸入した。 ・取引の過程を通じて、チームで目的達成のために力を合わせることを学ぶと共に、社会に出て役立つ知識を身につける。 ・国際取引の実務体験をもとに、契約法について各自題材を選んで卒業論文をまとめる。</p> |
| <p>新 村 と わ Towa NIIMURA</p> | <p>憲法の重要問題(人権が統治機構かは問わない)を検討する。 3年次においては、憲法に関する社会の諸問題について、幅広く取り扱ったうえで、4年次には、各人のゼミ論文のテーマに沿った考察をゼミ間での討論等も交えて行う。</p> | <p>参加者の関心を考慮した上で、テーマ設定をする。その上で、事例問題について、原告班と被告班・裁判官班に分かれて報告・討論をおこなう。</p> |
| <p>林 誠 司 Seiji Hayashi</p> | <p>民法の不法行為法における重要問題の研究。</p> | <p>3年次においては債権法を中心とした重要問題についての判例・学説の研究をゼミ形式(報告及び討論)ですすめることにより、民法学の基礎を習得するとともに、各参加者におけるこれらの重要問題についての理解の深化を図る(レポートを提出してもらうこともある)。4年次においては、3年次までに習得した知識・ノウハウを基に、各自の問題関心に基づき選択したテーマについて報告をし、論文を執筆してもらう。最終的な目的は、論文の完成もさることながら、それを通じた法的思考の涵養である。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|-----------------------------|--|--|
| 林 誠 司 Seiji Hayashi | | なお、債権法以外の分野の問題（総則、担保物権等）に取り組みたい旨希望する参加者がいる場合、相談に応じる。 |
| 道 野 真 弘 Masahiro MICHINO | <p>会社法に関する論点を中心とする。</p> <p>会社法は今年商法から独立し、新たな法律として制定されることとなった。また、商法その他関連する法律がこれに伴って整備されている。会社法は、なぜ改正（制定）される必要があったのか。新たに生じた論点や、従来から問題となっていた論点が改正によってどうなるのか、検討することとする。</p> <p>なお、商法中、会社法以外のテーマについて研究したいという者は、適宜個別に対応する。</p> | <p>論点や判例について、学生の担当者から報告してもらい、これに対する質疑応答というスタイルをとる。報告者以外にも、必ず発言することが求められ、全員必然的に予復習もすることが求められる。</p> |
| 本 久 洋 一 Yoichi Motohisa | <p>現代労働法の課題と展望。これまで取り上げてきた具体的なテーマは、「メールとプライバシー」、「セクシャルハラスメントの法的救済」、「ヘッドハンティングの法的規制」、「内部告発と企業批判」、「職務発明と労働者の対価請求権」、「企業の人事権と家庭生活との調和」、「男女賃金差別・査定差別」等々である。</p> | <p>ゼミの形式としては、ここ数年、ディベートを採用している。毎回、裁判例を取り上げて、使用者側、労働者側に分れて、討論している。意外なほどうまくいっているので、今年も継続する予定である。判決書の読み方については、基礎から指導する。</p> |
| 結 城 洋 一 郎 YUKI Yoichiro | <p>近代立憲主義の基本原則と日本国憲法に関する具体的問題の考察</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・3年次生は、予め分担したテーマについて各自発表を行い、全員で質疑討論を行う。 ・4年次生は、卒論の準備を行い、その中間発表を行う。 |
| 和 田 健 夫 Tateo Wada | <p>わが国における競争政策の課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・独占禁止法その他の競争法規を対象に、わが国における競争法の意義、役割及び課題について研究する。 ・3年次前半：基礎的な勉強。独占禁止法のテキストを読む。 ・3年次後半から4年次：ケース・スタディ。独占禁止法判例の研究。 |

社会情報学科

研究指導は2年連続で12単位

| 担当教員名 Seminar Name | テ　　マ | 概　　要 |
|---|---|---|
| <p style="text-align: center;">阿　部　孝太郎 kotaro Abe</p> | <p>会議や文書作成などの、ビジネスのコミュニケーションの諸問題。特に、対面型の場合とITを用いた場合の比較研究(主として社会心理学や社会学的観点)。ひらたく言えば、「組織コミュニケーション論」の授業を、ITの問題も絡めて、より深く突っ込んだテーマ。たとえば、授業で扱っていないものとしては、「電子メールやブログ等は、(ビジネス上の)人間関係をどのように変えたのか」、「電子会議は、アイデア創出に本当に向いているのか」などが挙げられる。</p> <p>上記テーマに関して、学生と一緒に、研修用プログラム(堅いものからゲーム感覚のものまで)を考えたり、様々な実習・実験を行う予定。</p> | <p>前期は半分程度輪読、残り半分をブレインストーミング(集団によるアイデア創出法)などの実習的なものに当てる。</p> <p>後期は、卒論に向けて、徐々に、各メンバーの自主研究に重点を移して行く。</p> <p>研究方法としては、ビデオの撮影や実験の参加など、現場に力点を置いたものを中心とする(当該テーマは、たんなる数字弄りでは、本質は捉え難いことが多いので)。</p> |
| <p style="text-align: center;">大　津　晶 Shou Ohtsu</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・都市空間の特性と望ましい都市構造の解明 ・OR手法の都市計画・地域科学分野への応用 ・積雪寒冷地の都市計画 | <p>3年次前半は身近な環境の都市計画的課題を題材にした演習を行い、調査・分析・報告の作法を身につける。同時に、この演習を通して“自分は何に興味があるのか”を発見することが目標である。後半からは各自の関心に応じた文献や論文を読みながら、卒業研究のテーマを定めてリサーチプロポーザルを作成し、4年次はこれにしたがって研究を進め卒業論文を完成させる。卒業論文のテーマとしては、都市計画、地域科学、社会工学に関連するもので、指導可能と判断できるものは基本的に受け入れる。なお大津ゼミは通常の研究指導以外に、学外でのフィールドワークや夏期のゼミ合宿、他ゼミとの交流などを実施しており、ゼミに所属する学生は積極的な参加を強く求められる。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|--------------------------------------|--|---|
| <p>小笠原 春彦 Haruhiko Ogasawara</p> | <p>「社会科学・行動科学における統計的手法とその応用」</p> <p>統計学は方法の学問であるが、このゼミでは方法の習得とともに、社会・人間にかかわる分野への統計的手法の適用を扱う。ゼミのメンバーは、最終的には卒業論文の一環として自らデータを取得したり、既存のデータを再分析することが期待される。適用の分野は、地域、国際、キャンパス、教育、福祉、生きがい等の中から自由に選ぶことができる。</p> | <p>統計解析パッケージのマニュアルや関連テキストを分担して読み、統計手法そのものを学習するとともに、パッケージの扱い方を学ぶ。その後、統計解析用言語により、グラフィックな表現法や計量的方法の習得につとめる。卒論研究では、実現可能なテーマのしぼりこみと実際のデータ解析を行う。</p> |
| <p>加地 太一 Taichi Kaji</p> | <p>「最新情報科学とORによるシステムデザインとその利用、応用」</p> <p>基本的には、情報科学、OR、コンピュータについて勉強し、論理的問題解決能力、コンピュータ処理能力、発表能力をトレーニングします。主に以下のようなテーマなどを扱うでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> λ 新型アルゴリズム（プログラム）のデザインとソフトウェア作法 λ オペレーションズ・リサーチ（OR）とその活用 λ 最新最適化理論とその応用 λ コンピュータと情報科学の利用と応用 λ システム科学、複雑系科学による問題解決システムへのアプローチ λ 金融工学 λ 意思決定と経営効率評価分析 <p>また、興味あるいは挑戦してみたいテーマがあるならば、各自の責任のもと尊重したいと思います（面白いことならやってみようという考えです）。要するに、問題を自分で発見し、どう取組み解決するかということが主題となります。</p> | <p>各人が興味あるテーマを選択し、それぞれについて調査発表を行い、ゼミを進めていきます。それぞれ各個人のテーマ、個性に合わせて指導を行い4年次の卒業研究の完成を目指します。具体的には各自が担当箇所を決め（自分で問題を発見し）、その担当箇所を発表してもらいます（問題解決を進めていく）。</p> <p>さらに、最新プログラムデザインおよびネットワーク上における情報発信手法、ソフトウェア活用法などの勉強会を行い情報処理技術の能力を高めていきます。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|--------------------------|---|---|
| 酒 井 弘 一 Koichi Sakai | <p>事業や組織の運営を中心とした課題に、具体的な戦略的解答を策定、実施できる能力の育成を目指す。</p> | <p>a. 戦略理論の理解 上記目的の達成のため、方法論や周辺知識に関する文献を多読(年間30冊程度)し報告する。</p> <p>b. プロジェクトの実施 戦略具体化の方法と具体化の上での課題克服を体得するため、ゼミ生共同でプロジェクトを実施する。</p> <p>c. それらの成果と経験を踏まえ、卒業論文の作成に取り組む。</p> |
| 佐 山 公 一 Koichi Sayama | <p>人間の認知過程(情報処理過程)のしくみを調べる。心理学実験を行い、認知過程のモデル化を行う。当ゼミでは、言葉の理解、顔の認知および潜在記憶の基礎的なメカニズムを調べている。</p> <p>インターネットを介した通信技術が急速に進展しているにもかかわらず、情報の中味を人がどのように伝えるかに関してはさほど解明されていない。相手の言っている言葉や相手の顔からどのような情報をどのように処理しているのか詳しく分かっていないからである。これらは認知心理学の重要な課題であり、当ゼミのテーマでもある。</p> <p><u>言語の理解</u>: 広告コピー文等によく出てくる、一見よく分からないが何となく印象に残る表現を人がどのように理解しているのか?</p> <p><u>顔の認知</u>: 人が相手の顔から性別、人種、民族、職業、年齢、魅力、個性、性格、感情などをどのように読みとっているのか?</p> <p><u>潜在記憶</u>: 無意識のうちに頭の中に残され、無意識のうちに使っている記憶情報は、どのようなしくみで獲得され、どのように使われるのか?</p> <p>その他: あなたが興味を持っているテーマで、私にも興味を持てるもの。</p> | <p>3年次:</p> <p>(1)認知心理学の基礎的な知識を身につける。認知心理学の基礎的な教科書を輪読した後、最新の研究論文を輪読する。輪読は毎回発表者を決め行う。発表者は発表内容をパワーポイントファイルにまとめる。この過程を通じて、自分の興味に従い、研究すべきテーマを決める。</p> <p>(2)模擬実験を体験する。有名な心理現象に関する既存の実験プログラムを使う。実験の方法、データの分析の方法を練習する。統計解析パッケージ SAS を使ってデータを分析する。</p> <p>(3)言語、記憶、顔、潜在記憶、ブランドイメージなどの認知過程の基礎を学ぶ。</p> <p>(4)心理学実験を自分で計画し、実際に行ってみる。</p> <p>4年次:</p> <p>(1)コンピュータを使って心理学実験を行う準備をする。</p> <p>(2)卒論のテーマを決め、テーマと関係のある文献の輪読をする。</p> <p>(3)毎回発表者を決め、卒論の途中経過報告を行い、お互いに議論しあう。</p> <p>(4)(1)~(3)を繰り返す。4年次後半に、卒論のための実験や調査を行い、データを分析し、卒論にまとめる。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|---------------------------------------|--|---|
| <p>中 村 隆 志 Takashi Nakamura</p> | <p>『確率システムのモデル化と解析に関する研究』</p> <p>コンピュータ・ネットワーク、生産システム、交通システム、電話交換システムなどでは、一般に要求の発生やその処理に不規則性を伴います。そのようなシステムでは場合によって処理の渋滞が発生したり、また、逆に処理装置が空き状態になることもあります。なぜならば、システムはほとんど固定的に作られており、要求の不規則変動には十分に対応しきれないからです。したがって、最適なシステムを設計するためには、不規則変動を伴うシステムの状態を定量的に記述し、その渋滞の特性を解析する必要があります。このような不規則変動を伴うシステムをモデル化し、その処理能力を解析するための研究を行います。</p> | <p>3年次：研究に必要な確率過程、待ち行列、シミュレーション等に関するテキストの輪読と演習</p> <p>4年次：具体的な応用例の研究、卒論指導（卒論のテーマは、社会情報学科の範疇であれば、上記研究主題以外でも構いません。）</p> |
| <p>行 方 常 幸 Tsuneyuki Namekata</p> | <p>社会生活を行っているわれわれは、あるときは他の人と協調し、また、あるときは自分の利にかなうと思われる行為を選択する。他人と協調する場合、自分ひとりで行うよりも結果が望ましく、かつ、公平なものではないといけないであろう。また、自分の利にかなう（と思われる）行為をすればどのような結果が生じるのだろうか？協調を目指した行為と自分の利を追求する行為とはどのように異なるのか？このような疑問を（公平性と安定性を追及する）ゲーム理論等を参考にして、基本的な観点を学習する。</p> | <p>事前に、各自のテキスト分担部分を定める。実際のゼミでは、自分の分担部分を予習しそれに基づいて、発表する形式でテキストを読み進める。</p> <p>その際、分かること、分からないことの区別が重要である。不明な部分の解説と、全体的な観点の補足を私が行うことによって、テキストの内容の理解を深める。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|---------------------------|---|---|
| 沼澤政信 NUMAZAWA Masanobu | <p>基本的には、人工知能（探索，制約充足，論理，学習など）や情報システム（ネットワークシステム，エージェントシステムなど）に関する基礎的研究です。しかし，上記分野以外にも興味があり，各自が責任を持ち最後まで積極的に取り組むことが可能であれば，他の分野のテーマでも結構です。</p> <p>教官の現在の研究テーマのキーワード：モバイルエージェントシステム，制約充足問題，項書換え系など</p> <p>過去のゼミ生の研究テーマのキーワード： スケジューリング問題，ネットワークセキュリティ，ポートフォリオ，e-learning，ニューラルネットワーク，遺伝的アルゴリズム，統計分析など</p> | <p>2年次に4，5回ゼミを開きたいと考えております。3年生の先輩と「論文・レポートの書き方」を学びます。</p> <p>3年次以降は，各人の興味のあるテーマに関して研究を進め，順番にゼミ発表を行います。各人のテーマに沿って指導を行い，最終的に4年次で卒業研究を作成，提出してもらいます。</p> |
| 平沢尚毅 Naotake HIRASAWA | <p>『人間中心設計プロセスの実装に関する研究』が研究室の主題です。</p> <p>現在、行っていることの事例を挙げると、1) 携帯電話における動画コミュニケーションの評価、2) TV会議システムのユーザビリティ評価、3) 常時接続環境における家族間コミュニケーションのコンセプト構築、4) 次世代型TVのコンセプト構築、5) 地域行政Webユーザビリティ評価があります。この他、組込システムの開発プロセス研究、ユーザビリティプロジェクトマネジメント研究、地域行政における電子申請システム研究など、多くの研究プロジェクトが実施されています。</p> | <p>まず、3年生では、人間中心設計に関する基礎的な技術を演習を通して学習してゆきます。これと、並行して、研究室の先輩が行っているプロジェクトに参加しながら、実際の研究活動を体験してもらいます。3年の後期までには、何度か、実験あるいは調査を行いながら実績を積んでゆくこととなります。4年次には、各自で独立したテーマを設定して、1年をかけて研究プロジェクトを遂行してゆきます。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テーマ | 概要 |
|---------------------------------|---|---|
| <p>三谷和史 Kazufumi Mitani</p> | <p>v インターネットを用いたコミュニケーションに関する研究 v コンピュータネットワークに関する研究 v 情報探索に関する研究 v 医療情報システムに関する研究 v プログラミング言語とその処理系 その他、関連するテーマであれば、ある程度の希望は採り入れる。</p> | <p>本を沢山読むこと、文章を沢山書くこと、プレゼンテーションツールを使いこなすこと、プログラムを沢山読むことを、ゼミ所属が決定した時点から3年次になるまで宿題形式で行なう。</p> <p>3年次：テキストの輪読と演習</p> <p>まずコンピュータに慣れる、コンピュータを道具として使いこなすことを第一の目標とする。また、自分でHTMLを書けるようになって必要な情報を捜した結果を他人に知らせる技術を覚えてもらう。さらに、ゼミでのコミュニケーションはゼミの時間以外も電子メールやblog、IRCで行うので、それらのコミュニケーション技術の習得も必須である。</p> <p>次に、技術英語が読めるようになることと、Windows、unix及びunix上のプログラミング環境を自在に使いこなせるようになることが演習が主体となる。コンピュータの世界では英語が事実上の公用語となっており、それを理解できないと研究ができない。またWindows、unixやunix上のプログラミング環境を使いこなすことは目的ではなく、研究環境として必須、例えて言えば紙と鉛筆であるからである。また、プログラミング言語も最低1つについて習熟してもらう。</p> <p>4年次：テーマに沿った卒業論文の作成指導</p> <p>まず卒業論文のプロポーザルを作成し、そこにオリジナリティを認められる段階になって初めて論文作成の研究に移る。研究したい種を沢山集めておくように。</p> |

専門共通

研究指導は2年連続で12単位

| 担当教員名 Seminar Name | テ　　マ | 概　　要 |
|--------------------------|---|--|
| 上　野　耕三郎 Kozaburo Ueno | <p>「子ども、家族、学校」をテーマとします。</p> <p>「学校」を考える場合、「子ども」や「青年」の問題、そして「家族」との関係を抜きにしては考えることはできません。具体的には、現在の「子ども」や「青年」のあり方（若者が一人前になることがたいへんになってきている）は、家族や学校のあり方とどのような関係にあるのか？というような問題を考えてゆきます。もう少し大きく言うと、これらの問題を考えることで、現在はどのような社会なのか、そこで生きる私たち現代人に課せられた課題とは何か、を考えてみます。</p> | <p>3年次では、主として関係する論文を読み、討論することにあてます。</p> <p>4年次では、各自のテーマにもとづき、卒業論文の作成に取り組みます。</p> |
| 荻　野　富士夫 Fujio Ogino | <p>「戦前と戦後における断絶と連続」</p> <p>戦後60年を経て、戦後史・現代史が射程に入ってくるとともに、戦前日本のありかたが現代と密接につながっていることが、いよいよ明らかになってきた。「従軍慰安婦」の問題や「靖国」問題などを想起すれば、それは理解されるだろう。これらの問題を主題とする岩波講座『アジア・太平洋戦争』や中村正則『戦後史』などをじっくりと読み込みながら、現在、何が問題とされ、それらがどこまで明らかにされたのか、について、一緒に考えてみたい。</p> | <p>前期においては上記主題を中心に、後期は卒論報告・卒論予備報告を中心におこなう。人数により、三・四年の合同ゼミによって進める。ゼミ内定者については、12月から数回、プレ・ゼミをおこなう予定である。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|---------------------------|--|---|
| 片岡正光 Masamitsu Kataoka | <p>自然環境中の微量の化学物質量を、超高感度・高精度・高選択的に測定する「微量分析法」の開発。</p> <p>環境中の化学物質を常時モニターするための化学センサーの開発。</p> <p>小樽周辺の水に着目し、河川、運河、港湾水や港湾に生息する魚に含まれる汚染物質の測定を行い、環境浄化についての提言を行う。</p> <p>小樽の降雨・降雪の酸性度の測定と、土壌の中和能の評価。</p> | <p>ゼミ生は、左記の研究主題に関連したテーマをもらい、教官とディスカッションしながら、それぞれが独自の研究を展開する。</p> <p>化学系大学院（北大）への進学を希望する学生には、化学研究実験の他に試験合格を目指したゼミ（教科書の輪読等）指導も行う。</p> |
| 兼岩龍二 Ryuji Kaneiwa | 組合せ論とその応用 | <ul style="list-style-type: none"> ・3年次生（今回募集）は文献の輪読と質疑討論を行う。 ・4年次生になったら、卒論の準備を行い、その中間発表を行う。 |
| 久保田 顕 二 Kenji Kubota | <ul style="list-style-type: none"> ・西洋哲学思想（プラトン、ヒューム等の哲学者が打ち立てた体系的哲学思想の研究） ・西洋倫理思想（カント、ベンサム等の倫理学者が打ち立てた体系的倫理思想の研究） ・生命倫理学（生殖補助医療、人工妊娠中絶等をめぐる個別的な倫理問題の研究） ・環境倫理学（自然保護、動物の権利等、環境にかかわる個別的な倫理問題の研究） <p>履修者の関心を踏まえた上で、以上の4つのうちから2つくらいに絞る。</p> | <p>3年次では、文献を輪読して参加者が互いに意見を交わす作業が中心となるが（報告者には随時レジュメを作成してもらい）、4年次では、卒論完成を視野に入れた研究発表の機会が多くなる。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|--------------------------------|---|--|
| <p>田 野 有 一 Yuichi Tano</p> | <p>人間がとる「行動」は、その時々 の心理・思考と密接に関連している。 したがって、「行動」の基となる心理 ・思考の理解（把握）なくして「真 の人間理解」はできない。 本研究指導では、人間がとる「行 動」中、とりわけ「運動行動」（身体 活動・スポーツ活動）に焦点を当て、 これらを心理学的側面から調査研究 することにより“人間を総合的にと らえる”ことを研究主題としている。 本研究指導を通じて、ひいては「現 代社会により貢献しうる人材」、また 「社会環境により適応しうる人材」 の育成・輩出をも期して開講される。</p> | <p>1)平成17年度開講の専門共通科目「人 間科学論」を履修し、この科目の単位 を修得済の者であること。（研究指導 ・とも） 2)「研究指導」（3年次）では、主と して参考文献や資料の輪読・討論を行 った後に、各自の関心に即した「個別 テーマ」の設定・報告を重ねるとも に、基礎的な研究方法やレポートの作 成上の留意点とその書き方などを学ぶ。 3)「研究指導」（4年次・次年度開講 予定）では、主として「卒業論文の仕 上げ・提出」（研究のまとめ）となる。</p> |
| <p>大 塚 譲 Yuzuru Otsuka</p> | <p>ドイツ学（Deutschkunde）を勉強するゼ ミです。ドイツ学とは、ドイツ（語圏）の 言語・文化・社会・政治経済等を全般的に 対象とする研究分野の名称です（日本に関 して日本学Japanologie(独)/Japanologyが あるのと同様です）。このゼミでは、総合 的なドイツ語能力を習得しながら、ドイツ 語圏の諸問題について考えて行きます。 研究テーマ例：芸術や食文化、スポーツ や自動車、環境問題、エネルギー問題、介 護保険制度、年金制度、高齢化社会、家族 の終焉？地方自治、外国人労働者問題、難 民問題、産業構造空洞化、女性の社会的地 位、余暇と労働、EU統一、統一通貨ユー ロ、グローバリズムとヨーロッパ、脱ア メリカ>入欧(ライフスタイルとしての)、 東西ドイツ統一と冷戦の終焉、東西ドイツ 統一と南北朝鮮統一、第2次大戦と第三帝 国、ナチズムと天皇制、戦後処理、ネオナ チと極右勢力等々女性の社会参加（以上ド イツに関連し日本にも共通するものをほん の少しだけ挙げてみました。）</p> | <p>[A] 通常学習：ドイツ語能力の育成と現代 ドイツ語圏社会事情の理解 3年次 毎回のゼミ学習 ウォーミングアップ：現代ドイツを紹介 するビデオ教材 教科書：TANGRAM 1Bの後半およびTANGRAM 2(2000年 Max Hueber社刊) 総合的なドイツ語能力を育成するとともに 現代のドイツ語圏の社会事情をリアルに学 ぶことができる優れた教科書。 教科書のレベルはドイツ語 や国際コミ ュニケーション（ドイツ語）の授業レベル に接続しています。 その他のメニュー：重要文法項目や重要 語彙の練習、オリジナルテキスト（最新新 聞記事や関心のある論説など）の輪読と議 論。 検定試験の準備学習[一定時期のみ] ドイツやオーストリアの「ドイツ語標準基 礎検定試験」(Zertifikat)にチャレンジす る。これらは国際的に認定された検定試験</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|-------------------------------|---|--|
| <p>大塚 譲 Yuzuru Otsuka</p> | <p>研究方針：ドイツ語圏の協定大学での交換留学（１年間）に目標を据え、３年ゼミでは留学への準備学習を、４年ゼミでは留学の成果に基づく集約的・発展的学習を行います。</p> <p>本学はドイツ語圏にパイロット大学、ウィーン経済大学、ベルリン経済大学という３つもの優れた協定校を持っていますが、これらはいずれも本学に似た専門分野の学部・学科を擁しており、単位も取れます（パイロットではこれまで最多14単位取得）。こうしたすばらしい大学への留学チャンスに恵まれているのは、本学の誇るべき特長のひとつです。</p> <p>もちろん留学しない学生でも勉学意欲さえあれば大歓迎です。</p> <p>ドイツ語圏からの留学生もしばしばゲストとしてゼミに参加します。</p> <p>検定試験：本ゼミでは内外のドイツ語検定試験の準備にも取り組みます。外国語の学習において到達度を客観的に測定することはきわめて重要であり、まあオーストリアやドイツの検定試験の内容が主として社会的・時事的なものなので、試験への準備学習がそのまま現代ドイツ語圏への理解に結びつくからです。特に本学でも年に２回実施されるオーストリアのドイツ語検定は、大きな効果を発揮しています。</p> <p>腕試し：本ゼミではレベルチェックと賞品獲得のため各種コンテストへの参加を勧めています。</p> <p>３年次生向き：暗唱大会（札幌市・ミュンヘン市共催）への参加指導をします。いつも優勝他上位入賞しています。</p> <p>４年次生向き：スピーチコンテスト（日独協会・ドイツ大使館・朝日新聞等共催）。３年前全国２位になりました。</p> | <p>で、日本の独検の３級と２級の間に対応。オーストリアの試験は本学でも年に２回実施されるが、冬の試験（１月）までに全員が合格することを目指し、また実際に合格しています。</p> <p>４年次 毎回のゼミ学習 教科書：em Hauptkurs(1999 Hueber社刊) Mittelstufe（中級＝大学入学準備レベル）用教科書では最新・最良のもの。現代のドイツ語圏の様々な社会事情を理解しながら、併せて４技能の高度な総合能力を育成して行く。テキストはすべて本格的なもの。</p> <p>検定試験の準備学習[一定時期のみ] ドイツやオーストリアの「ドイツ語中級検定試験」にチャレンジする。国際的に認定された検定試験で、職業活動や大学での勉学に必要な語学力の認定基準とされる。オーストリアの試験は本学でも年に２回実施され、毎回受験者のほぼ全員が合格している。レベルは独検２級以上。 日本のドイツ語技能検定試験（２級、１級）にチャレンジする者もいる（大半が合格）。</p> <p>[B] 研究 ３年次：テーマの選択 上記[A]の学習で現代ドイツ語圏の社会・文化の諸問題に触れることを通して選択。 ４年次：研究と論文作成 論文にはドイツ語による簡単な要約を付ける。 留学する場合には、留学中に自分のテーマに関する講義やゼミに参加したり、現地調査や資料収集を行い、帰国後に勉強の成果を（できればドイツ語による）論文にまとめる、というのが理想である。 複数のゼミ生が統一テーマで「共同研究」をするのもよい。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|----------------------------|--|--|
| 君 羅 久 則 Hisanori Kimira | 英文学 (シェークスピア・英詩・ドラマ・現代イギリス小説) | <p>3 年次 :英詩数編を読み、発表 討論を行い、英詩の分析法を中心に文学批評・研究の方法を深めていきます。</p> <p>4 年次 :前半は 3 年次と同じ内容を続け、後半からは各自の研究テーマについて卒業論文 (英文 40 枚程度)を最終目的として報告と討論を中心にする。</p> |
| 高 井 收 Osamu Takai | <p>The topic of discussion in the seminar focuses on the students' own culture, mainly Japanese culture in contrast with Western cultures, especially North American culture.</p> <p>The main objectives include developing skills for observing and interpreting Japanese culture, and becoming more effective in intercultural communication as well as improving communicative competence in English.</p> | <p><Course contents></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Recitation of M. L. King's speech, "I Have a Dream." (Offered only to the 3rd year students from April through August in 2006) 2. Reading on intercultural communication 3. Presentation and discussion 4. Group work <p><Teaching materials></p> <p>Textbook: Samovar, Larry A., Porter, Richard E. (2004) <i>Communication Between Cultures</i>. (Fifth Edition) Wadsworth Publishing Company.</p> <p><Grading></p> <p>Besides attendance, participation and class assignments, an undergraduate thesis will be required at the end of the second year (for the senior students only). Foreign students will be expected to write a term paper in stead of the undergraduate thesis.</p> <p><Remarks></p> <p>Basically this course is offered to non-native speakers of English (Japanese students) who would like to improve their English in the study of Intercultural Communication. However, students including native speakers of English from other countries are welcome to exchange</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|----------------------------|--|---|
| 高 井 收 Osamu Takai | | <p>their own cultural backgrounds with Japanese students. The language of the instruction in this seminar is basically English.</p> <p>Class homepage address: http://www.quia.com/pages/zemi1.html</p> |
| 高 橋 純 Atsushi Takahashi | <p>「フランス語という文化」から「フランス文化という言葉」へ</p> <p>前者の「文化」とはあくまでも個別言語としてのフランス語を指すが、後者の「言語」とは、政治・経済、文学・芸術、料理、ファッションにまでわたるフランス文化がかたちづくる多様な意味の世界を指している。</p> <p>通常の語学の授業は前者の枠内にとどまりがちだが、本研究指導ではそこから飛躍して、フランスというわれわれにとっての異文化空間を様々な切り口から探求する。</p> | <p>アクチュアルなフランス文化・社会についての認識を広げつつ、フランス語の全般的技能の向上を図ることを共通の目標とし（この段階では外国語としてのフランス語ができることではなく、好きであることが絶対条件である）その過程で各人が抱いた問題意識に基づいて定めたテーマを展開できるように個別指導（テーマが共通すれば複数で）する。ただし、自文化の認識なくして異文化の理解はありえない。そこで、異文化について考えるための補助とすべく、日本の外部の目から日本文化がどのように解釈されるのかを知ることも共通の課題とする。</p> |
| 吉 田 直 希 Naoki Yoshida | <p>英米文化研究（カルチュラル・スタディーズ入門）：英語で書かれた様々なテキストを題材に、現代の諸問題に対する解決策を論理的に思考することを目的とします。</p> <p>扱うテキストは、主に小説、評論ですが、劇や音楽、絵画、映画、コミックなどを卒論のテーマとして選ぶことも可能です。ゼミでは、自分が使う言葉の意味をつねに意識化するようにしましょう。</p> <p>また、自分の考えを的確に表現する様々な技法を、テキストの読解と討論を通して身につけていきましょう。</p> | <p>3年生：テキストの講読と討論、発表</p> <p>4年生：卒論指導積極的に読み、書き、話すことがもとめられます。</p> |

| 担当教員名 Seminar Name | テ ー マ | 概 要 |
|-----------------------------|--|---|
| 相 内 俊 一 Toshikazu Aiuchi | <p>政治心理、政治的態度の研究が中心になる。実証的なアプローチも、理論的なアプローチもバランスよくとり入れる。政治理論からジェンダー、多民族国家など、対象とする範囲は広い。</p> <p>3年生の時に、分析方法の基礎や、基礎理論を身につけて、卒業論文を構想する。</p> <p>卒論のテーマは、実現可能であれば、学生諸君の研究関心を極力尊重する。</p> | <p>ゼミは、通常は3,4年生合同で行う。卒論作成に取りかかった4年生に対しては、個別に論文指導を行う</p> <p>ゼミの基本スタイルは、あらかじめ資料を読み、担当者が要約を作成して報告する。要約に対するカウンターを担当する者を決めておく場合がある。</p> <p>各自の自主的な研究と、ゼミにおける積極的な討論への参加を高く評価する。</p> |

全学年共通

1. 科目試験の受験に際しての注意事項

定期試験（前期、後期、半期制科目中間試験）及びこれに準ずる試験を受ける場合、次の注意事項を厳守して、不利益にならないよう十分注意してください。

- 1 指定された席に着席すること（試験開始5分前には着席していること）。
随時行う試験では、席を指定しないこともある。
- 2 学生証の携帯がなければ受験できない。（座席の受験番号横に置くこと）。
- 3 試験時刻に遅れた者は、原則として、受験できない。ただし、20分以内の遅刻者は、事情により、監督者の許可を得て受験できる場合もある。
- 4 試験開始20分以内は、退場できない。
- 5 試験終了10分前以後は、退場できない。
- 6 教科書、参考書、ノート等の不要の所持品は鞆等に納め、これらをむき出しのまま机の中に入れてはいけないこと。
- 7 携帯電話、PHS、ポケットベルはスイッチを切って鞆等に納めること。（これらを時計として利用することはできません。）
また、時計は計時機能だけのものしか使用できません。
- 8 教科書、参考書、ノート等の参照を許された試験においては、それらの貸借をしてはならない。受験生の間で、貸借のあった場合は、それを不正行為とみなす。
- 9 試験において、私語、その他不正行為の疑惑を招くような行為のないよう、特に注意すること。
- 10 試験中の不正行為については、学則に照らし厳重に処分されるので厳正な態度で受験すること。
さらに、不正行為を行った者に対しては、その学期に履修した科目のすべての単位が認定されない。したがって、在学期間が1年以上延期することもある。
- 11 答案は、必ず提出し、これを持ち帰ってはならない。
- 12 その他試験場内において、監督者の指示に従わない場合は退場させる。
なお、履修登録をしていない科目についての受験は認められない、又、制度上、追試験・再試験は行わない。
また、受験番号は、当日試験分を3号館講義棟2階学生控室前の図書館渡り廊下側掲示板に掲示する。

2. 卒業論文執筆要領

卒業論文の作成要領について一般的な原則を述べるが、論文の形式は専攻分野ごとに、用語、文献の引用方式、記号の利用等に差があるので、指導教員の指示に従うこと。

1 提出期限

平成19年1月31日(水)17時(昼間コース)、20時(夜間主コース)(時間厳守)なので十分注意すること(9月卒業予定者は、平成18年7月31日(月)17時まで)。附属図書館で図書返却の確認を受けた後、仮とじの上、製本料(確定次第掲示で通知する。)を添えて学部教務係に提出する。仮りとじのためには、学部教務係の穴あけパンチ機を使用してもよい。

表紙のみ、あるいは目次程度又は序章程度といった論文とは認めがたい卒業論文は、受理しない。

2 用紙等

和文で執筆する場合には、所定の原稿用紙を使用し、黒又はブルー・ブラックのインクを用いる。油性インクのボールペンは避けた方がよい(鉛筆は不可)。文字は楷書とし、誤字・脱字に注意する。多色にする必要がある場合にも一定の方針を立てて統一し、さらに、必要最低限の多色化にとどめること。

ワード・プロセッサで作成する場合の用紙の規格、体裁及び1ページの文字数等については、指導教員の指示に従うこと(ただし、感熱紙の使用は不可)。

欧文で執筆する場合には、通常サイズの白紙のタイプライター用紙にタイプ印刷する。いずれも、オリジナルを提出し、全体をコピーしたものは提出しないこと。

3 表紙及び裏表紙

表紙と裏表紙は、本文と同一の用紙を用いる。表紙には、論文のタイトル、学生番号、氏名、ゼミナール名及び提出年度(平成18年度提出)を記し、裏表紙に、附属図書館で図書返却済み確認印を受ける。タイトル等は、成績原簿に記入され、成績証明書、図書館の目録カード、製本後の背表紙の書き込み等の場合に必要になるので、正確に書くこと。副題を付ける場合には、その左右を棒線で挟む。

なお、表紙のタイトル全部を『 』で囲んではいけない。

4 「はしがき」と「目次」

「はしがき」(「まえがき」「序」)には、テーマを選択した動機等を書く。指導や助言を受けた人たち、調査等に協力した人たちに対する謝辞もここに書く。ただし、「はしが

き」は省略してもよい。

「はしがき」と「あとがき」の両方を書くことは、卒業論文の場合、概して不適當である。「目次」は、「表紙」又は「はしがき」の次の用紙に書く。必要に応じて、「表目次」、「図目次」を別に付け加えてもよい。

5 本文

- (1) 文体は、「・・・である」の形とし、なるべく簡潔な文章とする。
- (2) 新しい章は、新しいページから始める。
- (3) 章題と文章、あるいは章題と節題の間は1行あける。
- (4) 章(節)の番号と章(節)題の間は、1マスあける。
- (5) 各節の間は、2行あける。
- (6) 新しいパラグラフの初めは、1マスあける。
- (7) 句読点等は、1字とする。ただし、行末の句読点は、「ブラサゲ」として、マスの欄外に書き、次行の始めにはもっていかない。また句読点の次のマスをあけてはいけない。
- (8) 数式は、必ずしもマスや行にこだわらず見やすいように余裕をもって書いてよい。
- (9) 文章の中の欧字と算用数字は、原則として、2字で1マスとする。
- (10) 欧文イタリック文字は、単語の下又は文章の下にアンダーラインを引いて示す。

6 図表

表とグラフは、番号と見出しを付け、本文との対応を明らかにする。原稿用紙と同じサイズになるように、グラフ用紙や集計用紙に書いて、そのまま1ページ分としてとじ込むとよい。

「別表」として論文の末尾にまとめることもできる。サイズが小さいときは、原稿用紙の当該箇所に張り付けてもよい。計算機のプリントアウトは、サイズが合えばそのまま1ページとしてよい。

いずれも、製本のときにヘリを数ミリメートル切り落とすことがあるので、上下左右は、十分にマージンを取っておくこと。

図表には、資料の出所を明記しなければならない。他の文献等の図表のコピーをそのまま利用することは、特別の場合を除いて避けるべきである。

7 「注」

説明の補足や引用・参照を示すため、注を用いる。注の付け方としては、脚注や後注等がある。

指定原稿用紙では、「脚注」を付けることができる。ただ一つの注を3ページ以上に分けることは不適當であるから、長い注については、工夫が必要である。後注として注を各

章の終わりにまとめて書いてもよい。このとき、注番号は、各章ごとに1から始めてよい。
なお、注の中に注を書いてはいけない。

8 引用文献、参考文献及び引用

論文作成において、文献の参照と引用の明示は、最も注意すべき点である。文献からの引用には、必ず「 」(欧文引用のときには“ ”)を付け、その文献を番号のついた注等で明示する。注番号は、例えば、「・・・である。^(注 1)」、「・・・である。⁽¹⁾」等のように書く。肩付きのできないワード・プロセッサーの場合は、「・・・である(注1)」としてもよい。

なお、原典自体の中に「 」(又は“ ”)が含まれる場合は、原典中「 」(又は“ ”)を『 』(又は)に代える。

要約して引用する場合は、原文の文意を損なわないようにし、さらに、要約引用の範囲が分かるように、出典と引用箇所(例えば、注を用いて)を明示する。「孫引き」は、できるだけ避けて、原典に当たってチェックすべきであるが、やむを得ない場合は、再引用であることを明記する。

引用文献、参考文献は、注番号を明示した上で、脚注部分に記載するか又は論文末尾(又は各章末尾)に一括して記載する。

文献記載の原則は、次のとおりである。

和 書

著者名『書名』、出版社名、出版年

又は、

著者名『書名』(出版社名、出版年)

引用ページを明示する場合には、この後に引用ページを書く。

<例> 小宮隆太郎・天野明弘『国際経済学』、岩波書店、1972年、p.10

藤瀬浩司『資本主義世界の成立』(ミネルヴァ書房、1980年)、56ページ

翻訳書の場合にも、

<例> J. プーヴィエ(井上隆一郎訳)『ロスチャイルド』(河出書房新社、1960年) 第3章 R. A. Mundell, *International Economics*, New York: Macmillan, 1968, (渡辺・箱木・井川訳『国際経済学』,ダイヤモンド社,1971年)等が通常の形式である。

和雑誌の中の論文(及び論文集の中の一つの論文)

著者名「論文名」、『雑誌名』第 卷、第 号(発行年)

著者名「論文名」、編集名『書名』出版社名、出版年

又は、

著者名「論文名」、『書名』（編集名）出版社名、出版年等とする。

<例> 関口尚志「イングランド銀行バーミンガム支店」、『経済学論集』（東京大学）第 47 巻第 2 号、x x ページ
岡田純一「近代経済学とスミス」、経済学史学会編『国富論の成立』、岩波書店、1976 年、p.345。（複数ページの場合、pp.345 ~ 351.）

洋書及び洋雑誌の中の論文

著者名,書名(注 1),出版地：出版社,出版年

著者名,“論文名”,雑誌名,Vol. 巻数,No.,号数（発行年）

等とする。ただし、出版地：出版社を（ ）に入れることもある。

また、“論文名”,雑誌名の代わりに“論文名”,雑誌名とすることも多い。

著者名は、A.smith とする場合と、Smith,A.とする場合の両方があるが、著者名が二つ以上並ぶ（共著）場合に、二人目以降の人名については、A.Smith（または Adam Smith）のようにファースト・ネームを先に書くのが一般である。

雑誌の No.号数は、しばしば省略する。また、Vol.及び No.の代わりに vol.及び no.とすることも多い。

これらについては、標準的な図書及び雑誌を参照して、最も適当と思われるものを選択した上で、統一して使用する。

さらに、op.cit.,loc.cit.,ibid（又は Ibid.,）（注 2）等もよく利用される。辞書等で意味を調べて、誤用しないことが必要である。

（注 1）書名、雑誌名についているアンダーラインは、イタリックを使用せよという指示である。

（注 2）op.cit.,loc.cit.,ibid., は、引用によってローマン体を使うかイタリック体を使うかによって変わる。

<例> op.cit.,（前掲の意味）で、前掲が論文名であればローマン体、前掲が書名、雑誌名であればイタリック体を使用する。loc.cit.,（上記引用文中）ibid.,（同上）も同様である。

なお、ibid.,については、先頭にくるときは、Ibid.,のように大文字となる。

参考文献

斉藤孝著『学術論文の技法』（日本エディタースクール出版部、1998 年）

米国現代語学文学協会編（原田敬一訳編）『MLA 新英語論文の手引き』（北星堂書店、第 2 版、1986 年）

トウラビアン著（高橋作太郎訳）『英語論文の書き方』（研究社出版、1982 年）

3. 北海道大学及び北海道教育大学との単位互換制度

本学では、学則第27条により、北海道大学経済学部及び北海道教育大学札幌校との間に単位互換に関する協定を結んでいます。そのため、それぞれの大学の授業科目を履修することができ、身分はそれぞれの大学の特別聴講学生となります。

単位互換科目は60単位（留学による単位互換の修得単位及び入学前の既修得単位を含む）を超えない範囲で認定します。ただし、平成11年度以前入学生については、30単位（留学による単位互換の修得単位を含む）を超えない範囲で認定します。

また、平成13年度以降入学生が単位互換により履修する科目の中には、キャップ内に含まれる科目もありますので注意してください。

（北海道大学経済学部）

- | | |
|------------|----------------|
| （1）聴講出願対象者 | 平成18年4月現在の4年次生 |
| （2）授業料 | 不要 |
| （3）出願時期 | 平成18年4月中・下旬頃 |
| （4）授業科目 | 掲示により通知 |

（北海道教育大学札幌校）

- | | |
|------------|--------------------|
| （1）聴講出願対象者 | 平成18年4月現在の2年次以上の学生 |
| （2）授業料 | 不要 |
| （3）出願時期 | 毎年、年度末の3月下旬又は4月上旬 |
| （4）授業科目 | 掲示により通知 |

4. 大学以外の教育施設等における学修の単位認定

本学では、本学以外の教育施設等で学修した成果を本学の単位として認定することができます。単位を認定することができる学修の種類等は表の通りです。

認定を希望する学生は、大学以外の教育施設等における学修に係る単位認定願に必要書類を添付して、以下に指定する期日までに学部教務係に提出して下さい。単位は単位認定願を提出した年度の単位として認定します。

4年次生及び早期卒業を希望した学生：1月末日

1～3年次生：2月末日

別表（第2条関係）

単位を認定することができる検定等

| 検定等の種類・評価等 | | | | 本学授業科目 | 単位数 | 備 考 |
|---------------------|-----------------------------|---|----|---------------------------------|------------|--|
| 実用英語技能検定準1級以上 | | 秀 | 90 | 英語 A又は英 B | 2単位 | 学修の種類等のうち、い れか一つについて認定する。 |
| TOEFL | PBT 550点以上 | 秀 | 90 | | | |
| | CBT 213点以上 | | | | | |
| | IBT 80点以上 | | | | | |
| TOEFL | PBT 500点以上 | 優 | 80 | | | |
| | CBT 173点以上 | | | | | |
| | IBT 61点以上 | | | | | |
| TOEIC | 730点以上 | 秀 | 90 | | | |
| TOEIC | 600点以上 | 優 | 80 | | | |
| ドイツ語技能検定試験 | 3級合格（80 点以上）又は 2級以上合格 | 秀 | 90 | ドイツ語 | 4単位 | |
| | 3級合格（79 点以下） | 優 | 80 | | | |
| 実用フランス語技能検定 試験 | 3級以上合格 | 秀 | 90 | フランス語 | 4単位 | |
| | 4級合格 | 優 | 80 | | | |
| 中国語検定試験 | 3級以上合格 | 秀 | 90 | 中国語 | 4単位 | |
| | 4級合格 | 優 | 80 | | | |
| スペイン語技能検定試験 | 3級以上合格 | 秀 | 90 | スペイン語 | 4単位 | |
| | 4級合格 | 優 | 80 | | | |
| ロシア語能力検定試験 | 4級以上合格 | 秀 | 90 | ロシア語 | 4単位 | |
| 韓国語能力試験 | 3級以上合格 | 秀 | 90 | 朝鮮語 | 4単位 | 学修の種類等のうち、い れか一つについて認定する。 |
| | 2級合格 | 優 | 80 | | | |
| 「ハングル」能力検定試 | 3級以上合格 | 秀 | 90 | | | |
| | 4級合格 | 優 | 80 | | | |
| 日商簿記検定 | 1級合格 | 秀 | 90 | 平成17年度以 降入学者 簿記原理 応用簿記 | 2単位 2単位 | 学修の種類等のうち、い れか一つについて認定する。 平成17年度以降入学者は、 「簿記原理」（2単位）「応 用簿記」（2単位）の2科 目で認定する。 平成16年度以前入学者は、 「簿記論」（4単位）で認 定する。 |
| | 2級合格 | 良 | 70 | | | |
| | | | | 平成16年度以 前入学者 簿記論 | 4単位 | |
| | | | | | | |
| 基本情報技術者試験合格 | | 秀 | 90 | 情報処理 | 4単位 | 昼間コース授業科目として認定する。 |
| 初級システムアドミニストレータ試験合格 | | 優 | 80 | 情報処理基礎 | 2単位 | |

（注意）上記表内の成績評価「秀」は平成18年度以降入学生適用のため、平成17年度以前入学生は「秀」の部分の成績評価は「優」表記となる。

5. 留学による単位互換の取り扱い方法

(1) 単位互換科目の取り扱い

留学先大学で修得する科目を本学の卒業所要単位に算入することを希望する場合は、60単位を超えない範囲で認定します。(北大及び教育大との単位互換の修得単位及び入学前の既修得単位を含む)

ただし、平成11年度以前入学生については、30単位を超えない範囲で認定します。(北大及び教育大との単位互換の修得単位を含む)

成績の評価(優・良・可)を行います。

単位互換科目は、「科目履修届」及び「単位認定願」を提出することにより卒業所要単位に算入することができます。

単位互換科目が、当該系列区分(学科科目等)の内容に該当する場合は、学則上の科目に読み替えをしなくても卒業所要単位に算入することができます。

卒業所要単位へ算入する場合で、学則上の科目に読み替えて認定出来る科目は、基礎科目、外国語科目、学科科目、専門共通科目、教職共通科目とします。

読み替えた科目が卒業所要単位として認定された場合は、以後、本学において当該科目の履修は認めません。

研究指導を履修する学生が協定校に留学する場合は、留学先の大学で本学の指導教員が指定する科目を履修し、単位を修得した場合は当該期間の研究指導が継続されていると見なされます。

そのため、留学する前に指導教員の指導及び承認を受けるとともに、「科目履修届」に記入しなければなりません。

ただし、四つ目の学期(卒業論文を含む)については、本学において履修しなければなりません。

なお、帰国後は、「留学に伴う研究指導の継続承認書」を指導教員に提示し、承認を受けてから学部教務係に提出しなければなりません。

注意： 上記 に該当する学生は、留学が承認された段階で、学部教務係の窓口で「研究指導継続の取り扱い」についての説明を受けてください。

(2) 成績証明書への記載

卒業所要単位に算入する場合は、各系列区分毎に記載します。

卒業所要単位に算入しない場合は、国際交流科目として、記載します。

留学先及び留学期間を備考欄に記載します。

(3) 単位互換の申請手続き

科目履修届・・・留学先で履修科目が決定したら、直ちに「科目履修届」を国際企画課に提出してください。(履修予定科目の授業内容が分かる詳細なシラバス等のコピー及びシラバスの和訳(英語以外の場合)、授業時間数及び単位数に関する資料を添付すること。)

単位認定願・・・遅くとも帰国後、1か月以内までに国際企画課に「単位認定願」を提出してください。(成績証明書を添付すること。)

上記の「科目履修届」、「単位認定願」の申請用紙は、国際企画課にあるので申し出てください。

- (4) 認定の結果・・・国際企画課から本人に通知します。
- (5) 語学研修における成績評価の基準・・・別表のとおり。
- (6) 留学先大学で修得した科目の「外国事情」への読替えについて
留学先大学で修得した科目の「外国事情」への単位読替えについて、平成18年度は次のような手続きで、審査および評価をすることになりました。

単位読替えが可能であるかどうかの審査

単位読替え希望学生が提出した下記の書類により一般教育系で審査する。

- (1) 留学先で履修した科目のシラバス
- (2) 同 履修時間
- (3) 留学先が発行した成績証明書または修了証明書

この審査は評価及び採点を開始するかどうかの審査であり、条件を満たす学生については続いて評価及び採点を行う。なお、留学先の科目が単なる語学研修であれば、評価及び採点の対象とはならない(評価が「不可」という意味ではない)。

採点及び評価

読替えが可能だと認められた学生についてのみ採点および評価を行う。これについては、日本国外への派遣学生を対象とし、外国の生活、社会、歴史、文化等に対する認識を深めているかどうかを評価の基準とする。手順は次のとおり。

- (1) 一般教育等教員による書類審査
- (2) 場合によっては面接を行う。

この評価の段階で合格点に満たない学生があることに注意すること。

6. 入学前の既修得単位の認定制度

本学では、学則第28条により、入学前の既修得単位を本学の単位として認定できる制度があります。なお、入学前の既修得単位は、キャップ制における40単位の上限には含まれません。

- (1) 対象者 = 平成18年4月に入学した者
- (2) 申請時期 = 4月6日(木)～4月11日(火)
- (3) 提出書類 = 既修得単位認定申請書 成績証明書
講義要項(授業内容のわかるもの=コピー可)

なお、提出書類に不備がある場合は認定されないので注意すること。

- (4) 認定する範囲 = 研究指導、基礎ゼミナール、総合科目、夜間主コースの卒業論文を除く科目で、本学の科目に読み替えることができる科目
- (5) 認定できる学校等の範囲 = 大学(科目履修の単位を含む)

短期大学及短期大学の専攻科 高等専門学校 of 4, 5 年目及び高等専門学校の専攻科 専修学校の2年以上の専門課程

(6) 認定単位数 = 60 単位を超えない範囲で認定し、卒業所要単位数に算入する。

ただし、入学後において、学則第27条により卒業所要単位数として認定される単位数は、今回、「入学前の既修得単位数」として認定される単位数と、合わせて60 単位を超えることができないので注意してください。

(7) 提出先 = 学部教務係

7 . 9 月卒業について

9 月の卒業は、過年度学生が前期科目の合格によって、卒業要件を満たした場合に対象になります。

したがって卒業要件を満たした学生は、通年科目を履修中であっても卒業することになります。

該当する学生は、上記の点を十分認識のうえ、履修計画をたててください。

なお、夏季集中講義で9月に実施される科目は、9月卒業の対象科目とはなりませんので、注意してください。

8 . 早期卒業について

本学に3年以上在学した者(これに準ずる者として別に定める者を含む。)が卒業要件として定める単位数を優秀な成績で修得したと認める場合には、4 年未満の在学での卒業(早期卒業)が認められます。

早期卒業として認められる要件は次のとおりです。

学生が早期卒業を希望していること。

早期卒業を希望できる学生は、2 年次終了時において、全修得科目の総単位数のうち「秀」及び「優」を合わせて80 パーセント以上有していること。

3 年次終了時に卒業所要単位数に算入される科目のうち124 単位以上を修得し、全修得科目の総単位数のうち「秀」及び「優」を合わせて80 パーセント以上有していること。

上記要件を満たしている場合に、別に定める審査を経たうえで認められることとなります。

なお、早期卒業を希望できる学生の3 年次に履修できる単位数は、キャップ制における上限の40 単位にかかわらず、48 単位までとなります。

9. 学部・大学院（修士課程及び専門職学位課程） 5年一貫教育プログラムについて

（1）プログラムの目的

「学部・大学院（修士課程及び専門職学位課程（以下「修士課程等」という。）」5年一貫教育プログラム」は、学部において所定の学業成績を修め早期卒業をする学生に大学院（修士課程等）での学修の機会を与えることにより、学部教育の活性化、高度な理論及び実践的能力を求める学生のニーズに応えることを目的としています。

（2）プログラムの特色

「学部・大学院（修士課程等）5年一貫教育プログラム」において対象とする学生は、「研究者を目指す者」、「高度な専門知識と実践的な能力をもち企業等で働くことを目指す者」とし、本学の大学院アントレプレナーシップ専攻及び現代商学専攻のいずれにも進学することを可能としています。

（3）プログラムの内容

1. 「学部・大学院（修士課程等）5年一貫教育プログラム」は、現在の早期卒業制度（3年間での卒業）及び大学院（修士課程等）（2年間）を組み合わせたシステムです。
2. 「学部・大学院（修士課程等）5年一貫教育プログラム」により大学院（修士課程等）に進学を希望する場合の取扱いは次のとおりとなっています。

1) 現代商学専攻

昼間コースにおいては、学科をベースとした大学院関連コースへの進学を想定し、表1の学科に対応する大学院のコースへの進学に限るものとし、3年次終了時まで表2に定める単位数を修得していることを条件としています。

表1

| 所属学科 | 対応する大学院コース |
|--------|------------|
| 経済学科 | 経済学コース |
| 商学科 | 国際商学コース |
| 企業法学科 | 企業法学コース |
| 社会情報学科 | 応用社会情報コース |

表2

| 自学科基幹科目 | 自学科発展科目 |
|---------|---------|
| 16単位以上 | 28単位以上 |

2) アントレプレナーシップ専攻

アントレプレナーシップ専攻の教育課程は、学部の教育を基礎としたものではなく、専門職大学院において体系的に教育することを柱としているため、学段落階では、履修上の条件は設けられていません。

- 3 . 「学部・大学院（修士課程等）5年一貫教育プログラム」への所属を希望する者は、3年次から所属することになります。2年次終了時に「早期卒業希望調書」と「専攻・コース所属希望調書」を、3年次終了時に「早期卒業審査願」と「専攻・コース所属願」を提出することになります。
- 4 . 早期卒業のための成績基準は、次のとおりとします。
 - 1) 3年次終了時に卒業所要単位に算入される科目のうち124単位以上を修得し、全修得科目の総単位数のうち「秀」及び「優」を合わせて80%以上有していること。
 - 2) 早期卒業を希望できる学生は、2年次終了時において、全修得科目の総単位数のうち「秀」及び「優」を合わせて80%以上有していなければならない。
- 5 . 大学院（修士課程等）への進学は進学要件の審査で行い、入学試験は行いません。
- 6 . このプログラムは、平成16年4月1日から実施し、平成16年度入学者から適用します。

10.学部学生による大学院科目履修制度について

別表

語学研修における成績評価の基準

| 区分 | 2 年 次 生 科 目 | | | | 3 年 次 生 科 目 | | | | | |
|-------|---------------|----------------------|---------------------|---------------|---|---------------|---------------------|-----------------|---------------|---|
| | 成 績 | | 評 価 | | 成 績 | | 評 価 | | | |
| 英 語 | ~ 474 | 475 484 | 485 494 | 495 ~ | (TOEFLスコアー) 475点 粗点60点から以後1点きざみ | ~ 489 | 490 499 | 500 509 | 510 ~ | (TOEFLスコアー) 490点 粗点60点から1点きざみ 500点 粗点70点から1点きざみ 510点 粗点80点から3点きざみ |
| | 不可 | 可 | 良 | 優 | 485点 粗点70点から1点きざみ 495点 粗点80点から3点きざみ | 不可 | 可 | 良 | 優 | |
| フランス語 | ~ (合格点-21) | (合格点-20) (合格点-11) | (合格点-10) (合格点-1) | 合格点 ~ | (文部省認定実用フランス語技能検定スコアー) フランス語検定3級を基準とする。 | ~ (合格点-11) | (合格点-10) (合格点-1) | 合格点 (合格点+9) | 合格点+10 ~ | (文部省認定実用フランス語技能検定スコアー) フランス語検定3級を基準とする。 |
| | 不可 | 可 | 良 | 優 | (合格点-20) 粗点60点から以後1点きざみ (合格点-10) 粗点70点から以後1点きざみ 合格点 粗点80点から以後、合格点(試験毎に異なる)から満点までを20等分する | 不可 | 可 | 良 | 優 | (合格点-10) 粗点60点から以後1点きざみ 合格点 粗点70点から以後1点きざみ 合格点+10 粗点80点から以後、合格点(試験毎に異なる)から満点までを20等分する |
| 中国語 | ~ (合格点-31) | (合格点-30) (合格点-16) | (合格点-15) (合格点-1) | 合格点 ~ | (文部省認定中国語検定スコアー) 中国語検定3級を基準とする。 | ~ (合格点-16) | (合格点-15) (合格点-1) | 合格点 (合格点+14) | 合格点+15 ~ | (文部省認定中国語検定スコアー) 中国語検定3級を基準とする。 |
| | 不可 | 可 | 良 | 優 | (合格点-30) 粗点60点から以後1.5点きざみ (合格点-15) 粗点70点から以後1.5点きざみ 合格点 粗点80点から以後、合格点(試験毎に異なる)から満点までを20等分する | 不可 | 可 | 良 | 優 | (合格点-15) 粗点60点から以後1.5点きざみ 合格点 粗点70点から以後1.5点きざみ (合格点+15) 粗点80点から以後、合格点(試験毎に異なる)から満点までを20等分する |
| 朝鮮語 | 総点数の40%未満 | 総点数の40%以上、50%未満 | 総点数の50%以上、60%未満 | 総点数の60%以上 | (韓国教育部認定韓国語能力試験スコアー) 韓国語能力試験1級を基準とする。 | 総点数の40%未満 | 総点数の40%以上、50%未満 | 総点数の50%以上、60%未満 | 総点数の60%以上 | (韓国教育部認定韓国語能力試験スコアー) 韓国語能力試験2級を基準とする。 |
| | 不可 | 可 | 良 | 優 | 総点数40% 粗点60点から以後、総点数の50%までを10等分する 総点数50% 粗点70点から以後、総点数の60%までを10等分する 総点数60% 粗点80点から以後、満点までを20等分する | 不可 | 可 | 良 | 優 | 総点数40% 粗点60点から以後、総点数の50%までを10等分する 総点数50% 粗点70点から以後、総点数の60%までを10等分する 総点数60% 粗点80点から以後、満点までを20等分する |
| ドイツ語 | ~ 59 | 60 ~ 64 | 65 ~ 69 | 70 ~ 100 | (ドイツ語検定及び研修先の成績) ドイツ語検定試験4級受験者 | ~ 49 | 50 ~ 54 | 55 ~ 59 | 60 ~ 100 | (ドイツ語検定及び研修先の成績) ドイツ語検定試験3級受験者 |
| | ~ 59 不可 | 60 ~ 69 可 | 70 ~ 79 良 | 80 ~ 100 優 | 左記の粗点換算分と、研修先での成績を100点満点に対応させたものを合算二分して、本学の評価基準を当てはめる。 「例」: 独検スコアー66 粗点換算72 研修先成績18/20(20点満点中18点) 90 評価:(72+90)÷2=81 優 | ~ 59 不可 | 60 ~ 69 可 | 70 ~ 79 良 | 80 ~ 100 優 | 左記の粗点換算分と、研修先での成績を100点満点に対応させたものを合算二分して、本学の評価基準を当てはめる。 「例」: 独検スコアー66 粗点換算72 研修先成績18/20(20点満点中18点) 90 評価:(72+90)÷2=81 優 |
| | ~ 39 | 40 ~ 44 | 45 ~ 49 | 50 ~ 100 | (ドイツ語検定及び研修先の成績) ドイツ語検定試験3級受験者 | ~ 19 | 20 ~ 24 | 25 ~ 29 | 30 ~ 100 | (ドイツ語検定及び研修先の成績) ドイツ語検定試験2級受験者 |
| | ~ 59 不可 | 60 ~ 69 可 | 70 ~ 79 良 | 80 ~ 100 優 | 評点算出方法は、上記に同じ | ~ 59 不可 | 60 ~ 69 可 | 70 ~ 79 良 | 80 ~ 100 優 | 評点算出方法は、上記に同じ |
| ロシア語 | 総点数の50%未満 | 総点数の50%以上、60%未満 | 総点数の60%以上、70%未満 | 総点数の70%以上 | ロシア語能力検定試験4級受験者 最終評価点数は不可が60等分、可と良が10等分、優が20等分して決める。 | 総点数の50%未満 | 総点数の50%以上、60%未満 | 総点数の60%以上、70%未満 | 総点数の70%以上 | ロシア語能力検定試験3級受験者 最終評価点数は不可が60等分、可と良が10等分、優が20等分して決める。 |
| | 不可 | 可 | 良 | 優 | | 不可 | 可 | 良 | 優 | |
| | 総点数の30%未満 | 総点数の30%以上、40%未満 | 総点数の40%以上、50%未満 | 総点数の50%以上 | ロシア語能力検定試験3級受験者 最終評価点数は不可が60等分、可と良が10等分、優が20等分して決める。 | 総点数の30%未満 | 総点数の30%以上、40%未満 | 総点数の40%以上、50%未満 | 総点数の50%以上 | ロシア語能力検定試験2級受験者 最終評価点数は不可が60等分、可と良が10等分、優が20等分して決める。 |
| | 不可 | 可 | 良 | 優 | | 不可 | 可 | 良 | 優 | |

11. 教育職員免許状の取得について

本学では、教育職員免許状の取得を希望する学生のために「教職共通科目」を開設しており、昼間コース、夜間主コース両方の学生が履修できるようになっています。

また、本学で取得できる免許状の資格は次の表とおりとなっており、各免許状の履修方法は別表～のとおりとなっています。

ただし、高等学校教諭1種免許状「情報」については、平成13年度以降入学者から取得できることになっています。

そのため、平成12年度以前の入学者は、在学中に高等学校教諭1種免許状「情報」を取得することはできませんので注意してください。

(1) 本学で取得できる免許状の資格 (別表～は、***ページ以降参照)

| 免許状の種類 | 履修方法 | 備考 |
|-----------------|------|---|
| 高等学校教諭1種免許状「商業」 | 別表 | |
| 高等学校教諭1種免許状「英語」 | 別表 | |
| 中学校教諭1種免許状「英語」 | 別表 | 1 平成11年度以前の入学者は、別表による単位の外「道徳教育の研究(2単位)」を修得することで資格を得ることができます。 2 中学校教諭の免許状を取得する場合は、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律(介護等体験特例法)」により、介護等体験が義務付けられており、本学では平成10年度以降の入学生から盲・聾・養護学校及び社会福祉施設において「介護等体験」の実習が義務付けられています。 |
| 高等学校教諭1種免許状「情報」 | 別表 | 平成13年度以降の入学生から取得できます。 |

(2) 情報処理入門(情報機器概論)の履修について

平成12年度以降入学生が教育職員免許状を取得しようとする場合は、基礎資格(情報機器の操作)として「情報処理入門」(平成18年度以降入学生は「情報機器概論」)の単位を修得することが必要です。

免許状の取得を希望する者で、履修制限等の事情により「情報処理入門」を1年次又は2年次に履修出来なかった場合は、3年次において「条件等」により優先的に履修出来るよう配慮いたします。

(3) 高等学校教諭1種(商業)取得希望者の注意事項

除外科目について

ア. 平成11年度以前入学生

平成11年度以前の入学生は、13年度カリにおける社会情報学科の学科科目「情報システム構築論」、「デジタルデザイン論」は、「商業の教科に関する科目」から除外されています。履修科目の登録をする際には十分注意してください。

イ. 平成12年度生

平成12年度入学者は、A欄の授業科目及びそれに対応するB欄の授業科目が「商業の教科に関する科目」から除外されています。履修科目の登録をする際には十分注意してください。

ただし、憲法は基礎資格として必要な科目となっているため、修得する必要があります。

| A 欄(平成9年度カリキュラム) | | | B 欄(平成13年度カリキュラム) | | |
|------------------|----|------|-------------------|----|------|
| 授業科目 | 単位 | 配当年次 | 授業科目 | 単位 | 配当年次 |
| 基礎数学 | 4 | | | | |
| 専門準備演習 | 4 | | | | |

| | | | | | |
|-------------|---|---|----------------------------------|---|---|
| 英語コミュニケーション | 2 | ~ | 英語コミュニケーション | 2 | |
| 英語コミュニケーション | 2 | ~ | 英語コミュニケーション | 2 | |
| 比較文化 | 2 | ~ | 比較文化 | 2 | |
| 比較文化 | 2 | ~ | 比較文化 | 2 | |
| 法学 | 2 | | 法学 | 2 | |
| 民法 【総論】 | 4 | | 民法 | 4 | |
| 憲法 【総論・人権】 | 4 | | 憲法 | 4 | |
| 憲法 【統治機構論】 | 4 | | 憲法 | 4 | |
| 行政法 【総論】 | 4 | | 行政法 | 4 | ・ |
| 行政法 【各論】 | 4 | | 行政法 | 4 | ・ |
| 民法 【特講】 | 2 | ~ | 民法 | 2 | ~ |
| 刑法 | 4 | | 刑法 | 4 | |
| 刑事法特講 | 4 | ・ | 刑事法特講 | 4 | ・ |
| 国際法 | 4 | | 国際法 | 4 | |
| 国際機構論 | 4 | | 国際機構論 | 4 | |
| 比較法 | 2 | ・ | 比較法 | 2 | ・ |
| 基礎法特講 | 4 | ~ | 基礎法特講 | 4 | |
| 環境法 | 4 | | 環境法 | 4 | ・ |
| 民事手続法 | 4 | | 民事手続法 | 4 | |
| 社会計画 | 4 | | 社会計画 | 4 | ・ |
| 社会計画 | 4 | ・ | | | |
| 計画科学 | 4 | | 計画科学 | 4 | ・ |
| 計画科学 | 4 | ・ | | | |
| 計画科学 | 4 | ・ | 意思決定論 | 4 | ・ |
| 計画科学特講 | 2 | ・ | | | |
| 計画科学特講 | 2 | ・ | | | |
| 計画科学概論 | 2 | | 「社会情報入門」は、対応科目になっているが、除外科目とはしない。 | | |
| | | | 情報システム構築論 | 2 | ・ |
| | | | デジタルデザイン論 | 2 | |

ウ．平成15年度以降入学生

平成15年度以降入学生は、「インターンシップ、卒業研究」が新たに除外科目として追加されていますので注意してください。

経過措置（選択必修科目）

ア．平成12年度入学生（ ）内は、夜間主コースにおける対応科目を示す。

9年度カリの「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」、「統計学」、「流通システム論」、「金融市場論」、「経営学原理」、「経営管理論」、「財務管理論」、「簿記論」、「商法（会社法）」、「オペレーションズ

・リサーチ」、「情報教育論」あるいは、それぞれに対応する13年度カリの「マクロ経済学、ミクロ経済学、統計学（経済と統計）流通システム論、金融市場論、経営学原理、経営管理論、財務管理論、簿記論、商法、オペレーションズ・リサーチ、情報と職業」のうちいずれか18単位以上選択。

イ．平成9年度～平成11年度入学生（ ）内は、夜間主コースにおける対応科目を示す。

9年度カリの「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」、「統計学」、「流通システム論」、「金融市場論」、「経営学原理」、「経営管理論」、「財務管理論」、「簿記論」、「民法〔総論〕」、「商法〔会社法〕」、「オペレーションズ・リサーチ」、「情報教育論」あるいは、それぞれに対応する13年度カリの「マクロ経済学、ミクロ経済学、統計学（経済と統計）流通システム論、金融市場論、経営学原理、経営管理論、財務管理論、簿記論、民法、商法、オペレーションズ・リサーチ、情報と職業」のうちいずれか16単位以上選択。

(4) 高等学校教諭一種（英語）及び中学校教諭一種（英語）取得希望者の注意事項

平成11年度以前入学生の経過措置

平成11年度以前の入学生は、B欄に掲げている授業科目を履修し、単位を修得した場合は、A欄に掲げている授業科目の単位を修得したことになります。ただし、A欄の授業科目が開講されている場合は、その限りではありません。

なお、A欄に掲げている授業科目の単位を既に修得済みの者は、B欄に掲げている授業科目を履修することはできません。

| A 欄 | | | B 欄 | | |
|-------------|-----|---------|------------------------|-----|---------|
| 授 業 科 目 | 単 位 | 配 当 年 次 | 授 業 科 目 | 単 位 | 配 当 年 次 |
| 言語学概論 | 4 | ～ | 言語学概論 | 4 | |
| 英語学概論 | 4 | ～ | 英語学概論 | 4 | |
| 英語学 | 4 | ～ | 英語学 a | 2 | |
| | | | 英語学 b | 2 | |
| 英語学 | 4 | ～ | 英語学 a | 2 | |
| | | | 英語学 b | 2 | |
| 英文学史 | 4 | | 英文学史 | 4 | |
| 英文学概論 | 4 | ～ | 英文学概論 | 4 | |
| 英文学 | 4 | ～ | 英文学 a | 2 | |
| | | | 英文学 b | 2 | |
| 英文学 | 4 | ～ | 英文学 a | 2 | |
| | | | 英文学 b | 2 | |
| 英会話・英作文 | 4 | ～ | 英会話・英作文 | 4 | |
| 英語コミュニケーション | 2 | ～ | 英語コミュニケーション ・のうち1科目 | 2 | |
| 比較文化 | 2 | ～ | 比較文化 ・のうち1 科目 | 2 | |

(5) 教育実習について

教育実習は、専門職としての教職を志望する学生が、大学の授業で習得した知識・技能を基礎として、大学の授業だけでは得ることのできない教師としての諸知識・技能を身につけるために、実際の学校現場で、教育実践をとおして集中的に研究することです。

教員志望の学生が、教員免許状を取得するための必修科目となっています。

【履修日程】

「教育実習履修予定調」の提出（教育実習実施の前年5月頃）

出身校での教育実習（「英語」「商業」「情報」）を希望する学生は出身校に事前に連絡をとり、できれば出向いて受け入れのお願いをし、内諾を得てから「教育実習履修予定調」を提出してください。

なお、それぞれの学校で次年度の教育実習を受け付ける期日がちがうので、早めに各自で確認しておいてください。（4月の時点で翌年度の実習生の受け入れを決めている学校もあります。）

小樽商業高等学校又は小樽市内の中学校（卒業生に限る）での受講を希望する学生は、直接学校へ出向いて内諾を得る必要はありませんが、「教育実習履修予定調」は、指定期日までに提出してください。

書類の受取・提出・・・学生センターカウンター（内諾を得てから提出すること。）

第1回事前指導（前年11月頃）

教育実習を受けるための心構えを指導します。

なお、当該年度に実習を受けた学生の声を聞くことができます。（レポートが課せられる。）

第2回事前指導（当年4月）

教育実習を受けるための具体的な指導が行われます。

履修登録（当年4月）

履修登録時には、教育実習の登録を忘れないようにしてください。

「調査書」の提出（当年4月）

教育実習校に送付するために必要ですので、必ず所定の期日までに提出してください。

書類の受取・提出・・・学生センターカウンター

事前確認等

教育実習を行う3週間程度前に実習校へ連絡をとり、オリエンテーションの日程などを確認するとともに、指導教諭に挨拶をしておくことが望ましい。

事後指導（当年11月）

教育実習のまとめを行います。なお、次年度の実習予定者にアドバイスをを行います。

（6）介護等体験について

介護等体験の義務付け

平成9年6月18日にいわゆる「介護等体験特例法」が公布されました。正式には、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」といいます。

介護等体験制度は、平成10年4月1日から実施され、平成10年度入学者からは、小学校・中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする場合、原則として7日間の介護等体験が必要になります。

なお、必要日数「7日間」の内訳については、特殊教育諸学校で連続する2日間、福祉施設で連続する5日間となっております。

申し込み方法

ア提出書類等・・・介護等体験申込書、体験費用（平成17年度は、7,500円）

イ申込期間・・・平成18年4月3日（月）～4月14日（金）

ウ申込場所・・・学生センターカウンター

申込時に財団法人内外学生センターの「学生教育研究賠償責任保険」の加入手続きを学生センターカウンターで行ってください。なお、この保険に加入する場合は、「学生教育研究災害傷害保険」に加入していることが必要です。

また、6月か7月頃に事前指導を行います。必ず出席しなければなりません。

（7）免許状の申請について

卒業（3月卒業）までに、教育職員免許状に係る所定の単位を修得し、資格を得た学生に対して、本学で一括申請を行います。（9月卒業の場合は、個人申請となります。）

免許状の申請を希望する場合の手続き及び日程は、次のとおりです。

（1）教育職員免許状授与申込書の提出・・・11月頃

（2）教育職員免許状取得に関する説明・・・翌年1月頃

（3）教育職員免許状授与願の提出・・・翌年1月頃

（4）提出場所・・・学生センターカウンター

(8) 北海道教育大学との単位互換による教職科目の単位修得について

北海道教育大学と本学との間において、「単位互換協定」が締結されたことに伴い、北海道教育大学の単位を修得した場合は、次表の本学における教職共通科目の単位に見なします。

| 教育大学における授業科目 | | 本学における授業科目 | | | |
|--------------|----|-------------|----|--------------------------|----|
| | | 平成12年度以降入学者 | | 平成11年度以前入学者 | |
| 科目名称 | 単位 | 科目名称 | 単位 | 科目名称 | 単位 |
| 学校教育の内容と方法 A | 2 | 教育課程論 | 2 | 教育実践論 | 2 |
| 学校教育の内容と方法 B | 2 | 教育課程論 | 2 | 教育実践論 | 2 |
| 社会と教育 B | 2 | 教育制度 | 2 | | |
| 社会と教育 C | 2 | 教育制度 | 2 | | |
| 発達と学習 B | 2 | 教育心理 | 2 | 教育基礎論 A | 2 |
| 英語学概論 | 2 | 英語学概論 | 4 | 英語学概論 | 4 |
| 英語学概論 | 2 | | | | |
| 英語学演習 | 2 | 英語学 又は | 2 | 英語学 ・英語学 ・ 英語学 のうち1科目 | 4 |
| 英語学特講 | 2 | 英語学 又は | 2 | | |
| 英米文学演習 | 2 | 英文学 又は | 2 | 英文学 ・英文学 ・ 英文学 のうち1科目 | 4 |
| 英米文学演習 | 2 | 英文学 又は | 2 | | |
| 英米文学概説 | 2 | 英文学史 | 4 | 英文学史 | 4 |
| 英米文学講読 | 2 | | | | |
| 英米文学概論 | 2 | 英文学概論 | 4 | 英文学概論 | 4 |
| 英米文学概論 | 2 | | | | |
| 英米文学講義 | 2 | 英文学 又は | 2 | 英文学 ・英文学 ・ 英文学 のうち1科目 | 4 |
| 英米文学講義 | 2 | 英文学 又は | 2 | | |

別表()高等学校教諭1種免許状(商業)取得希望者の単位修得方法(昼間コース)

平成17年度以降入学者

| 区分 | 単位数 | 必修科目 | 選択必修科目 |
|--------------|--|---|---|
| 基礎科目及び外国語科目 | 6 | 情報処理入門2単位(平成18年度以降入学者は「情報機器概論」2単位)、英語2単位及び健康科学科目のうちから実技を含め2単位以上必修 | |
| 学科科目 | 2 | 憲法・基礎 | |
| 教職に関する科目 | 25 | 教職の意義に関する科目 2 | 教職論 2 |
| | | 教育の基礎理論に関する科目 6 | 教育の歴史 2 教育心理 2 教育制度 2 |
| | | 教育課程及び指導法に関する科目 12 | 教育課程論 2 商業科教育法 2 商業科教育法 2 教育方法 2 |
| | | 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 | 生徒指導 2 教育相談 2 |
| | | 総合演習 2 | 総合演習 2 |
| | | 教育実習 3 | 事前・事後指導 1 教育実習 2 |
| 教科に関する科目 | 20 | 職業指導 2 | マクロ経済学、ミクロ経済学、流通システム論、流通システム論、金融市場論、経営学原理、経営学原理、経営管理論、財務管理論、簿記原理、簿記特講、商法、計画科学基礎、社会情報入門(18単位以上選択) |
| 教科又は教職に関する科目 | 14 | | 1. 経済学科の学科科目のうち、インターンシップ、卒業研究、研究指導を除いた科目 2. 商学科の学科科目のうち、英語コミュニケーション、英語コミュニケーション、比較文化、比較文化、インターンシップ、卒業研究、研究指導を除いた科目 3. 企業法学科の学科科目のうち、憲法・基礎、憲法・基礎、行政法、民法・基礎、民法・基礎、刑法、民法学、憲法、行政法、民法、刑事法特講、国際法、国際機構論、比較法、基礎法特講、民事手続法、環境法、インターンシップ、卒業研究、研究指導を除いた科目 4. 社会情報学科の学科科目のうち、オペレーションズ・リサーチ、社会計画、計画科学、意思決定論、経営システム基礎、情報システム管理論、組織コミュニケーション論、組織情報論、社会情報論、情報システム構築論、ビジネスシステム論、デジタルデザイン論、情報処理、情報処理、ソフトウェア科学、コンピュータネットワーク論、情報と職業、情報処理基礎、インターンシップ、卒業研究、研究指導を除いた科目 |
| 合計 | 67 | | |
| 備考 | <p>1 教科に関する科目から20単位以上の単位を修得したときは、20単位を超える単位数を教科又は教職に関する科目の単位に充てる。</p> <p>2 基礎科目及び外国語科目、学科科目の「憲法・基礎」、教職に関する科目の「教育の歴史」、「教育方法」、「商業科教育法」、「商業科教育法」、「教育相談」、「総合演習」、教科に関する科目及び教科又は教職に関する科目の選択必修科目は、それぞれ所属する学科の卒業所要単位と併用できる。</p> <p>3 教職に関する科目のうち、「商業科教育法」、「商業科教育法」以外の科目は、別表()・()・()のそれぞれに併用できる。</p> | | |

別表() 高等学校教諭1種免許状(英語)取得希望者の単位修得方法

平成17年度以降入学者

| 区分 | 単位数 | 必修科目 | | 選択必修科目 | |
|--|-----|---|----|--|---|
| 基礎科目及び外国語科目 | 6 | 情報処理入門2単位(平成18年度以降入学者は「情報機器概論」2単位)、英語2単位及び健康科学科目のうちから実技を含め2単位以上必修 | | | |
| 学科科目 | 2 | 憲法・基礎 | | | |
| 教職に関する科目 | 25 | 教職の意義に関する科目 | 2 | 教職論 | 2 |
| | | 教育の基礎理論に関する科目 | 6 | 教育の歴史 | 2 |
| | | | | 教育心理 | 2 |
| | | | | 教育制度 | 2 |
| | | 教育課程及び指導法に関する科目 | 12 | 教育課程論 | 2 |
| | | | | 英語科教育法 | 2 |
| | | 英語科教育法 | 2 | | |
| | | 教育方法 | 2 | | |
| 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 | | 生徒指導 | 2 | | |
| | | 教育相談 | 2 | | |
| 総合演習 | 2 | 総合演習 | 2 | | |
| 教育実習 | 3 | 事前・事後指導 | 1 | | |
| | | 教育実習 | 2 | | |
| 教科に関する科目 | 20 | 英語学関係 | | 英語学概論、言語学概論 英語学、英語学から 6単位以上選択 | |
| | | 英米文学関係 | | 英文学史、英文学概論 英文学、英文学から 6単位以上選択 | |
| | | 英語コミュニケーション | | 英会話・英作文、英語 コミュニケーション、 英語コミュニケーション から2単位以上選択 | |
| | | 異文化理解 | | 比較文化、比較文化 から2単位以上選択 | |
| 教科又は教職に関する科目 | 14 | | | 英語コミュニケーション、 英語コミュニケーション、 比較文化、比較文化、 比較文化、道徳教育、 英語科教育法、教育実習 から8単位以上選択 | |
| 合計 | 67 | | | | |
| <p>備考 1 教科に関する科目から20単位以上の単位を修得したときは、20単位を超える単位数を教科又は教職に関する科目の単位に充てる。</p> <p>2 それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに、上記単位数を修得しなければならない。 ただし、基礎科目及び外国語科目、学科科目の「憲法・基礎」、教職に関する科目の「教育の歴史」、「教育方法」、「教育相談」、「総合演習」、教科に関する科目の「英語コミュニケーション」、「英語コミュニケーション」、「比較文化」、「比較文化」、教科又は教職に関する科目の「道徳教育」は、卒業所要単位と併用できる。</p> <p>3 この表の各科目は、別表()と併用でき、教職に関する科目のうち、「英語科教育法」、「英語科教育法」以外の科目は、別表()・()のそれぞれに併用できる。</p> | | | | | |

別表() 中学校教諭1種免許状(英語)取得希望者の単位修得方法

平成17年度以降入学者

| 区分 | 単位数 | 必修科目 | | 選択必修科目 | |
|--------------|---|---|----|---------|--|
| 基礎科目及び外国語科目 | 6 | 情報処理入門2単位(平成18年度以降入学者は「情報機器概論」2単位)、英語2単位及び健康科学科目のうちから実技を含め2単位以上必修 | | | |
| 学科科目 | 2 | 憲法・基礎 | | | |
| 教職に関する科目 | 31 | 教職の意義に関する科目 | 2 | 教職論 | 2 |
| | | 教育の基礎理論に関する科目 | 6 | 教育の歴史 | 2 |
| | | | | 教育心理 | 2 |
| | | | | 教育制度 | 2 |
| | | 教育課程及び指導法に関する科目 | 16 | 教育課程論 | 2 |
| | | | | 英語科教育法 | 2 |
| | | 英語科教育法 | 2 | | |
| | | 英語科教育法 | 2 | | |
| | | 道徳教育 | 2 | | |
| | | 教育方法 | 2 | | |
| | | 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 | | 生徒指導 | 2 |
| | | | | 教育相談 | 2 |
| | | 総合演習 | 2 | 総合演習 | 2 |
| | | 教育実習 | 5 | 事前・事後指導 | 1 |
| | | | | 教育実習 | 2 |
| | | | | 教育実習 | 2 |
| 教科に関する科目 | 20 | 英語学関係 | | | 英語学概論、言語学概論 英語学、英語学 から 6単位以上選択 |
| | | 英米文学関係 | | | 英文学史、英文学概論 英文学、英文学 から 6単位以上選択 |
| | | 英語コミュニケーション | | | 英会話・英作文、英語 コミュニケーション、 英語コミュニケーション から2単位以上選択 |
| | | 異文化理解 | | | 比較文化、比較文化 から2単位以上選択 |
| 教科又は教職に関する科目 | 8 | | | | 英語コミュニケーション、 英語コミュニケーション、 比較文化、比較文化 から4単位以上 選択 |
| 合計 | 67 | | | | |
| 備考 | <p>1 教科に関する科目から20単位以上の単位を修得したときは、20単位を超える単位数を教科又は教職に関する科目の単位に充てる。</p> <p>2 それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに、上記単位数を修得しなければならない。 ただし、基礎科目及び外国語科目、学科科目の「憲法・基礎」、教職に関する科目の「教育の歴史」、「教育方法」、「道徳教育」、「教育相談」、「総合演習」、教科に関する科目の「英語コミュニケーション」、「英語コミュニケーション」、「比較文化」、「比較文化」は、卒業所要単位と併用できる。</p> <p>3 この表の各科目は、別表()と併用でき、教職に関する科目のうち、「英語科教育法」、「英語科教育法」、「道徳教育」、「教育実習」以外の科目は、別表()・()のそれぞれに併用できる。</p> <p>4 盲学校・聾学校及び養護学校並びに社会福祉施設等において、「介護等体験」を行わなければならない。</p> | | | | |

別表()高等学校教諭1種免許状(情報)取得希望者の単位修得方法(昼間コース)

平成17年度以降入学者

| 区分 | 単位数 | 必修科目 | | 選択必修科目 | | | |
|---|-----|---|----|-----------------------------------|------------------|-----------------------|-------------|
| 基礎科目及び外国語科目 | 6 | 情報処理入門2単位(平成18年度以降入学者は「情報機器概論」2単位)、英語2単位及び健康科学科目のうちから実技を含め2単位以上必修 | | | | | |
| 学科科目 | 2 | 憲法・基礎 | | | | | |
| 教職に関する科目 | 25 | 教職の意義に関する科目 | 2 | 教職論 | 2 | | |
| | | 教育の基礎理論に関する科目 | 6 | 教育の歴史 教育心理 教育制度 | 2 2 2 | | |
| | | 教育課程及び指導法に関する科目 | 12 | 教育課程論 情報科教育法 情報科教育法 教育方法 | 2 2 2 2 | | |
| | | 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 | | 生徒指導 教育相談 | 2 2 | | |
| | | 総合演習 | 2 | 総合演習 | 2 | | |
| | | 教育実習 | 3 | 事前・事後指導 教育実習 | 1 2 | | |
| 教科に関する科目 | 26 | 情報社会及び情報倫理 | | 社会情報論 | 2 | 組織情報論 | 2 |
| | | コンピュータ及び情報処理(実習を含む。) | | 情報処理基礎 情報処理 ソフトウェア科学 | 2 4 4 | 計画科学 情報数理 意思決定論 | 4 2 4 |
| | | 情報システム(実習を含む。) | | 情報システム構築論 | 2 | 情報システム管理論 経営システム基礎 | 2 2 |
| | | 情報通信ネットワーク(実習を含む。) | | コンピュータネットワーク論 組織コミュニケーション論 | 4 2 | | |
| | | マルチメディア表現及び技術(実習を含む。) | | デジタルデザイン論 プレゼンテーション・リサーチ | 2 2 | | |
| | | 情報と職業 | | 情報と職業 | 2 | ビジネスシステム論 | 2 |
| 教科又は教職に関する科目 | 8 | | | | | | |
| 合計 | 67 | | | | | | |
| 備考 1 教科に関する科目から26単位以上の単位を修得したときは、26単位を超える単位数を教科又は教職に関する科目の単位に充てる。 2 基礎科目及び外国語科目、学科科目の「憲法・基礎」、教職に関する科目の「教育の歴史」、「教育方法」、「教育相談」、「総合演習」、教科に関する科目は、それぞれ所属する学科の卒業所要単位と併用できる。 3 教職に関する科目のうち、「情報科教育法」、「情報科教育法」以外の科目は、別表()・()・()のそれぞれに併用できる。 | | | | | | | |

別表()高等学校教諭1種免許状(商業)取得希望者の単位修得方法(昼間コース)

平成15年度・16年度入学者

| 区分 | 単位数 | 必修科目 | 選択必修科目 |
|--------------|---|--|--|
| 基礎科目及び外国語科目 | 6 | 情報処理入門2単位、英語 2単位及び健康科学科目のうちから実技を含め2単位以上必修 | |
| 学科科目 | 2又は4 | 憲法 (日本国憲法2単位を含む。) 平成17年度以降は、「憲法・基礎 (2単位)」 | |
| 教職に関する科目 | 2.5 | 教職の意義に関する科目 2 | 教職論 2 |
| | | 教育の基礎理論に関する科目 6 | 教育の歴史 2 教育心理 2 教育制度 2 |
| | | 教育課程及び指導法に関する科目 1.2 | 教育課程論 2 商業科教育法 2 商業科教育法 2 教育方法 2 |
| | | | 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 2 |
| | | 総合演習 2 | 総合演習 2 |
| | | 教育実習 3 | 事前・事後指導 1 教育実習 2 |
| 教科に関する科目 | 2.0 | | 職業指導 2 マクロ経済学、ミクロ経済学、流通システム論、金融市場論、経営学原理、経営管理論、財務管理論、簿記論、商法、社会情報入門、社会情報入門 (18単位以上選択) |
| 教科又は教職に関する科目 | 1.4 | | 1. 経済学科の学科科目のうち、インターンシップ、卒業研究、研究指導を除いた科目 2. 商学科の学科科目のうち、英語コミュニケーション、英語コミュニケーション、比較文化、比較文化、インターンシップ、卒業研究、研究指導を除いた科目 3. 企業法学科の学科科目のうち、憲法、行政法、民法、刑法、法学、憲法特講、民法、刑事法特講、国際法、国際機構論、比較法、基礎法特講、民事手続法、環境法、インターンシップ、卒業研究、研究指導を除いた科目 4. 社会情報学科の学科科目のうち、オペレーションズ・リサーチ、社会計画、計画科学、意思決定論、経営システム基礎、情報システム管理論、組織コミュニケーション論、組織情報論、社会情報論、情報システム構築論、ビジネスシステム論、デジタルデザイン論、情報処理、情報数理、ソフトウェア科学、コンピュータネットワーク論、情報と職業、情報処理基礎、インターンシップ、卒業研究、研究指導を除いた科目 |
| 合計 | 6.7又は6.9 | | |
| 備考 | <p>1 教科に関する科目から2.0単位以上の単位を修得したときは、2.0単位を超える単位数を教科又は教職に関する科目の単位に充てる。</p> <p>2 基礎科目及び外国語科目、学科科目の「憲法 (日本国憲法2単位を含む。)、教職に関する科目の「教育の歴史」、「教育方法」、「商業科教育法」、「商業科教育法」、「教育相談」、「総合演習」、教科に関する科目及び教科又は教職に関する科目の選択必修科目は、それぞれ所属する学科の卒業所要単位と併用できる。</p> <p>3 教職に関する科目のうち、「商業科教育法」、「商業科教育法」以外の科目は、別表()・()・()のそれぞれに併用できる。</p> | | |

別表()高等学校教諭1種免許状(商業)取得希望者の単位修得方法(昼間コース)

平成13年度・平成14年度入学者(商業教員養成課程以外の学生)

| 区分 | 単位数 | 必修科目 | | 選択必修科目 | |
|--------------|---|--|----|--|---|
| 基礎科目及び外国語科目 | 6 | 情報処理入門2単位、英語 2単位及び健康科学科目のうちから実技を含め2単位以上必修 | | | |
| 学科科目 | 2又は4 | 憲法 (日本国憲法2単位を含む。) 平成17年度以降は、「憲法・基礎 (2単位)」 | | | |
| 教職に関する科目 | 25 | 教職の意義に関する科目 | 2 | 教職論 | 2 |
| | | 教育の基礎理論に関する科目 | 6 | 教育の歴史 | 2 |
| | | | | 教育心理 | 2 |
| | | | | 教育制度 | 2 |
| | | 教育課程及び指導法に関する科目 | 12 | 教育課程論 | 2 |
| | | | | 商業科教育法 | 2 |
| | | 商業科教育法 | 2 | | |
| | | 教育方法 | 2 | | |
| | | 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 | | 生徒指導 | 2 |
| | | | | 教育相談 | 2 |
| | | 総合演習 | 2 | 総合演習 | 2 |
| | | 教育実習 | 3 | 事前・事後指導 | 1 |
| | | | | 教育実習 | 2 |
| 教科に関する科目 | 20 | | | 職業指導 | 2 |
| | | | | マクロ経済学、ミクロ経済学、流通システム論、金融市場論、経営学原理、経営管理論、財務管理論、簿記論、商法、社会情報入門、社会情報入門 (18単位以上選択) | |
| 教科又は教職に関する科目 | 14 | | | 1. 経済学科の学科科目のうち、研究指導を除いた科目 2. 商学科の学科科目のうち、英語コミュニケーション、英語コミュニケーション、比較文化、比較文化、研究指導を除いた科目 3. 企業法学科の学科科目のうち、憲法、行政法、民法、刑法、法学、憲法、行政法、民法、刑事法特講、国際法、国際機構論、比較法、基礎法特講、民事手続法、環境法、研究指導を除いた科目 4. 社会情報学科の学科科目のうち、オペレーションズ・リサーチ、社会計画、計画科学、意思決定論、経営システム基礎、情報システム管理論、組織コミュニケーション論、組織情報論、社会情報論、情報システム構築論、ビジネスシステム論、デジタルデザイン論、情報処理、情報数理、ソフトウェア科学、コンピュータネットワーク論、情報と職業、情報処理基礎、研究指導を除いた科目 | |
| 合計 | 67又は69 | | | | |
| 備考 | <p>1 教科に関する科目から20単位以上の単位を修得したときは、20単位を超える単位数を教科又は教職に関する科目の単位に充てる。</p> <p>2 基礎科目及び外国語科目、学科科目の「憲法 (日本国憲法2単位を含む。)、教職に関する科目の「教育の歴史」「教育方法」「商業科教育法」「商業科教育法」「教育相談」「総合演習」、教科に関する科目及び教科又は教職に関する科目の選択必修科目は、それぞれ所属する学科の卒業所要単位と併用できる。</p> <p>3 教職に関する科目のうち、「商業科教育法」「商業科教育法」以外の科目は、別表()・()・()のそれぞれに併用できる。</p> | | | | |

別表()高等学校教諭 1種免許状(英語)取得希望者の単位修得方法

平成13年度以降入学者(商業教員養成課程以外の学生)

| 区分 | 単位数 | 必修科目 | 選択必修科目 |
|--|--------|--|--|
| 基礎科目及び外国語科目 | 6 | 情報処理入門2単位, 英語 2単位及び健康科学科目のうちから実技を含め2単位以上必修 | |
| 学科科目 | 2又は4 | 憲法 (日本国憲法2単位を含む。) 平成17年度以降は、「憲法・基礎 (2単位)」 | |
| 教職に関する科目 | 25 | 教職の意義に関する科目 2 | 教職論 2 |
| | | 教育の基礎理論に関する科目 6 | 教育の歴史 2 教育心理 2 教育制度 2 |
| | | 教育課程及び指導法に関する科目 12 | 教育課程論 2 英語科教育法 2 英語科教育法 2 教育方法 2 |
| | | 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 | 生徒指導 2 教育相談 2 |
| | | 総合演習 2 | 総合演習 2 |
| | | 教育実習 3 | 事前・事後指導 1 教育実習 2 |
| 教科に関する科目 | 20 | 英語学関係 | 英語学概論、言語学概論 英語学、英語学 から 6単位以上選択 |
| | | 英米文学関係 | 英文学史、英文学概論 英文学、英文学 から 6単位以上選択 |
| | | 英語コミュニケーション | 英会話・英作文、英語 コミュニケーション、 英語コミュニケーション から2単位以上選択 |
| | | 異文化理解 | 比較文化、比較文化 から2単位以上選択 |
| 教科又は教職に関する科目 | 14 | | 英語コミュニケーション、英語コミュニケーション、比較文化、比較文化、道徳教育、英語科教育法、教育実習 から8単位以上選択 |
| 合計 | 67又は69 | | |
| <p>備考 1 教科に関する科目から20単位以上の単位を修得したときは、20単位を超える単位数を教科又は教職に関する科目の単位に充てる。</p> <p>2 それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに、上記単位数を修得しなければならない。 ただし、基礎科目及び外国語科目、学科科目の「憲法 (日本国憲法2単位を含む。）」、教職に関する科目の「教育の歴史」、「教育方法」、「教育相談」、「総合演習」、教科に関する科目の「英語コミュニケーション」、「英語コミュニケーション」、「比較文化」、「比較文化」、教科又は教職に関する科目の「道徳教育」は、卒業所要単位と併用できる。</p> <p>3 この表の各科目は、別表()と併用でき、教職に関する科目のうち、「英語科教育法」、「英語科教育法」以外の科目は、別表()・()のそれぞれに併用できる。</p> | | | |

別表()中学校教諭 1種免許状(英語)取得希望者の単位修得方法

平成13年度以降入学者(商業教員養成課程以外の学生)

| 区分 | 単位数 | 必修科目 | | 選択必修科目 | | | | | | | | | | | |
|-------------|------|--|----|------------------------|---|--------|---|--------|---|--------|---|------|---|------|---|
| 基礎科目及び外国語科目 | 6 | 情報処理入門2単位, 英語 2単位及び健康科学科目のうちから実技を含め2単位以上必修 | | | | | | | | | | | | | |
| 学科科目 | 2又は4 | 憲法 (日本国憲法2単位を含む。) 平成17年度以降は、「憲法・基礎 (2単位)」 | | | | | | | | | | | | | |
| 教職に関する科目 | 31 | 教職の意義に関する科目 | 2 | 教職論 | 2 | | | | | | | | | | |
| | | 教育の基礎理論に関する科目 | 6 | 教育の歴史 | 2 | 教育心理 | 2 | 教育制度 | 2 | | | | | | |
| | | 教育課程及び指導法に関する科目 | 16 | 教育課程論 | 2 | 英語科教育法 | 2 | 英語科教育法 | 2 | 英語科教育法 | 2 | 道徳教育 | 2 | 教育方法 | 2 |
| | | | | 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 | | 生徒指導 | 2 | 教育相談 | 2 | | | | | | |
| | | 総合演習 | 2 | 総合演習 | 2 | | | | | | | | | | |
| | | 教育実習 | 5 | 事前・事後指導 | 1 | 教育実習 | 2 | 教育実習 | 2 | | | | | | |

| | | | | |
|--------------|--------|-------------|--|---|
| 教科に関する科目 | 20 | 英語学関係 | | 英語学概論、言語学概論 英語学、英語学 から 6単位以上選択 |
| | | 英米文学関係 | | 英文学史、英文学概論 英文学、英文学 から 6単位以上選択 |
| | | 英語コミュニケーション | | 英会話・英作文、英語 コミュニケーション、 英語コミュニケーション から2単位以上選択 |
| | | 異文化理解 | | 比較文化、比較文化 から2単位以上選択 |
| 教科又は教職に関する科目 | 8 | | | 英語コミュニケーション、 英語コミュニケーション、 比較文化、比較文化 から4単位以上 選択 |
| 合計 | 67又は69 | | | |

備考 1 教科に関する科目から20単位以上の単位を修得したときは、20単位を超える単位数を教科又は教職に関する科目の単位に充てる。
 2 それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに、上記単位数を修得しなければならない。
 ただし、基礎科目及び外国語科目、学科科目の「憲法 (日本国憲法2単位を含む。）」、教職に関する科目の「教育の歴史」、「教育方法」、「道徳教育」、「教育相談」、「総合演習」、教科に関する科目の「英語コミュニケーション」、「英語コミュニケーション」、「比較文化」、「比較文化」は、卒業所要単位と併用できる。
 3 この表の各科目は、別表()と併用でき、教職に関する科目のうち、「英語科教育法」、「英語科教育法」、「英語科教育法」、「道徳教育」、「教育実習」以外の科目は、別表()・()のそれぞれに併用できる。
 4 盲学校・聾学校及び養護学校並びに社会福祉施設等において、「介護等体験」を行わなければならない。

別表()高等学校教諭1種免許状(情報)取得希望者の単位修得方法(昼間コース)

平成13年度以降入学者(商業教員養成課程以外の学生)

| 区分 | 単位数 | 必修科目 | | 選択必修科目 | | | |
|--------------|---|--|----|-----------------------------------|------------------|-----------------------|-------------|
| 基礎科目及び外国語科目 | 6 | 情報処理入門2単位, 英語 2単位及び健康科学科目のうちから実技を含め2単位以上必修 | | | | | |
| 学科科目 | 2又は4 | 憲法 (日本国憲法2単位を含む。) 平成17年度以降は、「憲法・基礎 (2単位)」 | | | | | |
| 教職に関する科目 | 25 | 教職の意義に関する科目 | 2 | 教職論 | 2 | | |
| | | 教育の基礎理論に関する科目 | 6 | 教育の歴史 教育心理 教育制度 | 2 2 2 | | |
| | | 教育課程及び指導法に関する科目 | 12 | 教育課程論 情報科教育法 情報科教育法 教育方法 | 2 2 2 2 | | |
| | | 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 | | 生徒指導 教育相談 | 2 2 | | |
| | | 総合演習 | 2 | 総合演習 | 2 | | |
| | | 教育実習 | 3 | 事前・事後指導 教育実習 | 1 2 | | |
| 教科に関する科目 | 26 | 情報社会及び情報倫理 | | 社会情報論 | 2 | 組織情報論 | 2 |
| | | コンピュータ及び情報処理(実習を含む。) | | 情報処理基礎 情報処理 ソフトウェア科学 | 2 4 4 | 計画科学 情報数理 意思決定論 | 4 2 4 |
| | | 情報システム(実習を含む。) | | 情報システム構築論 | 2 | 情報システム管理論 経営システム基礎 | 2 2 |
| | | 情報通信ネットワーク(実習を含む。) | | コンピュータネットワーク論 組織コミュニケーション論 | 4 2 | | |
| | | マルチメディア表現及び技術(実習を含む。) | | デジタルデザイン論 プレゼンテーション・リサーチ | 2 2 | | |
| | | 情報と職業 | | 情報と職業 | 2 | ビジネスシステム論 | 2 |
| 教科又は教職に関する科目 | 8 | | | | | | |
| 合計 | 67又は69 | | | | | | |
| 備考 | <p>1 教科に関する科目から26単位以上の単位を修得したときは、26単位を超える単位数を教科又は教職に関する科目の単位に充てる。</p> <p>2 基礎科目及び外国語科目、学科科目の「憲法 (日本国憲法2単位を含む。)」、教職に関する科目の「教育の歴史」、「教育方法」、「教育相談」、「総合演習」、教科に関する科目は、それぞれ所属する学科の卒業所要単位と併用できる。</p> <p>3 教職に関する科目のうち、「情報科教育法」、「情報科教育法」以外の科目は、別表()・()・()のそれぞれに併用できる。</p> | | | | | | |

別表()高等学校教諭1種免許状(商業)取得希望者の単位修得方法

平成12年度入学者(商業教員養成課程以外の学生)

| 区 分 | 単位数 | 必 修 科 目 | 選択必修科目 |
|--------------|---|--|--|
| 共通科目及び外国語科目 | 6 | 総合科目 2単位、昼間コースは、英語（英会話・英作文）2単位、夜間主コースは、英語（英会話・英作文）2単位及び健康科学科目のうちから実技を含め2単位以上必修 | |
| 専門科目 | 2又は4 | 憲法 [総論・人権]（日本国憲法2単位を含む。） 平成17年度以降は、「憲法・基礎（2単位）」 | |
| 教職に関する科目 | 25 | 教職の意義に関する科目 2 | 教職論 2 |
| | | 教育の基礎理論に関する科目 6 | 教育の歴史 2 教育心理 2 教育制度 2 |
| | | 教育課程及び指導法に関する科目 12 | 教育課程論 2 商業科教育法 2 商業科教育法 2 教育方法 2 |
| | | 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 | 生徒指導 2 教育相談 2 |
| | | 総合演習 2 | 総合演習 2 |
| | | 教育実習 3 | 事前・事後指導 1 教育実習 2 |
| 教科に関する科目 | 20 | | 職業指導 2 マクロ経済学、ミクロ経済学、統計学、流通システム論、金融市場論、経営学原理、経営管理論、財務管理論、簿記論、商法 [会社法]、オペレーションズ・リサーチ、情報教育論（18単位以上選択） |
| 教科又は教職に関する科目 | 14 | | 1. 経済学科の専門科目のうち、基礎数学、研究指導を除いた科目 2. 商学科の専門科目のうち、専門準備演習、基礎数学、英語コミュニケーション、英語コミュニケーション、比較文化、比較文化、研究指導を除いた科目 3. 企業法学科の専門科目のうち、民法 [総論] 法学、憲法 [総論・人権]、憲法 [統治機構論] 行政法 [総論]、行政法 [各論]、民法 [特講] 刑法、刑事法特講、国際法、国際機構論、比較法 基礎法特講、環境法、民事手続法、研究指導を除いた科目 4. 社会情報学科の専門科目のうち、社会計画 社会計画、計画科学 計画科学、計画科学 計画科学特講、計画科学特講、計画科学概論 基礎数学、研究指導を除いた科目 |
| 合 計 | 67又は69 | | |
| 備考 | <p>1 共通科目及び外国語科目、専門科目の憲法 [総論・人権]並びに教科に関する科目及び教科又は教職に関する科目の選択必修科目については、それぞれ所属する学科の卒業所要単位と併用できる。</p> <p>2 教科に関する科目から20単位以上の単位を修得したときは、20単位を超える単位数を教科又は教職に関する科目の単位に充てる。</p> <p>3 教職に関する科目のうち、商業科教育法・商業科教育法以外の科目は、別表()・()・()のそれぞれに併用できる。</p> | | |

別表() 高等学校教諭1種免許状(英語)取得希望者の単位修得方法

平成12年度入学者(商業教員養成課程以外の学生)

| 区 分 | 単位数 | 必 修 科 目 | 選 択 必 修 科 目 |
|---|----------|--|--|
| 共通科目及び外国語科目 | 6 | 総合科目 2単位、昼間コースは、英語（英会話・英作文）2単位、夜間主コースは、英語（英会話・英作文）2単位及び健康科学科目のうちから実技を含め2単位以上必修 | |
| 専 門 科 目 | 2又は4 | 憲法 [総論・人権]（日本国憲法2単位を含む。） 平成17年度以降は、「憲法・基礎（2単位）」 | |
| 教 職 に 関 す る 科 目 | 2 5 | 教職の意義に関する科目 2 | 教職論 2 |
| | | 教育の基礎理論に関する科目 6 | 教育の歴史 2 教育心理 2 教育制度 2 |
| | | 教育課程及び指導法に関する科目 1 2 | 教育課程論 2 英語科教育法 2 英語科教育法 2 教育方法 2 |
| | | 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 | 生徒指導 2 教育相談 2 |
| | | 総合演習 2 | 総合演習 2 |
| | | 教育実習 3 | 事前・事後指導 1 教育実習 2 |
| 教 科 に 関 す る 科 目 | 2 0 | 英語学関係 | 英語学概論、言語学概論 英語学、英語学 から 6単位以上選択 |
| | | 英米文学関係 | 英文学史、英文学概論 英文学、英文学 から 6単位以上選択 |
| | | 英語コミュニケーション | 英会話・英作文、英語 コミュニケーション、 英語コミュニケーション から2単位以上選択 |
| | | 異文化理解 | 比較文化、比較文化 から2単位以上選択 |
| 教科又は教職に関する科目 | 1 4 | | 英語コミュニケーション、英語コミュニケーション、比較文化、比較文化、道徳教育、英語科教育法、教育実習 から8単位以上選択 |
| 合 計 | 6 7又は6 9 | | |
| <p>備考 1 それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに、上記単位数を修得しなければならない。ただし、共通科目及び外国語科目、専門科目の憲法 [総論・人権]（日本国憲法2単位を含む。）、英語コミュニケーション、英語コミュニケーション、比較文化、比較文化 は、卒業所要単位と併用できる。</p> <p>2 教科に関する科目から20単位以上の単位を修得したときは、20単位を超える単位数を教科又は教職に関する科目の単位に充てる。</p> <p>3 教職に関する科目のうち、英語科教育法・英語科教育法以外の科目は、別表()・()両方に併用できる。</p> <p>4 教職共通科目は、別表()・()両方に併用できる。</p> <p>5 英語の免許状を取得しようとする者は、教科に関する科目のうち、「言語学概論」、「英語学概論」、「英文学史」、「英文学概論」の4科目を専門共通科目として履修することはできない。</p> | | | |

別表() 中学校教諭1種免許状(英語)取得希望者の単位修得方法

平成12年度入学者(商業教員養成課程以外の学生)

| 区分 | 単位数 | 必修科目 | 選択必修科目 |
|--------------|---|---|---|
| 共通科目及び外国語科目 | 6 | 総合科目 2単位, 昼間コースは、英語 (英会話・英作文) 2単位、夜間主コースは、英語 (英会話・英作文) 2単位及び健康科学科目のうちから実技を含め2単位以上必修 | |
| 専門科目 | 2又は4 | 憲法 [総論・人権] (日本国憲法2単位を含む。) 平成17年度以降は、「憲法・基礎 (2単位)」 | |
| 教職に関する科目 | 31 | 教職の意義に関する科目 2 | 教職論 2 |
| | | 教育の基礎理論に関する科目 6 | 教育の歴史 2 教育心理 2 教育制度 2 |
| | | 教育課程及び指導法に関する科目 16 | 教育課程論 2 英語科教育法 2 英語科教育法 2 英語科教育法 2 道徳教育 2 教育方法 2 |
| | | 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 | 生徒指導 2 教育相談 2 |
| | | 総合演習 2 | 総合演習 2 |
| | | 教育実習 5 | 事前・事後指導 1 教育実習 2 教育実習 2 |
| 教科に関する科目 | 20 | 英語学関係 | 英語学概論、言語学概論 英語学、英語学 から 6単位以上選択 |
| | | 英米文学関係 | 英文学史、英文学概論 英文学、英文学 から 6単位以上選択 |
| | | 英語コミュニケーション | 英会話・英作文、英語 コミュニケーション、 英語コミュニケーション から2単位以上選択 |
| | | 異文化理解 | 比較文化、比較文化 から2単位以上選択 |
| 教科又は教職に関する科目 | 8 | | 英語コミュニケーション、英語コミュニケーション、比較文化、比較文化 から4単位以上選択 |
| 合計 | 67又は69 | | |
| 備考 | <p>1 それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに、上記単位数を修得しなければならない。ただし、共通科目及び外国語科目、専門科目の憲法 [総論・人権] (日本国憲法2単位を含む。)、英語コミュニケーション、英語コミュニケーション、比較文化、比較文化 は、卒業所要単位と併用できる。</p> <p>2 教科に関する科目から20単位以上の単位を修得したときは、20単位を超える単位数を教科又は教職に関する科目の単位に充てる。</p> <p>3 教職に関する科目のうち、英語科教育法・英語科教育法・英語科教育法・道徳研究・教育実習以外の科目は、別表()・()両方に併用できる。</p> <p>4 教職共通科目は、別表()・()両方に併用できる。</p> <p>5 英語の免許状を取得しようとする者は、教科に関する科目のうち、「言語学概論」、「英語学概論」、「英文学史」、「英文学概論」の4科目を専門共通科目として履修することはできない。</p> <p>6 盲学校・聾学校及び養護学校並びに社会福祉施設等において、「介護等体験」を行わなければならない。</p> | | |

別表()高等学校教諭1種免許状(商業)取得希望者の単位修得方法

平成9年度～平成11年度入学者(商業教員養成課程以外の学生)

| 区分 | 単位数 | 必修科目 | 選択必修科目 |
|---|--------|--|---|
| 共通科目 | 2 | 健康科学科目のうちから実技を含め2単位以上必修 | |
| 専門科目 | 2又は4 | 憲法 [総論・人権] (日本国憲法2単位を含む。) 平成17年度以降は、「憲法・基礎 (2単位)」 | |
| 教職に関する科目 | 19 | 教育基礎論 4 教育基礎論 A 2 教育基礎論 B 2 教育方法学 2 商業科教育法 2 教育実践論 2 教育実践論 2 教育実習 3 | |
| 教科に関する科目 | 20 | 職業指導 4 | マクロ経済学、ミクロ経済学、統計学、流通システム論、金融市場論、経営学原理、経営管理論、財務管理論、簿記論、民法 [総論]、商法 [会社法]、オペレーションズ・リサーチ、情報教育論 (16単位以上選択) |
| 合計 | 43又は45 | | |
| 備考 共通科目及び専門科目の憲法 [総論・人権] (日本国憲法2単位を含む。)並びに教科に関する科目の選択必修科目については、それぞれ所属する学科の卒業所要単位と併用できる。 | | | |

別表()高等学校教諭1種免許状(英語)取得希望者の単位修得方法

平成9年度～平成11年度入学者

| 区分 | 単位数 | 必修科目 | 選択必修科目 | |
|--|--------|--|------------------------|----------------------------|
| 共通科目 | 2 | 健康科学科目のうちから実技を含め2単位以上必修 | | |
| 専門科目 | 2又は4 | 憲法 [総論・人権] (日本国憲法2単位を含む。) 平成17年度以降は、「憲法・基礎 (2単位)」 | | |
| 教職に関する科目 | 19 | 教育の本質及び目標に関する科目 | 教育基礎論 4 | |
| | | 教育に係る社会的、制度的又は経営的な事項に関する科目 | | |
| | | 幼児、児童又は生徒の心身の発達及び学習の過程に関する科目 | 教育基礎論 A 2 教育基礎論 B 2 | |
| | | 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)に関する科目 | 教育方法学 2 | |
| | | 教科教育法に関する科目 | 6 | 英語科教育法 4 |
| | | 特別活動に関する科目 | | 教育実践論 2 |
| | | 生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 | 2 | 教育実践論 2 |
| | | 教育実習 | 3 | 教育実習 3 |
| 教科に関する科目 | 40 | 英語学関係 | 8 | 英語学概論 4 英語学 4 英語学 4 |
| | | 英米文学関係 | 12 | 英文学史 4 英文学概論 4 英文学 4 |
| | | 英語コミュニケーション | 6 | 英会話・英作文 4 英語コミュニケーション 2 |
| | | 比較文化(外国事情を含む。) | 2 | 比較文化 2 |
| 合計 | 63又は65 | | | |
| 備考 1 それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに、上記単位数を修得しなければならない。ただし、共通科目及び専門科目の憲法 [総論・人権] (日本国憲法2単位を含む。)は、卒業所要単位と併用できる。 2 教職に関する科目のうち、「英語科教育法」以外の科目は、別表()・()両方に併用できる。 3 英語の免許状を取得しようとする者は、教科に関する科目のうち、「言語学概論」、「英語学概論」、「英文学史」、「英文学概論」の4科目を、専門共通科目として履修することはできない。 | | | | |